

日本美術年鑑

昭和30年版

美術研究所



序

日本美術年鑑は東京国立文化財研究所美術部、即ち美術研究所が、従前からその調査研究事業の一部として計画従事していたもので、昭和十一年より発行を開始し、今年ここに昭和三十一年版を刊行する運びとなつた。

この年鑑の調査と編輯とは、主として当研究所の第二研究室がこれに当り、古美術関係の項目は第一研究室と資料室とが担当した。

この年鑑の編輯に当つては、諸官庁や美術関係の公私機関をはじめ、多くの学者作家等の御助力を頼わしたが、殊に文化財保護委員会事務局、文部省社会教育局藝術課、日本藝術院、国立近代美術館、東京・京都・奈良の各国立博物館、各地の諸新聞社、雑誌社、美術館、研究所、学校、美術団体の御援助に待つところが多かつた。更にまた大蔵省印刷局は、この年鑑の体裁上印刷技術の困難な点多きにかかわらず、今年も引続きこれを快諾された。ここにこれらの諸機関に対して深く感謝の意を表する。

なおこの年鑑の編輯については常に意を注いで、記事採択の適正と記事内容の充実とに努めているが、その中に思わぬ過誤や不備の点がないとも限らない。これに対しては一般識者の叱正と御教示とを切に希望する次第である。

昭和三十一年一〇月

東京国立文化財研究所長

田 中 一 松

凡 例

一、本年鑑は、昭和二九年一月から同年一二月に至る一年間の美術界の主要な出来事を掲載した。

一、本年鑑の内容は、「図版」「本欄」「附録」の三部に大別し、「図版」には右期間中に発表された注目すべき作品の写真を主として掲載し、「本欄」は、わが国美術界の全般について、全体の展望、主要な事件、展覧会、物故者、発表された文献などを記載した。

「附録」は、便覧として美術関係の法規、諸施設、団体、美術家及美術関係者名簿などを集録した。便覧の性質上この欄は原則として現在の記録(昭和三〇年一〇月)に従っている。

一、本年鑑であつかう美術の範囲は、一般に行われる狭義の解釈に従い、絵画、彫刻、工藝、および建築に限っている。絵画のうち、日本画と洋画の区別は困難な場合もあるが、だいたい現代の慣習に従った。建築はわれわれの注意をひく範囲にとどめた。

一、人名を記す場合は、すべて敬称をはぶいた。

一、美術文献目録、および美術家及美術関係者名簿についてはそれぞれ項目の初めに凡例を記した。

目次

口	繪	「潮」(原色版)	山本 丘人
序	例	一
凡	例	三
目	次	四

本欄

昭和二九年美術界概観	一
現代美術	一
古美術	七
昭和二九年美術界年史	三
附表	一六
新指定国宝一覽	一六
新指定重要文化財一覽	二七
文化財保護委員会昭和二九年度補助金交付一覽	五二
昭和二九年度国立美術館、博物館新収品目録	六三
第一〇回日本美術展覧会、出品、入選、陳列点数表	七四
第一〇回日本美術展覧会審査員一覽	七四
各大学美術関係講義題目	七四
主要美術雑誌色刷一覽	七六
美術展覧会	八三

物故者	一七〇
美術文獻目録	一八五
凡例	一八五
目次	一八六
定期刊行物所載文獻	一八七
現代美術・西洋美術	二〇一
東洋古美術	二〇一
単行図書	二〇一
現代美術・西洋美術	二一九
東洋古美術	二三三

附録 (便覽)

美術関係法規	三五
文化財保護法	三五
文化財専門審議會令	二四七
文化財専門審議會常任委員會設置規則	二四七
文化財専門審議會諮問事項等取扱規則	二四八
文化財保護委員會事務局内部組織	二五一

東京国立博物館組織規程	三五四	美術関係研究施設	二七五
京都国立博物館組織規程	三五五	美術関係学会	二七六
奈良国立博物館組織規程	三五六	美術教育施設	二七七
東京国立文化財研究所組織規程	三五七	学 校	二七七
奈良国立文化財研究所組織規程	三五七	実 技 研 究 所	二八〇
文部省社会教育局芸術課	三五八	美術観覧施設	二八三
国立近代美術館	三五九	東京画廊一覽	二九四
日本 芸 術 院	三六〇	京都画廊一覽	二九四
日本美術展覧会	三六四	大阪画廊一覽	二九四
正倉院評議会規程	三六六	美術団体一覽	二九五
帝室 技 藝 員	三六六	美術家及美術関係者名簿	三三三
武力紛争の際の文化財の保護のための条約	三六六	美術関係定期刊行物一覽	三五〇

図 版 目 録

1 冬(薔薇会展)	高山辰雄
2 静物(2回青羊会展)	杉山 寧
3 女役者桑八(個展)	楠木清方
4 鱧の鱈と甘鯛(4回百二会展)	福田平八郎
5 春のパンガロウ(5回日月社展)	見玉希望
6 海老(4回百二会展)	山口蓬春
7 明苑(14回日本画院展)	望月春江
8 幸若(14回日本画院展)	岩田正巳
9 風景(14回日本画院展)	松本姿水
10 トレドの丘の家(1回現代日本美術展)	堂本印象
11 水辺少女像(1回現代日本美術展)	岩崎 鐸
12 裸童(1回現代日本美術展)	秋野不矩
13 漁港(1回現代日本美術展)	西山英雄
14 落日(1回現代日本美術展)	信太金昌
15 樹林(個展)	村松乙彦
16 魚の店(1回現代日本美術展)	堂本尚郎
17 晩照(1回現代日本美術展)	東山魁夷
18 東京百景ノ内 大川に題す八景(言問橋)(4回再興新興美術院展)	茨木杉風
19 寝釈迦(修善寺風景)(26回青龍展)	川端龍子
20 桃花源紀(個展)	村雲大揆子
21 麦秋(26回青龍展)	高山晴雄
22 望郷(26回青龍展)	堀口幸子
23 蘇鉄(個展)	日下部道寿

52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24							
展)	春宵(清方、深水、紫明風俗画)	池(10回日本美術展)	冬(10回日本美術展)	羅漢(個展)	春宵(清方、深水、紫明風俗画)	山(18回新制作展)	月汀(18回新制作展)	五人の裸婦(18回新制作展)	くじやく(18回新制作展)	冬(18回新制作展)	二人(18回新制作展)	大王崎殘照(18回新制作展)	池(18回新制作展)	悲しき鹿(18回新制作展)	月夜(18回新制作展)	月と蛾(39回日本美術展)	出を待つ人々(39回日本美術展)	紅梅(39回日本美術展)	舞妓(39回日本美術展)	太海(39回日本美術展)	美術展)	山(カムイスプリ)(39回日本美術展)	浄韻(39回日本美術展)	裸婦(39回日本美術展)	O氏像(39回日本美術展)	牧場(39回日本美術展)	花(39回日本美術展)	黄河(39回日本美術展)	阿寒湖(26回青龍展)	院展)	水辺(部分)(4回再興新興美術展)				
伊東深水	猪原大華	佐藤深夫	伊東深水	和田三造	堀文子	稗田一穂	吉野泰二郎	上野堅二	野岡堅二	麻田應司	広田多津	上村松篁	加山又造	福田豊四郎	郷倉千靱	清原 齊	前田青邨	奥村土牛	酒井亜人	岩橋英遠	中村貞以	小倉遊龜	堅山南風	荏司 福	北沢映月	羽石光志	加納三楽	小林巢居人							
83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	西洋画				66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	
街A(春季二科展)	薔薇(13回創元会展)	夏の雲(独立会員春季展)	春近き庭(春季二科展)	雪山(40回光風会展)	雪中の饗宴(13回水彩聯盟展)	千人びな(14回美術文化展)	蜜柑(個展)	ダフニ(14回美術文化展)	熱海(40回光風会展)	室内(40回光風会展)	母子像(4回モダンアート展)	静物(6回アンデパンダン展)	ト展)	ペロナの噴水(4回モダンアート展)	裝飾(6回アンデパンダン展)	少年(4回モダンアート展)	漁港(6回アンデパンダン展)					粟生野(10回日本美術展)	碧湖(10回日本美術展)	虹(10回日本美術展)	花と犬(10回日本美術展)	伊勢物語(10回日本美術展)	夕ぐれ(10回日本美術展)	森(10回日本美術展)	黒豹(10回日本美術展)	まり千代像(10回日本美術展)	笛を吹く(10回日本美術展)	無言(10回日本美術展)	鯉(10回日本美術展)	坂に建つ街(10回日本美術展)	牛のいる風景(10回日本美術展)
荻野康児	鈴木千久馬	海老原喜之助	鈴木信太郎	田村一男	春日部たすく	小牧源太郎	仲田好江	古沢岩美	井手宣通	森田元子	勝呂忠	三岸節子	矢橋六郎	岡本太郎	村井正誠	野口弥太郎	西 洋 画				関 主 税	加藤栄三	池田遙邨	中村岳陵	真野 満	寺島紫明	山口華治	三尾雄治	橋本明治	三谷青子	伊東万耀	福田平八郎	山本知克	倉光 博	
107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84												
銅色の月(1回晴日会展)	波止場(1回現代日本美術展)	ユダの汚辱(1回現代日本美術展)	救命船(1回現代日本美術展)	鳥と遊ぶ子供達(1回現代日本美術展)	野蛮人(1回現代日本美術展)	オランダ皿の桃(1回現代日本美術展)	浅間山(1回現代日本美術展)	落下する人体(1回現代日本美術展)	爆発(1回現代日本美術展)	衛展)	青年(20回東光会展)	スペイン風景(個展)	静物(20回東光会展)	港の朝(28回国画会展)	森(28回国画会展)	野風呂(28回国画会展)	月夜の東大寺裏道(28回国画会展)	彫刻家(31回春陽会展)	任迫された神経(31回春陽会展)	西洋館夏(31回春陽会展)	静物(31回春陽会展)	三つの車(独立会員春季展)	お祭り(個展)												
山口 薫	岡 鹿之助	田中忠雄	高島達四郎	猪熊弦一郎	小山田二郎	安井曾太郎	梅原龍三郎	鶴岡政男	津高一	山口長男	森 田 茂	田村孝之介	渡辺浩三	川口 軌 外	宇治山哲平	熊谷九寿	三雲祥之助	南大路 一	木村 荘 八	中 谷 泰	高橋忠弥	川 端 実													

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	
枯木のある雪景(16回一水会展)	夏の阿蘇山(16回一水会展)	洗濯女(18回新制作展)	貝殻と鳥(18回新制作展)	雨後(18回新制作展)	貧しい労働(18回新制作展)	ゆく人かえる人(18回新制作展)	支笏湖の秋(9回行動美術展)	生活の河(9回行動美術展)	女のつどひ(39回二科展)	馬(39回二科展)	街の散歩(39回二科展)	休戦条約(39回二科展)	発掘(6回立軌会展)	人形遣いの肖像(8回新樹会展)	太平洋(三部作)(50回太平洋画会記念展)	壁(草人社坂本展)	春の祭典(個展)	会展)	かすかべの藤(8回女流画家協会展)	黒土の丘(8回女流画家協会展)	ネッカチーフの少女(個展)	静物(個展)	秋山(1回現代日本美術展)
高田誠	田崎広助	萩太郎	脇田和	石川滋彦	竹谷富士雄	風間完	田辺三重松	向井潤吉	北川民次	鷹山宇一	野間仁根	井上覚造	榎戸庄衛	朝井閑右衛門	布施信太郎	坂本繁二郎	利根山光人	桂ユキ子	野村千春	林武	佐野繁次郎	小林和作	
152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131		
制作展)	かくれんぼ(五人展)	裸婦(10回日本美術展)	舞妓(10回日本美術展)	首飾(10回日本美術展)	王滝川風景(10回日本美術展)	蕪風(10回日本美術展)	窓辺(10回日本美術展)	台風それる海岸(8回二紀会展)	裸体(10回日本美術展)	新雪(10回日本美術展)	秋の湖(8回二紀会展)	千恵子像(10回日本美術展)	裸婦二重像(8回二紀会展)	路上(18回自由美術展)	叫び(18回自由美術展)	風景(18回自由美術展)	芥子(22回独立展)	うづくまる(22回独立展)	船を造る人(22回独立展)	カイユウと麒麟草(22回独立展)	赤き橋の見える風景(16回一水会展)		
小野忠重	品川工	寺内万治郎	川島理一郎	中村琢二	木下義謙	小糸源太郎	金子千恵子	鍋井克之	中村研一	中村善策	栗原信彦	泉治彦	宮本三郎	森芳雄	井上長三郎	麻生三郎	須田国太郎	鳥海青児	海老原喜之助	児島善三郎	安井曾太郎		
173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153			
ポスター)	パッケージ	表紙デザイン	ポスター)	ポスター)	ポスター)	広告デザイン	広告デザイン(写真)	ポスター)	食料品店(四人展)	山(四人展)	山荘風雨図(鉄斎展)	裸婦(四人展)	茶碗と果実(御舟展)	紫衣の女(四人展)	遺作展	水門(造型版画展)	火・水(1回現代日本美術展)	歎異顔板華経天上板壁面柵(空・風)	承德の春(28回国画会展)	薊(31回春陽会展)	さまよえるオランダ人(個展)		
大智浩	増田正	山名文夫	大橋正	岩本守彦	伊藤憲治	宇田英雄	杵島隆	亀倉雄策	佐伯祐三	村上華岳	富岡鉄斎	前田寛治	速水御舟	広島晃甫	北岡文雄	松下芳太郎	棟方志功	平塚運一	長谷川潔	泉茂			

175 174
表紙デザイン……………山城隆一
ポスター……………小島康弘

海外作家国内展

176 ポモナ(ザッキン展)……………ザッ
牛と小さなジョー(遺作展)……………国吉
177 吉康雄
グロピウスとパウハウス展 会場写真
178 花(ルドン展)……………ル
179 フランス美術展 会場写真
180 グロピウスとパウハウス展 会場写真
181 少女(ルドン展)……………ル
182 彫刻

183 はだか(1回現代日本美術展)……………佐藤忠良
184 サークラス(1回現代日本美術展)……………木郷新
185 女顔(39回日本美術展)……………石井鶴三
186 作品(1回現代美術展)……………植木力
187 習作不動(39回日本美術展)……………平櫛田中
188 K嬢像(39回日本美術展)……………山口信子
189 少年(1回現代日本美術展)……………新海竹蔵
190 作品C(39回二科展)……………番匠宇司
191 ひと(39回二科展)……………乗松巖
192 地上の形態(39回二科展)……………笠置季男
193 54.7(39回二科展)……………村岡三郎
194 生長の形態No.1(18回自由美

195 術展)……………昆野恒
196 プラスチックのオブジェ(9回
行動美術展)……………向井良吉
197 黒い女(9回行動美術展)……………野崎一良
198 三人(18回新作展)……………山内杜夫
199 フクロイ(18回新作展)……………山本常一
200 Fの頭像(2回日本彫塑展)……………朝倉文夫
201 漁夫三想(10回日本美術展)……………古賀忠雄
202 エチュード(8回新樹会展)……………山本豊市
203 波(10回日本美術展)……………吉田三郎
204 華嚴(10回日本美術展)……………橋本朝秀
205 裸婦(2回日本彫塑展)……………清水多嘉示
206 立っている人(10回日本美術展)……………水船六洲
207 ながれ(10回日本美術展)……………宮本光庸

工藝及工業デザイン(一部産業工藝試験所・美術出版社の写真による)

208 鉄の皿(技術とデザイン展)……………産業工藝試験所
無窮(東横ホール緩帳)……………イサム・ノグチ
209 食堂用椅子(技術とデザイン展)……………産業工藝試験所
あかり……………イサム・ノグチ
210 ジャングル・ジム……………由良玲吉
211 天ぶら鍋(2回生活工藝展)……………小笠原陸兆
212 鉄脚盛器(5回新生活工展)……………林尚月齋
213 本棚(2回生活工藝展)……………土屋晃一
214 天目広口花器(名古屋工業技術
試験所陶磁器試作品展)……………加藤鏡一

216 花さし(3回創作工藝展)……………芳武茂介
217 スツール(新作協会の員展)……………猪熊弦一郎
218 居間セット(新作協会の員展)……………劍持勇
219 小杉二郎工業デザイン製品展 会場写真
220 青銅花瓶(10回日本美術展)……………内藤春治
221 竹小屏風(10回日本美術展)……………飯塚小玗齋
222 青銅花入(10回日本美術展)……………高村豊周
223 三曲屏風(10回日本美術展)……………山崎寛太郎
224 新雪窯花瓶(10回日本美術展)……………清水六和
225 斜線文青銅花瓶(10回日本美術
展)……………松崎福三郎
226 フジ・スタンダード・ファニチ
ユア……………建築総合研究所
227 花瓶(10回日本美術展)……………各務敏三
建築(一部国際建築・建築文化・
新建築誌写真による)

228 フジカワ画廊……………村野・森建築事務所設計
229 鉄道会館……………国鉄東京工事々務所設計
230 国立科学博物館理工学館……………谷口吉郎設計
231 国際観光会館……………土浦亀城建築事務所設計
232 丸の内活劇場……………竹中工務店設計
233 城東郵便局……………郵政省大臣官房建築部設計
234 関東通信病院……………日本電信電話公社建築部設計
235 東洋英和女学院(小学部校舎)……………大江宏研究室設計
236 東京瓦斯ビルディング……………三菱地所株式会社設計

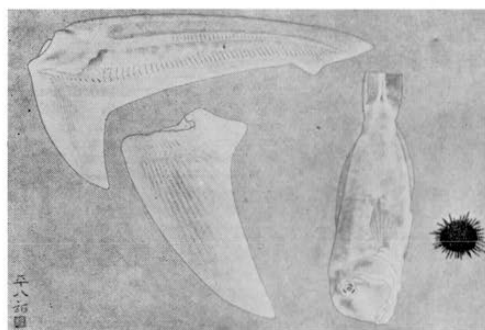
- 254 法華經方便品(竹生島経)……東京国立博物館保管
- 253 三宝院唐門……………三 宝 院
- 252 木造龍燈鬼立像……………興 福 寺
- 251 木造天燈鬼立像……………興 福 寺
- 250 俱利伽羅龍蒔絵経箱……………当 麻 奥 院
- 249 木造五大菩薩坐像……………教 王 護 国 寺
- 248 紙本著色平治物語絵詞(六波羅行幸卷)……………東京国立博物館保管
- 247 紙本墨画漁村夕照図伝牧溪筆……………財団法人根津美術館
- 246 同右(左半双)……………
- 245 (新指定国宝)
紙本金地著色風俗図屏風(六曲屏風)……………財団法人大和文華館保管
- 244 八勝館中店……………堀口捨巳設計
- 243 コアのあるH氏のすまい……………増沢洵設計
- 242 住宅No.8……………池辺研究室設計
- 241 数学者の家……………清 家 清 設 計
- 240 橋さんのすまい……………広瀬謙二建築技術研究所設計
- 239 愛媛県民館……………丹下健三計画研究室設計
- 238 神奈川県立図書館及び音楽ホール……………前川国男設計事務所設計
- 237 図書印刷株式会社原町工場……………丹下健三他設計

古 美 術

- 261 延襲作斎然将来……………清 涼 寺
- 260 熊野奥照神社本殿……………熊野奥照神社
- 259 木造釈迦如来立像 張延峻并張
- 258 紙本著色公余探勝図谷文晁筆……………一 色 利 厚
- 257 菅川家住宅……………菅 川 只 一
- 256 兀庵普寧墨蹟……………中 村 庸 一 郎
- 255 (新指定重要文化財)
紙本著色一掃百態図渡辺崋山筆……………崋 山 会 保 管
芦屋浜松図真形釜……………伊 藤 次 郎 左 衛 門

函

版



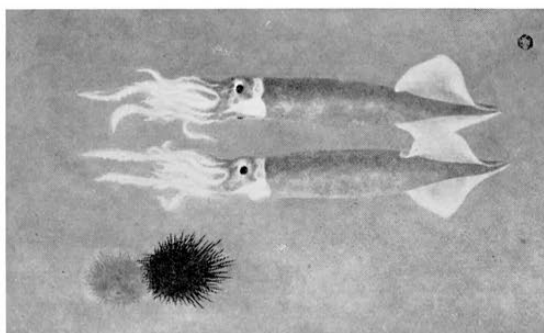
4 鯨の鰭と甘鯛 (百二会展) 福田平八郎



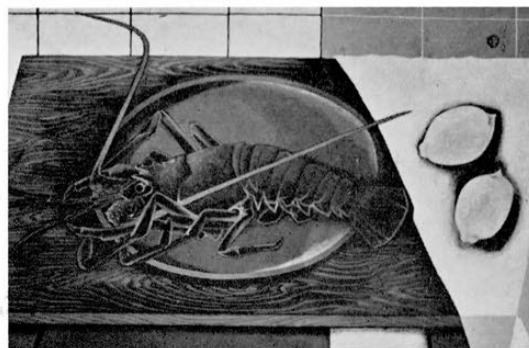
1 冬 (薔薇会展) 高山辰雄



5 春のパンガロウ (日月社展) 児玉希望



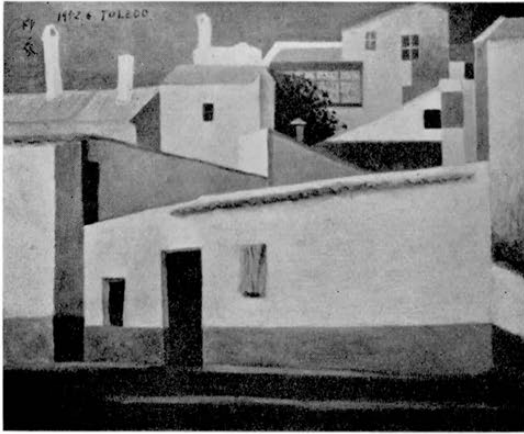
2 静物 (青羊会展) 杉山寧



6 海老 (百二会展) 山口蓬春



3 女役者染八 (個展) 鐘木清方



10 トレドの丘の家 (現代日本美術展) 堂本印象



7 明苑 (日本画院展) 望月春江



11 水辺少女像 (現代日本美術展) 岩崎 鐸



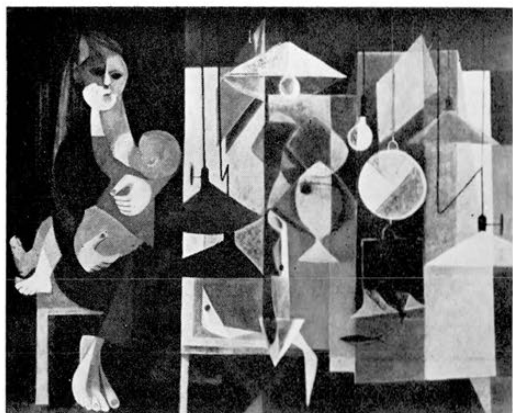
8 幸若 (日本画院展) 岩田正巳



12 裸童 (現代日本美術展) 秋野不矩



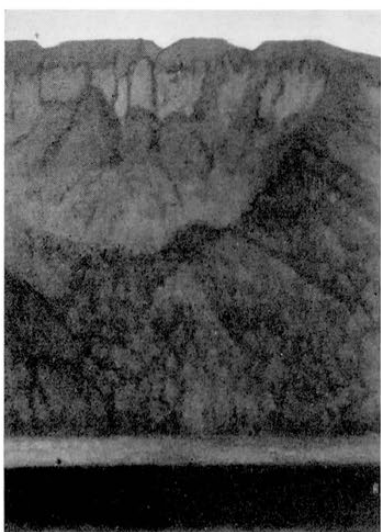
9 風景 (日本画院展) 松本姿水



16 魚の店 (現代日本美術展) 堂本尚郎



13 漁港 (現代日本美術展) 西山英雄



17 照照 (現代日本美術展) 東山魁夷



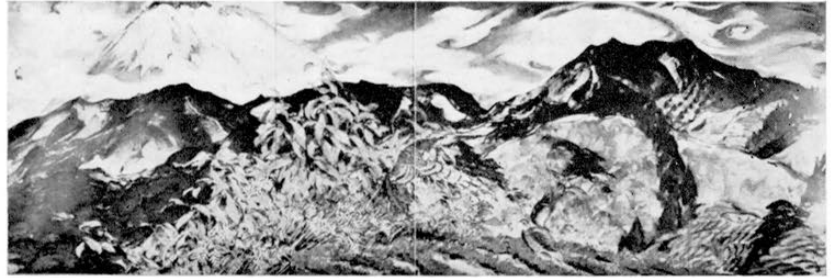
14 落日 (現代日本美術展) 信太金晶



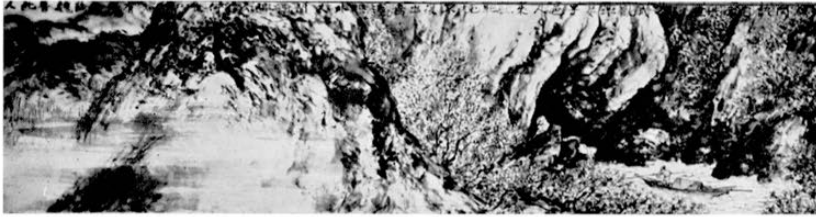
18 東京百景ノ内 大川に題す八景(言問橋) (再興新興美術院展) 茨木杉風



15 樹林 (個展) 村松乙彦



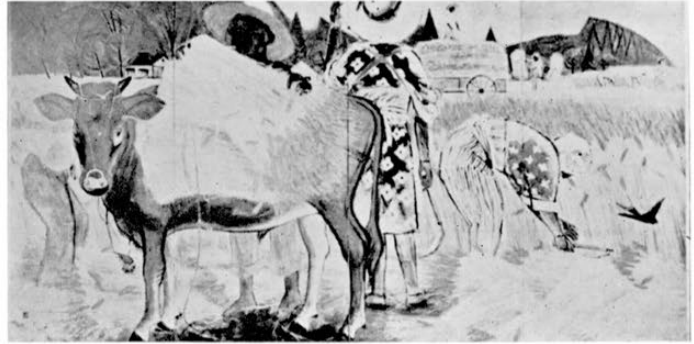
19 寝釈迦(修善寺風景) (青龍展) 川端龍子



20 桃花源紀 (個展) 村雲大孩子



23 鐵 (個展) 日下部道寿



21 変 秋 (青龍展) 高山崎雄



22 望 郷 (青龍展) 堀口幸子



24 水 辺(部分) (再興新興美術院展) 小林巢居人



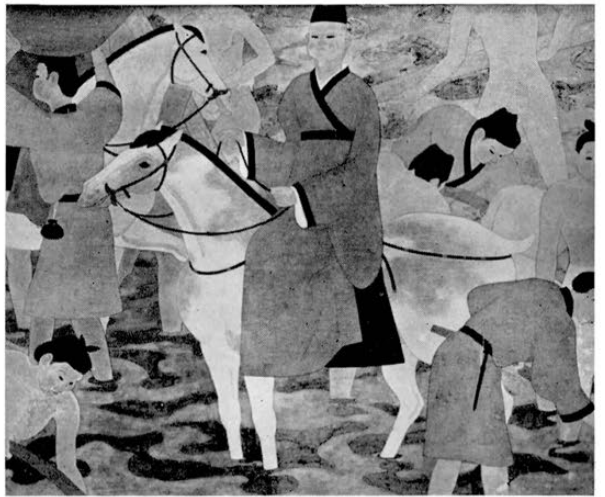
28 牧 場 (院 展) 狂 司 福



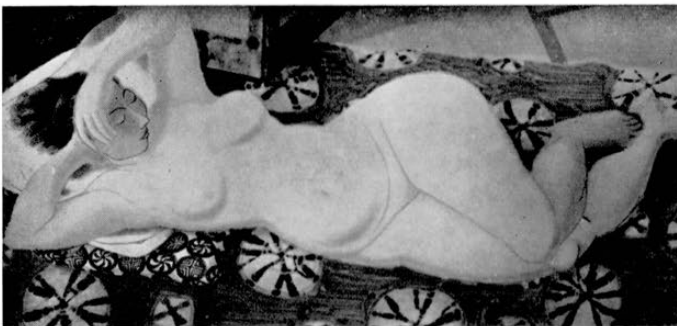
25 阿 寒 湖 (青 龍 展) 加 納 三 乘



29 O 氏 像 (院 展) 堅 山 南 風



26 黄 河 (院 展) 羽 石 光 志



30 裸 婦 (院 展) 小 倉 遊 龜



27 花 (院 展) 北 沢 映 月



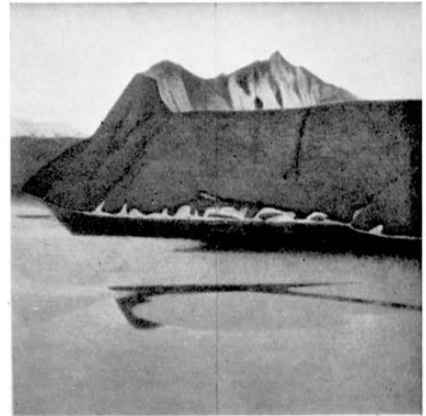
34 舞 妓 (院展) 奥村土牛



31 浄 韻 (院展) 中村貞以



35 紅 梅 (院展) 前田青邨



32 山(カムイヌプリ) (院展) 岩橋英遠



36 出を待つ人々 (院展) 清原 齊



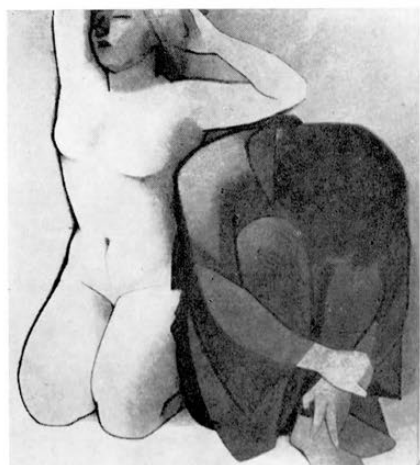
33 太 海 (院展) 酒井亜人



40 池 (新制作展) 上村松篁



37 月と蛾 (院展) 郷倉千韻



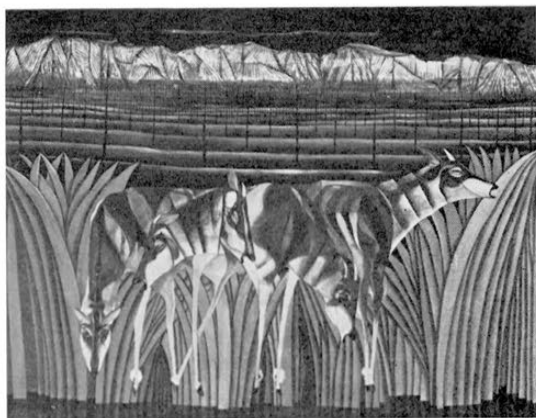
41 二人 (新制作展) 広田多津



38 月夜 (新制作展) 福田豊四郎



42 大崎残照 (新制作展) 麻田篤司



39 悲しき鹿 (新制作展) 加山又造



46 月 汀 (新制作展) 穂田一穂



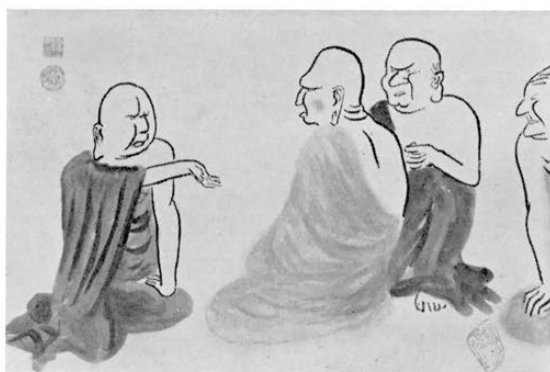
43 冬 (新制作展) 野崎 貢



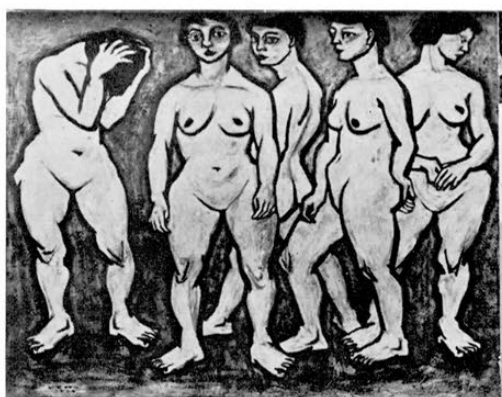
47 山 (新制作展) 堀 文子



44 くじゃく (新制作展) 吉岡堅二



48 羅 漢 (個展) 和田三造



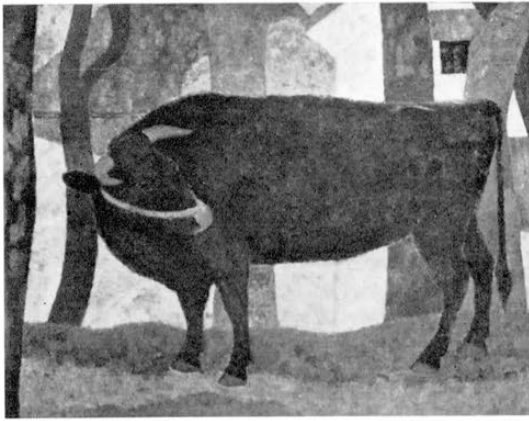
45 五人の裸婦 (新制作展) 上野泰郎



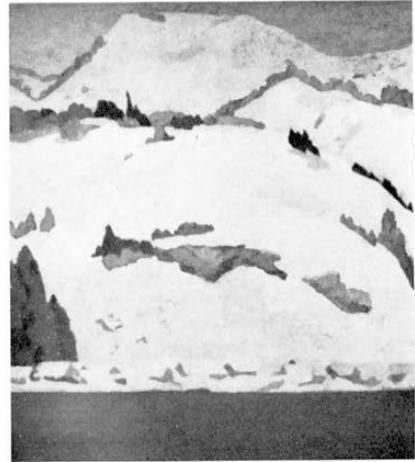
52 同 右 (左半双)



49 春 宵 (清方・深水・紫明風俗画展) 伊東深水



53 牛のいる風景 (日展) 倉光 博



50 冬 (日展) 佐藤 園夫



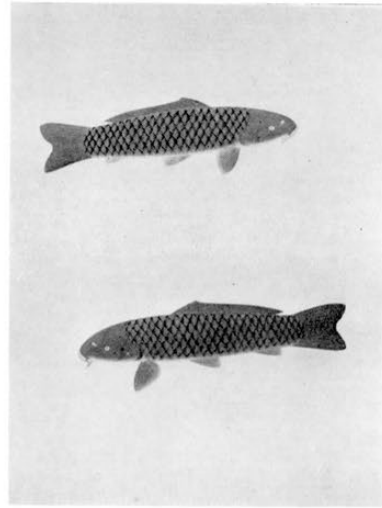
54 坂に建つ街 (日展) 山本知克



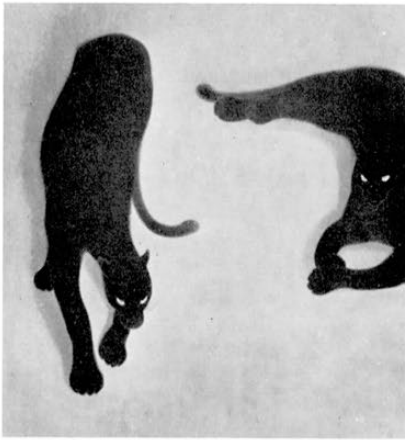
51 池 (日展) 猪原大華



58 まり千代像 (日展) 橋本明治



55 鯉 (日展) 福田平八郎



59 黒 豹 (日展) 山口華樹



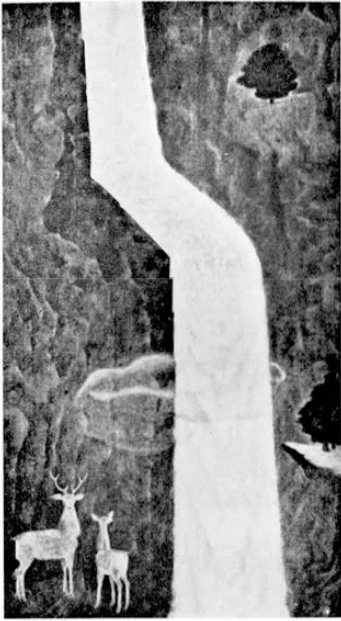
56 無 言 (日展) 伊東万豊



60 森 (日展) 三尾崙治



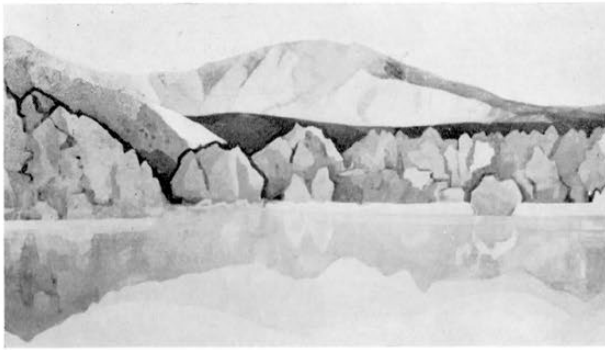
57 笛を吹く (日展) 三谷青子



64 缸 (日展) 池田遙邨



61 夕ぐれ (日展) 寺島紫明



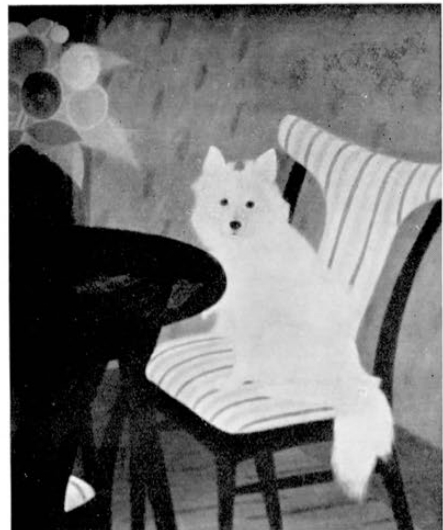
65 雲湖 (日展) 加藤栄三



62 伊勢物語 (日展) 真野 満



66 粟生野 (日展) 岡主税



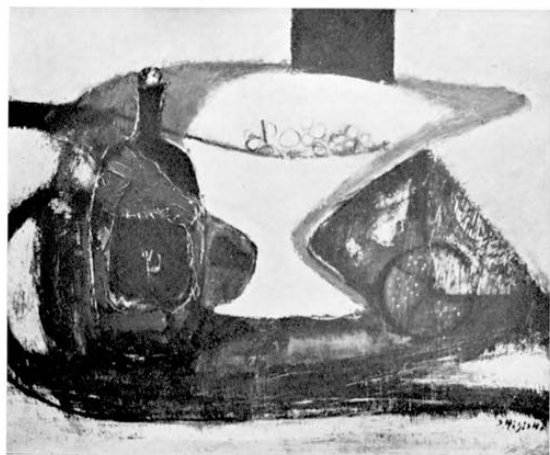
63 花と犬 (日展) 中村岳陽



70 ベロナの噴水 (モダンアート展) 矢橋六郎



67 漁 港 (アンデバンダン展) 野口弥太郎



71 静 物 (アンデバンダン展) 三岸節子



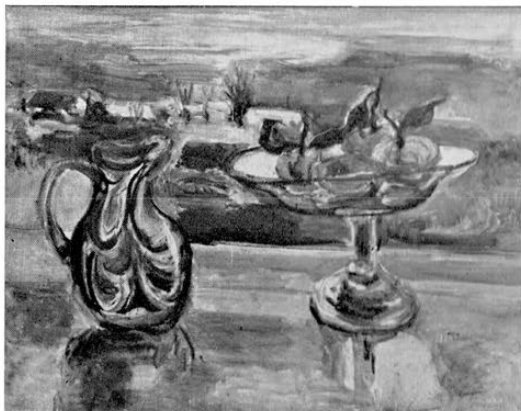
68 少 年 (モダンアート展) 村井正誠



72 母子像 (モダンアート展) 勝呂 忠



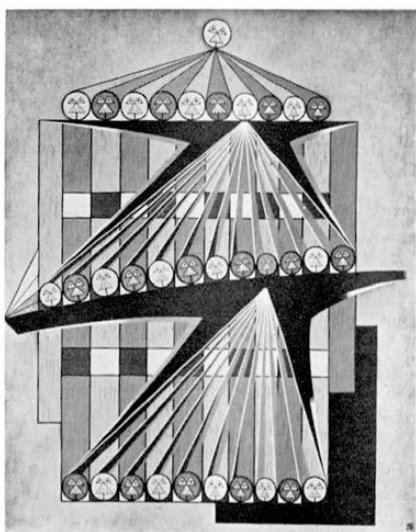
69 装 飾 (アンデバンダン展) 岡本太郎



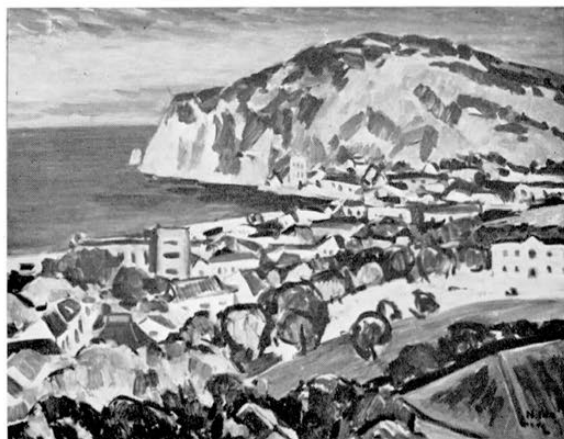
76 蜜 柑 (個展) 仲田好江



73 室 内 (光風会展) 森田元子



77 千人びな (美術文化展) 小牧源太郎



74 熱 海 (光風会展) 井手宣通



78 雪中の饗宴 (水彩聯盟展) 春日部たたく



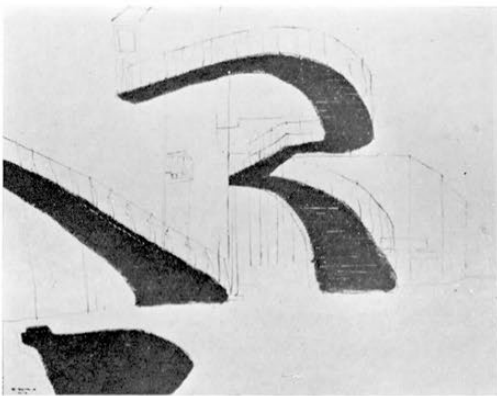
75 ダ フ ニ (美術文化展) 古沢岩美



82 薔 薇 (創元会展) 鈴木千久馬



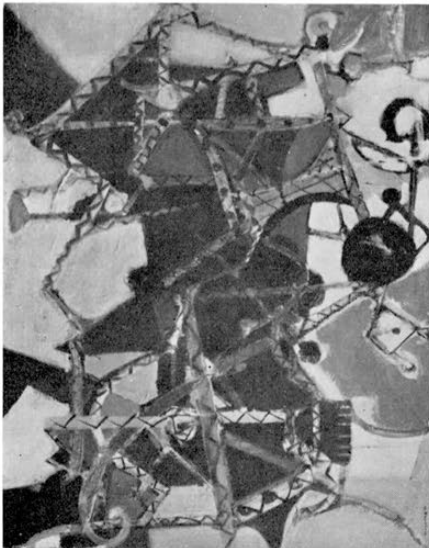
79 雪 山 (光風会展) 田村一男



83 街 A (春季二科展) 荻野康児



80 春 近 き 庭 (春季二科展) 鈴木信太郎



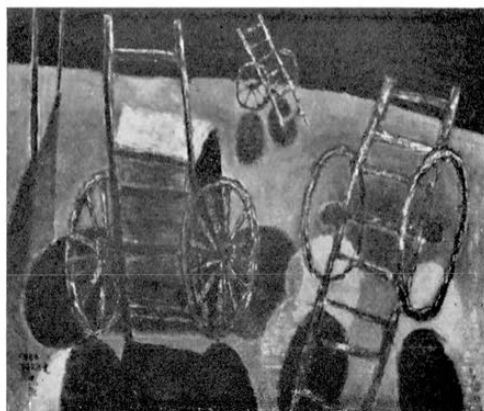
84 お 祭 り (個 展) 川 端 実



81 夏 の 雲 (独立会員春季展) 海老原喜之助



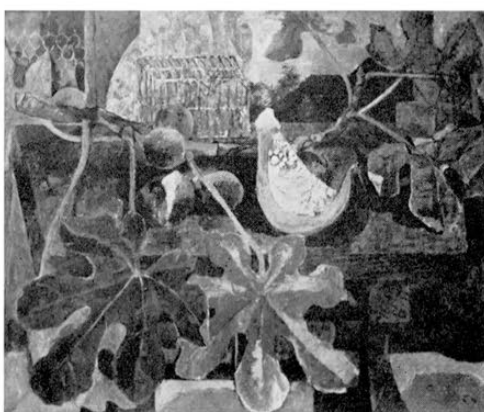
88 圧迫された神経 (春陽会展) 南大路 一



85 三つの車 (独立会員春季展) 高橋 忠弥



89 彫刻家 (春陽会展) 三雲祥之助



86 静物 (春陽会展) 中谷 泰



90 月夜の東大寺裏道 (国函会展) 照谷九寿



87 西洋館夏 (春陽会展) 木村 荘八



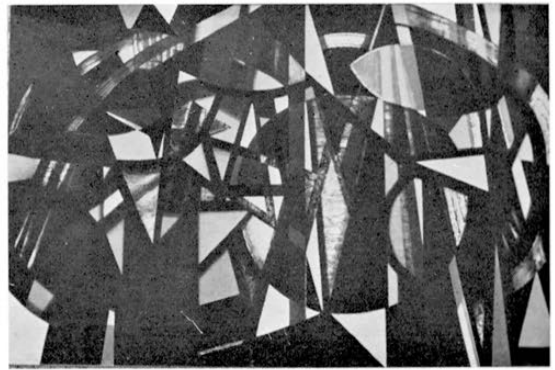
94 静物 (東光会展) 渡辺浩三



91 野風呂 (国画会展) 井上三綱



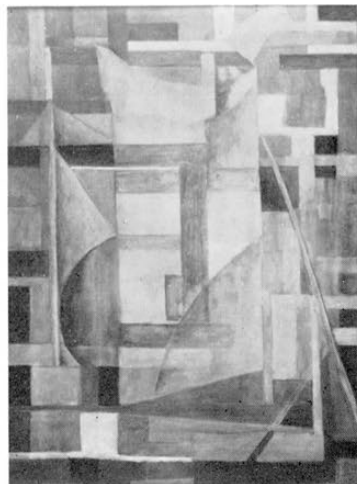
95 スペイン風景 (個展) 田村孝之介



92 森 (国画会展) 宇治山哲平



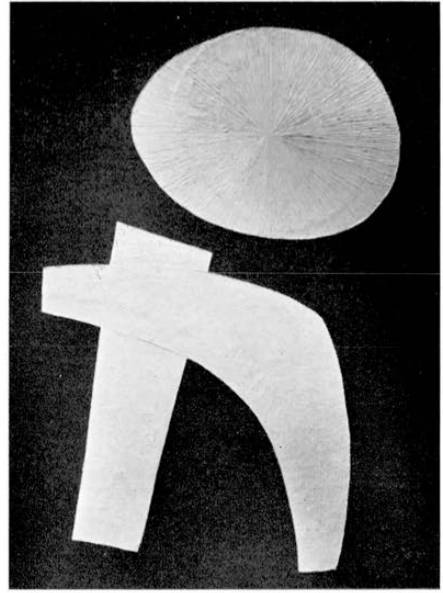
96 青年 (東光会展) 森田 茂



93 港の朝 (国画会展) 川口軌外



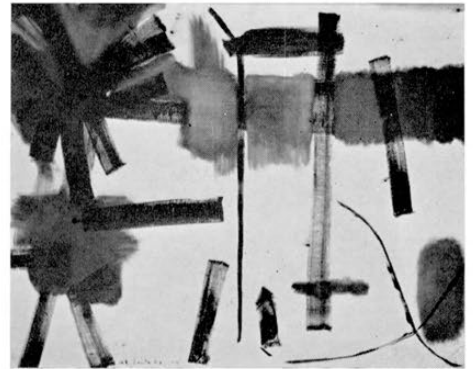
100 浅周山 (現代日本美術展) 梅原龍三郎



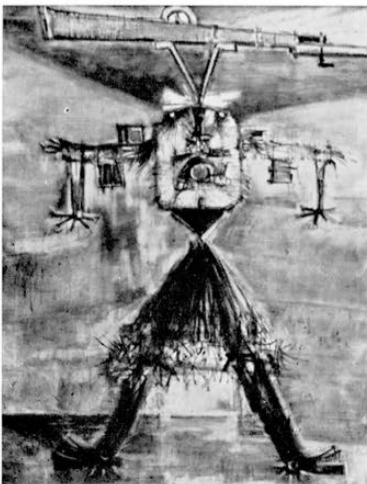
97 作品(かたち) (現代日本美術展) 山口長男



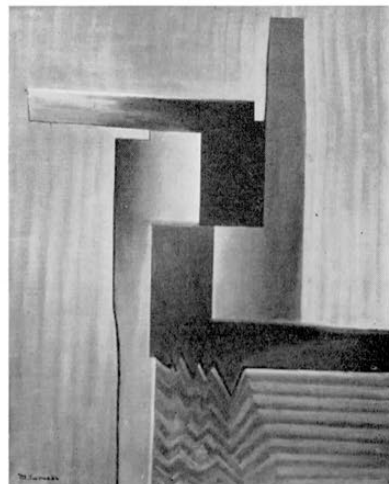
101 オランダ皿の桃 (現代日本美術展) 安井曾太郎



98 爆発 (現代日本美術展) 津高和一



102 野蠻人 (現代日本美術展) 小山田二郎



99 落下する人体 (現代日本美術展) 鶴岡政男



106 波止場 (現代日本美術展) 岡麿之助



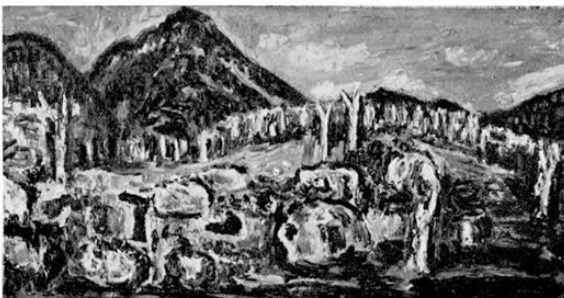
103 鳥と遊ぶ子供達 (現代日本美術展) 猪熊弦一郎



107 銅色の月 (晴日会展) 山口 薫



104 救命船 (現代日本美術展) 高昌達四郎



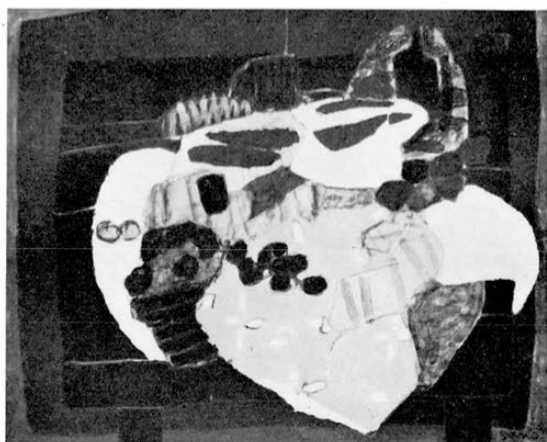
108 秋 山 (現代日本美術展) 小林和作



105 ユダの汚辱 (現代日本美術展) 田中忠雄



112 かすかべの藤 (女流画家協会展) 桂ユキ子



109 静物 (個展) 佐野繁次郎



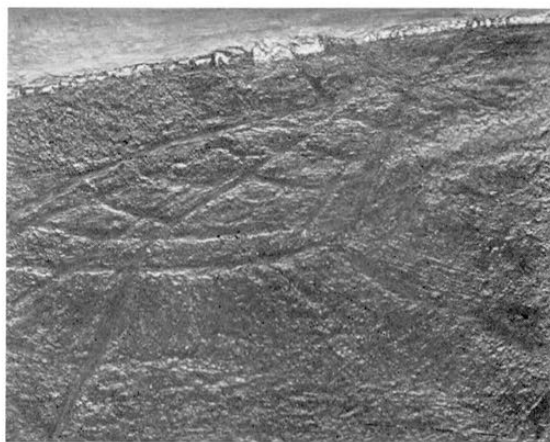
113 春の祭典 (個展) 利根山光人



110 ネツカーチフの少女 (個展) 林武



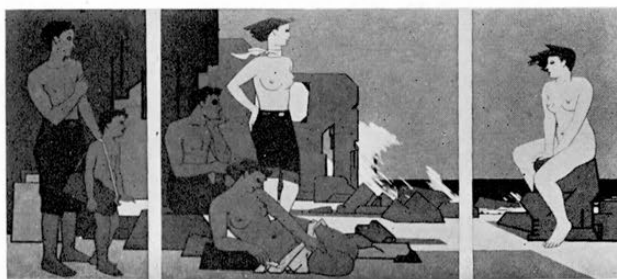
114 壁 (草人社坂本展) 坂本繁二郎



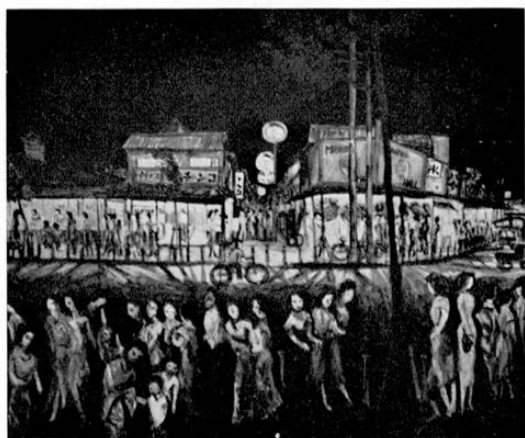
111 黒土の丘 (女流画家協会展) 野村千春



118 休戦条約 (二科展) 井上覚造



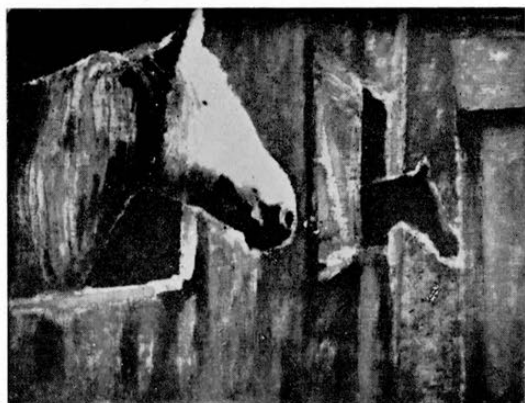
115 太平洋(三部作) (太平洋画会記念展) 布施信太郎



119 街の散歩 (二科展) 野間仁根



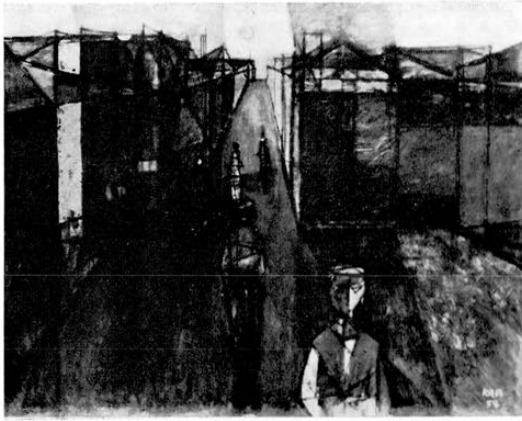
116 人形遣いの肖像 (新桜会展) 朝井関右衛門



120 馬 (二科展) 鷹山宇一



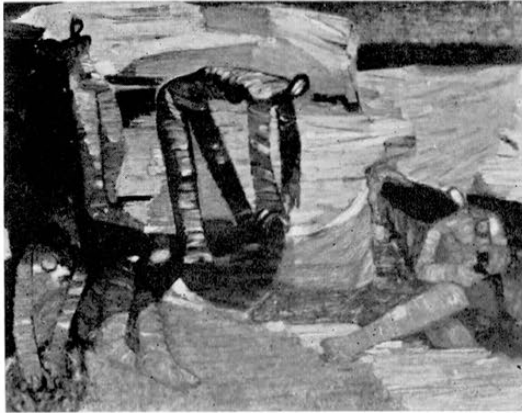
117 兎 瓶 (立札会展) 櫻戸庄衛



124 ゆく人かえる人 (新制作展) 風岡 完



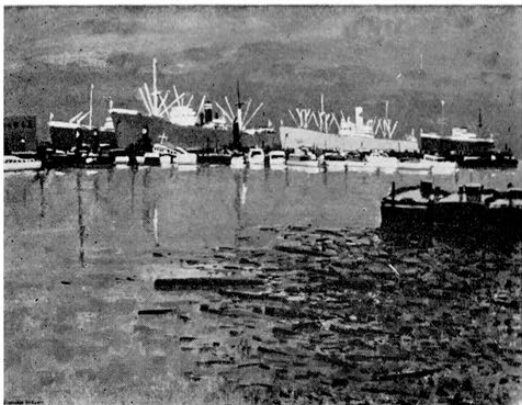
121 女のつどい (二科展) 北川民次



125 貧しい労働 (新制作展) 竹谷富士雄



122 生活の河 (行動展) 向井潤吉



126 雨 後 (新制作展) 石川 澄彦



123 支笏湖の秋 (行動展) 田辺三重松



130 枯木のある雪景 (一水会展) 高田 誠



127 貝殻と鳥 (新制作展) 藤田 和



131 赤き橋の見える風景 (一水会展) 安井曾太郎



128 洗濯女 (新制作展) 萩 太郎



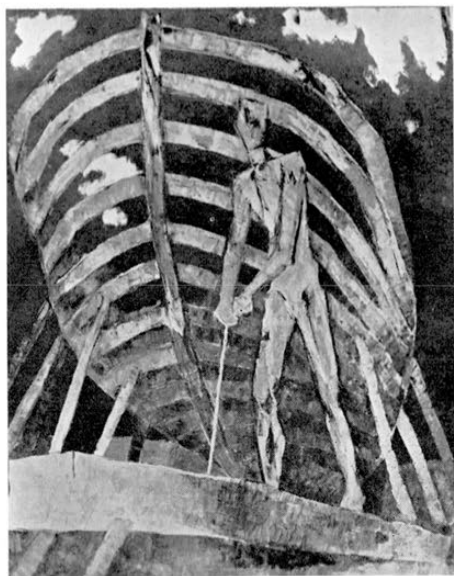
132 カイユウと罌粟草 (独立展) 児島善三郎



129 夏の阿蘇山 (一水会展) 田崎広助



136 風 景 (自由美術展) 麻生 三郎



133 船を造る人 (独立展) 海老原喜之助



137 叫 び (自由美術展) 井上長三郎



134 うづくまる (独立展) 鳥海青児



138 路 上 (自由美術展) 森 芳雄



135 芥 子 (独立展) 須田国太郎



142 新 雪 (日 展) 中村善策



139 裸婦二重像 (二紀会展) 宮本三郎



143 裸 体 (日 展) 中村研一



140 千恵子像 (日 展) 泉 治彦



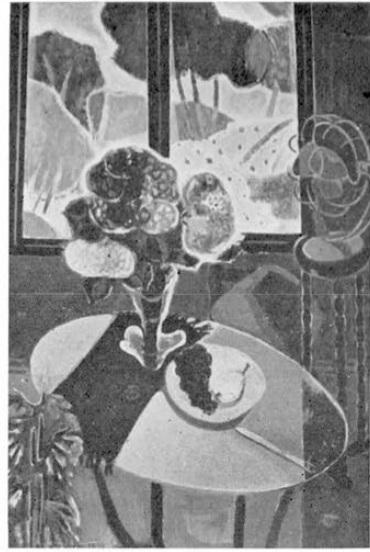
144 台風それる海岸 (二紀会展) 鍋井克之



141 秋の湖 (二紀会展) 栗原 信



148 首飾 (日展) 中村琢二



145 窓辺 (日展) 金子千恵子



149 舞妓 (日展) 川島理一郎



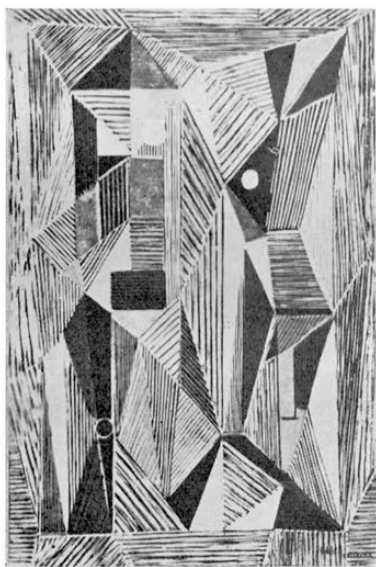
146 薫風 (日展) 小糸源太郎



150 裸婦 (日展) 寺内万治郎



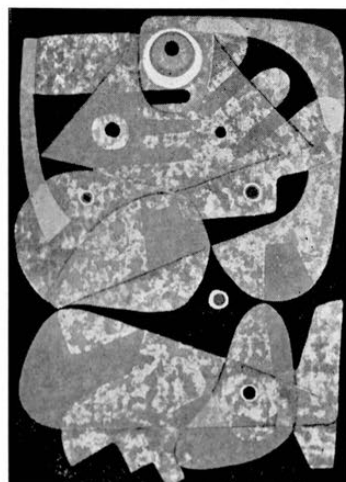
147 王滝川風景 (日展) 木下義廉



158 人体抽象 (春陽会展) 北園文雄



154 魚 (春陽会展) 長谷川 潔



151 かくれんぼ (五人展) 品川 工



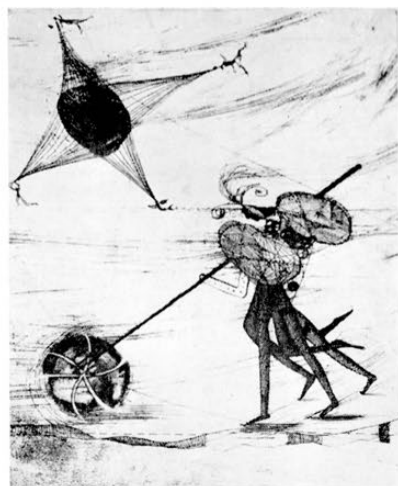
155 承德の春 (国画会展) 平塚 運一



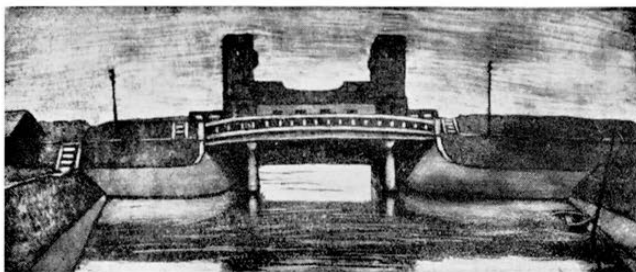
152 東京低地連作(あき) (新制作展) 小野 忠重



156 歎異頭板華経天上板壁画棚 (空・風・火・水) (現代日本美術展) 棟方 志功



153 さまよえるオランダ人 (個展) 泉 茂



157 水 門 (造型版画展) 松下 芳太郎

版 画



162 山狂風雨図 (鉄斎展) 富岡鉄斎



159 紫衣の女 (四人展) 広島晃甫



163 山 (四人展) 村上華岳



160 茶碗と果実 (御舟展) 速水御舟



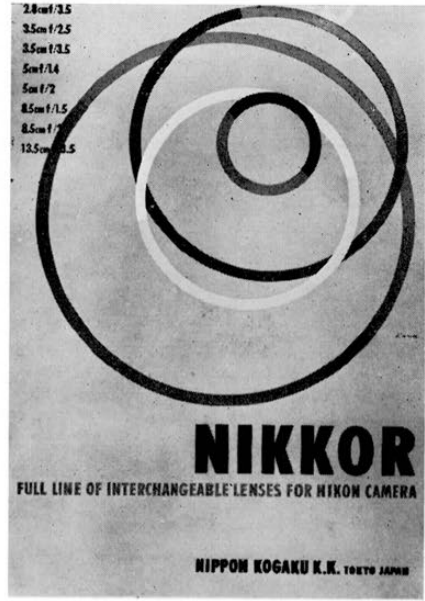
164 食料品店 (四人展) 佐伯祐三



161 裸婦 (四人展) 前田寛治



167 広告デザイン 宇田英雄



165 ポスター 亀倉雄策



168 ポスター 伊藤憲治



166 広告デザイン 杵島隆



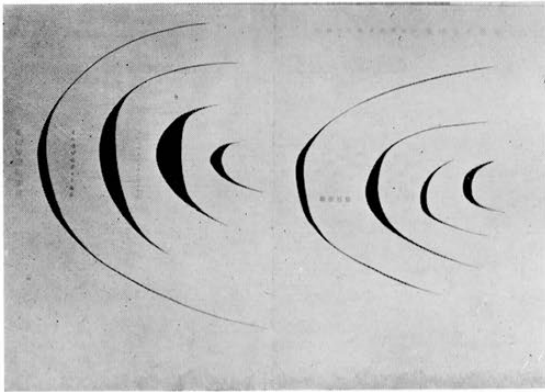
169 ポスター 岩本守彦



173 ポスター 大智 浩



170 ポスター 大橋 正



174 表紙デザイン 山城 隆一



171 表紙デザイン 山名 文夫



175 ポスター 小島 康弘



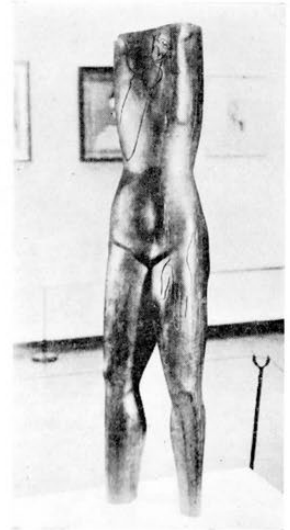
172 パッケージ 増田 正



182 少女 ルドン



179 花 ルドン



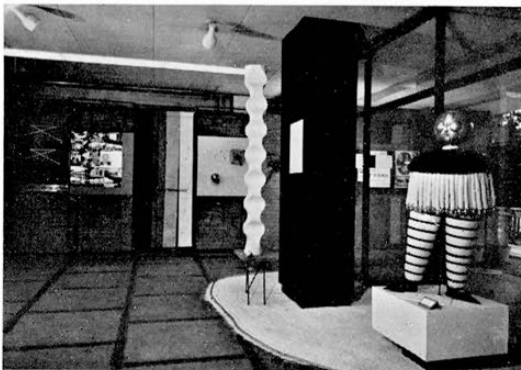
176 ボモナ ザツキン



180 フランス美術展 会場写真



177 牛と小さなジョー 国吉康雄



181 グロピウスとバウハウス展 会場写真



178 グロピウスとバウハウス展 会場写真

海外作家国内展



188 K 嬢像 (院展) 山口信子



186 作品 (現代日本美術展) 植木力



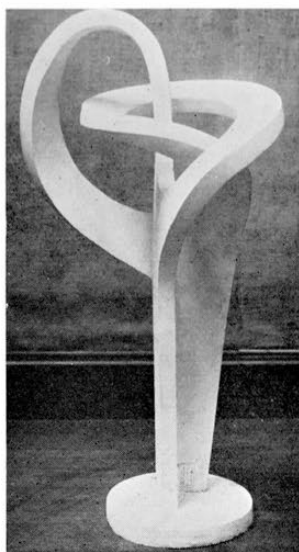
183 はだか (現代日本美術展) 佐藤忠良



189 少年 (現代日本美術展) 新海竹蔵



184 サーカス (現代日本美術展) 木郷新



190 作品 C (二科展) 番匠宇司



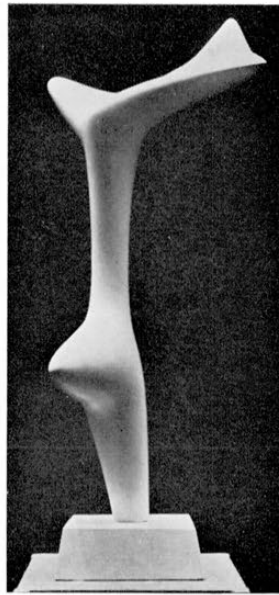
187 習作 不動 (院展) 平橋田中



185 女顔 (院展) 石井鶴三



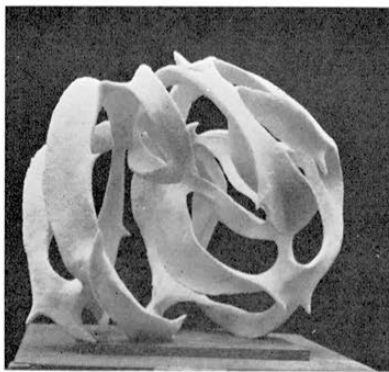
197 三 人 (新制作展) 山内壮夫



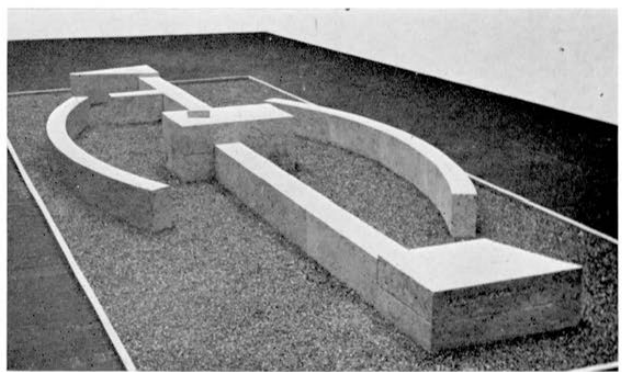
194 生長の形態No.1 (自由美術展) 長野 恒



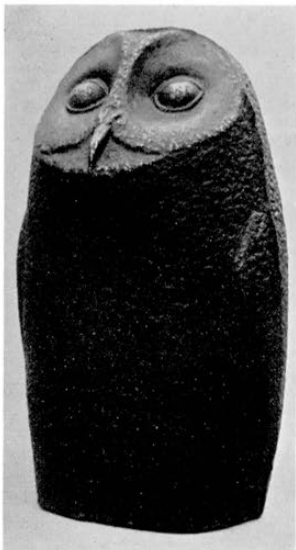
191 ひ と (二科展) 乗松 巖



195 プラスチックのオブジェ (行動美術展) 向井良吉



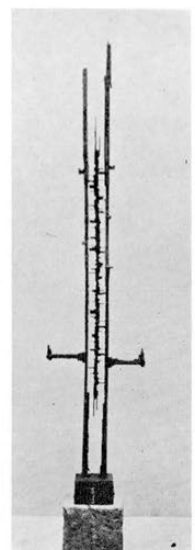
192 地上の形態 (二科展) 笠置季男



198 フクロ (新制作展) 山本常一



196 黒い女 (行動美術展) 野崎一良



193 54.7 (二科展) 村岡三郎



202 波 (日展) 吉田三郎



199 Fの頭像 (日本彫塑展) 朝倉文夫



203 華 鐵
(日展) 橋本朝秀



200 漁夫三想 (日展) 古賀忠雄



206 ながれ
(日展) 宮本光庸



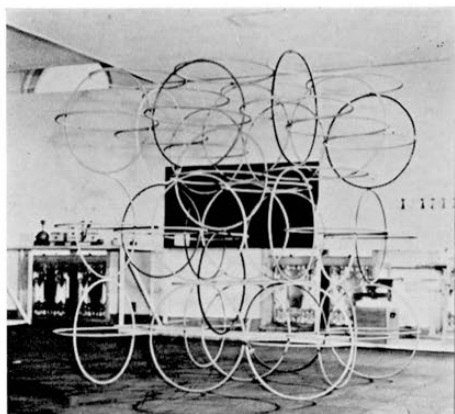
205 立っている人
(日展) 水船六洲



204 裸婦
(日本彫塑展) 清水多嘉示



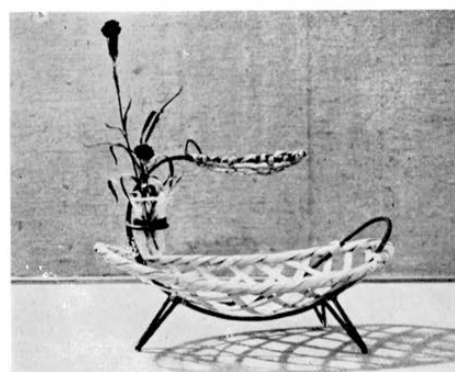
201 エチユード
(新樹会展) 山本豊市



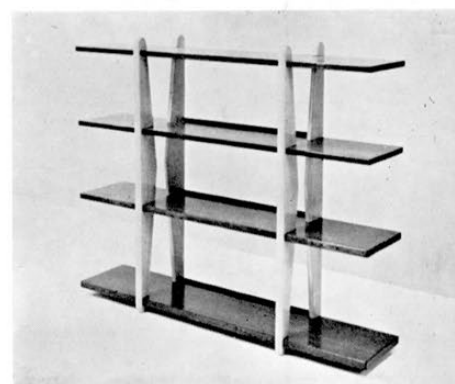
211 ジャングル・ジム 由良玲吉



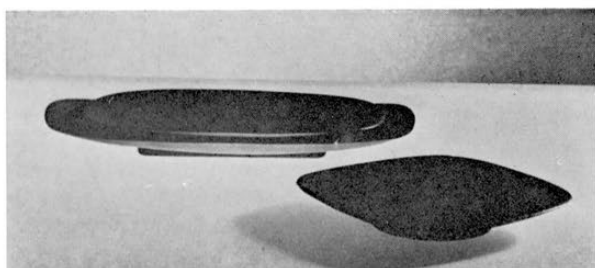
212 天ぶら鍋 (生活工芸展) 小笠原隆兆



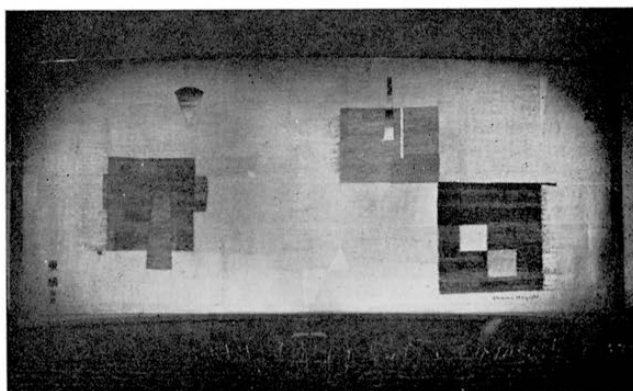
213 鉄脚盛器 (新工人展) 林尚月斎



214 木 棚 (生活工芸展) 土屋見一



207 鉄の皿 (技術とデザイン展) 産業工芸試験所作品



208 無 窮 (東横ホール織報) イサム・ノグチ



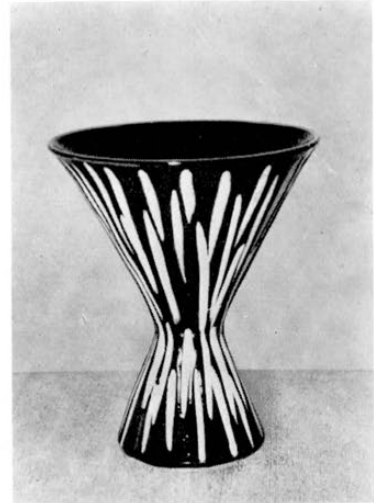
209 食堂用椅子
(技術とデザイン展)
産業工芸試験所作品



210 あかり イサム・ノグチ



218 居間セット (新制作協会々員展) 剣持 勇

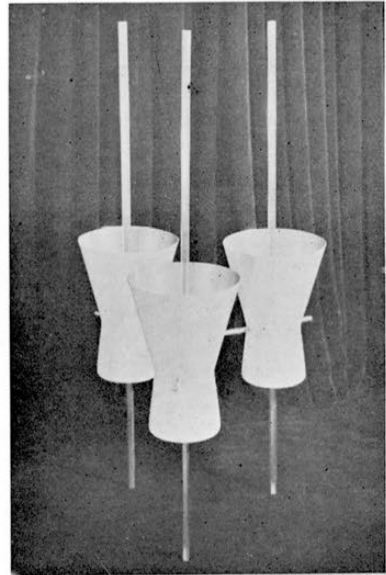


215 天目広口花器 (名古屋工業技術試験所陶磁器試作品展) 加藤 鏡一

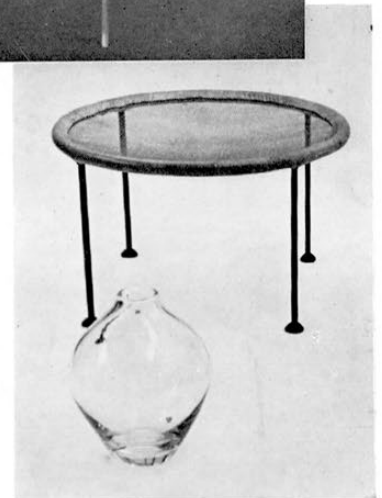


219 小杉二郎工業デザイン製品展会場

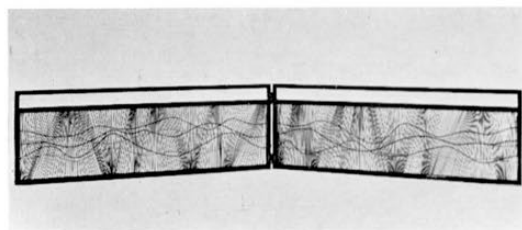
216 花さし (創作工藝展) 芳武 茂介



220 青銅花瓶 (日展) 内藤春治



217 スツール (新制作協会々員展) 猪熊 弦一郎



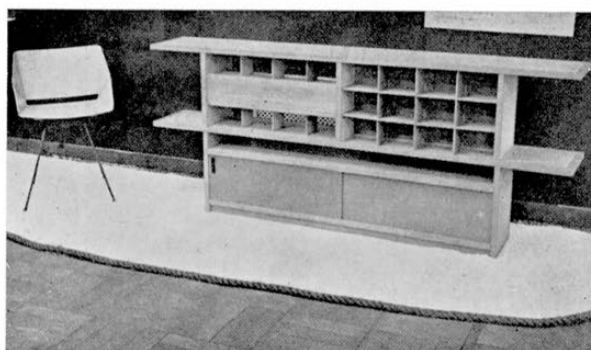
221 竹小屏風 (日展) 飯塚小坪斎



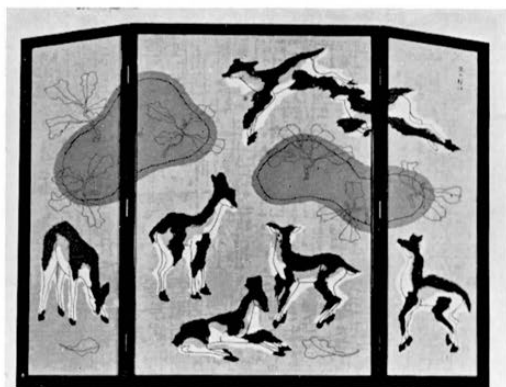
225 斜線文青銅花瓶 (日展) 松崎福三郎



222 青銅花入 (日展) 高村豊周



226 フジ・スタンダード・ファニチュア 建築総合研究所



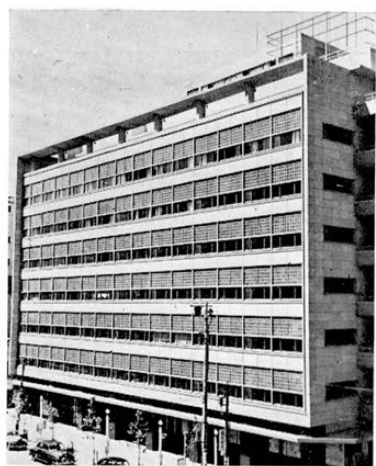
223 三曲屏風 (日展) 山崎覚太郎



227 花瓶 (日展) 各務敏三



224 新雪花花瓶 (日展) 清水六和



236 東京瓦斯ビルディング 三菱地所株式会社設計



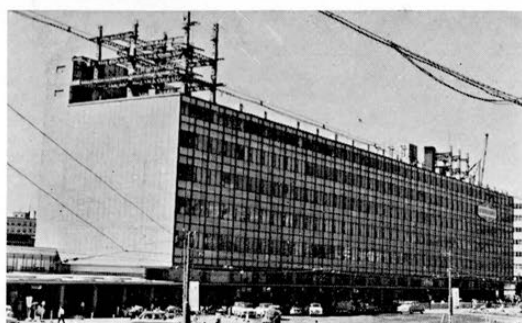
232 丸の内日活劇場 竹中工務店設計



228 フジカワ画廊 村野・森建築事務所設計



233 城東郵便局 郵政省大臣官房建築部設計



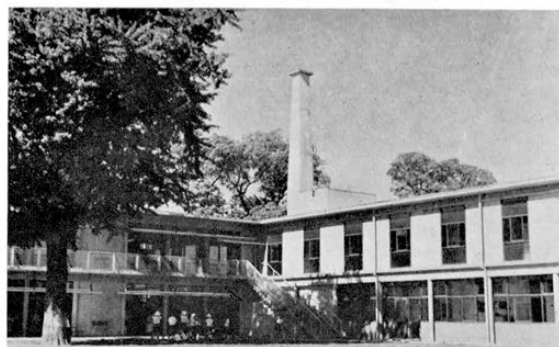
229 鉄道会館 国鉄東京工事事務所設計



234 関東通信病院 日本電信電話公社建築部設計



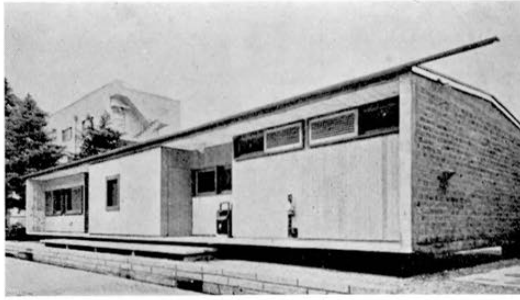
230 国立科学博物館理工学館 谷口吉郎設計



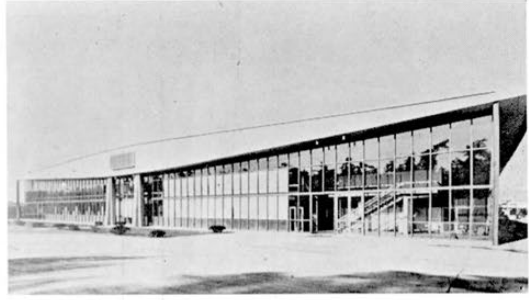
235 東洋英和女学院(小学部校舎) 大江宏研究室設計



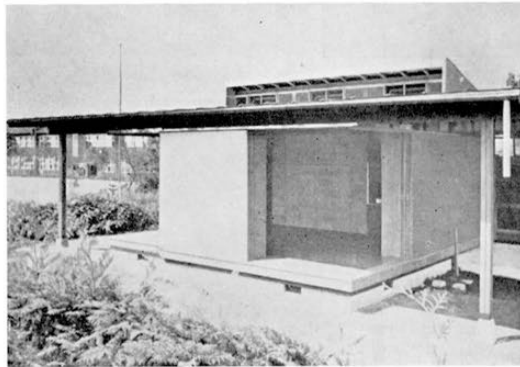
231 国際観光会館 土浦亀城建築事務所



241 数学者の家 清家清設計



237 図書印刷株式会社原町工場 丹下健三他設計



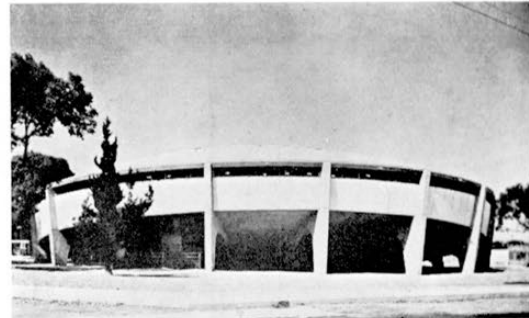
242 住宅No.20 池辺研究室設計



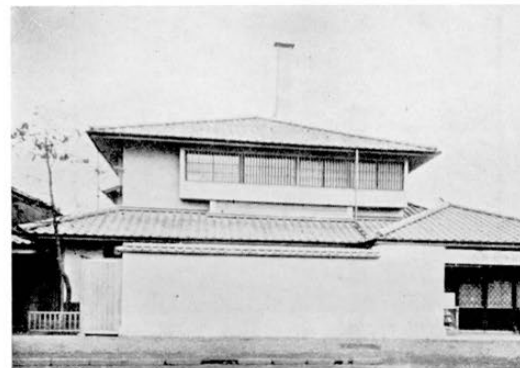
238 神奈川県立図書館
及び音楽ホール 前川国男設計事務所設計



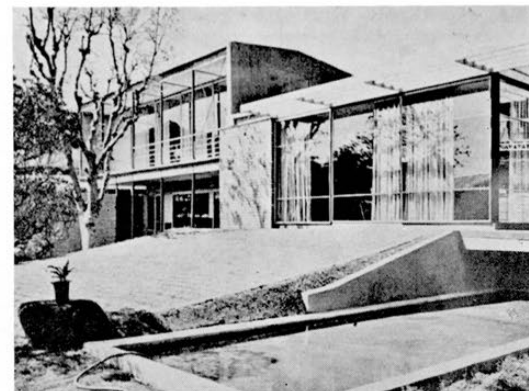
243 コアのあるH氏のすまい 増沢洵設計



239 愛媛県民館 丹下健三計画研究室設計



244 入勝館中店 堀口捨巳設計



240 函さんのすまい 広瀬謙二建築技術研究所設計



246 同右 (左半双)



245 風俗図屏風 (六曲屏風)



247 漁村夕照圖 伝牧溪筆



248 平治物語絵詞(六波羅行幸卷)



252 龍燈鬼



251 天燈鬼



250 伊利迦羅龍詩絵経箱



249 教王護国寺五大菩薩坐像



254 法華經方便品(竹生島経)



253 三宝院唐門



259 公余探勝圖 谷文晁筆



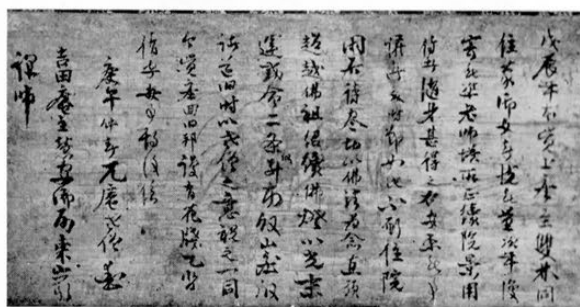
255 一掃百態圖 渡辺崋山筆



260 清涼寺釈迦如来立像



256 芦屋浜松園真形釜



257 元庵普寧墨蹟



261 熊野奥照神社本殿



258 荻川家住宅

(新指定重要文化財)

本

欄

昭和二九年美術界概観

現代美術

日本画

本年度の日本画の動きには取立てて目だつほどのものはなかつたが、戦後以来の日本画が多かれ少かれ反映していた近代美術に対する劣等感的態度が次第に取りのぞかれ、日本画の存在理由についての積極的な自信や、その独自の意義についての反省が少しづつ表われかけた点が注目される。

その徴候は内外から萌して来たが、まず外からの徴候についていえば、諸外国の日本美術についての関心がますます積極的になつたことが挙げられる。ニューヨークの近代美術館では日本式建築の紹介が行われ、それとともに東山魁夷による襖絵が送られてかなりの注目を受けた。また国際文化振興会による現代日本画の巡回展やサンポロの日本館建設が行われ、前年度の古美術展によつて誘発された興味を挙げたほか、アメリカ美術家の中には、東洋画風の表現法を摂取しようとするものが急速に増加する気配となつた。また、長谷川三郎を代表とした日米抽象画展も東洋的表現への興味を惹起せしめ、来日留学生で日本画の研究を志すものも次第にふえ、アメリカ等の美術雑誌に日本画の研究論文も見られるようになった。中には相当程度突きこんだものもあり、この傾向は今後さらに深まるであろう。さらに別方では前衛書道の動きが現代絵画とかなり近いところまで進み、この方の仕事フランスに紹介されて反響を呼んだことも無視できない。この現象には東洋古来の書画一致的な表現手法、ことに墨の藝術に対する関心が指示されており、日本画の中でも特に水墨画的なものが注目されている現況がわかるであろう。在日外人による「国際水墨画展」などが行われたことも、諸外国人が示す興味のありかを語る一つの例証といえ

る。

これらの外からの関心による刺戟は、日本人の日本画に対する戦後以来の卑屈な態度をかなり改めさせるに役立つたが、内側から国内を刺戟したものととしては、春の「速水御舟展」、秋の「前田青邨古稀記念展」の盛観が想起される。いずれも近代日本画壇における代表的作家の高度の業績を陳列したものであり、ここに展開された日本画の興味ある可能性は大勢の注目をひくに充分であつた。ことに久しぶりに公開された偉才御舟の活気鋭い作品はいたずらに低迷しがちな日本画壇に格好の清涼剤となつた。この展観をみた都内の一高校生が「御舟が小品一つ描くにもどれほど苦労したかがよくわかります。日本画が私たち若いものの気持にこれほどピッタリ合つたことは今までありませんでした」という感想を述べている事実は卒直にこの展観の意義を語るであろう。

以上のような内外からの刺戟によつて、作家の活動にも一般に落ちつきと自信の加わる傾向がみられたが、それかといつてむろん一べんに秀作佳作が出てくるわけではない。制作活動の面からみると、一時熱狂的に近代洋画の手法を追つた行き方が次の峠にさしかかり、次第に古来の可能性の新開拓に向う者の数が増加した程度である。その行き方も明治大正期にみられた自然主義と伝統様式の融合でなく、近代造形主義と伝統様式の調和渾化に向つている点が特色であろう。まだめぼしい成果には到らないが、日本画が伝統的に示してきた抽象と写実の中間を行く自由な様式が、今日の世界画壇の傾向とどのよう交错し、どのように独自の主張を出しうるか、その点に現代の問題の焦点があるようである。そうしてこの同じ問題が、洋画壇の中にも自覚されてきていている事実は、従来あまりにも截然とわかれていた日本画・洋画が次第に課題を同じくしていく状況を示すもので、今後の日本美術の動向を卜するに足る材料といえるであろう。

さて、最後に本年度の注目すべき作家と作品を拾つてみると、院展では大観のほか、前田青邨の珠派風の「紅梅」、小倉遊亀の「裸婦」、奥村土牛の「舞妓」、堅山南風の「O氏像」などがあり、中村貞以、郷倉千毅、北沢映月、新井勝利、岩橋英遠らの同人につづいて羽石光志、今野忠一、清原

齊、酒井重人らが力量をみせた。院展は長老だけの頭の大きい団体といわれたが、近年中堅新人がかなり奮起してきた様子がみえ、やがて院の将来はこれらの新勢力が定めることになるであらう。

青竜社では本年も川端竜子の活躍が中心で「寝釈迦」などの異色作が発表されたが、必ずしも現代的関心に訴えるものでなく、社人では山崎豊の春の「古式節分会」、秋の「神田」が好調を示し、その他、加納三葉、亀井玄兵衛らが話題となつた。なお新人として横山操、堀口幸子、高山晴雄あたりが一步頭を出してきたのが注目された。

新制作協会の日本画部では、上村松篁「池」が普通で明るい作調に京都派伝統を穏やかに近代化したところをみせた。このほか吉岡堅二の「孔雀」が個性的な彩調をみせ、山本丘人、福田豊四郎、広田多津、秋野不矩、奥村厚人らもかなりの作品を発表したが、興味はむしろ快調の構成を示す新人加山又造「悲しき鹿」「迷える鹿」に寄せられた。これについては信太金昌、麻田鷹司、野崎貢などが新開拓の期待をあげている新人群といつてよい。堀文字、稗田一穂、朝倉撰あたりは本年はやや不元氣であつた。

もつとも大量の作家をもつ日展は、いわゆる大家より中堅新人級に力をこめた仕事が多く、かなりの活気を呈した。ちやうど十周年にあつたので、物故作家の特別陳列も行われたが、これと比較すると相当の動きがあり、戦後の近代調がひろく滲透し、ようやく落ちつきに向つてきている状況が看取された。主力をなすものをあげれば、福田平八郎「鯉」、徳岡神泉「流」の京都二名家をはじめ、中村岳陵「花と犬」、山口蓬春「山湖」、堂本印象「疑惑」、伊東深水「鶉花」、山口華楊「黒豹」、杉山寧「百合」、橋本明治「まり千代」などであるが、このほか東山魁夷、高山辰雄、望月春江、浜田観、田中以知庵、麻田辨次らから特選の諸作にいたる多数の作品がほとんど同じような水準でひしめきあつている。この多数者の競争が日展の特色とされたが、これが激化してもう一きわ抜群の仕事が出るのが切望される。なお今回は十周年記念を祝して久しぶりに長老川合玉堂「屋根草を刈る」が出品されたのはめづらしかつた。

以上が主要展覧会の作家と作品であるが、このほか記憶に残るものとし

ては、東山魁夷「晩照」が受賞した現代美術展があり、岩崎巴人らの南画式フォーヴによる作風が一部の注目をひいている新興美術院展があり、望月春江の佳作が出た日本画院展、清方、深水、紫明の美人画を揃えた三越風俗画展などがあつた。なお回顧展としては上記の御舟、青柳の二展以外に、藝術大学で行われた明治大正名作展、鎌倉近代美術館の鍋木清方回顧展、高島屋の大観富岳名作展が有力であつたし、画商による小グループ展としては、無名会、雪月花展、未更会、彩交会、百二会、個展としては異色ある堂本印象の彩陶展、奥村土牛展、さらに和田三造、山喜多二郎太の水墨画展などが注目をひいた。なおほかに村雲大撰子、日下部道寿、福永晴帆その他有名無名の南画家水墨画家が諸方で作品を発表する気運があらわれたことは注目すべきで、書道展の隆盛とともに、戦後のモダニズム的な色彩感覚主義が少しづつ別方へ動きつつあることの証拠とみてよいであらう。

洋画

国際的な美術交流は本年も盛んであつた。二月には西洋近代創作版画展、三月にはオシップ・ザッキン展がブリッジズストーン美術館で催された。前者はロートレックを初め最近作のピカソに至る近代版画の展望であり、後者は、ザッキンから送られた彫刻二〇点、絵画三〇点を含む個展で、海外彫刻家の最初の纏つた展覧として、共に注目された展覧会であつた。又七月には世界ボスター展、四月にはゴヤのエッチング展、二月には鎌倉近代美術館でロルジュとモッテの作品五〇余点が陳列され、海外美術の接触も例年にくらべ、一層その幅を広げてきた。然し本年度の美術界にとつて特筆すべきことは「フランス美術展」であつた。ルーヴル美術館の作品を中心とするフランス美術の古典が、これ程大量に紹介された事はかつてないことであつた。各陳列室は、作品にふさわしい、フランス的な、各時代的な雰囲気を出すことに努める等、特別な展示法が試みられた。一般の人氣は予想以上で、会期四二日間の観覧者は五二万に達し、会場は雑踏し、落着いた観賞は不可能な有様であつた。「フランス美術展」は更に福岡、京

都(昭和三〇年)でも開催、各地で圧倒的な人気を集め、観覧者の動員数に於ても戦後最大を記録した。

一方、海外の国際展覧会への参加は、まず、ヴェニス展のビエンナーレ展で、岡本太郎、坂本繁二郎の対照的な二作家の作品を各々一〇点出品した。又、ニューヨークで開催の日米抽象美術展に、招待で、末松正樹等九名が参加、約三〇点の作品を送つて、好評であつたが、ビエンナーレ展の出品作は何等の反響もなく終つた。

国内展は、回顧展乃至はそれに近い展覧会が目立つて多かつた。洋画だけでなく、近代の肖像画展、大正期の画家展、黒田清輝遺作展、四人の画家展、辻永古稀記念展(二月)、中沢弘光八十歳記念展(六月)があり、国吉康雄の遺作展も加わつた。日本画、彫刻関係と合せると回顧的な展覧は可成の數に上つたが、広く一般の興味を呼び、いずれも賑わつた。

これに反して、各美術団体の創作活動は概して不振で、例年の公募展も、その低調が指摘された。一般的には、年々、海外美術との交流の結果、近代化の傾向が、益々押し進められ、特に抽象絵画が、各団体展に於て著しく進出して来た。社会的テーマへの関心が、若い世代の作家の中に高まつてきたのも目立つた。美術界に於ける国際的動向の反映ともいえるが、ごく一部の作家をのぞいて、とり上げる程の作品はなかつた。

次に各展覧会に於ける主な作品を、月を追つて列挙すると、寺田政明「夜の花」、名井万亀「二つの染色体」、山口勝弘、藤松博の諸作。山口薫「雪と少女」、村井正誠「考える男」、勝呂忠、朝妻治郎の作品、小牧源太郎「千人びな」、幸寿の諸作、森田元子「室内」、田村一男「雪原」、井手宣通「熱海」、小糸源太郎「朝東風」、南大路一「圧迫された神経」、三雲祥之助「彫刻家」、藤井令太郎の椅子連作、岡鹿之助、加山四郎、中谷泰の作品、川口軌外「円」、井上三綱、熊谷九寿、土田文雄の作品など。現代日本美術展では山口長男「作品」、安井曾太郎「桃」、鶴岡政男「落下する人体」がそれぞれ受賞した他、海老原喜之助「風」、脇田和「鳥よせ」、川口軌外、小山田二郎、田中忠雄、井上三綱、朝井閑右衛門など好評であつた。続いて秋からの展覧会では、桂ユキ子「魚と人」、岡本太郎「青空」、北川民次「女たち」、井上寛造、吉井淳二、織田リラ、津

高和一、村田簀史雄等の諸作。脇田和、猪熊弦一郎、川端実の作品、田崎広助「夏の阿蘇山」、安井曾太郎「赤き橋のみえる風景」、林武「裸婦」の諸作、海老原喜之助「船をつくる人」、佐伯米子「静物」、宮本三郎「群像」、井手宣通「強東風」、又、牛島憲之、井上長三郎、森芳雄の作品等がとりあげられよう。

版画では恩地孝四郎、長谷川潔、棟方志功、北岡文雄、浜口陽三、駒井哲郎、浜田知明、斎藤清等の作品が好評であつた。

尚、個展には注目されたものが多く、岡鹿之助(二月)、高島達四郎(三月)、田村孝之介(三月)、林武(六月)、猪熊弦一郎(六月)、西村計雄(七月)、鍋井克之(七月)などが、それぞれ充実した作品を発表した。

彫 塑

前年に引続き格別顕著な変化は認められなかつたが、戦後約一〇年、物心両面の落着きと共に戦後育つた若い作家達の抬頭が今年あたりかなり目立つて来たようである。時間的にいつても、所謂、戦後派の占める場の比率が拡充する頃であり、新旧世代交替の時期に到達して来たともいえる。而してこれら新人作家達が時流に副つて殆んど抽象的作風を果敢に追つてきているので、日展以外の展覧会場では、一見、なかなか華やかに看映えがし、抽象傾向万能時代来るかの感を抱かせたが、まだ個性的な仕事は稀にしか見当らない状態であつた。

例年の通り、我国彫塑界の動向が最も端的に窺える各団体展を順に迎つてみると、まず読光アンデパンダン展に於ては新人毛利武士郎の独自の抽象作品が目され、モダンアート展では、鉄材による広井力や、流政之の前衛的な仕事清新であつた。次に今年第一回を開いた毎日新聞社主催の現代日本美術展ではジャーナリスト的な人選に問題があつたが、選抜された各作家は夫々相当の力作を示し、佐藤忠良の質実な「はだか」が彫塑における唯一の佳作賞に挙げられ、向井吉「切りぬかれた根」、植木茂「作品(木彫)」、昆野恒「踊」などの抽象作は今日のこの傾向を代表する佳作であつた。彫塑家クラブの第二回日本彫塑展は四月下旬より五月初旬にかけて一カ月余の長期間、前期と後期に分つて展覧会を開き、今年より前期

展では各作家(会員二七名)が数点ずつの合同個展の形式を採り、後期展と共に旺盛な製作意欲と精進の跡をみせたが、特にとりあげて問題とする作品はなかつたようである。新樹会展では山本豊市、清水多嘉示、木内克らヴェテラン級の充実した展覧であつたが前年に比し甲乙なかつた。秋を迎えて第一陣の二科・行動・院展では、前二者が前年にも増し殆んど非具象的となり前衛彫塑への活潑な挑戦が試みられたに反し、院展では、ここ数年の例により石井鶴三ばかりが濃厚であつた。二科展では、笠置季男「地上の形態」、乗松巖「ひと」、番匠宇司「作品」、野口嘉光「作品」、加藤久夫「二人」、村岡三郎「S.P.」、行動美術展では、半具象の野崎一良「黒い女」、抽象の向井良吉「プラスチックのオブジェ」、中島快彦「孤独」が夫々注目された。院展では木彫の平栴田中「習作不動」の久しぶりの出陳があつたが、近來この会伝統の木彫畠が全く不振となつたのは淋しい。他に辻普堂「詩人」が稀らしく新傾向で異彩を放ち、石井鶴三「女顔」、大内青圃「日光月光菩薩像」、山本豊市「座女」、千野茂「立像」などが夫々の持味を出して注目された。次の新制作展では、昨年に続き半具象の仕事をしている山内壮夫「三人」や現代美術展の受賞作にも優る佐藤忠良「若い女」、その他菊池一雄「横たわる」、山本常一「フクロ」、新会員の菅原安男「青年」などがとりあげられた。二紀会展では、長野隆業の独自の抽象作、菅沼五郎「裸婦」、自由美術展では木内岬「立像」、昆野恒「生長の形態」などが佳作とされた。最後に日展では、相変らず写実的な傾向が大半を占め、全般的に前年と大差なかつたが、いくらか新しい傾向も出て来たようである。この第三科では、他ではみられない木彫家達の充実した活躍がみられ、橋本朝秀「華敵」の力作をはじめ、沢田晴広「母神」、後藤清一「笛の声」、後藤良の彫影、特選の橋本高昇「緑蔭」など代表的な佳作であり、塑造では吉田三郎「波」、清水多嘉示「F子」、加藤顕清「女」、山本稚彦「手をあげた裸像」、大内青圃「光明女像」、瀬戸団治「静立」、山本豊市「女の首」、野々村一男「島嶼」、古賀忠雄「漁夫三態」、水船六洲「立つている人」、宮本光庸「ながれ」など各作家の持味を活かした佳作として注目された。

以上定例の美術団体展に於ける概観であるが、この年は個展並びにグル

ープ展も漸く頻繁に行われるようになり、阿井正典個展、岡本庄三個展、昆野恒塑造展、篠井欽治個展など戦後の人々の活潑な発表展や喜多武四郎個展、山本常一鳥の彫刻展、或は大須賀力、黒田嘉治二人展、河内山賢祐個展など連年開催の個展として注目せられ、又白木屋企画の第一線級彫塑家約一〇名を集めた第二回白樹会展、現在彫塑のみの唯一の公募展である第二回創型会展や能彫会展、日本陶彫会展、野外彫刻展など盛況であつた。

更に今年には現存老大家の回顧展として春に石井鶴三彫刻展、秋に朝倉文夫回顧展が行われ、特に後者は明治末期以来五〇年間の製作精進の集大成であり、内容外観共に充実した展観であつた。又、昭和初頭商業彫塑の先駆をなしマネキン人形やパールのデザインなどに独自の才能を発揮した構造社会員荻島安二の遺作展は中央公論社画廊に於いての小展覧乍ら興味深く回顧された。この他、外国作家の展覧会として春にオシップ・ザツキン展、秋にフランス美術展に於ける古典彫塑の陳列があり、各々我国彫塑界にもよい参考となり新しい刺激を与えたといえる。尚展覧会以外の作品としては、一〇月東京駅八重洲口新館の中央口壁面にとりつけられた抽象彫刻—いろいろな型の木彫を鉄の棒でつないだもの—(デザイン・猪熊弦一郎、原型製作・新制作彫刻部)や俳優座小劇場の入口正面にとりつけられた土方久功作「ギリシャ古喜劇に出てくる奴隷の群像」のピニクロン・ゲル材のレリーフなど公共の場に於ける彫塑の新しい試みとして話題となつた。

工藝・工業デザイン

欧米工藝の動きは、日本工藝界に絶えず大きな影響を与えてきたが、最近には特に、抽象的傾向が多くなつてきている。また、欧米の建築界に日本建築の構造や意匠が盛んにとり入れられ、それに伴つて家具や工藝品にも日本的な色彩が強く、ジャポニカ調の名称まで生れているという状態であるが、それをそのまま日本へ逆輸入している傾向がみられるのも近頃の特徴といえよう。

年内の主な出来事をあげてゆくと、六月にはワルター・グロピウスの来日を機会として国立近代美術館で「グロピウスとパウハウス展」が開催された。写真、模型、その他家具、実験作品等によつてパウハウス運動を紹介する展覧会であつたが、藝術と技術の総合を目指して、近代建築工芸の樹立に幅の広い運動を行つたグロピウスとパウハウスの活動を再認識するの役に立つた。

八月には東京高輪プリンスホテルで、ユネスコ主催の第二回美術工芸教育国際研究会議が英米仏オランダ、東南アジア諸国等多数の国が参加して行われた。この会議の第一回は英国プリンスホテルで開催され、美術教育を中心の議題とした。今度はその第二回で主として工芸教育を主点に討議が行われ、我が国からは森口多里、前田泰次等が出席した。

なお、八月からミラノで開催の第一〇回トリエンナーレ展へ参加出品の招待が外務省へとどいたが、予算不足の経済的理由等で不参加に終る結果となつた。トリエンナーレ展は現代建築、室内装飾、工藝及び工業デザインの三部門からなる国際展覧会で、日本へは庭園を配した数寄屋風の建築と、別に産業工芸品を含むモデル・ルームを希望してきたものであつた。国際文化交流や海外展に際しての用意の足りなさがヴェニススの日本館放棄とともに問題となつた。

恒例の日展では相変わらず装飾意匠をこらし技巧を見せた作品が多かつた。中でも中堅層や若い世代の作家のうちには抽象的な傾向が浸透して来たのが目立つたが、それらの中には新しい流行を追うことのみで終始した作品も少なくなかつた。経済的或いは機械的な制肘をうける工業、商業デザインの世界と異り、これらの美術工芸品こそ一品製作の自由性を生かして、伝統技術と材料独自の特性を發揮した自由な仕事に期待されている。しかし技巧偏重、装飾過多、現代的造型感覚とのずれ等の空気が一般に強いことが指摘された。それらの作品の中では各務敏三「花瓶」、松崎福三郎「斜線文青銅花瓶」、内藤春治「青銅花瓶」、高村豊周「青銅花入」、飯塚小玢「竹小屏風」、芳武茂介「広間の花器」、高橋節郎「漆額、踊り」、滝一夫「春」等が評判に上つた。

この他の催しとしては淡島雅吉ガラス個展(五月)、第二回生活工芸展(六月)、第五回新工人展(六月)、加藤達美陶器個展(八月)、第三回創作工芸展(九月)、高村豊周個展(十一月)、高村豊周の門下生により新に結成された「対象」同人の第一回鑄金工芸展(十一月)等の個展、グループ展が目ざされた。

これ以外に、先年来しばしば来日して意欲的な発表を行つているイサム・ノグチの、紙と竹と鉄の彫刻といわれる、あかり展(八月)、備前焼を主とした米人J・B・ブランク作陶展(八月)、バーナード・リーチ滞日作品展(十一月)等の作品もまた伝統美に対する外人の態度がうかがわれて異色のものであつた。

一方専門工芸家とは別に、裕伊之助、木下義謙、木内克、堂本印象、宇治山哲平等の画家、彫刻家が工芸作品を個展やその他の展覧会に発表するのが目立つた。

外国美術工芸の紹介としては一〇月東京国立博物館で開かれたルーヴルの所蔵品を中心としたフランス美術展に一七世紀の豪華なゴブラン織や数多くの陶器、モデル・ルームによる一八世紀宮廷工芸の陳列等があり、日本に少い外国工芸の作品に接することが出来た。鎌倉の神奈川県立近代美術館で開かれた西洋陶磁器展(六月)もギリシヤから現代のピカソの飾皿に至る作品を集めて希観の展覧会となつた。

また今年にはデザイン・ブームといわれたほど、デザインについて世間一般の関心が高まり、室内家具、器具機械の所謂インダストリアル・デザインが活潑な動きを見せて来たのは注意されてよい。展示作品では新制作協会展(九月)建築部における剣持勇、猪熊弦一郎、山口文象、新庄晃の家具諸作、モダン・リビング展(九月)のユニット家具、産業工芸試験所がその研究成果を公開した技術とデザイン展(三月)、工芸技術展(十一月)、或いは第二回全国試験所作品展(十一月)等の工業製品と雑貨工芸などに活動状況の一端が示され、今後の発展が期待されている。小杉二郎工業デザイン製品展(一〇月)は図面や模型によらず、すでに製品化された作品のみによるデザイン展として我が国でははじめての試みであつた。

建築

戦後やがて一〇年に垂んとする本年あたり、東京をはじめ大都市の戦災復興は、漸く軌道に乗つて来た感が深い。まず諸市の県庁、市庁舎、あるいは学校、公民館、図書館、病院などが逐次建設され、また東京、大阪をはじめ大都市にはホテル、百貨店、銀行、劇場、事務所建築等が続々と建てられた。そして全般的に、商業主義的な傾向から向上して、近代工業生産による新しい材料を駆使した軸組構造の軽快な様式が完成されようとしていることは注目される。さらに、建築家が開放的な建築空間を表現するゆとりを見出して来たことは、大きな進歩といえよう。

住宅問題は、今日なお深刻な状態にあるが、官公私の集合住宅がわずかながら進められて居り、また住宅金融公庫の補助による小住宅も引き続き行われている。しかし、これらは現実的な必要量の何分の一にもあたらない状態である。ただ、アパートメント建築も次第に改善され、大阪古市市営アパートメントのような新感覚を盛つた公営アパートメントがあらわれて来たことは喜ばしい。小住宅に於ても、鉄材を使用するもの或いはコアを設けたものなど新しい工夫が見られる。

なお本年中の大きなトピックとしては、パウハウスの創立者でわが近代建築に大きな影響を与えたグロピウス博士が来朝し、国立近代美術館でその業績を示す展示会が催され、また紐育近代美術館内にわが書院造りの日本建築(設計吉村順三、考証関野克)が建てられ、ブラジルの四百年記念祭博覧会々場に日本館(堀口捨巳設計)が建設されるなど、わが建築の海外進出が目立つた。さらに、サンパウロの第二回ビエンナーレ国際建築展に出品した早稲田大学建築科学生の協同作品が最高賞を受けたことも併せて記しておく。また建設予定の国立国会図書館の懸賞募集に際し、建築家側から建築家の権益を主張する強い抗議が提出されて紛糾したが、大体建築家側の主張が容れられ、応募作品の中から田中誠、大高正人ほか MID グループの協同設計が一等に入選した。

次に本年度注目される建築を列記する。

- 神奈川県立図書館及び音楽ホール 設 計 前川国男設計事務所
- 愛媛県民館 設 計 横山構造設計事務所
- 城東郵便局 設 計 丹下健三計画研究室
- 中央郵政研修所 設 計 郵政省建築部設計課
- 国立科学博物館理工学館 設 計 谷口吉郎
- 東洋英和女学院小学部校舎 設 計 大江宏研究室
- 鉄道会館 設 計 国鉄東京工事事務所
- 丸栄百貨店 設 計 村野、森建築事務所
- 東急会館 設 計 坂倉建築事務所
- 東京瓦斯ビルディング 設 計 三菱地所株式会社
- 関東通信病院 設 計 日本電信電話公社建築部
- 大阪厚生年金病院 設 計 山田守
- 俳優座劇場 設 計 山脇巖、高橋正年
- 丸の内日活劇場 設 計 竹中工務店
- 図書印刷株式会社原町工場 設 計 丹下健三
- 安川電機製作所 設 計 レイモンド建築事務所
- 橘さんのすまい 設 計 広瀬謙二
- コアのあるH氏の住い 設 計 増沢洵
- 数学者の家 設 計 清家清
- 久我山の家 設 計 篠原一男
- 住宅 No. 30 設 計 池辺研究室

古美術

建築

昭和二九年度における古建築の保存修理については、定期的の国宝・重要文化財の指定のほか、法隆寺の二〇年にわたる修理工事が一応の完結をみ、その金堂の落慶式が一月三日に行われたのが最も大きな事件である。金堂自身の修理だけで、その間に壁画や初層部材の焼損といういたましいアクシデントが介在しつつ、一〇年の歳月を費してしまつた。しかもこの根本的な修理によつても金堂の創建年代を明快に指示する資料は発見されずに問題を後日にのこすのみならず、金堂大棟の両棟に鴉尾をあげることの論議がふつとあり、遂に暫定措置として鬼瓦をあげることによつて今後の問題をのこすことになつた。京都の大報恩寺の本堂(千本釈迦堂)の修理も完成し、鎌倉初期の代表的遺構が旧形に復原された姿となつたことも注目すべきものである。

建築遺跡の発掘調査もこの年は活気を呈した。一月には平城宮遺跡調査会の手によつて平城宮朝堂院跡北方の拡張道路の地域で発掘調査が行われ、多数の掘立柱穴や溝石や古瓦などが発見され、廻廊のような東西に長くつらなつた奈良時代の建築跡の存在をたしかめた。二月から七月にかけて、奈良市の奈良高校校庭の遺跡が発掘調査され、数棟の掘立柱の建物跡と二つの井戸が検出された。また大阪城南方の市営住宅の地域では、聖武天皇時代の難波宮という想定のもとに、地下二米もある深層に散布する古瓦などを追つて困難な発掘作業が大阪市立大学の山根徳太郎らの手によつて続行された。七月から九月にかけて、大岡表らによつて、大安寺の南大門と宿直屋と中門およびその左右の廻廊の発掘調査、薬師寺の南大門と中門の発掘調査が行われ、多くの新事実が見出された。一〇月には藤島亥治郎らによつて平泉の観自在王院の発掘調査が行われ、大阿弥陀堂・小阿弥陀堂その他二堂塔の跡、広い池とその中島、玉石を敷きつめた洲浜、巨岩

を組合せて作つた滝のあとなどが検出され、藤原時代の建築・庭園史に寄与するところが大きかつた。なお発掘調査等の報告書としては「登呂本編」「法隆寺五重塔秘宝の調査」「埋蔵文化財発掘調査報告第三、無量光院跡」などがある。

研究論著としては村田治郎・近藤豊の「法隆寺建築文献目録」が上梓された。内容の要目をかかっている点で至便であり、今後の利用価値が大きからう。ただ多少の採集もれが見出されるのは惜しまれる。浅野清の僧房平面の研究(「仏教藝術」二三号)、藤岡通夫の近世内裏などの継続研究、森蘊の「修学院離宮の復原的研究」など注目すべきであろう。

日本建築史研究の創始者の一人伊東忠太がこの年四月に高齢をもつて逝去されたことは学界の大きな損失であつた。

彫塑

昭和二九年度の彫刻史研究をみわたして、まず四つほどの大きな成果があつたことが挙げられよう。その一は、小林剛「仏師運慶の研究」と毛利久「快慶の研究」が単行本として発表され、両者、いずれも、運慶快慶についての根本資料、作品等を網羅し、最も厳格な態度で、鎌倉初期の両巨匠を浮彫にしようと試みている点では、全く共通している。あまりに資料的なために、作品論や、様式論といった点については、不満な点もあろうが、まず、かかる整理が行われることが、最も望ましい今日、両書は、よくその使命を果し得たものと思われる。その二、従来あまり関心を持たれなかつた、地方に散在する彫刻の研究ないしは紹介が盛になつたことは、最近の著しい現象として注目に値する。これは、国史の方で、地方史研究の盛んなことと平行してをり、地方での文化財研究への関心を示すものとして喜ばしい。今その主なものをあげれば、中村秀男「羽黒山伝来の阿弥陀仏」(羽陽文化二二)篠崎四郎「下総常世田薬師像について」(史迹と美術二四〇)野村英一「真言宗多田寺の仏像群について」(福井県文化財調査報告四)太田古朴「常善寺阿弥陀三尊像」(史迹と美術二四八)浅田芳郎「播磨国法恩寺の仏像と石造美術」(史迹と美術二四四)久野健「仏谷寺の仏像」(国華七四九)

小川光暘「正花寺聖観音像」(文化史学四)等、枚挙にいとまがないほどである。こうした、地方に散在する彫刻の研究が、地方史の重要な資料になることは、疑えないし、中央の彫刻史を研究する上にも、重要な暗示を与えるものとして、今後とも期待されるところが多い。しかし、あまりに地方に拘泥しすぎ、中央との関係を顧みない傾向を伴いやすい点は心すべきであらう。

その三は、金銅像研究の成果がいろいろ発表された。まず法隆寺釈迦三尊像の統篇として、田沢坦、沢柳大五郎、久野健、坂本万七編の「法隆寺宝蔵小金銅仏像」が出版され、極めて細部まで撮影した写真をはじめ、法量、文献、記述等客観的データを網羅している点で、今後の研究の資料として、注目される。この他、大阪大学と大阪市立美術館との提携によるベータートンによる金銅像の研究が、今村龍一「金銅仏のベータートンによる研究について」(大和文化研究七)に発表され、東京国立文化財研究所を中心に行われているガンマー線による金銅像の研究が、登石健三、千沢植治、久野健等により発表され、また鑄造技法についての新説が、本間正義等により発表されている。これらも今後の金銅仏研究の新方向を指示するものとして重要であらう。

その四は、東洋彫刻史の研究であるが、京大人文科学研究所の水野清一、長広敏雄による「雲岡石窟」は一、二巻の発行をみ、力強い歩みをみせている他、水野清一は、従来の知見の集大成する北魏石仏の系譜等を発表している。中国彫刻史では、この他、松原三郎が、「北魏鄭州地方石彫に就いて」(国華七五三)「北魏の道教像」(仏教藝術二二)等を発表、新分野を開きつつあり、西域、インド、近東の彫刻史の研究としては、熊谷宣夫「西域出土塑造頭部」(美術研究一七七)山本智教「ガンダーラ派の仏教浮彫の手法」(印度学仏教学研究三ノ一)高田修「宝冠仏の像について」(仏教藝術二二)深井晋司「シャミー神殿出土の青銅貴人像とパルティアの美術」(美術史一二)等があつて大陸に対する視野を拡げた。

更に附け加えておきたいのは、昭和二九年には、いろいろの話題をなげた薬師寺の月光菩薩の修理が完成し、西村秀雄「薬師寺月光菩薩の修理に

ついて」(美術史一三)石井鶴三「月光菩薩再建」(藝術新潮五ノ六)等によつて、その修理関係の記事や、像の金属の分析結果等が発表され、今後役に立つこと多く、また田村吉永が独自の立場で薬師論を展開したことも申添えたい。

新発見の事実としては、二九年二月清涼寺釈迦像の背部の内刳に納入された文書、経典、版画、染織品、古泉、金工品、玉製品等多数が確認された。仏像胎内の納入品がかやりに多くの種類、多くの技法、多くの史料を含むことは、東洋中世の造像史に汎い知見を提供する希有にして重要な発見と云うべきであらう。彫刻に限らず書蹟、絵画、工藝の詳細については塚本善隆を中心に研究班が組織され、調査の上報告されるはずで期待されることである。

展観に関しては、多くデパート等の会場で古社寺展が行われたが、最も学界に資したのものとしては、奈良国立博物館で行われた平安初期展に多くの貞観仏が出陳せられたことであらう。同時代唯一の胎内年記銘ある黒石寺薬師如来像もその一つであつたことを附記したい。

絵画

昭和二九年中に行われた諸展観のうち、日本絵画史に関して最も重要であつたと思われるのは、三井寺秘宝展(東京高島屋、二月)と平家納経特別展(東京国立博物館、四月)とである。前者において、日本仏画のうち字義通りの秘仏として最後まで残されていた黄不動像が、五部心観とともに一挙に公開されたことは、デパート展の文化財動員力を最高度に示したものである。また後者は、平家納経の新旧国宝指定を機に行われたもので、昭和一五年以来の全巻陳列として、この荘嚴絳の性格について改めて考えさせるところが多かつた。ただ、これらの意義深い展観が必ずしもそれに応ずる学術的成果を伴っていないことは、関係者の考慮すべき問題であらう。このほか、一年にわたるアメリカ巡回展から無事帰還した古美術品、殊にその中心をなす絵画の名作が、短期間ではあるが東京国立博物館に特別陳列され(三月)、國民にも眼福を分つた。また平安初期展(奈良国立博

物館、四―五月)、室町美術展(東京白木屋、五月)、鎌倉時代美術展(東京白木屋、一〇月)などにはそれぞれの時代の絵画遺品に見るべき出品があつた。なお本年開設された藤田美術館(大阪)は春秋二回(五月、十一月)同家蒐集品の一部を展覧したが、これ迄未公開の名品が少くなく、絵画関係では華厳五十五所絵巻、紫式部日記絵巻が完好の保存状態と相俟つて特に注目をひいた。

保存関係では、懸案の平等院鳳凰堂壁面画の模写が八月から開始された。菊池契月指導のもとに九人の日本画家がこれに当り、まず仏後壁前面画および両側壁画の板壁絵三面について忠実な現状模写がつけられ、次年度には扉絵におよぶ筈である。またこれと平行して建築装飾文様の現状ならびに復原模写が小場恒吉によつて着手された。これらは続いて行わるべき原色写真版の製作とともに、鳳凰堂修理の重要な附帯事業であり、後代への貴重な記録とならう。

研究調査の主なものとしては、東京国立文化財研究所を中心とする鳳凰堂の総合研究班により前記壁面画の詳細な調査と撮影が続けられている。また法隆寺金堂の修理落成を前にしてその三箇の天蓋が一旦廻廊内に吊おろされた機会に、同じく東京国立文化財研究所の光学研究班によつて調査撮影が行われたことも見逃し得ない。特に重要な中天蓋、西天蓋の装飾文様が各種の撮影法で記録されたこと、従来平子鐸嶺の模写によつてのみ知られてきた西天蓋の天人図落書の赤外線写真が撮影されたこと、更に中天蓋にも動物などの落書が発見されたことなどは、今後の研究に寄与するところ大きい。一方同研究所の高田修らによつて教王護国寺宝蔵から三つの彩色両界大曼荼羅が発見されたことは、本年の大きな収穫である(一〇月)。この三曼荼羅は現在までの調査で、正系現図曼荼羅の第二転本(建久本)、第三転本(永仁本)および恐らくは寛恵施入の真言院用曼荼羅に比定されており、図像学上からも絵画史上からも基準的な資料である。

研究発表もかなり活潑で、基礎資料の実証的な研究とともに、新しい観点から絵画史を体系づけようとする動きが感ぜられてきた。まず上村六郎、龜田孜、北村大通、木村康一、山崎一雄により昭和二五年以来つづけ

られていた正倉院密陀絵の科学的な調査の報告が発表され(書陵部紀要四号)、密陀絵をめぐる多年の論議に一つの実証的な解答が与えられた。上代絵画に関しては梅津次郎の二論文「やまと絵」(世界美術全集第一五巻)、「鎌倉時代大和絵肖像画の系譜」(佛教藝術第二三三号)が新しい展望を含んだ概説として注目される。また秋山光和(絵画)、山崎一雄・中山秀太郎(顔料)、鈴木敬三(風俗)、中村義雄(詞)による源氏物語絵巻の精密な検討(美術研究第一七四号)は、鈴木敬三の別稿(国華七四二・三・五・七号)とともに、今後の研究への確実な基礎づけを与えた。

中世絵画については谷信一が数篇の概説(墨画から濃絵へ)「ミューゼウム三四号」、「水墨画」世界美術全集第一五巻、「美術文化」新日本史大系中世社会)で様式展開の底に迫ろうとしたほか、美術史的な問題を含む新資料の紹介も少くなかつた。中でも田中一松による文清・文成画(美術史一一号)、松下隆章による蔵三画(美術史一一号)および良全画(同一二五号)、梅津次郎による土佐光信の墨画(国華七四三号)、持丸一夫(遺稿)による浜松図屏風(美術研究一七七号)などが特記される。近世絵画は対象の広範さに比して本格的な研究は乏しく、僅かに山根有三による土佐光吉の伝記とその源氏絵屏風の紹介(国華七四九・五〇号)、西村貞による初期洋画の聖母図および王族騎馬図の整理(国華七四六・四七・五一・五二号)があげられるにすぎない。

中国画関係の展覧のうち注目すべきものは、八月日本橋三越で開かれた阿部コレクション展と九月東京国立博物館で行われた趙之謙歿後七十年展とである。前者は、大阪市立美術館所蔵の故阿部房次郎寄贈中国画一六〇点から七〇余点を選び、この蒐集の精神をはじめて東京で公開したものの。後者は、戦災を免れた作品の大多数を集め得て、この清朝画の棹尾を飾る個性をあらためて認識させた。

京都大学人文科学研究所は、その東方部の前身たる東方文化学院京都研究所の創立より数えて二五周年を迎え、和歐二冊の記念論文集を刊行した。その中に内外学者の美術に関する論文数篇がある。さきに「慶陵」上下二大冊を公にした田村実造・小林行雄は、その研究に対し朝日文化賞、更

に日本学士院恩賜賞を受けた。この書の多数の精緻な図版と周密な記述とは、東亜絵画史研究上の不可欠の資料として役立つであらう。

雑誌論文中注目すべきは、高田修「五部心観の研究」その記入梵語に基づく考察―(美術研究一七三)である。園城寺円満院蔵の五部心観二本について、かつて田中一松は、様式上の見地より伝承を覆し、完本の方を請求本としたが、この論文は記入梵語の精密な比較検討によつて、右の鑑識を立証した。住友寛一の自家所蔵品の図録は、識者の注意を惹いているが、その第三集として、石谿・石濤・漸江を収めた「明末三和尚」が出版された。

この年度の発見資料として清涼寺釈迦像胎内納入の版画中には「待詔高文進」「甲申歲雕印」銘のものがあつて、北宋初期の絵画資料としての重要性は看過し得ない。

中国以外の大陸関係としては、松本栄一の「高麗時代の五百羅漢図」(美術研究一七五)が従前見逃された朝鮮画の最も年代古い作品への着目であり、熊谷宣夫の「大谷ミッシェン将来の壁画二断片」(美術史一〇)「ベゼクリク第八洞壁画」(美術研究一七八)は大谷コレクションの原所在地を明白ならしめている。

書 蹟

国宝、重文指定の数多く、書蹟資料の全集形式による出版が、競争的に河出書房、平凡社等によつて行われることは、注目に値する情勢であるが、研究面は必しも新生面を開くと云いがたい。中にあつて伊東卓治「石山寺紙背文書」(美術研究一七六)の焦点である比較的早期の草仮名の検討は、清涼寺釈迦像胎内の仮名書の発見と相俟つて仮名成立の問題に寄与すべき研究方向を示している。

工 藝

工藝全般に関するものとしては、「加賀百万石名宝美術工藝展」(日本橋三越八月)と「正倉院展」(奈良国立博物館十一月)の二つが注目された。前者に於ては船載錦繡類がこの種のものとしては質量ともに最高の収集であ

り、又、「百工比照」はわが国各地の工藝技術に関する標本の集成で、共に従来公開されずその一見を工藝家達が渴望していたものだけに益するところが多かつた。これらは物の性質上、特に展観されただけでは充分に観察し得ないので、これを機会に今後研究の便も与えられることを望みたい。後者は例年開催されているもので、今年も仏器、仏具を主とした特殊なテーマであつたが、かえつて工藝の意匠、技術について深く味う機会が得られたようである。

陶磁関係では種々展覧が催されたが春の「中国古陶展」(京都国立博物館四月)は京阪神を中心とし東京の名作も集めたもので、中国陶磁の流が容易に展望し得たし、「古九谷展」(日本橋三越四月)は古九谷について従来問題が多いだけに一堂に集められたことは鑑賞の面のみでなく、比較研究の好機を与えた。秋には「遼代の陶器展」(奈良国立博物館一〇月)「明器泥象展」(大阪市立美術館一月)が注目すべきものであり、又「唐津展」(東京美術倶楽部一月)も愛陶家を喜ばした。

出版物には「安南古陶図録」(奥田誠一、座右宝刊行会)があり、従来安南焼の全貌を示した図書が日本やフランスでも極めて少なかつただけに意義深いものであり、又「鍋島藩窯の研究」(鍋島藩窯調査委員会編、平安堂)は窯趾の発掘調査を中心としているが、組織経営、科学的観察にも及んでいて、鍋島焼研究の一応大成されたものといえる。其他、「日本の陶磁」「東洋古陶磁」など古陶磁関係の出版は多くなりつつある。

漆工関係では宮内庁の委嘱による正倉院漆塗の調査研究が漆工専門家を中心として、昨年より行われていたが、漆皮の構造、技法などについて成果が見られるに至つたと聞いていたが、又吉野富雄氏などによる春日神社御神宝の調査研究と共に国宝調査に際して和琴箱、洲浜形など新しい資料の発見されたことは注目すべきである。

秋東京国立博物館に開かれた堆朱特別展も渋いものではあつたが、堆朱の全貌が捉えられ、又珍らしく専門家やそれ以外の人々にも関心をもたれた。

金工関係に於ては「唐銀器並に宋磁展」(白鶴美術館九月)は唐銀器が世界

に誇り得るコレクションではあり、まとめて公開されたことは初めてなので喜ばれた。

金工のみに関係したのではないが、二四年一〇月行われた法隆寺五重塔舍利容器調査の結果が「法隆寺五重塔の秘宝調査」として発行された。内容は、調査の計画、経過、納置穴と舍利納置の状態、舍利容器、納置品及び大正一五年の秘宝調査、秘宝再納置に対する保存上の処置など、多数の図版を入れ、詳細に解いてあり、後記に、舍利藏置の方式、金、銀容器、納置の禽獣葡萄鏡の年代などに触れており、工藝、建築其他広く学界を裨益するとともに、多大の注目をひくものである。

其他染織工藝に於ては、はじめに挙げた「加賀百万石名宝美術工藝展」や一、二の展観の見るべきものがあり、又古い技術の研究などが次第に行われるようになった。更に特記を要するのは、清涼寺釈迦像胎内納入の染織品の発見で、種々の織物で仏像の内臓をつくり、その数百種を超えることは、中国宋代の染織に多大の資料を齎らしたものである。なお納入されたその他の工藝品も年代明確な重要資料であることは申添えるまでもない。なお特殊なもので、東京国立博物館で行われた古玉の特別展観（九、一〇月）は中国古代文化の一端を知るに有意義なものであった。

昭和二九年美術界年史

一月

○毎日美術賞決定 第五回毎日美術賞は

左の如く坂本繁二郎、山本豊市と決定
一一日発表された。毎日美術賞の選考は特定の審査委員会を設けず、日本画、油絵、彫刻三部門別に、作家、評論家文化人からのアンケートによる優秀作品を基に、更に作家、評論家の専門的意見を聴取した結果、本社（東京、大阪）合同委員会で討議決定する方法をとっている。

油絵

坂本繁二郎 「水より上る馬」(第二回日本国際美術展出品)

彫刻

山本 豊市 「頭像」(第三八回日本美術院展出品)及び「エチュード」(第七回新樹会展出品)

(以上賞金各一〇万円)

特別賞

荻須 高德 歐洲画壇に於ける活躍と日本美術界への貢献

(賞金五万円)

○平城宮跡発掘 前年秋日米行政協定による道路の改修工事中、東院跡と推定

される附近から掘立柱跡や溝跡のよう
なものが発見されたことにもとづき、
文化財保護委員会では新年早々に「平
城宮遺跡発掘調査会」を設け、十二日
から二週間、特別史跡に指定されてい
る同宮跡の発掘を行った。その結果、
朝堂院跡の北方で、東西桁行一八〇
米、南北梁間八米程の廻廊のような建
物跡が確認され、予備調査としての成
果をおさめた。

○朝日文化賞授賞 昭和二八年度朝日賞

贈呈式が一六日朝日新聞社で行われ
た。朝日賞は京都大学文学部教授田村
実造及同講師小林行雄共著「慶應」に對
し、同文化賞は辻善之助著「日本仏教
史」その他に對し贈られた。

二月

○三井寺秘宝展 二日から一四日まで、

朝日新聞社の主催により、日本橋高島
屋で開催、私仏黄不動の初公開をはじめ
め、同じく私仏智証大師座像、五部心
観等の国宝その他約一〇〇点が出品さ
れた。

○浅草寺二天門修復 前年春以来改修工

事を行っていた浅草寺東側の二天門の
修理が終つた。もと隨身門として作ら

れ、両脇に神像があつたが明治初年神
仏混淆を禁じられてから多聞天持國天
が安置されていた。戦前修理の予定で
二天を他に移し罹災したが、この門は
災害を免れたもので、重要文化財に指
定されている。

○長谷川路可、チヴィタヴェッキアの修

道院壁画完成 長谷川路可はイタリー
ローマ郊外チヴィタヴェッキアのフラ
ンシスコ修道院で、昭和二六年以来、
壁画「日本二六聖人の制作に従事して
いたが、二月上旬完成した。

○清凉寺釈迦胎内遺物発見 京都嵯峨清

涼寺の本尊釈迦如来の胎内から雅熙二
年八月一八日の年記のある造像寄進者
名簿と共に延暦二三年の写経、承平八
年の仮名書紙片、宋版仏画、染織断片、
五臓六腑の模型などが発見され、同寺
住職塚本善隆を中心に、京博、京大の
専門家が調査を進めている。

○月光菩薩修理成る 奈良薬師寺の月光

菩薩の首の修理が一六日無事終つた。
一年六ヶ月ぶりの復原を祝つて四月二
日開眼供養が行われた。

○辻永古稀記念展開催 この二月で古稀

を迎えた辻永の画業五〇年記念展が一
六日から日本橋高島屋で開かれた。美
校時代の旧作から最近作迄、一五〇余
点が陳列された。

○ザッキン新作展開催 嘗つては二科会

の在外特別会員として同展に作品を出
品したこともあるオシップ・ザッキン
の絵画、彫刻展が二月一六日から京橋

○清水良雄の遺産を東京藝術大学に寄附

一月二九日逝去した洋画家清水良雄の
遺言状により、大田区田園調布の自宅
は東京藝術大学美術部に寄附すること
になった。又文・帝展特選の大作を初
め、主な遺作、画稿等も同大学に保存
されることになった。

○大原美術館泰西名画展開く 世界的コ

レクションとして知られている、大原
美術館の傑作七二点が初めて東京銀座
の松屋で、大原美術館、読売新聞社主
催、文部省後援の下に一九日から三月
一四日迄展覧された。戦後蒐集の作品
をも加えた充実した展覧会であった。

○上村松園賞決定 第四回上村松園賞は

日本美術院同人小倉遊亀に決定し二〇
日発表された。第三八回院展出品の
「〇夫人座像」及び今日迄の業績に對し
授与されたものである。副賞五万円。
選考委員は福田平八郎、小野竹喬、山
口蓬春、山本丘人、上村松園の五名。
授賞式は三月八日東京毎日新聞社貴賓
室で行われた。

○国吉康雄遺作展開催 昭和二八年五月

ニューヨークの自宅で急逝した国吉康
雄の最初の遺作展が国立近代美術館で
開かれた。毎日新聞社との共催で、会
期は二月二〇日から三月二五日止、油

絵、デッサン、リトグラフ七八点を陳列した。

○ヴェニスへのビエンナーレ国際展へ出品の作品決定 第二七回ビエンナーレ国際展への出品作は、二三日国際文化振興会で選考委員会を開いた結果、坂本繁二郎、岡本太郎の作品各々一〇点と決定した。発送に先立ち、三月一二日から一六日迄国立近代美術館で展示会を行った。

○日仏考古学資料の交流 日本と仏国間に考古学資料の交流が計画されていたが、全仏国美術館総長ジョルジュ・サールが来日して最後の打合せを終え、発送の運びとなった。日本から埴輪、銅鐸鏡、劍、玉、土器等三五点、仏国から中央アジアの仏頭一〇個、敦煌の仏画等二二点が送られる。

○東洋文庫に敦煌千仏洞の資料揃う 敦煌千仏洞の膨大な資料の大半は欧州各国の秘蔵するところとなつて容易に展覧の機はないことは極めて遺憾とされてきたが、東洋文庫ではその写しを集める計画を進め、まず英国大英博物館の蔵品をマイクロフィルムに収める交渉がこの程纏つた。引続きパリ国立図書館蔵品の写しをとる交渉をしている。

三月

○速水御舟展開く 産業経済新聞社主催の速水御舟遺作展は三月五日から東京銀座松坂屋で開かれた。出品作品は会

期中二回の掛替を行い総数二〇〇余点に及び会期も延長、二二日迄展覧され、多大の感銘を与えた。

○渡米古美術品帰る 前年米国五都市で展覧され、幾多の反響を呼んだ古美術品が、四日朝横浜入港のG・マックレー号で無事帰着した。国立博物館ではこれを各所蔵家に返還する前に、一二日から二二日まで、全作品九一点の特別展覧を行った。

○藝能選奨美術文部大臣賞決定 映画、文学、美術など、昨年度に於てすぐれた業績をあげたものを文部大臣が顕彰する、藝能選奨の昭和二八年度授賞者が決定、五日発表された。

岩橋 英遠 (第三八回日本美術院展出品作「庭石」に対し)

洋画 中村 琢二 (第一五回一水会展出品作「扇をもつ女」に対し)

工藝 各務 敏三 (第九回日展出品作「クリスタル花器」に対し)

建築 山田 守 (昨年完成の「厚生年金病院」の建築に対し)

他部門略 授賞式は二五日文部大臣室で行われた。

○日米抽象美術展開催 アメリカ・アブ

ストラクト美術家協会と日本アブストラクト・アートクラブ合同の日米抽象美術展が三月七日、ニューヨークのリーパースайд・ミュージアムで開かれた。アメリカ側五〇名五〇余点、日本側九名三〇余点を陳列、日本側出品者は山口長男、山口正城、村井正誠、川口軌外、恩地孝四郎、西田信一、末松正樹、植木茂、長谷川三郎であった。

○恩賜賞、藝術院賞決定 昭和二八年度(第一〇回)恩賜賞、並びに日本藝術院賞が決定し一五日、日本藝術院から発表された。

恩賜賞 沼田 一雅 陶彫界に尽した功績による。

日本藝術院賞 第一部、美術 日本画 金島 桂華 第九回日展出品作「冬田」に対し。

洋画 小糸源太郎 第二回国際美術展出品作「春雪」その他諸作に対し。

彫塑 清水多嘉示 第九回日展出品作「青年像」に対し。

工藝 山崎寛太郎 第九回日展出品作「三曲衝立」に対し。

楕圓部 弥弍 第九回日展出品作花瓶「慶華」に対し。

他部門略

授賞式は五月二〇日日本学士院で天皇陛下御出席の下に行われた。

○国宝・重要文化財等新指定 文化財保護委員会では一九日、国宝第六次、六二件、重要文化財第五次、一三三件、史迹名勝天然記念物一八件、無形文化財一〇件の新指定を発表した。新国宝には園城寺黄不動、厳島神社平家納経等がある。

○執金剛の指返還さる 奈良東大寺の執金剛の右手第三指第四指は明治三二年の国宝指定の時既に行方不明になつていたが、最近東京の某氏から寺に返還された。調査の結果長さ、幅とも適合し土質も本像と同質と確認されたので、一九日の文化財専門審議会で現状変更を決定、復旧することになった。

○東山魁夷、襖絵を完成 ニューヨーク近代美術館中庭に工事中の、吉村順三設計の書院造建築は略々完成に近づいたが、その内部を飾る襖絵その他も、東山魁夷の手で、この程出来上つた。壁貼付、杉戸、襖の三種に亘つて制作、裝飾金具は藝術大学助教内藤四郎の手になった。

○海外に出品する古美術品 東京国立博物館では五月パリのチエルクススキ東洋美術館で開かれるルネ・グルッセ追悼展に動物戯画断簡、北野天神縁起残欠、単履智伝筆芦鶯図の三点を出品することになった。高浅野同館長は家蔵の雪舟筆仿李唐牧牛図を出品する。ま

た七月オランダでロツテルダム市主催のもとに開催されるエラスムス展覧会には栃木県竜江院蔵のエラスムス像が出品され、三ヶ月間公開される。

四月

○平安初期展 奈良国立博物館では春季特別展として四月から五月一八日まで平安初期展を開催した。奈良文化が平安遷都を契機としていかに変化し発展したかを明らかにしようとしたもので特に彫刻の陳列には苦心のあとがみられ、反響も大きかった。

○中国古陶展 京都国立博物館では春の特別展として一〇日から五月末日まで中国古陶展を開催した。中国歴代の名陶約一七〇点を時代別に体系づけて、中国陶史を一望におさめりるようにより展示したものである。

○平家納経特別展 三月国宝に指定された際全巻東京に持参されたのを機に、東京国立博物館では一三日から二五日まで巖島神社蔵平家納経の特別展観を行つた。全巻揃つて展示したのは昭和十五年四月の奈良博物館以来であつた。

○ゴヤのエッチング展 東京国立博物館では同館並びに朝日新聞社主催のもとに四月一六日からゴヤのエッチング展を開催した。作品はすべて、スペイン政府の提供によるものでエッチング一七点を展観した。

○文化財保護条約会議 武力紛争時における文化財保護条約に関する国際会議はユネスコ及びオランダ政府の共催により二一日から五月一二日までハーグの平和宮で開催され、代表顧問として京都国立博物館長神田喜一郎、文化財保護委員会事務局次長岡田孝平が出席した。参加四八ヶ国の熱心な討議の結果、人類の貴重な遺産を戦禍から護る国際条約がはじめて実を結んだ。

○里見勝蔵、小泉清、国画会々員となる 国画会では新に会員として里見勝蔵(元独立美術協会々員)小泉清(元新樹会々員)を推薦した。両氏は国画会第二八回展から出品する。

○宮内庁東西の間の装飾を大観、玉堂、鞆彦に依頼 宮内庁では、同庁三階にある儀式室「表西ノ間」を横山大観、川合玉堂、安田鞆彦の新作で飾ることになつた。作品は横五尺以上の大作で、富士を題材とした大観の作品は既に完成し、鞆彦は「木花咲耶姫」、玉堂は山水を題材に制作の予定。

五月

○有田に陶磁器美術館開館 佐賀県有田に町立陶磁器美術館が出来て、三日開館式を挙げた。古陶磁約一〇〇点の他現代の名作その他資料を展示し、併せて調査研究も行ふ。

○室町美術展 朝日新聞社の主催により八日から二三日まで日本橋白木屋に於

て開催、禅宗を背景とした水墨画、肖像画の他、絵巻、障壁画、書蹟、工藝品、刀剣武器等一〇〇点余が展示された。○恩賜賞授賞 日本学士院では一二日昭和二九年度の恩賜賞及日本学士院賞の授賞式を行つた。本年度の恩賜賞は京都大学教授文学博士田村実造及同講師小林行雄共著「慶應」に対して与えられた。

○第一回現代日本美術展開催 昨年の国際美術展につづく、毎日新聞社主催の現代美術展で、国際美術展を隔年毎の開催ときめたので、本年は海外作家の出品なく、現代日本美術展として一九日から開かれた。

○グロピウス来日 アメリカの建築家でパウハウス運動の創始者として知られているワルター・グロピウスは、国際文化振興会の幹旋で、一九日羽田に到着した。約三ヶ月滞在、その間、作品模型、写真による展覧会、或は講演会等を開くことになつた。

○藤田美術館開館 藤田香雪翁の遺した古美術の大蒐集が、財団法人に寄附され、藤田美術館として発足することとなり二二日開館式をあげた。美術館は大阪市都島区網島町の戦禍を免れた倉庫を中心に建てられ、蔵品三〇点を選び、五日間を限つて開館記念の特別展を行つた。

○日本漆藝会創立 昭和二三年に結成した漆藝大同会は、この程日本漆藝会と改称、漆藝の振興と発展を目指し、再

発足した。会長高野松山以下諸役員も決定、事務所を音丸耕堂方に置いた。○奈良博物館に殺虫室 奈良国立博物館に奥行七尺五寸、間口一〇尺、高八尺五寸の殺虫室ができた。三方をコンクリートで囲み、一方に鉄扉をつけ、隣にモーター二台を備えた機械室がある。古美術品を入れて密閉し、殺虫用ガスを吹込むもの、阪大奥島教授の指導による。

六月

○「グロピウスとパウハウス」展開催 グロピウスの来日を機として、その業績を紹介する展覧会が国立近代美術館で六月一二日から開かれた。建築写真、模型、パウハウスの試作、習作品等が資料的に陳列された。

○鑄金作家団体「対象」結成 東京美術学校出身の蓮田脩吾郎、西大由、染川鉄之助、岸沢武雄、伊藤豊、板坂辰治の六名は、美術学校在学時代の旧師高村豊周の指導により、同人組織の団体「対象」を結成した。

○日本山林美術協会結成 山林の自然美を究め、山林愛護の思想を涵養しようという目的で、鶴田吾郎、富田温一郎、安達真太郎等一名の画家と小原工藝会の有志によつて結成された。展覧会は毎年「緑の週間」を期して開催の予定。

○第一〇回日展審査員、出品依頼者等決

定 日展運営会では、第一〇回日展審査員、日本画一五名、洋画二六名、彫塑一五名、工芸二一名、書一五名、計九二名の他、出品依頼者、無鑑査者四一九名を決定、一九日発表した。

〇国立国会図書館設計図入選者決定 国立国会図書館では千代田区永田町議事堂側に建設する新図書館の設計図を募集していたが、応募作品一二〇余点の中から、内田祥三等の審査によつて左記の者が入選受賞と決つた。

一等(賞金百万円)
前川国男設計事務所の
田中誠、大高正人他
二等(賞金六〇万円)
都市建築事務所
吉川清作他四名合作

〇重要文化財建造物指定 文化財保護委員会では二六日、重要文化財建造物醍醐寺清滝宮本殿など三三件の新指定を公表した。

七月

〇国宝などの移動制限 文化財保護委員会では第一九国会で成立した文化財保護法の改正を機に、国宝重要文化財の公開制限を行うことになり、指定品目を正式決定して五日関係方面に通達した。それによると第一類、現在地よりの移動を制限するもの、国宝三三六件、重文三三三件、第二類、第一類に準ずるもの、国宝二一件、重文九九件、第三類やむをえない場合に限り条件付で出品

を許可するもの、国宝一二三件、重文二四件が指定されている。

〇黒門、博物館に移建 旧因州池田屋敷表門(黒門)が、高松宮邸内から東京国立博物館正門西方に移建を完了した。重要文化財で江戸末期の作、東大の赤門と共に現存の大名屋敷の門として双壁である。その完成を祝つて八日開門式が行われた。

〇黒田清輝遺作展開催 今年黒田清輝の歿後満三〇年に当るので、国立近代美術館では、東京国立文化財研究所と共催で、八日から記念の遺作展を開いた。同研究所蔵の作品を中心に、各地から集めた一五〇点に及ぶ作品並びに資料は、故人の全貌を伝える稀にみる展観であつた。

〇谷口吉郎設計の隅外記念碑完成 文壇一有志の間で計画されていた、森鷗外の記念碑は、このほど、東京工業大学教授谷口吉郎の設計指導によつて落成し、九日の三三回忌に除幕式を行うことになつた。建立地は文京区千駄木町の観瀨楼跡で、碑文は隅外の詩「沙羅の木」の詩、筆は永井荷風。

〇欧米商業美術展開催 商業デザイナーの国際的水準を示す欧米商業美術展が東京都、共同通信社共催で二日から日本橋三越で開かれた。本年はその三回目、欧米の一流作家の作品が集められ、最も新しい傾向を伝えて、我国の作家、或は印刷技術者には特に意義のある貴重な展覧会であつた。

〇奈良朝国宝展 毎日新聞社の主催により、平城宮跡発掘調査記念として、二日から八月八日まで日本橋三越で開催された。初めて寺門を出た薬師寺聖観音以下東大寺の誕生仏、法隆寺夢違観音、興福寺十大弟子、八部衆等諸仏像や工藝品、古文書類、平城宮跡発掘遺物など、奈良の十二古社寺出陳の国宝、重文其他、一三〇点余が出陳された。

八月

〇花巻市に蔵脩館設立 元東大講師多田等観が、チベット滞在一〇年間に蒐集した仏画、経典類を保存する蔵脩館が、花巻市光徳寺境内に完成、五日から公開された。

〇中国絵画展 故阿部房次郎の収集にある中国絵画一六〇点は、戦争中大阪市立美術館に寄贈されたが、今回朝日新聞社の主催により、一〇日から一五日まで日本橋三越に於て東京に於ける初公開を行い七八点を陳列した。

〇鳳凰堂壁面の模写 鳳凰堂壁面の模写が一五日から平等院境内の私設模写室で開始され、二年間継続して行われる。監督指導には菊池契月があたり、担当の画家九人のうち半数は法隆寺壁面の模写に従つたベテランである。尚これと併行して建築装飾文様の模写が小場恒吉の指導で行われる。

〇京都小御所全焼 一六日夜京都御所内の小御所が、花火大会の火のために焼

失した。小御所は紫宸殿の東北にあつて檜皮葺、寝殿造、安政二年に再建されたものである。戦時中長廊下を疎開したのが幸して、他の御殿への類焼は免れた。

〇加賀百万石名宝美術工芸展 加賀の藩主前田家に伝わる名品希宝が、前田育徳会と毎日新聞社の主催により、一七日から二二日まで日本橋三越に於て公開された。古代錦繡類数百種、工藝の標本である「百工比照」、名物の刀剣と装剣具、越中瀬戸の陶器、古九谷器等、前田家歴代の藝術に対する理解によつて保護育成された名工の作品や、振興された領内の工藝の全貌を物語るものとな展観であつた。

〇ユネスコ主催、美術工芸教育国際研究会 東京で開催 今回は東南アジアを中心とした会議で、三〇日から四週間に亘り東京で開かれた。中国、印度、タイ、英、米、仏等一五ヶ国代表が集り、美術教育方法、美術工藝の理解、工藝の発達等の諸問題について、各国の現状を報告、研究討議が行われた。会議での結論は、ユネスコを通じて、各国政府に勧告される。

九月

〇趙之謙歿後七〇年記念特別陳列 清朝末期に、書、画、篆刻の第一人者であつた趙之謙の歿後七〇年を記念して、四日から三〇日まで、東京国立博物館

ではその遺作を特別陳列した。

○文化財保護協定に調印 「武力紛争時に於ける文化財保護条約」案は一九五二年夏、パリで各国専門家により起草され、同年末、ユネスコ総会で成案を決定した。次で本年四月二日から、オランダのヘーグで開かれた総会で審議の上採択され、協定案の署名式が行われた。我国からは岡本オランダ大使、神田京都国立博物館長、岡田文化財保護委員会事務局次長等が出席した。日本側提案の、名勝及天然記念物を保護の対象とする事、奈良、京都を文化財中心地として全面的な特別保護の対象に入れる事、の二項目は否決されたが、九月六日パリのユネスコ本部で、岡本オランダ大使によつて調印した。

○第一回国際造形藝術家会議ヴェニスで開催 創立総会を兼ねた第一回国際造形藝術家会議が二八日から一週間ヴェニスで開かれた。我国からは日本美術家連盟が主体となつてこれに参加したが、費用の都合で、在パリの作家が出席した。代表団は、パリ滞在中の佐藤敬、関口俊吾、建昌寛造にオブザーバーとして柳原義達、向井良吉、更に日本から直接会場に向つた清水多嘉示の六名であった。議題は美術品の関税撤廃、著作権の擁護、その他数多く、清水多嘉示は副議長として活躍した。

○二五菩薩群像彫刻発見 岩手県東磐井郡松川村の二五菩薩堂に、阿弥陀如来座像と歌舞奏楽する群像彫刻のあるこ

とが東北大学教授亀田孜により紹介された。相当破損がひどいが平安時代の阿弥陀二五菩薩来迎像と考えられ、一組の群像としては平泉文化圏初の発見である。

一〇月

○中国明器泥像展 大阪市立美術館では一日から一月一日まで中国古代の美術と題して、中国明器泥像展を開催し、全国から二〇一点が出陳された。

○鎌倉時代美術展 朝日新聞社の主催により一日から二五日まで日本橋白木屋で開催。国宝、重要文化財を含む七〇余点の出品があつた。

○石山寺鐘樓復元 大津市石山寺の重要文化財鐘樓の解体復元工事が昨春以来進められていたが漸く完成、落慶法要を行つた。

○観自在王院跡発掘 藤原基術夫人が建立したと伝えられる観自在王院は、奥州藤原氏の滅亡後び打捨てられていたがそれだけに藤原末期の様式をその儘遺していると考えられていた。この遺跡を東大藤島教授の手で発掘することとなり一日着手、舞鶴池跡を中心に約八〇〇坪の範囲を掘り、多くの成果をあげて三日終了した。

○法隆寺五重塔秘宝調査報告 二四年一月非公開で行われた法隆寺五重塔空

洞下の秘宝舍利容器調査の結果が、金堂落慶式を前に二二日同寺本坊で佐伯

管長立会のもとに発表された。この調査報告書は限定五〇〇部印刷され、また調査当時作られた秘宝のコピーも同時に初公開された。

○文化勲章受領者決定 昭和二十九年、第一三〇回目の文化勲章受領者五名が決定し、二六日発表された。美術関係者では錦木清方がこの榮譽をうけた。尚本年度から文化勲章受領者は文化功勞年金(五〇万円)も授与されることになつた。授賞式は一月三日文化の日に行われた。

○「フランス美術展」開催 東京国立博物館、朝日新聞社共催の「フランス美術展」は、ルーヴル博物館蔵品を中心に、フランス各地の美術館から集められた、中世から近代に至る油絵、素描、水彩、版画、彫刻、工藝品等、約三六〇余点を展示して行われた。東京に於ける会期は一月一日から一月二五日迄で、会場には国立博物館本館二階陳列室があてられた。会場設備、展示法は、すべてフランス側の意向によつた。従来の各陳列室の内部に、更に壁面をつくり、新たな一室を構成、時代の雰囲気を出すことにつとめるなど、かつてない大規模な設備が行われた。フランス美術の古典が、これ程、纏つて紹介されたことも、今迄になく貴重な展覧会であつた。東京展に次で、福岡でも一月一日から二九日迄開催され、いずれも非常な人気を呼び、正倉院展以来の入場者を見た。(尚、昭和三十

年一月には京都で開催、東京展以来の入場者総数は一四二万五〇〇名に及んだ。)

一一月

○毎日出版文化賞決る 第八回を迎えた一九五四年度(昭和二十九年)毎日出版文化賞が一日発表された。美術書関係では西村貞著「民家の庭」(美術出版社)が選ばれた。授賞式は三日東京毎日新聞社で行われたが、西村貞には四日大阪本社で贈呈式を行つた(出版社に賞牌、著者に賞金五万円)。

○昭和二十九年指定の都文化財 東京都教育委員会では二十九年指定の都文化財一件を決定、一月三日附で指定した。

○法隆寺金堂落慶式 二〇年の歳月と八億円の国費を費した法隆寺昭和大修理の完了を祝う金堂の落慶式が三日盛大に行われた。再建金堂の従前との相違点は、(一)裳階板ぶきの形式が横段ぶきとなる、(二)補強材をとり払われる、(三)軒を古い形式に復原、(四)高欄がつまり屋だるみが深くなる、(五)棟の瓦積が低くなり鬼瓦が小形となる、(六)妻飾が簡単となる等の諸点である。

○文化財保護週間設定 今年には文化財保護法が制定されてから五年目に当るので、文化財保護委員会では一月三日の文化の日と、法隆寺の落慶式を記念して、一月一日から七日迄の一週間

を「文化財保護週間」として全国的に行事が行われることになった。なお「文化財保護週間」は、文化財保護思想の普及徹底を期して毎年実施することになった。

○鳥毛立女図屏風羽毛調査 正倉院宝物調査の一環をなす動物類の材質調査が五日正倉院で行われたが、山階鳥類研究所長らにより鳥毛立女図屏風にはられた鳥毛はすべて日本雉、山鳥等の日本産の鳥であることが立証され、奈良文化の所産であることが明かとなった。

○文化功労年金受領者決定 昭和二九年度の文化功労年金受領者は、本年度文化勲章受領者(五名)の他に、五名が決定し、美術関係では平籥田中が選に入った。顕形式並びに年金証書授与式は一八日文部省で行われた。

○国宝・重要文化財等新指定 文化財保護委員会では一九日、国宝第七次、四五件、重要文化財第六次、一三一件、史跡名勝天然記念物等二〇件の指定及び今回新に指定された重要民俗資料六件、記録作成を要する無形資料五件を発表した。尚東京国立博物館ではこの一部を一二月一五日から二五日まで特別陳列した。

一二月

○藝術院新会員決定 日本藝術院では第一、第二、第三部の欠員補充を行う

昭和二九年美術界年史

ため、かねてから一一名の候補につき、書面投票を行っていたが、一七日開票の結果新会員五名を正式決定した。第一部(美術部門)では村野藤吾(建築)、吉田三郎(彫塑)の二名が選ばれた。

○金沢美術工芸短期大学 新制大学に昇格 文部省大学設置審議会は一日の総会で、来年四月から開設を認める大学、学部について審査した結果、金沢美術工芸大学の新設を認め、現金沢美術工芸短期大学が昇格することとなった。

○フランス美術館(仮称)建設敷地決定 問題の旧松方コレクション受入のため、フランス美術館建設敷地は、二四日のフランス美術館設置準備協議会で、上野公園竹の台凌雲院跡に建設することに正式決定した。来年整地に着手、設計はコルビュジェに依頼することになった。

○「会津博士記念東洋美術陳列館」開館 早稲田大学では、同学名誉教授、文学博士会津八一の四千点に及ぶ東洋美術コレクションを学生会館横の新館に収め「会津博士記念東洋美術陳列館」として開館することになった。

〔附 表〕

新指定国宝一覽

国宝目録 第六集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和二十九年三月国宝に指定された物件を収録した。
- 二、この目録に収録した国宝の種別は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古資料、建造物である。
- 三、この目録に収録した国宝は、第六次指定によるもので、なお将来の指定をまつて目録編纂の完璧を期している。

昭和二十九年三月

文化財保護委員会

名	称	員数	所 有 者
紙本墨画漁村夕照図	伝牧谿筆 「道有」の鑑蔵印がある	一幅	東京都港区赤坂青山南町六一一五 財団 根津美術館
紙本墨画煙寺晚鐘図	伝牧谿筆 「道有」の鑑蔵印がある	一幅	同 芝白金猿町六七 品山一清
絹本着色不動明王像(黄不動尊)		一幅	滋賀県大津市園城寺町
紙本着色北野天神縁起		八卷	京都府京都市上京区北野馬喰町
附 紙本墨画同縁起下絵		一卷	北野天満宮
梅樹詩絵箱		一合	
性光調進応永三十三年の銘がある			

絹本着色不動明王像

紫綾金銀泥絵兩界曼荼羅図(高雄曼荼羅)

紙本金地著色風俗図 六曲屏風

絹本着色勸修堂正像
図上に空海作故僧正勸修大徳影讃を墨書する

平家納経

法華経(開結共) 三十卷

分別功德品に平盛国法師功德品に長寛二年平清盛薬王品に平盛信藏王品に長寛二年平重康の奥書がある

阿彌陀経 平清盛の奥書がある

般若心経(紺紙金字)

仁安二年平清盛書写の奥書がある

長寛二年平清盛願文

金銀荘雲竜文銅製経箱

葛壽絵唐櫃 慶長七年福島正則の寄進銘がある

一幅

二幅

一雙

一幅

一具

町同 左京区一乗寺竹内曼殊院

町同 右京区梅ヶ畑高雄神護寺

大阪府大阪市天王寺区上本町六丁目 近畿日本鉄道株式会社(財団) 大和文華館(保管)

和歌山県伊都郡高野町大字高野山 普門院

広島県佐伯郡宮島町 厳島神社

彫刻の部

名	称	員数	所 有 者
木造 五大菩薩坐像(中尊像を除く)		四軀	京都府京都市下京区四ツ塚通大宮西入ル九条町 教王護国寺
木造 梵天坐像		二軀	同 右
木造 帝釈天半跏像(講堂安置)			

木造四天王立像(講堂安置)	四軀	同	右京区御室大内町
木造阿彌陀如来及阿脇侍像(金堂安置)	三軀	同	仁和寺
木造四天王立像(康慶作 所在南円堂)	四軀	奈良県奈良市登大路町	福徳寺
木造天燈鬼立像	二軀	同	右
龍燈鬼像内納入の紙片に建保三年卯月廿六日法橋康慶作とある			

工芸品の部

名	称	員数	所有者
短刀 銘国光		一口	東京都千代田区三番町五番地磯野市郎兵衛
柏木鬼螺鈿鞍		一脊	文京区関口台町二六財団法人永青文庫
太刀 銘備前国長船住左兵衛尉景光作者 進士三郎景政嘉曆二二年己七月日 表に広峯山御劍願主武蔵国秩父郡住大河南左衛門尉云々の寄進銘がある		一口	新宿区下落合二ノ八四一岡野光弘
短刀 銘吉光(名物後藤藤四郎)		一口	同 豊島区目白町四ノ四二財団法人黎明会
太刀 銘来孫太郎作 (花押)正応五〇辰八月十三日以下不明		一口	同
太刀 銘国宗		一口	同
短刀 無銘正宗(名物庖丁正宗)		一口	同
太刀 銘正恒		一口	同
太刀 銘光忠		一口	同
太刀 銘長光(名物遠江長光)		一口	同

新指定国宝一覽(彫刻、工芸品の部)

太刀 銘国行	一口	神奈川県鎌倉市浄明寺八七
線刻釈迦三尊等鏡像	一面	阿部正直 京都府京都市左京区鹿ヶ谷宮ノ前町九九 住友 吉左衛門
宝相華蒔絵宝珠箱 附木製彩繪四天王像	一合	同 右京区御室大内町仁和寺
短刀 朱銘貞宗(名物伏見貞宗) 本阿(花押)	一口	兵庫県芦屋市春日町三四 財団法人 黒川古文化研究所
俱利迦羅龍蒔絵経箱	一合	奈良県北葛城郡当麻村大字当麻 奥院
太刀 銘則国	一口	和歌山県有田郡保田村千田 佐原 毅 廣島県佐伯郡宮島町 廣島神社
一、宝相華文螺鈿平塵飾太刀	一口	
一、双鳳文螺鈿平塵飾太刀鞘	一口	
一、半臂 附 紅地幸菱文綾残片	一枚	
一、內衣	一枚	
一、石帯	一条	
一、平緒	一条	
一、木笏	一握	
一、檜扇	三握	
一、飾太刀	一口	
一、平胡篋	一口	
一、箭	十一隻	
一、朱漆飾太刀箱 大宮 佐伯景弘調進寿永二年三月廿日在銘	一合	

新指定国宝一覽(工藝品、書跡、考古資料の部)

書跡の部	名	称	員数	所	有	者
一、朱漆飾太刀箱 中宮 餽劍箱佐伯景弘調進寿永 二年三月廿日在銘 鐵宝塔(水晶五輪塔共) 建久八年十一月二十二日、造東大寺 大勸進大和尚位南元阿弥陀仏在銘 沢瀉威鏡 兜、大袖付 (金具廻革所欠失) 梵鐘 承和六年、伯耆国金石寺鐘在銘 短刀 銘行光	一合	山口県防府市大字牟礼 阿彌陀寺	一基	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺
	一合	愛媛県越智郡大三島町大字宮 浦	一領	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺
	一合	福岡県早良郡内野村 西光寺	一口	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺
	一合	同 糟屋郡古賀町一二五〇 岡部繁	一口	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺
法華経方便品(竹生島経) 寛永丁卯松花堂昭乘跋	一卷	国(東京国立博物館保管) 東京都目黒区駒場町 財団法人 前田育徳会	一卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺
日本書紀 卷第十一、第十四、 第十七、第二十	四卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	二卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺
漢書 高帝紀下、列伝第四殘卷 紙背金剛界念誦私記	二卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	一卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺
嵯峨天皇宸翰光定戒牒(弘仁十四年) 四月十四日)	一卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	一卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺
伝教大師入唐牒 (明州牒(貞元廿年九月十二日) 台州牒(貞元廿一年二月日))	一卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	一卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	坂本本町 延曆寺

考古資料の部	名	称	員数	所	有	者
法華経序品(竹生島経) 寛永丁卯松花堂昭乘跋	一帖	滋賀県東浅井郡竹生村大字早 崎 宝 殿 寺	一帖	滋賀県東浅井郡竹生村大字早 崎 宝 殿 寺	同	坂本本町 延曆寺
碓石調幽蘭第五	一卷	京都府京都市上京区西賀茂神 光院町 神 光 院	一卷	京都府京都市上京区西賀茂神 光院町 神 光 院	同	坂本本町 延曆寺
東宝記 附目錄 一冊	十二卷	同 下京区四ッ塚 通大宮西入ル九条町 教王護国寺	十二卷	同 下京区四ッ塚 通大宮西入ル九条町 教王護国寺	同	坂本本町 延曆寺
御室相承記	六卷	同 右京区御室大内町 仁和寺	六卷	同 右京区御室大内町 仁和寺	同	坂本本町 延曆寺
後宇多天皇宸翰弘法大師伝(絹本) 正和四年三月廿一日 藤原忠親筆	一幅	同 嵯峨大沢町 大 覚 寺	一幅	同 嵯峨大沢町 大 覚 寺	同	坂本本町 延曆寺
文覚四十五箇条起請文 藤原忠親筆 後白河天皇宸翰御手印御跋	一卷	同 梅ヶ畑高雄町 神 護 寺	一卷	同 梅ヶ畑高雄町 神 護 寺	同	坂本本町 延曆寺
細字金光明最勝王經 一枚 附竹帙	二卷	和歌山県伊都郡高野町字高野 山 龍 光 院	二卷	和歌山県伊都郡高野町字高野 山 龍 光 院	同	坂本本町 延曆寺
紺紙金字(法華経 観音経) (平清盛、頼盛合筆) 七卷 一卷	八卷	広島県佐伯郡宮島町 殿 島 神 社	八卷	広島県佐伯郡宮島町 殿 島 神 社	同	坂本本町 延曆寺
翰苑卷第三十	一卷	福岡県筑紫郡太宰府町大字太 宰府 太宰府天満宮	一卷	福岡県筑紫郡太宰府町大字太 宰府 太宰府天満宮	同	坂本本町 延曆寺
金印 印文「漢委奴国王」 福岡県糟屋郡志賀島村出土	一顆	東京都港区福吉町一番地 黒 田 長 礼	一顆	東京都港区福吉町一番地 黒 田 長 礼	同	坂本本町 延曆寺

建造物の部

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	善水寺本堂	一棟	桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、檜皮葺 附 厨子 一基 一間厨子、入母屋造、こけら葺	善水寺	滋賀県甲賀郡岩根村大字岩根	滋賀県甲賀郡岩根村大字岩根
二	醍醐寺清滝宮拜殿	一棟	懸造、桁行七間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、向 拜三間、軒唐破風附、檜皮葺	醍醐寺	京都府京都市伏見区醍醐藍町	京都府京都市伏見区醍醐藍町
三	醍醐寺金堂	一棟	桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺	醍醐寺	京都府京都市伏見区醍醐藍町	京都府京都市伏見区醍醐藍町
四	三宝院表書院	一棟	上段十五疊(床及び棚附)、十八疊、次の間二十七疊、四 面入側、泉殿、車寄より成る、一重、入母屋造、泉殿切 妻造、檼瓦葺(元こけら葺)、西面車寄唐破風造、檜皮葺	三宝院	京都府京都市伏見区醍醐東大路町	京都府京都市伏見区醍醐東大路町
五	三宝院唐門	一棟	三間一戸平唐門、檜皮葺	三宝院	京都府京都市伏見区醍醐東大路町	京都府京都市伏見区醍醐東大路町
六	光明寺二王門	一棟	三間一戸二重門、入母屋造、とち葺	光明寺	京都府何鹿郡奥上林村大字陸寄	京都府何鹿郡奥上林村大字陸寄
七	朝光寺本堂	一棟	桁行七間、梁間七間、一重、寄棟造、向拜三間、本瓦葺 附 厨子 一基 四間厨子(元三間厨子)、寄棟造、本瓦形板葺 厨子裏旧板板 二枚 本堂之本尊御移徙応永廿年 ^{癸巳} 八月十五日の記があるもの 佛壇之建立応永廿年 ^{癸巳} 八月十五日及び上葺正長元年十月□日の記があるもの	朝光寺	兵庫県加東郡米田村大字畑	兵庫県加東郡米田村大字畑
八	石上神宮拜殿	一棟	桁行七間、梁間四間、一重、入母屋造、向拜一間、檜皮葺 附 棟札 六枚 修覆文明二年 ^{庚寅} 三月三日の記があるもの 上葺貞享元年 ^{甲子} 卯月吉日の記があるもの 修補享保十八 ^{癸丑} 年六月吉日の記があるもの 修覆元文五年 ^{庚申} 八月吉日の記があるもの 修覆寛政十年 ^申 年霜月吉祥日の記があるもの 屋根替安政六年末十一月の記があるもの	石上神宮	奈良県山辺郡丹波市町大字布留	奈良県山辺郡丹波市町大字布留

新指定国宝一覽(建造物の部)

<p>九 石上神宮 撰社出雲建雄神社拜殿</p>	<p>一棟 桁行五間、梁間一間、一重、切妻造、中央通路唐破風造、檜皮葺 第一殿、第二殿、第三殿の三棟より成る、各一間社隅木入春日造、檜皮葺</p>	<p>石上神宮</p>	<p>奈良県山辺郡丹波市町大字布留</p>	<p>奈良県山辺郡丹波市町大字布留</p>
<p>十 宇太水分神社本殿</p>	<p>三棟</p>	<p>宇太水分神社</p>	<p>奈良県宇陀郡宇太町大字古市場</p>	<p>奈良県宇陀郡宇太町大字古市場</p>

国宝目録 第七集

凡 例

一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和二十九年十一月国宝に指定した物件を収録した。
 一、この目録に収録した国宝の種別は、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料、建造物である。

一、この目録に収録した国宝は、第七次指定によるもの、及び既に国宝に指定した物件に新たに未指定物件を追加指定したものである。

昭和二十九年十一月

文化財保護委員会

絵画の部

名	称	員数	所 有 者
絹本着色千手観音像	伝周文筆	一幅	国(東京国立博物館保管)
紙本墨画淡彩竹斎読書図	文安四年竺雲等連の序並に江西龍派等五僧の贊がある	一幅	同 右
紙本着色平治物語絵詞	(六波羅行幸巻) 卷第四下	一卷	同 右
紙本着色絵因果経	卷第四下	一卷	国(東京芸術大学保管)
紙本金地著色風俗図	(彦根屏風)	六枚	滋賀県彦根市松原町五一五 井伊直愛
紙本着色法然上人絵伝	詞伏見天皇外七筆	四十卷	京都府京都市東山区新橋通大和大路東入ル林下町 知恩院
絹本着色阿彌陀二十五菩薩来迎図	(早来迎)	一幅	同 右
絹本着色十六羅漢像		十六幅	同 右京区嵯峨藤ノ木町 清凉寺

新指定国宝一覽(絵画、彫刻、工芸品の部)

彫刻の部

名	称	員数	所 有 者
木造二十八部衆立像	(所在蓮華王院本堂)	二十	京都府京都市東山区東大路通渋谷下ル妙法院前側町 妙法院
木造 風神 雷神像	(所在蓮華王院本堂)	二軀	同 右
木造八大童子立像	(惠光、惠喜、烏俱婆、清淨比丘、矜翽、制多伽、所在不動堂)	六軀	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 金剛峯寺
附 木造阿耨達童子、指徳童子像	二軀		

工芸品の部

名	称	員数	所 有 者
太刀 銘来国光		一口	国(東京国立博物館保管)
太刀 銘吉房		一口	同 右
刀 金象嵌銘光忠光徳(花押)(生駒光忠)	生駒謙岐守所持	一口	東京都文京区関口台町二六 財団法人 永青文庫
太刀 銘長光		一口	同 渋谷区原宿三ノ三三三 池田亀三郎
短刀 銘来国次		一口	同 〇六 代々木初台町五 渡辺国雄
太刀 銘吉房		一口	同 新宿区下落合二ノ八四 岡野多郎松
太刀 銘康次		一口	同 世田谷区喜多見町二〇 石島護雄
附 絲卷太刀拵		六三	同 石川県河北郡七塚町字木津 辻博治
短刀 銘来国光(名物有楽来国光)		一口	岐阜県岐阜市市長良雄総比舎ヶ谷 護国之寺
金銅獅子唐草文鉢		一口	

短刀 銘来国俊 正和五年十一月日	一口	愛知県名古屋市熱田区新宮坂町
短刀 銘高市□住金吾藤貞吉(名物桑山保昌) 享二年甲子十一月十八日	一口	大阪府大阪市城東区左専道町六九三 田口儀之助
本宮御料古神宝類		奈良県奈良市春日野町 春日大社
一、金銀幣	二枚	
一、蒔絵箏	一張	
一、秤弓	三十八張	
一、棹弓	十六張	
一、槌木弓	十四張	
一、白葛胡録残闕	三具分	
一、黒塗矢(内二十隻鏃欠失)	九十一隻	
一、鏃矢	四隻	
一、木造彩色矢	五隻	
一、細身鉄鏃(内七本石突欠失)	十三本	
一、平身鉄鏃(内三本石突欠失)	十二本	
一、木鏃(内二本鏃折損)	三十八本	
一、鏃柄	三本	
一、鏃身	一枚	
一、紫檀螺鈿飭劍	一口	
一、黒漆平文飭劍(柄白鯨)	一口	
一、黒漆平文飭劍(柄銀打鯨)	四口	
一、黒漆平文飭劍(柄欠失)	五口	
一、黒漆平文大刀	一口	
一、平緒残闕	二筋分	
一、組紐残闕	一筋分	
一、黒漆平文筒(蓋欠失)	一口	
一、黒漆平文根古志形鏡台	一基	
一、黒漆平文鏡台	一基	
一、黒漆彩文麻笥	一口	
一、黒漆平文練柱	一口	
一、白葛箱残闕	一合	
一、木彫黒漆彩色大刀	四口	

書跡の部	名	称	員数	所有者
一、黒漆刀子	一、黒漆平文唐櫛笥及台	一具	一	奈良県奈良市春日野町 春日大社
一、黒漆平文唐櫛笥及台	一、黒漆平文唐櫛笥台	一具	一	
一、木笏及黒漆平文笏箱	一、黒漆平文笏箱残闕	一具	一	
一、緑地彩絵琴箱残闕	一、大造彩色磯形残闕	一合分	一	
一、大造彩色磯形残闕	一、木造彩色磯形残闕	一基	一	
一、金鶴及銀樹枝	一、銀鶴及磯形	一具	二	
一、銀樹枝	一、銀鶴	一本	一	
一、銀鶴	一、銀琴	一筒	一	
一、水晶珠	一、青瑠璃壹殘闕及金銅蓋	一合分	一	
一、青瑠璃壹殘闕及金銅蓋	一、神宝附風殘闕類	一合分	一	
一、神宝附風殘闕類	若宮御料古神宝(保延二年十一月七日藤原頼長猷進)	一括	一	
一、平胡録	一、蒔絵弓	一具	一	
矢配板に大治六年正月二日の墨書がある	一、水晶鏡矢	七隻	一	
一、水晶鏡矢	一、金銅尖矢	二十三隻	一	
黒漆沃懸地斑篋内三隻鏃欠失	金銅能作生塔	一基	一	
銀銅蛭巻大刀拵		一口	一	

宋版礼記正義 上杉憲実寄進奥書	三十五冊	栃木県足利市 (足利学校遺跡図書館保管)
--------------------	------	-------------------------

栄花物語	十七帖	東京都千代田区神田駿河台二ノ九	梅沢義一
文選集注	七卷	同	文京区駒込上富士前町一四七
両京新記卷第三(金沢文庫本)	一卷	同	財団 東洋文庫
古今集卷十九残卷(高野切)	一卷	同	目黒区駒場町八六一
万葉集卷第三、第六残卷(金沢万葉)	一帖	同	法人 前田育徳会
入道右大臣集(彩箋)	一冊	同	
三朝宸翰	二卷	同	
花園天皇御消息(十二通)	一卷	同	
後醍醐天皇御消息(十通)	一卷	同	
伏見天皇御消息(二通)	一卷	同	

文選集注	十九卷	神奈川縣横浜市金沢区金沢町	称名寺 (金沢文庫保管)
大燈国師墨蹟	一幅	京都府京都市上京区紫野大徳寺町	大仙院
与宗悟大姉法語	一卷	同	東山区新橋通大和大路
上宮聖徳法王帝説	一帖	香川縣大川郡白鳥本町	知恩院
肥前国風土記	一帖	猪熊信男	

考古資料の部

名	称	員数	所
金銅威奈大村骨蔵器		一合	大阪府大阪市天王寺区元町
慶雲四年十一月二十一日在銘			四天王寺
奈良縣北葛城郡二上村穴虫出土			

番号	名	称	員数	構造及形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	苗村神社西本殿	一棟	三間社流造、向拜一間、檜皮葺 附厨子一基 一間厨子、切妻造、板葺 棟札一枚	徳治參年戊申式月四日造立之始三月十九日棟上の記がある	滋賀縣蒲生郡苗村大字 綾戸	滋賀縣蒲生郡苗村大字 綾戸	滋賀縣蒲生郡苗村大字 綾戸
二	極楽院本堂	一棟	桁行六間、梁間六間、一重、寄棟造、妻入、正面一間通り庇附、本瓦葺、關伽棚を含む 附厨子及び仏壇一具 棟札一枚	寛元二年 甲四月拾五日乙酉柱立 辰六月二日辛未棟上の記がある	奈良縣奈良市中院町	奈良縣奈良市中院町	奈良縣奈良市中院町

三法隆寺東院鐘樓	一棟	桁行三間、梁間二間、袴腰附、入母屋造、本瓦葺 八角四堂、一重、本瓦葺 附旧小屋組心束 一本 建長二年戊戌十二月八日の墨書がある 棟札 二枚 應永五年戊寅三月晦日の記があるもの 弘化二年乙巳十月十二日の記があるもの	法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺
四法隆寺西円堂	一棟	桁行十九間、梁間正面五間、背面四間、一重、切妻造、妻入、本瓦葺、正面一間通り庇附、向拝一間、檜皮葺 附棟札 一枚 慶長十一年丙午八月吉祥日の記がある 三間社流造、檜皮葺 附棟札 六枚	法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺
五法隆寺三経院及び西室	一棟	再興上葺天文九年[庚子]九月十三日の記があるもの 再興上葺永祿十一年[戊辰]八月[吉]日の記があるもの 上葺萬治三[庚子]年九月吉日の記があるもの 上葺寶曆九[卯]年九月吉日の記があるもの 長三尺二寸、巾三寸五分のもの 長二尺五寸、巾三寸七分のもの	神谷神社	香川県綾歌郡松山村大字神谷	香川県綾歌郡松山村大字神谷
六神谷神社本殿	一棟				

(既に国宝に指定した物件に新たに、未指定物件を追加したもの。○印は今回追加指定したものを示す。)

番号	名	称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	永保寺	開山堂	一棟	外陣 桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺 内陣 桁行一間、梁間一間、一重もこし附、入母屋造、檜皮葺 相の間を含む ○附 宝篋印塔 一基 石造宝篋印塔	永保寺	岐阜県多治見市虎溪山町	岐阜県多治見市虎溪山町
二	富貴寺	大堂	一棟	○附 桁行三間、梁間四間、一重、宝形造、本瓦葺 旧棟木の部分 一本 修造露阿弥施堂 一字文和の記がある	富貴寺	大分県豊後高田市田染路	大分県豊後高田市田染路

新指定重要文化財一覽

重要文化財目録 第五集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和二十九年三月、重要文化財に指定された物件を収録した。
- 一、この目録に収録した重要文化財の種類は、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料、建造物である。

一、この目録に収録したものは、重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年四月一日法律第四十三号)によつて認定された物件あるいは未指定物件を重要文化財として指定したものを含んでいる。◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財に指定したものを示す。

昭和二十九年三月

文化財保護委員会

絵画の部

名	称	員数	所 有 者
紙本淡彩西湖春景銭塘觀潮	池野大雅筆 六曲屏風	一双	国(東京国立博物館保管)
紙本墨面淡彩四季山水	伝周文筆 六曲屏風	一双	同 右
紙本淡彩奥の細道	与謝蕪村筆 安永八年の年記がある 六曲屏風	一隻	山形県山形市三日町五一 長谷川 吉三郎
附 伴人色紙短冊等貼交六曲屏風一隻			
絹本墨面羅漢図(第五番短羅尊者)		一幅	東京都港区赤坂青山南町六ノ 一五 財団 法人 根津美術館

新指定重要文化財一覽(絵画の部)

絹本著色牡丹花肖柏像
大永七年常庵竜崇の賛がある

絹本著色普賢十羅刹女像

絹本著色廬山觀瀑図 石濤筆
図上に李太白詩並に自題を書する

紙本著色公余探勝図 谷文晁筆
第二巻に寛政五年四月の年記がある(七十九図)

紙本著色源宗于像(佐竹本三十六歌仙切)

大方丈障壁面 岡田為恭筆

紙本著色子日図 襖貼付十六

紙本著色琴棋書画図 戸袋貼付 四

紙本著色茸狩図 襖貼付十六

紙本著色鶴図 襖貼付十六

紙本著色牡丹図 襖貼付十二

紙本著色鉄線花図 襖貼付 十六面

板絵著色杉戸絵

布袋唐子図二 檜時鳥図二 鶯
鶯図二 蘇鉄猫図二 岩に鷹図
二 東遊図二 緑陰浴馬図二
花果籠図二

紙本墨面春秋山水図 襖貼付 十六面

小方丈杉戸絵
(松に桜図二 陶淵明図二 紅葉
滝図二)

一幅 同 新宿区諏訪町三三

一幅 同 反町十郎

一幅 同 戸山町三五

二卷 同 神奈川県中郡大磯町東小磯

一幅 同 住友 一色 利厚

四十七面 同 静岡県引佐郡気賀町

一幅 同 愛知県名古屋市中区下堀川町

四十七面 同 服部 小十郎

同 同 額田郡岩津町大字鴨田

同 同 大 樹 寺

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

○	鑄銅梅竹文透釣燈籠 天文廿一年二月七日檀主牛尾和泉守平胤智在銘	一基	同	千種区菊坂町三ノ一
○	三島平茶碗 裏に内資寺とあり	一口	三重県桑名市太一九	森川馨
○	紺絲威刷丸 附保呂串付受筒 宋配 襪	一具	京都府京都市上京区紫野北船岡町	諸戸精文 建敷神社
○	住吉蒔絵机	一基	同	右京区御室大内
○	紫絲威鏡 大袖付 附阿古陀形二十八間筋兜 大立拳鬪当残欠	一領 一双頭	同 崎町	仁和寺 伏見区深草鳥居 藤森神社
○	山水蒔絵手箱 銘鹿苑寺	一合	大阪府大阪市都島区網島町四	財団法人 藤田美術館
○	御所丸黒刷毛茶碗 銘夕陽舍利塔 附金銅容器	一口 一合	同	天王寺区元町 四天王寺 南区河原町二ノ一
○	脇差 銘備州長船元重	一口	同	畑島正
○	黒掌威肩紫紅白絲胴丸 大袖付	一領	同	松屋町 上田綱治郎
○	洲浜鶴螺鈿硯箱	一合	同	豊中市新免九一〇 沖原辨治
○	蘆屋楓流水鶏図真形釜	一口	同	泉大津市助松ノ浜 細見亮市
○	沈金獅子牡丹文長覆輪太刀拵	一口	同	同
○	松皮菱螺鈿鐘鞍 附杏葉轡	一口	同	南河内郡古市町大字菅 菅田八幡宮
○	十六疋獅子図三所物 (花押) 小柄、竿銘宗珉	一揃	兵庫県西宮市鳴尾町西鳴開 木村巳之吉	

新指定重要文化財一覧(工芸品、書跡の部)

○	鑄銅釣燈籠 敵島大明神宮燈炉一口筑前國博多講 來等正平廿一年三月三日在銘	一基	同	広島県佐伯郡宮島町 敵島神社
○	太刀 銘末守	一口	同	岡山県岡山市東古松町 林原一郎
○	太刀 無銘伝國行	一口	同	愛媛県新井郡角野町大字角野 三宅正人
○	雜刀 銘是介 附鉄紐	一口	福岡県福岡市東露町五九	水藤一
○	刀 朱銘義弘(名物松井郷) 本阿(花押)	一口	同	三潞郡城島町 權藤尚二
○	紋散透鐺 金象嵌銘林又七	一枚	同	熊本県八代市松崎町 松井明之
○	名 稱	員数	所 有 者	
○	金剛般若經開題殘卷 (弘法大師筆 三十八行)	一卷	国(文化財保護委員会保管)	
○	馮子振墨蹟 保寧寺賦跋 泰定四年九月一日茂古林跋	一幅	東京都千代田区神田駿河台二ノ九	梅沢義一
○	無等惠融墨蹟 与簡上人法語	一幅	同	中央区銀座西六ノ六鉄 工ビル内 常盤山文庫
○	濟川若楫墨蹟 与山叟慧雲尺牘 附文英清韓添状 一幅	一幅	同	同
○	居涇和尚墨蹟 弔白雲惠暉偈	一幅	同	港区赤坂青山南町六ノ 一一五 財団法人 根津美術館
○	龍巖德真墨蹟 与無夢一清偈 至順二年辛未重陽後十日	一幅	同	同
○	手鑑「野辺のみどり」(二十八葉)	一帖	同	目黒区駒場町 財団法人 前田育徳会
○	伝藤原行成筆仮名消息	一幅	同	中根町二六七 和子

不空三藏表制集卷第六	一卷	東京都世田谷区玉川上野毛町一―二	五島慶太
希叟紹曇墨蹟 達磨祖師贊	一幅	同	右
兀庵普寧墨蹟 与東巖慧安尺牘 庚午仲春	一幅	同 二五	松原町一ノ一 中村庸一郎
伝藤原佐理筆賀歌絹地切(うこきなき)	一幅	同	神奈川県鎌倉市丸橋材木座 高梨仁三郎
時來過去帳 僧衆、尼衆	二帖	同	藤沢市西富 清浄光寺
〔六時居讀〕 〔安食問答〕	二帖	同	同
兀庵普寧墨蹟 法語 庚申夷則上旬	一幅	同	小田原市幸町一丁目 浅野長武
細字金字法華経(藍紙)	一卷	同	静岡県富士郡北山村大字北山門寺
純日本紀(金沢文庫本) 附 慶長補写本	三十卷	愛知県	名古屋(蓬左文庫保管)
侍中群要(金沢文庫本) 嘉元四年北条貞顕書写	十卷	同	同
齊民要術(金沢文庫本) 文永十一年北条実時奥書	二十二卷	同	同
源氏物語(河内本) 正嘉二年北条実時奥書 附 近衛信尹筆者極古筆了佐筆者目錄	二十三冊	同	同
樵隱悟逸墨蹟 与友山土思語 元統三年十一月旦	一幅	愛知県名古屋市中昭和区広路町石坂二九	杉浦保嘉
円珍公驗文書目錄 附 僧靈鎮伝燈住位位記 永享撰出文書覽書	一卷	滋賀県大津市園城寺町	園城寺
南禪寺一切経	五千八百二十帖	京都府京都市左京区南禪寺福地町	南禪寺
久我通具筆二首懷紙(六月秋) 山家風涼	一幅	同 川町六〇	南禪寺草 上田堪一郎

名	称	員数	所有者
藤原秀能筆二首懷紙(六月秋、山家風涼) 外題建仁元年六月晦日		一幅	同 右
大慈宗吳墨蹟 無相居士像贊(絹本) 紹興丁丑至節前一日		一幅	大阪府大阪市天王寺区上本町六丁目 近畿日本鉄道株式会社 (財団) 大和文華館保管
無爾可宣墨蹟 与明知客傷 咸淳戊辰夏孟下澣		一幅	同 東区高麗町三ノ
住吉神代記		一卷	同 湯木貞一 住吉区住吉町 住吉大社
考古資料の部			
銅印 印文「御笠團印」	福岡県筑紫郡水城村大字国分字堀田出土	一顆	国(東京国立博物館保管)
銅印 印文「遠賀團印」	福岡県筑紫郡水城村大字觀世音寺字来木出土	一顆	同 右
銅印 印文「葺□私印」	栃木県那須郡小川町字梅曾出土	一顆	同 右
銅印 印文「静神宮印」	茨城県那珂郡静村	一顆	同 静神社
銅印 印文「寛文丁未、源光瓘在銘」	茨城県那珂郡静村	一顆	同 静神社
銅印 印文「駿河倉印」		一顆	滋賀県東浅井郡竹生村字早崎宝殿寺
木印 印文「白雲」「隱谷」「惠暉」(仏照禪師所用)		三顆	京都府京都市東山区本町十五丁目 栗 棘 庵
齒車形碧玉製品 大阪府南河内郡国分町出土		一箇	大阪府大阪市都島区網島町四〇 財団 藤田美術館

建造物の部

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一三	本輪神社	二棟	三間社流造、向拜一間、こけら葺 附宮殿 一間、こけら葺 附一宮殿、入母屋造、妻入、こけら葺 棟札 一枚 修造天保三 _{壬辰} 年八月十五日の記がある	三輪神社	秋田県雄勝郡三輪町大字杉宮	秋田県雄勝郡三輪町大字杉宮
	境内社須賀神社本殿		桁行二間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、向拜一間、唐破風造、こけら葺(元茅葺) 附棟札 二枚 修造天保三年 _辰 八月十五日の記があるもの 一 修造天保九 _{戊辰} 年閏四月三日の記があるもの 一 附棟札 二枚 建立天正拾九年 _{辛卯} 霜月廿日の記があるもの 一 建立正保四 _{丁亥} 年六月吉日の記があるもの 一	大角 弥右衛門	滋賀県栗太郡葉山村大字六地蔵四〇二番地	滋賀県栗太郡葉山村大字六地蔵四〇二番地
二大	角家住宅	三棟	間口六十七尺五寸、奥行六十二尺四寸、一重、高塀造、上方本瓦葺、下方棧瓦葺、正面小庇棧瓦葺(元こけら葺) 附製薬機(車輪、齒車、石臼) 上段の間十畳(床、棚及び書院附)、次の間六畳、八畳(床及び棚附)、支間広間七畳半、式台、縁等より成る、一重、切妻造、庇附、支間千鳥破風附、棧瓦葺 一間一戸四脚門、切妻造、棧瓦葺 附袖塀 延長十三尺七寸、棧瓦葺			
三	安養院宝篋印塔	一基	六畳(床及び書院附)、次の間四畳、七畳半、四畳半、八畳半、四畳、土間、縁側、押入等より成る、一重、入母屋造、本瓦葺 石造宝篋印塔(相輪を除く) 園治三季 _申 七月日の刻銘がある	安養院	神奈川県鎌倉市大町	神奈川県鎌倉市大町
四	笹川家住宅	七棟	式台、上段の間(床、棚及び書院附)、次の間、支間の間(床附)、広間、十畳(床及び棚附)、八畳、入側、囲炉	笹川 只一	新潟県西蒲原郡味方村大字味方二一六番地	新潟県西蒲原郡味方村大字味方二一六番地

新指定重要文化財一覽(建造物の部)

居室部	土雑文表塀	五渡辺家住宅	六最明寺五重塔 七五重塔 八幡神社宝塔
裏の間、十畳、板間、土間(浴室附)等より成る、一重、寄棟造、こけら葺、玄関切妻造、こけら葺 二十三畳半、八畳二室、七畳(床附)、六畳、十五畳、十畳三室、六畳、廊下、押入等より成る、一重、寄棟造、一部庇附、こけら葺 西方突出部、板間(便所附)、六畳(床附)、十畳、八畳、仏間(仏壇附)、廊下、押入等より成る 一重、一部二階附、入母屋造、棧瓦葺	土蔵造、一重二階、切妻造、棧瓦葺 土蔵造、一重二階、切妻造、棧瓦葺 土蔵造、一重二階、切妻造、棧瓦葺 三間一戸潜附門、切妻造、茅葺 簀子塀、延長六十二尺 附棟札	大座敷(床、欄、書院、入側、土庇、浴室及び便所附)、二の間(床附)、書齋、仏間(仏壇附)、玄関(床附)、式台、勘定の間、茶の間、中茶の間、納戸(床及び欄附)、中の間、台所、板間、流しの間、土間、物置、浴室一所、便所、押入等より成る 出入口脇、六畳、四畳、八畳(床、欄、板間及び土庇附)、押入等より成る 奥座敷、六室、床、欄、廊下、押入等より成る 一重、二階四所附、切妻造、こけら葺 土蔵造、一重二階、切妻造、こけら葺(前庇を除く) 土蔵造、一重二階、切妻造、こけら葺 土蔵造、一重二階、切妻造、こけら葺 附庭門及び塀	石造五重塔(相輪上部を欠く) 石造五重塔 石造宝塔(相輪上部を欠く) 正和五年丙辰十月廿五日の刻銘がある 桁行五間、梁間四間、一重、寄棟造、向拜一間、本瓦葺
八幡神社	安養寺町	渡辺万寿太郎	最明寺
滋賀県蒲生郡苗村大字	滋賀県近江八幡市安養寺町	新瀨県岩船郡関川村大字下関	滋賀県野洲郡守山町大字勝部
滋賀県蒲生郡苗村大字	滋賀県近江八幡市安養寺町	新瀨県岩船郡関川村大字下関	滋賀県野洲郡守山町大字勝部

九	富貴寺本堂	一棟	附 棟札 一枚 修覆嘉永二己酉初夏吉日の記がある	富貴寺	奈良県磯城郡川西村大字保田	奈良県磯城郡川西村大字保田
十	来迎寺宝塔	一基	石造宝塔 延慶三年庚戌四月上旬の刻銘がある	来迎寺	奈良県山辺郡都介野村大字来迎寺	奈良県山辺郡都介野村大字来迎寺
十一	社春太水分神社末殿	一棟	一間社隅木入春日造、檜皮葺	宇太水分神社	奈良県宇陀郡宇太町大字古市場	奈良県宇陀郡宇太町大字古市場
十二	社宗像神社末殿	一棟	一間社流造、檜皮葺	宇太水分神社	奈良県宇陀郡宇太町大字古市場	奈良県宇陀郡宇太町大字古市場
十三	宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 嘉暦元年丙子七月日の刻銘がある	友浦部落	愛媛県越智郡宮窪町友浦	愛媛県越智郡宮窪町友浦
十四	宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 正中二乙丑五月日の刻銘がある	野間部落	愛媛県今治市大字野間	愛媛県今治市大字野間
十五	五輪塔	二基	石造五輪塔	野間部落	愛媛県今治市大字野間	愛媛県今治市大字野間
十六	五輪塔	一基	石造五輪塔	野間部落	愛媛県今治市大字野間	愛媛県今治市大字野間 小字馬場甲ノ二七九番地
十七	野間神社宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔	野間神社	愛媛県今治市大字神宮	愛媛県今治市大字神宮
十八	亀井八幡神社宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔	亀井八幡神社	愛媛県越智郡魚島村大字亀井	愛媛県越智郡魚島村大字亀井
十九	九重塔	一基	石造九重塔(相輪を除く)	片野区	福岡県筑紫郡水城村大字片野	福岡県筑紫郡水城村大字片野
二十	宝塔	一基	石造宝塔(相輪上部を欠く) 元徳二年庚子十月□□日の刻銘がある	田原村	大分県西国東郡田原村	大分県西国東郡田原村 大字石丸
二十一	田原家五重塔	一基	石造五重塔(露盤以上を欠く)	田原房美	大分県西国東郡田原村大字沓掛字坂水	大分県西国東郡田原村大字沓掛字坂水
二十二	財前家宝塔	一基	石造宝塔 元應第三祀歳次庚酉の刻銘がある	財前敏秀	大分県西国東郡田原村大字小野一、六五四ノ一番地	大分県西国東郡田原村大字小野字田原河内

◎二十四	◎二十三
宝	長 ^{ちやう} 木 ^き 家 ^か 宝 ^ぼ 塔 ^た
塔 一基	塔 一基
石造宝塔 奉造立 應武二年乙亥二月十二日の刻銘がある	石造宝塔 元亨元年 歲次辛酉小春十八日起立の刻銘がある
倉垣二三男	長木国光
大分県東国東郡富来町大字朝来二、四四五番地	大分県東国東郡富来町大字東堅来三、〇四二番地
大分県東国東郡朝来村大字朝来字宮原二、四四二番地	大分県東国東郡富来町大字東堅来字岡ノ上三、〇三七番地

重要文化財目録 第六集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和二十九年六月(建造物の部新指定一―三三、追加指定一―五、統合一)、および昭和二十九年十一月重要文化財に指定した物件を収録した。
- 二、この目録に収録した重要文化財の種別は、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料、建造物である。
- 三、この目録に収録したものは次に掲げるものである。

(一) 重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年四月一日法律第四十三号)によつて認定された物件あるいは、未指定物件を重要文化財に指定したものの。◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財に指定したものを示す。

(二) 既に重要文化財に指定した物件に、新たに未指定物件を追加指定したものの。○印は今回追加指定したものを示す。

(三) 既に重要文化財に指定した物件を解除し、改めて分割或いは統合して指定したものの。

昭和二十九年十一月 文化財保護委員会

絵 画 の 部

名	称	員数	所 有 者
紙本著色天狗草紙	(東寺、醍醐寺、高野山巻及延暦寺巻)	二巻	国(東京国立博物館保管)
紙本墨画淡彩	大満送大智 香巖撃竹 伝狩野元信筆 図	二	
紙本墨画淡彩	霏雲觀桃、瀧山錫瓶 石鞏張弓、三平開胸 伝狩野元信筆 図	四	
紙本墨画淡彩	(衣鉢圍)		

新指定重要文化財一覽(絵画の部)

紙本墨画淡彩太公望、林和靖図	四		同	右
紙本墨画淡彩東方朔、西王母図	四			
紙本墨画淡彩朱買臣図	二			
紙本墨画淡彩山水図	二			
紙本墨画淡彩山水図	二			
紙本墨画淡彩果子図	二			
(生茗室)				
(以上大仙院方丈旧障壁画)				
白描絵料紙理趣経	一卷		東京都目黒区上目黒七ノ一〇	
建久四年八月深賢奉受の奥書がある			財団 大東急記念文庫	
紙本墨画高僧像	一卷		同	右
長寛元年九月観祐図写の奥書がある			同	右
絹本墨画瀑布図(玉潤筆)	一幅		墨田区東両国二ノ八	涉
板絵著色弥勒来迎図	二面		同	吉川
板絵著色弥勒浄土図			同	涉
(金堂来迎壁)				
渡辺崋山関係資料			愛知県渥美郡田原町	田原町
紙本著色一掃百態図	一冊		渡辺崋山筆	(崋山会保管)
渡辺崋山筆			文政元年の自序	
紙本墨画渡辺巴洲像画稿	一幅		渡辺崋山筆	
紙本著色及び墨画渡辺巴洲像画稿	一幅		渡辺崋山筆(五図)	
紙本淡彩日月大黒天図	一幅		渡辺崋山筆	
渡辺崋山印	三二顆		牙一、銅二、陶三、木四、	
石十一、印短三、印箱一	三個合			
紙本墨書自筆画論(画説、絵事御返事)	二冊			
紙本墨書自筆遊相記稿	一冊			
紙本墨書自筆狂歌草稿	一冊			
紙本墨書自筆退役願書稿	一冊			
紙本墨書自筆渡海願書及び助郷書類	一巻			
紙本墨書自筆獄中書簡(椿椿山宛)(二通)	一巻			

紙本墨画自筆獄廷素描及び記録 絹本墨書自筆墓表(不忠不孝渡辺登)	一巻	京都府京都市上京区平野桜木町二八	堂本 四郎
紙本墨書自筆遺書(渡辺立宛)	一巻	同	下京区烏丸通七
紙本墨書自筆遺書(椿椿山宛)	一巻	同	本願寺
自決脇差 莖に文政十三年八月日東播土祐国 作並びに大野夕鷗贈呈の銘がある	一口	同	同
紙本著色渡辺崋山像 椿椿山筆 巻止に「崋山先生四十五歳象癸丑 十月十一日稿」とある	一幅	同	同
紙本著色小集図録及び書簡 椿椿山筆	一幅	同	同
紙本墨書麴町一件日録 椿椿山筆	一冊	同	同
紙本墨書書簡及び書簡案 立原杏所、 椿椿山筆 (三通)	一巻	同	同
附 渡辺家年譜	一冊	同	同
崋山先生略伝 補三宅片鉄著	一冊	同	同
書簡(渡辺定通、渡辺崋山、妻たか)	一巻	同	同
書簡(椿椿山)	一巻	同	同
刀 銘吉家	一口	同	同
短刀 銘国次	一口	同	同
短刀 無銘(菊池槍)	一口	同	同
紙本著色法然上人絵伝 (弘願本)	三巻	京都府京都市上京区平野桜木町二八	堂本 四郎
紙本著色本願寺聖人伝絵 康榮寺円寂、 宗舜筆 康永二年十一月詞書筆者宗昭(寛如) の奥書がある	四巻	同	下京区烏丸通七
紙本著色本願寺聖人 観(伝絵(弘願本))	四巻	同	同
貞和二年光養丸(普如)の奥書がある	二巻	同	同
紙本著色善信上人絵 (琳阿本)	二巻	同	同

彫刻の部

名	称	員数	所	有者
木造千手観音立像(本堂安置)		一軀	福井県小浜市野代	桑 寺
木造不動明王坐像(御影堂安置)		一軀	京都府京都市下京区四ツ塚通大宮西入ル九条町	教王護国寺
木造地藏菩薩坐像(本堂安置)		一軀	伏見区醍醐南里町	善願寺
木造救世観音半跏像 附 紙本墨書寛元四年中臣行範造像願文一通		一軀	左京区百井町	三井院
木造如意輪観音半跏像(所在桂宮院本堂)		一軀	右京区太秦蜂岡町	廣隆寺
木造薬師如来立像		一軀	同	久世郡城陽町枇杷庄阿彌陀寺
木造千手観音坐像(本堂安置)		一軀	香川県高松市屋島町	屋島寺
木造千手観音立像(本堂安置)		一軀	同	香川郡下笠井村根香寺
木造菩薩立像		一軀	同	正座村大字山崎花寺
木造千手観音立像(観音堂安置)		一軀	同	綾歌郡宇多津町聖通寺
木造十一面観音立像		一軀	同	綾南町床区

工芸品の部

名	称	員数	所	有者
雲版 銘文四福庵院齊版、嘉曆丙寅秋、 住持明極誌		一面	宮城県宮城郡松島町本松島	瑞巖 寺
短刀 銘来国光 附 獅子造腰刀拵 元徳二年以下切		一口	山形県酒田市浜畑町	本間 真子

◎	太刀 銘波平家安	一口	同	東田川郡新堀村 齊藤 忠
◎	鶺鴒菊文辻ヶ花染小袖 永祿九年在銘	一領	同	国(東京国立博物館保管)
◎	奈良三彩壺 蓋共 伝大阪府三島郡三島村大職官山出土	一口	同	東京都中央区浜町二ノ二 本阿弥光博
◎	刀 金象嵌銘助光磨上光徳(花押)	一口	同	文京区西原町二ノ四一 比毛 関
◎	太刀 銘備中国任人左兵衛尉直次作 建武二年十一月	一口	同	港区赤坂丹後町 岡部 長 義
◎	太刀 銘来国次	一口	同	港区高輪南町二九 出光 佐 三
◎	碯青磁袴腰大香炉	一口	同	目黒区駒場町八六一 財人 前田育徳会
◎	牡丹獅子造小き刀拵(七所物伝祐乗作) 傍太刀(石突欠) 附平緒	一口	同	同
◎	太刀 銘備中国住次吉作貞和二年十月日 附 絲卷太刀拵	一口	同	渋谷区代々木初台町五 渡 辺 国 雄
◎	短刀 銘国廣	一口	同	新宿区下落合二ノ八四 岡野 勝 野
◎	日の出群千鳥図鐔 銘安親	一枚	同	新宿区若宮町三〇 古河 從 純
◎	雨下猛虎図鐔 銘利寿(花押)	一枚	同	世田谷区太子堂町三〇 須藤 宗 次 郎
◎	黒釉金彩瑞花文碗	一口	同	神奈川県足柄野村強羅 宗 教 法 人 世 界 救 世 教
◎	志野茶碗 銘卯花塙	一口	同	湯木町大字湯本 三 井 高 大
◎	浜松千鳥図鐔 銘安親	一枚	同	中郡大根村落楯 宮崎 富 次 郎
◎	刀 無銘伝兼永	一口	同	新潟県新潟市本町通七番町 高 橋 衛
◎	刺繡阿彌陀三尊像	一幅	同	石川県七尾市小島リノ三 西 念 寺

◎	太刀 銘備州長船成家 貞治二年十二月日	一口	同	静岡県掛川市中町大浦方 吉筋 新太郎
◎	太刀 銘国泰	一口	同	愛知県名古屋市中区和区山脇町 四ノ三二 石 井 正 輝
◎	脇指 銘日州古屋住国廣作 天正十四年八月日	一口	同	同 碧南市鶴見芝四七ノ二 岡島 太 十
◎	古瀬戸狛犬	二軀	同	同 東春日井郡高蔵寺町 高 橋 茂
◎	十六間四方白星兜鉢	一頭	同	三重県四日市市北浜田町 鶴 森 神 社
◎	宝珠羯磨文錦横被 附 宝珠羯磨文錦裂 一枚	一領	同	京都府京都市右京区御室大内 仁 和 寺
◎	花雲形文七宝鐔 無銘伝平田道仁	一枚	同	大阪府大阪市住吉区松浜中ノ 町四ノ七二 吉 井 忠 直
◎	藤花鹿図太刀金具(胃金、石突、表目貫 欠)	一具	同	六丁目 近畿日本鉄道株式会社 (財団) 大和文華館保管
◎	緋威五十二間四方白星兜	一頭	同	南区松屋町 上田 綱 治 郎
◎	太刀 銘日州古屋之住国廣山伏之時造之 天正十二年二月彼岸 太刀主日向国住飯田新七良藤原 祐安	一口	同	同 城東区左専道町 田口 儀 之 助
◎	太刀 銘景安	一口	同	同 豊中市桜塚東通八ノ四 天 春 繁 雄
◎	野辺雀時絵手箱	一合	同	同 河内長野市天野町 金 剛 寺
◎	刀 銘慶長九年十一月吉日信濃守国廣作 依賀茂祝重那所望打之	一口	同	兵庫県芦屋市春日町三四 財人黒川古文化研究所
◎	難刀 銘来国俊	一口	同	同 笹ヶ塚 瀬戸 保 太 郎
◎	太刀 銘吉家作	一口	同	同 宝塚市温木六六 高 森 康 夫
◎	刀 無銘吉岡一文字	一口	同	同 河辺郡西谷村長尾山 谷野 弥 太 郎
◎	雲鳳銭金経櫃	一合	同	奈良県奈良市雑司町 東 大 寺

名	称	員数	所	有	者
絶観論		一卷	東京都文京区駒込林町三五	浜田	徳海
趙子昂書与中峰明本尺牘(六通)		一帖	同	港区麻布鳥居坂町一	岩崎孝子
因明論疏 卷上中		二帖	同	目黒区上目黒七の一〇九四	財団大東急記念文庫
仁平四年久寿二年藤原頼長奥書			同	財団大東急記念文庫	
白氏文集(金沢文庫本)		十九卷	同		右
寛喜貞永嘉禎年間書写奥書			同		
附 白氏文集卷第三、四(補写本)二卷			同		右

書跡の部	名	称	員数	所	有	者
◎	太刀	銘来國俊元応元年八月日	一口	同	一三	生駒那生駒町東新町三
◎	金沃懸地平文太刀(石突欠)		一口	同	波	刃 国 武
◎	色々威胴丸 兜大袖付		一領	同	磯城郡桜井町大字多武	談 山 神 社
◎	附 鈍唐櫃 一合		一領	同	鳥根県八束郡佐太村	佐 太 神 社
◎	色々威五十八間筋兜		一頭	同	同	同
◎	色々威腹巻 兜、大袖付		一領	同	同	同
◎	太刀 銘一		一口	岡山県岡山市東古松町	林 原 一 郎	
◎	孔雀餞金経箱		一合	同	同	同
◎	蓋裏に「延祐二年棟梁禪正明慶寺前 宋家造」外底に「延文三年六月日」の 銘がある		一合	広島県尾道市尾崎町	浄 土 寺	
◎	孔雀餞金経箱		一合	同	同	同
◎	蓋裏に「延祐二年棟梁禪正杭州油局 橋金家造」内底に「延祐二年棟梁禪 正」の銘がある		一合	同	同	同
◎	〔太刀〕 銘守次		一口	愛媛県新浜市庄内町七三七	藤 田 明 坊	
◎	〔革包太刀拵〕		一口	同	同	同
◎	短刀 銘左		一口	福岡県福岡市東露町五九	永 藤 一	
◎	筑州住					

◎	論語	建武四年清原頼元伝授奥書	十帖	同	同	右
◎	幼学指南鈔		五帖	同	同	右
◎	史記 孝景本紀第十一		一卷	同	同	右
◎	延久五年暮春大江家国書写加点点 書			同	同	右
◎	妙総大師道潛墨蹟 尺牘		一幅	同	同	右
◎	臨時祭試案調案 藤原定家筆		一帖	同	同	右
◎	相模集 嘉祿三年五月二十日藤原定家奥書		一帖	同	同	右
◎	大覚禪師墨蹟 与栄意禪人法語		一幅	同	同	右
◎	癡絶道冲墨蹟 淳祐庚戌二月二十五日		一幅	同	同	右
◎	近衛家基筆消息		一幅	同	同	右
◎	伏見天皇宸翰御詠草(百首)		一卷	同	同	右
◎	後深草天皇宸翰消息		一幅	同	同	右
◎	法華経并観普賢経(藍紙)		七卷	同	同	右
◎	寛治元二年、承徳二年経朝点本			同	同	右
◎	一念多念文意 親鸞筆		一冊	同	同	右
◎	康元二歳二月十七日奥書		一冊	同	同	右
◎	普門院蔵書目録 大道一以筆		一冊	同	同	右
◎	東福寺所伝宋拓碑文		八幅	同	同	右
◎	孝宗御書太白名山四大字		一幅	同	同	右
◎	孝宗御書(大暑流金石)		一幅	同	同	右
◎	孝宗御書(秋迦仏入山)		一幅	同	同	右
◎	孝宗御書(床頭一扨子)		一幅	同	同	右
◎	天童山景德寺新僧堂記		一幅	同	同	右
◎	明覚大師伝		一幅	同	同	右

日本国丞相藤原公捨經記 一 幅	仏鑑禪師遺偈 一 幅	大道一以墨蹟 自序	枇杷頌軸 自序	明鹿頌軸 古源郡元跋	瑞雪頌軸 慶円月心序	蒙山智明跋	松菴石榴頌軸 友山土俣序	放牛光林跋	附 大道一以追悼頌軸 此山妙在跋 一卷	夢岩祖応序	寂室元光墨蹟 貞治丙午臘月	与弥天积待者付衣偈	延喜天曆御記抄 一卷	四条宮歌合序 一卷	觀弥勒上生兜率天経贊卷下殘卷 （朱点白点本）	法華経卷第一（白点本） 一卷	古筆手鑑「かりがね帖」(二十八葉) 一帖	虚堂智愚墨蹟 送僧偈 感淳戊辰閏正 一幅	竺田悟心墨蹟 中藏円月送別偈 泰定四年八月十五日 一幅	大燈国師墨蹟 溪林、南獄偈 二幅	藤原行成筆白氏詩卷 一卷	小野道風筆三體白氏詩卷 一卷	賢愚経殘卷 第一卷 四百六十一行 第二卷 五百三行	画図叢文卷第廿七 一卷
四卷	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	目同	
本町十五丁 光明院保管	永明院	左京区南禅寺草 上田堪一郎	右京区宇多野上 財団 陽明文庫 法人	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

新指定重要文化財一覽(書跡、考古資料の部)

名	称	員数	所有者
石帆惟衡墨蹟	錢別偈	一幅	同御影町西平野字西松本五ノ 浅田長平
靈石如芝墨蹟	至治壬戌春仲且	一幅	同
藤原佐理筆書狀(難洛狀)	附 近衛家勲筆摹本 一幅	一幅	住吉町井手口一六三七 乾豐彦
宋版一切経		四千三百五十四帖	奈良県奈良市登大路町 興福寺
太平記拔書(吉利支丹版)		六冊	同 天理市柚之内 天理大学図書館
宋版劉夢得文集		十二冊	同
宋版搜神秘覽 卷上申下		一冊	同
ばうちずもの授けやう(吉利支丹版)		一冊	同
高麗版一切経 版本 六千二十七帖 写本 二千五十八帖		六千二百八十五帖	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 金剛峯寺
附 慶長四年三月二十一日石田三成 奉納木額 一面		五十卷	広島県佐伯郡宮島町 嚴島神社
紺紙金字大方等大集經		一幅	愛媛県今治市桜井 志賀晴夫
附 黒漆塗経箱 一合			
仏鑑禪師墨蹟 贈奥庵居士偈 淳祐乙巳中夏七日 附 添状 二卷			
考古資料の部			
銅印 印文「鶏足寺印」		一顆	栃木県足利郡小俣町大字町屋 鶏足寺
銅鐸 双紐細線鋸歯文鏡		一合	国(東京国立博物館保管)
銅製伊福吉部德足骨蔵器		一合	同 右
和銅三年十一月十三日在銘 鳥取県岩美郡宇野村宮下出土			
銅戈 鏃 范		一箇	国(九州大学保管)
福岡県糸島郡怡土村大字三雲字 鍵溝出土			

周防国下松市宮洲古墳出土鏡	一面	山口県熊毛郡岩田村	虎雄
一、盤龍鏡	一面	国光	
一、三角縁神獸鏡	一面		
一、内行花文鏡	一面		
銅製宝塔形経筒	一合	福岡県福岡市浄水通	浩亮
保安四年三月十七日在銘		内本	
筑前国四王寺趾経塚出土		同 筑紫郡春日村	熊野神社
銅鋒鋳范	二箇	同 筑紫郡春日村	熊野神社
福岡県筑紫郡春日村大字須玖出土		同 筑紫郡春日村	熊野神社
銅印	一顆	宮崎県児湯郡	妻町
印文「児湯郡印」			

彫刻の部(既に重要文化財に指定した物件に、新たに未指定物件を追加)
指定したもの

名	称	員数	所	有	者
木造釈迦如来立像	張延皎并張延製作 齋然将来(本堂安置)	一軀	京都府京都市右京区嵯峨藤ノ木町	清涼寺	
背板裏に「大宋国台州張延皎并弟延					
鑿雕「台座反花座に「唐国台州開元					
寺「僧保寧」の刻銘がある					
同蓮肉に建保六年大仏師法眼快慶					
の墨書修理銘がある					
像内納入品一切					
紙本墨書齋然入宋求法巡礼行並					
瑞像造立記僧鑑書					
一 通					
雍熙二年八月十六日奥書					
紙本墨書入瑞像五蔵具記捨物注					
文齋然自書					
一 通					
雍熙二年八月十八日奥書、「造像					
博士張延皎勾当造像僧居信」と					
ある					
附「包紙」一紙					
「齋然謹封」とある					
紙本墨書金光明最勝王經	細字、一部	一卷			
齋然自書					
延暦二十三年三月五日書写奥書					
紙本墨書法華経	細字、一部	一卷			
細字、一部					

附一、表紙題箋	銅製軸首一双、竹製八	
双残闕		
一、版本金剛般若波羅蜜經	一帙	
雍熙二年六月刊記		
一、紙本版面雲山變相図	一枚	
一、紙本版面弥勒菩薩像	一枚	
高文進画、甲申歲十月十五日刊記		
一、紙本版面文殊菩薩騎獅像	一枚	
一、紙本版面普賢菩薩騎象像	一枚	
一、紙本墨書義藏齋然結縁手印狀	一通	
義藏齋然自書		
天祿三年閏二月三日奥書		
一、紙本墨書齋然繫念人交名帳	一帖	
一、紙本墨書大宋国台州捨銭結縁交	一通	
名記		
雍熙二年八月十八日匠人張延		
皎并弟延製胡仁招開元寺僧居		
信同募縁僧保寧奥書		
一、紙本墨書捨銭結縁交名記断簡	一枚	
一、紙本墨書齋然生誕記断簡	一紙	
承平八年正月二十四日とある		
一、絹製五蔵	一副	
一、胃		
表裏各面に梵字の墨書がある、		
内に玉一顆を納める		
一、肝		
表裏各面に梵字の墨書がある、		
内に香を納める		
一、胆		
一面に「仏説利羅」、他面に「		
舍利」の墨書がある、		
内に舍利を納める		
一、肺		
一面に普賢菩薩、觀世音菩薩、		
无量寿仏、釈迦牟尼仏、文殊師		
利菩薩、他面に「樹」一時成		
仏道各坐菩薩提千花百億国一		
釈迦」の墨書がある、		
内に梵葉を納める		
一、腸		
内に香を納める		
一、腎		
内に香を納める		

背皮、雍熙二年□製五威一副捨入
日東日本国釈迦本□像内とある

一、線刻水月觀音鏡像絹紐付 一面
紐に「台州女弟子朱□娘捨帶子一条」とある

一、菩提念珠一鈔分 九十

一、娑羅樹葉片 一枚

一、水晶珠 一顆

一、瑪瑙製耳環 一箇

一、方解石 一箇

一、中国銅錢 百十四枚
開元通宝九七、乾元重宝五、宋元通宝三、周元通宝一、唐国通宝一、天漢元宝一、漢元通宝一、其他五

一、銅製鈴子 一箇

一、銀製劔子 一枚

一、玻璃器 二口

一、雲母製幢 一幢

一、平絹片等 一括

平絹、秋羅、縞紗、紗、羅、額縷、綾、錦

大造千手觀音坐像
(木造、仏頭に、胸部をとりつける)

一 軀	同	大 秦 蜂 岡 町 隆 寺
-----	---	---------------

工 芸 品 の 部 (同上)

名	称	員数	所 有 者
腹巻及膝籠			
伝楠氏一族所用			
一、白草威腹巻		一領	大阪府河内長野市天野町
一、白草威腹巻		一領	金剛寺
一、藍草威腹巻		一領	

名	称	員数	所 有 者
一、藍草威肩白腹巻		一領	
一、藍草裏腹巻		一領	
一、藍草威腹巻		一領	
一、藍草威腹巻		一領	
一、藍草威腹巻		一領	
一、黑草威腹巻		一領	
一、黑草威腹巻		一領	
一、黑草威肩白腹巻 大袖付		一領	
一、藍草威肩紫紅白腹巻		一領	
一、藍草裏肩紅白威腹巻		一領	
一、藍草裏腹巻		一領	
一、藍草裏腹巻		一領	
一、淺黄糸素懸威鉄腹巻 壹袖一雙付		四領	
一、黄草威膝籠		一領	
一、黄草威膝籠		一領	

考 古 資 料 の 部 (同上)

名	称	員数	所 有 者
大和国金峯山経塚出土品			
一、鍍銀経箱		一合	奈良県吉野郡吉野町大字吉野
一、金銅経箱台残闕		一枚	金峯神社
一、紺紙金字法華経卷一、三、四、五、六、七残闕		一括	
卷四長徳四年(奥書)			
一、紺紙金字無量義経残闕 長徳四年(奥書)		一括	
一、紺紙金字弥勒下生経残闕		一括	
一、紺紙金字法華経卷三、四、六、七残闕		一括	
一、紺紙金字無量義経		一括	

書跡の部(既に重要文化財に指定した一件の物件を、改めて分割の上二件として指定したものを)

名	称	員数	所	有	者
經典釈文断簡 紙背因明私記 講周易疏論家義記断簡 紙背因明私記		一卷	奈良県奈良市登大路町	興福寺	
		一卷	同	右	

建造物の部

番号	名	称	員数	構造及び	形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	熊野奥照神社本殿	棟	三間社流造、こけら葺 附棟札 五枚 奉造慶長十八癸 丑年霜月吉日の記があるもの 修覆延享二乙 丑 七月九日ヨリ取附八月十三日シマ イの記があるもの 修覆明和九壬 辰 年六月十一日の記があるもの 修覆享和元辛 酉 年六月八日ヨリ七月十日成就の記 があるもの 修覆天保十三壬 寅 年秋八月六日 与里 冬十月中皆出 来の記があるもの	熊野奥照神社	青森県弘前市大字田町	青森県弘前市大字田町		
二	八幡神社本殿	棟	桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拝三間、こけら葺	八幡神社	茨城県水戸市八幡町	茨城県水戸市八幡町		
三	飯香岡八幡宮本殿	棟	桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拝三間、こけら葺(現在銅板仮葺) 桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、向拝一間、茅葺 附厨子 一基 一間厨子、入母屋造、木瓦形板葺 棟札 一枚	飯香岡八幡宮	千葉県市原郡八幡町八幡	千葉県市原郡八幡町八幡		
四	栄福寺薬師堂	棟	一間厨子、入母屋造、木瓦形板葺 棟札 一枚	栄福寺	千葉県印旛郡本埜村角田	千葉県印旛郡本埜村角田		

文明三十二年壬辰二月廿三日の記事がある

片瀨附櫓門、前後此附、入母屋造、銅板葺(元本瓦葺)附続 二個

三間三重塔婆、銅板葺(元こけら葺)

一間厨子、入母屋造、妻入、木瓦形板葺

三間一戸棧門、こけら葺

附棟札 一枚
于時寛永十七年庚辰十二月十六日の記がある

桁行三間、梁間一週、一重、切妻造、本瓦葺

一間社流造、檜皮葺

三間社流造、檜皮葺

附厨子 二基
各宮厨子 一棟
中門、棧瓦葺

桁行八間、梁間五間、一重、入母屋造、妻入、向拝三間、軒唐破風附、前部檜皮葺、後部こけら葺

懸造、桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、妻正面、こけら葺

四脚門、切妻造、本瓦葺

桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺

桁行七間、梁間三間、一重、入母屋造、向拝三間、本瓦葺

桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺

桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、本瓦葺

石橋及び石造高舞台、木造高欄附

桁行一間、梁間一間、袴腰附、寄棟造、亜鉛引鉄板仮葺

五	油山寺山門	一棟	片瀨附櫓門、前後此附、入母屋造、銅板葺(元本瓦葺)附続 二個	油山寺	静岡県磐田郡袋井町久	静岡県磐田郡袋井町久
六	油山寺三重塔	一基	三間三重塔婆、銅板葺(元こけら葺)	油山寺	静岡県磐田郡袋井町久	静岡県磐田郡袋井町久
七	油山寺本堂内厨子	一基	一間厨子、入母屋造、妻入、木瓦形板葺	油山寺	静岡県磐田郡袋井町久	静岡県磐田郡袋井町久
八	尊永寺仁王門	一棟	三間一戸棧門、こけら葺 附棟札 一枚 于時寛永十七年庚辰十二月十六日の記がある	尊永寺	静岡県磐田郡袋井町豊	静岡県磐田郡袋井町豊
九	応声教院山門	一棟	桁行三間、梁間一週、一重、切妻造、本瓦葺	応声教院	静岡県小笠郡内田村中内田	静岡県小笠郡内田村中内田
十	方広寺七尊菩薩堂	一棟	一間社流造、檜皮葺	方広寺	静岡県引佐郡奥山村奥山	静岡県引佐郡奥山村奥山
十一	醍醐寺清滝宮本殿	一棟	三間社流造、檜皮葺 附厨子 二基 各宮厨子 一棟 中門、棧瓦葺	醍醐寺	京都府京都市伏見区醍醐藍町	京都府京都市伏見区醍醐藍町
十二	醍醐寺開山堂	一棟	桁行八間、梁間五間、一重、入母屋造、妻入、向拝三間、軒唐破風附、前部檜皮葺、後部こけら葺	醍醐寺	京都府京都市伏見区醍醐藍町	京都府京都市伏見区醍醐藍町
十三	醍醐寺如意輪堂	一棟	懸造、桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、妻正面、こけら葺	醍醐寺	京都府京都市伏見区醍醐藍町	京都府京都市伏見区醍醐藍町
十四	天王寺	六棟	四脚門、切妻造、本瓦葺 桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺 桁行七間、梁間三間、一重、入母屋造、向拝三間、本瓦葺 桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺 桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、本瓦葺	天王寺	大阪府大阪市天王寺区元町	大阪府大阪市天王寺区元町
十五	朝光寺鐘楼	一棟	石橋及び石造高舞台、木造高欄附 桁行一間、梁間一間、袴腰附、寄棟造、亜鉛引鉄板仮葺	朝光寺	兵庫県加東郡米田村大字畑	兵庫県加東郡米田村大字畑

◎二十六	長尾寺 経幢	二基	<p>弘安六年七月日の刻銘があるもの <small>歲次 癸未</small></p> <p>弘安第九天<small>歲次 丙戌</small>五月日の刻銘があるもの</p> <p>石造十三重塔(相輪を除く)</p>	長尾寺	香川県大川郡長尾町大字長尾西	香川県綾歌郡松山村大字青梅
◎二十七	白峯寺 十三重塔	二基	<p>弘安元年<small>歲次 寅</small>の刻銘があるもの</p> <p>元亨四年の刻銘があるもの</p>	白峯寺	香川県綾歌郡松山村大字青梅	香川県綾歌郡松山村大字青梅
◎二十八	興隆寺 宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔	興隆寺	愛媛県周桑郡丹原町大字古田	愛媛県周桑郡丹原町大字古田
◎二十九	宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔	白杵市	大分県白杵市	大分県白杵市大字深田字木原九二九ノ二番地
◎二十三	願成就院 宝塔	一基	石造宝塔	願成就院	岩手県西磐井郡平泉町大字中尊寺	岩手県西磐井郡平泉町大字中尊寺
◎二十四	釈尊院 五輪塔	一基	<p>石造五輪塔</p> <p>仁安四年□丑四月二十三日の刻銘がある</p>	釈尊院	岩手県西磐井郡平泉町大字中尊寺	岩手県西磐井郡平泉町大字中尊寺
◎二十五	宝巖寺 五重塔	一基	石造五重塔	宝巖寺	滋賀県東浅井郡竹生村大字早崎	滋賀県東浅井郡竹生村大字早崎
◎二十二	龍岩寺 奥院礼堂	一棟	<p>懸造、桁行三間、梁間二間、片流招屋根附、正面千鳥破風附、板葺</p>	龍岩寺	大分県宇佐郡院内村大字大門	大分県宇佐郡院内村大字大門
◎二十一	細川家 舟屋形	一棟	<p>桁行二間、梁間二間、一重二階、切妻造、板葺</p> <p>附覆屋</p> <p>桁行三間、梁間二間、一重、切妻造、棧瓦葺</p>	細川護貞	神奈川縣鎌倉市乱橋材木座九二二番	熊本県熊本市横手町一、二八五番地
二十	常念寺 表門	一棟	<p>造立寛永十辰八月十六日の記がある</p>	常念寺	山口県萩市大字下五間町	山口県萩市大字下五間町
十九	住吉神社 拜殿	一棟	<p>四脚門、切妻造、両袖潜戸附、本瓦葺</p>	住吉神社	山口県下関市一宮町	山口県下関市一宮町
十八	龍福寺 本堂	一棟	<p>桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、棧瓦葺</p>	龍福寺	山口県山口市大字大殿大路	山口県山口市大字大殿大路
十七	洞春寺 山門	一棟	<p>四脚門、切妻造、棧瓦葺</p>	洞春寺	山口県山口市大字上宇野令	山口県山口市大字上宇野令
十六	伊弉册命神社 本殿	一棟	<p>一間社春日造、檜皮葺</p>	伊弉册命神社	奈良県生駒郡斑鳩町大字龍田	奈良県生駒郡斑鳩町大字龍田

◎三十五	五輪塔	二基	石造五輪塔 嘉應二年七月二十三日の刻銘があるもの 承安二年 ^{才次} 八月十五日 ^{日次} の刻銘があるもの 壬辰	野中広	大分県白杵市大字中尾一七六番地	大分県白杵市大字中尾字ホキ一四三番地
◎三十一	九重塔	一基	石造九重塔（相輪を除く） 起立文永三二年 ^{大歳} 丁卯卯月八日の刻銘がある	水地部落	大分県大野郡野津町大字王子字水地	大分県大野郡野津町大字王子字水地三〇八九番地
◎三十二	五輪塔	一基	石造五輪塔 弘安八年乙酉五月二十四日の刻銘がある	吉田与一	大分県大野郡野津町大字八里合二、八一五番地	大分県大野郡野津町大字八里合字津留平一、一六二番地
◎三十三	旧浄土寺九重塔	一基	石造九重塔（宝珠を欠く） 嘉元二二年丙午勸進賢 [□] の刻銘がある	今淵正太郎	神奈川県鎌倉市腰越六九一番地	京都府京都市右京区梅ヶ畑高鼻町二七番地
◎三十四	為因庵宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔（覆鉢及び九輪上部を欠く） 文永二年乙丑八月八日造之の刻銘がある	為因庵	京都府京都市右京区梅ヶ畑奥殿町	京都府京都市右京区梅ヶ畑奥殿町
◎三十五	高山寺宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔（九輪上部を欠く）	高山寺	京都府京都市右京区梅ヶ畑榎尾町	京都府京都市右京区梅ヶ畑榎尾町
◎三十六	高山寺如法経塔	一基	石造一重塔	高山寺	京都府京都市右京区梅ヶ畑榎尾町	京都府京都市右京区梅ヶ畑榎尾町
◎三十七	泉涌寺無縫塔	二基	石造無縫塔	泉涌寺	京都府京都市東山区泉涌寺山ノ内町	京都府京都市東山区泉涌寺山ノ内町
◎三十八	安楽寿院五輪塔	一基	石造五輪塔 弘安十年 ^{丁二月} の刻銘がある	安楽寿院	京都府京都市伏見区竹田内畑町	京都府京都市伏見区竹田内畑町
◎三十九	縁城寺宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔、基壇附 正平六年佛子行秀の刻銘がある	縁城寺	京都府中郡丹波村橋木	京都府中郡丹波村橋木
◎四十	東大寺五輪塔	一基	石造五輪塔	東大寺	奈良県奈良市雜司町	奈良県奈良市川上町
◎四十一	円福寺宝篋印塔	二基	石造宝篋印塔 永仁元年壬辰十二月十六日の刻銘があるもの	円福寺	奈良県生駒郡南生駒村大字有里	奈良県生駒郡南生駒村大字有里
◎四十二	談山神社摩尼輪塔	一基	石造摩尼輪塔 乾元二年癸卯五月日立之の刻銘がある	談山神社	奈良県磯城郡桜井町大字多武峯	奈良県磯城郡桜井町大字多武峯

（既に重要文化財に指定した物件に、新たに未指定物件を追加したもの）

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所有者の住所	所在の場所
一	鹿島神宮撰社奥宮本殿	一棟	三周社流造、向拜一周、檜皮葺 ○附 棟札 一枚 建立元和五年己未六月拾六日の記がある	鹿島神宮	茨城県鹿島郡鹿島町大字宮中	茨城県鹿島郡鹿島町大字宮中
二	西蓮寺相輪櫓	一基	青銅製相輪櫓 ○附 棟札 一枚 天保十二辛丑年八月再建の記がある	西蓮寺	茨城県行方郡玉川村大字出沼	茨城県行方郡玉川村大字出沼
三	本山寺本堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、本瓦葺 ○附 厨子 各一間春日厨子 ○附 厨子 一間、梁間六間、一重、寄棟造、銅板葺 ○附 厨子 一間、しころ造、とち葺 卷斗 一個 文中二二年二月の墨書がある 棟札 二枚 上棟文中二年乙卯四月十三日の記があるもの一 寛文十年庚戌七月十三日の記があるもの一	本山寺	香川県綾歌郡本山村大字寺塚	香川県綾歌郡本山村大字寺塚
四	興隆寺本堂	一棟	桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、向拜一間、こけら葺 ○附 棟札 十六枚 建立元和貳年丙辰九月吉詳日の記があるもの一	興隆寺	愛媛県周桑郡丹原町大字古田	愛媛県周桑郡丹原町大字古田
五	英彦山神社奉幣殿	一棟	修覆寛文五己巳年五月吉辰日の記があるもの一 修覆享保八癸卯季九月吉辰日の記があるもの一 修覆寶曆十三癸未年秋月吉祥日の記があるもの一 修覆嘉永六癸丑年十月吉祥の記があるもの一 人名その他の記があるもの一	英彦山神社	福岡県田川郡添田町大字英彦山	福岡県田川郡添田町大字英彦山
六	貫前神社本殿	一棟	桁行三間、梁間三間、一重二階、入母屋造、妻入、向拜三間、檜皮葺 ○附 棟札 二枚 造立寛永十二年乙亥霜月廿一日の記があるもの一 再興元祿十一戊寅年九月七日の記があるもの一	貫前神社	群馬県富岡市一宮	群馬県富岡市一宮

七	葉 師 堂	一棟	<p>○桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、茅葺 宮殿 一基 棟札 一間宮殿、入母屋造、瓦棒入板葺 五枚</p> <p>造立宮殿天文六年丁酉七月十六日の記があるもの 造興慶長三稔 著雅 關茂陽覆吉日の記があるもの 葺天和三癸 亥 歲初冬吉金鳥の記があるもの 葺替享保十三戌申龍集中春吉且の記があるもの 屋禰替延享三 丙 稔三月吉祥日の記があるもの 三間社流造、銅板葺 六枚 ○附 棟札</p> <p>修造寛文第七 丁未 天秋八月初五日の記があるもの 元祿十七 甲 申 天三月大吉祥日の記があるもの 修覆享保拾叁 丙 午 歲秋八月大祥吉日の記があるもの 修覆元文三 戊 午 季四月初九日の記があるもの 修補寛延四 辛 未 歲四月十五日の記があるもの 造立明和八 竜 宿 辛 卯 歲極月初五日の記があるもの</p>	宗 本 寺	群馬県吾妻郡沢田村大字下沢渡	群馬県吾妻郡沢田村大字四万
八	玉村八幡宮本殿	一棟	<p>○一間社流造、銅板葺 二枚 棟札</p> <p>造立大永八年戊子九月□□日の記があるもの 葺納宝曆拾二 歲 六 月 吉祥日の記があるもの</p>	玉村八幡宮	群馬県佐波郡玉村町大字下新田	群馬県佐波郡玉村町大字下新田
九	出雲伊波比神社本殿	一棟	<p>○一間社流造、銅板葺 二枚 棟札</p> <p>葺納宝曆拾二 歲 六 月 吉祥日の記があるもの</p>	出雲伊波比神社	埼玉県入間郡毛呂山町大字前久保	埼玉県入間郡毛呂山町大字前久保
十	宝珠院観音堂	一棟	<p>○桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、茅葺 厨子 一基 一間厨子、入母屋造、本瓦形板葺 二枚 棟札</p> <p>外廻再建文政十一子年二月八日の記があるもの 修復天保十一 庚 子 年 二月の記があるもの</p>	宝 珠 院	千葉県印旛郡印西町小倉	千葉県印旛郡印西町小倉
十一	葛山落合神社本殿	一棟	<p>○一間社隅木入春日造、こけら葺 棟札 一枚 棟札</p> <p>安永六西曆六月廿四日の記がある</p>	葛山落合神社	長野県長野市大字入山	長野県長野市大字入山
十二	若一王子神社本殿	一棟	<p>○一間社隅木入春日造、檜皮葺 棟札 一枚 棟札</p> <p>承應三 甲 午 年十一月吉日の記がある</p>	若一王子神社	長野県大町市大字王子裏	長野県大町市大字王子裏

十三	国分寺三重塔	一基	<p>三周三重塔婆、銅板葺 棟札 五枚</p> <p>貞享乙丑天三月二日の記があるもの</p> <p>享保十一丙午天三月二十八日の記があるもの</p> <p>修覆延享五年辰三月七日の記があるもの</p> <p>葺替安永七戊天閏七月三日の記があるもの</p> <p>修覆文政二己卯歲閏四月吉祥日の記があるもの</p>	国分寺	長野県小県郡神川村大字国分	長野県小県郡神川村大字国分
十四	法住寺虚空藏堂	一棟	<p>桁行三周、梁間四周、一重、入母屋造、向拝一間、こけら葺 厨子 一基</p> <p>棟札 一間厨子、入母屋造、妻入、本瓦形板葺 三枚</p> <p>文明十八年丙卯月五日 囉宿の記があるもの</p> <p>延寶六年戊午七月吉日の記があるもの</p> <p>寶永七庚寅七月吉日の記があるもの</p>	法住寺	長野県小県郡丸子町東内区	長野県小県郡丸子町東内区
十五	中禅寺薬師堂	一棟	<p>桁行三周、梁間三周、一重、宝形造、茅葺 棟札 二枚</p> <p>修理寛政二庚戌十二月八日の記があるもの</p> <p>造立文化十三丙子三月十日の記があるもの</p>	中禅寺	長野県小県郡西塩田村大字前山	長野県小県郡西塩田村大字前山
十六	遠照寺釈迦堂	一棟	<p>桁行三周、梁間三周、一重、入母屋造、向拝一間、銅板葺 多宝小塔 一基</p> <p>三周多宝塔、瓦捧入板葺</p>	遠照寺	長野県上伊那郡三義村山室	長野県上伊那郡三義村山室
十七	福德寺本堂	一棟	<p>桁行三周、梁間三周、一重、入母屋造、こけら葺 棟札 四枚</p> <p>上葺貞享元甲子稔八月八日の記があるもの</p> <p>葺替享和元辛酉年卯月十五日の記があるもの</p> <p>文政八年酉四月八日の記があるもの</p> <p>葺替嘉永二己酉年五月十四日の記があるもの</p>	福德寺	長野県下伊那郡大鹿村大字大河原	長野県下伊那郡大鹿村大字大河原
十八	知識寺大御堂	一棟	<p>桁行三周、梁間四周、一重、寄棟造、茅葺 棟札 二枚</p> <p>造作慶長十四年己酉三月廿八日の記があるもの</p> <p>造立清源山大御堂の記があるもの</p>	知識寺	長野県更級郡上山田町上山田	長野県更級郡上山田町上山田

(既に重要文化財に指定した物件を解除し、改めて統合の上、一件として指定したもの)

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	鹿島神社宮	四棟	三間社流造、向拜一間、檜皮葺 桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、前面幣殿に接続、 檜皮葺 桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、前面拜殿に接続、 檜皮葺 桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、向拜一間、檜皮葺 附棟札 各建立元和五己未年雪月二日の記がある	鹿島神社宮	茨城県鹿島郡鹿島町大字宮中	茨城県鹿島郡鹿島町大字宮中
二	大山田神社	二棟	一間社流造、こけら葺 附棟札 修覆貞享三丙寅三月吉祥日の記がある	大山田神社	長野県下伊那郡下条村大字陽暲	長野県下伊那郡下条村大字陽暲
三	白山神社	四棟	一間社流造、檜皮葺 一間社流造、檜皮葺 一間社流造、檜皮葺 一間社流造、檜皮葺 附棟札 再造慶安元戊子大呂吉祥日の記があるもの 再造立寶曆八歳戊寅八月一日の記があるもの	白山神社	長野県西筑摩郡大桑村大字殿	長野県西筑摩郡大桑村大字殿
四	神明社	二棟	造立文亀元年辛酉の記があるもの 造立御社二字元弘二年歲次二月十二日の記があるもの	神明社	長野県北安曇郡神城村字三日市場	長野県北安曇郡神城村字三日市場

<p>本 殿</p> <p>諏訪社本殿</p>	<p>一間社切妻見世棚造、厚板葺 附棟札 一枚 天正十六戊子二月念三日の記がある</p> <p>一間社流見世棚造、厚板葺 附棟札 一枚 天正十六戊子季二月二十四日の記がある</p>		
-----------------------------	--	--	--

昭和 29 年度補助金交付表（4 半期別補助額）

目	補助額	第1~4半期 交付額	第2~4半期 交付額	第3~4半期 交付額	第4~4半期 交付額	備考
国宝其他建造物保存 修理費補助金	190,400,000 ^円	73,260,000 ^円	58,945,000 ^円	39,880,000 ^円	18,315,000 ^円	
国宝其他宝物類保存 修理費補助金	14,250,000	4,800,000	5,040,000	4,410,000	0	
法隆寺国宝其他保存 修理費補助金	39,900,000	20,250,000	12,150,000	6,500,000	1,000,000	
日光二社一寺国宝其 他保存修理費補助金	23,800,000	10,000,000	7,500,000	6,300,000	0	
平等院鳳凰堂建物保 存修理費補助金	11,000,000	3,510,000	3,510,000	2,340,000	1,640,000	
史跡名勝天然記念物 保存修理費補助金	12,350,000	3,800,000	5,300,000	3,250,000	0	
国宝其他防災施設費 補助金	48,947,000	19,305,000	17,929,000	11,075,000	638,000	
中尊寺宝物類收藏庫 建設費補助金	3,388,000	1,000,000	2,388,000	0	0	
無形文化財助成金	2,025,000	1,250,000	250,000	350,000	175,000	
国宝建造物其他災害 復旧費補助金	19,724,000	17,751,000	1,133,000	840,000	0	
計	365,784,000	154,926,000	114,145,000	74,945,000	21,768,000	

文化財保護委員会昭和二十九年度補助金交付一覽

文化財保護委員会昭和二十九年度補助金交付一覽（昭和三十一年三月）

補助金交付表 (府県別補助額及件数)

国設	宝費	其他補助	防災補助	施金	中尊寺宝物類	取蔵庫建設費	無形文化財	宝建造物其	他災害復旧	補助費	合計	
											交付額	件数
	370,000		3								970,000	4
	145,000		1								145,000	1
	190,000		2		3,388,000	1					3,578,000	3
							180,000	2			500,000	1
											880,000	3
	50,000		1								1,600,000	1
											1,750,000	3
	7,286,000		4								1,176,000	2
	200,000		1								32,886,000	9
	150,000		1								200,000	1
	30,000		1								3,550,000	3
	2,050,000		4				620,000	4			674,000	2
	550,000		1								12,382,000	11
	150,000		2				75,000	1			8,203,000	5
	100,000		1								8,203,000	5
	100,000		1								100,000	1
	2,950,000		2						2,727,000	5	4,510,000	5
	1,633,000		3								12,877,000	9
	2,156,000		5								8,183,000	7
	2,563,000		4								7,076,000	9
	2,103,000		4								4,307,000	7
	1,993,000		6						2,480,000	2	2,103,000	4
	1,010,000		5				100,000	1	175,000	2	11,937,000	14
	3,070,000		3						4,091,000	4	2,193,000	14
	4,042,000		2						2,323,000	28	29,093,000	18
	840,000		1				500,000	1			47,311,000	56
	480,000		2						641,000	1	7,650,000	5
	3,685,000		6						881,000	18	16,685,000	9
	400,000		1						916,000	3	70,763,000	42
									298,000	1	5,031,000	8
	3,630,000		3				150,000	1			669,000	3
											12,764,000	5
	3,069,000		1								1,310,000	7
									1,865,000	1	9,379,000	3
											1,865,000	1
	200,000		1				400,000	1			238,000	1
	650,000		1								4,440,000	4
	990,000		3						1,120,000	1	10,023,000	3
	135,000		2						280,000	2	8,940,000	5
	100,000		2						385,000	2	1,036,000	11
	90,000		1						385,000	1	485,000	4
									240,000	1	1,675,000	4
	887,000		2						833,000	3	940,000	2
	800,000		1								1,720,000	5
	100,000		1						84,000	1	800,000	1
											2,984,000	3
48,947,000	85	3,388,000	1	2,025,000	11	19,724,000	76	365,784,000	324			

文化財保護委員会昭和二十九年度補助金交付一覧

府 県 別	科 目	国 宝 其 他 建 造	国 宝 其 他 宝 物	法 隆 寺 国 宝 其	日 光 二 社 一 寺	平 等 院 鳳 凰 堂	史 跡 名 勝 天 然
		物 保 存 修 理 費 補 助 金	類 保 存 修 理 費 補 助 金	他 保 存 修 理 費 補 助 金	国 宝 其 他 保 存 修 理 費 補 助 金	建 物 保 存 修 理 費 補 助 金	記 念 物 保 存 修 理 費 補 助 金
							600,000 1
							500,000 1
		700,000 1					
		1,600,000 1					
		1,600,000 1					100,000 1
			176,000 1				1,000,000 1
		1,600,000 1			23,800,000 3		200,000 1
		3,400,000 2					
		644,000 1					
		9,608,000 2	104,000 1				
		7,535,000 2	118,000 2				
		7,978,000 2					
		4,410,000 4					
		7,200,000 2					
		6,550,000 4					
		4,620,000 2					300,000 1
		1,744,000 3					
		5,386,000 3	78,000 2				2,000,000 1
		350,000 2	558,000 4				
		21,626,000 5	306,000 6				
		19,332,000 5	6,614,000 19			11,000,000 1	4,000,000 1
		5,560,000 2					750,000 1
		14,200,000 2	364,000 3				1,000,000 1
		23,645,000 10	2,652,000 7	39,900,000 1			
		2,160,000 1	1,555,000 3				
			371,000 2				
		8,984,000 1					
		815,000 2	495,000 5				
		6,310,000 2					
			238,000 1				
		3,840,000 2					
		9,373,000 2					
		6,830,000 1					
			621,000 7				
							1,200,000 2
							700,000 1
		2,800,000 1					
總 計		190,400,000 70	14,250,000 63	39,900,000 1	23,800,000 3	11,000,000 1	12,350,000 13

文化財保護委員会昭和二十九年度補助金交付一覽

国宝其他建造物保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
秋田	神明社 観音堂	南秋田郡飯田川町飯塚	700,000	完
山形	観音寺 観音堂	西置賜郡白鷹町深山	1,600,000	
福島	薬師堂(田子常福院)	大沼郡新鶴村	1,600,000	
栃木	地藏院 本堂	芳賀郡益子町上大羽	1,600,000	
千葉	西願寺 阿彌陀堂	市原郡平三村平蔵	644,000	完
埼玉	喜多院 庫裡	川越市大字小仙波	3,200,000	完
〃	福德寺 阿彌陀堂	入間郡東吾野村	200,000	
東京	東照宮 社殿	台東区上野公園内	1,608,000	完
〃	根津神社 本殿、幣殿	文京区根津須賀町	8,000,000	
神奈川	仏殿及三重塔 (三溪園)	横浜市中区本牧三之谷	4,652,000	
〃	臨春閣外3棟 (〃)	〃	2,883,000	
新潟	蓮華峯寺 金堂、弘法堂	佐渡郡小木町	6,778,000	
〃	魚沼神社 神輿舎	小千谷市大字土川	1,200,000	
石川	尾崎神社 社殿	金沢市西町四番丁	500,000	完
〃	尾山神社 神門	〃 一番丁	150,000	完
〃	妙成寺 開山堂	羽咋郡上甘田村字滝谷	3,410,000	完
〃	那谷寺 三重塔	江沼郡那谷村字那谷	350,000	
福井	丸岡城 天守	坂井郡丸岡町	4,400,000	完
〃	神宮寺 本堂	小浜市神宮寺	2,800,000	完
山梨	大善寺 本堂	東山梨郡勝沼町柏尾	4,000,000	完
〃	雲峰寺 本堂	〃 神金村	2,000,000	
〃	東光寺 本堂	甲府市東光寺町	200,000	
〃	清白寺 仏殿	山梨市三ヶ所	350,000	完
長野	遠照寺 釈迦堂	上伊那郡三義村山室	2,670,000	
〃	福德寺 本堂	下伊那郡大鹿村大河原	350,000	完
〃	新海三社 神社宝庫	佐久郡田口村	1,600,000	
岐阜	国分寺 本堂	高山市総和町	815,000	完
〃	久津八幡神社 拜殿	益田郡萩原町	630,000	完
〃	日龍峰寺 塔婆	武儀郡下之保村	299,000	
愛知	長光寺 塔婆	中島郡大里村	3,920,000	完
〃	金蓮寺 阿彌陀堂	幡豆郡横須賀村	1,050,000	完
〃	甚目寺 三重塔	海部郡甚目寺町	416,000	
三重	猪田神社 本殿	上野市猪田	200,000	
〃	大村神社 宝殿	名賀郡阿保町	150,000	
滋賀	延暦寺 根本中堂廻廊	大津市坂本本町	17,080,000	完
〃	石山寺 鐘楼	〃 石山寺辺町	776,000	完
〃	正明寺 本堂	蒲生郡日野町大字松尾	2,080,000	完
〃	志那神社 本殿	栗田郡常盤村大字志那	1,320,000	完
〃	彦根城天秤櫓、太鼓門	彦根市金亀町	370,000	
京都	大報恩寺 本堂	京都市上京区五辻通六軒町	6,192,000	完
〃	二条城二之丸御殿大広間	〃 中京区二条通	4,290,000	完
〃	教王護国寺大師堂、宝蔵	〃 下京区九条町	4,950,000	
〃	高台寺 霊屋	〃 東山区八坂鳥居前下ル	2,700,000	
〃	醍醐寺 五重塔	〃 伏見区醍醐東大路町	1,200,000	
大阪	金剛寺 食堂	河内長野市天野町	4,580,000	
〃	多治速比売神社 本殿	泉北郡久世村和田	980,000	
兵庫	円教寺 大講堂	姫路市書写	7,200,000	

文化財保護委員会昭和二十九年補助金交付一覧

県別	名称	所在地	補助額	備考
兵庫	石峯寺塔婆	美養郡上淡河村字神影	7,000,000	
奈良	極楽院本堂	奈良市中院町	2,668,000	完
〃	法華寺本堂	奈良市法華寺町	2,730,000	完
〃	十輪院本堂、南門	〃 十輪院町	3,015,000	
〃	松尾寺本堂	生駒郡矢田村	6,050,000	
〃	丹生神社本殿	添上郡柳生村	490,000	完
〃	福智院本殿	奈良市福智院町	5,650,000	
〃	靈山寺三重塔	生駒郡富雄町大字中	1,400,000	完
〃	春日大社本殿共10棟	奈良市春日野町	950,000	
〃	高鷲神社本殿	南葛城郡葛城村	339,000	完
〃	法華寺鐘樓、南門	奈良市法華寺町	353,000	
和歌山	八幡神社拜殿(南広)	有田郡南広村上中野	2,160,000	完
島根	松江城天守	松江市殿町	8,984,000	
岡山	岡山城月見櫓	岡山市山下	350,000	
〃	八幡神社本殿(吉川)	上房郡吉川村	465,000	
広島	敵島神社本社幣殿外六廡	佐伯郡宮島町	6,160,000	完
〃	不動院鐘樓	広島市牛田町	150,000	
香川	本山寺本堂	三豊郡本山村寺家	3,540,000	完
〃	高松城月見櫓外2棟	高松市内町	300,000	
愛媛	太山寺本堂	松山市太山寺町	4,220,000	完
〃	大山祇神社拜殿	越智郡宮浦村	5,153,000	
高知	高知城天守	高知市丸ノ内	6,830,000	完
鹿児島	八幡神社本堂	伊佐郡大口町大田	2,800,000	完
	計	70件	190,400,000	

備考 1. 国宝其他建造物保存修理費の昭和28年度よりの繰越施行額
石川県 那谷寺鐘樓 補助額 300,000円

国宝其他宝物類保存修理費補助金

県別	所有者	名称	所在地	補助額	備考
茨城	鹿島神宮	直刀、拵金銅黒漆彫太刀	鹿島郡鹿島町大字宮中	176,000	
東京	大倉集古館	普賢菩薩騎象像	港区赤坂葵町3	104,000	
神奈川	清浄光寺	時衆過去帳、六時居讃、安倉問答	藤沢市西富	118,000	
愛知	妙興寺	白衣観音像	中島郡大和村	38,000	
〃	大樹寺	如意輪観音像	額田郡岩津町	40,000	
三重	成願寺	仏涅槃図	一志郡倭村	64,000	
〃	専修寺	善信上人絵伝	河芸郡一身田町大字一身田	158,000	
〃	金剛証寺	九鬼善隆像	度会郡四郷村	23,000	
〃	神宮司庁	古文尚書	宇治山田市浦田町	313,000	
滋賀	延暦寺	嵯峨天皇宸翰光定戒牒	大津市坂本本町	55,000	
〃	近江神宮	崇福寺塔志礎納置品	〃 錦織町	65,000	
〃	石山寺	不空三蔵表制集卷	〃 石山寺辺町	186,000	
〃	〃	叡山大師伝			
〃	〃	法花玄賛義決			
〃	〃	大般若音義中卷			
京都	歓喜光寺	一遍上人絵伝	京都市東山区東大路通	400,000	
〃	知恩院	金各園桃李園図	〃	65,000	

県別	所有者	名称	所在地	補助額	備考	
京都	教王護国寺	毘沙門天立像	シ 下京区四ツ塚通	73,000		
	妙法院	千手観音立像	シ 東山区東大路通	3,420,000		
	般舟院	不動明王坐像	シ 上京区今出川通	103,000		
	禅林寺	波濤図	シ 左京区永観堂町	329,000		
	平等院	阿弥陀如来坐像	宇治市宇治蓮華	879,000		
	シ	シ	天蓋	シ	84,000	
	シ	蟹満寺	釈迦如来坐像	相楽郡棚倉村	104,000	
	シ	大報恩寺	木造天蓋	京都市上京区五辻通六軒町	43,000	
	シ	広隆寺	聖徳太子半脚像	シ 右京区大奏峰岡	40,000	
	シ	馬法寺	白糸威褰取鎧	町 左京区鞍馬町	250,000	
	シ	大惣仲間	御室御配抄	シ 右京区宇多野上	59,000	
	シ	陽明文庫	御室御曆記目錄	野各町		
	シ	鞍馬寺	鞍馬寺経塚遺跡の内鉄宝塔	シ 左京区鞍馬本町	85,000	
	シ	神光院	白描絵料紙金光明経	シ 上京区西賀茂神光院町	76,000	
	シ	観喜光寺	絹本着色 一遍上人絵伝	シ 東山区東大路通	420,000	
	シ	東福寺	東福寺伽藍図	シ 本町通	50,000	
	シ	清凉寺	釈迦如来立像	シ 右京区嵯峨藤ノ木町	100,000	
	シ	シ	十大弟子立像	シ	34,000	
	兵庫	温泉寺	十六善神像	城崎郡城崎町湯町	55,000	
	シ	浄土寺	真言八祖像	加東郡小野町浄谷	232,000	
シ	妙法寺	毘沙門天立像	神戸市須磨区妙法寺	77,000		
奈良	子島寺	両界曼荼羅図	高市郡高取町観学寺	747,000		
シ	シ	十一面観音立像	シ	273,000		
シ	東大寺	地藏菩薩立像	奈良市雑司町	190,000		
シ	秋篠寺	十一面観音立像	生駒郡平城村	156,000		
シ	薬師寺	薬師三尊等	奈良市西ノ京町	1,086,000		
シ	金峯山寺	大和国金峯山経塚出土品	吉野郡吉野町	60,000		
シ	唐招提寺	厨子入釈迦如来立像	奈良市五条町	140,000		
和歌山	金剛峯寺	一切経(中尊寺経)	伊都郡高野町	710,000		
シ	シ	一切経(荒川経)	シ	680,000		
シ	シ	善女龍王像	シ	165,000		
鳥取	長楽寺	不動明王立像	日野郡日野村	176,000		
シ	観音寺	千手観音立像	}	195,000		
シ	安養寺	十一面観音立像		東伯郡栄村	114,000	
岡山	法界院	十一面観音立像		英田郡林野町大字林	116,000	
シ	余慶寺	聖観音立像	岡山市三野	110,000		
シ	高山寺	シ	邑久郡今城村	45,000		
シ	シ	地藏菩薩立像	後月郡高屋町	110,000		
徳島	八銚神社	不動明王立像	シ	238,000		
福岡	大宰府天満宮	二品家政所下文	那賀郡長生村	66,000		
シ	国玉神社	翰苑巻第卅	筑紫郡大宰府町	100,000		
シ	稻元区	銅板法華経銅管	築上郡岩屋村	60,000		
シ	承天寺	滑石製経筒	宗像郡河東村	85,000		
シ	正覚院	釈迦如来及両脇侍像	福岡市上辻堂町	103,000		
シ	浮岳神社	聖観音立像	シ 東油山	70,000		
シ	シ	仏坐像(伝薬師如来)	糸島郡福吉村	137,000		
シ	シ	地藏菩薩立像	シ			
	計	63件		14,250,000		

法隆寺国宝其他保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
奈良	法隆寺	生駒郡斑鳩町	39,900,000	

日光二社一寺国宝其他保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
栃木	二荒山神社	日光市山内	2,355,000	
〃	東照宮	〃	11,900,000	
〃	輪王寺	〃	9,545,000	
	計	3件	23,800,000	

平等院鳳凰堂建物保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
京都	平等院	宇治市宇治蓮華	11,000,000	

中尊寺宝物類収蔵庫建設費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
岩手	中尊寺	西磐井郡平泉村	3,388,000	

史跡名勝天然記念物保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
北海道	五稜郭跡	函館市亀田	600,000	
宮城	旧有備館及庭園	玉造郡岩出山町	500,000	
福島	会津松平氏庭園	若松市徒之町	100,000	
栃木	日光杉並木街道	日光市	200,000	
茨城	常磐公園	水戸市常磐町	1,000,000	
長野	松本城	松本市北深志	300,000	
愛知	名古屋屋城跡	名古屋市西区南外堀町	2,000,000	
京都	鹿苑寺(金閣寺)庭園	京都市上京区金閣寺町	4,000,000	
大阪	大阪城跡	大阪市東区馬場町	750,000	
兵庫	姫路城跡	姫路市本町	1,000,000	
長崎	出島和蘭商館跡	長崎市出島町	1,100,000	
〃	高島秋帆旧宅	〃 東小島町	100,000	
熊本	熊本城跡	熊本市本丸町	700,000	
	計	13件	12,350,000	

国宝其他防災施設費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
栃木	(建造物防災施設) 東照宮	日光市山内	3,069,000	
〃	輪王寺	〃	2,457,000	

県別	名称	所在地	補助額	備考
栃木	二荒山神社	日光市山内	613,000	
東京	西明寺	芳賀郡益子町	1,147,000	
福島	正福寺	北多摩郡東村山町	1,000,000	
山梨	丸岡城	坂井郡丸岡町霞	2,800,000	
長野	金桜神社	中巨摩郡宮本村	818,000	
静岡	武田八幡神社	北巨摩郡神山村北宮地	315,000	
愛知	善光寺	長野市長野元善町	1,200,000	
岐阜	智識寺	更級郡上山田村	320,000	
愛知	富士山本宮浅間神社	富士宮市大宮	1,400,000	
岐阜	高田寺	西春井郡師勝村	686,000	
岐阜	大恩寺	宝飯郡御津町	500,000	
滋賀	大密蔵院	春日井市熊野町	547,000	
京都	長命寺	甲賀郡島村	2,290,000	
大阪	大報恩寺	京都市上京区五辻通	3,520,000	
兵庫	観心寺	南河内郡川上村	840,000	
奈良	斑鳩寺	揖保郡斑鳩町	80,000	
島根	樞原神社	高市郡萩傍町	1,100,000	
広島	出雲大社	簸川郡大辻町	3,250,000	
愛媛	菅田庵	松江市菅田町	350,000	
大分	嚴島神社	佐伯郡宮島町	3,069,000	
	松山城	松山市堀ノ内町	650,000	
	宇佐神社	宇佐郡宇佐町	847,000	
	小計	24件	32,868,000	
	(宝物保存施設)			
東京	普濟寺	立川市柴崎町	400,000	
山梨	常説寺	中巨摩郡吉沢村	500,000	
岐阜	願興寺	可児郡御崇町	1,440,000	
三重	蓮光院	津市栄町	450,000	
滋賀	普賢寺	多気郡佐奈村	350,000	
京都	園城寺	大津市別所	400,000	
兵庫	法性寺	京都市東山区本町通	522,000	
奈良	成祖寺	三原郡八木村	400,000	
岐阜	金剛山寺	生駒郡矢田村	500,000	
高知	千日寺	磯城郡川東村	200,000	
	大乗院	香美郡山北村	700,000	
	小計	12件	240,000	
	(宝物防災施設)			
埼玉	等覚院	比企郡野本村	150,000	
東京	根津美術館	港区赤坂青山南町	600,000	
神奈川	大山寺	中郡大山町大山	550,000	
岐阜	横蔵寺	揖斐郡横蔵村	440,000	
和歌山	道成寺	日高郡矢田村	400,000	
	小計	5件	2,140,000	
	(興福寺収蔵庫建設)			
奈良	興福寺	奈良市登大路町	1,385,000	
	(史跡名勝天然記念物保存施設)			
北海道	フゴツベ洞窟	余市郡余市町	270,000	

県別	名称	所在地	補助額	備考
北海道	フゴツベ洞窟	余市郡余市町	50,000	
シ	釧路のタンチヨウ及び繁殖地	釧路郡釧路村 他	50,000	
青森	蕪島うみねこ繁殖地	八戸市鮫町	145,000	
岩手	毛越寺跡	西磐井郡平泉村	100,000	
シ	胆沢城跡	胆沢郡佐倉河村	90,000	
福島	田二本松藩戒石銘	安達郡二本松町	50,000	
群馬	山上碑及び古墳	多野郡八幡村	200,000	
千葉	大東村海浜植物群落	長生郡大東村	30,000	
東京	馬場大門のケヤキ並木	北多摩郡府中町	50,000	
新潟	春日山城跡	中頸城郡春日村	50,000	
シ	佐渡国分寺跡	佐渡郡直野村	100,000	
富山	魚津埋没林	魚津市	100,000	
石川	狐山古墳	江沼郡勅使村	100,000	
福井	西山光照寺跡	足羽郡一乗谷村	150,000	
長野	龍岡城跡	南佐久郡田口村	60,000	
シ	躍場湿原植物群落	諏訪市四賀	126,000	
岐阜	久々利村サクライソウ自生地	可児郡久々利村	30,000	
静岡	遠江国分寺跡	磐田市中央町	150,000	
シ	湧玉池	富士宮市大宮	80,000	
愛知	入海貝塚	知多郡東浦村	85,000	
シ	大高城跡	シ 大高町	75,000	
シ	瓜郷遺跡	豊橋市瓜郷町	100,000	
三重	明合古墳	安濃郡明合村	60,000	
シ	西阿倉川のアイナシ自生地	四日市市	50,000	
シ	東阿倉川のイヌナシ自生地			
シ	御池沼沢植物群落	三重郡三重村	100,000	
奈良	高取城跡	高市郡高取町	100,000	
シ	石舞台古墳	シ 高市村	400,000	
島根	玉若酢命神社の八百杉	周吉郡磯村	30,000	
香川	城山	坂出市・綾歌郡	200,000	
高知	土佐のオナガドリ	高知県	50,000	
福岡	志登支石墓群	糸島郡前原町	85,000	
シ	大宰府神社のクス			
シ	大宰府神社のヒロハチシヤの木	筑紫郡大宰府町	50,000	
佐賀	横田下古墳	東松浦郡浜崎町	50,000	
シ	谷口古墳	シ 玉島村	50,000	
長崎	平戸和蘭商館跡	北松浦郡平戸町	90,000	
大分	松屋寺の蘇鉄	速見郡日出町	40,000	
宮崎	西都原古墳群	児湯郡妻町・上穂北村	800,000	
鹿児島	鹿児島県ツル渡来地	阿久根市・米津町・高尾野町	100,000	
小計		野田村・江田村・三笠村		
		39 件	4,496,000	
	(史跡名勝天然記念物防災施設)			
岐阜	高山陣屋跡	高山市	653,000	
滋賀	草津宿本陣	草津市	380,000	
	小計	2 件	1,033,000	
	(埋蔵文化財収蔵庫建設)			
長野	尖石石器時代遺跡	諏訪郡豊平村	450,000	
静岡	登呂遺跡	静岡市	473,000	

県別	名称	所在地	補助額	備考
	小計	2件	923,000	
	合計	85件	48,947,000	

備考 国宝其他防災施設費補助金の昭和29年度よりの繰越施行額
 長野県 平出遺跡取蔵庫建設費 補助額 320,000円

無形文化財助成金

県別	名称	交付先	補助額	備考
秋田	紫根染・茜染	栗山文次郎	109,000	
シ	能代春慶	石岡庄寿郎	71,000	
東京	黄八丈	黄八丈技術保存会	100,000	
シ	長板中	長板中型本染技術保存協会	120,000	
シ	能	能楽三役養成会	300,000	
シ	全国郷土芸能公開	財団法人 日本青年館	100,000	外50,000円 文部省芸術課 より補助
新潟	小千谷縮	小千谷縮布技術保存会	75,000	
三重	伊勢型紙	伊勢型彫刻組合	100,000	
大阪	文楽	因会、三ツ和会	500,000	
島根	和銅	島根県教育委員会	150,000	
香川	菟醬・存清	香川県教育委員会	400,000	
	計	11件	2,025,000	

国宝建造物其他災害復旧費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
(建造物災害復旧)				
福井	明通寺本堂	小浜市門前	2,480,000	
愛知	八富吉建速神社本殿	海部郡蟹江町須成	1,640,000	
シ	信光明寺観音堂	額田郡岩津町	840,000	
滋賀	金剛輪寺本堂	愛知郡奏川村	2,720,000	
京都	二条城唐門外3棟	京都市中京区二条通堀川	240,000	
奈良	南明寺本堂	添上郡大柳生村	160,000	
シ	鳳園寺廟堂	吉野郡黒滝村	305,000	
和歌山	法音寺本堂	有田郡岩倉村岩野河	240,000	
山口	今入幡神社本殿拜殿 楼門	山口市大字上宇野	1,865,000	
高知	竹林寺本堂(文殊堂)	高知市五台山	1,120,000	
	小計	10件	11,610,000	
(史跡名勝天然記念物災害復旧)				
福井	万徳寺庭園 (万徳寺のヤマモミジ)	小浜市	70,000	
シ	宅良村伊藤氏庭園	南条郡宅良村	70,000	
シ	粟野村柴田氏庭園	敦賀郡粟野村	70,000	
三重	北畠氏館跡庭園	一志郡気多村	70,000	
シ	旧崇広堂	上野市	105,000	
滋賀	崇福寺跡	大津市滋賀里町	776,000	
シ	兵主神社庭園	野洲郡兵主村	285,000	
京都	詩仙堂	京都市左京区一乗寺門口町	84,000	
シ	霊雲院庭園	シ 右京区花園妙心寺町	280,000	

県別	名称	所在地	補助額	備考
京都 兵庫 奈良 和歌山 鳥取 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 鹿兒島	仁和寺御所跡	京都市右京区御室大内	630,000	
	旧二条離宮(二条城)	〃 中京区二条通堀川	280,000	
	多田院	川辺郡多田村	641,000	
	頭塔	奈良市高畑町	70,000	
	当麻寺中之坊庭園	北葛城郡当麻村	70,000	
	新宮藺沢浮島植物群落	新宮市	420,000	
	ハマナス自生南限地帯	気高郡末恒村	298,000	
	怡土城跡	糸島郡怡土村	140,000	
	旧亀石坊庭園	田川郡彦山村	140,000	
	横田下古墳	東松浦郡浜崎町	195,000	
	基肄城跡	佐賀県三養基郡基山村 福岡県筑紫郡山口村	190,000	
	高島秋帆旧宅	長崎市東小島町	385,000	
	熊本城跡	熊本市本丸町	240,000	
	白杵磨崖仏	白杵市、北海郡南津留村	175,000	
	犬飼石仏	大野郡犬飼町	168,000	
	咸宣園跡塚	日田市	490,000	
	隼人塚	始良郡隼人町	84,000	
小計	26件	6,426,000		
(建造物防災施設災害復旧)				
滋賀 京都 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 奈良	長命寺	蒲生郡島村	310,000	
	大徳寺	京都市上京区紫野大徳寺町	32,000	
	鹿苑寺	京都市上京区金閣寺町	11,000	
	正伝寺	〃 西賀茂鎮守庵町	15,000	
	由岐社	〃 左京区鞍馬本町	35,000	
	妙心寺	〃 右京区花園妙心寺町	25,000	
	仁和寺	〃 御室大内	6,000	
	天龍寺	〃 伏見区醍醐東大路町	14,000	
	松尾神社	相楽郡高麗村	8,000	
	二条城	京都市中京区二条通堀川	24,000	
	建仁寺	〃 東山区東大路通	8,000	
	高台寺	〃 八坂鳥居前下ル	8,000	
	南禅寺	〃 左京区南禅寺福池町	11,000	
	稻荷神社	〃 伏見区深草藪ノ内	9,000	
	醍醐寺	〃 醍醐東大路町	13,000	
	上醍醐寺	〃	45,000	
	三本願院	〃 左京区大原白井町	25,000	
	西知恩院	〃 中京区堀川通	6,000	
	勸修寺	〃 東山区新橋通	15,000	
	西芳若寺	〃 山科勸修寺	15,000	
	般若大寺	〃 右京区松尾神ヶ谷町	14,000	
	東春日野社	奈良市般若寺町	9,000	
	春興福師書院	〃 雑司町	52,000	
	新福極	〃 春日野町	40,000	
	〃 登大路町	48,000		
	〃 高畑町	28,000		
	〃 福智院町	9,000		
	〃	9,000		
	〃 中院町	18,000		

県別	名称	所在地	補助額	備考
奈良	十輪院	〃 十輪院町	9,000	
	崇道天皇神社	〃 西紀寺町	9,000	
	伝香寺	〃 小川町	9,000	
	不退寺	〃 法蓮町	9,000	
	法華寺	〃 法華寺町	18,000	
	海龍王寺	〃	9,000	
	小計 (宝物保存施設災害復旧)	35 件	925,000	
京都	蟹満寺	相楽郡棚倉村	295,000	
	青蓮院	京都市東山区粟田口三条坊町	105,000	
	隣華院	〃 右京区花園妙心寺町	70,000	
和歌山	八幡神社神輿庫	那賀郡那賀村	256,000	
	小計 (宝物災害復旧)	4 件	726,000	
福井	意足寺所蔵	大飯郡佐分利村	37,000	
	木造千手観音立像1軀附 千手千眼陀羅尼經1卷			
	合計	76 件	19,724,000	

昭和二九年度、国立美術館、博物館新収品目録

国立近代美術館

村娘	松水	岸田劉生
を待つ女	油絵	中村琢二
少年道化師	油絵	前田寛治
風景外九一点	油絵	三岸好太郎
春の影	油絵	古賀春江
異和	油絵	明治初期洋画
平海	油絵	中沢弘光
樹風	油絵	川口軌外
もたれて立つ人	油絵	内田巖
裸体美人	油絵	福沢一郎
雨の海	日本画	鍋井克之
朝夫人像	日本画	万鉄五郎
悲しき鹿	油絵	小野竹喬
彫刻	油絵	小倉遊亀
工藝	油絵	上村松篁
獅子文小箱	油絵	加山又造
花下月影	油絵	平福百穂
かきつばた	油絵	藤川勇造
露	油絵	清水南山

東京国立博物館

雪の追憶	油絵	中沢弘光
行春	油絵	小糸源太郎
尼寺の境内	油絵	アマンダ・ドレオン
婦人像	他(油絵三二点)	古賀春江
高遠山水	紙本淡彩	池大雅筆 一幅
京名所扇面	金地紙本着色	狩野元秀筆 一面
或る日の太平洋	絹本着色	横山大観筆 一
樹下美人	紙本着色	川面義雄模 一幅
東都浮絵日本橋	横大判錦絵	昇亭北寿筆 一枚
山水	紙本金地墨画	松村呉春筆 六曲一
山水	紙本淡彩	彭城百川筆 六曲一
蓮鷺	紙本墨画	高橋草坪筆 一幅
胡粉地	切	伝寂蓮筆 平安時代
下絵朗詠集	切	藤原公任筆 平安時代
癡絶道冲墨蹟	切	宋時代
鄭板橋書懷素自叙帖	刻	清時代
薬師寺東塔水煙模造	石膏造	石造 一組 現代
観音菩薩立像	木造	石造 一軀 現代
女	石膏造	石造(一点) 明治時代
金工	金銅装塔婆文笈	一腰 室町時代
金銅塔	鈴	一口 鎌倉時代
銅虎香炉	香取秀真	現代
刀剣		

陶磁

粉彩花瓶	清時代
色絵人物図鉢	江戸時代
緑地金彩耳付瓶	清時代
釉裏紅彩双鳥図瓶	清時代
漆工	
波に千鳥嵌物火鉢	木内喜八 一個 明治時代
人物漆絵膳	五枚 江戸時代
帷子	一領 江戸時代
草羽織	一領 江戸時代
草羽織	一領 江戸時代
ブア(礼装用纏布)	一枚 江戸時代
ブア(礼装用纏布)	一枚 江戸時代
スリムット(肩衣)	一枚 江戸時代
タムパン(雲船布)	一枚 江戸時代
タムパン(シ)	一枚 江戸時代
越後上布	一反 現代
縫箔(能衣裳)	一領 江戸時代
イカット織屍衣	一枚 江戸時代
イカット織サロン(腰衣)	一枚 江戸時代
イカット織スリムット(肩衣)	一枚 江戸時代
サロン(ラウ、コム)	一枚 江戸時代

銘平田春寛慎製文政十一戊辰子日応需大聖寺公

昭和二九年度、国立美術館、博物館新収品目録

(守屋コレクション)

大	般	若	經	卷第二百五十	一	帖			
和銅五年ノ奥書アリ									
大	般	若	經	卷第三百一	一	帖			
卷第三百十五									
卷第三百六十八									
卷第四百六十九									
〔和銅経補写本〕									
大	般	若	經	卷第五百二十二	一	卷			
天平二年三月上旬書写ノ奥書アリ									
大	般	若	經	卷第五百十四	一	卷			
天平二年三月書写ノ奥書アリ									
大	般	若	經	卷第三百十九	一	卷			
天平七年四月十五日ノ奥書アリ									
阿	難	四	事	經	一	卷			
〔天平十二年三月十五日正三位藤原夫人願經〕									
続	高	僧	伝	卷第二八	一	卷			
〔天平十二年五月一日光明皇后御願經〕									
〔東大寺印〕ノ朱印アリ									
長	者	子	制	經	一	卷			
〔天平十二年五月一日光明皇后御願經〕									
摩	訶	僧	祇	律	卷第卅八	一	卷		
〔天平十二年五月一日光明皇后御願經〕									
虛	空	孕	菩	薩	經	卷下	一	卷	
〔天平十二年五月一日光明皇后御願經〕									
小	品	般	若	經	卷第九	一	卷		
〔天平十二年五月一日光明皇后御願經〕									
根本説一切有部苾芻尼毗奈耶 卷第九									
〔天平十二年五月一日光明皇后御願經〕									
持	心	經	卷第四	一	一	卷			
〔天平十二年五月一日光明皇后御願經〕									
天平勝宝七歳九月三日ノ追跋アリ									
大	威	徳	陀	羅	尼	經	卷第十五	一	卷
〔天平十二年五月一日光明皇后御願經〕									

紫紙金字

千	手	千	眼	陀	羅	尼	經	残	卷	一	卷
〔天平十三年七月十五日支防願經〕											
大	般	若	經	卷第二百三十二	一	卷					
天平十三年七月十八日書写ノ奥書アリ											
梵	網	經	下	卷	一	卷					
〔天平勝宝九歳三月二十五日僧雲願經〕											
〔高山寺〕ノ朱印アリ											
浴	像	經	大石毛人筆	一	一	卷					
天平宝字五年二月二十五日書写校合ノ奥書アリ											
賢	劫	經	卷第一行品第二	一	一	卷					
〔天平宝字五年十月三日光覺願經〕											
説一切有部発智大毗婆沙論 卷第一百十六											
〔天平宝字六年四月八日僧光覺願經〕											
瑜	伽	師	地	論	卷第二十一	一	卷				
〔神護景雲元年九月五日行信願經〕											
〔法隆寺一切経〕ノ黒印アリ											
大	般	若	經	卷第三百九十五	一	卷					
宝龜三年山脊野中写トアリ											
〔西寺政所〕ノ黒印アリ											
大	方	等	大	集	經	卷第六残卷	一	卷			
〔東大寺印〕ノ朱印アリ											
阿	毗	達	磨	俱	舍	論	卷第十六	一	卷		
〔元興寺印〕ノ朱印アリ											
大	般	若	經	卷第十五	二	卷					
卷第四百七十七											
観自在菩薩如意輪瑜伽法要 残 卷											
永保二年移点、寛治二年受学ノ奥書アリ											
南	海	寄	歸	内	法	伝	卷第四	残	卷	一	卷
卷第一、百九十二											
卷第二、百三十一											
卷第三、百九十五											
〔藥師寺経〕											
大	般	若	經	卷第二	三	卷					
観世音三昧経											
夾	註	法	華	經	卷第七	一	卷				
華嚴經 卷第二十箇簡											

大方広仏華嚴經 卷第十七
方広大莊嚴經 卷第九
如来莊嚴智慧光明入一切仏境界經 卷下

法華經法師品
造寺料物注文断簡
紙背ニ写経料紙充張アリ

大毗盧遮那成仏經 卷第六
註楞伽經 卷第一
自卷第四十一
至卷第四十四
卷第五十一
卷第五十三

華嚴經 卷第六
貞觀十九年、元慶三年儀遠校点ノ奥書アリ

大般若經 卷第四百八十四
華嚴經 卷第三
第四十七

「神護寺」ノ朱印アリ
大寶積經 卷第四十六
「神護寺」ノ朱印アリ

聖善住意天子所問經 卷中
「神護寺」ノ朱印アリ

金光明最勝王經註釈 明一撰
大般若經 卷第二十

紙背ニ四十八願ノ名次第アリ
法華經 卷第八断簡

朱書ノ註記アリ
法華經 卷第八断簡
（寛治二年七月二十七日藤原師通願経）

大唐西域記 卷第一
唐和四年四月三日書写ノ奥書アリ

大般若經 卷第二百二十八
卷第五百三十二（七寺）
卷第六百

承安五年書写ノ奥書アリ

昭和二九年度、国立美術館、博物館新収品目録

紺紙金字 大般若經 卷第二百三十七
軸木ニ仁平辛未四月福日乙益製トアリ

阿彌陀經 卷第十七
見返ニ繪アリ

大安般守意經（神護寺経）
卷第十七
卷第十八（神護寺経）
卷第二十

法華經 卷第五
見返ニ繪アリ

交書大弘明集 卷第十三（中尊寺経）
交書大悲分陀利經 卷第六（中尊寺経）
一字蓮台法華經 如来神力品 囑累品
最勝王經註釈 卷第四断簡（飯室切）
卷第四十

華嚴經 卷第四十
奥ニ南天竺王進梵本経願文竝ニ曆応三年卯月十八日ノ追記アリ

八名普密陀羅尼經
貞応三年行福書写ノ奥書アリ

「方便智院」ノ朱印アリ
東大寺新禅院地藏菩薩像内奉納法華經
各品ニ正応元年結縁者ノ奥書アリ

華嚴七科章義瓊記 卷第三
擬然筆

華嚴孔目章發悟記 卷第二十一
擬然筆
弘安十年七月九日書写ノ奥書アリ

紙背ニ正応四年擬然筆ノ南山教義章卷第二十九アリ
尊円親王御筆伝法次第
曆応元年十二月二十九日ノ御奥書アリ

大般若經 卷第五百十三残卷
天平二年三月都菩尼鳥写

大智度論 卷第六十九
天平六年十一月既多寺衣縫造男国写

六七

昭和二十九年度、国立美術館、博物館新収品目録

瑜伽師地論	卷第六十五	天平十六年三月讚岐国山田郡舍人国足写
大般若若經	卷第三百八十	天平二十一年三月恩侶
華嚴	卷第六十五	天平勝宝六年十一月尼真証写
十誦律第四誦	卷第二十五	神護景雲二年称徳天皇御願經
般若若心經	卷	
轉婆沙論	卷第一殘卷	
涅槃經	卷第四	
呪願經	卷上	
興起行經	卷上	灌頂十二万神王護比丘尼咒經
稱讚淨土仏撰受經	卷	
無所菩薩經	卷第四	具多樹下思惟十二因縁經
般若若心經	卷	
宝網經	卷	
信字印がある	卷	
華嚴	卷第十五	法隆寺一切經の印がある
無言童子經	卷上	
力莊嚴三昧經	卷	東大寺印がある
月燈三昧經	卷第十一	
師子吼經	卷	昭乗の跋がある
勝曼經	卷	寶窟 卷下殘卷
根本説一切有部毗奈耶雜事	卷第三十二	茶毘紙經
大般若若經	卷第六十	
維摩經	卷第五	

註法華經	卷第六	延暦七年五月粟野寺延命願經
普法華經	卷	修禪要訣
造塔延命功德經	卷	承保三年六月二十二日写
自誓自戒作法	卷	承德二年八月二十九日延意写
保安四年五月二十四日写	卷	紙背に保安年間の請願論文がある
十入道儀軌	卷	保安二年四月六日写
大般若若經	卷第四百五十一	永久二年九月隆快写
大般若若經	卷第四百四十六	
大般若若經	卷第四百四十二	
大般若若經	卷四百九十二	
大般若若經	卷五百二十七	
大般若若經	卷五百五十七	
保延四年写	卷	
瑜伽祇經	卷	久安五年六月十一日写
大般若若經	卷第一百十六	仁平四年願空写
大慈恩寺三蔵法師伝	卷	久寿三年二月十一日説了頼長とある
大般若若經	卷第三十	興福寺浄勝写
大般若若經	卷第五百二十一	治承二年十一月廿三日円盛の奥書がある
心地観經	卷第一	治承三年移点の奥書がある
成唯識論述記	卷第二十殘卷	治承四年点了の奥書がある
法華經疏記	卷第八	
大般若若經	卷第三百四十三	

西大寺印がある

辨中辺論述記 卷上

金剛般若經集驗記 卷中殘卷

涅槃經疏斷簡 卷第二

紙背に塔印がある

毘婆沙論 殘卷

菩提場所説一字頂輪王經 卷第二

興起行經 卷上

法隆寺一切經の印がある

法華經譬喻品 卷第一

一切如来真実大乘現証三昧大教王經 卷第一

大毗盧遮那成仏經 卷第一

仏母大孔雀明王經 卷第一

北野寿命院清如の印がある

小品般若經 卷第二

松尾一切經の印がある

大般若經 卷第二百三十三

法華經方便品 卷第一

法華經不輕菩薩品 卷第一

阿彌陀經 卷第一

道覚親王の奥書がある

金字觀無量壽經 卷第一

阿彌陀經 卷上

菩薩本行經 卷上

建久五年四月三日色定法師良祐写

無所著菩薩卷上

一切經音義 卷第二十二

往生西方浄土瑞応刪伝

正治元年十二月二十日写

大般若經 卷第四百十二

建曆元年七月二十三日写

昭和二九年度、国立美術館、博物館新収品目録

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

十八道契印義釈生起

建曆三年一月七日聖乘写

真言集

第三卷に建保二年七月二十三日書写の奥書がある

四種相違私記 卷下

建保二年七月二十三日写

大般若經 卷第三十九

仁治元年九月廿二日兼尊写

六字神咒王經 卷第一

建長八年二月二十三日写

大般若經 卷第二百五十五

建治年中法覚一筆經

金胎阿界大曼荼羅図

建治元年八月十二日隆慶写

大般若經 卷第五百三十一

嘉祿三年五月十日乘信写

悉曇抄

弘安五年二月十三日龍性写

玄秘鈔

正応二年称名寺劍阿写

大般若經 卷第四十二

春日社經

元仁二年四月二十八日校点の奥書がある

大般若經 卷第四百三

興福寺春日宮の印がある

大般若經 卷第二百二十

永仁二年八月十七日唐僧円空写

不動護摩私記

永仁四年報恩院道順写

信仏功德經 卷第一

阿彌陀經 卷第一

大般若經 卷第二十斷簡

大陀羅尼末法中一字心咒經

貞和五年三月澄通写

帖

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

昭和二九年度、国立美術館、博物館新収品目録

金剛王菩薩秘密念誦儀軌

聖莊嚴陀羅尼經 卷上

菩薩本行經 卷中

灌頂七万二千神王護比丘咒經 卷第二

文和三年尼利尊氏願經

大般若經 卷第五

延文五年二月晦日亮貞写

大般若經 卷第三百八

延文五年仲秋尼正悟写

過去莊嚴劫千仏名經

現在賢劫千仏名經

未來星宿劫千仏名經

明徳元年報恩院貞惠写

大般若經 卷第四十八

應永年中長恩写

乾陀婆王護諸童子陀羅尼經

應永二十年八月二十二日写

瑜伽瑜祇祇經

明応三年精任の奥書がある

不動護摩次第

天文三年寛欽法親王写

飯名文法華經 陀羅尼品

往生講式

大般若心經

貞享二年四月二十三日聖安内親王写

刊本成唯識論述記 卷第十

元永二年模工僧延観の刊記がある

刊本成唯識論了義燈 卷第一

永久四年八月二十七日の奥書がある

刊本法華經断簡

刊本梵網經心地法門品

承久二年の奥書がある

刊本大般若經 卷第十八

一 帖

一 帖

一 帖

一 帖

一 帖

一 帖

一 卷

一 卷

三 卷

二 帖

一 卷

一 卷

一 帖

一 卷

一 卷

一 帖

二 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

二 卷

二 卷

二 卷

二 卷

弘安八年七月願主福乙女とある

刊本瑜伽師地論 卷第七十八

唐招提寺の印がある

刊本成唯識論述記 卷第五

刊本大般若經 卷第八

刊本慈悉地羯羅經

刊本像法決疑經

刊本華嚴經 卷第三十八

刊本法華經

卷首に变相がある

刊本繪入父母恩重經

明徳三年の刊記がある

刊本菩薩瓔珞本業經

應永元年十二月化主志励とある

刊本藥師本願功德經

應永十九年の刊記がある

刊本毘盧遮那成仏神變加持

應永二十四年大伝法院惠淳の刊記がある

刊本繪入父母恩重經

明応八年の刊記がある

刊本大乘大方等日藏經 卷第八

大光義品第十一 殘闕

華嚴文義記 卷第六 殘卷

華嚴文義記 卷第八

摩訶利頭經

内典隨函音疏 第三百七小乘律之一行瑣製

毗尼母經 卷第一

建久九年三月三日成辨感得ノ記アリ

「高山寺」ノ朱印アリ

太上業報因縁經(敦煌出土)

天寶十二年六月日書写ノ奥書アリ

戒 緑下卷

元康五年九月三日

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

二 卷

一 卷

一 卷

二 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

二 卷

二 卷

二 卷

二 卷

翊 磨(仮題)

義熙六年四月六日比丘明覺写

大方等大乘經 卷第十二

永明十年八月七日

尼律藏 第二分卷第二

延和三年八月六日

写經跋尾

神變二年七月

華嚴經 卷第二

永興五年六月四日比丘法堅

大方等大集經 卷第二十三

大平真君七年十月廿日

法華經 卷第四

和平四年四月三日

翊慶經

景明元年

法華經 卷第四

正始二年四月

大品經 卷第八

延昌三年七月廿二日

法華經疏

延昌六年(熙平二年)八月

仁王般若經 卷上

永安三年七月廿三日東陽王元榮願經

大智度論 卷第七十

普泰二年三月二十五日東陽王元榮願經

北魏初期經(裏面法華經疏)

大方等大乘經 卷第十

北周大定元年正月十五日張何願經

大方等大集經 卷第十九

十地論初歡喜地 卷之二

涅槃經 卷第三十二

大般若經 卷第二百二十

昭和二九年度、国立美術館、博物館新収品目録

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

一 卷

大智度論 卷第十三

法華經 卷第二

涅槃經 卷第三

開皇元年正月十五日石元妃願經

月燈三昧經

開皇九年四月八日皇后願經

大智度論 卷第六十二

開皇十三年四月八日李恩賢筆

涅槃經 卷第十七

仁壽三年五月皇太子法顯經

仏垂般涅槃略說教戒經

大業三年八月

涅槃經 卷第十三

大業四年二月十五日比丘慧休

華嚴經 卷第十四

大智度論 卷第六十二

法華經 卷第五

唐貞觀二十二年十月二日写

法華經 卷第三

唐上元二年十二月七日趙玄祥写

法華經 卷第六

唐文明元年五月索世通写

觀世音經 卷首欠

唐永淳二年三月九日宋才幹写

法華經 卷第五

唐垂拱二年正月比丘尼智行願經

法華經 卷第二

唐景龍三年四月一日

法華經疏 卷第一

唐開元十年三月四日仏弟子王曼敬写

浄土五会念仏誦經觀行儀 卷下

唐大歷元年写 經 第三殘簡

十輪 一 卷

昭和二九年度、国立美術館、博物館新収品目録

唐文明元年五月素世通願經	六門陀羅尼經論広釈	殘卷
忘天元年四月写	瑜伽師地論	卷第十三
唐大中年間写	長者女眷提遮師子吼了義經	殘卷
金統三年五月二日写	大乘起信論広釈品第五	紙背に六朝時代の論疏(未詳)がある
藥師瑠璃光如来本願功德經	藥師瑠璃光如来本願功德經	殘卷(初唐)
蕭大敵筆	華嚴經第五	卷第五
金光明	最勝王經	卷第七
大菩薩藏	經	卷第四十
大方等集	經	卷第十九
救護身命經	經	卷第二
大方等集	經	卷第十五
大集經賢護分戒行具足品	卷第三	
普賢菩薩說証明經并黃仕強伝	華嚴經	第七十七首欠
維摩經	卷下	
涅槃經	略抄	卷第二十五
觀世音菩薩秘密无障如意輪陀羅尼藏義法經	經	卷第三十五
高野筆	般若經	卷第三十五
金有龜羅尼經	經	卷
懺悔羅尼經	經	卷
金光明最勝王經	卷第二	
入楞伽經	卷第四 第五	尾欠

大般若	若經	卷第二十九
報恩寺藏經印、三界寺藏經の印がある	經	卷第五
梁貞明六年五月十五日写	色紙印	仏名經 殘卷
高僧傳	刊本	法華經 卷第四前半 (十二枚)欠
付法藏	傳	卷六
治平元年郭隨写	大般若	若經 第五百二
宋元祐五年七月六日李詒書	華嚴經	卷七十一、七十二、七十三、八十一
至元二十八年四月光明禪師惠月願經	沈鏡湖同男応祥筆の扇絵がある	
太上洞玄靈寶妙經 衆篇序章	西夏文字	華嚴經 卷第七十四
梁承聖三年三月七日写	阿育王太子法益壞目因緣經	
泰定二年高麗忠肅王願經	華嚴經	普賢行願品 高麗金字經 卷第四
高麗紺紙銀字經	伏見天皇宸翰	御願文 (正和二年二月九日)
唯識三十頌	文明五年一条兼良ノ識語アリ	
正親町天皇宸翰女房奉書 (理性院宛)	軸木二天正五年八月廿四日御下賜ノ記アリ	
後二条天皇宸翰消息 (二月十日、御名)	後陽成天皇宸翰消息 (高麗国云々 豊臣秀吉宛)	
後陽成天皇宸翰消息 (抄秋十四載 御名竹門宛)	後水尾天皇宸翰古歌御小色紙 (人とはぬ)	

奈良国立博物館

古瓦

河内善正寺

大和戒壇院

大和羅生門

大和平城宮

大和眉間寺

唐招提寺三巴紋

大和平城宮

鬼瓦破片

凡（正倉院御物模造）

故新納忠之介作模造作品

法隆寺金堂小壁飛天復原図

室生寺藥師如來像光背復原図

室生寺地藏菩薩像光背復原図

法金剛院阿彌陀如來光背拓本

法隆寺夢殿行信像構造図

法隆寺彌勒菩薩光背模写

熊野速玉神社神像模写図

神像底部輪廓図

平等院鳳凰堂本尊阿彌陀如來像胎内納入物模造

夢殿救世觀音光背模造

仿製方格規矩四神鏡

花卉山水鳥獸文和琴残欠 附葛籠

銅製行基舍利瓶残片

金峯山経塚発掘遺物

杜家立成（複製）

竹田先正書冊（複製）

一幅

二点

一点

一点

一点

一点

一点

一箇

一箇

一幅

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

一箇

木造彩色
紙本著色
上 同
上 同
紙本墨拓
紙本墨画
紙本墨画
紙本著色
紙本墨画
紙本墨画
紙本著色
紙本墨画
木造彩色
上 同
白銅製
瑤瑠彩色
銅製
金銅製

三四点

一帖

第一〇回日本美術展覽會出品、

入選、陳列点数表

科別	一般申込	無鑑査	総申込数	入選数	内新入選	(掛替を合む) 陳列総数
日本画	639	110	749	243	24	(75) 353
洋画	1,831	193	2,024	506	77	699
彫塑	252	79	331	139	12	218
工藝	841	114	955	300	53	414
書	933	54	987	338	109	(49) 392
計	4,496	550	5,046	1,526	275	(122) 2,076

第一〇回日本美術展覽會審査員一覽

第一科(日本画)

○會員 堂本印象

中村岳陵

福田平八郎

山口蓬春

池田遙邨

岩田正巳

大智勝觀

川崎小虎

矢野橋村

加藤榮三

加藤長明

西山英雄

橋本明治

三輪晁勢

森田沙伊

森田沙伊

有島生馬

○會員 (石井柏亭(外遊))

川島理一郎

辻弘永

中沢弘光

中村研一

山下新太郎

和田英作

和久保作次郎

木下孝則

小絲源太郎

小山敬三

齋藤与里

○印審査主任

鈴木千久馬

三上知治

荒谷直之介

有馬三斗枝

井手宣通

奥英三

倉員辰雄

佐藤一章

田崎広助

富田温一(死)

森田元子

山喜多二郎

山田新一

○第三科(彫塑)

朝倉文夫

北村西望

齋藤知雄

藤井浩佑

○會員

堀進二

横江嘉純

吉田三郎

赤堀信平

進藤武松

瀬戸团治

中野桂樹

野々村一男

古川順三

三国慶一

第四科(美術工藝)

○會員 海野清

高村豊周

清水六兵衛

○參事

内藤春治

前大峰

会田富康

浅見隆三

板谷梅樹

海野建夫

小川英鳳

小合友之助

河合秀甫

河村喜太郎

堂本漆軒

般若佑弘

平田郷陽

平松宏春

本間舜華

第五科(書)

○會員 山室百世

山岸堅二

安原喜明

尾上柴舟

○參事

安東聖空

豊道春海

鈴木翠軒

辻本史雨

青山杉雨

石井雙石

宇野雪村

大野晴風

鈴木梅溪

松井如流

松丸東魚

松本芳翠

山田正平

吉沢義則

各大学美術関係講義題目

〔国立〕

岩手大学

〔学藝学部〕「美学概論」「美術工藝史」教授森口多里、

「美学」講師田辺彦太郎、「美学概論」講師千葉運孝、

「西洋絵画史」講師藤原徳太郎、「東洋絵画史」講師栗

原良

東北大学

「文学部美学美術史学科」「美術史普通講義、後期印象派美術論」「美術史演習」 Wölflin, Kunstgeschichtliche Grundbegriff. 「美学演習」 Read, The Meaning of Art. 教授村田潔「美学普通講義、現代美学の諸問題」「美学演習、現代美学の諸論文より」助教授西田秀穂、「美学特殊講義」講師竹内敏雄
「文学部東洋美術史学科」「東洋美術史普通講義、白鳳奈良時代美術史」「東洋美術史特殊講義、日本肖像画論」「東洋美術史演習、七大寺巡礼私記」教授亀田孜、「東洋美術史特殊講義、印度美術史論」講師高田修、「考古学普通講義、日本考古学概論」「考古学特殊講義、考古学研究法及実習」講師伊東信雄

千葉大学

「美学概論」講師神保常彦、「日本美術史」講師橋崎宗重、「西洋美術史」講師摩寿意善郎、「日本書道史、中国書道史」教授浅見錦吾、「考古学概説」講師藤田亮策

東京大学

「文学部美学美術史学科」「美学概論」「美と藝術、アリストテレス研究」「美学演習、Kainz, Einführung in die Philosophie der Kunst.」教授竹内敏雄、「建築美学」講師板垣應穂、「日本美術史概説」「東洋美術史演習」教授米沢嘉圃、「西洋美術史概説、十五世紀以降」「西洋美術史演習」助教授吉川逸治、「やまと絵の諸問題」「絵巻物研究」講師田中一松、「インド仏教美術史」講師高田修
「考古学」「考古学概論」「中国考古学演習」教授駒井和愛、「野外考古学」助教授関野雄、「日本考古学」「先史考古学演習」講師八幡一郎、「西南アジア考古学」

講師杉勇

「大学院人文科学研究科、美学美術史専門課程」「美学問題史」教授竹内敏雄、「宋元絵画研究」教授米沢嘉圃、「西洋近世絵画の諸問題」助教授吉川逸治、「藝術批評史」講師村田良策

東京学芸大学

「学芸学部」「本科」「美学概論」「日本美術史」「日本美術鑑賞」講師中野実、「西洋美術史概説」「西洋美術史特殊講義、立体派以後」「西洋美術鑑賞」教授久富貢「専攻科」「美学演習」 Wölflin, Kunstgeschichtliche Grundbegriff. 講師中野実

東京藝術大学

「教育学部」「美学概論」「美学演習」 Read, The Meaning of Art. 「美術の比較研究」教授上野直昭「芸術学の問題」「美学演習」 Sinnel, Philosophie der Kunst. 助教授西本順、「日本美術史概説」「日本美術史演習」教授脇本十九郎、「東洋美術史概説」「東洋美術論の比較」併任教授谷信一、「ルネッサンスとバロック」「西洋美術史演習」教授摩寿意善郎、「十九世紀フランス絵画史」「西洋美術史演習」「西洋工藝史」教授新規矩男、「西洋美術史概説」「西洋美術史演習」講師吉川逸治、「東洋工藝史」「産業工藝史」「工藝論」教授前田泰次、「西洋建築史」講師蔵田周忠、「日本建築史」講師伊藤要太郎、「日本漆工史」講師吉野富雄

東京教育大学

「教育学部」「美学演習」「西洋美術史講義」教授沢柳大五郎、「美術史概論」「東洋美術史」「美術史演習」助教授町田甲一、「美術史演習」講師舟本治義「美学美術史」講師山本正男、「考古学概説」講師斎藤忠

横浜国立大学

「学芸学部」「美学概論」「美学演習」助教授山本正男、「近世造型藝術論史」講師阿部公正、「東洋美術史」講師渋谷二郎「書道史」講師藤原喜一

新潟大学

「教育学部教育学科及藝術学科」「西洋絵画史」教授諸橋政範、「西洋美術史」「日本美術概論」助教授志賀完、「藝術心理学概論」教授相沢陸奥男、「東洋美術論」「書道美学」「東洋美術史」教授金原省吾、「西洋美術史」助教授永島吉太郎

京都大学

「文学部美学美術史学科」「美学序論」「藝術の分類」「演習、美学美術史の諸問題」教授井島勉、「東洋の藝術論」教授上野照夫、「美学演習」 Schiller, Philosophische Schriften. 講師河本敦夫、「天平的なるものより弘仁貞観的なるものへの美術史の展開」講師蓮実重康、「近世の西洋美術史」講師吉川逸治

京都学芸大学

「美学概論」講師井島勉、「西洋近代絵画」講師河本敦夫、「日本美術史」「西洋美術史」リードの藝術論」「ヴェルフィン研究」助教授中村二柄

京都工芸繊維大学

「美学」教授河本敦夫、「美術史」教授土居次義

大阪学芸大学

「学芸学部」「藝術概論」「近代美術論」「西洋近世美術史」教授小島元雄、「一般藝術学」「西洋美術史概説」

講師藤本栄市

神戸大学

「文学部」世界藝術史、「史証藝術学」「藝術学藝術史講
読及演習」教授小林太市郎、「藝術史特殊講義」「藝術学
藝術史講読及演習」「東洋美術史概説」「日本美術史概
説」「東洋美術史特殊講義」教授谷信一、「藝術史特殊講
義」「藝術ジャンル論」「藝術学藝術史講読及演習」講師
辻部政太郎、「藝術学講読」講師岩山三郎、「考古学概
論」講師樋口隆康

九州大学

「文学部美学美術史学科」(前期)「美学演習、Recht,
Gesammelte Aufsätze」リーグルの美術史論
「東洋美術史演習、張彦遠」歴代名画記」助教
谷口鉄雄(後期)「リーグルの美術史論」「美学演習、
Woringer, Abstraktion und Einführung」東洋
美術史演習、張彦遠「歴代名画記」助教谷口鉄雄

〔公立〕

京都市立美術大学

「美学」「美術史」「藝術論」教授佐和隆研、教授谷田
関次、助教長崎盛輝、講師木村重信、兼任講師井島
勉、同下店静市、同上野照夫、同人見勇市

大阪市立大学

「美術工藝史」「博物館学」教授望月信成、「宣伝藝術
論」「藝術論」「美術史」「美術史」講師下店静市、「考古学」講
師有光教一、「美術史」講師西垣雄太郎

〔私立〕

日本大学

「藝術学部」「美学」助教中山公男、「藝術思想史」教
授湯川制、「考古学」講師久下司、「東亜考古学」講師
八幡一郎

早稲田大学

「文学部藝術科」「美術概論」「西洋美術史」「演習、明
治美術の研究」教授坂崎坦、「美学、美術様式の諸問
題」「美学特論」教授青柳正広、「日本美術史」「演習」
教授安藤正輝、「東西美術研究」講師富永惣一、「東洋
美術史」教授小杉一雄、「日本工藝史」講師中川千咲、
「建築史」教授田辺泰

慶応義塾大学

「文学部美学美術史学科」「美学概論」「西洋美術史概
説」「西洋美術史演習、Müselier, Europäische Kun-
st」教授守屋謙二、「美学特殊講義」「美学演習」教
授金田廉、「東洋美術史概説」「東洋美術史演習」講師
菅沼貞三、「近世日本美術史、江戸版木絵史」講師渋井
清、「建築意匠論」講師谷口吉郎

女子美術大学

「美学」講師中山公男、「芸術学」教授加藤成之、講師
沢柳大五郎、「人体美学」講師西田正秋、中尾喜保、
「西洋美術史」講師坂崎坦、講師富永惣一、講師中山
公男、「日本美術史」講師久野健、講師永井信一、「考
古学」講師後藤守一

同志社大学

「文学部文化学科美学及芸術学専攻」「美学概論」教授

園頼三、「藝術学概論」「美学史」「西洋近世美術史概
説」助教金田民夫、「西洋古代中世美術史概説」講
師村田敦之亮、「日本古代中世美術史概説」「日本近世
美術史概説」講師土居次義

関西学院大学

「文学部美学科」「美学概論」「美学講読演習」「美学研
究演習」教授張源祥、「美学講読演習」「美学研究演
習」「藝術史」教授源豊宗

主要美術雑誌色刷一覽

現代及西洋美術

作者	画題	雑誌名	号数
青木 繁	天 平 時 代	藝術新潮	五ノ七
青木 大乗	潮 騒 の 裏	萌 春	二ノ五
浅井 忠	冬のグレイ	村 藝術新潮	五ノ八
麻田 弁次	瓶	花 萌 春	二ノ七
池田 遙邨	滝		二ノ〇
伊東 深水	晴	着 着	二ノ一
伊東 万耀	無	言 着	二ノ二
糸園和三郎	ア パ	ト みづゑ	五九三
井上 照子	母	子 美術手帖	七七
岩橋 英遠	山	萌 春	二ノ八
上村 松園	焔	(部 分)	四〇
上村 松篁	池	ア ム ム	二ノ九
梅原龍三郎	横 山 大 観 像	萌 春 美術手帖	八〇
海老原 喜之助	殉 教 者	者 者	七七
カ	船を造る人	ゼ 々	八三
シ		シ	八九

海老原喜之助	花祭	嫁	みづゑ	五八	熊谷守一	早	春	心	七〇一	田村孝之介	風車(マジヨリカ島)	みづゑ	五六六
岡鹿之助	聖	堂	アトリエ	三三	鳥海青児	狸穴	風景	美術手帖	七	二重橋	みづゑ	五六六	
岡本太郎	燈	台	みづゑ	五四	辻永	裸	アトリエ	三六	五六九	鶴岡政男	セーヌ河風景	美術手帖	八三
小川マリ子	静	物	美術手帖	七	堂本印象	トレドの丘	美術手帖	二〇五	二〇三	富岡鉄斎	画面の内葉根談	美術新潮	五〇〇
奥村土牛	舞	妓	美術手帖	二〇八	堂本尚郎	畦	美術手帖	八四	五八七	名井万龜	千百カウソント	美術手帖	八四
大兼実	顔	A	美術手帖	九	中沢弘光	死の灰	みづゑ	五八七	五八八	中村好江	裸婦(溪谷温泉エス)	美術手帖	五八八
小山田二郎	野	人	みづゑ	五七	仲田好江	静	物	五九一	五九二	中村岳陵	杜	美術手帖	二〇六
堅山南風	雨	霽	美術手帖	二〇	中村琢二	茶羽織	若	美術手帖	三七	中村正義	赤と黄	美術手帖	七
加藤榮三	碧	湖	美術手帖	二〇	中村義母	赤と黄	美術手帖	五九三	五九四	中村爾郎	海	美術手帖	八二
金島桂華	冬	田	美術手帖	二〇	中山爾郎	獲	美術手帖	八二	八三	中村正義	海	美術手帖	八二
加山又造	白	馬	美術手帖	五九	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
川合玉堂	畑	打	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
川口軌外	円	屋	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
川端龍子	寝	根	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
岸田劉生	積	草	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
北川民次	川	根	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
木下義謙	須	根	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
国吉康雄	季	原	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
誰れかが私のポスターを破った	誰	街	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
舞踏会	舞	台	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
一〇号室	一	室	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
行者	行	者	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
デイリー・ニューズ	デイ	紙	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二
熊谷守一	熊	谷	美術手帖	二〇	中村正義	母	美術手帖	五九三	五九四	中村正義	海	美術手帖	八二

主要美術雑誌色刷一覧

福沢 一郎	西遊記	美術手帖	五	山本 丘人	湖	美術手帖	二ノ二	クレイ	支那前の階段の子供	五五
福田 翠光	鮭	美術手帖	二ノ四	山本 敬輔	花のある静物	美術手帖	五三	作	品	五
福田平八郎	遊	美術手帖	二ノ七	幸 寿	建築家の顔	美術手帖	八	鳥	の 国	五
藤井令太郎	布と椅子	美術手帖	五八	油野 誠一	迷	美術手帖	五三	旗を揚げた街		五
藤島 武二	絞眉下絵	美術新潮	五ノ一	横山 大観	晨	美術手帖	二ノ一	陪	音(ペン画)	五
藤田 嗣治	猫と少女	美術新潮	五ノ九	吉岡 堅二	くじやく	美術手帖	五	花		五ノ二
藤松 博	恐るべき子供	美術手帖	八〇	脇田 和	草の実と魚	美術手帖	五	グレージュ	聖衣剝脱(大工の部)	八
前田 寛治	たまり	美術手帖	八九	和田 三造	春(水彩)	美術手帖	五九	グレイズ	十字架のキリスト	七
前田 青邨	維盛高野の巻(部分)	三彩	五	閑	泉	美術手帖	二ノ九	グレイズ	グワッシュ	五七
獅子 衝	立	三彩	五	アングル	トルコ風呂(部分)	美術手帖	七・八	ゴッホ	タヒチの食卓	三五
阿 修	羅	三彩	五	ヴァント	ファゴットの吹き手	美術手帖	別冊六	ゴッホ	デコラティブな風景	三六
真 鶴	沖	三彩	五	ヴィヨン	デュシャン・ヴィヨンの像	美術手帖	八	ゴッホ	タヒチ島にて	五ノ四
万 年	壺	三彩	五	ウイリアム	割製の鳥	美術手帖	五	ゴッホ	ロマネスク・ファサード	五ノ八
松田 文字	観	美術新潮	五ノ九	ブレイク	ダンテ(神曲)地獄界第十九歌の挿絵	美術手帖	五	ゴッホ	タラスコンの乗合馬車	三六
三井 滋夫	漁港に働らく	美術手帖	八九	ヴェラスケ	イソップの像(部分)	美術手帖	五	ゴッホ	白 薔	五ノ二
満谷国四郎	高	美術新潮	五ノ二	ス	風景	美術手帖	三六	ゴッホ	サン・インドロの巡礼	五ノ七
三輪 鬼勢	花と	美術新潮	五ノ六	ヴラマンク	風景	美術手帖	三七	ゴッホ	無題(シルクスクリーン)	五ノ五
村上 華岳	山 飛	美術新潮	五ノ三	エドワード	置き棄てられた貸馬車	美術手帖	七	ゴッホ	ドゥーエの鐘楼	五ノ二
村松 乙彦	樹	美術手帖	七	ボードン	パレン「SCRAM RAGES」のためのデコール	美術手帖	五	ゴッホ	太陽のある風景	五ノ二
矢島甲子夫	作	美術手帖	七	カサンドル	母と子	美術手帖	五ノ三	ゴッホ	十字架降下のキリスト	五ノ二
安井曾太郎	静	中央公論	一	カルダー	モビール	美術手帖	五	ゴッホ	いばらの木	五
山口 薫	赤き橋の見える風景	美術手帖	八	カルロ・カ	母と子	美術手帖	五ノ三	ゴッホ	男	五
山口 勝弘	栗	美術手帖	八〇	クリコ	放蕩児の帰宅	美術手帖	五九	ゴッホ	男	五
山口 華楊	オリブの畑	美術手帖	五八	クリト	八月十五日の海岸	美術手帖	六	ゴッホ	男	五
山口 蓬春	ヴァトリ	美術手帖	七	クラウゼ	リトグラフ	美術新潮	五ノ二	ゴッホ	航海の終り	五
山下 清	魚	美術手帖	二ノ六	クルーエ	若きアンリ三世	美術手帖	別冊六	ゴッホ	航海の終り	五
山中 春雄	退屈な二人	美術新潮	五ノ六	クレイ	赤いスカートたちの舞踊劇	美術手帖	七	ゴッホ	航海の終り	五
		美術新潮	五ノ六			美術手帖	七	ゴッホ	航海の終り	五

ザッキン	オルフェウス(プロ ンズ)	美術手帖	ハ	セザンヌ	裸婦大水浴図	みづゑ	五六七	ピカソ	猫と鳥	アトリエ	三六
シモン・マ ルチニ	十字架を担ぐ	美術手帖	八七	セラファイ ス	コンボジション	美術手帖	八	ピカソ	にわとり	美術手帖	三〇
シヤガール	か い 漕	美術手帖	七六	ダヴィット・ ジョーンズ	テ ラ ス テ	美術手帖	七九	ピカソ	静 物	美術手帖	三〇
シヤルダン	大きな花束	美術手帖	八五	ダヴィンチ	ガンの三人の貴婦人	みづゑ	五六八	ピカソ	病める 児	美術手帖	五〇三
シヤルダン	恋 人	みづゑ	五六四	タマヨ	モナ・リザ	美術手帖	八七	ピカソ	戦争と 平和	美術手帖	五〇九
シヤルダン	作 品	みづゑ	五六九	ダマヨ	奇妙な鳥に襲われた 少女	美術手帖	五〇二	ピカソ	二人の 軽業師	美術手帖	五〇〇
シヤルダン	食 卓	アトリエ	三五五	ダマリ	月に向う女達	美術手帖	五〇五	ピカソ	平 和	美術手帖	五六七
シヤルダン	兎 と 銅	美術手帖	七九	ダマリ	け も の 鐘	美術手帖	五〇八	ピカソ	戦 争	美術手帖	五六八
シヤルダン	静 物	美術手帖	八七	ダマリ	作 品 (水彩)	美術手帖	五〇九	ピカソ	泉	美術手帖	五六九
シヤルダン	作 品	みづゑ	五〇二	デュビユツ	パスポートのある静 物	アトリエ	三〇三	ピカソ	漁 師	美術手帖	八四
ジヤン・ド ワニス	港 の 造 船 場	アトリエ	三三八	デュビユツ	黄銅の風景	美術手帖	八六	ピカソ	色 彩 構 成	美術手帖	八二
ジュセツ マン	工 場 風 景	美術手帖	八四	デュビユツ	オーケストラセアタ	アトリエ	三〇〇	ピカソ	笛を持つ若い女	美術手帖	五三三
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	ヨットの ある 港	美術手帖	八三	ピカソ	牛 乳 屋 (部分)	美術手帖	三三
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	揚子江の 上流	美術手帖	八三	ピカソ	真珠の 頸飾り	美術手帖	三三
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	学校の 帰り	美術手帖	五九	ピカソ	リースを 編む女	美術手帖	三三
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	版画屋の 客	美術手帖	五九	ピカソ	ア ト リ エ	美術手帖	三三
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	浴 室	美術手帖	五九	ピカソ	エ ビ ネ ッ ト の 前 の 女	美術手帖	三三
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	トルコの 服装をした 歌手	美術手帖	五〇八	ピカソ	睡 る 召 使 (部分)	美術手帖	三五
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	静 物	美術手帖	八六	ピカソ	卓上の ラン プ	アトリエ	三五
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	静 物	美術手帖	八六	ピカソ	黄 色 い 花	美術手帖	五〇二
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	静 物	美術手帖	八六	ピカソ	パ レ ッ カ テ ィ ル ・ オ イ レ ン ス ビ ー ゲ ル の た め の デ コ ー ル	美術手帖	八二
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	静 物	美術手帖	八六	ピカソ	ユ ダ の 拷 問 (部分)	美術手帖	八五
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	静 物	美術手帖	八六	ピカソ	帰 る 家 畜 (部分)	美術手帖	八六
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	静 物	美術手帖	八六	ピカソ	乞 食	美術手帖	八七
ジュセツ マン	静 物	美術手帖	三七	トボースキ	静 物	美術手帖	八六	ピカソ	あ ら し み づ ゑ	美術手帖	五〇

プリューゲ	婚礼の踊り(部分)	みづゑ	五九〇	マルセル・プロイエル	無題	美術手帖	六二	ルソー	オーステリッツ河岸	みづゑ	五九
十字架を担うキリスト	ミロ	静かな眼・火と燃える翼をもつ鳥	美術新潮	五九一	自由は画家をアンデパンダン22回展に参加するより招く						
フルデルト	作	品	美術手帖	六六	戦	詩人に靈感を与える					
ヴァッサー	天使達と子供		八八	靴屋	品	みづゑ	五四	女神第一作			
ベン・シヤ	デザート(巻煎餅)		八八	裸婦	品	みづゑ	五九	女神第二作			
ボーガン	戸	アトリエ	三五	カリアチュード	美術手帖	三七	三六	青い三つの壺	美術新潮	五九二	
ポナール	果	美術新潮	五九二	オランピアのある静物	美術手帖	六六		白樺の林	心	七九七	
マサッチオ	春	美術手帖	六二	水	辺	みづゑ	六九	鐘樓	守	みづゑ	五四
マチス	楽園追放(部分)	美術手帖	三五	花と裸婦	みづゑ	五九二		叔父の像	アトリエ	三三	
	花模様卓布とオレ	アトリエ	三五	サン・ベルナル寺	美術新潮	五九六		抽選器		三三	
	青の裸婦・ビスクラの思い出		三三四	モンマルトルの小径				女の頭像	美術手帖	六三	
	イヴォヌヌ・ランス			ムイラン・ド・ラ・ギャレット				蝶のいる女	美術手帖	六三	
	ベール像			モンマルトル	美術手帖	六〇		カルタの王様	みづゑ	五九	
	コリウール風景			ジャニス・ダルク	美術手帖	六〇		ベッサベのゆあみ	美術手帖	六七	
	茄子のある静物			道	美術手帖	六〇		イサクの犠牲	みづゑ	別冊	
	ノートルダム			無題	アトリエ	三三〇		素描淡彩	美術新潮	一〇五	
	ばら色の裸婦			作	品	みづゑ	五九	室内の裸婦	美術手帖	六五	
	モール風の屏風の前			モロッコの庭				娼婦	美術手帖	六五	
	コリウールの室内	美術新潮	五九一	青年の顔	美術手帖	六六		栄光のキリスト	美術新潮	五九二	
	画家とモデル		五九三	コーヒ沸しのある静物	美術新潮	五九二		シレーヌ(部分)	美術手帖	八九	
	《シャル・ドルレアンの詩》より			詩人の花	美術手帖	六六		ル・シャボン・デ・ザベス			
	三人姉妹	みづゑ	五九八	滝	美術手帖	六六		ロバと牡牛	みづゑ	五九	
	赤のオダリスク		五九〇	石切	美術手帖	六六		栄光のキリスト			
	マネッシエ	美術新潮	五九二	ヴァンサンヌの森				二人の水浴者			
	マリニー	浴女	アトリエ	ジュニエ爺さんの馬				シテエルへの船出	美術新潮	五九六	
	マルケ	曲藝	アトリエ	風景				ワットオ			
	マルセーユの港	美術手帖	八〇	風車				神の裁きを受ける若い女とバックカス(壁面部分)	アトリエ	三七	
								(ローマの壁面)桃と硝子壺	美術新潮	五九二	

東洋古美術

児童画 六点	アトリエ	五ノ二
シャルトルのステンド・グラス	心	七ノ五
トルチェロのマドンナ	シ	七ノ九
ウシヤブチ	三	彩
マジヨリカ	シ	シ
土形文鉢	シ	シ
鳥絵の壺	シ	シ
スリッパウエアー	シ	シ
「テオドラ女皇とその宮廷」の部分の手	美術手帖	八
「ジャステニアン皇帝とその宮廷」のマクシミリアン大司	シ	シ
系図の木(ステンド・グラス)	ミュージアム	四

拜塔観音図(部分)	山中次郎蔵	国	五三
岡田半江筆青緑山水図(部分)	華厳五十五所絵 東大寺蔵	シ	五三
源氏物語絵巻柏木二(部分)	黎明会蔵	美術研究	一七三
伝宗達筆御物扇面散屏風雷神図	鳳凰堂柱絵天人図 平等院蔵	シ	一七四
慈恩大師像(部分)	興福寺蔵	シ	一七六
北斎筆神奈川沖浪裏(部分)	檜図屏風(部分) 伝狩野永徳筆	シ	一七六
十六羅漢像(部分)	青山紅葉図(山水画帖ノ内) 浦上玉堂筆	シ	一七六
彩繪檜扇(部分)	敵島神社蔵	シ	一七六
ぎょうとくしほはまよりのぼとのひかたをのぞむ葛飾北斎筆	梅花双雀図 伝馬驥筆 山本達郎蔵	シ	一七六
寢覚物語絵巻	大和文華館蔵	シ	一七六

唐三彩立女俑	大和文華館蔵	大和文華	三
古九谷桜文様徳利	シ	シ	シ
高麗青磁葡萄唐草唐子遊水文注	沃懸地菊蜜絵螺鈿薰物宮 藤木正一蔵	シ	シ
沃懸地菊水螺鈿詩絵黒宮	シ	シ	一四
黄万曆尊式瓶	大和文華館蔵	シ	シ
玻璃玉背鏡	フォック美術館ウイ	シ	シ
ガラスロップ蒐集	シ	シ	シ
玻璃裝飾陶壺	ネルサン美術館蔵	シ	一五
釉裏紅雲鳳文瓶	大和文華館蔵	シ	シ
粉引馬上盃	矢代幸雄蔵	シ	シ
阿蘭陀色絵花鳥盃	大和文華館蔵	シ	シ
彫三鳥盃	シ	シ	シ
伊万里写洋彩盃	矢代幸雄蔵	シ	シ

絵画

浮田一蕙筆四条河原夕涼図(部分)	大橋理祐蔵	国	七二
高其佩筆山水図	川合定治郎蔵	シ	七三
新出融通念仏縁起(部分)	葛飾北斎筆山部赤人図	シ	七四
王建章筆花卉図(部分)	原田耕三蔵	シ	七五
桑山玉洲筆山水図(蘭玉帖ノ内)	羅聘筆花樹樓閣図(姜白石詩意図冊ノ内) 水田竹圃蔵	シ	七六
葛飾北斎筆鯉に風図	吳春筆田園風景図(部分)	シ	七六
大橋理祐蔵	悲しみの聖母像	奥田新三蔵	七五

彫刻

大夏勝光二年金銅仏坐像	玉依姫像	吉野水分神社蔵	仏教藝術	三	
高麗青磁象嵌鳳凰雲鶴文小箱	彩陶人馬面像鏡	鍍金総覆輪三十六間四方白星兜	青森櫛引八幡宮蔵	美術研究	一六
陶製平瓶骨壺	奈良壺坂寺奥ノ院出土	青花三彩牡丹文香炉	東京国立博物館蔵	ミュージアム	一七
陣羽織(部分)	東京国立博物館蔵	獅子造小刀拵(柄前と栗形・折金) 祐乗作	前田育徳会蔵	シ	一七

美術展覧会

一月

- 全和光新春水絵展 1-7 京
- 都・万寿堂
- 染人はま個展(一よう工藝室開設記念) 3-12 一よう工
- 藝室
- 曹長奎個展 4-10 タケミヤ
- (批)アトリエ3月
- 奥村厚一新作展 4-14 名古屋
- 屋・松坂展
- 明治・大正・昭和名作美人画展
- 5-20 大阪・そごう
- 萩森久朗近作展 5-9 大阪
- ・淀屋画廊
- 神戸市内教職員水彩画・バス画展 5-24 神戸市立美術館
- 南蛮陶器展 5-24 神戸市立美術館
- 全日本年賀状版画コンクール展 6-10 日本橋・三越
- 国際写真サロン 6-10 日本橋・三越 (批)朝日6(金丸重嶺)
- 5回国際児童水絵展 6-12 渋谷・東横
- 4回東京都教職員美術展 6-12 渋谷・東横

- 新春美術逸品陳列 6-10 大阪・阪急
- 二紀会同人小品展 6-17 大阪・阪急洋画廊
- 二紀会展 6-14 大阪市立美術館
- 水墨五匠展 8-16 中央公論社画廊 (批)産経16(横川毅一郎)
- 今関篤人個展 8-12 資生堂 (批)美術批評3月(三雲祥之助)
- 新造型展(菱田安彦渡伊送別展) 8-15 上野・松坂屋 (批)時事9
- 版画五人展 8-16 養清堂 (批)産経16(横川毅一郎)
- 春信名作展 9-19 日本橋・白木屋
- 黄葉名宝展(隠元禪師渡来三百年記念) 10-20 日本橋・白木屋
- 6回潮会洋画展 11-15 日動画廊
- 佐久間阿佐緒、伊藤浩二人展 11-20 阿佐谷・リ、エンター
- ラバン三人展 11-20 タケミ

- ヤ (批)アトリエ3月
- 5回(一九五三年度)秀作美術展 12-24 日本橋・三越 (批)朝日16(滝口修造)、アトリエ3月、(記)朝日17、19、20、21、22
- 出品目録
- (日本画)
- 夕 映 西山英雄
- 秋風行画巻絵巻 東山魁夷
- 物 頭 岡栄貴
- 店 尽 本多茂
- 庭 石 岩橋英遠
- 宴 会 清原 齊
- 森 前 田 暉
- 裸 者 岩崎巴人
- 月 雪 の 山 島田訥郎
- 牛 多 頃 伊東深水
- 夢 多 頃 伊東深水
- 聖 の 牛 奥村土牛
- 雨 の 海 小野竹喬
- 春 の 海 田中以知庵
- 湯 治 客 松田文子
- 茶 室 酒井亜人
- 柳 德 岡神泉
- 池 德 岡神泉
- 鯉 德 岡神泉

- 月出皎兮 横山大観
- 木花咲耶姬 安田鞆彦
- 柿若葉 福田平八郎
- 新雪 谷口山郷
- 残雪の山 杉山 寧
- 自 転 車 大塚 和
- 魚屋(剣路) 中村貞以
- 蒼 炎 山口蓬春
- 椿 ト 堂本印象
- メ ト 加藤栄三
- 沼のある風景 山口華楊
- 白 い 馬 小倉遊亀
- O 夫人坐像 山本倉丘
- 影 (西洋画)
- 広場の十字架 山口 薫
- 季節の哀歌
- 水に映つた杉と二匹の馬
- 林の幻影
- 月光の顔
- 静 物 林 武
- 横向きの少女
- 粧 える 女
- 十和田湖
- 春の来島海峡 須田国太郎
- 森 マヨルカ島の女 原 勝郎
- 室 ヨルカ島の女 田村孝之介
- 高 原 小 林 和 作
- 婦 人 像 森 田 元 子
- 室 内 佐 野 繁 次 郎

- 犬 吠 岬 児島善三郎
- 富士 凶 梅原龍三郎
- 鳥 と 魚 猪熊弦一郎
- 腰かけのポーズ 安井曾太郎
- パ ラ 佐 伯 米 子
- 雲 仙 野 口 弥 太 郎
- 燈 台 岡 鹿 之 助
- ハイデルベルク 菅野圭哉
- 丘陵 モレールの道 宮本三郎
- 春 雪 小 糸 源 太 郎
- 横 臥 裸 婦 鈴 木 誠
- 水より上る馬 坂本繁二郎
- 久 住 山 田 崎 広 助
- 扇 を 持 つ 女 中 村 琢 二
- 山の晩秋 栗原 信
- 鳥をとらえる女 糸園和三郎
- 暮れ近き漁港 古家 新
- 紀伊勝浦港 鍋井克之
- 狸 穴 風 景 鳥 海 青 兒
- 伊豆多賀早春 井手宣通
- 畑の中の六桜社 野村千春
- 夏 の 湖 故 宮 坂 勝
- 老 婆 像 故 内 田 巖
- 静 物 故 比 ア チ エ ン テ イ ニ ・ フ ミ コ
- うずくまる女 森 芳 雄
- 立 像 竹 谷 富 士 雄
- 基地のキリスト 田 中 忠 雄
- 月 夜 の 鳥 脇 田 和
- 三角くじを食べる男達 玉 置 正 敏
- エデンの午後 井 上 長 三 郎
- ウ サ ギ 南 城 一 夫

浴 後 井上三綱
アンサンブル 有岡一郎
厨 房 中谷泰
再 會 寺田竹雄
手 派 村井正誠
山 脈 鷹山宇一
はにわ群像 榎戸庄衛
作品二八・八・
一二 津高一
ある 杉全直
月 と 車 高橋忠弥
花、鼻、羽根、 小牧源太郎
ナルチスムス 難波田龍起
港の夜景 宇治山哲平
卓の静物 麻生三郎
静 物 棟方志功
「流離抄」板画欄 棟方志功
拔萃 小田田二郎
いやなやつ 恩地孝四郎
抒情 瑛九
母 浜口陽三
髪 面 劇 品川工
飯 面 劇 品川工
南仏ムアン・サ 長谷川潔
ルトツウの村 齋藤清
けしと壇輪 齋藤清
街(吹雪と雑踏) 駒井哲郎
(彫刻)

平 和 朝倉文夫
心 の 朝倉馨子
女 の 首山本豊市
月 光 仏子泰夫
トルソ 木内克
横 向 隊 像
上 向 隊 像
坐 像
立 像
目 像
一九五四年カレンダー展 12
17 日本橋・三越
大井基個展 12-16 サエグサ
アメリカホスター展 12-14
アメリカ文化会館
3回中央美術協会展 12-16
日本橋・丸善
瀧美峰門日本画展 12-17
新宿・三越
3回婢子会東京女流作家人形展
12-17 大阪・阪急
鶴田吾郎国立公園油絵展 13
17 銀座・松屋 [批]産経16
(横川毅一郎)
李田たけを個展 13-16 資生
堂 [批]美術批評3月(江川和
彦)、アトリエ3月
紅花会展 13-17 日本橋・高
島屋
矢野鉄山日本画展 15-21 日
本橋・三越 [批]時事18、サ
ン21(金子義男)、産経28
江藤明、荒金透二人展 15-18

大分市・キムラヤ
大阪府教職員共済組合美術展
15-21 大阪市立美術館
川西英、前田藤四郎創作版画展
15-25 神戸・元町画廊
安井曾太郎「文藝春秋」表紙原画
展 16-27 銀座・松坂屋
[批]毎日22、みづる3月(徳
大寺公英)
光風会々員展C 16-23 光風
会館
石井弥一郎個展 16-21 上野
・松坂屋
日本藝術院会員展 16-21 日
動画廊 [批]産経28
日展 16-21 名古屋・松坂屋
独立展 16-31 京都市美術館
染色二人の壁掛展 17-25 麻
布・ルバイヤット
絵画・彫刻七人展 18-23 養
清堂 [批]産経28、みづる5
月(植村鷹千代)
藤田嗣治小品展 18-23 中央
公論社画廊 [批]アトリエ3
月 [記]東京22(岡本謙次
郎)、朝日23、産経28
ゴッホ展 18-23 日本橋・丸
善
弥生会展 18-23 弥生画廊
[批]産経28
香取・鹿島名宝展 19-31 日
本橋・三越
2回平和美術展 19-24 銀座

・松屋 [批]毎日23、産経28、
みづる3月(徳大寺公英)、ア
トリエ3月
平井進個展 19-23 サエグサ
[批]美術批評3月(瀬木慎
一)、アトリエ3月
茶の湯鑑賞講演会 19-24
大阪・阪急
天羽義安を囲むバステル画廊
19-24 大阪・阪急洋画廊
西洋近代創作版画展 19-2月
7 ブリヂストン [記]時事
22、日経2月1(福島繁太
郎)、毎日2月4
松林桂月新作展(花鳥十題) 20
-23 兼素洞 [批]時事22
(三輪鄰)、産経28
北大路魯山人外遊直前作展 20
-24 日本橋・高島屋
17回自由美術展 20-29 京都
市美術館
藤田嗣治淡彩素描展 21-27
兜屋 [批]アトリエ3月、
[記]東京22(岡本謙次郎)、朝
日23、産経28
光風会岡山支部小品展 21-24
岡山・金剛荘
石本泰博写真展 21-31 タケ
ミヤ
芭蕉、一茶、蕪村名蹟展 21-
31 新宿・伊勢丹
4回日吉ヶ丘高校美術コース展
21-25 京都市美術館

薔薇会展 22-27 資生堂
[批]朝日27(河北倫明)、美術
批評3月(福島辰夫)
無名会日本画彫刻展 22-31
日本橋・三越 [批]朝日29
(武者小路実篤)、サン31(金子
義男)
むつき会日本画展 22-27 上
野・松坂屋
2回ナガハマ塾展 23-25 日
本橋・白木屋
現代風景画七人展 24-31 名
古屋・松坂屋
今井大彰個展 25-30 中央公
論社画廊 [批]美術批評3月
(針生一郎)、アトリエ3月
柳瀬研究所展 25-30 光風会
館
近代の肖像画展 26-3月10
国立近代美術館 [記]毎日
2月2、日経6(桂ユキ子)、
朝日10(河北倫明)、東京10、
11(柳亮)、毎日12、東京タイ
ムズ16
3回中筋幹彦個展 26-30 サ
エグサ [批]美術批評3月
(福島辰夫)、アトリエ3月
ヴェトナム漆画展 26-31 銀
座・松屋
下沢木鉢郎雪の絵展 26-31
渋谷・東横
川元進油絵個展 26-31 大阪
・阪急洋画廊
団栗会俳画展 26-31 大阪・

阪急

安宅安五郎油絵展 27-31 日

本橋・高島屋

駒井哲郎個展 27-30 養清堂

[批]産経28、美術批評3月(福島辰夫)、みづる3月(植村鷹千代)

丸山東美男・小山良修水彩展

28-2月2 資生堂

石沢修悦個展↑29↓神戸・草土舎画廊

弦田英太郎油絵展 29-2月3

日本橋・白木屋

下川凹天現代仏画展 29-2月

4 松島ギヤラリー

女流三人展(秋野不矩、小倉遊亀、三岸節子) 29-2月3

銀座・松坂屋

名作美人画展 30-2月11 京都・丸物

二 月

光風会々員展D 1-13 光風会館

荻島安二回顧展 1-6 中央公論社画廊

酒井三良近作展 1-6 養清堂

江波戸一郎個展 1-10 タケミヤ [批]美術批評4月(針生一郎)アトリエ4月

三井寺秘宝展 2-14 日本橋・高島屋

太平洋画会春季展 2-7 銀座・松屋

青羊会日本画展 2-7 日本橋・三越

瀧美英峰日本画展 2-7 日本橋・三越

日本手工藝美術展(ブラジルサンパウロ四百年祭に贈る)

2-7 日本橋・三越

一九五三年度商業デザイン展

2-7 日本橋・三越

3回三児会洋画展 2-6 日本橋・丸善

中谷延子個展 2-7 大阪・阪急洋画廊

鎌倉絵画展 3-7 日本橋・高島屋

デュフィ、マイヨール素描展

3-9 名古屋・文天堂画廊

一九五四年日本アンデパンダン展(読売主催) 3-19 東京都美術館 [批]

読売3 滝口修造 植村鷹千代 針生一郎

毎日10 朝日12(植村鷹千代) 東京15(岡本謙次郎) アトリエ4月 [記]

読売5(嘉門安雄) 読売6(福島辰夫)

読売7(河北倫明) 8(徳大寺公英) 9(富永惣一) 12(安部公房) 14(丸岡明) 16(奥野信太郎) 19(三輪郷) 23

和漢古典籍の特別陳列 4-3 月4 京都国立博物館

欧米生活工藝展 5-10 日本橋・白木屋 [記]毎日5、6、7、9

平田郷陽人形展 6-14 銀座・松屋 [記]毎日12

3回デモクラート美術展 8-13 日本橋・丸善 [批]美術批評3月(福島辰夫)、アトリエ4月

三S会洋画展 8-13 中央公論社画廊 [記]毎日11、産経

13 石橋よし郎個展 8-13 養清堂 [批]美術批評3月(針生一郎)、アトリエ4月

斎藤博之個展 8-11 資生堂 [批]アトリエ4月、美術批評4月(福島辰夫) [記]産経13

棟方志功 倭画・板画展 8-13 大阪・梅田画廊

刑部人油絵展 9-14 日本橋・三越

2回宮原克美個展 9-13 サエグサ [批]アトリエ4月

諸大家による淡彩画展 9-14 大阪・阪急洋画廊

東洋静物画展 10-3月21 鎌倉・近代美術館 [記]毎日9

珊瑚会展 10-14 日本橋・高島屋 [記]産経13

佐野青水個展 10-14 大阪・大丸

小林邦二洋画展 11-20 タケミヤ [批]美術批評4月(針生一郎)、アトリエ4月 [記]産経13

是松勝美個展 11-20 新宿・ヴェルテル

自画石版展 12-16 資生堂

富取風堂、田中以知庵色紙展 12-17 銀座・松坂屋

旺玄会小品展 12-17 大阪・そごう

中藤松カリーフォト個展 12-18 松島画廊 [批]毎日13、産経16

名作浮世絵展 12-22 安藤七宝店

松雲会水墨画展 13-17 日本橋・白木屋

島岡達三郎展 14-20 荻窪・いづみや

1回四人展(深見隆、田中稔之、朝比奈隆、前川佳子) 15-20

養清堂 [批]アトリエ4月 光風会研究所展 15-20 光風会館

中西利雄遺作展 15-3月4 大分・キムラヤ

辻永古稀記念展 16-21 日本橋・高島屋 [批]毎日19、時事20、産経20(横川毅一郎)、東京21(柳亮)、アトリエ4月

新しき村美術展 16-21 日本橋・三越

春日部たすく水彩画展 16-21 日本橋・三越

槐風会日本画展 16-20 サエグサ

秋田風物詩画展 16-21 日本橋・三越 [批]産経20(横川毅一郎)

青尚会日本画展 16-19 日本橋・丸善 [批]産経20(横川毅一郎)

北村翠谷日本画展 16-21 芝・アメリカ文化センター

ザッキン新作展 16-3月21 プリヂェストン [批]時事17(猪熊弦一郎)、時事19、朝日23(植村鷹千代)、東京3月4、清水多嘉示 [記]東京15、読売15、朝日23(亀井勝一郎)、毎日27 出品目録 (彫刻)

放蕩息子の帰宅 母と子

老 婦
 恋 人
 われた壺
 ケンタウロス
 助 言 者
 童 貞
 アルルカン
 使 者
 ダイアアナ
 ポ モ ナ
 自己陶酔
 座せる道化
 親 交
 オルフエウス
 ナルシス
 壊滅都市ロッテルダムによせて
 悍 婦
 三 美 神
 (ペン素描)
 舞 姫
 ジブシーの歌手
 作 曲 家
 (タワッシュ)
 家 族
 三つの現実
 平 和
 人 間 の 林
 騎 馬 隊
 農夫と子供
 三つの知性
 航海の終り
 人形の医者
 放蕩娘の帰宅

黄 と 黒
 メタモルフォーズ
 ポセイドンとアフロディテ
 ラオコーン
 契 約
 友 達
 空 想
 二つの追憶
 ロートレックへの敬意
 母 性 愛
 前 途 有 望
 男 の 顔
 愛すべき人
 ロマンチックポトレット
 恋 人
 アプサンを飲む男
 安井曾太郎文春表紙原画展
 21 大阪・阪急
 仙涯和尚遺墨展 16 21 大
 阪・高島屋
 1 回東京展 17 20 資生堂
 高井貞二油絵個展 17 21 日
 本橋・高島屋
 国宝展 17 22 静岡・松坂屋
 6 回現代人形美術展 17 24
 上野・松坂屋 [記] 朝日17、
 朝日夕刊18
 館岡栗山個展 17 21 上野・
 松坂屋
 3 回棟方志功藝業展 19 24
 渋谷・東横
 銀栄会日本画展 19 24 銀

座・松坂屋 [記] 産経27
 大原美術館泰西名画展 19 3
 月14 銀座・松屋
 [記]
 時事17 (土方定一)
 読売23 (正宗白鳥)
 24 (吉田健一)
 26 (北原武夫)
 28 (山口松太郎)
 3 月2 (山本健吉)
 3 月5 (井上友一郎)
 3 月7 (田中武雄)
 東京27 (谷伊之助)
 毎日3月4
 時事3月5
 都立工業奨励館工芸部展 20 1
 24 日本橋・白木屋
 日展 20 3月14 小倉・井筒
 屋
 4 回モダンアート協会展 21 1
 3月4 東京都美術館
 [批]
 朝日27 (植村鷹千代)
 毎日3月2
 東京3月3 (岡本謙次郎)
 美術批評4月 (針生一郎)
 アトリエ4月
 [受賞]
 協会賞—土橋敏造・島本昭三
 新人賞—芥川紗織・高崎元尚
 奨励賞—刀根真澄・正田壤
 日本アンデパンタン展 (日本美
 術会主催) 21 3月4 東京

都美術館 [批] 美術批評4月
 (針生一郎)、アトリエ4月
 カワラ・オン・デッサン展 21
 28 タケミヤ [批] 美術批
 評4月、アトリエ4月
 奎星会展 21 3月4 東京都
 美術館
 光風会々員血絵展 22 27 光
 風会館
 黒田清輝小品展 22 27 中央
 公論社画廊
 彼末宏個展 22 27 養清堂
 [批] アトリエ4月
 薔薇会日本画展 22 27 資生
 堂
 粟田九品庵新作展 22 27 壺
 中居
 田中案山子日本画展 23 28
 日本橋・三越 [記] 産経27
 川端龍子「富士七彩」新作展 23
 26 兼素洞 [記] 産経27
 岩崎鐸油絵個展 23 27 サエ
 グサ [批] アトリエ4月 [記]
 朝日26
 3 回環光会展 23 28 新宿・
 伊勢丹
 さくら会展 23 28 上野・松
 坂屋
 棟方志功鳥・魚百態展 23 28
 大阪・阪急洋画廊
 山下摩起個展 24 28 日本
 橋・高島屋 [記] 産経27

柳瀬研究所展 25 30 光風会
 館
 草間弥生作品展 26 3月3
 日本橋・白木屋 [批] アトリ
 エ5月、みづる5月 (鶴岡政
 男)
 日本画展 (契月、翠嶂、竹喬)
 26 3月3 銀座・松坂屋
 西山龍象ろうけつ染展 26 28
 岡山・金剛荘
 安宅安五郎個展 27 3月1
 日本橋・高島屋
 金光珠個展 27 3月5 大
 阪・淀屋画廊
 榎崎洗雀個展 27 3月4 大
 阪・松坂屋
 3 回蒼玄会展 27 3月4 京
 都・丸物
 蓬左文庫貴重書展 28 3月7
 名古屋・徳川美術館

三 月
 光風会々員展 1 12 光風会
 館
 2 回デザイン展 1 10 千葉
 大学工学部分館
 インカ藝術小品展 1 6 中
 央公論社画廊
 沖利男個展 1 7 タケミヤ
 [批] 美術批評4月 (瀬木慎
 一)、アトリエ5月
 吉田穂高、吉田千鶴子版画展
 1 6 養清堂 [批] 美術批

評4月(瀬木慎一)

- 毛利真美油絵個展 1-5 資生堂 [批] 毎日5、美術批評
- 4月(江川和彦)、アトリエ5月
- 室井辰夫、白鳥泰彦展 1-10 日比谷画廊
- 商業美術新人五人展 1-6 日本橋・丸善
- 蔣譚士画展 2-6 壹中居 [批] 4朝日(島田修二郎)
- 8回三光会日本画展(田中針水他) 2-7 日本橋・三越
- 備前焼名工作品展 2-3 日本橋・三越
- 新興美術院会員春季展 2-7 上野・松坂屋
- 中川時之介、三島茂司、曾山節雄彫刻三人展 2-7 大阪・阪急洋画廊
- 井上覚造、小原豊雲二人展 2-7 大阪・大丸
- 木下孝則近作展 2-6 大阪・美交社
- 板谷波山、香取秀真文化勲章授受記念作品展 2-7 大阪 阪急
- 北斎浮世絵展 2-25 神戸市立美術館
- 東邦美術日本画小品展 2-7 名古屋・松坂屋
- サン・シュマン展(高島達四郎他) 3-7 日本橋・高島屋
- 矢野鉄山新作展 3-11 大

- 阪・三越
- 小西平内作陶展 5-14 渋谷・東横
- 五泉会展 5-11 新宿・伊勢丹
- 槐風会展 2-6 サエグサ現代大家絵画展 5-10 銀座・松坂屋
- 東西大家日本画展 5-7 岡山・金剛荘
- 速水御舟展 5-20 銀座・松坂屋
- [批]
- 産経1 合評—河北倫明、安田鞆彦、田中以知庵、牛田鶏村、高橋周桑、吉田幸三郎
- 産経5 柳亮
- 時事9
- サン10 金子義男
- 産経10 脇本栄之軒
- 朝日12 天鼓
- 代 安田鞆彦、植村鷹千代
- 東京14 久富貢
- 毎日19 [記]
- 産経3 安井曾太郎、郷倉千靱、浅野長武、奥村土牛、武者小路実篤
- 産経3 大河内信敬
- シ 4 大久保泰
- シ 6 中村岳陵

- 産経7 北川桃雄
- シ 8 富取風堂
- シ 9 大河内信敬
- シ 10 嘉門安雄
- シ 12 鈴木進
- シ 13 久富貢
- シ 14 北川桃雄
- シ 15 鈴木進
- シ 16 久富貢
- シ 17 横川毅一郎
- シ 18 大河内信敬
- シ 19 出品目録

- 黄 笠置所見 1917
- 梅ヶ畑(其一)
- 洛外六題ノ内小下図
- 梅ヶ畑(其二)
- 洛外六題ノ内小下図
- 山科の秋
- 比叡山
- 白毫寺
- 浅春
- 洛北修学院村
- 温泉
- 比叡山
- 林檎(色紙)
- 京の舞妓
- 百日草
- 葡萄と茶碗
- 白梅(色紙)
- 菊花(屏風一)
- 茶碗と果実(色紙)
- 溪泉二(双幅)
- 赤絵の鉢と(色紙)
- 鍋島の皿に柘榴
- 猫の並木
- 丘の庭
- 広庭
- 日向
- 甘藷
- 山椿(色紙)
- 丘小景
- 西郊
- 灰小景
- 暁

- 白野晴景 1924
- 椿来所見
- 潮来所見
- 春昼
- 門獲
- 取獲
- 晴篋
- 秋海棠(色紙)
- 百舌鳥の巢
- 炎舞
- 離山
- 樹木
- 墨麦
- 烏骨鶏雌雄の図
- 昆虫二題(双幅)
- 粧蛾舞戯、葉蔭魔手
- 木蓮
- 供身像
- 朝仙果
- 天果
- 寒虫
- 寒雀
- 蛤(色紙)
- 京の家(双幅)
- 奈良の家(双幅)
- 柚茸
- 松
- 冬
- 晩
- 春
- 春
- 春
- 海
- 熟果色紙

林	の	道	土井俊生	出	立	島津純一	木	伊ヅの失綜	石井玲一	知	性の歎き	笠井一	水	煙	千田健次	爆	煙	国光与	波	煙	幸	裸	婦	寿	狂	人		乱	人		十	人		三	本角(地獄の使者)		建	築家の顔		キ	リシタン刑		(C)			(A)			(B)			救	助(洪水)		死	の		地	獄の使者		怒	婦		裸	婦		姉	妹	
---	---	---	------	---	---	------	---	-------	------	---	------	-----	---	---	------	---	---	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	--	---	---	--	---	-----------	--	---	------	--	---	-------	--	-----	--	--	-----	--	--	-----	--	--	---	-------	--	---	---	--	---	------	--	---	---	--	---	---	--	---	---	--

小野佐世男をしのぶ会	6-11	日本橋・白木屋	富山妙子個展	6-11	資生堂	[批]美術批評4月(瀬木慎一)	アトリエ5月	全国精神薄弱児作品展	6-14	渋谷・東横	東北民藝展	6-14	たぐみ	小野洋個展	8-11	日本橋・丸善	[批]アトリエ5月	平福百穂スケッチ展	8-13	中央公論社画廊	アジア大会藝術競技展	8-10	銀座・松屋	七人展(麻生三郎、井上長三郎、大野五郎、小山田二郎、鶴岡政男、灘波田龍起、森芳雄)	8-13	養清堂	[批]みづゑ5月(植村鷹千代)	正宗と堀川国広名刀展	9-18	日本橋・高島屋	河合卯之助作陶展	9-14	日本橋・三越	[批]産経13(北川桃雄)	時事14	堅山坦染色個展	9-14	上野・松坂屋	山本正個展	9-13	サエグサ	[批]時事14、美術批評5月(徳大寺公英)	アトリエ5月	パンとバラの会展	9-15	タケミヤ	上口愚朗近作陶碗展	9-14	大阪・阪急
------------	------	---------	--------	------	-----	-----------------	--------	------------	------	-------	-------	------	-----	-------	------	--------	-----------	-----------	------	---------	------------	------	-------	---	------	-----	-----------------	------------	------	---------	----------	------	--------	---------------	------	---------	------	--------	-------	------	------	-----------------------	--------	----------	------	------	-----------	------	-------

赤松柳史近作俳画展	9-14	大阪・阪急	東西大家展	9-14	京都・大丸	至友会日本画展	10-14	日本橋・高島屋	1回平和作品展	10-14	大分市・商工会館	手仕事の東北展	11-18	たぐみ	青馬展	11-14	豊橋・浦柴屋画廊	二紀会関西展	11-19	大阪市立美術館	1回日経色刷原画展	12-21	銀座・松屋	[批]日経15(福島繁太郎)	27回ウエニス・ピエンナーレ出品作国内展示会	12-16	国立近代美術館	[批]朝日14	(岡本謙次郎)[記]毎日16	3回東都巧匠会茶器展	12-16	日本橋・白木屋	糸田芳雄作品展	12-17	日本橋・丸善	[批]美術批評5月(福島辰夫)	アメリカに於ける日本古美術展	記念特別展	12-21	東京国立博物館	大森聖衛個展	12-16	資生堂	[批]アトリエ5月
-----------	------	-------	-------	------	-------	---------	-------	---------	---------	-------	----------	---------	-------	-----	-----	-------	----------	--------	-------	---------	-----------	-------	-------	----------------	------------------------	-------	---------	---------	----------------	------------	-------	---------	---------	-------	--------	-----------------	----------------	-------	-------	---------	--------	-------	-----	-----------

亀井玄兵衛個展	12-16	京都府ギャラリー	潤工会工藝展	13-21	新宿・伊勢丹	野田好子個展	13-20	フォルム	[批]美術批評5月(植村鷹千代)	みづみゑ5月(植村鷹千代)	アトリエ5月	丸山石根近作日本画展	13-18	大阪・三越	すいれん素描展	13-27	京都・すいれん茶房	青山熊治展	15-25	光風会館	2回三枝会展	15-20	サエグサ	[批]東京18(岡本謙次郎)	朝日19(植村鷹千代)	坂本繁二郎小品展	15-20	中央公論社画廊	シエーカーワット個展	15-20	養清堂	1回無形文化財日本伝統工藝展	16-21	日本橋・三越	[批]朝日21(岡田譲)	春の青龍展	16-28	日本橋・三越	[批]産経21(横川毅一郎)	時事23、美術批評4月(藤本昭三)	(受賞)	春展賞	横山操、高頭信子、谷野敬一郎、大塚達夫、武市政雄、高山晴雄
---------	-------	----------	--------	-------	--------	--------	-------	------	------------------	---------------	--------	------------	-------	-------	---------	-------	-----------	-------	-------	------	--------	-------	------	----------------	-------------	----------	-------	---------	------------	-------	-----	----------------	-------	--------	--------------	-------	-------	--------	----------------	-------------------	------	-----	-------------------------------

花鳥諷詠(虚子翁像)	川端龍子	富貴	関	インベリアルホテル	加納三楽	カトレヤ	福岡青嵐	菜根	譚	古式節分会(京都吉田神社)	山崎豊	春宵	市野亨	懐の客	安西啓明	草津湯の宿(連作の十二)	小島鼎子	冬を楽しむ	春	待春	時田直善	沼の	木	檜	亀井玄兵衛	水	琴塚英一	仙人	掌	雲	佐藤土筆	薄	佐々木邦彦	先代	暮	結城天童	大塚香緑	月	竹内未明	雪	樹	渡辺不二根	香	雪	汀	林	寒	炎	陽	水	霧	入江	瀬	水	街	渡会伊良子	雪	高山晴雄
------------	------	----	---	-----------	------	------	------	----	---	---------------	-----	----	-----	-----	------	--------------	------	-------	---	----	------	----	---	---	-------	---	------	----	---	---	------	---	-------	----	---	------	------	---	------	---	---	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	-------	---	------

出品目録

御稲御倉 古野新生
 雪 閑 加藤輝三
 陸橋よりの眺め 上条静光
 春 緑 中川佐風路
 雪の山 生重定
 鷹ヶ峰 安東丈夫
 白鳥 池田洛中
 白鳥 酒井白澄
 かいつぶり 尾越勝之助
 都営アパート 影丹羽長春
 秋 影 武市政輝
 双 狗 谷野敬一郎
 魚 槽 横山操
 熱海月明 横山操
 青 春 横山操
 暖 冬 白杵一穂
 親 鹿 鈴木光英
 首 鹿 富田保和
 水 燦 富永一布
 麦 秋 竹内広吉
 落 葉 三浦打魚
 ア 堀 堀口幸子
 残 雪 岡信孝
 晴 日 牧秀夫
 独 身 寮 石川白圭
 浅 春 拓植一枝
 残 照 英賀田憲二
 新 装 佐藤四郎
 熱帯植物(アロカシヤ) 河本正
 奈良西之京 中島晃輪
 河たろ 山口吉旺
 河 景 大塚達夫
 港 街 高頭信子

美術展覧会(3月)

大井町風景 高頭信子
 葡萄園晚秋 高田晃瑠
 蒐 集 村田祐彩
 街 裏 藍木清
 青龍社々人展 16-28 日本
 橋・三越
 技術とデザイン展 16-21 日
 本橋・三越 (批)朝日21(岡田護)
 第一美術小品展 16-21 上
 野・松坂屋
 福島秀子個展 16-23 タケミヤ (批)美術批評5月(江川和彦)、みづる5月(植村鷹千代)、アトリエ5月
 桑田道夫油絵展 16-21 大阪・大阪急洋画廊
 水谷清個展 16-22 大阪・大丸
 藤本かをり個展 17-20 資生堂
 至交会日本画展 17-21 日本橋・高島屋
 2回レアル美術展 18-23 日本橋・丸善
 石崎宏矩洋画個展 18-23 京都・朝日画廊 (批)日本美術工藝5月(橋本喜三)
 アドバンス美術研究所展 18-20 日比谷画廊
 4回一線美術展 19-31 東京都美術館 (批)美術批評4月(江川和彦)、アトリエ5月 (批)時事27

7 回示現会展 19-31 東京都美術館 (批)美術批評4- (江川和彦)、アトリエ5月 (批)時事27
 6 回新水彩展 19-28 東京都美術館 (批)美術批評5月(江川和彦)、アトリエ5月 (批)時事27
 田崎柳二個展 19-25 松島ギヤラリー
 30周年記念白日会展 19-28 東京都美術館 (批)美術批評4月(江川和彦)、アトリエ5月 (批)時事27
 歌聲名作展(六六浮世絵師展の内) 19-30 日本橋・白木屋
 京都美大作品展 19-23 京都市美術館 (批)日本美術工藝5月(橋本喜三)
 樋口一郎油絵個展 19-21 岡山・金剛荘
 国吉康雄遺作展 20-4月25 国立近代美術館 (批)

寺田竹雄 毎日25
 土方定一 4月27
 富永惣一 4月3
 大久保泰 4月7
 阿部展也 4月8
 河北倫明 4月16
 徳大寺公英 4月24
 出品目録
 人間の墜落 1922
 フルーツを盗む少年 1923
 暁を告げる雄鶏 1923
 牛と小さなジヨ 1924
 幸福の島 1924
 メイン州の景色 1925
 力持ちの女と子供 1925
 ゴルフをする自画像 1927
 花東とストーヴ 1929
 日本の張子の虎とがらくた 1932
 風見とソファ 1933
 果物と複製及び菓子 1934
 造花とほかのもの 1935
 デイリー・ニュース 1935
 横たわる人形 1937-1938
 夏の嵐 1938
 お祭は終わった 1939-1947
 牛乳列車 1940
 ひつくり返えしたテーブルと面 1940

季節は終りぬ 1940-1945
 ネバダビル 1942
 誰かが私のポストを破った 1943
 職場 1944
 一〇〇号室 1944
 スザンナ 1945
 飛びあがるうとずの頭のない馬先を考える 1945-1946
 少女よお前の命のために走れ 1946
 飛ぶよ! 御覽 1946
 疲れた道化師 1947
 こゝは私の遊び場 1947
 寡婦 1948
 夢のぼり 1950
 舞踊会に 1951
 行者達 1951
 東洋の贈物 1951
 通りの向側 1951
 池のある風景 1951
 二つの桃 1951
 風渡りの女 1951
 網渡りの女 1951
 眠れる女 1951
 牛と子供 (デッサン) 1952
 夢 1952
 バナナと皿 1953
 漁夫 1954
 レディ・スリッパ 1954

スカーフをした少女 1930
 田舎の墓場 〃
 ニューイングランドの風景 〃
 帽子をかぶつた少女 〃
 若い女性 〃
 ノード 1936
 読書する少女 1938
 西部の街 1941
 山 〃
 採鮎の町 〃
 鳥と蛇のスケッチ 1942
 一日は終つた 1945
 I・W・W労働歌 〃
 彼は王様だ 1946
 暑い日 〃
 肉 蠅 1947
 夜明けの仕事 1952
 黄昏 (リトグラフ) 〃
 牛乳をしぼる 1927
 白い器の中のフルーツ 〃
 ドレス・フォームのある室 1928
 アクロバット 〃
 鉄道 〃
 闘牛 〃
 サークスの少女 1930
 出演前 1932
 カフエ 1934
 メキシコのタスクスコ 〃

マースク 1938
 カーニバル 1949
 京博特別陳列—中国古陶瓷 20
 —4月30 京都国立博物館
 中庭燦華日本画展 20—25 大阪・三越
 岡鹿之助個展 22—31 兜屋
 [批]東京19(岡本謙次郎)、産経28、日経29(福島繁太郎)、朝日30(植村鷹千代)、毎日30、読売4月28(針生一郎)、美術批評4月(針生一郎)、アトリエ5月
 仲田好江個展 22—27 中央公論社画廊 [批]朝日27(植村鷹千代)、サン27(金子義雄)、美術批評5月(瀬木慎一)、アトリエ5月
 水木徳子個展 22—25 資生堂 [批]美術批評5月(福島辰夫)、アトリエ5月
 漫画集團有志展 22—26 草土舎
 八人展 (阿部展也、岡本太郎、川端実、神谷信子、桂ユキ子、古茂田守介、杉全直、古沢岩美) 22—27 養清堂
 名取明德、上田哲農二人展 23—27 サエグサ [記]時事27
 江森礫油彩個展 23—27 フォールム
 現代一流美術家名士作品即売展 23—25 銀座・松坂屋

春風会展 23—28 京邸・大丸
 双全会展 23—28 京都・大丸
 田中惣三郎風景小品展 23—28 大阪・阪急洋画廊
 民藝皿と鉢陳列即売展 23—28 大阪・阪急
 旺文会小品展 24—30 新宿・伊勢丹
 4回未更会展 24—27 兼素洞 [記]時事27
 蒔会展 24—27 壺中居
 荻野康児個展 24—28 日本橋・高島屋 [批]美術批評5月(福島辰夫)、アトリエ5月 [記]時事27
 阿井正典彫刻展 24—31 タケミヤ [批]美術批評5月(瀬木慎一)、アトリエ5月
 梶原耕紗子個展 24—27 日本橋・丸善 [批]産経28 [記]時事27
 明治・大正名作展 25—31 東京藝大
 淡彩展 25—30 大阪・梅田画廊
 米良道博個展 26—31 資生堂 [批]美術批評5月(福島辰夫) [記]時事27
 2回京都市行動集團展 26—31 京都市美術館 [批]日本美術工藝5月(橋本喜三)
 院展前年度受賞者展 26—31 銀座・松坂屋

梅原、坂本、奥村、山口、徳岡作品展 26—31 銀座・松坂屋
 船木父子新工作藝展 27—31 たくみ [記]時事29
 東京藝術大学卒業展 28—30 東京藝大
 高島達四郎滯欧作油絵鑑賞展 29—4月3 サエグサ [批]東京4月1(岡本謙次郎)、サン4月2、朝日4月3(植村鷹千代)、産経3(横川毅一郎)、美術批評5月(瀬木慎一)、アトリエ5月
 教育大学構成科・建築工藝科卒業制作展 29—31 日本橋・丸善
 春蘭(香川和歌子)近作展 29—4月3 中央公論社画廊
 9回日本美術院小品展 30—4月7 日本橋・三越 [批]産経3(横川毅一郎)
 杉本健吉個展 30—4月4 日本橋・三越 [批]アトリエ7月
 舞台美術展 30—4月4 日本橋・三越 [批]東京4月2(岡倉士郎)
 中村真ガツシユ展 30—4月4 大阪・高島屋
 古美術鑑賞会 30—4月4 大阪・阪急
 阪・阪急
 黄碧月油絵展 30—4月4 大阪・阪急洋画廊

清展会日本画展 30—4月4 上野・松坂屋
 春光会展 31—4月4 日本橋・高島屋
 4回関西総合美術展 31—4月25 大阪市立美術館
 白鶴春季展(列品—中国殷・周古銅器、南都古寺伝来品特陳—良辨僧正筆経巻、良辨僧正所持柄香炉等々) 31—4月30 神戸・白鶴美術館
 40回光風会展 31—4月15 京都美術館 [批]
 朝日4月7(植村鷹千代) 時事 9
 産経 10(柳亮) 毎日 10(徳大寺公英) 日経 12(福島繁太郎) 読売 28(針生一郎) 美術批評5月(江川和彦) アトリエ6月 [記]
 産経4月8(田近憲三) [受賞]
 絵画部
 光風相互賞—井手宣通、鈴木栄二郎
 光風特賞—松本正人、森清治郎
 岡田賞—三上義人
 南賞—森田源一郎

工藝部

光風工藝賞—米沢久
工藝賞—坂本和子、城秀男
会員出品目録

(繪画)

赤い魚黄色い魚 杉村 惇
蛸とかれい 日原 晃
浦富夕景 山口 猛彦
秋 フレームのある 伊藤 四郎
静物 フレームと影 高光 一也
裸婦 A 山喜多二郎太
裸婦 B 山喜多二郎太
卓上静物 山喜多二郎太
静物 豆井手宣通
伊豆海 笹岡 了一
永遠にマリヤの 爲に 笹岡 了一
冬日流山 西村 愿定
D U E T T O 西村 愿定
黒い鏡の構図 西尾 善積
裸婦 西尾 善積
新海 雪朝比奈文雄
熱海 朝比奈文雄
うしお 朝比奈文雄
(工藝)
硝子花瓶一噌元治
染額瓶山形駒太郎
染布甲板

風呂先屏風 鷺田うめゑ
鉄盛器 中村俊介
硝子花瓶一噌元治
銅釉彩額皿 西村英夫
陶漆花瓶 辻光典
作 品 大阿久重治
状差を兼ねた壁
面裝飾—コウモ
リ 中村 董一
鏤銅花押 西村 英夫
青銅壺 西村 英夫
染額駒ヶ岳 小林 清
乾漆扁壺 佐藤正己
染皮鳥 A 山形駒太郎
鏤銅釣花瓶(蝶) B 中村 董一
ドアーチャイム (Caldine) 中村 俊介
壁面裝飾ガラス 中田 満雄
帯 鷺田うめゑ
硝子灰皿 一噌元治
魚紋彫玻璃大皿 上野正之輔
(繪画)
桜島 安達真太郎
坐像 白川 一郎
塔のある丘 小寺 健吉
さかな 角野判治郎
K嬢 河井清一
十和田湖 服部亮英
輛の津結方亮平
白の花中村研一
朝東風 小糸源太郎
静物 耳野卯三郎

少女坐像 藤江理三郎
早夫人像 寺内万治郎
K夫人像 寺内万治郎
裸婦 辻 永
島霞 中沢 弘光
舞妓 中沢 弘光
C 和田 香苗
B 和 田 香 苗
A 和 田 香 苗
初春の海(房州 鶴原)
小鳥 大沢 海蔵
食卓 有馬三斗枝
夜明けの卓 江藤 純平
夜のシヨールの 女 橋 純平
卓上静物 足代 義郎
レモンと箱 渡辺 武夫
ギター持つ青年 西村 喜久子
少年 西村 喜久子
沈丁花咲く庭 飯田 弥生
熱海風景 飯田 弥生
坐像 飯田 弥生
ひとと 鈴木 栄二郎
アタミ全望 鈴木 栄二郎
アタミ山手 鈴木 栄二郎
マナツルの家並 大 桃 寛
早春 大 桃 寛
早の船付場 遠山 清
雨の船付場 遠山 清
少女 南 政 善
黒いセータ 山田 新一
残雪 山田 新一
室内 島野重之

雪の見える風 新保兵次郎
景関の見える風 高木春太郎
山 湖 益山英吾
網干場 大原省三
人々 岡田又三郎
海辺の町 岡田又三郎
岬の街 梶原 貫五
こぶし咲く 山下 忠平
シヤコタン 山下 忠平
布室のS嬢 庄司 栄吉
画室のS嬢 庄司 栄吉
浅間 雪 田村 一男
仙洞庭 田村 一男
雪山 田村 一男
浅間山 田村 一男
雪原 田村 一男
室の内 森田 元子
唐壺 新道 繁
横向 壺 新道 繁
ダリヤ 壺 新道 繁
カナリヤ 壺 新道 繁
室内 壺 新道 繁
人々 壺 新道 繁
ボタンをとめる 土佐林 豊夫
横臥裸婦 伊藤 悌三
裸婦 伊藤 悌三
裸婦 伊藤 悌三
溪流 奥山 堤
梅咲くころ 高宮 一栄
畑 小林 真二
沼 小林 真二
アトリエの老人 山田 新一
赤いネツカチー 山田 新一

山間早春 藤彦右衛門
山 谷 小川 博史
浜い毛 託 小林 易夫
赤い毛 託 小林 易夫
ガラス瓶の静物 黒田 頼綱
早春の庭 坂田 虎一
猫の庭 藤井 芳子
鏡の前 藤井 芳子
花の庭 藤井 芳子
貝 山中 清一郎
天主堂の窓 山中 清一郎
口紅をつける 辻村 八五郎
婦人 像 溝江 勘二
春庭 舟木 徳重
春庭 反町 博彦
庭の雪 秋元 松子
静物 桜井 慶治
きく夫人像 桜井 慶治
母子 景三 上 義人
風 景三 上 義人
砂丘 金沢 秀之助
丹塗の矢 金沢 秀之助
裸婦と魚 伊藤 悌三
秋 伊藤 悌三
裸婦 伊藤 悌三
裸婦 伊藤 悌三
海底 A 久本 弘一
海底 B 久本 弘一
海底 C 久本 弘一
貝のある庭 黒田 久美子
煉瓦のある庭 黒田 久美子

窓 音叉のある静物 黒田久美子
 疎水 由里 明
 静物 古屋浩蔵
 コンボジション 桜田精一
 (醬油工場)
 裸婦 1 宮脇憲三
 黒いオーバー 2
 伊豆暖冬 大河内信敬
 池畔柳雪
 大洗荒磯 山本彪一
 室木道相馬其一
 並木 中島音次郎
 静物 春 長原 坦
 幼樹 田中実一
 ビロードのエリ 大倉克次
 マキ 米本一郎
 街景 西村俊郎
 裏門 根津莊一
 絵を描く少女 米本一郎
 大きな柳のある風景 西村俊郎
 エプロンの女 根津莊一
 河内裸婦 上島一司
 室内裸婦 北浜 淳
 婦人像 高田正二郎
 N子像 柳瀬俊雄
 雪の日の 高田正二郎
 木曾路 足立真一郎
 漁村 足立真一郎
 画室の一隅 伊藤鎌一

残雪 神保和幸
 思部 峽 手塚義三郎
 黒部 物A 花敵 巖
 静物 B 竹沢 基
 緑 婦人 小川 智
 室内婦人像 鳥居 昇
 姫路風景 桂 一
 宮崎風景 桂 一
 熱海風景 松浦 莫章
 西ノ京の早春 松浦 莫章
 唐招提寺金堂 名渡山愛順
 琉球の女 1 松尾正己
 早春風景 松尾正己
 早やつ時 笹鹿 彪
 お花さく庭 西岡義一
 沈丁花さく庭 高橋道雄
 浜のある静物 野平 上
 市街秋 映 清原重以知
 夕 映 清原重以知
 憩いのひととき 牧野 司郎
 上高地残雪 三輪 孝
 窓のある日 荒井 邦朝
 風のある日 荒井 邦朝
 早 春 高田正二郎
 K子 高田正二郎
 アトリエにてA 柳瀬俊雄
 鶏舎 幸島重雄
 花と 女 星野正三
 初 夏 中条 茂

晩 夏 中条 茂
 三陸の港口 白石隆一
 きもの斎藤 斉
 花帽子の女 池野 寿彦
 漁師町 池野 寿彦
 女ふたり 榑松 正利
 坐女像 守屋 千之
 少女像 守屋 千之
 黒い練習着 山村 孝太郎
 雪の街角 熊沢 欽三
 (特別陳列)
 雪 (大正12年作) 故跡 見 泰
 河岸の村 見 泰
 田舎の娘 見 泰
 門 見 泰
 河岸の家 見 泰
 赤い屋根 見 泰
 白い石垣 見 泰
 リンゴの樹 見 泰
 (大正14年作) 故吉 田 苞
 支那の庭 故吉 田 苞
 シンガポールの庭 (大正9年作)
 庭 (大正9年作)
 西片町の家 故清 水 良雄
 (大正6年作)
 棒の門 (大正9年作)
 兄妹 (大正13年作)

少 大正12年作 故清 水 良雄
 斜 (昭和5年作)
 少 (昭和7年作)
 婦人 (年代不明)
 麦みのる (昭和28年作)
 四月
 光風会物故作家遺作展 1-15
 光風会館
 初期浮世絵名作展 1-8 新
 宿・伊勢丹 (記) 朝日 6
 (近藤市太郎)
 新国宝重要文化財特別展 1-
 8 東京国立博物館
 田中佐一郎個展 1-3 日本
 橋・丸善 (批) 美術批評5月
 (江川和彦)、アトリエ7月
 川端実個展 1-6 資生堂
 (批) 美術批評5月 (福島辰
 夫)、アトリエ7月
 ザツキン新作展 1-20 大阪・
 フジカワ画廊
 鈴木信太郎 水彩・クレヨン展
 1-5 大阪・梅田画廊
 鉄斎遺作展 1-25 神戸市立
 美術館
 21回独立展 1-11 名古屋・
 丸栄
 2回白杵美術協会展 1-4

九州白杵商工会議所ホール
 5回新世紀群野外展 1-4
 大分・若草公園
 前田青郵自撰展 2-18 酒田・
 本間美術館
 1回真鍋博個展 2-4 別子・
 大丸
 13回創元会展 3-15 東京都
 美術館 (批) 東京 8 (久富
 貢)、時事 9、産経 10 (柳亮)、
 毎日 10 (徳大寺公英)、美術批
 評 5月 (江川和彦)、アトリエ
 6月 (記) 産経 8、9 (大河
 内信敬)
 主要出品目録
 風 景 2 斎藤 弥平
 静物 A 名村 定志
 室 B 戸谷 賀一
 早 春 久米 小夜子
 冬 夏
 晩 夏
 サロメとヘロデ 川口 雄男
 街 アトリエ 安藤 信哉
 扇面を持てる婦人 青地 秀太郎
 人 露 龍之助
 頃 木下 幹一
 春 高 嶋 常雄
 人家 高 嶋 常雄
 人物

親子中島研介
製錬所赤津実
黒い食卓平野逸郎
円い風景安武芳男
土器を配す安武芳男
山路傍倉橋英男
庭山倉橋二男
庭庭斎藤二男
夜庭斎藤二男
朝庭斎藤二男
日比の山中村一郎
葛日本橋裏通中山良一
東東京橋大島
陸橋大島
白いコート伊藤釣
煙突のある一隅三樹保
雪後三樹保
工水場石山松一
排所石山松一
佐賀町風景金沢重治
梅林金沢重治
湖南風景金子千恵子
静物A金子千恵子
作物品山野正
静物山野正
ナチウルモルト鈴木千久馬
アメロデイ
蕎麥

早や春柏木治子
あや陽山下太郎
斜立つ倉員辰雄
霧立像中野和高
N氏像樋口一郎
杏花の村樋口一郎
緑風景鶴口一郎
貝のある静物出口龍一
男体山田中繁吉
仙台外沼倉正見
早春戸田郁郎
室内春戸田郁郎
花の夕暮長谷川龍甫
橋の夕暮坂本幹男
室の内坂本幹男
静物川口四郎
こかげ福迫徹郎
展覧会福迫徹郎
枯れた花望橋本花子
残景暮色橋本花子
雪景暮色橋本花子
静物東海林
母生する娘手島貢
写生する娘手島貢
雪降る夜の街石塚三郎
雪の街石塚三郎
建物井上自助
高原晩秋塚本張夫
S子の像塚本張夫
室内静物荒明実
鏡

窓地成田大橋城
聖るい部屋広本季与丸
二人像小栗孝昭
少女人像小栗孝昭
早春の富士佐々木文綱
箱根の富士佐々木文綱
河岸の松川合幾郎
おそごえ川合幾郎
ストロブを囲む中西清
三人裸婦中西清
秋果堀内孝恵
作品堀内孝恵
駅の近く塩見俊治
志摩風景平勇雄
岩原堰河本一男
河地頭風景江口美春
谷地頭風景佐竹禹南
少止女上野維新
波止場進藤清
盛止場進藤清
春庭春長尾徹
波庭春長尾徹
或る夜の仏達辻一摩
結婚の歓び辻一摩
志摩風景内山市郎
室の内三橋兄弟治
室の内三橋兄弟治
室蘭の夏氏家秀之進
海近き家氏家秀之進
三浦三崎町豊千里
勝浦造船所

少女小又光
春装中敬子
温室中敬子
画集内田一郎
水辺春譜内田一郎
水辺春譜内田一郎
鑿船近藤正八
金魚草長谷川政子
つばき小川勝蔵
風景A小川勝蔵
風物上野維信
静物上野維信
富士の白雪野々垣甚一郎
富谷の雪岡田竹男
室内静物岡田竹男
コスチューム岡田竹男
風景犬飼尚
教増田常吉
港増田常吉
早庭春長尾徹
後庭春長尾徹
早庭春長尾徹
黄昏春磯谷桂治
室内の少女高橋北修
岡の残雪児子美義
デパート内海太吉
時計のある静物洗春海
煙る足摺岬洗春海
1 回造型集団展 3-7 日本
橋・白木屋
坂高麗左衛門萩焼作品展 3-1
7 日本橋・白木屋

畦地梅太郎木版画展 3 壹元
房ギャラリ
小橋康秀、清水洋二人展 3-1
6 京都府ギャラリ (批)
日本美術工藝5月(橋本喜三)
平安初期展 4-5月18 奈良
国立博物館
宮脇公実個展 4-10 タケミ
ヤ (批) 美術批評5月(東野
芳明)、アトリエ7月
山本倉丘日本画展 5-8 日
本橋・丸善 (批) 時事8
鶴田吾郎デッサン展 5-7
中央公論社画廊
2 回黄芽会展 5-10 養清堂
[批] 美術批評6月(瀬木慎一)
3 回雪月花展 6-10 兼素洞
[批] 朝日8 (河北倫明)、東京
9 (久富貢)、サン10 (金子義
男)、産経11
古茂田守介デッサン展 6-10
サエグサ [批] 朝日10、美術
批評6月(瀬木慎一)、アトリ
エ7月 (記) 産経11
田之口青見日本画展 6-11
日本橋・三越
古九谷名品展 6-11 日本橋
三越
加賀百万石歴代甲冑展 6-11
日本橋・三越
奈良薬師寺写真展 6-11 日
本橋・三越
古美術鑑賞展 6-11 上野・
松坂屋

美術展覧会(4月)

- 佐原公明水彩小品展 6-11 大阪・阪急洋画廊
- 古美術展 6-10 大阪・阪急
- 2回院展中堅作家新作展 6-11 名古屋・松坂屋
- 13回一采社展 7-11 日本橋
- 高島屋 [批]東京10(久富貢) [記]産経11
- 難波田龍起個展 7-10 資生堂 [批]東京9(岡本謙次郎)、読売28(針生一郎)、アトリエ7月 [記]産経11
- 竹久夢二回顧展 8-22 銀座・松屋 [批]時事14、東京タイムズ22 [記]東京19(浜本浩)、毎日20(河野鷹思)
- 岡村夫二創作装幀展 8-10 中央公論社画廊
- 肉筆浮世絵名作展 9-18 日本橋・三越
- 2回日本彫塑展(前期展) 9-21 東京都美術館
- 2回三人展(中川力、広瀬功、大津鎮雄) 9-14 日本橋・丸善
- 春季二科展 9-14 銀座・松坂屋 [批]朝日13(植村鷹千代)、毎日14、読売28(針生一郎)、美術批評5月(植村鷹千代)、アトリエ6月 [記]時事14、産経17(横川毅一郎)
- 2回レアル美術展 9-14 大阪・そいご

- 鑄木清方回顧展 10-5月23 鎌倉・近代美術館 [批]産経23(横川毅一郎)
- 出品目録
- 一葉女史の墓 1902
- 秋 宵 1903
- 墨田川舟遊 1914
- 雨月物語の内ものけ、まろや、黄金の太刀 1921
- 朝 涼 1925
- 浴 後 1927
- 松若と女清玄 対幅 1927頃
- 滝野川観楓 1930
- 明 鏡 1931
- 朗 羅 1933
- 助 六 1934
- 鐘 供 養 1934
- 梅王丸・桜丸 十種 香 1934
- 祇園林の佳人 1934
- 歌 姫 絵 姿 1934
- 鏡 獅 子 1934
- 保 林 子 1935
- 菓 冬 花 1935
- 初 喜 恭 順 1936
- 慶 喜 恭 順 1936
- 伽 羅 1937
- 鱒 蘇 1937
- 層 草 1937
- 思 草 1937
- 京の猫道成寺 1937-1938
- 歌舞伎の始 1938

- 一葉 像 1940
- 富士 詣 1941
- 阿竹大日如来 1943
- 築地川連作(画帖) 1943頃
- 高尾さんげ 1944
- 春 雪 1946
- 静物小品十五点 1947-1948
- 朝夕安居 三枚 1948
- 築地川春雨 1950
- 八重垣 姫 1950
- からかぜ 1951
- 春の浦曲 1951
- 夏座敷 1952
- 大川の虹 1952
- 吹雪 1953
- 夏草 1953
- 菊 盃 1953
- 白魚橋 1954
- 女役者衆八(下絵) 1954
- 築地明石町 1927
- 三遊亭円朝 1930
- 妓女像二幅 1934
- 明治風俗十二ヶ月 1935
- 一葉 像 1940
- (挿絵)
- 註文帳 十二点 1927
- に(りえ) 十五 1934
- 苦楽表紙 画帖 1947-1948
- 二冊及び六幅

- 苦楽挿絵 金色 1947-1948
- 夜及び日本橋 1947
- 中国古陶展 10-5月30 京都国立博物館
- 日本宣伝クラブ「写真絵画」展 10-14 日本橋・白木屋
- 白樹余彫塑展 10-14 日本橋・白木屋
- 花むしろ新作家具の会 10-17 たくみ
- 瀬戸新鋭作家陶藝展 10-18 新宿・伊勢丹
- 画入展 10-15 京都・丸物
- 現代美術総合名作展 10-25 高岡市美術館
- 榎本和子個展 11-20 タケミヤ [批]美術批評5月(大森忠行)、アトリエ7月
- 岡田三郎助遺作小品展 12-17 中央公論社画廊 [記]産経17(横川毅一郎)
- 降旗俊三郎水墨展 12-17 壺中居 [批]読売28(針生一郎) [記]産経17(横川毅一郎)
- 自由美術六人展 12-15 資生堂 [批]美術批評5月(針生一郎)
- 山本恵一作品展 12-24 養清堂
- 蕭繁宝日本画近作展 12-17 養清堂
- 独立美術会員自選展 13-18 日本橋・三越 [批]東京17(岡本謙次郎)

- 福田翠光日本画展 13-18 日本橋・三越 [批]朝日15(河北倫明)、サン18(金子義男)
- 示風会染織展 13-18 日本橋・三越
- アジア人形民藝品展 13-18 日本橋・三越
- 平家納経特別展 13-25 東京国立博物館
- 双彩会水墨画展 13-18 上野・松坂屋
- 2回百合会鑑賞展 13-17 サエグサ
- 村松爽一個展 13-18 大阪・御門
- 中堅作家展 13-18 大阪・大丸
- 琳派小品名作鑑賞展 13-18 大阪・阪急
- 松井繁個展 13-18 大阪・阪急
- 急洋画廊
- 木本大果日本画展 14-18 日本橋・高島屋 [批]産経17(横川毅一郎)
- 3回日本板画院展 14-5月10 大阪・日本工藝館
- 大鹿実個展 14-19 京都府ギヤラリ
- 初期伊太利絵画複製展 15-5月15 東京都美術館
- 青峰重倫作品展 15-20 日本橋・丸善 [批]美術批評6月(針生一郎)

瀨川進肖像画展 15—17 丸の内・工業クラブ

クリベル・シン・シェーカーワット個展 15—20 養清堂

後藤真吉個展 15—19 別府・大分銀行階上

野口道方染色作品展 16—21 銀座・松坂屋

ゴヤ特別展(エッチング) 16—5月5 東京国立博物館

[記]時事22、朝日22、23、24、25(嘉門安雄)

香月泰男油絵展 16—21 フォルム [批]朝日20 (植村鷹千代)、美術批評6月(瀨木慎一)、アトリエ7月

森本健二個展 16—20 資生堂 [批]美術批評6月(江川和彦)、アトリエ7月

木村辰彦洋画展 17—21 日本橋・白木屋

22回日本版画協会展 17—5月3 東京都美術館

21回春陽会展 17—5月2 東京都美術館

[批] 毎日23(土方定一)

東京タイムズ24(田近憲三)

朝日24(植村鷹千代)

日経26(福島繁太郎)

時事26

日経27(柳亮)

読光28(針生一郎)

美術展覧会(4月)

東京29、30 鼎談(益田義信、三雲祥之助、今泉篤男)

美術批評6月(瀨木慎一)

アトリエ7月

[受賞] 春陽会賞

絵画—岸葉子、五味秀夫、中山爾郎

研究賞 絵画—三吉雅子、中村勇、田中康夫

新会員 絵画—荒木市三、友田みね子、藤井令太郎

版画—古川龍生

舞台—河野国夫、織田音也、北川勇

新準会員 絵画—三吉亮久、中山爾郎

舞台—真野誠二、板橋晋治、根岸正晃

出品目録

。印会員 △印準会員

修理 場 奈良義雄

一九五四年 A 田中康夫

シ B シ C シ

ポーズする女 今関 鴛人

女の顔 シ 裸婦 A 岸 葉子

白い服 岸 葉子

砂の屋 宮田 武彦

飛んでくる 志水 真澄

静物 中山 爾郎

船のコムボジ

海の獲物 シ

帆のコムボジ

建物の山田 栄作

たちばなし 岡鹿之助

なすの静物 三吉 雅子

白い石膏と花

黒い石膏と花

不 安 南大路 一

丘迫された神経

波止場より 杉浦 延寿

工場風景 松藤 二郎

放し心 白井 幸彦

布と椅子 藤井 令太郎

窓 友田みね子

腰かける女 荒木市三

人物二人

コップのある人

花の中の顔

裸婦 横尾 文彦

窓 小堀 信子

春の窓 黒田 レイコ

か (版画) 春の訪れ 山口 陽子

巫女 清宮 實文

人体抽象 A 北岡 文雄

町工場 市川 陽一郎

裏街 武田 健夫

姐上静物

厨房静物

窓辺の小草 古川 竜生

草の飛行

草の飛行 壺の小草

落葉 小林ドンゲ

イザナ 高橋省三

コップに挿した。長谷川 潔

若樹

薊 森村 惟一

形グロゼイエと人

涙 困つた

灯は囁く

星の手

夜の合

鳥 遠藤 富子

和 マリオネッタ

舞 水鳥の国

三 千 魚田 中進

繩 飛 山口和佐夫

坂 道。前田 藤四郎

鳥籠を持つ少女

晩秋の夜 上野 長雄

港 街

月 夜

(映画美術)

濡れ髪権八 水谷 浩

花の生涯 1

シ 2

シ 3

シ 4

シ 5

お役者変化 1

シ

シ

シ

シ

シ

シ

シ

シ

お役者変化2	水谷 浩	箱根風景A。横堀角次郎	鈴 塔1 一瀬茂治	卓上静物。村山 密	鳥の賜物。三井永一
東京物語1	浜田辰雄	面木の道川上健次	鳥のいる静物。中村徳三郎	本牧風景。遠藤典太	飛び立つ時に
真実一路2		風 景。小穴隆一	夢の海	木 立	花 A。原田平治郎
夜明け前1	丸茂 孝	晩 夏。鬼塚金華	河 岸。知久洋一郎	学 校	卓 上
3・4		花 々。赤羽真純	セメント工場。日高万典	破れた石膏。小田原トヨ子	花 B
(絵画)		破 フランス人形。三根孝子	工場(クレイン)	婦 人。像。森本光子	猫とストープ。谷中 茂
雨月物語「白峰」	木村荘八	あぢさい	二 人。越智雄二	り んご園。市川 治	J氏の告白。小泉倫之助
「夕顔」		びんと果物。小川マリ子	三 人	夏 の 静 物。藤堂奈三郎	K氏の孤独
荷風小説挿絵		びんのある静物	蒼 穹。五味秀夫	鮭 田家裕久	婦 人。像。鈴木敏董
一葉「わかれ道」		静 物。亀野積治	霧 幻の窓	札 幌市街。山崎達郎	静かな物。田中 岑
荷風小説挿絵		ガラス器と果物。西口輝子	暮 春。揺曳	大 通 り 附 近	月と日のたたか
相 撲。石井鶴三		ク レ ー ン。加藤秀雄	ま ま ごと。四方れい	金 魚。鉢。見玉彦三	工 場。街。栗牧慶次
母子入浴		鳥の見える風景	裏 庭	窓 辺 の 花	グ レ ン。花山良彦
石膏室にて。長森 敏		躍 子。像。藤野 竜	椅子のある室外	長 崎 の 町。松島正男	塩鮭とカリフラ。川上尉平
村の一隅。秋口保波		薔 薇。山	静物	内 海 風 景。大川 進	母 と 子
山村の田		イザニンゲドレ	風 人。像。松原鉄之	石 膏 と キ ン セ ン	鶏の有る静物
母子。若山為三		ス の 女	展 望。高橋辰雄	カ の 有 る 静 物	網 二 人 の 漁 夫
風 景		静 物。安田まゆみ	閑 道	黄 い 壺。小見辰男	夏 の 花。大嶺政敏
ゴムの木。鈴木喜一郎		集 団。伊原 栄	狩 する 人々。金子 進	予 の 處。兆。川島昇太郎	鳥 と 壺
薬屋根と丘。大手 康		百 姓 の 親 子。小穴竹豊	六 甲 風 景。前田清子	生 の 活 香。崎和子	静 物。堀金 泰
狸々の面。魚津良吉		新 聞 を 読 む 男 た	垂 水 風 景。高田力蔵	ア メ リ カ 人。天笠義一	静 物。志村一男
枯れたる花		ち	銀 行。街。高田力蔵	東 京 駅。伊東博子	貝 殻 の 静 物
乾魚静物		藍 那(神戸)。佐藤篤郎	木 向 葵。加山四郎	水 仙 の 有 る 静 物。東 政雄	静 物
向ヶ丘スケッチ。木村荘八		藍 那(神戸)。佐藤篤郎	日 向 葵。加山四郎	鯨 静 物。田辺謙輔	静 物
窓外風景		裸 婦。三雲祥之助	シ ク ラ メ ン	に わ と り	静 物
落 月		彫 刻。家	支 那 壺	山 鳥 と に わ と り	機 械 体 操 する 子
花 園。倉田三郎		漁 港。中谷 泰	肉 屋。水谷 清	春 の 花 園。楠田照子	機 械 体 操 する 子
静 物。△福田庸一		農 民 の 顔	東 桜 島(朝)。上野春香	コ ン ポ ジ シ ョ ン	機 械 体 操 する 子
鮭の静物。山本陸三郎		静 物	東 桜 島(夕)	シ ョ ン	機 械 体 操 する 子
小雀風景。野村祐夫		窓 辺 の 静 物(昼)	静 物。宗久恭子	シ ョ ン	魚 屋 の 店 先。望月礼三
箱根風景B。横堀角次郎		窓 辺 の 静 物(夜)	丘 の 街。鈴木明	シ ョ ン	領 事 の 裏 手。小川 緑
雪の姥子		窓 辺 の 静 物(夜)	初 冬。久保田恒男	シ ョ ン	天 主 堂

窓の有る風景。小川と緑
乙女像。中川とも
静。物。三浦哲夫
静。物。宮本義雄
花の静。物。上田健一
作。品。東。晴。司
療養所のある丘。仲村。勇
水門のある風景。石。井。光。楓
初秋の丘。石。井。光。楓
密の対話。伊。藤。善
森の対話。伊。藤。善
巫熱帯の船。出。岡。実
忘れていた話。出。岡。実
古いランプの話。出。岡。実
ひなげし。武。繩。道。子
菊。山。本。英。子
鳥。山。本。英。子
風。景。林。成。己
風。景。松。本。辰。雄
静。物。竹。内。博
静。物。子。本。藤。直
街。野。口。正。二
朝。野。口。正。二
夜。今。竹。七。郎
昼。今。竹。七。郎
一つの具象。池。田。久。典
冬の下河原。山。上。喬
湖畔の工場。賀。茂。牛。之。輔
ギ。中。野。満。男
三。面。鏡。中。野。満。男
鶏。舎。日。下。昌。三。郎
椿咲く和具。佐。藤。昌。胤
和具の農家。佐。藤。昌。胤

長島風景。佐藤昌胤
蝶を追ふ女。市川晃
堤防の親子。市川晃
海浜風景。森下平衛
石壁の家。安谷屋正義
自。画。像。望。月。礼。三
工具置場。柿沼一男
玄琢早春。岩崎又二郎
窓辺の花。岩崎又二郎
椅子に寄る。大沢鉦一郎
誕。生。坂。倉。圭。介
描く少女。坂。倉。圭。介
壺。坂。倉。圭。介
アルバム。宮。脇。晴
戯れる。宮。脇。晴
雪。川。端。弥。之。助
古い。川。端。弥。之。助
静。物。山。川。清
風。景。長。岡。一。敏
オーケストラ。竹。中。靖
木のある風景。中。村。寿。子
さ。よ。り。津。谷。鹿。市
い。か。原。田。武。男
花とセーターの女。原。田。武。男
パン。ジ。高。木。勇。次
花。高。木。勇。次
静。物。高。木。勇。次
花。高。木。勇。次
丘の学院。畑。中。三。次
海の幻想。伊。藤。敏。博
馬込の残雪。伊。藤。敏。博
高原秋色。伊。藤。敏。博
馬込の淡雪。伊。藤。敏。博

けし笠松春彦
赤。堀。木。原。康。行
魚。河。村。寅。明
工場風景。佐。野。正。隆
船。佐。野。正。隆
港。會。根。徹
静。物。二。見。和。男
街。愁。谷。口。一。芳
海。石。田。正。典
浜。石。田。正。典
花。石。田。正。典
捨。石。田。正。典
初。冬。堀。信。春
初。柳。沢。健
滞。船。蘭。田。日。生
森と裸木。蘭。田。日。生
界。港。岸。に。て。蘭。田。日。生
山。田。川。勤。次
魚。な。ど。郡。楠。昭
あ。な。ど。郡。楠。昭
黒。い。土。野。村。千。春
早。春。の。岡。野。村。千。春
作。品。梅。田。秀
窓。辺。の。静。物。山。本。朝。子
静。物。岩。月。吾。郎
働くメノコ。昭。井。明
陽春の木立。稲。垣。毅
空箱のある静物。前。川。鋼。平
工。場。水。野。豊。彦
大。和。田。秋。水。野。豊。彦
水。門。芦。小。栗。有。陰
大。和。田。斜。陽。小。栗。有。陰

窓。小。栗。有。陰
草。如。露。等。伊。藤。慶。之。助
魚。如。露。等。伊。藤。慶。之。助
逃。げ。道。細。井。三。男
滝谷の岩壁。足。立。源。一。郎
母。子。新。沼。杏。一
さくら草と金魚。新。沼。杏。一
ヨットA。新。沼。杏。一
ヨットB。岩。田。栄。之。助
静。物。岩。田。栄。之。助
か。小。柳。秀。太。郎
乗。鞍。遠。望。小。柳。秀。太。郎
春。雪。関。四。郎。五。郎
燈。台。風。景。関。四。郎。五。郎
湖。岬。和。田。歳。一
め。だ。ま。斎。藤。魁
首。里。風。景。大。嶺。政。寛
夏。密。柑。德。田。宗。忠
静。物。赤。木。幸。輝
静。物。赤。木。幸。輝
向。物。卷。本。辰。夫
河。畔。の。畑。葵。上。原。欽。次
石。切。場。風。景。石。黒。平。三。郎
アトリエの一隅。石。黒。平。三。郎
風。景。田。中。隆。夫
静。物。尾。関。重。之。介
タンクのある風景。藤。井。俊。一
屠。場。の。人。達。豊。泉。恵。三
屠。場。の。人。達。豊。泉。恵。三
牛。の。首。豊。泉。恵。三

花と鳥籠(A)。加藤秀夫
山。羊。と。少。女。加。藤。秀。夫
角。鍋。の。魚。吉。田。達。磨
枯。芭。蕉。吉。田。達。磨
燻。魚。と。花。キ。ャ。ベ。吉。田。達。磨
赤。い。椅子。森。川。鏡
寝。る。女。森。川。鏡
裸。婦。森。川。鏡
芽。立。の。頃。松。井。亮。子
千。魚。の。有。る。静。物。松。井。亮。子
魚。な。ど。桜。井。邦。彦
建。物。山。崎。秀。夫
老。人。川。原。貫。一
早。春。の。盆。地。都。築。武。雄
劇。場。前。岩。本。芳。春
人。物。加。賀。孝。一。郎
画。室。の。静。物。加。賀。孝。一。郎
朝。の。納。屋。橋。加。賀。孝。一。郎
静。物。足。立。博
花。物。松。本。尚。美
静。物。田。中。重。治
舟。だ。ま。り。前。田。和。子
エン。ト。ツ。の。有。る。竹。崎。重。三。郎
風。景。竹。崎。重。三。郎
ハ。カ。リ。二。つ。山。本。千。香。子
寺。山。本。千。香。子
半。田。港。の。静。物。峯。村。ユ。キ。エ
スト。ー。プ。の。有。る。渡。辺。一。夫
静。物。丸。山。恒。雄
ガ。ス。タ。ン。ク。の。有。る。土。屋。義。郎
春。風。景。土。屋。義。郎
春。風。景。土。屋。義。郎
子。供。の。有。る。自。画。荒。井。竜。太。郎
像。松。下。忠

棒 花寺沢正敏
 静 物井上重生
 海 辺々
 新 緑 大谷俊治
 赤えいのある台 南川都雄
 所 アトリエの一隅 萩原 冽
 少 女 像 稲熊万栄
 撥弄工場の一隅 築瀬武夫
 小鳥と少年 阿部平臣
 港 の人々 松の谷美枝子
 街 景 増田義助
 桂 萱 風景 永井金四郎
 タイルと魚 米津一八
 静 物 森松 治
 M 嬢 水野裕 介
 樹 間 永露 勝
 波 止 場 浜野政治
 塀のある風景 丹下年男
 ショールの女 池田雅夫
 庭 作 池田 彰
 制 作 藤島清雄
 下 落 合 風景 長瀬正雄
 検 温 鈴木和 市
 突 堤 笠木 実
 石 と 男々
 しちめんちよう
 ガラスを吹く工 徳田信保
 場 パイヤなど 玉那覇正吉
 花 高垣又太郎
 子 藤浦康子
 二 女 と 鳥 荒瀬貞次

群 像 細田 孝
 人 物 篠 笹 亮
 赤い屋根の家 五十嵐藤俊
 風 景 依田美代子
 花のフーガ 荒木孝也
 松 A 三吉亮久
 若 葉 の 山 宮腰久子
 風 景 山形文蔵
 屠 殺 場 松島治基
 風 景 横山 満
 いわしと果物 黄 碧
 舟だまり 中西 肇
 雪の建物 君野隆治
 早春の園 久守昭義
 教会の裏口 大橋賢造
 風景 宮内政美
 風景 (冬) 小松義雄
 風景 柳田三千子
 静 物 河野昭二
 夢 野 風 景 大西江二
 浅 春 本 荘 越
 ピアノと女 中村洋吉
 雪 の 村 杵掛利通
 雪 の 店 頭 成田英一
 海の見える風景 塚元正勝
 森の中の偶像 小西郁夫
 東山手風景 鶴 鯛 毅
 夕 暮 れ 稲 村 昌 作
 海の見える風景 稲 村 昌 作
 船 物 中 村 桂 太 郎
 ア パー ト 千 本 祐 三

(舞台美術)

花 五 月 の 兄 住 吉 弘 人
 三島由紀夫作
 若人よ蘇えれ 穴 沢 喜 美 男
 !P. サルトル作
 墓場なき死者 北 川 崎 ひ ろ し
 ユリス・ハイ作
 持つと云う事 北 川 崎 ひ ろ し
 ブッテニ作曲
 お蝶夫人 (招待) 三 林 亮 太 郎
 モリエール作
 スカパンの悪企 穴 沢 喜 美 男
 むみ 吉 田 謙 吉
 谷崎潤一郎作
 白 狐 の 湯 加 藤 彰 亮
 泉鏡花作
 天守 物 語 牛 丸 一 茂
 坪内逍遙作
 役 の 行 者 吉 野 国 夫
 ノイエタンツ 中 川 利 夫
 テネシーウィリアムズ作
 夏 と 煙 篠 原 勉 久
 街 篠 原 正 一
 野沢富美子作
 煉瓦女工 穴 沢 喜 美 男
 田中千夫作
 滝尾 燾 雄
 A. サラクルー作
 神ぞ知る (招待) 松 山 崇
 E. コールド・ウエール作
 タバコ・ロード 吉 井 宗 春
 W. シェイクスピア作
 十二夜 遠 山 静 雄

堀田恒存作
 堅 壘 奪 取 佐 藤 公 信
 健 次 作
 誕 生 祭 浜 野 純 次
 パレエ・コッペ 岡 本 保
 田中千夫作
 子 鈴 木 雅 博
 アリスト・パルネス作
 女の平和 篠 木 佐 夫
 センターズデー 伊 藤 燾 朔
 ジー 西 村 恭 一
 デザイン
 高田 保作
 天の岩戸 三 田 潤 之 助
 敦元松代作
 婚 期 小 島 一 糸
 総合劇 アジア 小 寺 緋 紗 子
 の光に 緒 方 規 矩 子
 火祭の舞 A・B 緒 方 規 矩 子
 霧のめざめ 緒 方 規 矩 子
 あしおと 緒 方 規 矩 子
 大津三郎作曲虫 榊 原 喜 代 子
 のくに 榊 原 喜 代 子
 花の組曲 福 富 悦 子
 ベレリ 鹿 人
 鹿と獵人、獵人 鹿 人
 野 武 士 田 中 恒 男
 野取仙之助作
 慈 悲 心 田 中 恒 男
 出 発 板 根 晋 治
 不思議の森の物 板 根 晋 治
 語 多 賀 敬 二
 幽霊ソナタ 矢 島 正 二 郎

菊地 寛作
 袈裟の良人 原 英 一
 R. ラティゲ作
 ベリカン家 北 國 有 利
 モダンバレエ
 つばめの踊り 西 村 恭 一
 雪 の 踊 り 西 村 恭 一
 アルマン・サラクルー作
 怒りの夜 阪 本 雅 信
 小田和夫作
 雨 の 夜 小 島 一 糸
 ハイエルマンズ作
 天 佑 丸 宇 野 耕 司
 渡辺桂司作
 高度二、五〇〇 金 子 和 一 郎
 加藤道夫作
 思ひ出を充る男 小 林 雅 夫
 火野葦平作 知切光蔵脚色
 大砲と撫子 織 田 音 也
 やもめの家 坂 上 建 司
 モリスレナ作
 プロメテの創造 林 芳 雄
 武器三題の内 渡 辺 真 吾 樹
 槍 渡 辺 真 吾 樹
 刃 渡 辺 真 吾 樹
 弓 渡 辺 真 吾 樹
 モダンバレエの 真 野 誠 二
 為のデザインA
 〃 B
 〃 C
 ハンガリア舞曲 真 野 誠 二
 バレエ
 ロミオとジュリ 真 野 誠 二
 エット 真 野 誠 二
 バレエ
 椿 姫 真 野 誠 二

東京 都 美 術 館

(批)

毎 日 23 (土 方 定 一)

東 京 タイムズ 24 (田 近 憲 三)

朝 日 24 (植 村 鷹 千 代)

日 経 26 (福 島 繁 太 郎)

時 事 26

日 経 27 (柳 亮)

読 売 28 (針 生 二 郎)

東 京 29、30 鼎 談 三 雲 祥 之 助
今 泉 篤 男

美 術 批 評 6 月 (瀬 木 慎 一)

ア ト リ エ 7 月

(受 賞)

国 画 賞

絵 画 一 本 田 克 己、野 田 好 子

写 真 一 山 田 慶 次 郎

新 人 賞

絵 画 一 水 野 英 夫

版 画 一 小 谷 裕 三

会 友 優 作 賞

写 真 一 竹 見 義 雄

新 会 員

絵 画 一 和 田 忠 志

写 真 一 竹 見 義 雄、内 田 美 胤

新 会 友

絵 画 一 本 田 克 己、野 田 好 子、

写 真 一 平 松 太 郎

出 品 目 録

。 印 会 員

△ 印 会 友

美 術 展 覧 会 (4 月)

(絵 画)

水 二つの水槽 △和 田 忠 志
 藤 立 長 野 静 司
 庭 水 上 民 平
 山 村 の 朝 野 田 好 子
 雲 野 田 好 子
 海 辺 △橋 本 三 郎
 機 械 A 橋 本 三 郎
 造 船 △橋 本 三 郎
 機 械 B △橋 本 三 郎
 牡 牛 香 月 泰 男
 鹽 舟 △香 月 泰 男
 パ レ エ 久 保 守
 リ ラ △久 保 守
 バ レ ナ △久 保 守
 港 と 喜 多 村 知
 人 と 株 △喜 多 村 知
 流 転 立 石 鉄 臣
 来 た △立 石 鉄 臣
 丘 日 向 裕
 山 村 五 月 △日 向 裕
 作 品 (一) 福 井 敬 一
 髪 品 (二) 福 井 敬 一
 作 品 (三) 福 井 敬 一
 雪 の 森 佐 藤 俊 郎
 眼 の ない 魚 (A) 国 松 登
 (B) 国 松 登
 (C) 国 松 登
 風 景 B 宋 健 二
 彩 光 B 吉 島 鉄 井

作 品 七 中 島 宣 矩
 作 品 八 △藤 井 恒 治
 枯 れた 花 C △藤 井 恒 治
 池 と 枯 れた 花 △小 泉 富 司
 庭 像 佐 々 木 信 好
 群 像 △佐 々 木 信 好
 丘 (赤) △岩 尾 秀 樹
 (黒) △岩 尾 秀 樹
 魚 譜 △三 枝 茂 雄
 掲 花 △三 枝 茂 雄
 或 る 女 達 堀 内 康 司
 肉 と 女 と △堀 内 康 司
 つ ら ら と 魚 野 本 醇
 白 い ゴ チ ャ ッ ク 浜 田 邦 男
 青 い 家 族 △浜 田 邦 男
 か ん な B 片 山 茂 樹
 (工 藝)
 柿 釉 盛 絵 壺 阿 部 裕 工
 ホ ム ス パ ン 部 浅 川 喜 美 代
 屋 着 地 相 田 照 子
 服 地 相 田 照 子
 エ プ ボ ン 相 田 照 子
 黒 釉 面 取 抱 瓶 新 垣 栄 三 郎
 ス カ ー フ 土 肥 悦 子
 帯 ア ノ 掛 福 田 那 子
 ピ ア ノ 掛 福 田 那 子
 角 ピ ッ チ ャ ー △船 木 道 忠
 楯 ピ ッ チ ャ ー △船 木 道 忠
 楯 ピ ッ チ ャ ー △船 木 道 忠
 乳 ピ ッ チ ャ ー △船 木 道 忠
 注 △船 木 道 忠

角 皿 △船 木 研 志
 ビ ッ チ ャ ー △船 木 研 志
 鉢 滴 △船 木 研 志
 水 滴 △船 木 研 志
 花 生 △船 木 研 志
 小 紋 茶 羽 織 △広 本 長 子
 小 紋 帯 織 △広 本 長 子
 壁 掛 立 葵 △原 田 麻 那
 琥珀 色 の し め 夏 △原 田 麻 那
 衣 △原 田 麻 那
 新 草 野 の し め △原 田 麻 那
 藍 地 の し め △原 田 麻 那
 作 品 A 福 島 輝 子
 壁 掛 △福 島 輝 子
 テ ー ブ ル セ ン 原 山 雅 子
 タ ー 原 山 雅 子
 注 染 に よ る 染 布 稀 垣 多 賀 子
 肩 掛 今 西 ハ ル エ
 飾 柵 池 田 三 四 郎
 ベ ッ ド カ パ 井 上 恵 美 子
 カ ー テ ン 飯 田 玲 子
 白 角 組 皿 △河 井 武 一
 面 取 黄 壺 △河 井 武 一
 流 し 薬 組 皿 △河 井 武 一
 カ ー テ ン 茶 地 幾 △小 島 恵 次 郎
 可 文 △小 島 恵 次 郎
 ジ ア テ ン (エ ン 地) △小 島 恵 次 郎
 卓 布 (小) △金 森 あ や
 帯 ス ト ー ル 加 藤 好
 一 着 尺 △加 藤 好
 榊 細 工 抹 茶 入 小 柳 金 太 郎
 型 染 唐 草 カ ー テ ン 小 柳 金 太 郎
 型 染 葛 布 襖 地 小 柳 金 太 郎

榊 細 工 眼鏡 入 小 柳 金 太 郎
 (無 地 張) 眼鏡 入 小 柳 金 太 郎
 婦 人 服 地 上 条 す み の
 プ ラ ウ ス 軽 部 良 子
 帯 地 小 紋 片 根 安 子
 ホ ム ス パ ン 黒 岩 高 子
 椅子 敷 △黒 岩 高 子
 か べ 掛 楠 田 喜 代 子
 黒 釉 壺 金 城 次 郎
 刷 毛 目 針 喜 多 村 作 太 郎
 染 屏 風 色 小 山 保 家
 拓 屏 風 △小 山 保 家
 型 染 壁 掛 △小 山 保 家
 和 紙 染 敷 物 △森 義 利
 葛 布 藍 染 裂 △森 義 利
 四 枚 曲 半 双 (二) 三 宅 喜 久 子
 白 釉 角 呂 宮 下 貞 一 郎
 研 出 紋 文 庫 森 泉 音 三 郎
 緋 座 布 団 地 森 島 千 栄 子
 カ ー テ ン 新 沼 玲 子
 手 捺 染 布 地 長 沼 孝 一
 壁 掛 中 川 浩 子
 帯 (赤 と 黒) 成 石 貞 子
 裂 地 大 橋 豊 久
 部 屋 着 及 川 全 三
 婦 人 服 地 (B) 及 川 全 三
 (A) 及 川 全 三
 葛 布 襖 地 △岡 村 吉 右 衛 門
 型 染 唐 草 カ ー テ ン 岡 村 吉 右 衛 門
 型 染 葛 布 襖 地 岡 村 吉 右 衛 門

型染唐草 カー。岡村吉右衛門
 テン カーテン七宝つ 大橋準雄
 なぎ 和服コート地 大沢昭子
 炬燵掛け 後藤清吉郎
 やまぶきの花。後藤清吉郎
 紙 譜 帖 城周栄喜
 琉球紅型壁掛 芹沢銈介
 春夏秋冬型染屏 芹沢銈介
 風 地 型染卓布(山藪) 地 型染卓布(細) 型染帯地 型染裂 三彩打紋大皿。佐久間藤太郎 華文カルトン。関口信男 袖地型染着尺 鳥華文カルトン ミシン掛。外村吉之介 麻敷物 毛敷物 椅子敷6点 三彩打紋大皿。佐久間藤太郎 袖地単衣 塩入守治 袖地カーテン 着 尺 閔根順子 額 琉球のおど 酒井清子 袖地型染鶏冠 坂和正春 桜皮細工手箱 佐藤省一郎 帯 地 斎藤博子 大和 路 高橋益子 角 皿(B) 滝田頂一

押紋角皿五客 滝田頂一
 尺 竹中歌子
 帯 椀 夏子
 帯 (具) 田口芳郎
 桜皮細工印宮 高田みさほ
 レットケース シガ
 双葉文枝間じき 渡辺禎雄
 カルトン 人物 渡辺禎雄
 (黄) 草 地 あざみと 草 地 カートン 人間 モヨイ ビニロン試作服。柳悦孝 地(ABCDE) 赤地 霞布 地 ビニロン椅子張 マフラー二種 布張リス) 企劃。柳悦孝 ツール) 構造 浦辺鎮太郎 注染木綿布(C) 袖木沙弥郎 椅子敷(B) 袖地単衣(A) 袖地単衣(G) 袖地単衣(D) 袖地単衣(E) 袖地単衣(F) 袖地単衣 中型紅型帯地。吉田悌三 蘇芳赤帯地 藍染間仕切 藍染間仕切 山寄一恵 のり型染敷物 内田皓夫 型染帯地(紅柄) 掛 五味幸雄

浮織布(ピニロ) 柳悦博
 着 尺 着 (絵画) 故会員 宮坂勝 婦人 像 (処女作) アラビヤ人スケッチ 古城への道 石膏のある静物 女画 家 裸 川べり 花 坐せる裸婦 松本城 樹 早春風景 牡丹台 腰かける裸婦 残ケ 雪 駒ケ岳 波切風景 北京北池子街 裸 立てる裸婦 スケート 木崎湖 二人裸婦(絶筆) 晩秋雑木林 桃の夕焼 デッサン

デッサン 高橋照子
 静物 辻清子
 田卓静物 中村博
 静物(B) 藤本俊子
 静物(A) 藤本俊子
 物と影 C 藤本俊子
 物と影 B 藤本俊子
 洋物 梨。熊谷九寿
 月夜の東大寺裏 梨。熊谷九寿
 道 林 井上善教
 牛と 鹿毛正三
 恋 人 島川隆介
 人 勤 安永仁助
 静 地。富岡令子
 碓の 地。松田正平
 古代 魚

浜で働く人々 梅宮馨四郎
 (黒い海) 亮リ アイスクリーム 作品 No.1 石橋幸雄 鳥のボジション 平田茂子 春遠からじ 鶴田昌司 裸 女 峽 樹 のどかな部落 石井佐一 陽かげの部落 初 夏 石川雅也 静物 北村喜八郎 働く人の一ト時 鳥雄たけし とりとま。田中道久 瓦 職 人 小林邦報 昼 景 小見利節 M子ちゃん。二見利節 T子ちゃん H子ちゃん シュミーズの女。原 精一 バレリーナ 静物 冬 芒。小館善四郎 こわれた蟹 橋と 櫛 柏木房太郎 冬 日 富田民治 花 清水光子 顔 シリヤーエフの 小林敏夫

窓	山に求めて	橋のある景色	ビンのある静物	朝の森	森の塚	葉毛利安夫	風景大和昭治	水辺秋色	漁船	横浜の景	或る風景	子供	岩の群	四天王(部分)	像)アイヌ紋様(群)	雨	麦秋	駱駝	ある静物	ヴァイオリンの野	焼野火	山	花	きりかぶ	建	社	やすらぎ	坂上残雪	雨の夜の七夕	能(海辺)	愛	
窓	辺	斎藤滋夫	福田貂太郎	森本三郎	△東克己	毛利安夫	大和昭治	宇田要之助	久住賢二	田中秀夫	大倉昭吾	藤本龍	内本寛一	真野岩夫	田中三郎	早川勲	松浦清次	杉本賢司	杉本賢司	杉本賢司	遠藤未満	原田五郎	広中久五郎	文田善治	野村真一	鈴木坂治	福田隆三	水野幸子	内ヶ崎光枝	仁平有美	花田芳雄	
画	ボ	静	氷	赤い油タンク	流水と月の出	機関	修理	杉物(C)	女とギター	早建	白い建	風景	山麓	対話	静物	建	夕	みどりの風景	街	夜の詩人	作	作	雪	カ	景	裸	葉ぼたんのある静物	静物	芦屋風景	磯		
画	1	物	頃	五十嵐光昭	雲井信男	木本博己	鈴木修悦	中村博	遠藤高光	酒井嘉也	杉山昌三九	北村幸子	妹尾昭	石井茂雄	佐々木節枝	手島二枝	顔	河村千代三	直井澄子	伏木田光夫	渡辺律吉	柴田次郎	堀越靖裕	亀井貞雄	島常武	博田亨一	葉ぼたんのある静物	静物	中村米太郎	高瀬捷三		
風	野	卓上	貧しき少年	裸	はだしの床屋	花	魚と壺の静物	農	漁	たそがれ	作	雑	人	鳥	平和の刻	ド	牛	初	合	田	窓	帽子	蓮	花	水	水	水	静	勤	作	逆	
風	景	木下	鍋田	坪井	安田誠道	浦野汎人	溝上美知子	松屋義美	長沢久敏	有馬周三	小田原龍生	岩崎和玄	佐藤哲夫	中村幸雄	森昭胤	舌間寛	橋谷治	古幡安衛	斎藤光孝	小林真吉	多田昌平	藤沢堯	橋野富彦	江藤明	横田忠志	稲田俊志	金畑実	鈴木良夫	石ヶ森恒蔵	川田一文	福井市雄	
煙	静	かなし	ふたり	海の幸	作	水	手品	森の中の鳥	ザン	谷	飛んで行った	群	カ	窓	塑	作	鴉と雪と枯草と	タ	タ	都	人	屋上	日	彼	風	ミ	作	年	牛	パ		
煙	突	水	川	熊谷	品	夫	師	宮下	ゲ	間	小橋康秀	佐伯信夫	岡島吉郎	西村赫	日野原克磨	秋山満	高橋美則	タ	タ	(窓辺)	(会A)	々	想	蝕	岸	景	品	月	野	大須賀政一		
椎	雪	顔	岩	休憩	静	裸	家	鳥	海峡	椅子	水	陽	裸	カ	倉庫	風	抱	暗	珠	ト	作	階	塊	後	店	浅	鳥	二	寝	風		
椎	の	と	と	時	物	族	黒原和男	黒沢晋子	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝	高田百合枝

階	と	段吉田勇
杉	物	伊藤忠雄
序	曲	高野政志
湯	井	上三綱
野	風	呂
月	蝕	小出広通
窓	物	鎌田勇
静	鎌	田建樹
花	林	宮田重雄
旅	日	記
シ	(3)	宮田重雄
シ	(4)	
シ	(7)	
シ	(8)	
シ	(2)	
シ	(5)	
シ	(1)	
シ	(6)	
とが	つ	花井八郎
つ	植	物
裸	婦	清水康雄
家	の	櫛田勇
家	の	櫛田勇
宴	席	に招かれた
男	塚	本新治
小	鳥	屋
小	鳥	屋
籠	の	鳥(石版画)
ス	ケ	ベニンゲン
の	浜	
巴	里	のシヨウウ
イ	ン	ド
菓	(銅版画)	

春	の	瞳	岩見礼花
溪	の	瞳	岩見礼花
ル	・	マタン	大坂良一
流	失	橋	伊藤健乃典
李	朝	陶磁譜	丸山太郎
阿	蘇	谷の牛	加藤八洲
門	城	連作十一桜田	橋本興家
し	ゆ	ら雨(塩釜)	橋本興家
観	劇		
魚	小	橋	康秀
城	子	の	空
子	五	月	の
フ	オ	ル	ム
抒	情	第	三十三
百	姓	の	合
老	鳥	居	と
樹	林	中	の
氷	雪	前	の
卓	魚	之	凶
庭	中	の	堂
子	供	の	国
シ	B		
シ	山		
卓	魚	之	凶
氷	雪	前	の
樹	林	中	の
鳥	居	と	馬
老	百	姓	の
抒	情	第	三十三
フ	オ	ル	ム
子	五	月	の
城	子	の	空
魚	小	橋	康秀
観	劇		
し	ゆ	ら雨(塩釜)	橋本興家
門	城	連作十一桜田	橋本興家
阿	蘇	谷の牛	加藤八洲
李	朝	陶磁譜	丸山太郎
流	失	橋	伊藤健乃典
ル	・	マタン	大坂良一
溪	の	瞳	岩見礼花
春	の	瞳	岩見礼花

枯	堀	口	大	学	像	関	野	準	一	郎
或	る	追	悼							
少	年	と	ラ	ッ	パ					
落	ち	た	天	使	萩	原	一			
深	海	水	木	德	子					
帆	走	小	野	贊	二					
ド	ーム	の	あ	る	風					
景	は	な	中	川	雄	太	郎			
青	木	湖	前	田	政	雄				
樹	氷	湖								
木	崎	湖								
島	田	帶	祭	大	奴	の	野	津	佐	吉
造	船	工	場	山	中	宏				
花	と	少	女	河	野	薫				
天	主	堂	黒	木	貞	雄				
炭	焼	小	屋	上	野	誠				
光	と	影	棟	方	末	華				
暮	春	譜	塚	本	哲					
新	開	地	伊	藤	勉					
女	物	川	上	澄	生					
静	洞	湖	夕	雲	平	塚	運	一		
内	金	剛	表	訓	寺					
承	徳	の	春							
古	都	(A)	斎	藤	清					
飛	鳥	(B)	川	西	英					
古	都	(B)	川	西	英					
壺	都	(B)	川	西	英					
水	仙	川	西	英						
四	谷	駅	附	近	笹	島	喜	平		
新	宿	駅	附	近	笹	島	喜	平		

岩	木	山	下	沢	木	鉢	郎
窓	物	語	燃	ゆる	芝	金	守
死	後	の	悔	恨		小	谷
浜	辺	小	谷	裕	三		
黒	い	犬	安	藤	栄	一	
夕	陽	を	浴	び	て	赤	萩
雨	の	龍	安	寺	安	藤	不
船	窓	櫻	本	栄			
木	蓮	海	老	原	一	雄	
木	蓮	海	老	原	一	雄	
子	供	と	蓮	船	坂	博	通
銀	座	ス	ケ	ッ	チ	弘	田
白	い	ベ	ン	チ	の	原	田
雨	の	水	源	地	船	越	義
牛	の	い	る	風	景	細	江
関	西	三	人	男	K	氏	平
M	夫	人	像	橋	本	清	一
東	大	寺	如	井	智	裕	
日	向	ぼ	つ	こ	A	ハ	ナ
日	向	ぼ	つ	こ	B	ハ	ナ
浜	辺	の	印	象	伊	藤	常
線	雪	ふ	る	日	市	川	啓
太	大	数	橋	を	渡	る	人
初	詣	の	人	海			
女	工	木	村	伊	兵	衛	
漁	婦						
農	婦						
石	段	小	菅	成	夫		

猫	氷	来	る	木	村	昌	斗
流	氷	来	る	雲	井	信	男
群	像	近	藤	一	彦		
石	像	仮	谷	六	郎		
洋	画	家	川	端	弥	之	
助	氏	像	川	崎	龜	太	郎
国	文	学	者	吉	沢	義	
則	先	生	像				
像	詩	人	安	西	冬	衛	氏
作	品	(一)	加	藤	悦	二	
尼	品	(二)	加	藤	悦	二	
雨	尼	さ	ん	金	原	三	省
帆	背	鹿	之	助	氏	像	
岡	鹿	之	助	氏	像		
サ	ウ	ス	、	ピ	ア	鹿	野
動	壁	ま	ん	だ	ら	北	角
雪	の	踏	切	水	野	清	
セ	ー	タ	ー	の	女	松	本
読	の	構	成	書	三	栗	参
網	の	構	成	書	三	栗	参
小	さ	い	留	守	番	森	義
静	か	な	る	白	根	三	浦
流	静	か	な	る	白	根	三
夕	照	ノ	防	波	堤	最	上
二	本	の	ロ	ー	プ	長	崎
待	つ	人	々	長	崎	港	舟
作	品	A	中	山	純		
フ	ジ	ア	ザ	ミ	中	山	純
フ	エ	リ	ツ	ク	・	ホ	
イ	ール						

アンセリウム 中山 巖
 (A)
 チューリップ 中山 亮
 (B)
 朝の道野村弘三
 夏みかん西山清
 風 中居正躬
 花 中居正躬
 椿 中居正躬
 裸 婦野島康三
 芝生 寸描錦古里孝治
 かみみ長浜慶三
 ひとみ岡島慶松
 岩 アンコさん△岡島密吉
 海 辺トミエ左衛門
 裸 像小沢俊樹
 ホトテッサン小野由行
 みやま杉野誠三
 岩 層柴田豊次
 水面 暮色柴田豊次
 黒い板壁 坂巻高次
 竹と 住田隆之
 右と 笹本繁宏
 壁 風景清水義之助
 河畔 清水義之助
 海 清水義之助
 雪の日の日本橋 鈴木高光
 木 立菅野清兵衛
 波と 岩佐藤元臣
 母と 子△清水武甲
 青 年△島田貫一郎

木 板谷波山氏 竹田正雄
 板谷波山氏 竹田正雄
 雪 旦 高道夕映人
 見本料理 高橋康憲
 秋祭り 高尾清
 ある風景 筑紫敏男
 海苔は乾く 高橋富路
 船 体 武田真
 光 塚本弥八
 旋 田中信次
 お稽古 辻宏志
 レンズ △竹見義雄
 月光 林内田重蔵
 梅 アトリエにて△内田美胤
 対照(ヌード) △宇田慎一郎
 ニグロ 宇田登喜男
 降雪の釣 山岡文治
 夜釣 好川文治
 板 カラーフアン 山田慶次郎
 カラーフアン 山田慶次郎
 ターゲット B 山下喜久雄
 ターゲット B 山下喜久雄
 防波堤 山下喜久雄
 海原 氏吉川富三
 双美会展 19-25 光風会館
 辻輝子、清明陶器展 19-24
 中央公論社画廊 [批]朝日夕
 刊21
 林鶴雄個展 19-22 丸の内・
 工業クラブ
 藝術文化展 19-23 日比谷画
 廊

ジョヴァンナ・ダエタ油絵展 19
 21 養清堂
 三橋健個展 19-23 東京画廊
 5回日月社展 20-25 日本橋・
 三越 [批]時事25 [記]産経25
 新制作協会選抜展 20-25 日
 本橋・三越 [批]朝日24 (植
 村鷹千代) [記]産経25
 岡本為治新作陶展 20-25 日
 本橋・三越
 女流七人展 20-25 日本橋・
 三越 [記]産経25
 桑原正昭個展 20-24 サエグ
 サ
 氏家秀之進洋画展 20-25 上
 野・松坂屋
 新たに国宝になった発掘品特別
 展 20-5月20 東京国立博
 物館
 1回白童美術会展 20-27 日
 本相互銀行画廊
 敬山窯展 20-30 新宿・伊勢
 丹
 鈴木良三個展 20-24 大阪・
 梅田画廊
 青玄会展 20-25 大阪・高島
 屋
 不昧公大円祭大展観 20-25
 大阪・阪急
 不昧公と松江写真展 20-25
 大阪・阪急洋画廊
 山本倉丘作品展 20-25 京都
 ・大丸 [批]日本美術工藝6

月(橋本喜三)
 鈴木信太郎小品画展 20-25
 名古屋・松坂屋
 飛鳥・白鳳・天平展 20-5月
 10 名古屋・松坂屋
 安井曾太郎文春表紙絵展 20-
 29 酒田・本間美術館
 4回百二会展 21-24 兼素洞
 八木正風日本画展 21-24 日
 本橋・丸善
 柏原寛太郎個展 21-24 資生
 堂
 藤野一友洋画個展 21-30 タ
 ケミヤ
 5回関尚美堂日本画展(彩尚会
 展) 21-24 壺中居
 5回六窓会展 21-25 日本橋
 ・高島屋
 青我舎小品展 21-25 京都府
 ギャラリー
 日本人形美術院会員小品展 21
 29 新宿・伊勢丹
 山本恵一個展 22-24 養清堂
 [批]アトリエ7月
 2回日本彫塑展 23-5月13
 東京都美術館
 田村孝之介滞欧作品展 23-28
 銀座・松坂屋 [批]東京27(岡
 本謙次郎、毎日27、産経30
 (横川毅一郎)、アトリエ7月
 田村孝之介滞欧スケッチ展 23
 29 兜屋
 新制作協会東京日本画展 23-

29 銀座・松屋 [批]東京26
 (岡本謙次郎)、朝日27(河北
 倫明)、毎日27 [記]産経25
 宇治山哲平個展 23-28 フォ
 ルム [批]朝日25(植村鷹千
 代)、美術批評6月(東野芳
 明)、アトリエ7月
 3回六青会展 24-28 日本橋
 ・白木屋 [批]東京26(岡本
 謙次郎)
 山陰民窯展 24-30 たくみ
 七宝裝飾壁面展示会 24-26
 安藤七宝店
 日本中世逸亡金石拓本展 24-
 25 早大図書館
 野田孝之個展 24-30 すずき
 工務店
 金沢文庫蒐集資料による開国百
 年記念資料展 24-6月20
 横浜・金沢文庫
 7回流形派遣型展 25-29 日
 比谷画廊
 池田栄広個展 25-26 別府・
 日本棋院
 松林桂月作品展 25-5月5
 下関博物館
 全国陶藝展 26-5月2 東京
 都美術館 [批]時事30
 萩森久朗個展 26-5月4 中
 央公論社画廊 [批]美術批評
 6月(瀬木慎一)
 長谷川利行遺作展 26-5月1
 養清堂

佐藤泰治個展 26—5月1日 日
 本橋・丸善 26—30 東洋
 嫩葉会日本画展 26—30 東洋
 美術館
 昆野恒塑造展 26—30 資生堂
 [批] 美術批評6月(瀬木慎
 一)、アトリエ7月、みづゑ
 5月(植村鷹千代)
 田中修個展 27—5月1日 サエ
 グサ [批] 美術批評6月(瀬
 木慎一)
 真野紀太郎水彩展 27—5月2
 日本橋・三越
 水野柳人少鮎の日本画個展
 27—5月1日 日本橋・三越
 二青会展 27—5月2日 上野・
 松坂屋
 春の青龍展 27—5月2日 京都
 ・大丸 [批] 日本美術工藝6
 月(橋本喜三)
 森本健二個展 27—5月2日 大
 阪・阪急洋画廊
 6回京展 27—5月16日 京都市
 美術館 [批] 日本美術工藝6
 月(橋本喜三)
 無型工人グループ新作展 27—
 30 名古屋・松坂屋
 日本水彩展 28—5月2日 日本
 橋・高島屋
 日本木彫会展 28—5月2日 日
 本橋・高島屋

高沢圭一美人画展 28—30 新
 宿・伊勢丹
 光風会展 28—5月9日 大阪市
 立美術館
 行動展 28—5月9日 大阪市立
 美術館
 北美洋画展 29—5月3日 武生
 市公会堂
 五月
 大正期の画家展 1—6月6
 国立近代美術館 [批] 朝日6
 月2(木村莊八)、東京6月2
 (岡本謙次郎)
 12回造形版画展 (特陳—西洋
 版画の歩み) 1—9 銀
 座・松屋 [批] 美術批評6月
 (瀬木慎一)
 1回やまび同人展 1—7 村
 松画廊
 田中田鶴子作品展 1—10 大
 ケミヤ [批] 美術批評6月
 (東野芳明)、アトリエ8月
 [記] 産経11
 3回白樹会彫塑展 1—5 日
 本橋・白木屋
 石井柏亭水彩画展 1—10 兜
 屋
 19回清光会展 1—6 資生堂
 [批] 東京5(岡本謙次郎)、朝
 日6(河北倫明)、サン7(金
 子義男)
 近代絵画複製展 1—13 光風
 会館

楽しい童画家展 1—9 新
 宿・伊勢丹
 大観富岳名作展 1—9 日本
 橋・高島屋
 世界ホスター展 1—23 鎌
 倉・近代美術館
 草間章新作展 1—5 神戸・
 新光商会画廊
 時々電子個展 1—7 名古屋
 屋・松坂屋
 田川勤次小品展 1—7 大
 阪・梅田画廊
 国吉康雄遺作展 1—23 大阪
 市立美術館
 岡本庄三彫刻展 1—5 京
 都・朝日画廊 [批] 日本美術
 工藝6月(橋本喜三)
 南窓美術展 1—25 市立神戸
 美術館
 福田翠光個展 1—9 下関・
 大丸
 岩尾秀樹個展 1—12 大分・
 キムラヤ画廊
 1回大分県美術協会展 1—9
 大分・トキワデパト
 2回形象派美術展 1—9 安
 城市・農民館
 4回森々会展 3—8 日本
 橋・丸善 [記] 産経11
 工藝集団展 3—8 養清堂
 14回日本画院展 4—18 東京
 都美術館 [批] 東京タイムズ
 13(田近憲三) [記] 産経11、

時事17
 25周年記念第一美術協会展
 4—18 東京都美術館
 陽明文庫名品展 4—9 日本
 橋・三越
 遠州七傑作品展 4—9 日本
 橋・三越
 清水六兵衛新作陶展 4—9
 日本橋・三越
 7回童画展 4—9 池袋・東
 横
 田中阿喜良、太田健二二人展
 4—9 大阪・阪急洋画廊
 4回新工藝展 4—15 和光
 福田暉大裸婦素描展 4—9
 大阪・大丸
 2回龍土会展 4—9 京都・
 大丸
 20周年記念東光会展 5—18
 東京都美術館 [批] 東京タイ
 ムズ13(田近憲三)、アトリエ
 8月 [記] 産経11、時事17
 会員出品目録
 千魚のある静物 魚 島村剛生
 千魚のある静物 魚 島村剛生
 花と女 矢田幸一
 久徴の杜 河 山本日子士良
 運 河 山本日子士良
 教会堂のある風 河 山本日子士良
 景 河 山本日子士良
 運 河 山本日子士良
 座 河 山本日子士良
 人 物 河 山本日子士良

黒 衣 江 藤 哲
 ポ プ ラ 岡 本 肇
 倉 敷 風 景 渡 辺 浩 三
 静 物 森 田 茂
 青 年 森 田 茂
 花 年 森 田 茂
 裸 婦 石 本 秀 雄
 川 と 田 國 石 本 秀 雄
 制 作 石 本 秀 雄
 女 流 画 家 の 像 河 野 磐
 コーヒーシヨツ
 プにて 河 野 磐
 スペインの人形 中 井 重 男
 いで湯の初雪 中 井 重 男
 海 女 た ち 中 井 重 男
 画 家 の 家 族 野 沢 寛
 大 仏 野 沢 寛
 椅 子 近 藤 喜 義
 冷 蔵 庫 近 藤 喜 義
 裸 婦 群 像 桑 原 福 保
 昇 仙 峡 に て 桑 原 福 保
 化 粧 齋 藤 英 一
 街 の 風 景 齋 藤 英 一
 千 魚 の 有 る 静 物 楠 見 貞 男
 石 膏 像 の 有 る 静 物 楠 見 貞 男
 物 楠 見 貞 男
 淡 路 人 形 大 蔵 敏 秋
 初 春 安 原 綾 子
 静 物 安 原 綾 子
 陽 向 安 達 良 雄
 山 門 安 達 良 雄
 アリアムの花の 大 和 田 富 子
 ある静物 大 和 田 富 子
 育ちゆく仔猫 大 和 田 富 子

央公論社画廊

島田しづ子個展 7-12 フォ

ルム〔批〕美術批評6月(東

野芳明)、みづゑ7月(植村鷹

千代)

鍋井克之個展 7-12 銀座・

松坂屋〔批〕東京10(岡本謙

次郎)、毎日11(宇野浩二)、朝

日11(嘉門安雄)、産経18、美

術批評6月(東野芳明)、アト

リエ8月

1 回晴日会展 7-11 資生堂

植松茂美創作表装個展 7-11

銀座・松屋

石川寅治洋画展 7-12 日本

橋・白木屋

丹平写真展 7-13 松島ギヤ

ラリ

1 回青陶会展 7-11 京都府

ギャラリ〔批〕日本美術工

藝6月(橋本喜三)

空町美術展 8-23 日本橋・

白木屋

自由学院美術工藝展 8-9

自由学院

春の青龍展 8-13 大阪・三

越

旭輝会工藝展 8-13 京都・

大丸

岩橋英遠新作画展 8-14 名

古屋・松坂屋

日本古代金属文化展 8-6月

10 名古屋・徳川美術館

美術展覧会(5月)

大徳寺名宝展 8-17 福岡・

玉屋

田中佐一郎油絵展 9-13 大

阪・梅田画廊

泉治朗近作展 10-15 弥生画

廊〔記〕産経18

小西謙三水墨画展 10-13 日

本橋・丸善〔記〕産経18

矢野范土個展 10-15 養清堂

〔記〕産経18

研水会展 10-16 大阪市立美

術館

中国金石名品展 10-15 壺中

居

商業美術展 10-15 村松画廊

滝川美一、斎藤聖香、菅沼五郎

彫刻展 10-15 中央公論社

画廊

石井柏亭日本風景水彩画内示展

11-12 丸の内・工業クラブ

春季二紀会展 11-16 日本橋

・三越〔批〕東京13(佐波甫

〔記〕産経18

春季行動美術協会油絵展 11-

16 日本橋・三越〔批〕東京

13(佐波甫)〔記〕産経18

西原照子個展 11-20 タケミ

ヤ〔批〕美術批評7月(瀬木

慎一)、アトリエ8月〔記〕産

経18

村山俊夫個展 11-15 サエグ

サ

大貫松三油絵展 11-16 日本

橋・三越

武者小路実篤古稀祝寿個展

11-16 東洋美術館 11-16

上野・松坂屋

1 回朝日新人展 11-16 京

都・高島屋〔批〕日本美術工

藝7月(橋本喜三)

デモクラート・エッチング展

11-16 大阪・阪急洋画廊

11 回東丘社展 11-16 京都・

大丸

卯月会展 11-16 京都・大丸

19 回清光会絵画展 11-16 大

阪・阪急

奥田仁油絵展 11-16 大阪・

阪急洋画廊

コマージュヤルデザイン三人展

(道阿敏、木島輝雄、村尾宵)

12-15 村松ギャラリ

岡田金弘作品展 12-15 資生

堂

富本、河井、浜田三人展 12-

16 日本橋・高島屋

14 回美展 (主催)美術文化協

会) 14-18 名古屋・商工館

日本バステル画会展 矢崎千代

二遺作特陳 14-20 光風会

館

1 回不同社日本画展 14-19

銀座・松坂屋〔記〕産経18

荒井陸男油絵と水彩展 14-19

銀座・松屋

中津美術協会展 14-17 中津

商工会議所

洋画五人展(桑原正昭、三枝守

正、山東洋、山崎佐一郎、鷺

尾丁未子) 14-18 日本橋・

丸善〔批〕美術批評7月(東

野芳明)〔記〕産経18

圭成会小品展 14-18 兜屋

游心会日本画展 14-20 松島

ギャラリ

村松乙彦作品展 15-19 日本

橋・白木屋

ゴヤエッチング展 15-31 大

阪市立美術館

大阪古代文化展 15-6月30

大阪市立美術館

杉本健吉個展 15-21 名古屋

・松坂屋

泰西名画展 16-30 酒田・本

間美術館

高山道雄個展 17-22 中央公

論社画廊〔批〕美術批評7月

(瀬木慎一)

大江孝個展 17-22 養清堂

1 回新美術協会展 17-26 大

阪市立美術館

モダンアート展 17-26 大阪

市立美術館

日本美術協会展 18-23 日本

橋・三越

飯塚環玕斎、雨宮静軒、河村蜻

山作品展 18-23 日本橋・

三越

名井万亀個展 18-22 サエグ

サ〔批〕美術批評7月(東野芳

明)、みづゑ7月(植村鷹千代)

アトリエ8月

1 回トリア・ブリアン展(西村

愿定、荻太郎、佐田勝) 18-23

上野・松坂屋〔批〕時事22

手工藝展 18-30 東京都美術

館

源氏物語に関する美術品展 18

-23 日本橋・高島屋

井上覚造タイル絵展 18-23

日本橋・高島屋〔批〕朝日21

日高昌克水墨画と彩画展 18-

22 壺中居〔批〕みづゑ7月

(藤本韶三)

11 回東丘社展 18-23 大阪・

大丸

児玉幸雄バラの淡彩画展 18-

23 大阪・梅田画廊

現代藝術人形名作展 18-23

大阪・阪急

震島社展 18-23 京都・大丸

無形文化財日本伝統工藝展 18

-23 大阪・高島屋

2 回中神潔油絵個展 19-22

日本橋・丸善〔批〕美術批評

7月(針生一郎)、アトリエ8

月

ゆかり会展 19-23 日本橋・

高島屋

1 回現代日本美術展 1916年

5 東京都美術館

(批)

毎日21 (河北 倫明)

日経24 (福島繁太郎)

時事24 (柳 亮)

毎日25、26 (植村鷹千代)

朝日29 (今泉 篤男)

東京29 (大河内信敬)

時事30 (徳大寺公英)

毎日6月3 (金子 義男)

サン6月6 (記)

毎日18 (土方 定一)

毎日19 (石川 滋彦)

毎日20 (佐伯 米子)

毎日22 (宮田 重雄)

毎日28 (本郷 新)

毎日6月2 (堂本 印象)

毎日6月5 (阿部 展也)

毎日30 (今泉 篤男)

毎日31 (大河内信敬)

毎日6月1 (大久保 泰)

産経6月1 (井上友一郎)

産経6月1 (大河内信敬)

産経6月4 (大久保 泰)

出品目録

(洋画)

鳥のハクセイと 伊藤 継郎

裸婦 伊藤 継郎

らくだ 井上長三郎

にこよん 井上長三郎

青少年使節 川上澄生

製油所の港 川口 軌外

機 械 川口 軌外

変 器 川口 軌外

第一の日 井上長三郎

牛 小 屋 井上三綱

横 浜 井手宜通

鳥と遊ぶ子供たち 猪熊弦一郎

菊と青年 香月泰男

アトリエにて 加山四郎

かへるの目玉に 桂 ユキ子

怒髪天をつく 吉原治良

初夏の阿蘇山 田崎広助

九重山の晩秋 田村一男

冬 丘 (一) 田村一男

洞爺湖晩秋 (二) 田辺三重松

三月の雪山 田村孝之介

新聞売り 田村孝之介

帰 途 田中佐一郎

塩 鮭 田中佐一郎

花、静物 田中佐一郎

コロップの林 高島達四郎

救命船 高田 誠

郊外雪後 高田 誠

春 近 高橋忠弥

車 近 高橋忠弥

ユダの汚辱 田中忠雄

生きている 多賀谷伊徳

静物 鷹山宇一

氷結する人々 玉置正敏

卵のある寓話 玉置正敏

岩に棲む竹谷富士雄

暗い海 曾宮一念

風と雲と人 鶴岡政男

落下する人体 土田文雄

室内 土田文雄

海 岸 土屋幸夫

太陽 土屋幸夫

無限 津高和一

爆発 中村研一

杏咲く丘より 中村善策

Port Kobe 中村善策

神戸風景 中村善策

茶羽織の女 中村琢二

ウキオロンの村 中川紀元

丘の静物 中川紀元

画面の静物 仲田好江

静かな物 中谷 泰

さかな稲 中谷 泰

みのらぬ稲 中谷 泰

レチ子 中原 実

にわとり 南城一夫

こわれた街A 難波田竜起

こわれた街B 難波田竜起

歎異顔・板華経 棟方志功

天上板壁・画欄 棟方志功

大威顔・乾坤輪 棟方志功

天上板壁・画欄 棟方志功

(如妙・慈・恩・真・怒) 棟方志功

料 理 人 村井正誠

人 村井正誠

画 室 村岡平蔵

めし喰うやん衆 向井潤吉

連 子 内田武夫

浅 周 梅原竜三郎

噴 山 宇治山哲平

樽のある街 牛島憲之

橋の風景 牛島憲之

五月の花野 野間仁根

国際通り 野口弥太郎

オランダ坂にて 野村守夫

装飾的な季節 野村守夫

田園風景 野村守夫

群 像 野村守夫

風 景 野村守夫

犬 岡本太郎

波 止 岡本太郎

荒地の人 岡本太郎

化石の森 岡本太郎

ダム工事場の見 岡本太郎

える風景 岡本太郎

工場地帯の裏街 岡本太郎

抒情第 大野五郎

静物 大野五郎

静物 小川マリ子

風景 小野 末

馬 小野 末

土饅頭(墓標) 熊谷守一

逆光婦人像 熊谷守一

アイリス・ショウ 熊谷守一

場 久保 守

一〇八

少	像	若	踊	坐	見	女	は	首	エ	ナ	シ	踊	猫	憩	シ	女	テ	列	シ	作	首	首	裸	ト	裸	少	母	白	真	晚
年	(習)	音	子	木	ポ	座	だ	だ	ユ	エ	コ	ノ	リ	5	5	品	の	り	ぬ	品	品	品	小	ソ	婦	女	の	い	那	照
新	作)	楽	菊	内	ズ	像	か	朝	ド	コ	舟	6	6	女	植	娘	向	か	2	笠	加	岡	本	新	新	西	常	花	鶴	東
海	新	家	池	木	像	木	佐	倉	コ	越	松	山	山	女	木	井	加	藤	置	本	本	郷	郷	新	新	田	西	田	東	
竹	海	首	一	内	木	内	藤	倉	越	村	本	本	山	女	木	井	藤	置	本	本	郷	郷	新	新	田	西	田	東	東	
葦	竹	の	雄	岬	内	内	忠	響	保	外	豊	豊	山	女	木	井	藤	置	本	本	郷	郷	新	新	田	西	田	東	東	
	葦	首	一	岬	内	内	忠	響	保	外	豊	豊	山	女	木	井	藤	置	本	本	郷	郷	新	新	田	西	田	東	東	
	葦	首	一	岬	内	内	忠	響	保	外	豊	豊	山	女	木	井	藤	置	本	本	郷	郷	新	新	田	西	田	東	東	

キ	パ	シ	ト	家	ト	ア	サ	南	二	マ	バ	ア	者	イ	ベ	戴	ト	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
ール	リ	レ	レ	々	ウ	ビ	カ	部	つ	ラ	リ	ム	者	イ	ベ	戴	ト	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
岬	街	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
菅	野	祭	市	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
野	野	祭	市	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
恵	野	祭	市	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
介	野	祭	市	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道

丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善

丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善

丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善
善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善	丸	善

高島屋

時代衣裳百小袖展 1-6 日

本橋・高島屋

島野重之個展 1-5 資生堂

各務敏三新作硝子工藝展 1-

6 日本橋・三越

鱗展 1-5 日本橋・丸善

斎藤義重個展 1-10 タケミ

ヤ

光風会研究所員デッサン展 1

14 光風会館

猪熊弦一郎近作展 1-6 プ

リヂェストン〔批〕東京4〔岡

本謙次郎〕、日経4〔福島繁太

郎〕、毎日4〔徳大寺公英〕、朝

日5〔植村鷹千代〕、時事5、

みづゑ7月〔植村鷹千代〕

新作日本画35人展 1-15 池

袋・西武

7回彩光会染色展 1-6 上

野・松坂屋

10回武石勇、河合匡造漆画漆藝

展 1-6 大阪・阪急

矢崎千代二バステル画遺作展

1-6 大阪・阪急洋画廊

藤飯治平個展 1-6 大阪・

阪急洋画廊

モダンアート展 1-10 神戸

市立美術館

川西英版画展 1-6 神戸・

大丸

富岡鉄斎展 1-6 大阪・大

丸

新世代ヨコハマ展 1-7 ア

メリカ文化センター

ヴァン・ゴッホ展 1-6 千

葉・国松画廊

ZEROの会展 2-6 タケ

ミヤ〔批〕美術批評7月〔瀬

木慎一〕

二紀会委員小品展 3-8 文

房堂

神庭白梨仙画展 3-5 丸の

内・工業クラブ

佐野繁次郎個展 4-9 銀座・

松坂屋

米良道博個展 4-9 フォル

ム

奥多摩美術家展 4-9 銀座・

松屋

芦生清人、佐々木信好絵画二人

展 4-6 西脇市・文化堂

会館

松島進女性写真展 4-10 松

島画廊

エジプトから現代までの西洋陶

磁器展 5-7月25 鎌倉・

近代美術館〔記〕東京12、13、

17、19、20、21、23、26、28

朝日16、17、18、19、20、

22、23、24

芝田米三個展 5-9 京都府

ギャラリイ〔批〕日本美術工

藝8月〔橋本喜三〕

40回光風会展 5-17 京都・

丸物〔批〕日本美術工藝8月

〔橋本喜三〕

3回碧草会展 5-10 大阪市

立美術館

菅橋彦個展 5-10 大阪・三

越

2回ニッポン展 6-19 東京

都美術館〔批〕朝日15〔植村

鷹千代〕〔記〕時事17

8回女流画家協会アンデパンダ

ン展 7-19 東京都美術館

〔批〕東京10〔田近憲三〕、時事

11、毎日16、産経17、アトリ

エ8月

42回日本水彩画会展 7-19

東京都美術館

恒川俊明個展 7-12 養清堂

柏木治子個展 7-10 資生堂

〔批〕時事9

小野末個展 7-12 壺中居

古沢岩美個展 7-12 大阪・

梅田画廊

春陽会展 7-20 大阪市立美

術館

セザンヌ複製展 7-12 中央

公論社画廊

一九五五年カレンダー資料展

7-12 大日本印刷銀座営業

所 小島善太郎近作展 8-12 サ

エグサ

3回創人社展 8-19 日本橋・

三越

無厭会展 8-13 京都・大丸

青甲社作品展 8-13 京都・

丸物〔批〕日本美術工藝8月

〔橋本喜三〕

淡島雅吉硝子と三岸節子淡彩展

8-13 神戸・大丸

関西新制作展 8-14 京都市

美術館〔批〕日本美術工藝8

月〔橋本喜三〕

3回茜会染色工藝展 8-13

大阪・阪急

柏原寛太郎個展 8-13 大阪・

阪急洋画廊

新版画展 8-13 大阪・阪

急洋画廊

1回県会展〔小倉遊亀、吉岡堅

二、山本丘人〕 8-13 日本

橋・高島屋〔批〕朝日12〔河

北倫明〕、サン16〔金子義男〕

3回現代陶藝展 9-13 上野・

松坂屋

7回芦屋市展 9-13 芦屋・精

進小学校

9回鳳会展 10-13 日動画廊

ギヤマン展 10-20 新宿・伊

勢丹

西山龍象鵝嶺染日傘展 10-13

岡山・金剛荘

1回回市美彫塑展 11-16 銀

座・松坂屋

豊田一男蠟画個展 11-20 タ

ケミヤ

5回新工人工藝展 11-16 銀

座・松坂屋

野中隲子個展 11-15 資生堂

〔批〕美術批評7月〔瀬木慎

一〕、アトリエ8月

龍土会展 11-16 銀座・松屋

2回生活工藝展 11-16 銀座・

松坂屋

6回陶藝家クラブ展 11-16

京都府ギャラリイ〔批〕日本

美術工藝8月〔橋本喜三〕

酒井三良子個展 11-15 大阪・

とりん屋

3回創型会彫塑展 12-19 東

京都美術館

グロピウスとパウハウス展

12-7月4 国立近代美術館

〔記〕東京19、20〔柳亮〕

フランス、バカラ硝子器展示会

12-19 和光

直垣武勝個展 12-18 文房堂

兵庫県日本画家連盟展 12-26

神戸市立美術館

芥川紗織作品展 14-20 養清

堂〔批〕アトリエ8月

篠井欽治作品展 14-19 中央

公論社画廊〔批〕美術批評7

月〔東野芳明〕

浜田信個展 14-17 日本橋・

丸善〔批〕アトリエ9月〔江

川和彦〕

エポック展 14-20 日比谷画

廊

荻谷巖個展 14-16 丸ノ内・

工業倶楽部

主潮社展 14-20 大阪市立美術館
 美術文化展 14-20 大阪市立美術館
 美術展 14-20 大阪市立美術館
 手工藝展 14-7月2 東京都美術館
 美術展 [記]産経19、サン21、読売26
 中沢弘光展 (八〇才回顧記念展) 15-20 日本橋・三越
 光風会々員展F 15-30 光風会館
 橋本親胤老師作品展 15-20 日本橋・三越
 宮之原謙個展 15-20 日本橋・三越 [批]日本美術工藝8月(綱塔樓)
 富竹会陶藝展 15-20 日本橋・三越
 志村計介個展 15-19 サエグサ
 スティンドグラスとベネシヤングラス展 15-20 日本橋・高島屋
 1回全神奈川アンテナン展 15-20 横浜・松屋
 墨心会展 15-20 上野・松坂屋
 独立関西小品展 15-20 大阪・阪急洋画廊
 段々社(東京金属工藝作家)作品発表即売展 15-20 大阪・阪急
 岩瀨芳華個展 16-20 日本橋・高島屋

海老原喜之助水彩素描展 16-29 美松画廊 [批]毎日23(徳大寺公英)、東京25(岡本謙次郎)、産経29(藤谷雨道)、美術批評8月(瀬木慎一)、アトリエ9月(江川和彦)
 荻原守衛遺作展 17-18 藝大陳列館
 4回緑日会展 18-23 日本橋・丸善
 白鳥会洋画展(熊谷守一、野口弥太郎他十二名) 18-23 銀座・松屋
 内藤健一個展 18-23 フォルム
 緑会洋画展 18-23 日本橋・白木屋
 東西大家日本画展 18-23 銀座・松坂屋
 箱根伊豆風景美術展 18-28 池袋・西武
 示現会岐阜展 18-24 岐阜市・丸宮百貨店
 新制作協会々員展 19-23 銀座・松坂屋 [批]毎日22
 竹内栖鳳他七十作家名作展 19-20 銀座・翠芳園
 春泥会展 19-24 大阪・三越
 8回旺玄会展 20-7月2 東京都美術館
 委員出品目録

あじさい 佐藤文雄
 白い花 小林喜代吉
 花 畔見鷗三
 池 堀田清治
 群像 小林重三
 追われる人 青山 襄
 山村初夏 近藤せい子
 画を彫る人 遠山純一
 青の静物 遠山純一
 赤の静物 遠山純一
 港 遠山純一
 花 遠山純一
 少女の像 長屋 勇
 I 女史の像 長屋 勇
 O 夫人の像 長屋 勇
 伊香保の秋雨 長屋 勇
 江の島の暮色 長屋 勇
 来宮 鈴木金平
 魚の宮 鈴木金平
 赤いヨット 高間 惣七
 花の海 高間 惣七
 花の雀 高間 惣七
 孔の雀 高間 惣七
 花の雀 高間 惣七
 静物 小林 猶治郎
 立木 小林 猶治郎
 童花 大久保 作次郎
 サンプルム 大久保 作次郎
 窓辺 大久保 作次郎
 五ヶ月 大久保 作次郎
 婦人像 梅野 順三
 山人 庄金子 保
 鶏 田沢 八甲
 花と水 佐藤 文雄

乗鞍 岳金子 保
 水 仙 小林喜代吉
 躑躅 小林重三
 夕日 小林重三
 路傍の金魚屋 青山 襄
 工場裏 青山 襄
 男 青山 襄
 女 青山 襄
 初夏の木立 高野 真美
 初夏の木立 高野 真美
 海 高野 真美
 現在過去未来 田辺 嘉重
 レッスン 佐々木 利栄
 窓ぎわ 佐々木 利栄
 浅春 清水 正博
 墓落 清水 正博
 住宅 清水 正博
 6回自主連立展(新構造社、朱葉会、創造美術) 20-7月2 東京都美術館
 5回創藝会展 20-7月2 東京都美術館
 高橋忠弥展 21-26 中央公論社画廊 [批]アトリエ9月(江川和彦)、[記]産経29(藤谷雨道)
 諸大家珍品鑑賞展(黒田、浅井、青木、油、水、パステル、デッサン) 21-26 サエグサ
 3回神谷信子個展 21-26 養清堂 [批]美術批評8月(瀬木慎一)

木慎一、アトリエ9月(江川和彦)
 加納敏次個展 21-30 タケミヤ [批]美術批評8月(東野芳明)
 末川清香陶器展 21-23 資生堂
 5回森田茂油絵個展 22-27 日本橋・三越 [批]時事28 [記]産経29(藤谷雨道)
 五四会展 22-28 日比谷画廊
 10回現代美術協会展 22-7月2 東京都美術館
 谷口多喜尾個展 22-26 サエグサ
 能彫会展 22-27 日本橋・三越
 現代工藝連合展 22-27 日本橋・三越
 日本水郷風景展 22-27 上野・松坂屋
 岩田藤七個展 22-30 名古屋・松坂屋
 竹杖会展 22-27 京都・大丸
 田中埴堂・上田星邨新作書画展 22-27 大阪・阪急
 久本初太郎奄美諸島展 22-27 大阪・阪急洋画廊
 坂井正胤油絵展 22-27 大阪・阪急洋画廊
 パーナード・リーチ、河井寛次郎 浜田庄司陶藝三人展 22-27 神戸・大丸

野崎南海雄個展 22—27 神

戸・大丸 現代日本工藝展 23—27 日本

橋・高島屋 5 回櫃会展 24—30 資生堂

〔批〕東京28(岡本謙次郎)、美術批評8月(瀬木慎一)、〔記〕産経29(藤谷雨道)

古沢岩美外美術文化選抜展 25

大須賀力、黒田嘉治彫塑展 25

創元会々員展 25—30 銀座・松屋

〔記〕産経29(藤谷雨道) 山本常一彫刻展 25—30 銀座・松屋

目白会展 25—30 銀座・松坂屋

高島達四郎作品展 25—7月2

大阪・フジカワ画廊 欧米商業美術展 26—30 銀座・折込ビル二階

松島画舫日本画展 26—28 日本橋・白木屋

小川千麿作品展 26—27 乃木神社

19回デッサン社展 28—7月3

中央公論社画廊 〔批〕サン4 (金子義男)

赤穴宏、桂子、深尾庄介、大住閑子四人展 28—7月3 養清堂

滝川太郎近作個展 28—7月1

東京電力サービスセンター 草間章素描展 28—7月5 須摩美鈴喫茶店

初瀬川松太郎巴里工藝散步展 29—7月4 日本橋・高島屋

〔記〕東京日々4、大阪日々11 2 回石門会展 29—7月4 上野・松坂屋 〔批〕時事3

下川都一朗個展 29—7月3 サエグサ

彩交会日本画展 29—7月4 日本橋・三越

自由美術協会展 29—7月4 日本橋・三越

富本、河井、浜田、リーチ四人展 29—7月4 日本橋・高島屋

〔批〕朝日3(岡田謙)、時事5 3 回瀬戸陶藝展 29—7月5 日本橋・三越

晴耕会油絵展 29—7月4 大阪・阪急洋画廊

国画会々員小品展 29—7月4 大阪・梅田画廊

2 回九耀会展 29—7月4 神戸・大丸

内田邦夫個展 30—7月4 日本橋・高島屋

北出塔次郎陶展 30—7月4 和光

曾我英彦作品展 1—5 光風 七月 月 会館

鳥海青児水彩業描展 1—14

美松画廊 〔批〕朝日8(植村鷹千代)、毎日10、東京13(岡本謙次郎)、美術批評9月(針生一郎)、アトリエ9月(江川和彦)、みづる9月(植村鷹千代)

平松輝子個展 1—10 タケミヤ

真赤土工藝展 1—6 日本橋・丸善

斎藤正夫、合田小三郎、中尾進三人展 1—4 資生堂

青陽会日本画展 1—7 名古屋・松坂屋

13 回神戸洋画展 1—25 神戸市立美術館

泉茂作品展 2—8 松島ギヤラリー

北斗会展 2—11 銀座・松坂屋

1 回青陶会展 2—9 銀座・松屋

14 回日本山岳協会展 2—7 銀座・松屋

6 回東大教養学部美術展 3—4 東大教養学部

初期アメリカエッチング展 3—11 神戸・白鶴美術館

武田仁一、中元忠好油絵小品展 4—7 別府・利光画廊

50 回記念太平洋画会展 4—15

東京都美術館 刀根真澄、服部宏、出牛実三人展 5—10 養清堂

安井曾太郎九州スケッチ展 5—10 東京画廊

アド・アイトダイレクタークラブ展 6—10 資生堂

現代絵画複製展 6—21 光風会館

米沢蘇峰新作陶展 6—11 日本橋・三越

自由美術会員展 6—11 日本橋・三越 〔批〕東京9(岡本謙次郎)

秘宝名品展 6—25 日本橋・高島屋

新作日本画展 6—10 壺中居古硯墨と古陶磁展観 6—11 上野・松坂屋

加藤重寿新作日本画展 6—11 大阪・阪急

水島弘一木彫展 6—11 大阪・阪急

村上彦、白髪一雄二人展 6—11 大阪・阪急

伊東翠壺、犬圭父子陶藝展 6—11 神戸・大丸

坂本善三個展 7—10 日本橋・丸善 〔批〕美術批評9月(東野芳明)

8 回南画院展 7—11 東京美術倶楽部

6 回工彩会工藝展 7—11 日本橋・高島屋

黒田清輝展 8—27 国立近代美術館 〔批〕

朝日11(河北倫明) 時事12 〔記〕

時事12 朝日13(隈元謙次郎)

東京15(石井柏亭) 朝日15(矢代幸雄)

16(中村研一) 17(石井柏亭) 毎日21(辻永)

東京タイムズ22(嘉門安雄) 南日本8月12(座談 白滝幾之助、辻永、河北倫明、隈元謙次郎、勝目清)

田舎家 1888

裸体習作、男 1889

自画像 1889

画室にての久米氏編 1890

少女の顔(グレイ) 1890頃

アトリエ 1890頃

グレイ水車場 1890頃

風景(パリ)風景

1890頃

登つて降りる道	1891
摘草	〃
マンドリンを持つてゐる女	〃
読書	〃
少女(フレハ島にて)	〃
ブレハの少女	〃
仏国ブレハの村	〃
洋燈と二兒童	〃
落葉	〃
郊外読書	〃
海岸(フレハ島)	1891頃
残雪	1892
白衣の西洋婦人	〃
婦人像(厨房)	〃
菊花と西洋婦人	〃
夏(野遊び)	〃
婦人背立エ	〃
チネード	〃
西洋婦人像	〃
草摘む女	〃
牝牛	〃
グレーの風景	〃
赤髪の少女	〃
風景	1892頃
庭の菊	〃
七面鳥	〃
風景(グレー)	〃
舞妓	1893
東久世通稱肖像	1894
夏木立	〃
昼寝	〃
菊園	1895

昔語り下絵	1896
大磯鳴立庵	〃
風景(横浜本牧の景)	〃
箱根二子山	〃
波打際の岩	1896頃
斜陽	1896
箱根の宿	〃
柚木の浜	〃
大磯の浜	〃
大磯浜辺	〃
暖き日	1897
砂浜の乾魚	〃
湖畔	〃
湖智	〃
情感	〃
風景(大磯風景)	〃
女の顔	〃
久米桂一郎肖像	〃
大原海岸	〃
自画像	〃
漁舟着岸	〃
母子	〃
犬	〃
眠れる女	1897頃
書	1898
春の海	〃
逗子の海	〃
富士の景	〃
縫も	〃
裸休婦人	1901
大隈伯爵肖像	1904

黒田清兼氏肖像	1904
けしの花	1907
窓辺の女(画室の窓)	〃
春の名残	1908
風景	〃
朝霧	1909
鉄砲百合	〃
森の中	1910
野	1910頃
風景(庭園)	1911
海辺の夏草	〃
夏草	〃
婦人肖像	1912
習作(赤き衣をまとふ女)	〃
菊	〃
木苺	〃
浜の夕映	1913
菊の花	〃
伊豆大島遠望	1914
海岸(東方暮色)	〃
図	〃
ぶどう	〃
庭のぼらの木	〃
田圃の夏	〃
雲(六枚)	〃
もるる日影	〃
跡見刀自肖像	1915
花野	〃
自画像	〃
茶画	1916
けしの花	1917
風景	〃

平河町庭	1917
鎌倉にて	1918
赤小豆の飯分	〃
温室花壇	〃
温草	1919
雑草	〃
岡の雪	〃
木村翁肖像	〃
風(鎌倉にて)	〃
冬枯	〃
秋景色	1920
庭の雪	〃
三浦謹之助像	〃
案山子	〃
ばら	1921
雪(平河町にて)	1923
〃	〃
〃	〃
挹芳園	〃
梅林	1924
林	〃
女の顔(素描)	1892
日清戦争スケッチ2点	1894
広島島の火事(水彩)	1894
森の中(パステル)	1910
スケッチ	〃
デッキサン	〃
その他	〃
白東社展 8-9	大阪・大丸
池田遙邨・道夫作品展 8-11	

岡山・金剛荘
常岡卯三郎近作油絵個展 10-15
銀座・松屋 [批]産経13 (横川毅一郎)
外邦工藝展 10-8月2 名古屋
屋・徳川美術館
利根山光人個展 11-20 タケ
ミヤ [批]アトリエ9月(江川和彦)、みづゑ9月(植村鷹千代)
代々木絵画研究所開設記念展
11-25 渋谷・代々木絵画研究所
津高和一個展 11-15 大阪・梅田画廊 [批]みづゑ9月(杉本亀久雄)
2回飯田善国作品展 12-15
日本橋・丸善 [批]アトリエ9月(江川和彦)
喜多武四郎彫刻展 12-17 中央公論社画廊
ジャネット・ターナー版画展
12-17 養清堂
斎藤清、酒井三良子二人展
12-17 養清堂
佐藤真一個展 12-15 資生堂
[批]美術批評8月(瀬木慎一)、アトリエ9月(江川和彦)、みづゑ9月(瀬木慎一)
佐藤敬滿仏作品展 12-17 東京画廊 [批]朝日14(植村鷹千代)、毎日15(徳大寺公英)、東京16(岡本謙次郎)、時事16、

アトリエ9月(江川和彦、みづる9月(瀬木慎一))
5周年記念東華会展 12-18
東洋美術館

13回双台展 13-18 日本橋・三越
中原英彦個展 13-17 サエグサ

荻野康児個展 13-18 大阪・高島屋
八果会展 13-18 大分・トキワデパート

伊藤歳夫油絵個展 13-18 大阪・阪急
皆川泰蔵民家染個展 13-18 京都・大丸 [批] 日本美術工

藝9月(橋本喜三)
4回若水会展 13-18 上野・松坂屋
日本漆藝会々員展 13-18 日本橋・三越

阿部六陽日本画展 14-18 日本橋・高島屋
関西独立展 14-20 大阪市立美術館

画入展 16-27 東京都美術館
脇田和水彩素描展 16-30 美松画廊 [批] 東京19(岡本謙次郎)、朝日24(植村鷹千代)、毎日27(徳大寺公英)、美術批評9月(瀬木慎一)、アトリエ9月(江川和彦)、みづる9月(植村鷹千代)

弓座由美個展 16-20 資生堂 [批] 時事19、サン19(金子義男)

4回京都府工芸美術家協会総合展 16-21 銀座・松坂屋
職場美術展 17-27 東京都美術館

河童今昔展 17-26 銀座・松屋
30周年記念日本写真会展 17-21 銀座・松坂屋

岸田劉生、森田恒友小品展 17-21 日本橋・白木屋
[批] 朝日20(河北倫明)
鈴木猛入南方作品個展 17-23 文房堂
西村計雄個展 17-21 銀座・松坂屋 [批] 東京19(岡本謙次郎)、サン20(金子義男)、毎日20、美術批評9月(瀬木慎一)、みづる9月(瀬木慎一)
近代日本油絵特別陳列 19-8月14 プリヂストン
水彩とバステル展 19-8月14 プリヂストン
田中實三作品発表会 19-24 中央公論社画廊
岡部茂夫、吉野公修、空野未人、勝俣泰蔵四人展 19-24 養清堂
上野綾子、橋本陣二人展 20-24 サエグサ
2回日野耕之祐個展 20-25

上野・松坂屋 [批] 美術批評9月(東野芳明)
爽龍会展 20-24 弥生画廊 [批] 朝日23(河北倫明)

サロン・ウエスト・パンチュール 20-27 大阪・フジカワ画廊
坂本繁二郎作品発表展 20-23 大阪・北陽ビル草人社

林正治、田畑撫平作品展 20-25 大阪・阪急
3回荻野康児水彩画展 20-25 大阪・高島屋

彫金会展 20-25 神戸・大丸
全国金工作品展 20-25 京都・大丸
奈良朝国宝展—平城宮跡発掘調査記念 21-8月8 日本橋・三越

中川タマオ個展 21-24 資生堂
戸田綾子個展 21-24 日本橋・丸善 [批] 美術批評9月(江川和彦)
日下部道寿個展 21-25 日本橋・三越 [批] 朝日25(河北倫明)

示現会々員展 21-25 日本橋・三越 [批] 美術批評10月(東野芳明)
3回欧米商業美術展 21-25 日本橋・三越 [批] 東京タイムズ24、東京24(大智浩)、毎日24

日24(河野鷹思)、時事26
16回連袖会展 21-25 日本橋・三越
福永晴帆個展 21-25 日本橋・高島屋 [批] 朝日25(河北倫明)

新世代の会展 21-31 タケミヤ
パン・リアル展 21-25 大阪市立美術館
自由美術展 21-31 大阪市立美術館
光風会々員デッサン展 22-31 光風会館
青丘会展 23-27 銀座・松坂屋
いとう句余会技展 24-28 日本橋・白木屋
鈴木猛入南方作品個展 25-8月8 横浜・ホイスネック
日本水彩画展 25-31 大阪市立美術館

坂本繁二郎作品発表展 26-31 中央公論社画廊 [批] 東京29(岡本謙次郎)、朝日30(河北倫明)
後藤愛彦個展 26-30 日本橋・丸善 [批] 時事31
三沢弘風景画個展 26-29 資生堂 [批] 時事31
黄青会展 26-31 養清堂
梅川慶子個展 26-29 文房堂

五四会展 26-8月1 日比谷画廊
帆グループ展 26-9月25 名古屋・栄町センター
森英個展 27-8月1 日本橋・三越
1回光陽会展 27-8月1 上野・松坂屋
クリマ洋画展 27-8月1 大阪・阪急

神戸彫望会作品展 27-8月1 大阪・阪急
洋画六人展(猪熊門下) 28-8月4 新宿・伊勢丹
一よう会和染展 28-8月1 札幌・今井百貨店
創造美術会展 29 渋谷・東横
日本風景版画展 29-8月8 酒田・本間美術館
松本慎三水彩画展 30-8月4 銀座・松坂屋
モタンアート・アルファ展 30-8月4 大阪・そごう
近岡善次郎個展 30-8月3 資生堂 [批] 美術批評10月(今泉篤男)
4回サロン・ド・ジュノン展 31-8月4 日本橋・白木屋 [批] 美術批評9月(針生一郎)、みづる10月(瀬木慎一)
青年美術家協会展 31-8月5 池袋・西武

春日大社第五十六次遷宮奉讚美術工藝展 31-8月5日 大阪・松坂屋

八月

水彩と素描展 1-29 国立近代美術館 [批]産経13(横川毅一郎)、東京21(石井鶴三)、毎日21 [記]朝日12(岡本謙次郎)
3回金曜会展 1-10 タケミヤ
草間弥生個展 1-9 美松画廊 [批]美術批評9月(瀬木慎一)
遠藤敏弥、鈴木正個展 1-10 新宿・ヴェルテル
中野和高近作油絵展 2-8 兜屋
イサム・ノグチシあかりシ展示会 2-7 中央公論社画廊 [批]毎日4、美術批評9月(浜村順) [記]朝日夕刊3、産経5
池田竜雄個展 2-7 養清堂 [批]美術批評9月(池田重雄)、みづゑ10月(針生一郎)
梅川富子個展 2-6 文房堂
友永マリ個展 3-6 日本橋・丸善 [批]時事9、美術批評9月(瀬木慎一)
ムーヴ会油絵三人展 3-8 上野・松坂屋

Qグループ展 3-10 日比谷画廊 [批]時事9
杉英治個展 3-9 大阪・阪急
現代東西人気作家日本画展 3-9 大阪・阪急
久本弘一油絵個展 3-9 大阪・阪急
刀装名品特別陳列 3-29 東京国立博物館
8回新樹会展 3-8 日本橋・三越 [批]東京5(岡本謙次郎)、朝日7(植村鷹千代)、毎日7、時事9、美術批評9月(東野芳明)、みづゑ10月(柳亮)
出品目録
。印 会員
△印 招待

裸婦・木内克
足をくむ人
女品
小品
ゴッホの首(石広本森雄)
女(シ)
働く女(石膏) 益子直也
幼児。清水多嘉示
測量
(絵画)
桃のある静物△井上三綱
まりも静物
山羊
はたおり
ゆあみ
昆虫
クロッキイ
群像二題
立像
墓地の小径△岡田又三郎
外人墓地
丘の家
教会のある風景
魚壳
小川原脩

男
か
子
踏鉄を打つ男△武田邦雄
な
男の群像
風揚げ
風揚げの子供達
牧夫
子供達
三
收場
乳牛
婦人像(グアッシュ)
花
サーカス夜△永瀬義郎
ストリップパーテ
樹木
海
裸婦(素描)
裸女試作
裸女(版画)
裸女(水彩)
夏
浜
菓
黒の猫(デッサン水彩)
親と仔(シ)

古山本蘭村
母子像
朱の首△広本森雄
顔
顔
子
若者
少女
少女
或る家族
作
C
B
A
D
E
F
熱海井手宣通
中之島公園
切通橋
新
伊豆多賀雨期
森
新
静
風
静
静物(エッチン)
静物(エッチン)
スベイン風の油
グ
グ
濱口陽三

ジブシー(水彩) 浜口陽三
 舞妓A(水彩) 大河内信敬
 B(水彩) 〃
 C(水彩) 〃
 D(水彩) 〃
 木屋町風景A(水彩) 〃
 B(水彩) 〃
 法隆寺(水彩) 〃
 高瀬川A(水彩) 〃
 B(水彩) 〃
 嵐山(水彩) 〃
 大仏殿(水彩) 〃
 正倉院門前(水彩) 〃
 飛火野(水彩) 〃
 天ノ橋立(水彩) 〃
 苔寺(水彩) 〃
 蔵王権現山門(水彩) 〃
 裸婦 大久保 泰
 子供 〃
 少女 〃
 人形使いの肖像 朝井閑右衛門
 ばら 齋藤 愛子
 A 齋藤 愛子
 B 〃
 C 〃
 D 〃
 大地によせる朝 〃
 る構成 夜 〃
 はがねによる作品 〃
 品 〃

静物 南 政善
 少女 〃
 プロフィール 〃
 黒いセーター 〃
 青いコスチューム 〃
 頭に手をあげる 〃
 女 〃
 女 (遺作陳列) 〃
 バランガ戦跡 故鈴木栄二郎
 立 秋 〃
 冬 〃
 奥多摩 〃
 山家の春 〃
 塩沢風景 〃
 馬小屋 〃
 台湾風景 〃
 独立十八展 4-8 日本橋・高島屋
 岡本公夫個展 4-7 資生堂
 [批]美術批評9月(大森忠夫)
 アトリエ10月(江川和彦)
 24回JAN展 6-11 銀座・松屋 [批]毎日10、時事13、美術批評10月(東野芳明)、アトリエ10月(江川和彦)、みづゑ10月(植村應千代)
 清水崑カッパ天国展 6-11 日本橋・白木屋
 4回集団フォト展 6-11 銀座

座・松坂屋 [批]東京8(田中雅夫)
 山元楼月富士十二題日本画展 6-11 銀座・松坂屋
 名流古書状展 6-15 新宿・伊勢丹
 4回墨洋会水墨画展 7-11 池袋・西武
 刀剣、小道具、墨跡展 7-22 神戸・白鶴美術館
 一九五四年日本宣伝美術会展 7-11 銀座・松坂屋
 [受賞] 日本宣伝美術会賞 伊藤貞三
 特選 伊藤純、金子栄吉、菊地速雄、平野信之、伊川穰
 [批]東京9(剣持男)、毎日11(岡本太郎)、時事13
 四星会洋画展 7-11 日本橋・丸善
 関西水彩画展 8-12 大阪市立美術館
 J、B、ブランク作陶展 9-14 中央公論社画廊 [批]美術批評10月(浜村順) [記]朝日夕刊11
 阿部コレクシオン中国名画展 10-15 日本橋・三越
 仏教美術展 10-15 日本橋・三越

現代日本商業美術展 10-15 日本橋・三越
 珠九油絵展 10-16 文房堂
 [批]美術批評10月(東野芳明)、アトリエ10月(江川和彦) L E T I A グループ展 10-14 養清堂
 デモクラート美術家協会展 10-15 文房堂
 筑波山、霞ヶ浦風景画展 10-15 上野・松坂屋
 蒔番展 10-15 大阪・阪急
 24回関西バスレル画会展 10-15 大阪・阪急
 笹島喜平版画展 11-15 日本橋・高島屋 [批]時事16
 原画と写真展 婦人画報創刊50年記念 11-19 美松画廊
 新具象七人展 11-20 タケミヤ
 ヤ 28年度新収品特別陳列 11-29 東京国立博物館
 新世代の会展 12-17 日本橋・丸善
 白桦美術展 12-14 大分・商工会館
 塩川桃浦遺作展 13-17 第一会場 資生堂、第二会場 光風会館 [批]東京13(岡本謙次郎)、みづゑ10月(針生一郎)
 春日野展(会津八一書、杉本健

吉園) 13-18 銀座・松坂屋
 新しい紙の造形作品展 14-18 日本橋・白木屋
 J・H・キルビー個展 16-21 養清堂
 加賀百万石名宝美術工藝展 17-22 日本橋・三越
 1回日本水墨派展 17-22 日本橋・三越
 紅土会油絵展 17-22 日本橋・三越
 内堀勉沖繩風景油絵展 17-22 日本橋・三越
 14回カトリック美術展 17-22 日本橋・三越
 水平讓個展 17-22 上野・松坂屋
 鴨居玲作品展 17-22 大阪・阪急
 飯山、米倉、高塚三人展 18-21 資生堂 [批]美術批評10月(東野芳明)
 4回一九五〇年協会展 18-22 日本橋・丸善
 画家の書、書家の画展 18-25 新宿・伊勢丹
 朔日会々員小品展 19-25 文房堂 [批]時事23、アトリエ10月(田近憲三)
 矢島玉女日本画展 20-25 銀座・松坂屋

モダン・アート京都展 20—23
 京都府ギヤラリー〔批〕日本
 美術工藝10月(橋本喜三)
 現代画家六人展 (三岸節子、林
 武、鈴木信太郎、宮本三郎、
 川口軌外、岡鹿之助) 21—30
 美松画廊〔批〕東京26(岡本
 謙次郎)
 1回集々会洋画展 21—25 日
 本橋・白木屋〔批〕アトリエ
 10月(三宅正太郎)
 斎藤真成個展 21—31 タケミ
 ヤ〔批〕美術批評10月(瀬木
 慎二)、アトリエ10月(江川和
 彦)、みづる11月(瀬木慎二)
 平和美術展 21—29 大阪市立
 美術館
 満谷国四郎小品展 23—28 中
 央公論社画廊
 1回全国輸出工藝展 23—28
 横浜貿易館
 朴性圭個展 23—26 資生堂
 女流八人展 23—28 養清堂
 〔批〕美術批評10月(瀬木慎二)
 現代アメリカ画家小品展 23—
 9月5 プリヂストン
 パステルと水彩特別陳列 23—
 9月5 プリヂストン
 或る日の美術家スナップ写真展
 23—9日15 プリヂストン

富田通雄「山と水」水彩画展 24
 —30 銀座・松屋
 自由美術彫刻部展 24—28 日
 本橋・丸善
 4回日本陶彫会展 24—29 日
 本橋・三越
 1回柳々会日本画展 24—29
 上野・松坂屋
 藤沢典明個展 24—29 大阪・
 阪急
 びぞん作品展〔工藝グループ〕
 24—29 京都・大丸〔批〕日
 本美術工藝10月(橋本喜三)
 沖田稔個展 24—29 広島・福
 屋デパート
 中谷泰油絵小品展 24—27 大
 分・トキワデパート
 難波田龍起個展 24—26 旭
 川・今井デパート
 新道繁個展 25—29 日本橋・
 高島屋
 一線美術小品展 27—9月1
 銀座・松屋
 新表現展(実証展) 27—9月2
 文房堂〔批〕美術批評10月
 (東野芳明)、みづる11月(東
 野芳明)
 現代詩画展(猪熊、岡、北園、
 寺田、堀文子等) 27—9月1
 銀座・松屋

1回桜門会展 27—9月1 銀
 座・松坂屋
 ジョルジュ・ピゴール エツチン
 グ展 30—9月4 中央公論
 社画廊
 末永胤生個展 30—9月2 日
 本橋・丸善
 加藤達美陶藝展 30—9月4
 養清堂〔批〕美術批評11月
 (浜村順)
 26回青竜社展 31—9月12 日
 本橋・三越
 〔受賞〕
 奨励賞—水島裕、横山操、堀
 口幸子、高山晴雄、岡信
 孝、丹青子
 社友推挙—横山操、堀口幸子
 〔批〕
 東京6(今泉篤男)
 時事6
 日経6(嘉門安雄)
 毎日7(田中一松)
 朝日8(河北倫明)
 産経8(横川毅一郎)
 東京タイムズ9(鈴木進)
 出品目録
 寝釈迦(修善寺 川端龍子
 風景) 夕 月 夕

阿寒湖 加納三楽
 トラピスト風景
 賀名生選 幸吉野
 賀名生より遷幸、福阿青嵐
 松、梅月、額
 神の田山崎豊
 急流市野亨
 菖蒲睡蓮安西啓明
 連作の十三 坂
 神戸花隈坂
 温床小島鼎子
 アカンザス
 タ風時田直善
 沼泉 亀井玄兵衛
 石流 森塚英一
 奔流 崖佐藤土筆
 奈良の森 佐々木邦彦
 層岳 岳
 谷川 閣
 尖閣 閣
 山相 閣
 庄内おぼこ 結城天童
 関寺小町 大塚香緑
 冬之海 竹内未明
 水郷二題 野舟 渡辺不二根
 法燈(善光寺) 林心耳
 山の製材所 丸山 皎
 大平 影水島 裕
 郷渡会伊良子

麦河 秋高山晴雄
 水澄 古野新生
 春の月 上条静光
 月光淡し 生重定
 旭ヶ丘 安東丈夫
 湿原の華 酒井白澄
 舞妓 横山 操
 変電 塔
 望郷 堀口幸子
 煙雨(大阪城) 細野光治
 京の寺町 堀江大白
 ニコライ 尾越勝之助
 秋田 蕨武市政輝
 砂底 谷野敬一郎
 ブイ 古橋青艸
 山湖 富田保和
 四方温泉 竹内広吉
 涼峡姿 水三浦打魚
 白のリズム 石崎昭三
 寛 岡 信孝
 紫陽花 丹 青子
 ホロホロ鳥 土屋輝雄
 夏 日 浜出青松
 岩 牧 秀夫
 古道具屋店頭 石川白圭
 初秋 拓植一枝
 山の製材所 皆川久代
 緑 映 中島晃輪
 残像(浦島譚) 山口吉旺

九月

9回行動展 1-19 東京都美術館

〔受賞〕

行動美術賞—野崎一良(彫)

新人賞—杉山英行、小林二郎

奨励賞—大門清次、田中稔之、篠井欽治(彫)

会員推挙—河野通紀

会友推挙—平川勇

〔批〕

毎日3(徳大寺公英)

東京日々6(峰岸義二)

時事6

朝日7(植村鷹千代)

東京8(岡本謙次郎)

朝日9(植村鷹千代)

東京タイムズ9(柳亮)

東京15(今泉篤男)

美術批評10月(瀬木慎一)

アトリエ10月(宇佐見英治)

みづゑ10月(植村鷹千代)

美術手帖11月(瀬木慎一)

主要出品目録

。印会員
△印会友

(絵画)

作品 Q 52。津高和一

Q 53

R 55

Q 54

美術展覧会(8・9月)

静かな街 英賀田憲二
温 室河本 正
真 昼 大塚達夫
貯水池風景 高頭信子
奥多摩 高信了己
藤 坐光寺信祥
薩南風景 里見公軌
春日の森 山岡鉄夫
波切風景 安藤心象
後樂園 駅森 珠代
ピル 街 鈴木八郎
目録外出品 四
国通路(第五回) 川端龍子
草描十一景
青井辰雄個展 31-9月4-5
エグサ〔批〕美術批評10月
(東野芳明)、みづゑ11月(東野芳明)、アトリエ12月(江川和彦)
6回立軌会油絵展 31-9月5
日本橋・三越〔批〕東京4
(岡本謙次郎)、時事6、アトリエ12月(江川和彦)
3回信濃美術協会展 31-9月
5 日本橋・三越
南画院水墨画小品展 31-9月
5 新宿・伊勢丹
春潮会洋画展 31-9月5 上
野・松坂屋
クロード岡本陶画展 31-9月
5 大阪・阪急

退屈な二人。山中春雄
猜疑 伊藤久三郎
少年と壮年 村田實史雄
開墾地 田中忠雄
虹 田中忠雄
キリストの怒 田中忠雄
地に物書く人 増田悟郎
作品(一) 野尻弘
G短調 野尻弘
はつくつされた
作品(B) 大谷久子
朝 篠田正昭
現代のピエロー 保地謹哉
私は知らない 高井寛二
風の日記 高井寛二
母の子 難波香久三
ピニールのキリ 難波香久三
スト
燻魚 河野通紀
白日 河野通紀
前衛挿花 向井潤吉
生活の河 向井潤吉
卓上静物 伊谷賢蔵
画室の一隅 伊谷賢蔵
由布岳 福井勇
流れの石 福井勇
秋の静物

庭の石 福井勇
O町風景 田中勇次郎
市の人々 小林武夫
枯れたあじさい 生沢朗
鳩を囲む裸婦 中畑美那子
机上静物 中畑美那子
白いテーブル 榎倉省吾
麦 榎倉省吾
海辺 伊藤信夫
鎧 伊藤信夫
裸樹の群 伊藤信夫
裸樹と建物 高須国之
てし 高須国之
枯木 高須国之
巻揚機 高須国之
子供と猫 柏原覚太郎
朝の食卓 小出卓二
港内風景 小出卓二
海島風景 田辺三重松
宮島風景 田辺三重松
断崖と海 田辺三重松
晴るる裏磐梯 田辺三重松
支笏湖の秋 古家新
海岸の教会堂 古家新
港の展望 古家新
牡蠣の展 古家新
木立 大場厚
人 高橋進
立女 佐藤真一
男たち

父 子 佐藤真一
周 田 人 辻 親造
花 富岡賢二
貝 富岡賢二
南京町の肉屋 貞原六一
清掃車のある風景 貞原六一
千曲川のほとり 田川寛一
浅間のけむり 田川寛一
佐保川(奈良) 田川寛一
母と子 高原龍己
幼き生命 高原龍己
橋 川原章二
工 川原章二
風 川原章二
9 坪内節太郎
王子とさるをも 坪内節太郎
岩 飯田清毅
破船 飯田清毅
舞 飯田清毅
椅上静物 西阪修
鏡の前 西阪修
ヴァキオリンを持つ姉妹 西阪修
アマステルダム 西田秀雄
市 西田秀雄
ヘルシンキ湾 西田秀雄
漁 武本憲太郎
北 武本憲太郎
コンボジション 田中阿喜良
B A

北國の漁港 本間莞彩	やまがた宿 木村武夫	林泉 伊藤弘人	街景 飯田小枝子	大岩不動 高橋支輝	取獲 菊川多賀子	竹叢 横山善信	新日小庭 横山余弥	春日風景 成神秋三	工場風景 阿部徹人	首海の春 平山郁夫	月の出る丘 高崎興	占ひ 神田三千枝	午睡 高橋万年	六の部屋 小川雨紅	子供の部屋 小川雨紅	絵を描く人々 月岡栄貴	函根早春 鈴木太麻	野頭 中村潤子	晩秋 飯島柳三郎	雪の駅 小島丹漾	夕映 後藤葦	初夏 安井三香	放飼 浅井金万	はに お神田浩二	溪流 金田豊	笛金 関口正男	水芭蕉 今井映方	城址にて 長谷川清澄	麦秋 川辺菊久			
とおりやんせ 松崎直樹	母と 真島元枝	爽と 鈴木主子	樹韻 斎藤俊文	陶家 横山津恵	群鷺 須田珠中	西里 鈴木三朝	小径 大野百樹	白葛村啓一郎	嵯峨野の蕨 斎藤紫山	宇治の春 船田玉樹	石炭と海 藤田高日子	山多風 吉田善彦	知多風 伏田実	牛舎 大塚和	閑日 牧野三生郎	月に寄る 古村徹三	蒼夜 中村春泥	砂丘 四夷星乃	新庭 福王寺法林	閑庭 山見米山人	愛宕 夏蓮尾辰雄	盛山 藤岩崎玲千	山字池初 松山東光風	群松 内藤和子	女達 本多茂	知多の印象 小市美智子	女と 犬小市美智子	祭の夜 寺本郷史	土曜日の夜 小谷津雅美	伊勢物語 佐田芳郎	岩山浜孤嘯	
うま 渡部桂子	松井観文	池田一	街と新緑 西沢周一	山と新緑 宮沢日出夫	鴛鴦 馬場連交	雪相 相沢義二	人物と花 植杉泰子	残照 入江正己	船を待つ 安沢阿弥	朝霧 若林卓	日ぐれ 長谷衣音	夕霧 渡辺安友	夕霧 森崎伯靈	夕霧 堀川公子	夕霧 加藤将郎	夕霧 古莊方子	夕霧 小林三季	夕霧 松山美智子	夕霧 光本豊司	夕霧 大塚花御史	夕霧 西木青甫	夕霧 鈴木康之	夕霧 中村燕衣	夕霧 後藤杏鳩	夕霧 吉沢照子	夕霧 山口静恵	夕霧 鈴木麻古等	夕霧 四田淳三	夕霧 伊藤清示	夕霧 寺門昭治	夕霧 岩田弥光	
景大塚堅二郎	景常盤大空	景田中圭一	景蒲奥村玲瓏	景苑荒井草雨	景人森下昭子	景山田広吉	景町星野楚人	景鈴木成欣	景深百瀬徳三郎	景(彫塑) 小柳津三郎	景夫人坐像 片野不空蔵	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内	景夫人坐像 大和作内
K子の首 池田佳年	K子の首 鈴木重良	K子の首 宮本重良	K子の首 松村秀太郎	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造	K子の首 松原松造		

美術展覧会(9月)

習作 不動。平 藤田中
 薬師瑠璃光如来。大内青圃
 日光菩薩像
 月光菩薩像
 肖像 基 俊太郎
 立像
 詩人 辻 晋堂
 旅から旅へ
 虚空はこういふ
 だにつかむもん
 女 山崎 脩
 隊 婦 森 豊一
 教え子の首 牧 岩太郎
 夕張の男(頭部 石川 季彦
 なき立像) 作 矢崎 虎夫
 習 浴 光 立 安
 裸 エチニード
 習 作 女 志 水 晴 兒
 T 女 鷹 野 悦 之 輔
 裸 婦 像 土 井 要 輔
 みどりの像 玉 那 覇 正 吉
 無 題 岡 村 康 彦
 少年座像 竹 林 信 雄
 群像 保 田 春 彦
 裸 像 高 橋 友 武
 首 古 島 実
 39回二科展 1-19 東京都美
 術館 第二会場-日本橋・高
 島屋
 [受賞]
 二科賞-植田正治、国武久巳

会員努力賞-北川民次、淀井敏夫
 新会員-斎藤三郎、伊東静尾、安藤幹衛
 新会友-織田リラ、宮川富佐子
 飯田艇三、長谷川雅司、加藤博、高須賀桂、リンパツハ・ハンス・ヨルグ
 [批]
 毎日3(徳大寺公英)
 東京日々6(峰岸義一)
 時事6
 日経61(福島繁太郎)
 朝日7(植村鷹千代)
 東京8(岡本謙次郎)
 朝日9(植村鷹千代)
 東京タイムズ9(柳亮)
 東京15(今泉篤男)
 美術批評10月(瀬木慎一)
 アトリエ10月(宇佐見英治)
 みづ多10月(植村鷹千代)
 美術手帖11月(針生一郎)
 [記]
 読売夕刊2(岡部冬彦)
 出品目録
 。印会員
 △印会友
 (絵画)
 混 迷△斎藤三郎
 永 遠△
 海 神。鶴岡義雄
 二つの太陽と林 織田リラ
 風のある風景△
 人と家と鳥。野村守夫
 勝残者△塙賢三

人間のつくつた
 もの
 森田信夫
 焰 仙名秀雄
 作品A(浮立) △伊藤静尾
 B(馬型) △
 街の中の少女 佐藤陸郎
 植生の神楽 狩野 守
 風 景。織田 広喜
 はたけ仕事△
 聖書物語(マタ イ伝ゴルゴダの丘)
 宮川富佐子
 イ伝山の上の説教△
 マタ
 風 イ伝ガリラヤの嵐△
 木 曾。服部正一郎
 海 △
 山 △
 山 △
 髪を結ぶ。大沢昌助
 仕 事 場 △
 机に倚る△
 島の想ひ出。吉井淳二
 虚 飾。原 良次
 入 江。中 原 実
 休 戦 条 約。井上 覚造
 女のつどひ。北川民次
 馬 の 人。佐藤吉五郎
 裸 の 婦。藤川 栄子
 主婦と厨房△
 海とオリーブ。藤井二郎
 秋と果物△
 ピアノの前の女。寺田竹雄

三人の女。寺田竹雄
 燦爛への旅。山尾 薫明
 五つの線。山口 長男
 二つの形△
 二つの組合せ△
 貧しき部屋。松本 弘二
 宣 伝 △
 水 辺 △
 ヴキナス。井上 賢三
 人と魚。桂 ゆき子
 人が多過ぎる△
 懐 古。清水 刀根
 鳩 止 場 △。松 井 正
 波 止 道 △。福 島 金 一 郎
 淡路島遠望△
 風 路 △。東 郷 青 兒
 漁 村 △
 日本 髪 △
 街の散歩。野間 仁根
 昆 虫 △
 魚 二 尾 △
 魚 七 尾 △。鈴 木 信 太 郎
 長崎風景(A) △
 長崎の丘(B) △
 長崎の家(A) △
 長崎風景(B) △
 裸 婦(A) △。高 岡 徳 太 郎
 馬 △。鷹 山 宇 一
 花 景 と 魚 △。佐 々 木 良 三
 オフィス(C) △

オフイス(A) △佐々木良三
 室 内 △。天 野 三 郎
 たそがれ△
 秋 の 海 △
 サンドニーへの。山路 真護
 思慕
 双生児の学園。桑 原 実
 スポーツの後△
 街頭の人△
 こりし(C) △。渡 辺 貫 三
 無 題(1) △。春 田 安 喜 子
 哀 愁 夫 人 △。中 林 栄 三
 レダに非ず△
 コンボゼンヨン
 Aの移行による
 作品 △。吉 村 勲
 森 △。田 川 覚 三
 夜 △
 くちづけする魚 △。橋 上 菁 兒
 煙 △。突 △
 福らんでゐる幸 △
 福の樹 △
 聖 堂(広島) △。荻 野 康 兒
 街 (B) △
 夫 婦 △。中 井 勝 郎
 水 車 △。浪 江 勘 次 郎
 青 空 △。岡 本 太 郎
 作 品(B) △。松 葉 清 吾
 現代のアダム・イブ △。西 村 千 太 郎
 ノーモア △
 陶土の山 △。末 永 一 夫
 魚 と 人 △。清 川 泰 次
 Painting (No. 6)
 Painting (No. 3)

作 品。吉原治良
 モルモットはご 安藤幹衛
 めんだ 越谷繁造
 埋 葬 越谷繁造
 自 画 像 石橋宏一郎
 市場の女達 金原昌平
 夜の 人々 金原昌平
 酒 場 山本敬輔
 気流を乱すもの。山本敬輔
 二つの太陽 山本敬輔
 運命の顔 山本敬輔
 屠 殺 山本敬輔
 髪 撫 山本敬輔
 愛 撫 山本敬輔
 家 族 山本敬輔
 海向ふに売れる 伊賀勇高
 女 伊賀勇高
 食卓の三人 月館れい
 電 車 末光利夫
 落葉の詩 伊藤博次
 憩 2 戸川申田
 秋 田 長谷川三千春
 老 朽 船 伊藤研之
 道化と踊子 伊藤研之
 海 辺 伊藤研之
 牧 羊 神 伊藤研之
 仮 面 吉野正明
 馬 杉浦正美
 あはれなる地上 近藤長三郎
 の生物たちよ 近藤長三郎
 作 品 鈴木進平
 崩れゆく夢 山本不二夫
 よ まつた 堀越隆次
 こま 堀越隆次
 囚はれの 関谷陽
 坑夫住む家 萩尾テル

街 萩尾テル
 月 丹下富士夫
 曲 馬 青山龍水
 天 主 堂 青山龍水
 砂 浜 高橋悦男
 い かる 花 古賀耕児
 ト オ ミ 古賀耕児
 秋 遊 風 花谷時子
 野 遊 風 花谷時子
 若い大原女 リンパツハ・
 三人の京都の裸 ハンス・ヨル
 婦 退 役 軍 人 伊庭伝次郎
 滝 少 女 (1) 鈴木光子
 シ 夏 至 の 夜 (スウ エーデン) オロフソソ
 黒 い 樹 利彦
 白 い 樹 利彦
 梢 の 唄 米良道博
 裸 女 三 態 米良道博
 浴 後 美 人 仁戸田秀吉
 パンチーを並べ (C) 仁戸田秀吉
 シ (A) 仁戸田秀吉
 シ (E) 仁戸田秀吉
 ひ な げ し 錦義一郎
 ピ ア ノ シ 錦義一郎
 Plan 三部作の 阿部金剛
 シ 三部作の三 阿部金剛
 シ 三部作の二 阿部金剛
 ふ る さ と 能 間 弘

森 中 田 中 君 子
 海 辺 の 女 達 上 町 富 蔵
 秋 冬 吉 田 一 夫
 陽 炎 加 藤 正 一
 出 水 郭 仁 植
 群 夢 西 村 龍 介
 偏 西 村 龍 介
 た び す る 人 々 沢 田 哲 郎
 牧 歌 白 井 幸 彦
 終 電 車 の 通 っ た 伊 東 俊 平
 後 勤 き な れ た 場 所 勝 野 浩 一
 私 C 中 村 瑠 璃 子
 螺旋階段と魚板 中 川 時 之 助
 粘 土 採 掘 場 伊 藤 昭 蔵
 都 市 石 田 隆 一
 少 女 今 長 谷 巖
 波 女 今 長 谷 巖
 夏 の 夜 の 幻 想 瓦 林 暁 生
 悪 魔 原 田 直 康
 散 歩 高 橋 三 郎
 洗 禮 小 川 清
 海 底 に 眠 る 辻 本 敬 三
 夜 の 工 事 場 磯 村 利 雄
 帰 り 来 た 喜 び 福 本 春 子
 幻 想 藤 野 一 友
 ヤコブと天使の 藤 野 一 友
 關 心 藤 野 一 友
 作 品 C 十 河 晶 巖
 亡 郷 武 田 晶 巖
 筑 紫 次 郎 の 史 佐 藤 隆 昭
 若 い 家 族 上 野 富 蔵
 灰 色 の 街 中 野 富 蔵
 私 の 埋 葬 金 子 茂

古 び た 家 棚 橋 誼 彦
 牛 と 子 供 古 川 広 治
 作 品 B 小 坂 昇
 話 す 魚 山 内 靖 巳
 昆 虫 棚 と ラン プ 岡 本 耕 介
 食 堂 高 根 秀 雄
 ケーブルから 牧 野 詠 子
 作 品 A 柏 木 昭 一
 海 の モ ニ ュ マ 大 沢 寛
 愛 染 稲 垣 志 行
 バレリーナ 青 木 一 利
 道 化 師 難 波 弘
 花 と 小 鳥 弓 座 由 美
 白 と 黒 櫛 山 勝
 燃 える 太 陽 青 木 秀 夫
 漁 師 山 田 達 雄
 虹 と マ ス カ ン 村 上 善 男
 静 物 園 部 孝 耕
 桶 と 子 供 池 上 丁 一
 ローターリ 福 島 惇 志 郎
 流 動 す る 顔 西 川 敬 一
 風 景 新 野 俊 太 郎
 粧 ひ の 裸 婦 山 田 広
 流 れ に 眠 る 少 女 葛 西 康
 グラスとブロンズなど 飯 田 慶 三
 六 月 の 街 飯 田 慶 三
 フルーツと女 小 出 泰 弘
 朝 街 村 田 ゆ た か
 子 供 の 夢 内 田 系 一
 船 を み る 人 稻 葉 智

SAFETY ZON 高橋海寿男
 E 交番のある風景 河原太郎
 時代の花嫁 松尾平蔵
 室 内 松 井 万 里 子
 雲 と 芽 中 田 豊
 置時計賞を持って 池 田 陽 亮
 M夫人 岩 波 泰 夫
 人 想 ひ 岩 波 泰 夫
 風 景 A 榎 原 伸 之 助
 木の葉の精のお 村 上 輝 夫
 誕生 村 上 輝 夫
 あとたちのしる 内 藤 道 広
 雨 小 園 井 一 郎
 男鹿半島晩秋 渡 辺 喜 久 蔵
 ToKyo 吉 田 道 宏
 街 の 夜 竹 内 清
 化 な な き 相 沢 義 和
 池 畔 水 野 保 雄
 水 門 加 藤 若 栄
 水 玉 模 様 の 魚 飯 島 貞 子
 影 塑 土 家 木 内 君 香 崎 和 子
 稚 児 み ど り 中 井 澄 子
 室 内 深 見 悌 一
 群 像 伊 藤 昭 蔵
 水 浴 立 松 富 雄
 クインの構図 大 淵 陽 一
 無限への輪舞 増 田 孝
 対 岸 新 田 稻 実
 桜 島 平 川 雅 夫
 道 標 秋 山 満
 園 魂 増 田 勉
 海 浜 吉 田 正 雄

また降つて来た	鈴木幸雄	美容整形	鈴木文子	山	羊野村正三郎	群	像	米倉徳
工場風景	伊地知正明	街	小玉光雄	聖家	井上泰彦	群像	米倉徳	根本土龍
人	小島義男	毛	川原マサ子	族	井口一朗	群像	村岡三郎	B植木力
リキニール	猪田七郎	母と	岩田泰郎	パチニール	長谷川雅司	群像	室田五郎	少
テープを持つ女	加藤孝一	作品	石橋泰幸	(彫刻)	野村正三郎	群像	戸井啓	母
偉大なる饗宴	和田太郎	工場	横井克甫	地上のかたち	笠置季男	群像	野水信	少
作品(210)の旋	波辺宏	狂	阿本一	品(A)	野村正三郎	群像	野水信	少
光性)	南貞雄	鳥籠のある風景	寺田健一郎	品(B)	堀内正和	群像	野水信	少
老	伊東みつ	神江の里	清水映鳳	品(E)	飯田艇三	群像	野水信	少
航	岩崎義治	花摘み	鍛見艶子	品(F)	野口嘉光	群像	野水信	少
魚	野田敦郎	龍宮の迎え	犬童次夫	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
緑の空間	高根沢政子	女と	藤田慎治	品(G)	野口嘉光	群像	野水信	少
波	浪	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
群	犬飼正道	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
汽車と建物A	黒木耀治	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
経はメラニンの	石附進	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
水と家と	田中弘	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
森の誘惑A	指田由米	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
晴日の砂丘	八重垣逸郎	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
自我の譜	杉英治	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
月への感傷	山本暁子	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
Sunday morning	萩原寛子	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
赤い雲	伊藤博	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
街の構	原真人	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
麦	友永マリ	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
子	宮川静板	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
夜	宇野藤雄	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
沖	大城皓也	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
熱	名嘉岡武雄	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
群	渡辺定俊	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
樹	安井芳香	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少
月の	馬皆川実	女と	藤田慎治	品(H)	野口嘉光	群像	野水信	少

(商業美術)

二点

緒方たけ志
竹内清
堀内誠一
長尾守
桜井妙子
加藤容康
竹内和夫
末田時夫
白田計
鎌田輝穂
水島雅子
松井万里子
水島武雄
紀藤虎一
小園井一郎
能勢節郎
奥津国道
高山一政
龍口清二
中林歩
乾敏夫
吉塚章弘
今長谷肇
白井久孝
木村武司
松田国秀
菊地保
龜井美佐子
松本芳昇
松村秀男
田中富喜男
小林明
岩田好太郎

一点

大野已喜男
野村泰資
伊藤妙子
中馬師津夫
白井啓容
酒井龍
君島養夫
水野光雄
岡村義春
支技翁太郎
小川慶明
井上盛
岩田正
大野俊夫
藤平清次
吉田芳春
鈴木道明
坪井鶴吉
関山光司
河津武明
金子智恵
杉本強一
藤居直樹
三井つとむ
江野俊美
塩田皎
鏡光男
高橋はると
岸井喜義
植松国臣
浜野一雄
小川英夫
森島建次
前島誠一

一点

山口正夫
阿部重太郎
木村智美
小山洋
高橋正
岸添慶三郎
清水勝明
大羽誠一
加藤武
上杉正臣
芦立ゆうし
村上章
山崎弘
明山正次
江崎進
田次清見
藤浪勉
鶴末滋子
松岡義和
戸塚淳一
牧津康之助
西田清一
今田政太
赤土政一
安藤孝一

(漫画)

作家肖像。近藤日出造
稿。清水昆
孤獨。森熊猛
今日の群像。山下紀一郎
日本新馬鹿(A)
霊媒冷笑末田時夫

鬼

鬼
末田時夫
施ねつ子
横井蛙平
迷える仔羊ヨ
顔
ゼニ足らん族の集ひ(特売場)
ああこの瞬間
クオヴァデイス
こりもり
広場の孤独
超党派
家立無理(かたつむり)
オーマイババ
入国管理官
日蝕
耐乏すでに久し
重要文化財
国軍旗健(全なり)
生きている(A)
生きる(B)
嘲笑
人間への反省
いける
「秘密保護法」街を行く
ワンダフル花火
女神と天使
国立幼稚園
光をかかせる人
たそがれ
開店
何処まで? 片寄貢
聖者ノ征者ノ
山本政雄

(写真)

象使ひの女。小野佐世男
阿波踊り
鮑和状態
ゲイシャガール
真夜中の散歩
増産
踊り子たち
エプロンステージ
私の職場から
ハルピンにて
私は天使ではな
清浄
楽屋にて
ジャカルタ・パ
ソサル・ターナ
バン
二科賞
「柵の下の水面」
「店頭の手網」
「湖の杭」
推薦
宝恵 駕石井信夫
「競輪場にて」 土門拳
「市場にて」 倉重恒吉
象・其ノ一・二 倉重恒吉
夜の鳴門 緑川洋一
モーア夫人 中村忠三
縞馬 西川一正
花撒く少女の祈 森副二郎
古風な警笛の実 竹本一司
丸の内 内田伊佐夫

或る画家 羽田敏雄
 漁師の子供 宮本松司
 犬 富重忠夫
 雪 原伊藤強一郎
 脱衣 内海薫
 入選
 雨の日 青木藤吉郎
 女性像 秋田彰
 ヌード 秋山和欧
 「顔」 「楽屋裏」 新井啓雄
 梅雨 阿部保
 なつかしい曲 朝倉幸
 雪の中の大仏 安斎広吉
 橋上夜景 安藤勝
 「コンボジ」 飯田鉄太郎
 フォルム習作 猪野喜三郎
 おちよぼ 石井信夫
 大姉御 伊藤強一郎
 洋上の訓練 伊藤昭二
 「花嫁と母」 「迷子」 井上信彦
 ポートレート 今井功
 漁 岩瀬禎之
 少 江口秀夫
 「孤独の風景」 江間弘
 「若い地表」 遠藤喜一郎
 時代の流れ 「たわむれ」 岡松健次
 「仔犬」 「行商の男」 小久保善吉
 迷子 奥田隆一
 真昼の幻想 太田累士

平和の願い 大津懿徳
 うみねこ 小野幹
 あし か 蟹江三郎
 超外野 後藤彬
 女 サークス小屋 神宮寛
 手 N氏と子供 岸野満
 「朝のホームにて」 「番兵」 倉重恒吉
 基 地 杵島隆
 或る町の印象 川口等
 羽 小 小林晃
 「炭鉱の冬景」 小林広次
 「琴」 小西五兵衛
 飛 小 小松健次
 少 女 小 小松哲也
 丸 像 小 寿平八郎
 「轍」 「柵」 小 小柳春夫
 海女の足 近藤龍夫
 二見の写真師 古徳博美
 群 鶏 小 山 衛
 親子三人 小 山 衛
 街の浪曲師 笹川昌滋
 農村の一家 迫 幸一
 袋 小 路 三遊亭小金馬
 「明治座で休息する母と子」 「腕輪の女」 柴崎高陽
 柴崎 正
 虫 島村安彦
 「島」 「パター」 白川義員
 或る町の風景 城台 巖
 銅鉱山のと 助川泰教

裸婦 須賀都智路
 葵部落の子供たち 須田健二
 蝕まれし船体 清水一洲
 「仲良し」 「ぶらんこ」 高野康夫
 初夏の夕 高橋亨
 祝言から帰る人 田賀久治
 風景 竹中半兵衛
 河口 竹本一司
 河 田 田 信次
 ス 霜 谷 本 秀 武
 星 霜 谷 本 秀 武
 引 綱 筑 紫 敏 男
 競輪人 土崎 一
 佃の渡し 徳増八郎
 祭 金 細 工 土 門 拳
 針 潮 構 成 富 重 柳 陽
 「スチュール・ビニー夫人」 都留野南人
 作 品 仲 啓 一
 「ハウ・ハイザ・ムー」 演奏曲 中島良太郎
 名より 「千宗室」 「智照尼像」 中川登志
 「グラッド・ハイ」 「娘した黒人と眼鏡をかけた少年」 中村忠三
 鏡をかけた少年 中村 升一
 拳 阿本太郎と土門 中村 久
 いかだ乗りの子 中村正也
 淀 泊 丹羽英雄
 漁港の女、鶏の形態 沼田義治

浜辺にて 橋詰辰雄
 二つの窓 橋本 淳
 街角の女 林 幸男
 冬 林 隆二
 待つ人々 平井春風
 「白い船、黒い船」 「大阪港所見」 平井太郎
 アイス・ショー 平林正夫
 土門拳氏 藤田直道
 放射能検査 堀田 正
 デフレクション 正木三郎
 作 品 松井一之
 雨の岩屋にて 松本恭一
 爆焼の旋曲 三上四郎
 鳴門急潮 緑川洋一
 こども 三瀬幸一
 深刻な語らい 水野全高
 残 照 水野六平
 別 離 A・B 三橋松三郎
 モ ー ド 家合利雄
 男 子 山岡登喜男
 踏切所見 矢部洋之助
 裸女降誕 吉田 久
 出 番 前 吉田 畔夕
 冬の模様 吉村伸哉
 「露店」 「湖畔風景」 和田生光
 地底の人 渡部雄吉
 会 員 (一部第二会場) 早田雄二
 N・カラ・他 早田雄二
 街から1・2・3 画家・織田 林 忠彦
 広喜・リラ夫妻

あつぱれクライ トンより中村歌 大竹省二
 右衛門丈 黒のムード・若い眼・梧桐と 黒いセーターの女モード・シャソン歌手K・Yの像 秋山庄太郎
 第二会場 日本橋・高島屋 (絵画)
 オフィス(B) △佐々木良三
 野の中の花園。大沢昌助
 地獄の使ひ △伊賀勇高
 林 檜 園。鈴木信太郎
 作品(C) (白亜) △伊東静尾
 夕 月。服部正一郎
 朝の港。寺田竹雄
 青い流れ。山本敬輔
 魚を料理する人 △石橋宏一郎
 夜の花。鶴岡義雄
 窓辺裸女。米良道博
 旅 愁。戸川串田
 父かへる △安藤幹衛
 街 (A) △荻野康児
 桃 松本弘二
 おど △花谷時子
 道 △金原昌平
 コンポジション △吉村 勲
 魚 野間仁根
 幽 境 △齋藤三郎
 溪 流 △伊庭伝次郎
 二人の裸婦 △山本不二夫
 庭の一隅。福島金一郎

ひ る △堀越隆次
 コンボチシヨン 岡本太郎
 「遊」見
 パッカス △丹下富士男
 二人 △今長谷 巖
 作 品(A) 松葉清吾
 トルソ 鷹山宇一
 貯水 池 藤井二郎
 新聞 売 り 織田広喜
 吹 奏 清水刀根
 か き ね 吉井淳二
 交 錯 山口長男
 「みんならくで はない」 桂 ユキ子
 裸 婦(B) 高岡徳太郎
 波 止 場 松井 正
 ナンパ舟と人魚 △瑞 賢三
 湖水の見える風 野村守夫
 景 間 井上賢三
 幕 琴 亭 錦義一郎
 松 琴 亭 東郷青見
 女の四季 角 青山龍水
 街 道化とサーカス 伊藤研之
 の子供
 静 物 山尾薫明
 詩人の肖像 山路真護
 游 泳 者 桑原 実
 鳩舎の子供
 種 まく 人 △中 田 豊
 青 年 像 北川民治
 婦 人 像
 慕夜への招待 浪江勘次郎

緒 土 利彦
 秋 利彦
 (彫刻)
 作 品(A) 平野秀一
 立 像 渡辺 宏
 作 品 B 小山由寿
 立 像 高須賀桂
 作 品 29 東村正久
 モニユメントB 木村 敏
 立 てる 女 三浦 晃
 作 品 B △鷺 泰次郎
 顔 植木 力
 そだつもの 笠置季男
 鳥 野水 信
 作 品 乗松 巖
 菅 広瀬不可止
 お ん な ジェラド
 カ ッ パ エス・デイズ
 おんなのカッパ ユースト
 不満のカッパ
 東郷みつ夫人像 ハンス・ヨル
 グ・リンパツ
 河本幸子像
 若い女の子
 母と子
 世界の児童画展 1-19 国立
 近代美術館 [記] 朝日夕刊
 8月31、毎日4、読売夕刊4
 (植村鷹千代)

岡田又三郎個展 1-4 資生
 堂 [批] 時事6
 11回青葉会展 1-5 日本橋
 ・高島屋
 島田洗耳日本画展 1-8 銀
 座・松屋 [批] サン8 (金
 子義男)
 土井俊夫個展 1-10 タケミ
 ヤ
 週刊サンケイ表紙原画展 1-
 14 美松画廊
 朝鮮工藝特別展 1-30 日本
 民藝館
 光風会々員展G 1-15 光風
 会館
 現代日本民衆展 1-5 上野
 ・松坂屋 [記] 日経4
 飯田実雄個展 1-4 兜屋
 生々会展 1-5 大阪・高島
 屋
 春陽会展 2-12 小倉・井筒
 屋
 河内山賢祐個展 3-7 日本
 橋・丸善
 佐藤大寛日本画展 3-8 銀
 座・松坂屋
 朱葉会秋季展 3-8 銀座・
 松屋
 稲垣稔次郎個展 3-7 京都
 府ギヤラリ
 九月会洋画展 4-8 日本橋
 ・白木屋

藤沢典明、勝田寛一、東俊二三
 人展 4-9 文房堂
 [批] みづる11月(植村鷹千
 代)
 中国古玉特別陳列 4-10月10
 東京国立博物館
 趙之謙没後七十年記念特別陳列
 4-30 東京国立博物館
 堆朱特別陳列 4-10月10 東
 京国立博物館
 ルオ「ミゼレ」と泰西版画
 展 5-19 酒田・本間美術
 館
 周襄吉個展 6-9 資生堂
 秋山夏太郎個展 6-11 中央
 公論社画廊
 2回高岡文化財展 6-12 高
 岡美術館
 菊地敏雄個展 7-11 サエグ
 サ
 菁々会展 7-12 上野・松坂
 屋
 藤山コレクシヨン特別陳列 7
 10月3 プリヂストン
 島田修作品展 7-12 大阪・
 阪急
 小島道ガラス絵展 7-12 大
 阪・阪急
 都市美彫塑展 7-13 福岡・
 玉屋

きぬた会染色作品展 8-12
 日本橋・高島屋
 加藤正エッチング展 8-11
 養清堂
 永原織治日本画展 8-11 日
 本橋・丸善
 姫野光泉色紙展 8-10 日比
 谷画廊
 円山応挙展 10-22 酒田・本
 間美術館
 篠田桃紅書作品展 10-15 銀
 座・松坂屋
 2回国際印刷美術展 10-15
 銀座・松屋
 菅野矢一個展 10-14 資生堂
 インドとベルシャのミニアチュ
 ール展 10-10月15 鎌倉・
 近代美術館
 喜多村栄太郎、河合斗潮染織展
 10-15 銀座・松屋
 松吉正也個展 10-14 京都・
 朝日画廊
 三輪晃勢スケッチ展 10-14
 京都府ギヤラリ
 草間章素描展 10-25 神戸長
 田・美鈴
 第一美術小品展 11-16 文房
 堂
 2回三季会展 11-15 日本橋
 ・白木屋 [批] アトリエ12
 月(江川和彦)

前川直ガラス画展 11—15 村松ギヤラー
窪田知矩個展 11—30 新宿・ヴェルテル
高井寛二個展 11—20 タケミヤ
現代版画五人展 13—18 中央公論社画廊
金子真珠郎個展 13—18 養清堂〔批〕 美術批評11月(瀬木慎一) みづゑ11月(瀬木慎一)、アトリエ12月(江川和彦)
山喜多二郎水墨画展 14—19 日本橋・三越〔批〕 朝日18
(河北倫明)
12回高沢七郎漆絵展 14—19 日本橋・三越
斑目秀雄個展 14—18 サエグサ
3回ING日本画展 14—18 日本橋・丸善
古玩清選会展 14—19 上野・松坂屋
一九五四年建築サロン 14—19 日本橋・三越
河合父子陶藝展 14—19 神戸・大丸
吉田一夫作品展 14—19 大阪・阪急
国際美術協洋画展 14—19 京都・大丸

山田皓齋個展 14—23 大阪・三越
大口登個展 15—18 資生堂〔批〕 時事20、みづゑ11月(瀬木慎一)、アトリエ12月(江川和彦)
2回生々会展 15—19 日本橋・高島屋
Y M C A 油絵展 15—19 神田・Y M C A
島本昭三個展 15—30 甲子園駅前・ミロ
創造美術展 15—23 大阪市立美術館
白鶴秋季展、唐銀器並に宋磁 15—11月3 白鶴美術館
現代ヨーロッパ版画展 16—30 美松画廊
桜林会油絵展 16—20 京都市美術館
溝上裕子個展 17—19 光風会館
佐藤洋画展 17—22 銀座・松坂屋〔批〕 産経夕刊20
〔記〕 時事20
2回彩潮会洋画展 17—22 銀座・松屋
広重名作展 18—29 日本橋・白木屋

本宮龍太郎洋画展 18—23 文房堂〔批〕 アトリエ12月(江川和彦)
前田政雄版画展 18—23 神戸・三越
長谷川潔創作銅版画展 18—25 大阪・フジカワ画廊
千姫に因む資料展、時代蔭絵名品展 19—10月2 名古屋・徳川美術館
1回墨潮展 20—25 中央公論社画廊
松木満史個展 20—22 資生堂
島田直平洋画個展 20—25 サエグサ
石井茂雄、島村深二八展 20—25 養清堂
幸松春浦新作日本画展 21—26 大阪・高島屋
18回新制作協会展 21—10月7 東京都美術館
〔受賞〕
新作家賞
日本画—加山又造、石本正、上原卓、上野泰郎、近藤弘明、平川敏夫
油絵—高津鉄明、山東洋、丸山東美男、小林義範、小関利雄
彫刻—吾妻兼治郎、嘉野稔、牛島脩

建築—新庄晃
新建築賞
峰岸やすお
共同製作—吉田桂二、小宮山雅夫、中原陽子
新会員推荐
油絵—田中鶴子、風間完、彫刻—菅原安男
〔批〕
朝日26(植村鷹千代)
日経27(福島繁太郎)
東京27(富永惣一)
産経28(柳亮)
毎日28(徳大寺公英)
読売29(滝口修造)
朝日29(河北倫明)
東京タイムズ30(嘉門安雄)
東京日々10月1
朝日10月3(吉阪隆正)
時事10月4
美術手帖11月(徳大寺公英)
アトリエ11月
みづゑ11月(瀬木慎一)
出品目録
。印会員
(日本画)
橋 大河内正夫
街 秋白藤朱根
草 堤の生
枯 五つの魚

悲しき鹿 加山又造
迷える鹿 福田豊四郎
月夜 福田豊四郎
くじやく(1) 吉岡堅二
裸婦 秋野不矩
山 高橋周桑
川のある風景 野々山省吾
聚落 善鳩人
休工場 石本正
髪子 吉原麻美
母 子 吉原麻美
た漁夫達 建設する労働者 野田武
埋 葬 野田武
鳥と魚(剥製) 中西一路
風 景 佐藤勝彦
並 木 牧野成二
N村風景 川辺隆啓
長崎の風景 隈部琴子
球のり 田島佐理
牛のいる風景 名坂千吉郎
作品(複協奏曲) 岸本聖四郎
新緑展 望 岸本聖四郎
カ ン ナ 西井正気
風 景 西井正気
月と鳥 高浜 祺

月	村	赤	遊	二	冬	夕	変	夕	落	ガ	人	河	午	松	鹿	死	ア	枯	母	群	池	倉	夜	山	日	網	舟	牛	
の	い	壁	魚	人	丘	暮	電	暮	書	ラ	と	岸	後	林	車	パ	レ	れた	子	像	の	庫	の	の	の	の	の	の	
夜	神	生	沢	広	矢	公	所	公	の	器	運	河	上	能	ト	ト	向日	橋	(A)	(A)	裏	A	B	工	工	梁	金		
中	谷	駒	宏	田	谷	園	E	園	家	の	河	村	村	理	上	上	葵	本	棚	野	辻	星	野	藤	藤	取	子		
山	喜	沢	鞆	多	長	福	戸	田	大	大	池	園	園	能	村	上	上	橋	橋	野	野	野	甲	甲	取	年			
昌	代	子	一	津	治	田	川	鑑	庭	庭	田	干	干	理	園	村	村	文	文	子	子	子	人	人	取	年			
子	一	子	子	子	子	治	良	治	楓	雄	男	男	男	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子		
丘	壁	潮	牛	冬	残	黄	大	風	さ	午	麦	池	工	晚	月	滞	構	待	十	五	夜	月	沼	風	静	風	池		
の	画	浜	と	残	雪	昏	崎	景	ぼ	後	(A)	(B)	場	庭	庭	庭	内	人	人	人	の	の	の	の	の	の	の		
道	屏	ゆ	人	雪	毛	向	照	景	て	後	(A)	(B)	庭	庭	庭	西	々	々	々	の	の	の	の	の	の	の	の		
岡	風	ら	城	毛	利	井	麻	黒	ん	々	上	上	庭	庭	庭	垣	々	々	々	の	の	の	の	の	の	の	の		
田	岩	西	貞	武	井	田	田	沢	横	々	原	原	庭	庭	庭	風	々	々	々	の	の	の	の	の	の	の	の		
博	崎	村	男	彦	久	鷹	司	蔵	山	々	卓	卓	庭	庭	庭	江	々	々	々	の	の	の	の	の	の	の	の		
湖	山	暗	足	農	船	船	晚	樹	沼	森	鶯	紫	鶯	夜	夕	夜	夜	秋	海	日	月	杉	奔	群	背	城	漁	岬	青
心	谷	尾	A	民	見	見	夏	間	小	井	彩	彩	彩	明	日	市	信	竹	其	向	汀	林	流	れ	負	村	村	村	海
藤	堀	太	B	菊	る	る	高	小	野	崎	々	々	々	高	高	成	太	山	阿	路	内	山	山	朝	山	山	山	宮	
田	文	田	菊	地	橋	橋	橋	栗	野	昭	々	々	々	橋	橋	成	太	山	弥	々	藤	本	本	倉	好	好	好	本	
玖	子	正	養	之	綾	綾	綾	潮	具	治	々	々	々	信	信	金	山	赫	々	一	秀	丘	丘	倉	生	生	生	和	
万	弘	弘	助	助	子	子	子	潮	定	治	々	々	々	治	治	昌	博	士	々	穂	夫	人	人	人	人	人	人	子	
た	さ	さ	レ	分	想	燐	不	あ	夜	造	太	夜	夜	夜	夜	河	冬	太	太	工	夕	争	湾	風	青	床	花		
い	え	え	ス	裂	旅	接	安	る	(1)	船	陽	(1)	(2)	(2)	(2)	原	原	陽	陽	事	の	ら	ら	景	島	や	火		
わ	寺	寺	コ	時	人	接	な	動	(2)	所	の	(1)	(2)	(2)	(2)	野	野	と	と	場	歌	鶏	鶏	景	風	に	火		
々	戸	戸	コ	間	幻	接	な	き	(1)	街	街	(1)	(2)	(2)	崎	崎	森	森	街	歌	仲	太	太	川	川	川	川		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	2	(1)	真	真	(1)	(2)	(2)	貢	貢	野	野	街	上	村	島	島	上	上	上	上		
々	晴	晴	コ	間	幻	接	な	吉	(1)	辺	辺	(1)	(2)	(2)	真	真	崎	崎	高	田	村	島	島	上	上	上	上		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	田	(1)	啓	啓	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	畑	上	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	友	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	郁	田	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢	貢	子	也	進	喜	喜	三	三	三	三		
々	恒	恒	コ	空	幻	接	な	三	(1)	介	介	(1)	(2)	(2)	真	真	貢												

赤い煙突のある風景
顔のある街
小學校
洪水
磯の石
海の碑
手を挙げる人
よぶ人
岩の話
レントゲン
鶏と子供
考える男
トルソーデッサン
寂しい誘惑
月を呼ぶ鳥
室内
石の墓
海辺の墓地
いななく馬
月と虫と魚
花と火
陸橋風景
人
冬
静
風もない日
暮れ様としてまだ暮れない

裸婦
景
牛窪正
紺野五郎
網谷義郎
小谷英雄
中島節子
神崎正樹
後藤喜美夫
大崎泰
魚
此の魚は食えない!!
喰い違つた夜景
女
木の実を探る子
椅子のあるコンポジション
レウエリイ・鈴木誠
小
室内
可愛いはるみ
晴
作
地
希望
魚
と
裸婦
尾絢子

窓
浮上
波の街
生産の限界
花月の夜
半月の窓
夏の窓
傾斜地のフットボール
ゆく人かえる人
訴え
植
沼
夜の頭
夜の頭
店
夜
宇品港
アポロンとダフネ
神々はこの世に死に捧ぐ(母の)
風化した街
竹
作
構築された港の風景
憂
赤い愁
ケープタウン初冬
雨
埋立地

赤い鉄管
浮んでる尾崎幸雄
ガラス工たち若松光一郎
「人間」地上の歌吉田親
島に来た人松崎守
白い街の風景米島昭
作品(灰)木庭喜久男
魚
月のコンポジション
裸のコンポジション
工事中
作品 T-6
文(アヤ)白髪一雄
木立
荷揚場(一人)山崎佐一郎
傘
傘
傘
空想の時間城口幸男
窓ごし部屋井上勝衛
造
籠のある静物安保淑子
裸婦加藤毅
埋
立つ一人と横二
人
ENGINE
作
寝纏する欲望村上一彦
貨車
青い空
五百住乙

也相(然るとき)松山幾三郎
花と女鈴木大典
作品 Y L 土居邦
鳥が飛ぶ平岩郁夫
林
シヤコンヌ毛利照
卵を盗む少年石川勇
線路のある風景相原久太郎
煙突のある風景大江孝
空ヒンと裸婦藤井武
作品(朝)神田美恵子
人
花
港の朝
家
労働者(C)杉浦行町
静
廻る子供青木外司
フエニックスの三島茂司
石と仏三枝守正
墓石の中へ宮野テルエ
死
つりさがる鶏渡辺浩
かじや池田錦太郎
工
真夏の野草山田清
寂
誘惑
夜明
対話
成田真澄

美術展覧会(9月)

作品 卓品 中島利子
 虫 上 島中孝昌
 結 髪 室田豊四郎
 二 人 堀木勝富
 低地 A 小野忠重
 波止場の辺り B 小野忠重
 低地 C 小野忠重
 作品 (1) 荻野喜弘
 工事場の風 新 晴明
 景 (彫刻)
 三人 山内壯夫
 手 村田勝四郎
 エチュード 西 常雄
 モク拾い 西 常雄
 養老院の老人 五十嵐芳三
 立 像 五十嵐芳三
 母 像 高井四郎
 まんとひび 白崎金次郎
 しやも試作 後藤光行
 玉の 阿部米蔵
 首 A ち村田勝四郎
 み B 小丸幾久
 若 い 武次郎
 少 女 久保孝雄
 裸 女 早川巍一郎
 村松梢風氏 像 吉田芳夫
 裸 婦 明田川孝
 フクロ 山本常一

おん な伊東 傀
 指宿の青年 田畑一
 画描きの首 豊福知徳
 人 山本恪二
 東北農村青年 舟越保武
 少 女 滝山茂男
 女 立 像 井岡俊子
 男 の 首 井岡俊子
 立 像 井岡俊子
 坐 像 井岡俊子
 石工のトルソ 永田大石
 首 山泉寿夫
 トルソ 大岡英代
 母 吾妻兼治郎
 トルソ A 吾妻兼治郎
 はきわの女 高橋清
 坐 像 吉岡達也
 裸 婦 池田長巳
 老人の首 中沢進
 座 像 中沢進
 抜 根 大國文夫
 女 立 像 石場清四郎
 女 坐 像 本田明二
 鳩 本田明二
 トルソ 内田曙
 斗 大谷文男
 牛 頭 内田英也
 お 顔 浜岡登美子
 トルソ 二口金一
 娘 の 菅原安男
 首 年 菅原安男

女の首 野本和雄
 若い 千葉輝彦
 トルソ 加藤昭男
 TORSE 大矢由造
 婦 像 嘉野稔
 坐 像 嘉野稔
 青 年 田村興造
 作品 E 田村興造
 道 子 高野自治
 裸 婦 佐野一義
 首 吉田大象
 裸 婦 伊藤審
 首 牧野英
 少 女 垣内治雄
 少女の首 垣内治雄
 少 女 吉岡芳代
 立 像 小品 吉岡芳代
 運 動 岩田健
 老いたる農婦 桜田海助
 ARTIST 菅原安男
 画家 菅原安男
 平和とパンとバ
 ラと子供たちの
 笑いのために
 ーローゼンバークの
 夫妻に捧ぐー
 トルソ 明珍昭二
 豚 さ 初馬正治
 F さ 小野田晴亨
 習 作 小野田晴亨
 胸 像 岡本庄三
 ボ 像 岡本庄三
 首 M 星野祐二

若い 男 芥川 永
 波 い 女 田畑一
 若 い 女 佐藤忠良
 女 立 像 手島 脩
 横たわる 菊池一雄
 (建築)
 床几(たたみ) 佐々文夫
 特殊食堂セット 小林保治
 コシカケ 岩崎信治
 リビングセット 新庄 晃
 フアニイチュート 新庄 晃
 組立棚
 肘無椅子 松村勝男
 組卓子 松村勝男
 書斎の家具 小 松村勝男
 椅子 本棚 松村勝男
 休息椅子 松村勝男
 寝室・23坪のす
 まい三題 模型と
 図面 峰岸やすお
 シ 吉田桂二
 シ 小宮山雅夫
 シ 中原より子
 ティー・ルーム 山口勇次郎
 のためのセット
 ティー・テーブル 山口勇次郎
 シ スツール 山口勇次郎
 ティー・テーブル 渡辺 優
 ソファ・ベット 森田良夫
 茶 卓 森田良夫
 FURFUTURE 橋本芳幸
 Chair 橋本芳幸
 椅子 島崎 崇
 教会 森 崇

居間と食堂の家 山口文象
 具 食卓1. 小椅子2. 茶卓1.
 肘掛椅子2.
 神奈川大学(模
 型と図)
 澤耳先生の碑
 (模型と図)
 居間の家具。猪熊弦一郎
 椅子3. テーブル1.
 机のある居間家。剣持 勇
 具 1. 小椅子1. 組合せ棚
 1式。箱2. 台1. 籐の椅子2.
 クッション大1. 小1. 茶卓子1.
 ユニットキッチ。池 辺 陽
 ソ(実物)
 住居 No. 20
 (写真)
 Dビルディング
 (日本橋) 図と。岡田哲郎
 模型と写真
 教会(西大久
 保) 図と模型と
 写真
 東京工業大学記
 念講堂 図と模。谷口吉郎
 型と写真
 国立科学博物館
 理工学館 図と
 模型と写真
 16回一水会展 21-10月7 東
 京都美術館
 [受賞]
 一水会優賞-菅野矢一、松田
 忠一、高森捷三、富田通雄
 小竹義夫
 一水会賞-青野馬左奈、木下

米子、北村巖

I賞一原川雪、児島三吉

新会員一岡田高平、伊藤正、

泉治彦、藤島奨、新井邦雄、

坂元一男、荻原孝一、与志

見登野、伊藤立己

[批]

朝日26(植村鷹千代)

日経27(福島繁太郎)

東京27(富永惣一)

産経28(柳亮)

読売29(滝口修造)

東京タイムズ30(嘉門安雄)

毎日10月1(柳亮)

東京日々10月1

時事10月4

美術手帖11月(岡本謙次郎)

アトリエ11月

みづる11月(瀬木慎二)

出品目録

。印委員

。印会員

庭の見える部屋 松田澄子

卓上の桃 松田澄子

あぢさいと猫。福田新生

田植え前 福田新生

鶴匠の顔 竹本勘一

花と自画像 竹本勘一

静物 菅野矢一

ある画家 菅野矢一

赤いコート 尾崎正章

H 嬢 尾崎正章

白い椅子と枯れ

北の山。奥田郁太郎

淳子嬢(B)。高野三三男

アイリスと白。高橋庸男

葱坊主。高橋庸男

あじさい。山川勇一郎

雪の村はずれ。山川勇一郎

ラムプ置場。与志見登野

白卓黒卓。与志見登野

鳥籠の静物。夏羽鳥美子

初。夏羽鳥美子

春近き野沢。高田誠

野沢浅春。高田誠

枯木のある雪景。内野間佳子

室。内野間佳子

三。近岡善次郎

母子。吉崎道治

暮。吉崎道治

ひと。北村巖

画。北村巖

白いマフラー。久富邦夫

二人の子供。伊藤正

春近きサイロ。伊藤正

群。牛小泉元吉

夏の海岸。牛小泉元吉

夏衣少女。小竹義夫

窓。小竹義夫

鶏のある卓。中谷龍一

黒衣の夫人像。中谷龍一

ゴムの木のある。中谷龍一

室内。中谷龍一

室内(A)。成田みさ子

休。成田みさ子

室。笠置イツ子

て。笠置イツ子

長い。近藤吾朗

仕。近藤吾朗

北の海。菊地季一

野尻湖初春。菊地季一

早。早川忠義

早川の片山津。早川忠義

有楽町暮色。鶴雄

台。鶴雄

山手風景。元川嘉津美

室津風景。元川嘉津美

早春の郊外。矢野雄蔵

いちろうわかば。高森捷三

船のおかあさん。高森捷三

青。高森捷三

タンクとけむり。渡辺祐一郎

風景。渡辺祐一郎

酒。西沢富義

三。西沢富義

駒ヶ岳快晴。池谷寅一

海峽冬晴。池谷寅一

阿修羅。松田忠一

伎藝。松田忠一

けしと蝶。広瀬功

九谷上絵五位鶯。裕三彩亭

けしと蝶。広瀬功

卓上静物。兒島三吉

花と三。鏡森下

花。鏡森下

静物。藤島奨

街。藤島奨

小樽風景。金丸直衛

街。金丸直衛

立。丸野豊司

座。丸野豊司

糸。源川雪

明。源川雪

立。中村善策

晚。中村善策

七。深沢紅子

夏。深沢紅子

雲。納富進

山。納富進

壊れたる天主堂。林登美

山。林登美

鬼。中村琢二

舞。中村琢二

庄。中村琢二

犬。中村琢二

佃の渡船場。田坂乾

佃。田坂乾

釉裏紅瑠璃桃絵。裕三彩亭

皿。裕三彩亭

皿。裕三彩亭

皿。裕三彩亭

吳須恰白菊皿。裕三彩亭

皿。裕三彩亭

九谷上絵雛罌粟

皿。裕三彩亭

吳須あやめ皿

九谷上絵双鶴松

竹梅皿

九谷上絵粟皿

(黒つぶし)

鉢。九谷上絵鳥之角

鉢。九谷上絵鳥之角

釉裏紅瑠璃絵付

恰釉花見皿

九谷絵猿猴角鉢

吳須色絵樹上童

皿。木下義謙

吸坂手朝顔絵皿

瑠璃釉浮文銀杏

皿。裕三彩亭

吳須染付数字文

九谷上絵童女遊

戯図八角皿

九谷上絵山吹皿

吸坂手山紫陽花

絵皿

九谷上絵山紫陽

花絵皿

瑠璃釉銀杏絵皿

九谷上絵山水大

皿。裕三彩亭

銀杏吳須染付皿

美術展覧会(9月)

一三三

老 人。池部一郎

少 女。池部 一郎
 母 子。池部 鈞
 祭 礼。池部 鈞
 万才泰平
 芽立つ白樺△大月源二
 五 月
 初 秋
 奈良公園の藤。山下新太郎
 童 女
 奈良公園高円山
 しげあと。有島生馬
 佐久のつげのま
 箱根湖尻
 春 和
 昭和新山。小山敬三
 浅間山残雪
 上条博士像。石井柏亭
 赤き橋の見える。安井曾太郎
 風景
 静 物。仲田好江
 黒い椅子
 おもちやの馬
 三原山外輪山。小野 末
 埴 輪
 山 婦。中川 力
 裸 房の海
 南 房の海
 雷雲八ッ岳△矢崎重信
 天使祝詞△木下寿々子
 城ヶ島雨。鈴木良三
 み な と
 熱海暮色
 厨 辺の花林 貞子

花咲く果樹園に 一木 万寿三
 て 袋 掛 け
 瓦斯橋の辺り 須山計一
 南信駒場の宿
 晩秋の静物。田崎広助
 夏の阿蘇山
 鮎の静物
 庭 前。安宅扇雄
 K 嬢
 ば 嬢
 最上川風雪△真下慶治
 雪 流 る
 牛島節子
 丘 パケツの中のカ
 ナ
 裸 婦 中川藤次郎
 巴里風景
 河辺の部落。木下義謙
 冬の長野市街
 川岸村風景△高橋貞一郎
 山村風景
 春の浅間△幸 雍二
 池 畔 新 緑
 真 昼△荒井一郎
 風 景
 浴 後 田中春弥
 母 と 子
 牛 舎△中畑艸人
 搾乳機のある牛
 丘 △大津鎮雄
 窓の湖畔△野村光司

東大構内△野村光司
 宏ちやん 水田 莊介
 ヒユツテの午後
 集 ひ 菱田義宣
 芭蕉 長谷場三夫
 自 画 像 石田正敏
 白いコスチューム 野田博太郎
 裸 婦
 静 物 飯田 実
 突堤のある風景 奥田憲三
 老人 飯島敏三
 婦 人 像
 腰掛けた女
 家 桜井恵美子
 無 花 果 勝見謙信
 蔬 菜 泉 治 作
 西瓜とパン
 枯木と焼岳 加藤水城
 女 学 生 山折行雄
 早 春 飛矢崎真守
 網のある風景 榊井一夫
 蕎麦の花咲く丘 古市幸利
 ひ ざ し 菅野昌実
 室 内 三柄英二
 う た た ね 内 三柄英二
 花 と 女 取 明 徳
 青い支那服△日塔笑子
 裸 婦
 踊り子(トージ
 ニーズ) 菅沼金六
 ネット(カスター
 舟 故高橋五郎

風 景 故高橋五郎
 池 畔 書 木下孝則
 読 書 木下孝則
 黄衣婦人
 花をもつ女 岡崎陽子
 花のある静物
 道 木下米子
 河 子 達(A) 宮脇成行
 踊り子達(B)
 八 月 湖 松村三冬
 秋 の 池
 夏 の 静 物
 朝の静物
 イボ太郎
 か ま ど 永井 潔
 ポニーテール 関口和子
 夕 暮 遠 望
 棧 橋 神田きみ
 川崎の町 河野 輝
 ヨットハーバー 白井 実
 千 し 物 塩見栄一
 鶏小屋と干し物
 T 嬢 像 泉 治 彦
 ア ト リ エ
 裸 婦 安藤軍治
 ゆ か た 榊木祥吉郎
 冬の教室△榊木祥吉郎
 少 女
 磯 春 山
 早 春 山
 プラットホーム 松野輝彦
 店 人

都会風景△金子博信
 丘の上の教会堂
 小 道 林 記久子
 女 と 猫△大館健三
 秋色桜島花田正実
 信濃の七夕祭△小平 鼎
 冬の常念
 高畑の雨△小野藤一郎
 藤 の 頃
 川 奈△三浦俊輔
 伊 東
 斜 陽△千ヶ崎悌六
 工 場 小川英夫
 朝の剣 岳等々力巴吉
 静 物 川村親光
 浴 衣 坂本正春
 裸 婦
 水 郷△狩野寿一
 晩 秋△松田晃八
 熱 海 竹内梶夫
 磐 梯 山△片山芳樹
 熱 海 春
 秋 の 九 重△三角嘉寿男
 曇 日
 真夏の高磯△高見耿太郎
 倉のある風景 千葉 明
 日 暮 れ△末 松 勇
 母 と 子
 静 物 平山知子
 静 物 越智宗茂
 月夜の梅林△常岡卯三郎
 梅 林

天龍寺名園△酒見恒平
 月明の廻廊△
 崖上の家巻島友治
 雪解の頃△
 上野公園夕景△岡田行一
 テニス△
 二月の山△朝倉力男
 山村風景△井戸三郎
 山芦屋伊藤立己
 六室一隅△野崎利喜男
 画室△高橋功八
 参宮橋風景△藤功茂
 山△佐藤功茂
 吊橋のある風景△井精一
 安良里風景△
 静物青木節子
 外房風景△中西倪太郎
 農家の軒先△内俊夫
 田園風景△
 裸婦△寅雄
 青△衣鍋谷伝一郎
 門のある風景△松田文雄
 長浜風景△神谷正信
 レリスの女△鈴木貫司
 少さむら年深江義男
 くさむら能勢真美
 ビルの屋根望月敏行
 I嬢立像△岡戸伊三郎
 静物△松本恵子
 大岡山△小栗精
 花△世良臣絵
 扇△渡辺正一
 洋館の見える風△直曲昭安

E嬢像△甲斐仁代
 静物△滝川太郎
 佃島△黒田外喜男
 風の会窓△
 白の窓△稲川一郎
 海の道△河上一也
 石の道△栗本一郎
 春濃の夏井上武美
 信濃の裏鈴木繁男
 工場△田代修一
 バレリーナ△高田二郎
 赤い鉄欄の見える風景△
 午後の漁村△吉永功
 町かどの家兼松貞
 坂の萩原勇雄
 調理場△浜口勇一
 魚△杉山元輝
 レイヨン工場△頼木玄
 新開地△長谷川一陽
 自画像△阿部七郎
 原釜風景△泉精一
 博物館工藝室△岡田高平
 モデルのために座せる妻△
 ギニョール△山岸正己
 人△山岸正己
 四坂島風景△野本克己
 榛名高原△外山博之
 日曜日の坂道△松本久男
 横顔△松本茂
 二人△山岸嘉雄
 秋の妙高村△松幹夫

船付場△田代実
 北陸の海岸△西教白洋
 早春の山村△齋藤政一
 川原のねぎぼうず△
 たそがれ△池本護
 製紙工場の暮色△藤井和亮
 構内風景△加藤清江
 パレットと少女△市毛淳二郎
 部屋の一隅△柴野雅三
 倉通△小西京二
 裏通△柴野雅三
 秋突の村△小西京二
 初煙突の村△小西京二
 愚陶窯△
 田植△萩原孝一
 風景△鈴木正之介
 池の秋△鈴木伸夫
 静物(果物と枯花と壺)△卯木郁子
 雪屋△根見憲二
 紀州の海△渡辺良雄
 門の赤城山△小柳耕司
 春の赤城山△鈴木真一郎
 鳥かご△鈴木真一郎
 浴衣△佐藤二郎
 梅△佐藤二郎
 洗濯物のある風景△河野浩
 景△宮田三郎
 浅草の女達△五味梯四郎
 河岸冬風△北条光彦
 工場△小田原早見

雨の街△鈴木陸美
 湖畔△吉田新司
 黄衣△古屋則彦
 河岸の庭△服部保
 鶴匠の庭△
 やがて悲しき鶴身かな△
 S氏像△坂元一男
 讀書する人△高石清行
 裸婦(B嬢)△高立年夫
 裸婦△花立年夫
 裸婦△中村禎伸
 裸婦△高橋麗子
 船のある風景△林高橋麗子
 O堂△広松伊知郎
 聖堂△
 干瓜のある静物△山川忠義
 鳥瓜△
 工事場△宇野一
 修理△
 箕面△吉田虎天
 諏訪風景△徳植久子
 牛乳屋△永江雅雄
 H嬢△北川重春
 絵を描く人△平沢恒
 菜園の春△渡辺千江
 雪の庭△加藤五郎
 枯木の頃△尾井和男
 真昼の屋根△有富茂
 山△中山力治
 「朝日新聞社」△谷口登志子
 扉△益子昭雄
 夏△平本省吾
 夕暮時△笹川国重

卓上の花△戸田忠吾
 雪の里△勝谷明男
 能登の海△井田重男
 鶴見風景△松田幸三
 冬△日山哲雄
 椅子と南瓜△望月敏行
 肥後橋とビル△尾尾虎朗
 瓦焼△石橋操
 静物△平泉龍
 貸ボート場風景△増井清
 静物△河村久子
 赤目風景△水野貞次
 静物△西山性一
 川△土岐浩蔵
 夏△小田幸枝
 どんすい△高野数雄
 婦人△高野数雄
 アトリエの一隅△杉三郎
 石膏のある静物△三橋文雄
 風△今西寿子
 樹の朝△浅井武
 冬の朝△平川要
 黒衣の女△渡辺賢二
 二人△山口草城
 建物△毛利彰
 風△吹田有徳
 裸婦△中曾根信雄
 公△村田喜代繁
 教△浮田克躬
 残雪の武蔵野△田中泰助
 秋△渡利勝
 婦人△土井昌子

夏の工場	浅見嘉正	幸子さんの像	平野敏子	雨	後田村雅保	真	霜どけの公園	多田義夫	
捺染工場	大八木弥蔵	池畔の夕東本貞治	繁	くんせい	兼松覚	湖と二つの道	早出守雄	残雪	山本彦三
機械のある風景	須藤茂	法院の端	小林兵一	カレンダの泉	松雄	靴の短調	上田哲農	冬	立高橋政文
川岸の家	松村秀夫	新室にて	秋根岸敬	桃とアンズの実	斎藤誠	白毫寺の道	森下喜文	武蔵	野高橋重吉
静物	熊坂太郎	雪の高原	小松秀雄	街景展望	西沢今朝夷	堀室と女	伊東正明	風	石井利重
両神山遠望	青木聖太郎	初秋	野北晏照	街景展望	西沢今朝夷	堀室と女	伊東正明	父の像	若林利重
室蘭の工場	田中祥三	二	小宮道信	街景展望	西沢今朝夷	堀室と女	伊東正明	裸	許長貴
裸婦	増田英一	プ	小林守材	少年	高井白	裸婦	栗林忠男	高原池	鳥羽宗雄
わら小	富永哲一	夏	黒田青希	オルガンを弾く	新井邦雄	本を見る青年	新井邦雄	播州しそ風	景
少	松本正夫	よ	徳田良仁	大阪北浜の夜	石田一二	夏休	み萩原大	野	花宮部進
山	麓	ふ	阿部三雄	想	高見学	亀甲	橋外浦幸太郎	和	島田坂ゆたか
白塔の丘	竹部武一	木	村山信一	猿沢池	阪本勝則	勤らく	女吉田芳郎	書	賀
空知野展望	山川義夫	ま	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
満湖の川	望月清作	ト	陽	残雪風景	西川信一	夏	兄高見寛	浦	賀
天草の海	北野熊雄	レ	陽	初	夏前田正夫	夏	の妹高見寛	窓	際山中仁太郎
薫ちやん	近藤啓二	残	陽	猿沢池	阪本勝則	勤らく	女吉田芳郎	窓	際山中仁太郎
海	金井美寧	静	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
閑	豊田仁	静	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
景	森島澄子	石	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
桐の木のある風	前田実子	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
緑	上村大作	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
裏町の午後	村上耕一	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
野	西出外信	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
大森風景	西出外信	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
夏	小松崎邦雄	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
群	小松崎邦雄	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
内	大須賀益男	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
阿蘇山脈	高木良信	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎
樹	水尾龍夫	唐	陽	ガラス器など	十河安則	仁王	門相川昭二	窓	際山中仁太郎

会津の冬 石山富彦
 卓上静物 福田瑞男
 室内静物 川上和美
 永福町 田島要次郎
 昼 大沢徳久
 菊 子堀内正夫
 冬の駅頭 志田繁治
 マンドリンのあ 石田亮一
 湖 畔 越後島進
 台 所 西元保
 みちのくの春 大場茂義
 れすとらん 寺本孝男
 風 景 鈴木益躬
 ダリヤ 梅田孺子
 午後の教会 本間勝太郎
 港の眺め 今村春吉
 犀川春色 樋口哲
 桃と花 永浜弥一郎
 蓼科高原 飯尾啓
 裸婦 神戸繁夫
 ドン・キホーテ 戸田国人
 静物 酒井銀河
 真夏の廃車 千葉福太郎
 人 物 榊島利貞
 夏の午後 棚田貞治
 滞舟 山田佳房
 名切風景 山田鹿次
 二月堂裏廻廊 岡本務
 夏衣の男 足立良雄
 アバート風景 戎義明
 石垣のある風景 岩崎年勝

垂乳 女小鹿道子
 風 景 篠原昭登
 少 年 増尾邦治
 裸婦 小松澤次
 シグナル風景 村田清
 赤い傘 毛利敏郎
 教 室 岡田正志
 夏の大船 山広瀬晴四郎
 裸婦 山中新一
 樹 陰 榎本白華
 風 景 山田弘道
 沼のほとり 内田修
 雑賀崎風景 伴野敏夫
 聖堂のある街 西野菊雄
 坂工場風景 高木岸郎
 鉄工場風景 市川清太
 赤い南瓜 江刺家珪子
 泉屋風景 串田良方
 馬込風景 渡辺徳義
 早稲田大学風景 岩崎愛治
 りより 明岡隆夫
 タイツの女 鈴木進
 漁村 森本近司
 鮎山 坂井英八郎
 ガスタンクのあ 小田原寅雄
 る風景 町 坂井英八郎
 室 内 畑勇隆
 魚 池田季蔵
 海 磯田耕司
 春色 柿谷秀治
 室 内 吉本義夫

落合の残照 井上三郎
 裸婦習作 杉村彰一郎
 静物 小川節子
 階段のある建物 越智節昇
 夏の木曾駒 塩原文二
 臼杵仏頭散華 深山鎮男
 風 景 佐藤宏
 稽古場 大野芳郎
 菅尾の石仏 白壁康
 蓮 森山保
 漁村の家 中西正己
 婦人像 鳴沢徳夫
 農家の娘 川端哲雄
 部屋の隅 山岸正也
 函館風景 元資
 若葉の山 松山善一
 土間の憩い 淀川盛利
 鈴木栄二郎スケッチ遺作展 21
 —30 光風会館
 14回まはに工藝展 21—26 日
 本橋・三越 (記)日経25
 3回創作工藝展 21—29 和光
 (批)美術批評11月(浜村順)
 川島理一郎個展 21—26 日本
 橋・高島屋 (批)日経23(福
 島繁太郎)、東京24(岡本謙次
 郎)、産経夕刊24(横川毅一
 郎)、時事27(三輪郷、みづゑ
 12月(岡本謙次郎)
 榑貞雄日本画展 21—26 上野

・松坂屋
 清川泰次滞欧米作品展 21—30
 タケミヤ (批)みづゑ12月
 (瀬木慎一)、アトリエ30年1
 月(江川和彦)
 女流油絵16人展 21—25 日本
 橋・丸善
 伊藤継郎デッサン、淡彩画展
 21—26 大阪・阪急
 二紀会小品展 21—26 大阪・
 阪急
 2回五合展 21—26 京都・大
 丸
 小川千穂個展 22—26 日本橋
 ・高島屋
 童画展 22—29 東京都美術館
 佐藤記念室
 山中春雄朝作品展 22—30
 三省堂 (批)美術批評12月
 (針生一郎)、アトリエ11月(田
 中忠雄)、みづゑ12月(瀬木慎
 一)

松屋
 杉村恒フオトグラム展 24—30
 松島ギョラリ
 石河光哉写生油絵個展 24—29
 銀座・東電サービズ・センター
 西山英雄、佐々木邦彦二人展
 24—28 京都府ギョラリ
 (批)日本美術工藝11月(橋本
 喜三)
 若竹会染色展 24—29 銀座・
 松坂屋
 新しい木工藝と瀬戸陶藝展 25
 —30 新宿・伊勢丹
 モダンアート研究会展 25—30
 文房堂
 26回青竜社展 26—10月3 名
 古屋・松坂屋
 春陽会展 26—10月5 鹿兒島
 市美術館
 城所昌夫個展 27—30 資生堂
 (批)美術批評11月(東野芳
 明)、みづゑ12月(瀬木慎一)、
 アトリエ30年1月(江川和彦)
 墨人会展 27—30 日本橋・丸
 善
 林武近作デッサン展 27—10月
 2 サエグサ (批)日経29
 (福島繁太郎)
 田中健三個展 27—10月2 中
 央公論社画廊 (批)美術批評
 12月(瀬木慎一)

志賀丈二個展 1-10 タケミヤ

仙厓禪師名跡展 1-7 新宿・伊勢丹

中村徳三郎油絵ミニアチュール、林二郎木工藝品二人展 1-5 日本橋・丸善

現代西洋版画展 1-14 酒田・本周美術館

榎本和子個展 1-3 京都・朝日画廊

日本文人画名作展 1-25 神戸市立美術館

生々會展 1-5 京都・高島屋〔批〕日本美術工藝11月〔橋本喜三〕

遷代陶磁展 1-24 奈良国立博物館

行動美術協会展 1-10 大阪市立美術館

有秋会日本画展 1-10 大阪市立美術館

ゴッホ複製展 1-10 大阪市立美術館

中国明器泥像展 1-11月14 大阪市立美術館

前田青邨古稀記念展 2-19 銀座・松屋

〔批〕朝日6(田中一松)

日経8(嘉門安雄)

時事11(三輪鄰)

美術展覧会(10月)

毎日12(谷川徹三)
東京13(今泉篤男)

〔記〕朝日2

5(河北倫明)

出品目録

大久米命 明治四〇年

囚われたる重衡 明治四一年

日 蓮 明治四四年

竹 取 大正一年

御 興 大正三年

湯 治 大正四年

朝鮮の巻 大正五年

京名所八題 大正六年

切支丹と仏徒 大正七年

維盛高野の巻 大正一二年

女史箴図模写 大正一三年

花 兎 大正一四年

伊太利所見 大正一五年

朝鮮五題 昭和一四年

応永の武者 昭和一五年

原の白隠 昭和一五年

飯の梅 昭和一五年

阿修羅 昭和一五年

関ヶ原家康 昭和一七年

豊太閤 昭和一七年

奎堂先生 昭和一七年

清 正 昭和一九年

祝 日 昭和一九年

猫に紅蜀葵 昭和二〇年

下り船 昭和二〇年

洞窟の頼朝 昭和二〇年

真鶴の沖 昭和二一年

黄瀬川の陣 昭和二一年

魚 紋 昭和二一年

三日月 昭和二二年

湯治場 昭和二七年

耳庵老翁 昭和二八年

同下 昭和二八年

伊勢遷宮 昭和二九年

紅梅白梅 昭和二九年

皇太神宮 昭和二九年

江島詣 昭和二九年

赤鳥 昭和二九年

萬年壺 昭和二九年

鴉吹 昭和二九年

山吹 昭和二九年

ほけ丹 昭和二九年

牡丹 昭和二九年

小雷 昭和二九年

風神 昭和二九年

祝ひ 昭和二九年

紅梅 昭和二九年

紅梅近作

芥子

茄子

風神電神(扇面)

櫛音

観音

双鳥

弦上

スケッチ各年代

青紀会展 2-10 美松画廊

近藤洋二個展 2-7 文房堂

墨人会展 2-6 京都・丸善

〔批〕日本美術工藝11月〔橋本喜三〕

京都女流京華展 2-3 京都市美術館

珠光会日本画茶掛展 4-5 養清堂

山崎貴英子個展 4-9 中央公論社画廊

青木繁作品特別陳列 5-31 プリヂェストン〔記〕日経13、時事14、東京15(河北倫明)、産経夕刊26(横川毅一郎)、毎日28(岡本謙次郎) 陳列目録

ラ ン プ 水彩 一八九

男半裸像 一九〇

風 景鉛筆 一九三

?

?

?

?

?

?

?

?

?

?

?

?

?

?

作品 A 文挾克明
 女 B 大野五郎
 エはづれの каф
 町はづれの kaf
 構 井上照子
 群像 富成忠夫
 熔鋼 麻生三郎
 風 景 三郎
 母 子 三郎
 自 画 像 稲田三郎
 否定の否定 鈴木福男
 雲・鳩 吉井忠
 コンボジョオン 沢野井信夫
 雪 景 松本正子
 闘牛の為の断片 中本達也
 二頭の牛 乙葉
 トランプの Q 乙葉
 憤 怒 中山一郎
 或る場処 荒木道之
 無用のしるし 昆野恒
 生長の形態 I 恒
 (彫刻) 2 (シ) 井戸 清水七太郎
 横たわる形態 (シ) 井戸 清水七太郎
 釜 場 手塚益雄
 漁 中村健一郎
 男 鶴岡政男
 雨 今井繁三郎
 喰 今井繁三郎
 鳥 今井繁三郎

本立 1 今井繁三郎
 2 今井繁三郎
 人々 灰谷正夫
 風景 矢島甲子夫
 作 品 小菅徳二
 群像 小菅徳二
 農 民 小菅徳二
 母 子 小菅徳二
 路 上 佐田勝雄
 工場地帯 A 佐田勝雄
 工場地帯 B 佐田勝雄
 汚れた人 小谷博貞
 汚れた人 小谷博貞
 汚れた魚 小谷博貞
 建築工事 西良三郎
 工 事 西良三郎
 ノ 事 西良三郎
 選 近 上原二郎
 えなの唄 上原二郎
 化 粧 井沢元一
 船 大 井沢元一
 二 大 井沢元一
 夜の顔 A (彫刻) 森 堯茂
 立 像 B (シ) 木内 岬
 立 像 (シ) 木内 岬
 作 品 (B) 藤沢友一
 三部作 (2) 無題 比田井仁史
 (3) 十字架 比田井仁史
 (1) 誕生 比田井仁史
 王宮の秘曲 清希卓
 美神の威嚇 清希卓

ブラックの隅り 清希卓
 子供と牛 渡力敷唯信
 作 品 登崎太三郎
 家 族 中島保彦
 母 子 中島保彦
 ビル 街 菊地又男
 建 物 菊地又男
 歩 鳥 田中健三
 JAN 田中健三
 作 品 A 荒木道夫
 窓に閉まれた二 石 寿星
 出 発 点 石 寿星
 牛も人も 山田光春
 はこぶ人 西村保史郎
 漁港に働く 三井滋夫
 心 三井滋夫
 心 三井滋夫
 鳥 (A) 川口精六
 人 (B) 久保田九一
 犠牲者 (彫刻) 井上信道
 鼻とパイオル ガン 鳥 鉄生
 バレ 小谷良徳
 船 山口英哉
 肖 像 寺田球一
 壁 中野 惇
 凝 視 藤 周 清
 材料置場 藤 周 清

叫 び 井上長三郎
 ア パ ー ト 糸園和三郎
 鳥 難波田龍起
 移動するもの 難波田龍起
 湖 の 上 寺田政明
 水 の 道 寺田政明
 二つの花 川合喜二郎
 けいとら 川合喜二郎
 作 品 1 川合喜二郎
 坐 2 八 峽 四郎
 T 氏 峯 村 りつ子
 K 婦 人 峯 村 りつ子
 街の風景 佐藤美代子
 舞 踏 (A) 小山田二郎
 トルソ (彫刻) (B) 峯 孝
 N嬢の首 (シ) 峯 孝
 七夕の女 奈知安太郎
 町 工 場 蘭 田 猛
 白 い 菓 中 条 顯
 ガッガツ 小野忠弘
 テルテル坊主 小野忠弘
 仮 面 小野忠弘
 妄 品 小林良曹
 作 アダムとイブ 水谷武彦
 喰われるもの 水谷武彦
 無限空 西田信一
 飛 騨 十五号 西田信一
 飛 騨 の 鈴 山 富山 妙子
 作 品 小山 寿夫
 窓 辺 の 町 吉本 時 昌

青年 (彫刻) 新田 実
 いらついでいる 上野 省 策
 私 上野 省 策
 なんとなく不安 上野 省 策
 鬼 の 笑 ひ 山口 正 城
 静 物 浜 口 陽 三
 風 景 浜 田 知 明
 仮 標 浜 田 知 明
 刑 場 (A) 三木 一 弘
 (B) 三木 一 弘
 月 蝕 三木 一 弘
 少 女 (A) 広 田 嘉 与
 (B) 池 田 淑 人
 壺 池 田 淑 人
 地 球 豊 田 一 男
 食 人 豊 田 一 男
 招 か ざる 客 豊 田 一 男
 野 づ ら 豊 田 一 男
 22回独立展 9-26 東京都美 術 館
 (受賞)
 独立賞—芝田耕、佐々木弘、
 松樹路人、木内のぶ子、上
 野菊
 新会員—桜井浜江、鉄指公蔵、
 松島鈴子、西田勝次郎
 新準会員—水島清、入江一子、
 吉川吉重
 [批]
 毎日13(徳大寺公英)
 日経14(福島繁太郎)
 朝日14(植村鷹千代)

東京16(岡本謙次郎)

時事18

東京タイムズ19(田近憲三)

産経夕刊20(柳亮)

美術手帖12月(東野芳明)

アトリエ12月(江川和彦)

出品目録

。印会員

△印準会員

厨 房 D 入江一子
 魚と小鳥 勝俣泰蔵
 鳩の静物 上野 菊
 人々 上野 菊
 ネコ三匹 桜井浜江
 花物 桜井浜江
 静物 桜井浜江
 金魚鉢と女 西田藤次郎
 収獲 西田藤次郎
 夏木立 芝田 耕
 卓上静物 芝田 耕
 南伊予風景 △鉄指公蔵
 機 械 △鉄指公蔵
 馬力競技 A 大越宏純
 競馬場 小原 稔
 乾 燥 場 △松島鈴子
 若き画家の肖像 △松島鈴子
 恋 人 △松島鈴子
 其の 日 池田林一
 流 木 △池田林一
 花と風景 △井上寛信
 秋の 庭 △井上寛信

夜 景 △仲村一男
 大 漁 船 △田米三
 窓辺静物 △田米三
 卓上のふくろ △岩間正男
 崩 壊 △岩間正男
 生きる悲しみ △加藤 博
 画 室 △高橋 秀
 作 品 △山元慶子
 子供たち D △辻 正人
 静 物 B △佐藤 洋
 燕脂の更衣 △小原雄二
 岩 礁 △後藤孝三
 場末の映画館 △後藤孝三
 堺 港 △大久保正義
 白い橋の見える 港 △藤井浅太郎
 風景 △藤井浅太郎
 風 景 △土井俊泰
 落 日 △穴見 清
 秋葉原風景 △伊藤 彪
 花 市 △市村 力
 花 村 △市村 力
 窓 辺 静 物 △吉田正照
 窓 辺 静 物 △江川平三
 室 内 △江川平三
 長 崎 港 △片山公一
 丘 の 家 △片山公一
 マスクの人 △大庭シツ子
 虫 籠 △平井憲迪
 ひ の 農 村 B △佐藤義明
 雪の農村 B △寺沢宏三郎
 お蝶夫人の庭 △江島和男
 母 子 像 △栄 健二
 勝下ノ道 △米川勝衛
 浦上のマリヤ △飯田実雄

港 風 景 △細野 猛
 群 屋 の 一 隅 △金子徳之
 倒 壊 景 △篠原邦夫
 工場 風 景 △米原二郎
 赤 堀 の 通 り △菊地茂雄
 海 切 場 A △高橋弘二
 石 切 場 A △錦織恭一
 婦 人 像 △大久保泰
 花 空 △田中佐一郎
 虚 空 △田中佐一郎
 石 切 場 稲 田 △須永正道
 秋 の 鳥 △池島勘治郎
 冬 の 鳥 △池島勘治郎
 棧 橋 △西村伊勢松
 花 景 A △斎藤 洪人
 風 景 A △佐野 賢
 志 納 △佐野 賢
 群 船 △片江政俊
 河 畔 △松田正雄
 月 光 △永井 功
 白 い 家 △佐川敏子
 月 夜 △佐川敏子
 黒布の静物 C △大久恒章
 壺 と 貝 殻 △石田英吉
 室 内 △鈴木正彦
 赤 い 蠟 燭 △小瀬光子
 木 立 △狭間二郎
 屋 根 △緑川広太郎
 静 物 △緑川広太郎
 静 物 △小野垣哲之助
 卓上 静 物 △小野垣哲之助
 月 夜 の 荒 地 △奥野弘治

雪 道 上 田 朗
 鳥籠の静物 △岡田寿子
 油 船 △久保一雄
 馬 ランプと着の静物 △加藤 陽
 ランプと着の静物 △加藤 陽
 鼻と蠟燭の静物 △加藤 陽
 静 物 △三浦喜代子
 別 離 B △伊沢 清
 変 電 所 △藤本忠雄
 風 景 A △上村啓佐久
 海 辺 △足達 襄
 鳩 の 静 物 △鈴木 武
 静 物 △鈴木 武
 クレーンのある 物 △三浦照子
 風 景 △三浦照子
 港 景 △藤川五郎
 静 物 B △細見良彦
 疲れた人 A △望月鏡一
 グラウンド △額田晃作
 両 岸 の 車 △高橋忠弥
 箱 と 車 △高橋忠弥
 石 字 △中村善種
 文 字 △中村善種
 母 船 △江添栄一郎
 かがやく海 △宮田隆光
 窓 宮 前 △宮田隆光
 女 人 A △平山寛治
 勤 人 B △岡 秀男
 果物とガラス器 △織田彩子
 ダリヤの花 △織田彩子
 静 物 B △江田 豊
 静 物 A △杉 実平
 ガス工場 △杉 実平
 静 物 △近藤幸次郎

花 なかま(夜) 竹岡羊子
 競 輪 山下 充
 浜 場 △宇根元 警
 静 物 △斎藤長三
 家 々 △斎藤長三
 鼠 ケ △斎藤長三
 風 景 △喜田武治
 室 内 △浮島弘行
 つ ぼ △永野敏男
 北 の 港 △谷島由松
 漁 婦 △佐藤政輝
 船 河 邑 △太郎
 生 花 △坂上栄治
 ひ つ じ △恩田秋夫
 椅子と人体 △関根勢之助
 部 屋 の 一 隅 △山田栄子
 裸 婦 1 △岡村芳男
 椅子と静物 △坂本善三
 器 物 △坂本善三
 切りとられた丘 △菊地忠彦
 街 丸谷幸次郎
 静 物 △岡田弥生
 裸 婦 △志村計介
 海 辺 △志村計介
 二 人 △志村計介
 ストリップと椅子 △志村計介
 と牛骨 △志村計介
 ユーカラ(笛) △居串佳一
 (チバシリ) △居串佳一
 六 甲 △小出三郎
 水着の女 △小出三郎

裏地 大西弘之
 城の腰影 佐藤公一
 ラマの降誕 吉川清
 牛頭馬頭 赤尾長二郎
 花と果物 鈴木和子
 フランス・セーラーA 青木四郎
 外川風景 関謙二
 十和田湖 長谷川善四郎
 造船 春日部洋
 廢墟の丘 植松真治
 ひまわりA サイタ亨
 春 高畑正明
 建物B 木山修一
 陽のあたる建物 高野次郎
 家族A 堀越鬼
 真鶴にて 宮島佐一郎
 静中 動 泉田安治
 街道 化 頭 宮之原和親
 街 頭 熊谷登久平
 浴 女 ぬるさと 松島一郎
 ふるさと 山手の木
 ひまわり 川村護市
 梅雨時 鈴木保徳
 田園近き所 鈴木重夫
 室内 婦人 鈴木重夫
 日傘 傘 鈴木重夫
 画家と少年 鳥居敏文
 シ 雨の夜のピナ 水町千代子
 ツ 牛 飼 ひ 山本正
 ピ ア ノ シ

草むらA 菅野愛子
 屋敷町 木村龍之
 横須賀線 中山春子
 夕暮 小田切正三
 働く人々B 中津瀬忠彦
 シA 上林千珂
 花B 中川美智夫
 木C 伊豆の漁師 島村三七雄
 平家の村 下平善三
 浜名湖畔 稲森祐一
 風景A 徳山高光
 キリン草とグラ 早川すみ
 ギョラス 下川都一朗
 婦人像 西川武人
 鉢 古川盛雄
 女 中村弘
 港 村島鉄雄
 風景C 藤原向意
 建物 藤原向意
 サレジオの見え 江口良
 丘 松島一郎
 山手の木 松島一郎
 船を造る人 海老原喜之助
 オランダ坂 野口弥太郎
 Y夫人像 野口弥太郎
 うづくまる 鳥海青児
 川沿ひの家 鶏川誠一
 花 鶏川誠一
 女 毛氈峠(八幡平) 清水鍊徳
 赤坂見附附近

二 人 松本富二
 玉葱と壺 志水喜美代
 海辺の建物 平岡誠治
 山麓 中尾彰
 高麗原 鈴木正教
 黒い海 遠内勝二
 カンナの花 富士本昇
 静物 小無田泉
 長崎 河口淳太郎
 海の見える道 能登谷正樹
 工場 能登谷正樹
 母と子 浅田欣
 煤煙B 山本鉄男
 花切の街 藤原常次
 波切の街 小林茂
 窓上静物 大淵浚治
 卓上静物 空野末人
 室内 寺田一男
 静物A 若林和夫
 河船 松岡真男
 煙突のある丘 渡部周三
 樹 渡部周三
 春と 吉野公脩
 蛙と 三枝大二
 破船 海本健
 母子像 栃内忠男
 風景B 大内のふ子
 作景 上出穂美
 ほりより 堀口千鶴雄
 冬枯れ 堀口千鶴雄
 おれた木 古川吉重
 機械 古川吉重

西の窓辺 岡部繁夫
 月光 福富栄
 あんてなのある風景 西野久子
 青い魚 秦森晃
 花女 石原百合子
 樹 安川博
 パン工場 松島砂子
 生工場 仲村俊夫
 隊裸 中村辰己
 風 杉崎正子
 夏の海 丸山五郎
 窯場風景 丸山五郎
 さかなC 森田喜昇
 椅子と杵 平林武良
 煙突のある風景 平井光典
 静物B 篠原国治
 鳩と子供 伊藤和義
 静物 長島常吉
 憩える人たちA 秤安雄
 魚市場B 田村清一
 船 鳥津冬樹
 うさぎ小屋 尾崎一雄
 不安 田中早瀬
 風景 吉田穂穂
 湯の山風景 野田武太郎
 黄い壁 矢崎牧広
 桜 島 矢崎牧広
 花 樋口加六
 冬山 樋口加六
 風 織田昇
 花とランブ 新井恵美子

外房風景 福島正治
 白い椅子 笠松春雄
 肖梅園 高島達四郎
 初秋 高島達四郎
 パンなど 桜井寛
 盆踊 大泉いかり
 秋 菅原隆治
 夕日丘の大きな病院 永瀬正己
 病院 池上三郎右エ門
 港 池上三郎右エ門
 村落の夕 山田康雄
 人と馬A 工藤和夫
 卓上の花 中山巍
 花をくわえる女 吉平泰明
 呉風景 新津文紀
 庭 新津文紀
 調理人 西さだ子
 漁夫と水爆 山田貞実
 高崎 山田貞実
 飛びたつ鳥 水島清
 卓上の鯨 明石巖
 静物A 濱田昭孝
 静物A 濱田昭孝
 枯物 花山田昭孝
 あみと 船 東英学
 窓 楠瀬盛一
 牛と 人 吉田俊雄
 おとづれ 李田たけを
 野 栗物籠と静物 青柳暢夫
 果物籠と静物 青柳暢夫
 壺のある静物 青柳暢夫
 コンポジション 古瀬虎龍
 船のある風景 渡辺修
 みさき 小松恒太郎

夏の夜の花火 木井一朗
 車と人 山中馨
 窓 佐々木隆
 制 御。横地康国
 抑圧された馬
 田園 喜一
 花 園 B 吉田翠
 風 景 斎藤紅一
 長崎風景 A 吉田肇
 公 國 徳永謙一
 シュミーズをぬぐ女 坂井俊集
 風 景 A 国崎登美
 芥 子。須田国太郎
 八幡平(焼山) 合。兒島善三郎
 百 合。兒島善三郎
 カイユウと麒麟 合。兒島善三郎
 草 合。兒島善三郎
 水たまりと海。小林和作
 秋 山 大坪権治
 風 景 A 長谷川常雄
 作 品 C 世利徹郎
 建 物 C 世利徹郎
 造 船 所 広畑一男
 海 浜(冬) 木戸史郎
 緑 の 園 大垣泰次郎
 二 人。斎藤求
 こ だ も。高木幸太郎
 風 景 A 高木幸太郎
 車 内 中島靖侃
 静 物 川戸二郎
 室 内 橋喜久雄
 鳥たちのモニユ。松崎真一
 雄 (雑)

二 杉 人 西田良三
 橋のある風景 小倉宝海
 すすき A 石橋幸子
 葡萄 加藤退介
 桃 小島善太郎
 麦 踏み。小島善太郎
 仰臥裸婦。林武
 裸婦半身。武
 蔵 山。菅野恵介
 秋 像 A 加来保
 群 像 A 加来保
 少 女 座 像 西田哲郎
 南 信 風 景 丹阿弥波子
 椎 の 大 木 石上泰三
 子 物 供 塚田とほる
 静 物 B 正信茂登喜
 樹 木。赤星孝
 木 立。赤星孝
 廃船のある風景 宮本宏
 作 品 A 溝尻頼吉
 サンマのある静 砂田友治
 物 馬 田中舎蜜
 木 田 田中義太郎
 樹 林 田中義太郎
 海 女 熊代駿
 落 日。今井憲一
 ターミナル。今井憲一
 稽古。藤岡一
 三彩とリーチの。藤岡一
 りんたく屋 井手誠一
 漁夫たち(漁港) 安田謙

帝 積 徳永豊
 静 物 D 秋田寅三
 赤い石仏 中安徹
 木 立 村田東作
 傘 亀沢妙子
 風 景 大沼亮之助
 丘 の 家。吉岡憲
 私は見ている。中村節也
 佐渡の印象。中村節也
 浴 場 佐野益男
 静 物 1 青山照夫
 風 景 松永繁雄
 かなし 国清勝見
 夕 映 木村初男
 卓 田 中 行 一
 庭 田 中 行 一
 貝 殼 妹尾正彦
 動物の園。妹尾正彦
 み ち 湖。山道栄助
 家 三 瓶 昭 蔵
 漁 村 風 景 奥田淳弼
 作 品 B 岸 正 豊
 劇場附近 原晃一郎
 電気スタンドな 大矢迪雄
 椎 の 樹 森 通
 白壁のある風景 古山直一
 鉤路にて。岡部文之助
 緑 牧 舎。岡部文之助
 街 婦 江口憲一
 裸 婦 C 鯨津政男
 野の子ら 田中稔
 草を刈る朝 佐宗喜久代

椅子とマドロス 中野和枝
 バイブ 横森政明
 人物風景(グレ) 小笠原ヒサオ
 今なん時 暇 四条
 三 人 B 白鳥三郎
 魚のある静物 木村英雄
 車 体 一町田弘
 搾乳場の一隅 鈴木恒雄
 室 内 吉島昭子
 静 物 B 竹内豊
 静 物(すもも) 倉沢国夫
 カニとイカ 佐藤 仁
 さ かな 奥村日出雄
 船 清 恒 好
 水 辺 三 浦 洋 一
 冬 谷 斑 目 秀 雄
 花を配せる裸婦 赤堀佐兵
 羊 場 的 有 丘 赤 堀 佐 兵
 工場のある丘 赤 堀 佐 兵
 電気スタンドの 古 賀 猛
 ある静物 古 賀 猛
 気象の旗 吉 浦 摩 耶
 魚 の 静 物 白 野 文 敏
 労働 高 森 明
 鉄 骨 小 林 重 順
 風 景 A 本 埜 都 志 子
 欄 宮 崎 精 一
 労働者 井 出 陽 一 郎
 花 勤 者 A 伊 藤 洋 一 郎
 我が子 中 富 郁 子
 漁場の女達 森 崎 幸

羽かざりの帽子 武田和美
 石 切 場 山 中 徳 次
 五番館(サッポ。松島正人
 街 齋 田 武 夫
 浜の鍛冶屋。齋田武夫
 浜の鍛冶屋。齋田武夫
 ス タ ズ オ。末永胤生
 夜 衣。末永胤生
 水 門 と 橋 佐 々 田 憲 一 郎
 小鳥小屋 B 徂徠匡男
 石川台風景 飯田健治
 風 景 (三) 山 下 武 夫
 作 品 朝 比 奈 晴 司
 金 魚 鉢。堀之内一誠
 窓 辺。堀之内一誠
 静 物 B 高 須 靱 子
 静 物 B 岡 秀 四 郎
 魚 と 椅子 喜 多 健 男
 魚 養 西 山 舜 之 助
 コニー・アイラ 西 山 舜 之 助
 レンゲの花咲く 佐 藤 辰 治
 頃 実 佐 藤 辰 治
 果 實 佐 藤 辰 治
 魚 静 物 廣 原 長 七 郎
 作 品 E 萩 原 卓 也
 建 物 D 平 林 清 明
 建 物 C 平 林 清 明
 建 物 佐 々 木 弘
 塵 界 佐 々 木 弘
 夏のアルプス 妹 尾 正 雄
 島の工場 妹 尾 正 雄
 家 族 松 樹 路 人

行つてしまつた
小鳥

松樹 路人

或る居酒屋 門坂 達郎

農家の夫婦

河村 春

静 物

吉岡 一

漁師の兄弟

田坂 英典

風 景

半沢 良夫

埋 葬

伊東 郁三郎

母と子

平井 忠代

工場裏

四方 長夫

静 物

米原 智

セメント工場

朝倉 義昌

二人の女

後藤 可孚子

男

古田 安男

平和を乱すもの

国頭 繁治郎

あぢさい

浜田 宜伴

つるした鶏

佐野 比呂志

牛と少年

鶴川 五郎

東 立樹と朽木

永井 宏

窓 品 D

北山 茂

人 物 B 下山 良範

8 回二紀展 9-26 東京

都美術館

〔受賞〕

二紀賞—中村健而

佳作賞—園崎明、丹羽康治

同人努力賞—浜田信、鴨居玲、

松岡寛一、宮永岳彦、西村

功

同人賞—小島真佐吉、窪三郎、

加藤敏子、坂宗一、崎元八

十八、吉田富士夫、山田一

雄、齋藤聖香

新委員—青木寿、金田辰弘、

森本健二、中西勝、山口操

助

新同人—藤本かをり、東山さ

ち子、石腸悦三、北島達夫、

宮島美明、坂下清康

〔批〕

日経15(福島繁太郎)

朝日15(植村鷹千代)

東京17(今泉篤男)

時事18

東京タイムズ19(田近憲三)

毎日20(宮永惣一)

産経夕刊20(柳亮)

美術手帖12月(瀬木慎一)

主要出品目録

。印 委員

△印 同人

(絵 画)

ハカリと卵 △森本 健二

レンガ工場 △森本健二

野菜と静物

鳥と野菜

△山田 等

鏡

広い胸

△見玉 幸雄

不 安

海 女

海の一部(一)

△佐野繁次郎

海の一部(二)

裸 婦

△敷野 正雄

裸 立 像

△島岡 実

裸 座 像

持ち上げる

△近藤 嘉男

寝 る

海を描く

△TRN-BWREN △鈴木 猛人

△SINGAPOURU

△SAIGON

作 品 S

△佐々木 孔

月と鳥

△金田 辰弘

鳥を捕える人

△山口 操助

壇 輪(首)

△崎元八十八

△田園

△岡田登志男

△たそがれ

鳥と少女 △岡田登志男

戦争と平和(部分) △白銀 功

望 光 △古賀 肇

贖 罪

△成井 弘文

夏のルクサンブ

△イル公園

緑 蔭

寺の見えるパリ

風景

黒人のモデル女

△モンマルトル

モデル写生

△パリ 風景

△初秋のルクサン

ブル公園

馬車のあるパリ

風景

△少女立像

△パリの裏街

△テラスの裸婦

△溶樹の庭

△琵琶湖のヨット

△台風のそれる海岸

△名瀬の夕立(奄

美大島)

△島 蒐

△鬼ヶ島風景

△窓 辺

△夜となれば

△鳥と女たち

△作 品 A

△モ デ ル

△夏・母子

△煙突掃除夫

△人間の対話

コンサート △伊藤 歳夫

白樺の静物 △堀沢 好一

皿と魚 △窪 三郎

休息する二人

△高山 道雄

後 庭

△鉄骨構成

△モンステラタ

いのち

△鳥取 敏

ま ひ る

△鳥松 伽耶

鳥

△赤帽と荷物 A

△西村 功

△海 辺

△顔 勝四郎

千住の夕日

△峰岸 義一

小 駅 に て

△水溜りのある景色

△古利根附近

△博物館の庭

△ベ ラ ン ダ

△港 街

△踊 街

△人間と牛

△白 と 黒

△月 夜

△青 壺 の 菊

△鬼灯のある静物

△杜 鵑 亭

△峡 谷 初 秋

△風 の 湖

△冠 鶏(夜)

△小 鳥

△夏 草(朝)

高原の花(1) 佐伯米子
 静物(2) シ
 アンチープの城 シ
 壁物(2) シ
 愛生園と光田園 正宗得三郎
 長 鎮守の森(2) シ
 鎮守の森(1) シ
 ケヤ木並木 シ
 東井玉虹硯 シ
 江の浦 シ
 DIE KAR-BONZEIT 秋保正三
 悪い路 シ
 秋の湖 栗原信
 常盤橋風景 シ
 榛名早春 シ
 裸婦二重像 宮本三郎
 画室の裸婦 シ
 裸婦群像 シ
 朝の山 中川紀元
 人 物 シ
 もみぢ谷 横井礼市
 白い壺と洋蘭 シ
 穂と子供(平和な園) シ
 蜘蛛の巣(平和な園) シ
 のような園) シ
 矢車草の女 シ
 岩風 呂中野安次郎
 昭和 新山 シ
 花と子供 シ

岩 大石俊彦
 浜 (2) 土岐国彦
 杉 (1) 山田一夫
 森 家
 京の山 田一夫
 丘 山 品川祐次郎
 禿 サイカス I 健造
 静物 II 吉田富士夫
 滝と溪流 井上安男
 海浜の松林 シ
 南伊豆海景 シ
 三人 市野長之介
 室 内 島田しず子
 二人 A 島田しず子
 早 B 春久野修男
 運 河 裏街(ハルビン) 浜田信
 地 底 堀江万寿男
 都会 B 加藤秋夫
 グレンの見える 加藤秋夫
 風景 川 堀 裸婦 A 遠山陽子
 幼なき日 豊
 室 内 松田 豊
 牧歌譜 A 小島真佐吉
 B 豊

星 瀨尾 暹
 教 会 青木 寿
 時 馬場の白馬 坂宗一
 村の闘牛 藤田 礼
 織 子供たちと走れ 松岡寛一
 馬小屋の夫婦 山本秀臣
 道頓堀風景 山本秀臣
 空気の層 鴨居 玲
 ある 庭 田辺栄次郎
 閑 庭 藤井義晴
 夏 日 藤井義晴
 受 乳 奥村隼人
 少 女 西田静子
 燦 岩 流 上野与一郎
 月 郷 (橋) 安部治郎吉
 水 高 秋色 島 あふひ
 妙 立 てる 女 中谷ミユキ
 ポ 風と雲と鳥 橋原祥太郎
 網にかかった放 射能の魚
 更紗とバナナの 花
 トルコ布と果物 庭 松本 正子
 庭 清水 茂郎
 橋と機関車 山本直治
 赤い帆のヨット 青木 一夫
 農 婦

風景 景 三浦和志
 坂 道 仔 森谷護太郎
 親 品 高階重紀
 作 モダン神話 石井 元
 前 卓 期 小島 謙
 黒 卓 人 築山 節生
 海 可燃性軽目羽 二 丸 樹長三郎
 重 工 場 風景 坂本 益夫
 鳥 小 屋 の 前 芝野 武男
 投 雪 の 炭 北村 脩
 猫 坐 進 藤 信一
 自 画 像 岩 月 虎雄
 一 隅 斎 藤 慶男
 栗 の 花 風景 早川 貞明
 海 底 眞野 伝右衛門
 作 品 萩 森 久朗
 子 供 の 部 屋 松村 三元
 裸 婦 (A) 宮 永 岳彦
 裸 婦 (B) 魚 戸 島 孚雄
 女 夏 中 原 四十二
 晩 女 安 藤 義 茂
 少 女 安 藤 義 茂
 く だ も の 伊 藤 泰 造
 船 内 海 九 郎
 裸 (彫刻) 菅 沼 五 郎
 首 裸 佐 野 繁 次 郎

デュシャムドの模 佐野繁次郎
 写何かある或は 馬が飛び込む
 作品 C 長野隆業
 正 直 者 滝川 美一
 交 シヤモ持つ男 長谷川 八十
 姉弟(古代と現 八柳 恭次
 代と) 松村 外次郎
 朝 ことぶき
 首 眞 鍋 忠
 高 校 生 T 嬢
 塔(平和は眼り 斎 藤 聖香
 を許さない) 樹 水野 欣三郎
 植 清水 鍊徳 個展 9-14 文房堂
 1 回制作工藝展 9-13 京都
 府ギヤラリー (批) 日本美術
 工藝12月(橋本喜三)
 小川 芋鏡、平福百穂、吉川 靈華
 三人展 10-15 日本橋・白
 木屋 (批) 時事15(木間久雄)
 馨香同人展 11-16 中央公論
 社画廊
 諸 大 家 優 秀 作 品 鑑 賞 展 11-16
 サエグサ
 四回デモクライト展 11-17
 美松画廊
 漆原英子個展 11-20 タケミ
 ヤ (批) アトリエ 30年1月
 (江川和彦)

石野隆個展 11—16 養清堂
佐藤真一個展 11—15 大阪・
梅田画廊

鎌倉時代美術展 12—25 日本
橋・白木屋

和田三造日本画展 12—17 日
本橋・高島屋 [記]日経15

十月会洋画展 12—17 上野・
松坂屋

西欧古美術展 12—16 資生堂
日本水彩画会秋季展 12—17

日本橋・三越
熊倉順吉陶器展 12—16 フォ
ルム

紫潮会日本画展 12—17 上野
・松坂屋

福田平八郎デッサン展 12—17
大分・トキワデパート

大口登個展 12—17 名古屋・
丸善

河合卯之助陶磁展 12—17 大
阪・大丸

山田美年子個展 12—17 日本
橋・丸善

伊藤研之個展 12—17 福岡・
岩田屋 [批]美術批評12月(重
森弘滝)

井上恒也個展 12—17 日本橋
・三越

現代版画名作展 12—27 金沢
美術展覧会(10月)

・北国書林ギヤラリー
北大路魯山人作陶展 13—17
日本橋・高島屋

和光デザイン展 14—17 村松
ギヤラリー

うるみ会工藝展 14—20 和光
アトリエ「美しいポーズ」写真原
画展 15—22 三省堂画廊

村野深秋日本画展 15—21 松
島ギヤラリー [批]産経21

春陽会展 15—21 長崎・新興
善小学校

洋画会造型派展 15—20 銀座
・松坂屋

南画特別展 15—11月10 滋賀
県立産業文化館

要樹平個展 15—17 京都・土
橋画廊 [紹]日本美術工藝12
月(橋本喜三)

9回行動美術展 15—28 京都
市美術館 [紹]日本美術工藝
12月(橋本喜三)

守屋コレクション展 15—11月3 京都国立博
物館

フランス美術展 15—11月25
東京国立博物館

朝日9月25(坂崎坦)

朝日9月25(坂崎坦)

朝日9月25(坂崎坦)

朝日10月12、13、14、15
毎日10月17(宮本三郎)
[解]

朝日夕刊10月16、18、19、20、
21、22、23、24、25、27、
28、29、30、31、11月1、
2、4、5

読売10月20(徳大寺公英)
朝日夕 24
時事夕 25
日経夕 26(福島繁太郎)
サンシ 夕

朝日11日6(植村鷹千代)
[作品解]

朝日11月8、10、11、13、14、
17、21、23、24
朝日11月30(岡本謙次郎)
出品目録

(油彩画)
化粧するヴィナ 作者未詳
ス

アシリ三世宮廷
の舞踏会 シ

水の上的ガラテ ヴァーエ
ア

大工の聖ヨセフ ラトゥール
農夫たちの食事 ルナン
フォシオンの葬 ブッサン

朝日11月30(岡本謙次郎)
出品目録

(油彩画)
化粧するヴィナ 作者未詳
ス

アシリ三世宮廷
の舞踏会 シ

水の上的ガラテ ヴァーエ
ア

大工の聖ヨセフ ラトゥール
農夫たちの食事 ルナン
フォシオンの葬 ブッサン

サムエルから王
位を授かるダビ
デ ジェレ
合掌する女兒の
肖像 ユシャンパーニ

尼僧院長アンジ
エリック・アルノ
の肖像 ユシャンパーニ

聖母子 ライトル
サムエル・ペ
ルナルの肖像 ゴー

淡紅色の紅鶴 シ
赤い羽毛のある
白いおうむ シ

テュレンヌ公妃
ルイーゼ・アン
リエルト・ド・ロ
レルヌの肖像 ナティエ

二重奏 ランクレ
カードのお城 シヤルダン
「昼」と「夜」二対 ブーシエ

「鳥籠」牧歌的題 シ
シノア・ギヤラ シ

家鴨 ウードリ
牛乳売娘 グルーズ
武人の恋の夢 フラゴナール

運河 ロペール
見る乳をふくま
せる若い母親の
肖像 モニエ

青い壺の花 ヴァレイエ・
セギュール伯夫
人・ダゲッリ
夫人の肖像 ヴイジエ・ル
俳優ウォルフ
(通称ベルナ
ー)の肖像 ダヴィド

水の上にぶらさ
がる西風の精
の習作 アンゲル
馬の頭 ジェリコー
親虎と戯れる仔
虎 ドラクロー

モロッコにおけ
る浅瀬の徒渉
アレクシス・ド
・トクヴィルの
肖像 シャセリオ
ドゥ伯の肖像 ヴインテル
追われる鹿 クールベ
羊の群をまもる ミレ
榎の大樹 デュブレ

ボロメ島の羊飼
たち コロ
エトルタ附近の
風車 シ
ルアール商
船碇泊所
ブーダン
ギターをひくア
ラビアン ルドン

(水彩・デッサン)
ある若い婦人の
肖像 作者未詳
尼僧の肖像 デュモンステ
天文学の寓喩図 ベランジュ

壊れたアーケードから見た風景	ブウサン
ニンフと牝山羊のいるピュティ	シ
デロス島のアポロン神殿	ジュレ
ベルセとアンドロメド	ルブラン
喜劇役者の習作	ヴァト
酒をのむ女	シ
洗濯する女	ブーシェ
牧神への捧げ物	シ
坐っている婦人	グルーズ
家畜小屋	フラゴナール
泉水場の洗濯女たち	ロペール
ポルティチの庭	シ
「神の復讐、罪を追う」ための習作	ブリュードン
ジャック・エドワール・ガトール・フィルスの肖像	アングル
馬の手入れ	ジュリコー
林間の草地	コロ
ルネサンス風の服装をしたギタ	ドラクロー
扇をもつデコル	ギ
テの婦人	ス
船員と二人の女	シ
水の浴	ピサロ
女の顔	ド
女、花、動物	ル
両腕をひろげる女の胸像	シ

聖ヨハネ七つの金の燭台を見る(ヨハネ黙示録の第2図)	デュヴェ
七ツ頭の獣につた大淫婦(ヨハネ黙示録第17図)	シ
無知の克服(ロツソの画による)	ボワヴァン
フォンテーヌブローの水の精(ロツソの画による)	シ
ねむるマルスを見つめたヴァイス	ヴァケ
アンリ四世の肖像(フランソワ・ケネルの画による)	ドール
ルネ・ショパン戦争の惨禍(三部)	カ
ニコラ・クロード・ファブリス・ド・ペイレスク肖像	メラ
聖顔譜	シ
賢い処女と愚かなる処女の寓言(愚かなる処女の戯れ)	ボ
未亡人の服装をしたルイ13世の妃アンヌ(フライリップ・ド・シャパン・ニユの画による)	モ
大並木道の中央から見たヴェルサイユ王宮	シルヴェスト

梨をむく女	ヴァイアレ
ジャン・パティスト・コルベリッポ・ド・シャパン・ニユの画による)	ナントウイユ
アレクサンドル大王の戦闘(シャルル・ルブランの画による)	オードラン
王の画家イアサント・リゴ肖像(彼自身の画による)	エドランク
ボス・エウ司教の肖像	デュヴェ
ヴェネツィアの祝祭(ヴァトアの画による)	カルス
家政婦(シャルダン)の画による)	レピシエ
別	ニコラ・ドローネ・レーネ
酒神祭	フラゴナール
難しい告白(ラヴランスの画による色版画)	ジャニネ
壊れた水差	ドビュクール
オダリスク	アングル
二頭の連銭(毛の馬を散歩させる)	ジュリコー
鍛冶屋	ドラクロー
では出かかないことにしよう	ドミエ
夏の遊び	シ
ル・プティ・ポ	メリオン
ベルト・モリゾ	マ

みずくビュオ劇場にてフォランランデルの顔	ロートレック
(彫刻)	
石	碑
エポナの碑	
装飾パネ	
複合式柱頭「パルメット文様、組紐及び唐草文様の装飾」	
柱頭「怪獣および組紐文様の装飾」	
複合式柱頭「聖告、訪問、降誕」	
柱頭四個「葉形装飾」	
複合式柱頭「鳥獣・人物と組紐文様」	
人像円柱「シバの女王」	
人物像頭部二個「使徒の頭部?」	
ゴシック式柱頭「植物文様装飾」	
ゴシック式柱頭「植物文様」	
聖ヨハネ像	
青年像頭部	
法皇像頭部	
騎士の墓石	
聖母の勝利	
幼児キリストを抱ける聖母	
聖母像頭部	
祝福を与えるキリスト	
泣き人	
幼児キリストを抱ける聖母	
洗礼者聖ヨハネ像	
祝福を与える司教の像	
一聖者の像	
キリスト磔刑像	

僧院長用の紋章附椅子背板	コワズヴォツクス
燧炉の飾板	
祈願する婦人の像	
ルイ十四世像	ク
向日葵の花を持つ愛神アムール	作者未詳
光と雲に包まれた天使頭部	シ
ルイ十五世胸像	ルモワース
ヴォルテール胸像	ウードン
寒さにふるえる女	シ
ナポレオン一世像	ジョーデ
戦士の頭部	リュード
鷲に守られた死せるナポレオン	シ
動物連作	バリ
1歩く小鹿	
2雑種の馬	
3雄子	
4歩く豹	
5鬮う牡牛	
怪物ミノトールと闘うテセウス	シ
ギゾー胸像	ドミエ
ダルグー伯の胸像	シ
花の女神	カルポー
憩り踊り子	ド
踊り子	シ
走馬	シ
洗濯する少女	ルノワール

(書籍)

フランスの絵入本

※手写本※

聖書

13C末～14C初

パリ住民用の祈禱書

15C初

聖パウロ書翰

15C末

聖アウグスティヌス著作集

15C末

ヴェルサイユの王室礼拝所用使徒書翰および福音書

1767年～1776年

印刷本

バルテレミイ・ド・グランヴィル原著「仏訳・万物の所有者」(ジャン・コルビション訳、ビュール・フェルジェ改訂) (Bartélemy de Glanville: *Le Propriétaire des choses traduité de latin en français*. (Traduction de Jean Corbichon, revue par Pierre Fergel.) 1485年)

「大海」*La mer des Hystoires* 1493年

「ローマ市民用祈禱書」1490年

ジョッフロア・トリイ著「シヤンフルーリイ人間の体軀、顔面の比例から割出した、古代文字あるいはローマ文字の、正しい書体に關する考察と技法を含む」Geoffroy Tory: *Champfleury, au quel est contenu art et science de la deue et vraie proportion des lettres antiques et vulgairement lettres romaines proportionnées selon le corps et le visage humain* 1529年

オロンヌ・ノイス著「曲線形求積法」Orontii Finaei *Delphinatis, regis mathematicarum luteitia professoris, quadratura eivreali, tandem inventa et clarissime demon strata* 1544年

クロード・メラマン著「聖書による歴史的詩」Claude Paradin: *Quadrains historiques de Bible* 1553年

エティエンヌ・モラン、ルネ・ホルティエ共著「1617年1月29日曜日、王様御自演パレーの状況―各場面の装置衣裳など詳細図解―」Estienne Durand et René Bordier: *Discours au tray*

du ballet dansé par le roy le dimanche XXIX^e jour de janvier M. VI. XVII avec les desseins, tant de machines et apparences différentes, que de tous les habits des masques. 1617年

ジャン・シヤプラン著「ジャンヌダルク又は解放されたフランス」Jean Chapelain: *La Puelle, ou la France délivrée*. 1656年

イザック・ド・バンスラー著「オウイードのメタモルフォーズ、短詩形式による仏訳」Isaac de Benserade: *Métamorphoses d'Ovide, en rondeaux*. 1676年

ラフォンテヌ著「ファーブル」La Fontaine: *Fables* 1694年

ラフォンテヌ著「ファーブル抜粋」

La Fontaine: *Fables choisies, mises en vers par J. de la Fontaine*. 1755年～1789年

ジャン・フランソワ・マルモンテル著「教訓小噺集」

Jean-François Marmontel: *Contes moraux* 1765年

モンテスキュー著「クニドスの神殿」Montesquieu: *Le Temple de Cnde* 1772年

バンジャマン・ド・ラボルト著「作曲附小唄集」Benjamin de la Borde: *Choix de Chansons mises en musique*. 1773年

アラン・ド・サンジュ著「サンティアゴのシル・トラス物語」Alain le Sage: *Histoire de Gil Blas Santillane*. 1838年

ベルナルダン・ド・サンピエール著「ポールとヴァルジニー」Bernardin de Saint-Pierre: *Paul et Virginie* 1838年

ダンテ著「ダンテ・アリギエリの地獄篇」―ギュスタヴ・ドレ挿図。ユエル・アンジエロ・フィオンテノ、仏訳。イタリヤ語原文 Cms° Dante: *Enfer de Dante Alighieri, avec des dessins de Gustave Doré*. Traduction française de Pier-Angelo Fiorentino accompagné de texte italien. 1872年

ジャン・リシマン「風景と街角」Jean Richepin: *Paysages et coins de rues*. 1900年

(モノドット)

聖マルタンの生涯

エサイの樹

外套の半分を与える聖マルタン

(織物)

物語の場面―狩への出発

聖ペテロの奇蹟

ロラン大法官の壁掛(二枚)

世界と、悪徳と、キリスト教的

美徳との寓論

パリ、パレ・ロワイヤル(?)でのパレー「十二ヶ月又は王宮づくし」

垂幕「神々へし」連作のうちジユビテール

皇太子の教育「アルテミーズの壁掛」のうち

ヨアブの死

國王物語

國王戴冠式

王の結婚

スイスとの同盟の更新

王のダンケルク入城

使臣の謁見

ドゥエ包圍

フザン島におけるフィリップ四世とルイ十四世の会見

スペイン大使ルイ十四世に對して満足を与ふ

―以上綴織―

他十六点

(十 掛)

十二点

(金銀細工)

六点

(メタル)

三十九点

(陶器)

五十一一点

(木工家具)

十八点

(置物)

一点

(民藝)

十三点

(壁面模写)

十一一点

1 回ヴォロンテ同人油絵展 16

— 22 文房堂

非形象美術展 16—21 大阪・三越

示現会京都会員展 16—20 京都府ギャラリー

棟方志功板巻展 16—20 日本橋・白木屋

女流作家洋画展 16—22 新宿・伊勢丹

滝田頂一展 17—24 荻窪・いづみ工藝店

3 回葵会展 18—23 日本橋・丸善

小杉二郎工業デザイン製品展

18—23 ブリヂストン・シヨールーム [批]朝日20 (勝負)

白馬会を回顧する展 18—30 光風会館

秋季美術文化展 18—22 村松ギャラリー

古沢岩美個展 18—23 養清堂 [批]アトリエ30年1月(江川和彦)

川口軌外個展 18—23 東京画廊

新制作協会展 18—28 大阪市立美術館

26 回青電社展 19—24 神戸・大丸

美濃新作陶藝展 19—24 日本橋・高島屋

各宗高僧名士墨跡展 19—24 日本橋・三越

堂本印象新作展 19—24 日本橋・高島屋 [批]毎日22(野間清六)、産経夕刊23(横川毅一郎)、時事25(記)朝日22

島あふび個展 19—23 サエグサ

橋本三郎個展 19—23 フォールム

紫潮会展 19—24 上野・松坂屋

織田広喜個展 19—21 資生堂 [批]アトリエ30年1月(江川和彦)

現代大家油絵展 19—24 日本橋・三越

和田香苗作品展 19—24 日本橋・三越

細野燕台手工展 19—24 日本橋・三越

石川興美術工藝展 19—24 日本橋・三越

西村計雄滯仏作品展 19—26 大阪・フジカワ画廊

国際美術協会油絵展 19—24 大阪・阪急

3 回自由美術九人展 19—24 上野・松坂屋

山下摩起新作個展 19—24 大阪・高島屋

足立源一郎新作油絵展 19—24

大阪・高島屋

五都美術クラブ大家新作展 20—21 大阪・美術クラブ

織田一磨自画石版画展 21—23 中央公論社画廊

吉田謙吉舞台美術会展 21—31 美松画廊

平塚益雄個展 21—31 タケミヤ [批]アトリエ30年1月(江川和彦)

大観、玉堂、翠嶂新作日本画展 大丸東京店開店記念 21—27 東京・大丸

沢田哲郎個展 22—26 資生堂

4 回型生派展 22—27 銀座・松坂屋 [批]東京26(岡本謙次郎)、アトリエ30年1月(江川和彦)

東西茶器展 22—27 日本橋・白木屋

2 回燦耳会美術工藝展 22—27 銀座・松屋

現代名僧墨跡展 23—31 新宿・伊勢丹

八人の会油絵展 23—28 村松

ギャラリイ

グラフィック・デザイン展 23—31 三省堂画廊

来栖重郎個展 23—27 大阪・梅田画廊

北陸美術展 23—31 高岡市美術館

香月泰男油絵展 25—30 サエグサ [批]日経29(福島繁太郎)、朝日12月4(福島繁太郎)、アトリエ30年1月(江川和彦)

芽ばえ手織作品発表会 25—30 中央公論社画廊

勝呂忠、勝本富士雄、広井力、吉田政次四人展 25—30 養清堂

国立名古屋工業技術試験所陶磁工藝展 25—30 和光

15 回大分県美術協会展 25—31 大分・トキワデパート

26 回青龍社展 26—31 京都・大丸 [紹]日本美術工藝12月(橋本喜三)

リーチ、河井、浜田陶藝三人展 26—31 渋谷・東横

和田三造日本画展 26—31 大阪・高島屋

3回自由美術九人展 26—31 上野・松坂屋

清方、深水、紫明風俗画展 26—31 日本橋・三越 (記) 産経夕刊29

白鳳会展 26—30 文房堂
国松登個展 26—30 フォルム

新井完新作洋画展 26—31 大阪・大丸

米良道博新作油絵展 26—30 大阪・高島屋

竹中郁、平佐良雄、是枝巧三人展 26—31 大阪・阪急

半弓会洋画展 26—31 大阪・阪急

稀星会油絵展 27—31 日本橋・高島屋

中村好宏個展 27—30 資生堂 (批) アトリエ12月(田近憲三)

高橋忠弥、吉岡憲、山本正三人展 27—31 大阪・フジカワ画廊

叶敏陶器展 27—29 京都・朝日画廊

2回桑門会木彫展示会 28—30 神田・升水屋

10回日展 29—12月1 東京都美術館 (批)

日経11月1(嘉門安雄、福島繁太郎、清水多嘉示、岡田護) 毎日11月5(徳大寺公英、柳亮)

東京シ 6、7(久富寛) 産経夕刊11月8(横川毅一郎) 東京タイムズ11月9(田近憲三)

東京11月9(本間正義) シ 10(野間清六) 東京タイムズ11月11(伊福部隆彦)

産経夕刊11月12(柳亮) 朝日11月12(吉阪隆正) 東京シ (阿部展也)

産経夕刊11月13(北川桃雄) シ 15(シ) 時事11月15(三輪鄰、H)

シ 20(大島隆一) サンシ (金子義男) 時事シ (大河内信敬)

シ 22(三輪鄰) アトリエ12月(和田定夫)

(記) 時事11月2 朝日夕刊11月3 毎日11月11 時事12月1

出品目録 (会) 日本藝術院会員の略 (参) 日展運営会参事の略 (審) 審査員の略 (前) 前回審査員の略 (依) 出品依頼者の略 (無) 無鑑査の略 (特) 特選の略 (買) 川合玉堂資金により買入 文部省寄贈作品 (白) 白寿賞の略 (日本画)

裏 階 段 大日躬世子 海 辺 鈴木竹柏 湿 原 松井孝二 六 甲 所見 樋口辰志 池 (特) 白猪原大華 イタリーの (依) 堂本尚郎 家 森 (特) 白三尾雄治 冬 (特) 白佐藤因夫 笛を吹く (特) 白三谷青子 坂に建 (無) 特白山本知克 つ街 (無) 特白山本知克 粟生野 (特) 白関主税 (あをの) 無 言 (依) 買伊藤万籟

滝 山あい (特) 白秋葉長生 阿 蘇松本郭南 ふるさと 桑野博利 静 物 池田道夫 崖 加藤東一 丘の漁村 (特) 白堂本阿岐羅 牛のふる (特) 白倉光博 風景 眠尾山 轍 陽 街 (特) 白下保昭 裏 街 (特) 白三輪良平 群 クレーンのある 飯田史朗 風景 大田歳夫 港 船 (依) 曲子光男 泊 船 (依) 田代正子 店の母子 (依) 村松乙彦 灯 台 (依) 小岩井秀鳳 軍 鶏 細木成実 水 郷 川崎鈴彦 裸 婦 村永山十志夫 漁 村 初夏の尾瀬 大平華泉 群 れ (依) 森戸国次 溪 (依) 浜田台兒 蝶と蛾 (依) 樋口富麻呂 愛づる姫君 (依) 山本倉丘 黎 明 (前) 山本倉丘 月の小径 (依) 佐藤太清 夢の姫君 (参) 審岩田正巳 溪澗 (参) 審買矢野橋村

藁 花 (参) 伊東深水 ぶどう (参) 望月春江 浴 室 (無) 中瀬昂 森 加藤彩華 霞 沢 岳河合健二 雨 霽 (参) 堅山南風 車庫の一隅 森公孝 雪 (依) 近藤浩一路 夕ぐれ (依) 寺島紫明 滝 (参) 審池田遙邨 春秋難波人 (依) 菅桶彦 K氏愛猫 (会) 野田九浦 池 畔 (会) 松林桂月 屋根草を刈 (会) 川合玉堂 黒 豹 (会) 西山翠嶂 朝 雲 (会) 結城素明 鴨川の夕立 (参) 宇田荻邨 花と犬 (会) 審中村岳陵 疑 惑 (会) 審堂本印象 青沼新秋 (会) 審山口蓬春 望 郷 (参) 審川崎小虎 流 (参) 德岡神泉 鯉 (会) 審福田平八郎 淀 殿 (参) 服部有恒 南国後苑 (無) 西野新川 研 究 所 浜田昇兒 春ノ海 (前) 岩淵芳華 家 (参) 三輪晃勢 黒 豹 (参) 山口華楊 烟 雨 (参) 兒玉希望

藁 花 (参) 伊東深水 ぶどう (参) 望月春江 浴 室 (無) 中瀬昂 森 加藤彩華 霞 沢 岳河合健二 雨 霽 (参) 堅山南風 車庫の一隅 森公孝 雪 (依) 近藤浩一路 夕ぐれ (依) 寺島紫明 滝 (参) 審池田遙邨 春秋難波人 (依) 菅桶彦 K氏愛猫 (会) 野田九浦 池 畔 (会) 松林桂月 屋根草を刈 (会) 川合玉堂 黒 豹 (会) 西山翠嶂 朝 雲 (会) 結城素明 鴨川の夕立 (参) 宇田荻邨 花と犬 (会) 審中村岳陵 疑 惑 (会) 審堂本印象 青沼新秋 (会) 審山口蓬春 望 郷 (参) 審川崎小虎 流 (参) 德岡神泉 鯉 (会) 審福田平八郎 淀 殿 (参) 服部有恒 南国後苑 (無) 西野新川 研 究 所 浜田昇兒 春ノ海 (前) 岩淵芳華 家 (参) 三輪晃勢 黒 豹 (参) 山口華楊 烟 雨 (参) 兒玉希望

藁 花 (参) 伊東深水 ぶどう (参) 望月春江 浴 室 (無) 中瀬昂 森 加藤彩華 霞 沢 岳河合健二 雨 霽 (参) 堅山南風 車庫の一隅 森公孝 雪 (依) 近藤浩一路 夕ぐれ (依) 寺島紫明 滝 (参) 審池田遙邨 春秋難波人 (依) 菅桶彦 K氏愛猫 (会) 野田九浦 池 畔 (会) 松林桂月 屋根草を刈 (会) 川合玉堂 黒 豹 (会) 西山翠嶂 朝 雲 (会) 結城素明 鴨川の夕立 (参) 宇田荻邨 花と犬 (会) 審中村岳陵 疑 惑 (会) 審堂本印象 青沼新秋 (会) 審山口蓬春 望 郷 (参) 審川崎小虎 流 (参) 德岡神泉 鯉 (会) 審福田平八郎 淀 殿 (参) 服部有恒 南国後苑 (無) 西野新川 研 究 所 浜田昇兒 春ノ海 (前) 岩淵芳華 家 (参) 三輪晃勢 黒 豹 (参) 山口華楊 烟 雨 (参) 兒玉希望

藁 花 (参) 伊東深水 ぶどう (参) 望月春江 浴 室 (無) 中瀬昂 森 加藤彩華 霞 沢 岳河合健二 雨 霽 (参) 堅山南風 車庫の一隅 森公孝 雪 (依) 近藤浩一路 夕ぐれ (依) 寺島紫明 滝 (参) 審池田遙邨 春秋難波人 (依) 菅桶彦 K氏愛猫 (会) 野田九浦 池 畔 (会) 松林桂月 屋根草を刈 (会) 川合玉堂 黒 豹 (会) 西山翠嶂 朝 雲 (会) 結城素明 鴨川の夕立 (参) 宇田荻邨 花と犬 (会) 審中村岳陵 疑 惑 (会) 審堂本印象 青沼新秋 (会) 審山口蓬春 望 郷 (参) 審川崎小虎 流 (参) 德岡神泉 鯉 (会) 審福田平八郎 淀 殿 (参) 服部有恒 南国後苑 (無) 西野新川 研 究 所 浜田昇兒 春ノ海 (前) 岩淵芳華 家 (参) 三輪晃勢 黒 豹 (参) 山口華楊 烟 雨 (参) 兒玉希望

藁 花 (参) 伊東深水 ぶどう (参) 望月春江 浴 室 (無) 中瀬昂 森 加藤彩華 霞 沢 岳河合健二 雨 霽 (参) 堅山南風 車庫の一隅 森公孝 雪 (依) 近藤浩一路 夕ぐれ (依) 寺島紫明 滝 (参) 審池田遙邨 春秋難波人 (依) 菅桶彦 K氏愛猫 (会) 野田九浦 池 畔 (会) 松林桂月 屋根草を刈 (会) 川合玉堂 黒 豹 (会) 西山翠嶂 朝 雲 (会) 結城素明 鴨川の夕立 (参) 宇田荻邨 花と犬 (会) 審中村岳陵 疑 惑 (会) 審堂本印象 青沼新秋 (会) 審山口蓬春 望 郷 (参) 審川崎小虎 流 (参) 德岡神泉 鯉 (会) 審福田平八郎 淀 殿 (参) 服部有恒 南国後苑 (無) 西野新川 研 究 所 浜田昇兒 春ノ海 (前) 岩淵芳華 家 (参) 三輪晃勢 黒 豹 (参) 山口華楊 烟 雨 (参) 兒玉希望

藁 花 (参) 伊東深水 ぶどう (参) 望月春江 浴 室 (無) 中瀬昂 森 加藤彩華 霞 沢 岳河合健二 雨 霽 (参) 堅山南風 車庫の一隅 森公孝 雪 (依) 近藤浩一路 夕ぐれ (依) 寺島紫明 滝 (参) 審池田遙邨 春秋難波人 (依) 菅桶彦 K氏愛猫 (会) 野田九浦 池 畔 (会) 松林桂月 屋根草を刈 (会) 川合玉堂 黒 豹 (会) 西山翠嶂 朝 雲 (会) 結城素明 鴨川の夕立 (参) 宇田荻邨 花と犬 (会) 審中村岳陵 疑 惑 (会) 審堂本印象 青沼新秋 (会) 審山口蓬春 望 郷 (参) 審川崎小虎 流 (参) 德岡神泉 鯉 (会) 審福田平八郎 淀 殿 (参) 服部有恒 南国後苑 (無) 西野新川 研 究 所 浜田昇兒 春ノ海 (前) 岩淵芳華 家 (参) 三輪晃勢 黒 豹 (参) 山口華楊 烟 雨 (参) 兒玉希望

藁 花 (参) 伊東深水 ぶどう (参) 望月春江 浴 室 (無) 中瀬昂 森 加藤彩華 霞 沢 岳河合健二 雨 霽 (参) 堅山南風 車庫の一隅 森公孝 雪 (依) 近藤浩一路 夕ぐれ (依) 寺島紫明 滝 (参) 審池田遙邨 春秋難波人 (依) 菅桶彦 K氏愛猫 (会) 野田九浦 池 畔 (会) 松林桂月 屋根草を刈 (会) 川合玉堂 黒 豹 (会) 西山翠嶂 朝 雲 (会) 結城素明 鴨川の夕立 (参) 宇田荻邨 花と犬 (会) 審中村岳陵 疑 惑 (会) 審堂本印象 青沼新秋 (会) 審山口蓬春 望 郷 (参) 審川崎小虎 流 (参) 德岡神泉 鯉 (会) 審福田平八郎 淀 殿 (参) 服部有恒 南国後苑 (無) 西野新川 研 究 所 浜田昇兒 春ノ海 (前) 岩淵芳華 家 (参) 三輪晃勢 黒 豹 (参) 山口華楊 烟 雨 (参) 兒玉希望

藁 花 (参) 伊東深水 ぶどう (参) 望月春江 浴 室 (無) 中瀬昂 森 加藤彩華 霞 沢 岳河合健二 雨 霽 (参) 堅山南風 車庫の一隅 森公孝 雪 (依) 近藤浩一路 夕ぐれ (依) 寺島紫明 滝 (参) 審池田遙邨 春秋難波人 (依) 菅桶彦 K氏愛猫 (会) 野田九浦 池 畔 (会) 松林桂月 屋根草を刈 (会) 川合玉堂 黒 豹 (会) 西山翠嶂 朝 雲 (会) 結城素明 鴨川の夕立 (参) 宇田荻邨 花と犬 (会) 審中村岳陵 疑 惑 (会) 審堂本印象 青沼新秋 (会) 審山口蓬春 望 郷 (参) 審川崎小虎 流 (参) 德岡神泉 鯉 (会) 審福田平八郎 淀 殿 (参) 服部有恒 南国後苑 (無) 西野新川 研 究 所 浜田昇兒 春ノ海 (前) 岩淵芳華 家 (参) 三輪晃勢 黒 豹 (参) 山口華楊 烟 雨 (参) 兒玉希望

魚と貝	(參)森 白甫	享保を偲ぶ	(依)西沢笛歌	鹿	(依)野島青妓	葡	(依)木本大果	漁	舟妹背平三
画室の客	(參)金島桂華	海鹿島風景	江守若菜	白い家と白い舟	野村昇	葡の池	依岡慶樹	暮れ	笠原可於
滝	(前)東山魁夷	はこぞり	佐藤美雄	春荒木天立	遠藤桑珠	「パス」の女	加藤士郎	小鳥屋サン	遠藤立圃
鶴の山	(依)我妻碧宇	北	海川崎春彦	岬	ベンチの婦	立	木那波多目功一	領事館の裏	奥田操
室	(審)森田沙伊	浜	秋元節朗	女	(依)堂本元次	ガラス	器鈴木由太郎	常岡幹彦	
向日葵	(依)畠山錦成	月影	(依)田中以知庵	牟妻の山	(依)嶋谷自然	S小路	裏池田恒象	月夜	佐藤晴行
供	(依)江崎孝坪	寄	(無)黒光茂樹	鶴	(依)望月定夫	月と少女	大嶽智弘	給油所の浜	岸田蒼坪
花ひらく南	(依)奥田元宋	牧	馬佐藤金一郎	放	牧海老沢東丘	漁村夕	照鬼頭篁	岩	加藤美代三
房	(依)吉田登穀	月の出	(依)松本姿水	南国の春	(依)立石春美	光と騒音の	(依)穴山勝堂	休	日宇田大虚
浅	(依)森川村暢洋	秋	湖石塚青我	クレインのある	笠尾造道	緑	藤直原玉青	洋	蘭山田規代
残照	(依)富取風堂	灯台のある町	岩沢重夫	風景	永井繁男	寂	(依)松元道夫	志	摩宮坂一義
はつ	夏井坂利雄	汐	龜仁志出高福	丘	蕉陳永森	葉	(依)登内微笑	立	木浦田正夫
カソ	ナ笠井利光	尾根	(依)亀割隆	信	濃太田龍一	椅子に凭り	(依)梶原緋佐子	月	明谷野圭一
母の	像今井守彦	街裏の家	河原悦人	芭	地畔柳栄	寒	(依)水田竹圃	緑	苑兒玉墨津衣
薰	映太田稻吉	夕	山口吉三郎	路	衣宮内英好	校庭	(依)勝田哲	ト	磯田又一郎
牡	丹橋口幾三郎	鶏	舎野々内良樹	黄	岡田青慶	夕	(依)板倉星光	谷	大野藤三郎
蓼	科山田実	倒	(依)川本末雄	樹	小坪風景	返	(依)小堀安雄	馬	久連石雨童
水	館寺井重三	牡	(依)浜田観	籠	籠の鳥	お	(依)小川翠村	谷	林未次
神	戸風景松本喜美子	鶏冠花	(依)常岡文亀	小坪	段丘の耕地	雨	(依)田之口青晃	馬	三河義太郎
倉敷ノ古蔵	戸田英二	樹	(前)麻田辨次	靈	坂小野塚響子	神	(依)鈴木朱雀	馬	西田恵泉
停	船横山春溪	憩	(審)加藤長明	段丘	吉村三郎	ラグーザと	(依)鈴木朱雀	馬	伊坂公完
木	場細谷達三	百	(前)杉山寧	山	加戸五郎	玉女	雲と花栗	馬	木村卓三
早	春井上正晴	碧	(審)加藤榮三	岩	間金曾大畔	雲と花栗	(依)磯部草丘	庭	堀史明
伯耆大	山勝谷木俣	まり千代像	(審)橋本明治	道	化村上安秋	伊豆風	景森正元	庭	大森運夫
矢切風	景鈴木石甌子	外海府	(前)高山辰雄	赤い煉瓦の倉庫	河田賢三	イ	橋爪堆恩	庭	奈良裕功
溪	流羽毛田陽吉	武蔵野風景	(依)西山英雄	黄衣の女	(依)堀井香坡	白鷺	朝見香城	庭	春日野嘉徑
カ	山佐藤昭三	再	人北村好	植	畑秋元清治	雲	城朝見香城	庭	藤野村一生
薄	ナ都路華明	みのり	(依)渡辺阿以湖	機	車三木秀信	庭	隅矢野安津	庭	衣岸本節子
				沐	浴海老名正夫	鏡	福本達雄	庭	粟中村白玲
				杜	竹内一起	市の艇	牛安島雨晶	庭	窓田場笙月
									舍清水保雄

浴 林間の池 室上山寿枝
 果樹園のある丘 中村爽歩
 志摩の初夏 橋本綵可
 岩見の漁村 加藤重寿
 樹木立 稲田和正
 杉木立 中野蒼穹
 牛内の女 幸田春耕
 室内の女 栗原貞華
 赤松の林 宮原明良
 寂光の院 森村宜永
 ひまわり 高橋光輝
 伊勢路 中沢博
 山脈 大野幹彦
 につ坂 伊藤昇
 少坂 由里木景子
 佐久風景 佐藤千曲
 森 芳野宗石
 庭 先那波多日煌星
 窓 辺 監原友子
 畔 (ほとり) 長谷川昇
 肥後橋風景 大塚明
 池の造船所 幸野豊一
 雨の造船所 海野旭世
 母 子 東 詔光
 緑 蔭 高木富三
 洛 北 武藤 章
 裸 婦 安井三香
 奥羽の山並 高橋澄爽
 閑庭 奥田正次郎
 山庭 佐藤静堂
 霧ヶ城 杉山文夫
 漁夫 青島淑雄

水門のある風景 田畑豊秋
 山本村 柴田一雄
 老妓 石田重子
 山ふところ 菅浦大悦
 湖畔の山 河部貞夫
 麦の頃 奥山芳夫
 飛弾の秋 木村杏園
 鬼押出 横江正義
 かぼちや畑 福井宗之助
 ふるさと 黒沢 穆
 黒い工場 平塚栄三
 三田風景 三輪敏夫
 隅田川 白川梅三
 滝海 岸下村正一
 天竜 竜福与悦夫
 霞城風景 佐藤勘三郎
 湖 畔 小豆沢吉雄
 冠 鶴 大村広陽
 魚津風景 石川景眺
 左の作品は十一月十四日まで陳列

博物館 榎崎洙雀
 田植の頃 江川文展
 憩村風景 榎本親智
 山端村風景 岡本万三
 あきない道 小川立夫
 庭里 小沢春子
 庭 加倉井和夫
 鯉 梶喜一
 森 川合貴代子
 人形と話す男 川上昌重
 八丈島 川原勇浩
 ひさがり 河原勇夫
 流泉 川辺華堂
 秋 爽 橋田永芳
 池畔 木下青陽
 堀端(松江) 木村広吉
 静謐 木村斯光
 静馬場風景 栗原慶果
 朝 斎藤清策
 船 佐久間祥史
 室の内 阪本皓楓
 街(札幌) 佐藤永芳
 森の精 社本我泉
 港の人 沢野文景
 聖 日 渋谷江津
 山 族 余 白井炯崑
 水 族 館 瀬川達久
 二 人 関根雅雄
 山 庭 高橋津根於
 池 庭 田中淑子
 西 芳 寺の庭 田中 稔
 信 濃 棚田泰生
 砧 風 景 遠峰光逸

流魚会 映利倉群青
 生魚社 戸島光基
 浅春 中田晃陽
 菩薩半 中谷光炎
 冬ざり 永田春水
 村道の秋 永野深草
 庭 永山富士太郎
 杉 景 成田 陽
 運河の午後 羽根為信
 阿 蘇 福井沢太
 ボ 藤田孝正
 寝 覚 中野草雲
 野 牛 西村卓三
 池畔 根上富治
 群 鷺 野々内保太郎
 養老溪 福田翠光
 麦 秋 瀨琳一
 造 所 松久光
 池 畔 松久光
 磐梯蒼樹 間宮 正
 睡り 皆川千恵子
 群 蓮 山口玲瀬
 ナ二人のバレリ 山本茂斗萌
 少 女 と 情 八幡白帆
 雨 情 幸松春浦
 埠 頭 米重忠夫
 女 米 重 忠 夫
 横 浜 風 景 渡辺武蔵
 船 渡 辺 武 蔵
 ひととき(西洋画) 平松 謙
 柄 港 風 景 志田利雄

横臥裸婦 (依)伊藤悌三
 素朴な静物 (無)浅井光男
 母と子等 (依)高田正二郎
 裸婦 (依)安藤信哉
 山手の家 (無)岡田又三郎
 白いテーブルの 福井重男
 部屋 (依)伊藤四郎
 小温室 (依)青井幸雄
 駅の一隅 青井幸雄
 インドネシヤの女 (依)南 政善
 闘う騎士 (依)笹岡了一
 水 禽 高島常雄
 新雪 (依)中村善策
 強東風(審)買井手宣通
 静物 (依)渡辺浩三
 裸婦(法隆寺) 高木一也
 阿修羅 (特)松田忠一
 室 内 (依)小林易夫
 漁村 (依)高木春太郎
 波 太 (依)大内田茂士
 市 日 (依)近岡善次郎
 曲藝師の構 (依)西村 憲定
 砂 丘 (依)金沢秀之助
 座 像 (依)江藤 哲
 裸 婦 (依)西尾善積
 山蔭の海 (無)日原 晃
 靴 工 (依)堀田清治
 ある洋服店 (無)野村光司
 酒を飲む男 (依)山本日子士良
 裸 婦 (依)森 田 茂

よこたわる (依)伊藤清永
 女 堂鶴飼幸雄
 聖 一 (依)橋原健三
 魚のある構 (依)杉村 惇
 図 G氏の部屋 (依)朝比奈文雄
 小 憩山名 武
 十和田湖畔 (依)刑部 人
 L・S・T (依)大津鎮雄
 兔 (依)大沼静蔵
 阿 (無)田原輝夫
 鶏 温室のT子 伊東正明
 波切 風景 内山市郎
 千 手 (依)漆畑広作
 漁村の秋 (依)早出守雄
 瓶のある静物 芹生政夫
 室 内 (無)不破 章
 森 衣 (依)田中 実
 黒 衣 (依)田中 実
 水上生活者 長谷川彰一
 東京駅八重州口 阿部広司
 婦 人 像 町田源三郎
 み な と 氏家秀之進
 帝 釈 の 岩 佐藤義太郎
 石 相沢光朗
 琅 湖 篠原新三
 倉庫 附近 鈴木信男
 古城の堀 夏目重道
 厨の少女 細島昇一
 残雪小屋風景 高野守一
 家 並 井上桂一
 漁 船 内田進久

窓 (銅版) 宮下登喜雄
 軸受工場 東 一雄
 花より生るるも 永瀬義郎
 炫炎類・御
 華符舞板画 (依)棟方志功
 桐 白画石版 (依)織田一磨
 版画島の果樹園 木和村創爾郎
 テーペルの流れ 長坂春雄
 陶 昭和新山 (依)前川千帆
 日向葵と百合 石橋正秋
 祇園 祭朝井 清
 たのしい机 露野楠巷
 曇日滞船 森本 宏
 洋館(木版) 馬淵 聖
 越中の冬暮 森川喜夫
 大岩不動滝作品 泉田康治
 第三
 みぞ 青木 熙
 魚市 前田敏子
 母と娘 荒木茂喜
 実 験 室 中岡恒雄
 朝 景 堀 英治
 風 藤村加代子
 修理工場 益子 洋
 池 畔 東本貞治
 秋 色 前島国男
 鶏 舎 柄谷繁夫
 山寺の石段 内藤秀因
 車輛工場 栗原七三
 画室の一とき 山田鶴左久
 武蔵野の秋 (依)宮部 進

ピヤホール 青野馬左奈
 染色をする女 三橋兄弟治
 明るい画室 富田通雄
 蔵王の残雪 (依)渡辺義一
 船大工の家 原田貞嘉
 白い船 (特)酒泉 淳
 醸造の町 柴田祐作
 少女双姿 (審)荒谷直之介
 片瀬の浜 (依)三宅克己
 尾瀬沼畔日 光きすげ
 海 (依)赤城泰舒
 横浜 風景 田中君江
 斜 陽 牧原萬之助
 停車場夜景 西沢今朝夷
 湖来風景 大崎善生
 休日 of 庁舎 戸田健夫
 北 風 (依)上田哲農
 夜のおじさい 三橋英子
 月と微風と (依)古川 弘
 灯と 瀨 風景 進藤 清
 片瀬 風景 山本彪一
 静 物 千ヶ崎梯六
 江村 残雪 新井邦雄
 青 年 齋藤克己
 ランプのある静 齋藤克己
 物 頭 (依)耳野卯三郎
 鶏 頭 (參)寺内萬治郎
 裸 婦 (參)審 斎藤与里
 朝 蒲 (參)審 鈴木千久馬
 葛 婦 (參)審 長谷川 昇
 裸 婦 (審)故富田温一郎
 桜 体 (會・審)中村研一

川奈風景 (會・審)辻 永
 千代田城 (會・審)石井柏亭
 室内婦 (參・審)買木下孝則
 川なかの温 (參)石川寅治
 泉 息 (參)中野和高
 休 息 (參)小糸源太郎
 薰 風 (參)審 山下新太郎
 奈良春日 (會・審)山田三造
 山新緑 (會・審)和田三造
 事務所の一 (會)和田三造
 隅村崎切 (會・審)有島生馬
 S嬢の肖 (參)小山敬三
 桂木洋子サ (前)高野三三男
 王滝川風景 (前)木下義謙
 室 内 (參)伊原宇三郎
 舞 妓 (會・審)川島理一郎
 阿蘇の晩秋 (審)田崎広助
 首 飾 (前)中村琢二
 閑 日 (依)藤井芳子
 天龍寺名園(其三) 酒見恒平
 鶴 飼 園 (依)福田新生
 山 湖 (依)樋口一郎
 鳥 籠 (依)中谷龍一
 青衣少女 (依)庄司栄吉
 涼 風 (依)遠山 清
 静 物 (依)安達真太郎
 雪の日の室内 浅津孝夫
 西芳寺苔庭 (依)大河内信敬
 室 内 (前)木下邦子
 庭 前 (前)鳥野重之
 仁摩町風景 有馬 侃

安茂里村 (依)服部亮英
 静 物 東理次良
 サンプルム (依)光安浩行
 荷馬車とサイロ 伊藤 正
 庭 (依)吉村芳松
 室 内 岡田高平
 朝 道 (依)河井清一
 釣 具 勝見謙信
 踊り子 (依)平通武男
 函館港 (依)舟木徳重
 土蔵のある風景 川人正道
 裸 婦 (依)高橋庸男
 初 冬 佐藤房子
 春浅き野沢 (依)高田 誠
 午後放 (參)審 三上知治
 牧 森 の 花 加藤水城
 室 内 平井憲迪
 夜明けの卓 (審)有馬三斗枝
 廐 小屋 (依)故鈴木栄二郎
 馬 窓 辺 (岡田賞)金子千恵子
 窓 辺 の 村 (依)納富 進
 二つの像 (依)土佐良夫
 波止場 (依)鈴木良三
 K ョット倶楽 (審)山田新一
 高 架 斎藤広司
 晚 夏 (依)辻 朗
 河 岸 板橋正邦
 アトリエ (依)江藤純平
 葡萄の静物 (依)広瀬 功
 狐の小屋 舎時田幸彦

奥入瀬 (前) 佐竹 徳
 貨 車 増田 常吉
 溪 谷 (審) 奥瀬 英三
 工場 風景 堤 正志
 三つの椅子 (依) 黒田 頼綱
 港 (依) 緒方 亮平
 山 湖 (前) 田村 一男
 瀬戸ヶ島 中村 一郎
 ベル・モ (参) 審 大久保 作次郎
 ド (依) 新道 繁
 冬の日 (依) 新道 繁
 トンネルの (特) 福井 春雄
 見える風景 (依) 池部 鈞
 祭り天国 (依) 審中 沢弘光
 誘惑 (会) 審中 沢弘光
 青衣夫人 (審) 森田 元子
 雨 (審) 山喜多 二郎
 雨 (審) 倉員 辰雄
 雨 (審) 倉員 辰雄
 跨線橋のある駅 京野 一
 風薫る (依) 大沢 海蔵
 草上裸婦 (依) 小寺 健吉
 雪の日 (審) 佐藤 一章
 アルプスの見え 山上 文
 る村 (前) 高間 惣七
 海 小路 風景 木村 鉢一
 仲小路 風景 木村 鉢一
 人 物 (依) 村岡 平蔵
 夕 日 (依) 小本 正秋
 室 内 (依) 桜井 悦
 雪の部落 (無) 山川 忠義
 夏 日 (依) 丸野 豊司
 工場 (特) 石河 彦男
 朝 影 (依) 多田 俊彦
 生 誕 (依) 草光 信成
 山 倉橋 英男

蓮 池 (前) 胡桃沢 源人
 叢 庭 (依) 安宅 安五郎
 庭 木村 八郎
 古いミニ (依) 阪倉 宜暢
 ゼバリ五区 (依) 阪倉 宜暢
 街にて (依) 阪倉 宜暢
 古瀬戸 風景 堀 勉
 若い人 (依) 池辺 一郎
 若い女 (無) 鶴 甫
 踊り (依) 菅沼 金六
 サイロの (依) 西村 喜久子
 風景 (依) 西村 喜久子
 立 秋 (特) 内山 孝
 帽子の店 (依) 笹 鹿 彪
 鉄材 積場 西田 享
 埋立地 (依) 渡辺 祐一郎
 画室の一隅 伊藤 鎗一
 岩 名村 定志
 飾 棚 千田 徹夫
 裸婦座像 (依) 小早川 篤四郎
 帽子もつ女 齋藤 斉
 読 書 (依) 辻村 八五郎
 汀の 雪 西寺 鉄舟
 少女像 (依) 田中 繁吉
 休 息 秋 吉 匠
 初夏の頃 (無) 飯田 弥生
 室 内 (依) 石原 梅男
 娘たち (依) 石本 秀雄
 母と子 桜井 慶治
 貝 泊 (依) 山下 忠平
 W三六号教室 松木 重雄
 小使室の老人 川辺 外治
 魚 白石 隆一
 お茶時 (岡田) 賞 山田 説義

市場の魚屋 成田 浩子
 裸婦と金魚 (依) 河井 達海
 垣根の見える庭 秋元 松子
 ヨット (依) 山口 猛彦
 ジンジャエール 田中 春弥
 の花のある静物 川口 雄男
 月夜の基地 (依) 道中 孝夫
 朝の道 田中 孝夫
 蓮池に遊ぶ (依) 星野 正三
 爽 秋 閑 日 花田 忠吾
 秋 色 (依) 青地 秀太郎
 白 衣 (依) 高宮 一栄
 海の女 連 大寄 兼久
 世田谷城趾 (依) 溝江 勘二
 並 木 道 武蔵 原鐘二
 S夫人像 (無) 篠田 喜与志
 電線のある (依) 筒井 広道
 粧 日 西岡 義一
 秋 陽をうける (依) 梶原 貫五
 窓 人 像 鳥居 昇
 裸婦に抱える (依) 柳瀬 俊雄
 コムボジン
 ヨン
 山 羊 (特) 奈良岡 正夫
 諏訪湖風景 (依) 高橋 貞一郎
 坐 像 宮脇 憲三
 画室の一隅 西光 亨
 風 景 (依) 榎松 正利
 ひととき 徳田 良仁
 振 袖 (依) 清原 重以知
 勝 手 口 磯谷 桂治
 画室の女 (依) 足代 義郎

雨の夜の洋裁店 岡本 由郎
 波切の景色 (依) 市ノ木 慶治
 町 大倉 克次
 Y子の像 境 保博
 海のみえる丘 藤原 昇一
 室内 (無) 原本 虎雄
 風 景 松本 正人
 白いパラソ (依) 上島 一司
 ルの下 (依) 上島 一司
 堀 川 午 陽 池野 寿彦
 迷 子 (依) 矢島 堅土
 浜 風 景 (依) 小川 博史
 南山 風景 風野 信雄
 画室の女 (無) 龍之助
 二人の子 根津 莊一
 アトリエの (特) 戸谷 賀一
 一隅 (依) 梅津 五郎
 酒屋の 隅 梅津 五郎
 画家と少女 (依) 柚木 祥吉郎
 室内 (依) 藤 彦衛門
 二 人 内 藤 彦衛門
 尾道米場町 森 清治郎
 若葉の丘 (依) 中条 茂
 如来形立像 松浦 莫章
 海草干才 浜 高橋 道雄
 牛津 風 景 宮地 亨
 ウインドウ (依) 石橋 武治
 の中 (依) 石橋 武治
 わが探鶴阿 (依) 上野 山清貢
 寒碑史 (依) 上野 山清貢
 犀川春日 (依) 堀 忠義
 室内 (依) 鈴木 三五郎
 ある 道 荒井 邦朝
 画室 (依) 幸嶋 重雄

変電所のある風 益山 英吾
 ヨットハーバー 川島 実
 S 婦人 像 北浜 淳
 アトリエの (依) 中川 力
 裸婦 (依) 中川 力
 外 出塚 本張夫
 三人 (依) 三尾 文夫
 入ヶ岳高原 三輪 孝
 夏の少女 (依) 田中 実一
 山村暮色 (依) 橋本 はな
 景 (依) 橋本 はな
 ポプラのある風 岡本 肇
 憩 場 (依) 里見 明正
 舟 場 大桃 寛
 裸 婦 (依) 大島 士一
 観 音 (依) 広本 了
 競 輪 場 (依) 和田 清
 門 司 港 (依) 岩井 弥二郎
 赤い椅子 山川 利夫
 鷹の巣の雪 (依) 鶴田 吾郎
 山 数寄屋 橋風景 石塚 三郎
 並 木 道 御 正 伸
 柿とマリモ 花 巖 巖
 刺 近 (依) 松尾 正己
 港 近 (依) 松尾 正己
 死んだ鳥 (特) 由里 明
 休 閑 (依) 新延 輝雄
 らくだ (依) 岩下 三四
 洛東の 仏 関口 文雄
 水槽のある (依) 桜田 精一
 工場 (依) 桜田 精一

須磨初夏川端謹次
 配す (無松本富太郎
 網の船(依)早田嘉之
 標本のある窓辺(依)小泉繁
 高砂の町角木茂雄
 二人のモデル円地信二
 海辺近藤功
 いこひ小村平八
 運河の見える街大歳曉
 画室太田嘉兵衛
 鞠つく少女塩見緒土
 街角小森俊顯
 湯河原風景吉崎道治
 川べり有岡正次郎
 少女小栗孝昭
 静物竹本保
 島の畑池田功
 朝の漁港中村昭平
 ある台所福永清
 構内村田省蔵
 湖畔の秋平勇雄
 吾家の庭坂口義幸
 長椅子の少女黒田信一
 弥生町桜井康寿
 庭平井俊男
 公会堂のある風景水野友行
 画室の一隅与志美登野
 ちよる後藤純史
 陸橋大島勲
 静物橋島利貞
 つぼと果物吉田義英
 剥製のある静物桜田昌郎
 雪の中津川宮村他可次

ビルの谷間 佐々木真夫
 阿彌陀如来と四天王 貫
 鳩舎 小路栄治
 新村 中島音次郎
 漁村夕映 福谷光磨
 山のある港 長谷川龍甫
 浴槽 山口勝
 婦人座像 千名恒
 閑庭 戸塚孝三郎
 閑庭 斎藤俊雄
 農家 齊藤利平
 静物 辻利平
 赤い服のA子 国嶺経郎
 小供とオルガン 三井滋雄
 静物 近藤喜義
 夜の漁港 望月正男
 裏庭 内野秀美
 残雪風景(岡田賞) 西川信一
 雪の桜堤 手塚義三郎
 西教寺(特) 戸田定
 機関 庫伊藤朝子
 博物館の十面観音像 (依)長屋勇
 鉄柵のある風景 岩本隆善
 神域 (依)清水敦次郎
 露路 尾崎侃
 草場 藤川光次
 工天 中川義憲
 北野 神川一也
 跡目山水図 (依)河上一也
 赤目山水図 (依)河上一也
 秦野風 景杉山一正
 徒然 島田四郎
 水郷 石井輝忠

群像(無鈴木睦美
 夜の静物 海老根桂二
 裸婦(依)水上信雄
 漁場 森新市
 水郷土浦駅 (依)福田義之助
 頭化粧の静物 奥森太可志
 庭の姉妹 田沢八甲
 さかぐら 谷川一志
 路次 三沢覚蔵
 窓辺 藤田静子
 鳥籠等 (依)久本弘一
 自画像 吉田富美
 初秋 (依)山下繁雄
 自画像 鈴木貫司
 春の月山 (依)真下慶治
 樹間 (依)伊木市郎
 裸婦 (依)片岡銀蔵
 兄弟 久富那夫
 伊豆山風景 松本一郎
 鳥籠 藤谷庸夫
 サロンにて 妹尾寿信
 街角 (依)岡一夫
 白岩のある風景 飛矢崎真守
 花道 山田キミ
 畦夫人 (依)和田香苗
 E氏夫人 (依)園部普
 山岳 園部普
 温室 (依)中敬子
 野花 (依)長原坦
 石垣のある風景 岩井新吉
 庭の一隅 (依)関口隆嗣
 道丸 珠枝

テラスより 兼行武四郎
 戸外像 庄野宗之助
 朝風 依)柚木久太
 田園風景 野村百合子
 みこし (依)金沢重治
 黄檗山万福寺の留岡 彬
 魚板
 挿花 (依)白滝幾之助
 白壁の家 渡辺良雄
 若き婦人像 (依)能見三次
 冬木立 西出外估
 花野 (依)白川一郎
 嵐峽新緑 鈴木羽
 教会のある風景 長尾真佐栄
 静物 森谷宏
 卓上静物 栗家功
 水辺 坂田憲雄
 墓地の教会 市山時一郎
 静物 河井浩平
 静物 (岡田賞) 柳田久
 ある駅 山尾繁
 画室の一隅 沼倉正見
 K嬢の像 加藤春景
 思案 大森栄八郎
 飯川平野 岩田順三
 オランダ屋敷 岩田順三
 浜の憩 小泉政孝
 小憩 富山芳男
 風景 斎藤弥平
 行水 豊岡稔
 ガラス鉢のある静物 森田芳治
 静物 海老沢敵夫
 庭白門 柏木治子

緑の 服橋本正躬
 機関 原田史郎
 水郷 磯部圭造
 蓮 横内太郎
 初秋の陶都 長谷川進
 尾道風景 野平上
 淡路 大歳敏秋
 漁村 松沢茂雄
 裸婦 桐野江節雄
 東郷の海 辻正男
 故郷 石崎五郎
 静物 佐世勇
 ウクレレのある静物 松本暁周
 一隅 大橋義男
 縁の田圃 先原博介
 雨後の田圃 小林泰山
 門 矢野馨
 裸女 橋本百合子
 室 内北川威夫
 路傍 反町博彦
 静物 加藤久幹
 ささら獅子 西川高次
 清水巴川尻 森正一
 菜園に立つ物 坂本一男
 静物 青木純子
 裸女 内野真
 室 内中野恒
 千恵子像 (特)泉治彦
 室 内河井洋
 座像 内河井洋
 秋庭 三宅次郎
 静物 久山章
 手術 室大村保

銚子犬若風景 大滝斗良樹
 座と 大原省三
 教会と港 森桂一
 子供の仲間 東海林広
 静室の客杉山卓
 田園風景 常重飛
 裸婦 東典男
 画室 太田美代子
 鶏舎 梶田鎌市
 中海の見える畑 富岡忠夫
 リラの花ある静 森川光子
 作物 吹上たか子
 作の品 宇野一
 ねのはら高原 宇野一
 鳥小 谷内尚文
 ガラス戸 吉田正明
 ある海辺 吉田民尚
 安平街裏 陳永森
 障子張り 熊野礼夫
 並木路 村上鉄太郎
 舟と花 森田源一郎
 図書館 川田茂
 妙伝寺の杜 矢田幸一
 画室 川口四郎
 夏の駒ヶ岳 読谷山朝典
 涼風 伊庭康雄
 聖書の話 水戸敬之助
 磷酸工場 梶悦次
 河の漁岸 石原義武
 暮れの漁港 花井善道
 冬の陶村 兼松覚

河岸風景 野本雅生
 埠頭 田中浩二
 細谷 祇園卓志
 裸庭の一隅 森谷重夫
 裏庭の隅 有元康道
 店室秋陽 戸田郁郎
 画室 齋藤真
 国泰寺山門 高倉一二
 切紙 高田貫之
 風景 高谷重夫
 リボンを結ぶ 広本季与丸
 工場 新庄拳吾
 工明 黒田尚文
 蔵明 佐々木福基
 画室 平野正義
 秋光 高橋規矩治郎
 大橋のたもと 高橋規矩治郎
 建物 岩下守
 工場 赤松二郎
 麗日 伊藤心久
 作業 船越智旭輝
 石仏 安武芳男
 風景 沼本清
 工場地帯 藤巻正憲
 裸婦 寺島龍一
 白い壁の部屋 金子仁三郎
 風景 大村浄一
 粧景 中村新次郎
 玉島風景 大野昌男
 新秋の庭 石原政之
 陶磁窯場 田中太郎
 農子の上的子供 瀬田忠司
 椅子の上の子供 榑崎重視
 工場の一隅 林男

日曜日の午後 鶴義男
 皿を持つ少女 神戸文子
 箱中 込勇
 青衣座像 橋詰英一郎
 青川 荒川一節
 塩田風景 半田圭治
 木立 木村雅徹
 門室 家永麒三郎
 画室 後藤秋生
 鳥籠 足立真一郎
 ペランダ 佐藤辰一
 川向い 根岸秀雄
 サークスの仲間 楠田三郎
 池のアカシヤ 朝倉力男
 雪のアカシヤ 菊地義泰
 故郷の秋 守屋千之
 裸婦 内藤定昭
 湖辺 村上満喜子
 向日葵のある静 村上満喜子
 物室 高橋和子
 温華堂 中島研介
 法華屋 坂手得二
 門長 小川松寿
 窓辺の静物 関口初太郎
 街角(朝) 関口初太郎
 夏衣三人 関口初太郎
 四月浅間 谷内俊夫
 旧居留地の商館 三樹保
 アスファルト工 吉田道良
 窓ぎわ 矢田清四郎
 校庭 山下太郎
 聖歌庭 真野俊久
 滝山歌 武田政美
 氷樹 炭田幸一
 海のユウツ 北村巖

或る教会の窓 高崎奨
 パンがまの前 星野篤之助
 神戸展望 元川嘉津美
 赤い船 岡崎勇次
 樹間雪景 加藤五郎
 白船のある風景 水野一好
 湖北の雪 山口信太郎
 海の見える風景 番条正雄
 鏡の前 布尾良作
 初秋 山崎隆男
 蛙 阿崎清郷
 蛙四 阿崎清郷
 漁父の像 松永和夫
 老父の像 八代武夫
 微門司岩壁 東本光博
 微風 千原成一
 暮色 松本邦博
 有楽橋風景 林鶴雄
 面を配した静物 浜辺万吉
 木立 山野正
 田舎の家 鷺田重郎
 壺 木村朱江
 樹間より宍道湖を望む 鳥屋尾孝吉
 或日のA先生 鈴木満
 卓上静物 鈴木弘
 炭坑風景 久原弘
 対岸 横山好
 成田不動 大橋城
 静物 野生司行政
 裸婦 岩月光金
 並んだ木 福田光雄
 静物 片山昭博
 秋立 長井幸一
 三滝参道 武永楨雄

ビル 磯村敏雄
 静物 塩出千鶴子
 裏通り 黒沢信男
 鯉工場 奥野康春
 機関庫内 水島崇
 工場の隅 西田耕作
 裸婦 大附耕作
 駅の近く 松本正直
 ひまわり 糟谷実
 早春の峡谷 清水昌一
 山の牧場 矢野雄蔵
 フアーネース 香取徳
 午後 奥田憲三
 枯れたひまわり 野村関一
 浜辺 齋藤英一
 祖母の里 船越達雄
 お勝手にて 武内和夫
 海浜 平野逸郎
 枯れたにんじん 斎藤政一
 魚市場(岡田賞) 桑原福保
 機関車風景 橋川一郎
 窯村 岡勇
 犬山風景 林泰二
 大仏殿 野沢寛
 転車台と機関車 渡辺一美
 農家の庭先 大槻達二
 発生の庭先 大槻達二
 雪のリング畑 細梅久弥
 鴨氏像 谷口国介
 ある街角 古瀬静夫
 海浜 坂本幹男
 建物のある風景 山本実

室 内町田文雄
 新緑の大山 錦織保久
 風景 景南征一郎
 窓 辺中山忠彦
 河 口居関金一
 黄 昏江口明
 室 内寺坂公雄
 兔 小 屋三上浩
 千 子 魚島村剛生
 K 子 像藤田陸也
 残 暑楠見貞男
 動物実 驗中井重男
 私 の 図 画 室 境 元 資
 香 部 屋 に て 近 藤 啓 二
 アル バ イ ト 鯨 岡 健
 画 室 大 木 茂
 勝 手 口 中 山 節 子
 午 後 の 門 喜 多 善 三 郎
 並 木 の 有 る 風 景 小 間 政 男
 曇 り 日 能 勢 真 美
 厨 房 秋 山 進
 室 内 静 物 荒 明 実
 水 禽 舎 長 岡 富 子
 器 物 集 成 多 和 薫
 横 浜 風 景 宇 野 千 里
 路 地 太 田 黒 幸 子
 漁 船 に て 江 崎 寛 友
 秋 園 福 迫 徹 郎
 ト ヲ ー パ ー ル 寺 崎 善 次 郎
 静 物 田 口 泰
 鞆 風 景 和 田 貢
 煙 突 の 有 る 窓 渡 辺 章 人
 裏 坂 元 盛 愛

庭 と 子 能 登 靖 幸
 (彫 塑)
 立 つ て い (會 審 朝 倉 文 夫
 F 子 の 顔 (參 清 水 多 嘉 示
 笛 の 声 (參 實 後 藤 清 一
 浴 女 (會 審 藤 井 浩 佑
 宝 生 九 郎 師
 船 弁 慶 後 シ
 テ 能 姿
 手 を あ げ た (依 後 藤 良
 裸 像
 有 る 女 の 顔 吉 田 暁 水
 馬 女 立 像 (參 國 方 林 三
 裸 女 立 像 (參 野 々 村 一 男
 島 嶼 (審 實) 野 々 村 一 男
 裸 婦 (依 古 川 順 三
 裸 婦 (依 関 谷 充
 私 迷 の 自 覚 (依 畝 村 直 久
 裸 女 倚 像 (依 杉 本 宗 一
 女 の 首 (依 山 本 豐 市
 立 像 (前 長 谷 川 義 起
 母 と 子 名 久 井 十 九 三
 ト ル ソ ー (依 黒 田 嘉 治
 背 くら べ 中 島 敦
 一 九 五 四 (參 審 横 江 嘉 純
 馬 婦 立 像 村 田 龍 正
 裸 婦 立 像 横 山 五 郎
 華 無 畏 (依 富 永 朝 堂
 施 無 畏 (依 富 永 朝 堂
 横 臥 せ る (參 審 堀 進 二
 女 雲 伊 奈 重 孝
 鯨 相 松 原 重 正
 心 米 林 勝 二

未 成 年 成 富 保 武
 想 風 齋 藤 高 德
 沙 立 像 秦 浩 三 郎
 女 立 像 樹 吉 野 康 彦
 青 ば え 三 枝 惣 太 郎
 め 望 竹 内 不 忘
 希 作 南 庄 作
 習 秋 の 頃 山 本 民 二
 新 秋 の 頃 山 本 民 二
 夕 焼 村 岡 久 作
 裸 座 の 男 草 野 睿 三
 H 座 の 男 草 野 睿 三
 立 像 裸 婦 志 賀 修 一
 洗 女 (依 山 本 房 夫
 立 女 (依 矢 野 判 三
 郷 愁 宮 本 隆
 裸 婦 坐 像 石 原 昂
 土 に 聞 く (依 山 根 入 春
 ま す も う と も に か が や く 宇 宙
 の 微 塵 と な り て 無 方 の 空 に ち
 ら ば ら う (宮 沢 賢 治 よ り)
 五 四 ・ 九 藤 本 美 弘
 ゆ あ み す る 女 斎 藤 吉 郎
 腰 か け る 女 小 池 藤 雄
 放 牧 尾 形 喜 代 治
 雲 (特) 阿 部 正 基
 髪 (特) 渡 辺 弘 行
 凝 視 (依 毅 山 三 穀
 制 作 高 野 一 蓮
 青 新 (審) 三 國 慶 一
 I 氏 の 印 象 多 田 瑞 穂
 若 人 (參) 雨 宮 治 郎

秋 藤 (審) 進 藤 武 松
 綠 藤 (無 特) 橋 本 高 昇
 快 傑 日 蓮 (會 審) 北 村 西 望
 耳 か ざ り 水 島 弘 一
 な が れ (無 特) 宮 本 光 庸
 生 存 の 様 相 (依) 池 田 勇 八
 海 後 藤 米 吉
 若 牛 西 田 光 秀
 立 つ て い る (依) 水 船 六 洲
 人 夫 三 想 (參) 古 賀 忠 雄
 土 俵 入 山 口 伊 之 助
 砂 丘 (依) 袖 月 芳
 修 道 尼 ヲ (無 特) 太 田 良 平
 チ ャ ン セ ン (無 特) 太 田 良 平
 精 靈 (依) 和 田 金 剛
 青 嵐 笹 野 恵 三
 綠 蔭 北 地 莞 爾
 濤 山 脇 正 司
 裸 婦 立 像 浅 井 行 雄
 秋 立 像 星 野 宣
 壤 に き く 長 谷 川 昂
 湖 先 (特) 伊 藤 五 百 亀
 裸 婦 龜 貝 保
 立 佐 藤 助 雄
 寂 光 仏 子 泰 夫
 若 者 石 塚 輝 雄
 ゴ ー ル 前 松 浦 卓 二
 立 てる 女 宮 田 卓 三
 こ か げ (依) 羽 下 修 三
 女 田 中 昭
 静 かな る 動 (依) 短 幸 成
 き 三 人 の 女 中 西 弘 馨

若 者 三 輪 錦 次
 若 水 清 水 礼 四 郎
 静 思 横 尾 昭 司
 め ば え 加 藤 潮 光
 秋 想 矢 田 常 和
 立 像 小 島 克 也
 競 技 者 遠 藤 松 吉
 習 作 江 川 丈 平
 女 立 像 松 田 喜 三 郎
 勤 學 生 西 俊 夫
 夕 映 茂 木 弘 次
 裸 婦 中 村 博 直
 は ぐ く み 山 畑 阿 利 一
 布 を 持 つ 婦 林 勘 五 郎
 丘 に 立 つ 婦 金 子 直 裕
 盛 り 上 る 力 戸 張 幸 男
 山 花 田 一 男
 槍 難 波 孫 次 郎
 爽 秋 佐 藤 義 重
 老 工 樋 川 治 之
 ヲ イ ナ ス 羽 紫 小 枝 子
 夜 明 け 堤 達 男
 裸 婦 矢 野 秀 徳
 強 打 者 神 野 義 衛
 女 者 後 藤 白 童
 闖 魂 長 嶺 武 四 郎
 大 乗 都 築 宗 彦
 青 年 得 能 節 朗
 習 作 紺 谷 英 儀
 男 岸 崎 夜 光

娘時代	山羊と女	胸像	波	乙女	トルソー	少	葉	幼	牛	都会	悔	青	歩	臥	水	勝	裸	起	立	牛	行	む	静	習	高	海	少	若	雄	出	想	芳
(依)松田尚之	(依)長沼孝三	(参)吉田三郎	(参)吉田三郎	(前)森山朝光	(依)倉持芳	女橋本堅太郎	藤石橋古鈴	子小田寛一	(依)都賀田勇馬	(依)森野円象	(依)木村珪二	春向山峡路	(特)長谷川塊記	婦池辺瑠璃子	郷古川武治	利立川金祿	(依)大須賀力	人浜口重威	像押田政男	(依)岩田千虎	雲中野素昂	(依)円鏗勝二	座坂口晴風	溝口寛	女原田新八郎	女原田新八郎	年小川由加里	(依)柴田佳石	牛福井庸賢	土佐伯留守夫	旬本田晶彦	
裸	こ	精	翠	裸	U先生像	青	一	裸	裸	岬	鹿	立	朝	競	秋	裸	光明女像	レスラーK君	初	若	流	朝	立	同	想	大地の恵み	希望をいだいて	和	母	抵	立	
婦堀江	ろ永井	純柴田	潮田皓哉	像真下梅吉	像中野五一	眸池上舜	婦今城国忠	婦大木祥作	太田昭夫	女小西竹太郎	太田昭夫	女一色五郎	曉真海徳太郎	者諏訪与里於	婦小島義孝	(依)大内青圃	夏長田平次	男新免弘男	(特)市之瀬広太	(無)山脇正邦	(無)熊谷幸太郎	(無)服部仁郎	(無)服部仁郎	(無)服部仁郎	(無)服部仁郎	遠山静夫	(依)安田周三郎	(参)沢田晴広	(特)高藤鎮夫	(依)北村治禱		

街のうた	眠	三	建	華	浴	歌	聖	無	者	雄	静	双	投	女	お	習	立	A	裸	女	パ	青	腰	婦	て	斜	裸	海	女	孤
(美術工藝)	(参)吉田久	人(浮彫)	設(会審)	殿(依)北村正信	後(依)藤本朝秀	神(会)内藤伸	乘(参)藤野舜正	心(参)藤野舜正	(参)赤堀信平	鶏伊藤芳雄	立(依)安永良徳	嬌(依)松野伍秀	投擲選手A君	(依)朝倉馨子	おんな	作長谷川和幸	女立川義明	子石井滋	婦(前)木下繁	像石田清	像石田清	年(依)分部順治	腰かける女手塚又四郎	像坂手讓	斜陽を浴び(前)富永直樹	婦(依)久原濤子	裸(無)小森邦夫	依(依)中川清	依(依)佐藤静彦	(前)宮地寅彦

けしの図花	蛙	顔	鍔	織	百	彫	流	鍔	鍛	黒	風	彫	伸	沈	樹	彫	伸	鋳	ある	壁	ふ	鷺	向	辛	彫	影	霜	蓮
(無)中村翠恒	籃	中野恵祥	宮田藍堂	鈴木八郎	伊東奎	浜大熊納子	星	宮田宏平	佐藤碩夫	加藤卓男	真子実也	野田喜市	板谷光治	天野策地	板谷光治	野田喜市	野田喜市	野田喜市	目黒順三郎	西村忠	木下穆堂	大垣正人	藤沢淳二	藤沢淳二	大谷春彦	内藤義兼	古宇田正雄	山沢義輔

陶花器「線と角	鳥文飾	青銅花器	手宮白梅	壺	花	(人形)うつ	彫金黒金象嵌	壺	彫金花瓶	漆器「作品C」	漆卓上電器	銀花	人形ねこ	銅花器	銅花器	布目象嵌花	黒絵之花器	彫金田宮溪声	作	黒い花器	釉彩	お母さんの子	黒い花器	こ	銅	向	辛	彫	霜	蓮
吉賀寿男	今大路長光	米田美昭	結城哲雄	加藤英一	本田義明	今村繁子	新山多志	米沢久	三村昌弘	滝井与志司	山下悦夫	羽原一陽	武田三千子	木村庄太郎	福田三郎	山本茂兵衛	松尾忠次	宮川三喜重	市橋敏雄	寺田美山	大林蘇乃	市橋敏雄	大森信比古	森村寿々	藤村豊秋	磯谷丹制春	新開	須賀正佐	河本五郎	

花の器町川洋三
夏の夢浅見薫
吹硝子花瓶中島祥晴
陶八ッ手文壺川上正三郎
手付魚文花(依)土肥刀泉
乾漆盛器増村益城
雨漆生馬場忠寛
花陶花さし中里重利
陶花「鳥」花瓶渡辺正
花と貝殻松崎春子
和紙漉立立葵文安藤繁和
けし衝立細井起能
カンナ彫漆三曲大西忠夫
衝立松崎泰一
萬染山崎泰一
染屏風大和之家山出守二
萬染二曲屏風村田博三
「猿」
染屏風「緑葉」皆川幸恵
港の一隅中村光哉
縞馬来野月乙
カシマ岩崎真也
和染長崎風景皆川泰蔵
萬縷「雙ヶ岡」中井貞次
高原の花萬染屏風芳浦克子
風景
トネルのある下村孝四郎
風景
蠟染屏風「運河」三浦景生
風景
截金額「晩秋」齋田梅亭
五重塔(依)小川友衛
まぢの灯宮崎芳郎

萬染屏風「水辺」福本三木
染二曲屏風「草成竹登茂男
原」
孔雀三曲屏風尾長保
孔雀盛盤末村笙文
唐銅子雀花(依)山本純民
陶窯變鳥賊文花伊藤哲次
瓶からたちの壺安田友彦
海流川尻南向
太陽花花花瓶新開寛山
如來像(依)丸山不忘
縞壺久保駒太郎
打込銅花瓶三上猛郎
染屏風「海の華」春日井秀雄
双鳥文有田利章
双魚文研雨宮誠
花蝶壺(北斗賞)内田邦夫
黒釉「明鳥」伏香大極年郎
堆朱彩光文(依)吉田樸堂
壺澁川鉦一
漆華文飾箱平石晃祥
三島手花瓶(依)岡本為治
黄銅キリン(依)八井孝二
置物(対)
組合せによる(依)吉田丈夫
ルクリスタ
小瓶(依)宮林勇三郎
橋地紋平蜘蛛釜角谷一圭
蜂金具大木秀春

石箱がくあぢさい宝相原正夫
刺繍紙宮(前)平野利太郎
(初秋)
漆器鉄線(審)堂本漆軒
花八角盆(審)安原喜明
花器(審)会田富康
鳥魚文青銅(審)会田富康
花器(依)野口光彦
「歡喜」御所(依)野口光彦
人形(依)野口光彦
花瓶(參)各務鉢三
線文花瓶城戸夏男
白鷺宮一對(依)島野三秋
銀線製菊花模様高坂雄水
壺形置物
いか模様漆器入太田誠二
角箱
瑪瑙香炉宅間正一
瑞龜銀置物(審)平松宏春
彈奏(北斗賞)岡本玉水
彩苑花瓶(無)鈴木青々
青磁花瓶(依)森野嘉光
彫漆魚浪手箱池内荷茅
花器H岩田久利
青銅鳩飾盤(依)長野埜志
春(特)滝一夫
象嵌文龍銀壺寺本美茂
鷺の壺(依)伊東翠壺
金銅彫金(依)買小川英鳳
鉢鉢(依)買小川英鳳
銀杏飾(北斗賞)徳田魁星
皿木綿文彫染飾高橋静道
彩漆ラテン紋卓竹園自耕

陶製飛翔圖(依)北出塔次郎
飾壺
花器今井千尋
黎器今山本正年
流るる秋岡本秀子
「つわぶき」染色今井輝子
着物
きもの「麦」奈良東明子
石横山茨明
漆「松樹」屏風明石朴景
群虫の(依)張間麻佐緒
秋二枚(北斗賞)張間麻佐緒
折屏風
海女横山白汀
桜島横田富生
万葉かるた屏風谷隣子
七夕竹田文江
壺西川実
鉄布目象嵌潮流上田哲三
文宮
鉄の花挿し(三越)智健三
角の構成)安きよ子
妹線文伊羅保鉢小川欣二
吹硝子花瓶松宮寛明
青銅水盤宮沢鼎
白磁花瓶(依)井上良斎
青銅花器(依)丸谷端堂
(平和来)
柏栗風紋花(無)大谷玲石
瓶
乾漆鳥の花挿中清太郎
鍍銅細口両耳花斎藤明
鉢
クリスタル花器浅蔵五十吉
各務満

ほろほろ鳥山中俊夫
影金壺大久保鼎湖
花瓶後藤学
紫陽花瓶河合喜燕
鉄透シ花瓶橋本良介
玉簾四年壺(依)加藤土師萌
つほ清水卯一
色金吹寄花(依)原直樹
の壺
花瓶MとN々関稔
線描扁壺松本為佐視
影漆百合文(無)今井盛大郎
長匣
鍍銅遊鳥紋様花麻生三郎
瓶
赤銅銀熔線文花柴野知聖
器
夜あけ熊谷勝明
和合透風炉(依)根来実三
釜
人形宴磯貝勝之
鍍金カンガール山下恒雄
置物
あぢさい板金置小川健次郎
物
魚紋飾壺北出藤雄
象嵌赤銅壺土屋杏平
青織部壺(北斗賞)加藤嶺男
鉄花器槻尾宗一
「冷人三姿」
鍍銅觚式花(依)佐々木象堂
瓶
だつま釜高橋敬典
菜花文彫漆飾萬山下楊哉
鍍金織付象嵌花松下新三郎

洋銀黒味銅鍍分
花瓶 村上直行
三方 釜 伊東鏝一
慶長鍍銅花瓶 中島保美
スカシ細口銀花 熊谷龍
瓶 器谷口明一
花 器原春男
壺 (無) 松原春男
雀漆器飾筒 新村撰吉
蔓草文花盛器 宮下善寿
花 かげ 岡本輝子
茜草文花瓶 (依) 伊東陶山
(とげのある壺
(ひらさきりに
殻より)
宝想華文様 (依) 富樫光成
飾箱
魚紋彫金壺 龜倉蒲舟
鍍銅花瓶 神高義隆
鍍金猫置物 小川正波
蝸牛 釜 鈴木盛久
ペリカン置物 (特) 小林美春
物
「砂上」
人形 (北斗賞) 鶴巻三郎
海の幸 臘銀筒 桂 信春
蠟染「向日葵」四 橋田裕土
枚折屏風
鉄牛壁面裝飾 加藤宗巖
漆 飾 棚 福岡萍哉
織の絵染屏風 梶山伸
蠟染屏風舞子の 島田勝四郎
浜
染色屏風群鶴之 小林 清
図 糊稜蠟染屏 (依) 楠田撫泉
風鶴渡る

(風景) 染色二曲 熊谷吉郎
屏風
緑陰の鹿描染屏 西出宗雄
風
藪染屏風「村」 中堂憲一
染二曲屏風室内 鶴飼 菁
長崎の異人館 堂本捷二
鯉のぼり染二曲 広瀬節子
屏風
手織錦孔雀 (参) 山鹿清華
の宮屏風
漆器初夏之花屏 小森克己
風
染彩屏風ス 依) 皆川月華
ワシ
双華図漆小 (依) 番浦省吾
屏風
候鳥乾漆鉢 (審) 本間薺華
蝶文手宮 (参) 大須賀 喬
潤和盤 (参) 香取正彦
鍍銅鳳耳壺 (依) 北原三佳
彫金象笹魚 (参) 三井義夫
文花瓶 (依) 佐藤陽雲
乾漆花生 (依) 佐藤陽雲
花 籃 (参) 飯塚琅玕齋
浴光鉄 打出置 (北斗賞) 小林尚珉
物
暁招花瓶 (参) 楠部弥式
斜線文青 (審) 實松崎福三郎
銅花瓶 (審) 清水六兵衛
双華飾皿 (参) 井上治男
白瓷花瓶 (特) 井上治男
押出双鳥置 (依) 信田 洋
物
青釉花瓶 (依) 米沢蘇峰
海辺蒔絵 漆器 勝田静璋
小棚

赤銅花器 (審) 海野建夫
陶器流転 (参) 河村靖山
彫金白鷺鳥 (依) 介川芳秀
飾皿
盛上磁莖蒲 (参) 宮之原 謙
花瓶
胡蝶蘭宮 (審) 河合秀甫
龍文象笹花 (特) 帖佐美行
瓶
青銅花瓶 (参) 審内藤春治
語らい (参) 審前 大峰
衛立
陶器流転 (審) 河村喜太郎
浮 雲 (審) 平田郷陽
牛 (会) 審海野 清
黄磁枇杷彫 (会) 板谷波山
文花瓶
青銅花入 (会) 審高村豊周
新雪窓花瓶 (会) 清水六和
鍍銅置物 (参) 杉田禾堂
象 香 炉 (依) 沼田一雅
野 火 (会) 岩田藤七
晚秋図染色 (依) 談議所栄二
二曲屏風
棚
菊之棚 (会) 松田権六
三曲屏風 (参) 吉田源十郎
染屏風「溪流」 (特) 喜多村栄太郎
浄物六題 (参) 福沢健一
華礼讚 (審) 山岸堅二
池漆屏 (北斗賞) 中野謙二
風
染二曲 (依) 高久空木
望 洋 (特) 酒井光閑

ローケツ屏 (特) 佐野 孟
風景
青 空 (審) 小合友之助
鍍銅春閑 (審) 山室百世
小壁の裝飾 (依) 大坪重周
漆 猫 柵 室瀬春二
双葉の夢壁面飾 三田村秀雄
「松」小屏風 武石 勇
綴織スクリーン 信田 礼子
蝶紋着物 (無) 二口志保子
染 着 物 (依) 木村雨山
朝 敦 (参) 吉田醇一郎
縞 花 器 河合誓徳
漆屏風たそがれ 小田原俊雄
透光組子衛立 原 稻生
「山湖」
水温小屏風 純木陸二
湿原の華 音丸 淳
平文之棚 大場松魚
花菖蒲スクーン 河合久仁雄
閑庭 衛立 山田 豊
雉 衛立 (特) 佐藤貞一
棚「潮騒」 八木 一
華 (漆藝六 依) 六角頼雄
角小宮
竹小屏風 (特) 飯塚小珣齋
彫漆合唱之 (依) 磯井如真
図硯宮
彫金水指 (依) 鹿島一谷
四君子蒔絵 (依) 三田村自芳
茶箱
線文花 (北斗賞) 清水 洋
器
清 爽 川 上 南 甫
加賀象笹隨 (依) 高橋介州
神置物

印花魚文壺 (依) 叶 光夫
広間の花器 (依) 芳武茂介
三面 鏡 吉田左源二
スクリーン 田中 勇
花垣小屏風 川端三義
うば百合飾柵 河合匡造
黒百合刺繡小屏 渋谷金一郎
風
紋様蒔絵書 (無) 山崎立山
棚
「ういき」染小び 広川青五
より風 小泉竹雄
刺繡小屏風 (入 仙花) 森棟澄子
かいう (額) 野村和人
染色小屏風「茗荷」
七宝焼パネル 会田雄之助
「秋」
寄木造小屏風 氷見晃堂
パネル (初秋の カンナ) 武田武弘
神 話 (審) 般若若弘
モザイク壁 (審) 板谷梅樹
面裝飾
石影漆二曲 (依) 小松芳光
屏風
漆パネル女 (依) 佐治 正
漆額「踊り」 (依) 高橋節郎
杉の図小屏風 寺井直次
漆パネル「トルソ」 榎木 盛
飛 天 (特) 染川鉄之助
飾 棚 伊藤裕允
壁面裝飾「坐る 女」 三橋国民
打出し小屏風 田中長次郎

紫苑花瓶 (依)河合米之助
 龜 (依)山脇洋二
 雕銀彫金 (參)二橋美衡
 冠鳩置物
 捧げ物 (依)堀柳女
 彫漆飾 宮音丸 鶴
 透彫紋磁器 (依)鴨政雄
 置物 (依)佐藤潤四郎
 立つ(ある)勤労者
 サナトリウムの
 ホールの為に
 瓶 錦鱗譜 (依)宮坂房衛
 縦線花器 (無)岸沢武雄
 童心(ケン
 ボーズ) (審)浅見隆三
 彫漆水鳥の図飾 小口正二
 宮
 草花花花瓶 (依)鴨幸太郎
 氷洋の幻想 (依)蓮田脩吾郎
 梅 蔦染屏風 芳浦美好
 渚手織錦壁 (依)中村鵬生
 掛
 菫薔薇之図 岡田章人
 刺繡二曲屏
 風水を入れ (參)岸木景春
 吹硝子花瓶 山下砂雄
 なまず香炉 渡辺紫鳳
 陶器藍九谷華紋 宮崎光星
 花瓶
 銅水鳥花器 松沼永寿
 風炉先屏風 中田錦石
 江戸団扇料 (依)天下雪香
 紙箱
 長方花籃 田辺竹雲齋
 の 都 横山朝陽

彫漆静海文様 香川揮山
 飾宮
 波(盛夏)風呂先 生野祥雲齋
 網巴文
 四方形 (北斗賞) 晶 春齋
 釜
 彫漆した紋
 様菓子器 (依)音丸耕堂
 発芽文花瓶 加藤滝川
 狸ヶ草彫漆定紙 佐藤実夫
 宮
 陶、たたきの花 中里忠夫
 生
 志野釉彩平瓶 加藤舜陶
 青銅 壺 西大由
 桑菱紋彩刻卓 今藤晴一
 人形雪ばれ 下口宗美
 双海老銀打 (依)河内宗明
 花瓶
 銅花器 須賀謙蔵
 竹風炉 先田中簗齋
 白磁 盛器 鼎 多須良
 からたち漆手箱 小沢裕
 ペリカン(置物) 三井安蘇夫
 「蛙」噴水器 枝坂辰治
 銀胎七宝彩華文 井尾敏雄
 箱
 桑華脚 几 稲木東千里
 青銅花 盛 斎藤玉城
 砂 張 壺 横倉嘉山
 遊魚紋花瓶 岡本和郎
 宴 庭 阿部なを
 花紋染付大皿 青木龍山
 漆器燕子花文庫 萩原青陵
 祭り文花壺 栗木伎茶夫
 彫漆遊魚文飾宮 常盤木隆正

鑄銅遊魚文花瓶 能勢政雄
 陶器狐置物 山田朝春
 乾漆葦鹿置物と 久保金平
 卓
 色絵群翔図鉢 武腰善太郎
 硯たわわれ (依)雨宮静軒
 千珂の青い器 那智滝子
 蠟型鑄造風神雷 須賀松園
 神文火鉢
 秋 声 岡山 喬
 盛 籃 阪口宗齋
 麥 秋 花 器 大丸谷辰男
 影金赤銅消象笈 添田 勇
 皿
 白磁花瓶 長谷川 勇
 しだ紋様釜 角谷 村
 線文花器 豊田勝秋
 青銅花器 中谷 夫
 鳥 模 様 皿 中島 実
 菱文象笈飾宮 金江宗観
 パネル花籠を持 宮窪博菴
 つ女
 春 昼 大久保婦久子
 「雑木林」書棚 鈴木雅也
 朝顔屏風 金子政美
 刺繡壁掛ローラ 酒井栄一
 跳 躍 (依)山形駒太郎
 湊 高山 誠
 蠟染オリッ (無)岸田宗三郎
 クス
 染屏風神苑之図 籠山竹司
 蒔染屏風「静物」 木母正一
 剥 製 室 黒田 暢
 えもの(壁面) 伊勢珠子
 (視) パネル 横山一夢

七絶二首 山野象東
 玉華 宮 浅見錦龍
 白詩三首 天石東村
 寒山詩 友井篁村
 龍湫の歌(陸放翁詩) 川崎泉陽
 良寛詩二首 船橋頌城
 江樓夕望招客 太田左郷
 送鶴翁之武昌 松内楚翠
 賦得姑蘇台送 中塚宜風
 賈文字騷 高木大鳩
 杜甫二首 高木大鳩
 李白詩 榎木方石
 蔣曙來登岱詩 松田岱齋
 安 禪 上松義山
 陶湫明の詩 伊藤樵舟
 寒山詩二首 中野蘭晴
 桃花源詩 新井古桐
 杜甫五律二首 高井望山
 智欲円行欲方 藤田霞畦
 宣城登望 山本興石
 杜甫詩 成田塊東
 雉 樵 箭 古谷蒼韻
 於王撫軍坐送 葎田真斉
 客 歸田園居 中川雨亭
 題申季篔簹李伯 篠塚新峯
 時圃邸田菜図 唐詩登高工藤蘭山
 登獄二首 渡辺何有
 燕 詩 平野移曉
 送友 人 鈴木桐華
 李太白古風三首 小林孤愁

臨 風 今井春泉
 醉古堂劍掃語 比企野起延
 和姚給事寓直之 前川静堂
 漢詩二首 石橋梅碩
 唐詩七律二首 杉原丘南
 陸游詩遊山西村 大月海山
 雲仙二首 安永龍峯
 七 律 上村春莊
 李太白詩 宇高示穹
 唐 詩 関口芳岳
 王陽明詩 重松因南
 月夜与客飲杏花 八代常山
 杜甫の詩 藤原清洞
 登 樓 北田岳洋
 宿靈隱寺梵香閣 曉起望眺詩 水原玉舟
 白樂天七言待詩 塚本思陽
 高青邱詩 田畑昭典
 良寛詩 村瀬城北
 遊子吟 綾村坦園
 菜根譚 野田春華
 宮中行樂の詞二 松永凌雲
 首
 陸放翁秋夜二首 田辺皓翠
 辛 苦 菅野清峰
 松田学鷗詩 長谷川悟石
 李白の詩 中野孤雲
 陶淵明詩 大橋堯山
 唐詩三首 野田松庵
 寒山詩 井野大雲

韓愈詩原撲風
李白清平調詞高井雲海
下夜与客飲杏花
月夜与客飲杏花
關山月中芝竹
白杜牧の詩九口齊西島東觀
山登高詩田中栢翠
唐八月十五夜禁中龜井清堂
直對月憶元九山口清苑
松汀賦に題寸
白香山七律太田京子
白詩七律三首大森雅水
下終南山過斛藤永大湫
斯山人宿置酒
西山の歌池田松堂
秋日閑趣大沢松亭
李白詩三首杉山紫水
秋雨院中有作山崎菱洞
寒山詩河村素史
杜甫五言古詩山本激堂
摩詰詩岡本雪麟
白衛詩岡本靜庵
彭衙行沢田大暁
後出塞高須翠雲
買花詩高須翠雲
山中仙室あり阿谿莊
色寬詩森下南窓
山陽樓記鈴木龍雲
唐詩五古萩原龍頤
張九齡詩影山磐溪
白樂天詩高木天祐
白樂天朝回遊野津閑水

与蘇伯固唱和張說之詩滄湖の山寺小森潔美
西山安田東庵
高青邱詩渡辺秀華
秋晴見天際飛鴻有感八木泰翠
白樂天の詩藤田蒼頤
杜甫ノ詩(夜)甫田茂
杜甫之詩(二首)甫田茂
古硯銘松田江畔
白樂天詩藤岡九波
文天祥平原過之詩上松杜賜
玉華宮上田耕耐
明妃曲黑川研水
飲中八仙歌佐々木春芳
白詩松声吉田豊照
李白詩関根薰園
宿洞簾江寄広陵旧遊中芝軒
初秋寄子由李太白五言律詩中村雨城
東坡詩小出聖水
燕詩示劉昇松永凌雲
結言律盧藤原鶴來
七言律川上拍翠
白樂天詩石川南耕
杜甫詩高都護廳馬行川浪清漣
杜牧、山行之詩遠藤相洲
杜杜二拾遺に寄中平南海
玄會稻葉松雲

延命十句觀(依)音經(鑄印)関野香雲
中原佐一郎中原野呂
清琴横床入江水声
射虎不勞没羽石川南溪
世事同蕉鹿定森雪堂
野性從來与世陳俗塵自不剩吾盧(依)内藤香石
陶然方外樂新井啞鹿
杜甫裏江頭上田晚雲
拾遺和歌集抄細見清枝
般若心經藤本竹香
そこの道宇賀寿子
會津八一の歌山口古堂
啄木歌抄古牧勝治
金槐和歌集抄墨谷華
飲中八仙歌津田翠岱
懷塗詩春夕旅花田峰堂
春和聖製從菜向興慶関道中留春雨中春野之作花巻景山
西園興貞広春山
灌園題花安原早雲
西寺留題大橋富峯
蘇東坡古詩井上澄慶
白樂天詩二首稲村雲洞
過五言律嶺伊東參州
五言律詩杉山泰雅
陶弘景語斎藤丹鶴
七言律詩一首冲野逸堂
秋の日の渡辺寿和子
仏説阿弥陀經松崎春川
古今集抄石川敏子

篆書、李太白詩森岡峻山
王右軍江上吟(李白)吉田桂秋
山家集抄刀谷恒子
相方觀梅高尾(泉石)敬
杜甫詩村寄鴨畦
唐詩織田子鶴
白羽扇七丈南豊
南圃中題奥村龍雲
人日登台水本和堂
李太白官中行樂高橋蒼峰
詞大雪櫻井琴風
高青邱詩望月祥堂
真山民の詩渡辺錦舟
夜太白詩相原墨峽
杜甫七律荻順北葦
李太白詩武馬岳陽
寒山詩松田鶴山
後撰和歌集抄村上桃舟
金槐和歌集抄山下仁輔
後撰和歌集抄山中海庵
確鶴行田中慎齊
遊仙太田慎齊
把酒問月毛利柳村
秋登巴陵望洞庭水本愛堂
李白詩森皎如
謝在杭語二則倉持濤峰
良寬詩佐々木如空
杜樊川詩(前)近藤秋篁
白樂天詩(前)印南溪龍
富の緒川の(前)田中塊堂
歌根譚(依)德野大空

古今和歌卷第十 木村笛風
二拾遺集横田益子
後拾遺集氏田芳夫
白樂天問居(買)森田翠香
自題詩
李白詩独酌中平南谿
李嬌詠松詩(參)川村驥山
李笠翁詩(會)審豊道春海
摩詰林園(參)審辻本史邑
即事
遠山渡辺貞子
後拾遺集抄東野美周
詣伊勢大廟(依)中村春堂
山家集馬場清香
參同契(依)沖六鷗
春光(特)谷辺橋南
後拾遺和歌集抄小沢寿明
五言律弦卷松蔭
孟浩然詩(五言排律)陪張丞相自松滋江東泊清宮陪張丞相
然頌云 泉原寿石
王建田家行(特)中村旭坡
即士元七言律詩岡本白濤
唐詩三首守時大融
飲中八仙歌(杜)竹沢江東
甫)詩兼松泛香
唐詩詩廣津雲仙
杜甫詩詩加藤光城
七言古詩杉岡華山
山家集抄(特)中林子鶴
岑參詩南溪

公忠集	山本御舟	咸陽城東樓	平岡朴齋	山石	小島釣舟	高青邱詩	(依)村上三島	海の沖	(無)増田節堂
明高青邱詩、菊	栗原蘆水	王維五言詩	辻本翔鶴	祝日のうた	柘	細谷川	(依)内田鶴雲	今古和歌集第十	高田尾舟
鄰	杜甫詩支都壇歌	吹笛(七言律)	岩谷青海	清詩五律	荒井君石	ありあけ	源元芳子	十一・十二	式子内親王の歌
日	月星奥田家山	王陽明詩三首	川上清亭	杜牧詩二首	大森万里	李太白詩	(審)青山杉雨	萬葉集抄	川北春江
慈姥磯何遜詩	栗田玉翠	望	門墨谷鶴村	王維詩二首	米倉大謙	見宝塔品	北垣元康	萬葉集抄	塩谷南莊
杜甫詩	杉本長雲	般若心經	(無)阿部珂山	下	夜与客飲杏花	林	錦洞	つゆのよ	前島松軒
白詩松声	(無)西村桂州	夜投西寺、他一	曾根桂泉	寒山詩	三田清白	みこのう	(參)安東聖空	朝忠集抄	深山龍洞
交崖山を発寸	小西翠山	張九齡五言古詩	江川蒼竹	白樂天詩	三村秀竹	陸放翁句	(審)松井如流	永	日大石隆子
陳子昂之詭二首	大岡皓崖	西	山米田玉泉	塞下	曲白井聖雲	建礼門院歌	仲三千人	元真集抄	(無)浮乘水郷
梧竹雜詠四首	平川朴山	唐詩	不知	代悲白頭翁	泰	須磨	(依)羽田春莖	和泉式部日記よ	赤石道子
(杜甫)石	龜細貝映洲	陳孚五言律詩二首	戸田提山	唐詩	津村枕石	藤	衣	清	正
杜甫之詩夏	(特)近藤撰南	李太白詩	新井霞亭	漱石の詩	二首	津村枕石	寒	萬葉集	歌
日李公見訪	工藤愚庵	蘇軾登州海市詩	堀田翠堂	香	具	山奈良島ま	名	元義のう	た
高青邱詩	工藤愚庵	李太白詩	椎木迂厓	古今集の歌	(審)鈴木梅溪	醉客滿船	(參)審	若	明
蘇東坡詩送李	山田清卿	對	山田菱鷺	話	山雲海	わが宿	(依)桑田篁軒	兼	盛
送母路上短歌	小菅秩嶺	河橋張船山	高木幹太	月情	(依)柳田泰雲	西行法師の歌	萱沼貞石	野	辺
月下	獨酌藤野南泉	陶淵明詩	鈴木天城	水天一碧	(依)上田桑鳩	最上	川池田烏川	良	寛
良寛詩四首	小川南流	あら磯の波	平勢雨村	陸放翁詩	(依)小坂奇石	山家集抄	西井林亭	白	居易
登覽	(天台の	感	佐野松岳	奈	手兒	山家集抄	田中江舟	燕	詩
曉望	鬼頭大愚	李白五言古詩	桜井松居	董	生	山家集抄	西井林亭	陋	室
江上	吟中野白盧	元政上人詩	淺見寛洞	雄	飛	山家集抄	田中江舟	四	首
李太白詩	林雪骨	司馬溫公真率銘	桑沢子雪	無	尾	牛歌	(會)審	李	白
白樂天冬初	(無)佐藤祐豪	王維過香積寺	吉田浩堂	劍	掃	語	(特)審	西	行
酒熟二首	片山鶴風	良	寬	楚	辭	九	介	秋	行
鄭審	詩片山鶴風	李白作七言古詩	大坪籃海	虚	と	とき	ぎ	伊	勢
宋詩	三首	神谷葵水	吉田栖堂	楚	辭	九	介	秋	行
杜甫詩新婚別	岩間祥霞	許	渾	秋	雨	晴	前	高	塚
良寛詩	(隅作二	秋	雨	秋	雨	晴	前	高	塚
摘録	重誓	花山春霞	元積詩	鄂州宮殿	調宅	感	情	を	反
岑	參	詩	原田青邨	感	情	を	反	さ	し
咸陽懷	古	谷村意齋	鶺鴒	昭	子	鶺鴒	昭	子	

錢起の詩 北村九昇
 出 門 石黒臥龍
 杜甫七言古詩 小川竹城
 人日寄杜二拾遺 尾崎邑鴨
 竹 窓 神崎紫峰
 陸 游 詩 今井凌雪
 透網鱗 (依) 生井子華
 懷古何深 (審) 松丸東魚
 載鬼一車 (依) 梅 舒 適
 鐵硯磨穿 久保田大郷
 是心作仏 水野東洞
 午睡律詩 (審) 石井雙石
 乾坤鉄漢子 伏見冲敬
 東西南北人 伊東快堂
 魚游釜中 中村 淳
 自 在 (依) 保多孝三
 馬 生 角 吉野松石
 羊質虎皮 松谷石韻
 手搏猛獸 (特) 森 田 伝
 歲月不待人 富樫休軒
 驢服 塩車 杉本翠鳳
 復歸于嬰兒 (參) 中村蘭台
 澡身浴德 金山 鑄 斎
 壺中乾坤 山田 桃 源
 沙裏淘金 殿木 春 洋
 泰 敬 (參) 園田 湖 城
 拈花悟禅心 内藤 江 月
 左 盃 右 刀 柳 沢 小 舟
 涵之如海 田淵 晏 齋 京
 一 狐 之 腋 小 林 斗 齋
 游 魚 出 聰 佐 藤 桃 巷
 鬼 哭 神 号 大 久 保 翠 洞
 無 味 之 談 土 谷 雲 盧

余花落処満地和 外口 暁 齋
 煙雨
 焚香点茶心 (依) 高畑 翠 石
 如水
 與 世 推 選 中 静 魯 公
 (遺作室)
 は な か ご 故 広 川 松 五 郎
 水 園 戲 故 矢 沢 弦 月
 草 紙 洗 小 町 故 上 村 松 園
 宵 月 故 案 本 一 洋
 花 之 山 文 庫 故 堆 朱 楊 成
 刀 筆 芦 刈 故 六 角 紫 水
 み み づ く 故 津 田 信 夫
 双 魚 故 北 原 千 鹿
 打 毬 梁 故 山 崎 朝 雲
 写 真 真 故 清 水 澄
 持 国 天 哉 岡 野 聖 雲
 み み づ く 香 炉 故 香 取 秀 真
 紅 螺 線 文 花 瓶 故 大 森 光 彦
 鯨 遊 図 故 南 薫 造
 梅 林 故 小 林 萬 吾
 初 秋 林 故 吉 田 博
 初 秋 の 池 故 太 田 喜 二 郎
 梅花図 鍍金印 櫃 故 清 水 南 山
 木 瓜 手 宮 故 高 井 白 陽
 ハッピーコート 故 坂 井 霞 洞
 和 歌 雙 幅 故 吉 沢 義 則
 2 回 京 都 陶 藝 博 覧 會 展 29 11
 月 3 銀 座 ・ 松 屋
 黛 鏡 倉 彫 展 29 30 銀 座 ・ 天
 地 堂 ビル 二 階
 田 中 太 郎 近 作 陶 磁 器 と 油 絵 個 展
 29 11 月 3 大 阪 ・ そ こ う

二科会展 29 11 月 14 大 阪 市
 立 美 術 館
 ロルジユ、モツテ 夫妻 近 作 展
 30 12 月 19 鎌 倉 ・ 近 代 美 術
 館 (批) 読 売 11 月 3 (滝 口 修
 造) 毎 日 11 月 4 (土 方 定 一)、
 東 京 11 月 21 (岡 本 謙 次 郎)、毎
 日 11 月 30 (瀬 木 慎 一)
 現 代 大 家 油 絵 展 30 11 月 4
 大 阪 ・ 三 越
 美 術 文 化 秋 季 展 30 11 月 3
 名 古 屋 ・ 文 天 堂
 安 田 謙 洋 画 展 30 11 月 3 京
 都 ・ 朝 日 画 廊
 一 一 月
 苗 村 武 雄 個 展 1 6 養 清 堂
 7 回 椿 会 洋 画 展 1 6 資 生
 堂
 5 都 連 合 日 本 画、洋 画 展
 1 2 東 京 美 術 俱 楽 部
 現 代 美 術 協 會 五 人 展 1 6
 文 房 堂
 19 回 創 立 記 念 多 摩 美 術 大 学 校 内
 展 1 3 多 摩 美 大
 新 倉 喜 作 個 展 1 10 タ ケ ミ
 ヤ
 油 野 誠 一 個 展 1 7 美 松 画
 廊 (批) 美 術 批 評 12 月 (瀬 木
 慎 一)、ア ト リ エ 30 年 2 月 (江
 川 和 彦)
 い は さ き か つ ひ ら 女 十 二 題 展

1 6 中 央 公 論 社 画 廊
 紫 光 会 展 1 6 和 光
 玄 々 社 彫 金 工 藝 展 1 10 和
 光
 2 回 造 型 集 団 展 1 7 村 松
 ギ ャ ラ リー
 正 倉 院 御 物 展 1 14 奈 良 国
 立 博 物 館
 新 制 作 展 1 14 京 都 市 美 術
 館
 松 方 コ レ ク シ ョ ン 浮 世 絵 版 画 展
 1 14 神 戸 市 立 美 術 館
 久 保 コ レ ク シ ョ ン 西 洋 版 画 展
 1 7 大 阪 ・ 梅 田 画 廊
 原 本 季 男 個 展 2 6 サ エ グ
 サ (批) 美 術 批 評 30 年 1 月
 (瀬 木 慎 一)
 ス ゴ ン ザ ッ ク エ ッ チ ン グ 展
 2 16 光 風 会 館
 4 回 青 晴 会 洋 画 展 2 6 フ
 オ ル ム
 横 山 大 観 日 本 画 展 2 7 日
 本 橋 ・ 三 越 (批) 産 経 8 (金 子
 義 男)
 河 井 寛 次 郎 新 作 陶 磁 展 2 7
 日 本 橋 ・ 高 島 屋
 染 色 と 革 の 工 藝 展 2 7 新
 宿 ・ 伊 勢 丹
 3 回 洛 風 会 日 本 画 展 2 7
 上 野 ・ 松 坂 屋
 5 回 教 職 員 美 術 展 2 7 洪
 谷 ・ 東 横
 26 回 青 龍 社 展 2 7 大 阪 ・

大 丸
 青 龍 社 小 品 展 2 7 大 阪 ・
 大 丸
 3 回 青 木 大 乘 個 展 2 7
 大 阪 ・ 高 島 屋
 七 番 館 工 藝 品 展 2 7 大 阪 ・
 阪 急
 現 代 日 本 美 術 30 入 展 3 10
 日 本 橋 ・ 高 島 屋
 日 本 民 藝 協 會 展 3 29 日 本
 民 藝 館 (記) 東 京 9
 武 蔵 野 美 校 教 授 展 3 12 札
 幌 ・ 大 丸
 藤 田 美 術 館 公 開 秋 季 展 3 12
 月 5 藤 田 美 術 館
 デ ザ イン 展 4 7 東 京 藝 大
 図 案 部 教 室
 弦 田 英 太 郎 滯 仏 作 品 展 5 10
 日 本 橋 ・ 白 木 屋
 勁 草 会 展 5 10 銀 座 ・ 松 屋
 一 水 会 展 5 14 大 阪 ・ そ こ
 う
 1 回 錦 虹 会 日 本 画 展 5 10
 東 京 ・ 大 丸
 九 熾 会 陶 藝 展 5 10 東 京 ・
 大 丸
 神 奈 川 モ ダ ン ア ー ト 研 究 会 展
 5 8 大 貫 ギ ャ ラ リー
 (批) 美 術 批 評 12 月 (中 井 幸 一)
 万 人 の 為 の 展 覧 會 5 20 大
 阪 ・ フ ジ カ ワ 画 廊
 清 方 ・ 深 水 ・ 紫 明 風 俗 画 展 6
 1 11 大 阪 ・ 三 越

尚美展 7-14 銀座・松坂屋
 6回鎌倉市展 7-14 鎌倉・中央公民館
 勝田寛一個展 7-13 文房堂
 [批]美術批評12月(東野芳明)、アトリエ30年2月(江川和彦)
 日向裕個展 7-13 フォルム
 [批]美術批評30年1月(瀬木慎)、アトリエ30年2月(江川和彦)
 今洋子個展 8-14 美松画廊
 岸田劉生小品展 8-13 中央公論社画廊
 水谷淳個展 8-13 養清堂
 産業工藝試験所工藝技術展 9-14 渋谷・東横
 新制作協会家具展示会 9-14 渋谷・東横
 鳥取民藝協団新作展 9-14 渋谷・東横
 高村豊周作品展 9-14 日本橋・三越
 1回対象鍍金工藝展 9-14 日本橋・三越
 飯山勇、白根光夫油絵展 9-14 日本橋・三越 [批]アトリエ30年2月(林武)
 高松健太郎個展 9-13 サエグサ
 3回潮会洋画展 9-14 上野・松坂屋

磁器展 9-14 たくみ
 PANグループ展 9-14 大阪・阪急
 上口愚朗陶盤百趣展 9-14 日本橋・高島屋
 大阪美術工藝展 9-12 大坂・大丸
 春陽会展 9-14 福岡・岩田屋
 黒田頼綱個展 10-13 資生堂
 [批]美術批評12月(東野芳明)、アトリエ30年2月(江川和彦)
 3回丹匠会工藝展 10-17 新宿・伊勢丹
 佐藤多持個展 10-15 三省堂画廊 [批]アトリエ30年2月(堀田清治)
 恒松呂休作品展 10-12 日本工業倶楽部
 ステューベンガラス会社圖案応募作品展 10-20 アメリカ文化センター
 藤松博個展 11-20 タケミヤ加藤陽油絵個展 12-15 日動画廊
 再興4回秋季新興美術院展 12-17 銀座・松屋 [批]時事18
 6回青壺会油絵展 12-17 銀座・松屋
 現代彫塑大家展 12-17 東京・大丸

浅野竹二、笠松紫浪、河原崎斐堂新作版画展 12-17 銀座・松屋
 グループ・プレゼン展 12-14 佐世保・文化館
 朝倉文夫回顧展 13-21 日本橋・高島屋 [記]毎日21、朝日11月14(朝倉撰)、毎日11月17(田近憲三)
 清長名作展 13-23 日本橋・白木屋
 新工藝協会らんぶスタンドの会 13-20 和光 [批]美術批評30年3月(浜村順)
 ゲンビ展 13-18 大阪・松坂屋 [批]美術批評30年1月(中村義二)
 3回武田一路日本画個展 13-14 東洋音楽短大講堂
 靖国神社奉納露麗展 14-16 靖国神社拝殿前
 眞鍋博個展 15-20 養清堂
 佐伯米子個展 15-18 資生堂 [批]時事18、アトリエ30年2月(江川和彦)
 上野春香油絵個展 15-21 美松画廊
 1回蒐集会同人展 15-19 村松ギヤラリー
 原精一デッサン展 15-20 東京画廊
 西村憲定個展 15-20 中央公論社画廊

3回大観、玉堂雙壁展 15-24 銀座・松坂屋
 独立協会美術展 15-24 大阪市立美術館
 国画会秋季展 16-21 日本橋・三越 [批]東京19(岡本謙次郎)
 リーチ滞日作品展 16-21 日本橋・三越 [記]毎日16、19(益田義信)、朝日19(梅原龍三郎)
 松方コレクション写真展 16-21 日本橋・三越
 奈良県工藝展 16-21 日本橋・三越
 丁亥会日本画展 16-21 上野・松坂屋
 4回麗人展 16-20 日本橋・丸善
 7回白寿会展 16-21 日本橋・高島屋
 織田広喜、リラ二人展 16-20 文房堂 [批]美術批評30年1月(東野芳明)
 杉全直個展 16-20 フォルム
 松葉清吾水彩画展 16-21 大阪・阪急
 二紀会展 16-25 京都市美術館
 自由美術展 16-25 京都市美術館

「現代の眼」日本美術史から16-30年1月30 国立近代美術館 [批]東京12月10(大河内信敬)、[記]日経22、朝日28
 日展受賞者展 17-30 光風会館
 美鳳会日本画展 18-24 新宿・伊勢丹
 戸田浩堂個展 18-24 新宿・伊勢丹
 横山大観新作展 ↓18 大阪・三越
 阪・三越
 杉本哲郎宗教画展 ↓18 大阪・松坂屋
 1回青玄会工藝展 19-24 東京・大丸
 中島弘二漫画展 19-24 三省堂
 2回秋陽美術展 19-24 銀座・松屋 [記]時事20、22
 棚橋紫水個展 19-25 松島ギヤラリー
 東西大家日本画展 20-28 渋谷・東横
 品川工版画、カラープリント作品展 21-30 タケミヤ
 3回前木会染織展 21-30 萩窪、いづみや工藝展
 田部井石南個展 22-27 日本橋・丸善
 6回新世代展 22-28 美松画廊 [批]アトリエ30年2月(江川和彦)

武者小路実篤個展 22—27 壺
中居
中間冊夫、佐川敏子二人展 22
—27 養清堂〔批〕美術批評
30年1月(瀬木慎一)
西田勝個展 22—27 サエグサ
2回七宝新作品展示会 23—30
日本橋・高島屋
東陶会新作陶展 23—28 日本
橋・三越
加藤土師前作陶展 23—28 上
野・松坂屋
12回野水会日本画展 23—28
日本橋・高島屋
川合修二作陶展 23—28 日本
橋・高島屋
4回川端龍子「奥の細道」連作展
23—28 日本橋・三越〔批〕
時事27
東西大家日本画展 23—28 日
本橋・三越
後藤敬一郎個展 23—28 名古屋
丸善
佐藤大寛日本画新作展 23—28
大阪・阪急
鈴木猛人個展 23—28 大阪・
阪急
稀星会油絵展 23—28 大阪・
高島屋
独立展 23—12月7 京都市美
術館

遠藤敦三個展 24—27 資生堂
〔批〕サン27(金子義男)、時事
27
浜田知明銅版画展 24—29 フ
ォルム〔批〕朝日12月4(福
島繁太郎)、美術批評30年2月
(東野芳明)
美鶴会日本画展 25—12月1
新宿・伊勢丹
二紀会展 25—12月6 大阪市
立美術館
錦木清方スケッチ展 26—12月
1 日本橋・白木屋
青山義雄在仏作品展 26—12月
1 東京・大丸
沈雁冰歌作展 26—12月1 銀
座・松屋〔批〕朝日18(河北
倫明)、時事27
佐久間藤太郎作陶30周年記念展
26—30 たくみ
2回彫塑展 日本彫塑家クラ
ブ関西支部 26—30 京都
府ギャラリー
七鬼会展 27—12月3 文房堂
新しき村美術小品展 ↓27 兜
屋
小園千浦個展 ↓27 日本
橋・高島屋〔批〕時事27
パン・リアル展 28—12月15
京都市美術館〔批〕美術批評
30年3月(中村義一)

一路居士父子展 29—12月4
中央公論社画廊
フアウレ原田個展 29—12月
1 美松画廊
山下登個展 29—12月4 養清
堂〔批〕美術批評30年2月(瀬
木慎一)、美術手帖30年2月
(東野芳明)
今日のフランス展(写真ボス
ター) 29—12月4 日本橋・
丸善
ゆかり染手工藝展 30—12月5
渋谷・東横
加藤溪山古稀記念作品展 30—
12月5 日本橋・高島屋
春陽会々員展 30—12月5 日
本橋・高島屋
坪井鶴吉個展 30—12月4 資
生堂〔批〕アトリエ30年2月
(山口薫)
1回新美術協会展 30—12月5
上野・松坂屋
マチス展 30—12月19 プリデ
ストン〔記〕日経5、サン5
(金子義男)
真葛香齋新作展 30—12月5
大阪・阪急
二紀会小品展 30—12月5 大
阪・阪急

一二月

八木一夫陶器個展 1—6
フォルム〔批〕美術批評30年
3月(浜村順)、みづる30年3
月(植村鷹千代)
森村惟一個展 1—10 タケミ
ヤ〔批〕美術批評30年2月
(瀬木慎一)
13回明治会展 1—5 日動画
廊
8回流形派遣型展 1—5 日
比谷画廊
光風会員デッサン展 1—13
光風会館
方来居日本画展(安井、梅原、
坂本) 1—5 日本橋画廊
尚美堂小品展 1—4 壺中居
白寿会展 1—5 大阪・高島
屋
1回府市美術展 1—5 別
府公民館
新算会日本画新鋭作家展 2—
7 新宿・伊勢丹
7 新宿・伊勢丹
連蝶会蠟染展 2—7 村松
ギャラリー
大観日本画展 2—7 日本
橋・三越

丸山石根色紙展 2—7 大
阪・淀屋画廊
勝呂忠個展 3—9 美松画廊
〔批〕読売26(植村鷹千代)、み
づる30年2月(岡本謙次郎)、
アトリエ30年2月(江川和彦、
美術手帖30年2月(徳大寺公
英))
丹阿弥吉日本画展 3—7
日本橋・白木屋
皆川泰蔵和染民家展 3—8
東京・大丸
18回大潮会展 3—18 東京都
美術館
幸形栄治個展 3—5 米子・
駅前画廊
ルドン展 4—8 求龍堂画廊
〔批〕日経6(福島繁太郎)、毎
日7(久保守)、東京10(岡本謙
次郎)、サン11(金子義男)アト
リエ30年2月(江川和彦)
川端龍子奥の細道展 4—9
大阪・三越
7回全国勤労者美術展 5—18
東京都美術館
池田龍雄個展 5—11 大分・
キムラヤ
石原薫個展 5—9 京都・朝
日画廊
10回鳳会展 6—10 日動画廊
赤星孝、坂本善三二人展 6—
9 資生堂〔批〕アトリエ

30年2月(江川和彦)

青美会ロウ染作品展 6-8

養清堂

彩雲会同人作品展 6-11 中

中央論社画廊

猪熊弦一郎近作油絵小品展

7-11 サエグサ

白日会々員展 7-12 日本

橋・高島屋 [批]時事11

サロン・ド・ジュワン展 7-12

日本橋・丸善 [批]みづゑ30

年2月(針生一郎)、アトリエ

30年2月(江川和彦)

カワラ・オン・デッサン展 7-

13 日比谷画廊 [批]美術批

評30年3月(瀬木慎一)

浜田庄司新作陶展 7-12 日

本橋・三越 [批]サン12(金

子義雄)

初霧会展 7-12 日本橋・三

越

四回芝英会日本画展 7-12

日本橋・高島屋

柿右衛門、色鍋島、古伊万里の

会 7-12 日本橋・高島屋

昭和物故大家名幅展 7-12

上野・松坂屋

田能村竹田百二十年祭記念展

7-12 日本橋・高島屋

半弓会日本画展 7-12 大

阪・阪急

勝尾青龍洞陶藝展 7-12 大

阪・大丸

杉全直個展 8-13 フォルム

[批]説光26(植村鷹千代)、美

術批評30年3月(瀬木慎一)、

みづゑ30年2月(針生一郎)、

アトリエ30年2月(江川和

彦)、美術手帖30年2月(植村

鷹千代)

田中忠雄個展 8-10 丸の

内・工業倶楽部

二十一世紀青年協会美術展

8-13 村松ギョウラー

互井開一水彩画個展 9-13

日本橋・白木屋 [批]時事11、

産経11

きずな会展 9-13 養清堂

[批]美術批評30年3月(瀬木

慎一)

あざみ会ロウケツ染工藝展

9-14 新宿・伊勢丹

中山正子個展 9-13 養清堂

山川清小品展 ↓13 大阪・

梅田画廊

富成忠夫個展 10-14 資生堂

[批]みづゑ30年2月(岡本謙

次郎)、アトリエ30年2月(江

川和彦)、美術手帖30年3月

(東野芳明)

はんどくらふと「青のグループ」

展 10-15 美松画廊 [批]

美術批評30年3月(浜村順)

京都作家色紙小品展 10-15

東京・大丸

青松会展 10-15 銀座・松坂

屋

国際美術協会洋画展 10-15

銀座・東洋美術館

7回美術展(説光作品、複製浮

世絵版画) 11-13 東大教

養学部

土屋幸夫近作展 11-20 タケ

ミヤ [批]アトリエ30年3月

(江川和彦)

大阪日展 11-11 大阪市

立美術館

春泥会小品画展 11-16 大

阪・三越

加藤唐九郎新織部作陶展 12-

18 上野・松坂屋

京都市展 12-28 京都市美術

館

5回工藝洋和会作品展 12-18

和光

会津八一近作展 13-18 中央

公論社画廊

油絵四人展(牛島、山口薫、

森、香月) 13-18 サエグ

サ [批]東京15(岡本謙次郎)

荒井陸男・マダム・レヴィイ作品

展 13-16 丸の内・工業俱

楽部

昭和物故大家幅展 13-18 上

野・松坂屋

蘭学資料「洋書ことはじめ」展

13-18 日本橋・丸善

京都陶藝作品展 13-18 銀座・

松屋

児島善三郎水彩画展 14-18

サエグサ

光風会員演劇スケッチ展 14-

20 光風会館

ウイリアム・アーサー・スミス

個展 14-19 日本橋・三越

[批]朝日16、時事18

三浦小平作陶展 14-19 日本

橋・三越

生活工芸集団展 14-19 渋谷・

東横

現代新人展 14-19 文房堂

森慧個展 14-18 養清堂

高橋俊之展 14-20 日比谷画

廊

松山雅英作陶展 14-19 日本

橋・高島屋

洋画家の色紙展 14-19 大阪・

阪急

川島理一郎個展 15-17 岡山

美術倶楽部

丸木スマ個展 15-19 日本

橋・白木屋

宇治山哲平工藝展 15-20

フォルム [批]みづゑ30年3

月(植村鷹千代)、(記)朝日18

新国宝、重要文化財、重要民族

資料展 15-25 東京国立博

物館

現代洋画名作展 15-21 大阪・

フジカワ画廊

窪田知矩展 16-1月10 新宿・

ヴェルテル

6回年末日本美術家連盟展

17-22 銀座・松坂屋

2回実証展 17-22 美松画廊

浜口富治個展 17-19 高知市・

中央公民館

大谷久子個展 20-25 養清堂

辻輝子、辻弘徳陶器展 20-25

中央公論社画廊

バラ会素描と作品展 20-23

資生堂

奥村土牛個展 20-25 日本橋・

三越 [批]東京22(久富貢)、

産経夕刊23、時事25

京都陶藝展 20-26 日本橋・

高島屋

井上良斎作陶展 20-25 日本

橋・三越

木村一郎作陶展 21-30 日本

橋・白木屋

22回日本バステル画会展 21-

26 文房堂

日仏学院絵画展 21-31 タケ

ミヤ

13回青々会展 21-26 日本橋・

三越 [批]東京24(久富貢)

踏青会展 21-26 日本橋・三

越 [批]東京24(久富貢)

みみづく会油絵展 21-25 村

松ギョウラー

千葉かつを個展 21-25 サエ

グサ

徳力兄弟作品展 21—26 大阪・

阪急

現代大家日本画展 1—21 大

阪茶臼山・とりみや画廊

三岸節子滯仏作品展 22—28

兜屋〔批〕東京25〔岡本謙次

郎〕、読売26〔植村鷹千代〕、産

経夕刊27〔横川毅一郎〕、毎日

28〔徳大寺公英〕、美術手帖30

年2月〔針生一郎〕

歳末救済即席揮毫の会 22—24

上野・松坂屋

香月泰男個展〔油絵、素描、陶画〕

22—27 フォルム〔批〕みづ

多30年3月〔植村鷹千代〕

2回グループ「黄色人種」作品展

22—28 日比谷画廊

漆原木虫遺作展 24—30 美松

画廊

萌木会染色展 廊—26 渋谷・

東横

花谷時子個展 26—30 養清堂

井高帰山、井高宏新作陶展 26

—31 日本橋・三越

2回造型集団油絵展 26—29

村松ギヤラリー

新世代協会七人展 27—30 日

本橋・丸善

「物故者」 ページ (170～184 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the Articles of the Deceased (pp.170-184)

Cut for protection of the personal information

美術文献目録 (昭和二九年)

凡例

- 一、ここに採録した文献はわが国において昭和二九年中に発行された単行図書、定期刊行物、および諸新聞に掲載されたものである。但し、二八年の文献の補遺も適宜組み入れた。
- 二、単行図書の形で刊行されたものうち多数の論文を集録したものは単行図書としてあげた他、その内容を定期刊行物中にも組み入れた。
- 三、現代美術文献目録は明治大正以後の美術に関するものを集めた。
- 四、建築ならびに工藝の範囲は本文最初の凡例に記した範囲にとどめた。
- 五、現代美術文献目録と西洋美術文献目録において各項目内の配列は、単行図書では内容別により、定期刊行物所載文献では主として所載雑誌名による五〇音順、同一雑誌の配列はその発行順とし、古美術関係では内容別によつた。
- 六、この目録をつくるために採録した定期刊行物および新聞は下のとおりである。但し例外の特殊刊行物等は記載しなかつた。
- 七、雑誌の号数は主として通巻番号を採用した。尚三〇三―三〇五は三〇三号、三〇四号、三〇五号に亘ることを示し、九・一―二は昭和二九年九月一日と二日附の新聞を示す。

朝日新聞	アトリエ	印度学仏教学研究
羽陽文化	改造	藝術新潮
藝文研究	建築学会研究報告	建築学会論文集
建築雑誌	建築史研究	建築文化
考古学雑誌	工藝ニュース	国際建築
国学院雑誌	国語国文	古代理学
国立博物館ニュース	心	産業経済新聞
古代学研究	古文化財之科学	史学
三彩	史淵	史迹と美術
史学雑誌	時事新報	書品
思想	史潮	新建築
書陵部紀要	史林	人文化
新潮流	神道学	西郊文化
人類学雑誌	駿台史学	淡交
綜合世界文藝	天台山学	東京新聞
中央公論	天地人	刀剣美術
東京タイムズ	東京日々新聞	東洋史研究
陶説	東京学論集	(一五号は創立廿五周年記念論文集及び Silver Jubilee Volume of the Zinbun- Kagaku-kenkyusyo Kyoto University)
東方学報	南部仏教	日伊文化研究
東洋文化研究所紀要	日本美術工藝	日本歴史
日本経済新聞	美術研究	美術史
美術学	美術批評	仏教藝術
美術手帖	文化	文藝春秋
文化史学	文学部論叢(立正大学)	文藝春秋
萌春	墨美	毎日新聞
みづ	瑞垣	密教文化
ミュージアム	大和文華	大和文化研究
読売新聞	立命館文学	龍谷大学論集
歴史学研究	歴史教育	歴史地理

(五〇音順)

目次

〔定期刊行物所載文献〕

現代美術・西洋美術

総説	雜誌別五〇音順	一七
繪画	"	一八
彫刻	"	一八
工藝・産業デザイン	"	一九
建築	"	一九
時評	"	一九
教育	"	一九
作家	人名別五〇音順	一九
身边雜記・隨筆	"	一九
物故作家	"	一九
美術關係者	"	一九
その他	雜誌別五〇音順	一九
東洋古美術		
總説	二〇
繪画	二〇
日 本	二〇
朝鮮、中国、其他	二〇

書蹟・附篆刻・文房具

日 本	二六
中 国	二七
篆刻・文房具	二七
彫 刻	二七
日 本	二七
中国、其他	二八
建築・庭園	二八
日 本	二八
朝鮮、中国、其他	二八
工 藝	二九
總 記	二九
陶磁工	二九
金 工	三〇
木 漆 工	三〇
染 織 工	三五
ガラス工、玉工	三六
其 他	三六
考古学關係	三六
歴史關係・其他	三八
〔単行圖書〕		
現代美術・西洋美術	三九
東洋古美術	三九

定期刊行物所載文献

現代美術 西洋美術文献

総説

美しい色彩
特集・写実と抽象
大智 浩 アトリエ 三九

写実と抽象の総合
植村鷹千代 三三

写実と抽象
村田 良策 三三

サザランドの写実
福沢 一郎 三三

東洋画における写
岡本謙次郎 三三

実と抽象
河北 倫明 三三

写実と抽象につい
南大路、大
沢、古沢他
一〇氏 三三

具象と抽象
江川 和彦 三三

抽象主義とデザイ
中井 幸一 三三

の私の考えと制作
川口 軌外 三三

私の実作
山口 長男 三三

私の作品のできる
多賀谷伊徳 三三

迄と考え方
松井 清人 三三

創造力の啓培
アンドレ・
マルロオ、
小松清記 三三

東西美術論
(四二一—五三三)
阿部 展也 三三

印度
岡本謙次郎 三三

日本美術随想
(一—六)
脇本楽之軒 藝術新潮 五ノ七

民藝の立場
柳 宗悦 五ノ八

民藝(座談会)
棟方・福田・
剣持・花森 三三

フォルムの探求
勝見 勝 五ノ九

近代藝術の基礎
瀨木 慎一 五ノ一〇

現代の宗教美術
滝口 修造 五ノ三

秋の美術ベスト・テ
田近・岡本・
河北・徳大 三三

前衛藝術に課せられ
針生 一郎 国際建築 三ノ五

詩と絵画の握手のた
滝口 修造 時事 六・九

めに
三輪 福松 思想 三六

ファイレンツェにおけ
る近代美術形式に対
する一考察
柳 亮 東京タイ
ムズ 五・七

イタリアに於ける造
形藝術研究の現状
柳 亮 東京タイ
ムズ 五・七

新しいピラミッド
柳 亮 東京タイ
ムズ 五・七

美術と音楽の交流
柳 亮 東京タイ
ムズ 五・七

ルネサンスの美術と
社会—ミケランジェ
ロの場合—
柳 亮 東京タイ
ムズ 五・七

抽象絵画と現代
長谷川三郎 日 一・二八

エクゾティシズムと
藝術様式の問題
鈴木 正明 美術 四ノ三

現代藝術と宗教
「黄金分割」とツァイ
ジングの体系
野村 良雄 美術 五ノ一

抽象と幻想
特集・新しい空間の
造形
青柳 正広 五ノ二

その誕生と系譜
江川 和彦 三三

(1)動的なものを中
心にして
山口 勝弘 三三

(2)静的なものを中
心にして
広井 力 三三

特集・世界のまんが
伊藤 逸平 三三

ピザンチン藝術覚書
須山 計一 三三

特集・パウハウス
三雲祥之助 三三

パウハウスのカ
リキュラム・その生
活と体験
勝見 勝 三三

特集・メキシコ
1 古代の民族と文
化
水谷 武彦 三三

2 政治と社会
3 民衆の生活
4 現代の建築・絵
画・彫刻
福沢 一郎 三三

デンマークの現代美
術
柳 亮 三三

ルーヴル美術館
第二次大戦末のヨー
ロッパにおける藝術
の状況
トリス
タ 三三

シュールレアリスム
と戦後
トリス
タ 三三

美術批評ニ
対して
トリス
タ 三三

アヴァンギャルドとリアリズム(討論会) 岡本・花田・針生・美術批評 二

変革期の日本美術界をめぐる諸問題について 針生・岡本・末松・植村 三

「絵画における人間の問題」をめぐる書簡 中村 義一 三

中村義一さんへ 瀨木 慎一 三

現実と超現実 滝口 修造 三

何が新しいか? 植村 鷹千代 三

自然主義は克服されたか? 福島 辰夫 三

近代日本美術の性格 中村 義一 三

藝術家の社会性の問題 森・今井・金山・熊・田淵 三

振出しのまずさについて―変革期における作家批評家大衆の責任― 中村 義一 三

中村義一氏の論文に対して、美術運動と批評家の責任 針生 一郎 三

中村義一氏の論文に対して、「変革期」ということについて 東野 芳明 三

座談会・メキシコの現代美術・位置とその特殊性 福沢・植村・瀨木 三

藝術の論理―絵画における実践の問題― 瀨木 慎一 三

美術運動の問題点 中村 義一 三

座談会・新人の持つ問題―人間解体から新しい出発― 木谷・堀田・五味・山口・藤松・瀨木 三

座談会・地方美術界の問題―京都のばあい― 伊藤・橋本・向井・中村・渡辺・瀨木 三

新具象の方向 針生 一郎 三

季節はすれのオブジェリズム 高見順の「絵画と社会批判」をよんで 瀨木 慎一 美術批評 三

「ラオコン論争」覚書―美の理想について― 西田 秀穂 文化 二六ノ六

初期希臘美術の人体表現 穴沢 一夫 三

遠近法の生誕―消失点の発見― 松島 道也 三

近代藝術の系譜―「個性」の社会史的考察― 江川 義忠 立正大学文学部論 二

日展雑感 松林 桂月 萌 春 二ノ七

東西自然観の相違 近藤市太郎 毎 日 三ノ三

伝統と現代―新しいキリスト教藝術― 野村 良雄 二〇・二七

マリア像 柳 宗悦 二・二三

新しいリアリズム モンドリア 二・二三

色彩論1 絵画と色彩 二つの記色法について(オストワルトとマンセル) 猪熊弦一郎 五八

色彩論2 カラー・ハーモニー 脇田 耕和 五九〇

カラー・ハーモニーについて 稲村 耕雄 三

色彩論3 モダン・アートの視覚 阿部 展也 五九二

視覚のメカニズム 稲村 耕雄 三

色彩論4 写実のプロセス 宮本 三郎 五九三

順応について 稲村 耕雄 三

フランス美術の流れ 坂崎 坦 ミュージ 四四

現代美術界 嘉門 安雄 三

メキシコ美術の現状 福沢 一郎 読 充 五・三

特集・近代巨匠のデッサン 素描について 十九世紀・巨匠の素描 向井 潤吉 アトリエ 三三

二十世紀の素描 井上長三郎 三

特集・静物画の研究 静物画の歴史 嘉門 安雄 三

静物画のデッサン 須田 寿 三

静物画の構図 水谷 清 三

セザンヌ以後の静物画 末松 正樹 三

静物の新しい解釈 寺田 政明 三

静物画の色彩 仲田 好江 三

主として有機質を扱った静物画について 加山 四郎 三

静物画のモチーフと組立 黒田 頼綱 三

特集・風景画の研究 風景と色彩 辻 永 三六

風景画の構図 倉田 三郎 三

風景画デッサン 木下 義謙 三

風景写生の目と手 中村 善策 三

都会の風景に関連して 風間 完 三

山の描き方 高田 誠 三

海の描き方 松本 弘二 三

雲と空の描き方 大野 五郎 三

風景は生活の匂いがする 斎藤 長三 三

風景画の見方とその変遷 田近 憲三 三七

特集・人物画の研究 三

人物画の色彩

人物画を描く練習

人物デッサン

人体デッサン

人物のデッサンに就いて

人物画の構図

肖像の様式と構図

描き方

着衣像の描き方

裸体の描き方

人物画の歴史

特集・絵画のフォルム

フォルム

デフォルマシオン

とは何か

フォルムと意味

プロポーション

空間とフォルム

色彩とフォルム

視覚の転換

現代絵画に於ける抽象化とフォルム

の問題

ヴァリエーション

近代絵画の造形要素としてのフォルム

特集・絵画のモチーフ

座談会・モチーフとは何か

社会的モチーフ

中村 琢二

田村孝之介

宮本 三郎

森 芳雄

伊勢 正義

田中 忠雄

吉井 忠

山本 正

永井 深

吉岡 憲

柳 亮

今泉 篤男

阿部 展也

高橋 忠弥

山口 薫

杉全 直

村井 正誠

寺田 竹雄

難波田龍起

古茂田守介

江川 和彦

桂ユキ子

難波田龍起

鶴岡 政男

中谷 泰

宗教的モチーフ

幻想的モチーフ

夜のモチーフ

花のモチーフ

彫刻のモチーフ

商業美術のモチーフ

児童画のモチーフ

裸体画論(遺稿)青木繁 解説

油絵のわかる鍵

現代絵画

静物画(対談)

デッサンについて

日本の肖像画

イタリアのモダン・アート

現代のデッサン(対談)

モダニズム退潮

スペイン絵画

日本画家のヌード

エキゾティズム

抽象画家は如何に描くか

新しい日本画の流れ

二つの世代(対談)

現代絵画の進歩と墮落 座談会

絵巻随想

世界の近鏡画家(対談)

ル・ヴルの絵画

世界の児童画

田中 忠雄

浜田 知明

高橋 忠弥

小川マリ子

清水多嘉示

高橋 錦吉

湯川 尚文

福田 蘭童

伊藤 廉

滝口 修造

今泉 篤男

林 武

今泉 篤男

福島繁太郎

小穴 隆一

矢橋 六郎

富永 惣一

川口 軌外

柳 亮

三雲祥之助

杉本亀久雄

滝口 修造

益田 義信

河北 倫明

東山 魁夷

今泉・岡本

滝口・岡本

東山 魁夷

吉川 逸治

益田 義信

田中 忠雄

浜田 知明

高橋 忠弥

小川マリ子

清水多嘉示

高橋 錦吉

湯川 尚文

福田 蘭童

伊藤 廉

滝口 修造

今泉 篤男

林 武

今泉 篤男

福島繁太郎

小穴 隆一

矢橋 六郎

富永 惣一

川口 軌外

柳 亮

三雲祥之助

杉本亀久雄

滝口 修造

益田 義信

河北 倫明

東山 魁夷

今泉・岡本

滝口・岡本

東山 魁夷

吉川 逸治

益田 義信

仏批評家の見た日本前衛派

解説「ヴァーナスの化粧」

近代絵画(二一〇)

イタリアの現代絵画

イタリア一四・五世紀絵画における「東洋的」性格

特集・日本現代洋画

写実主義的な傾向

写実からの展開I

写実からの展開II

抽象・超現実・写実から抽象へ

日本洋画史年表

洋画団体と美術運動の概観

画題について

絵画と写真

風景を契機として自然・自・画面

「人間」を描く

中世フィンランドのフレスコ

特集・現代日本絵画の主題と方法

1 アレゴリーについて

2 比喩について

3 象徴について

4 ムーザマンについて

5 テーマ性について

船戸 洪

嘉門 安雄

小林 秀雄

摩寿意善郎

矢代 幸雄

岡本謙次郎

今泉 篤男

船戸 洪

嘉門 安雄

小林 秀雄

摩寿意善郎

矢代 幸雄

岡本謙次郎

今泉 篤男

柳 亮

植村鷹千代

岡本 太郎

滝口 修造

森 芳雄

海老原喜之

助 ジョアン・A ケーム

岡本謙次郎

瀨木 慎一

東野 芳明

植村鷹千代

吉沢 忠

美術新潮

国博ニユ

新 潮

日伊文化研究復刊

美術手帖

五ノ三

五ノ三

五ノ二

五ノ二

五ノ二

五ノ二

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

五ノ三

6 記録性について
 針生 一郎 美術批評 一
 五

アラゴンの(ジュエリ
 コとドラクロア)一
 あるいは現実的なもの
 のと想像的なもの一
 大島 博光 二〇

サルトルのジャコメ
 ッテイの絵画論
 宗 左近 二
 二

特集・近代の肖像画
 肖像画雑感
 伊東 深水 前
 武者小路実 春 二ノ二
 篤 二ノ三

現代絵画の諸問題
 宮本 三郎 三
 三

明治の回顧「日本
 絵画協会」のころ一
 結城 素明 三
 三

実感と造型
 鈴木信太郎 三
 二ノ五

国展と金鈴社「大
 正期の画家」から一
 河北 倫明 三
 三

金鈴社時代
 結城 素明 三
 二ノ六

大正期日本画壇の動
 添田 達嶺 三
 二ノ六

造型の根源的な問題
 林 武 三
 二ノ七

抽象絵画は何故描く
 か(一)
 江川 和彦 三
 二ノ九

IV マチスの色面構
 成
 柳 亮 みづゑ 五七
 五七

現代絵画における造
 形と人間「フンイキ
 から論理へ」一
 植村鷹千代 三
 五九

ドリヴァル氏の批評
 レジスタンスの藝術
 家
 和田 定夫 三
 五七

近代のデッサン
 三輪 福松 三
 六
 (別冊)

彫刻のモチーフ
 音楽の中の子供たち
 「ロッセリアの浮彫」
 ギリシヤ彫刻になつ
 た男「バスクイノ物
 語」
 あかり
 清水多嘉示 アトリエ 三〇
 山本 豊市 藝術新潮 五ノ四
 三輪 福松 三 五ノ七
 イサム野口 三 五ノ八
 原 奎一郎 国博ニユ 九

ヴォルテール胸像
 イタリアの現代彫刻
 イタリアヤ一五世紀彫
 刻の課題
 ポリユクレイトス研
 究
 土方 定一 日伊文化 一
 研究復刊 一
 上平 貢 美術学 四ノ三

ドイツの現代彫刻
 印度日記より
 サロン・ド・メエの
 彫刻
 サロン・ド・メエの
 彫刻を語る
 花かげの石像「ルー
 ブル彫刻部のことな
 ど」
 針生 一郎 美術手帖 六六
 阿部 展也 みづゑ 五二
 建島 覚造 三 五七
 建島、中村、
 柳原、山口 三
 秋山 光和 アム 四

工藝・産業デザイン
 デザイン運動の共通
 の基盤
 勝見 勝朝 日 二二九

商業デザイン界昨今
 商業美術のモチーフ
 エジプトの壺
 益子の絵土瓶
 日向の米良塗
 特集・グッド・デザ
 イン
 特集・包装
 手工藝と工業デザイ
 ン
 インダストリアルデ
 ザインの反省
 ワイマールの国立バ
 ウハウスからウルクム
 の造形単科大学へ
 インステイテュー
 ト・オブ・デザイン
 に学んで
 最近の家具デザイン
 の動向「椅子・テー
 ブル・デスク・棚」
 スイス工作連盟の成
 立と活動
 座談会、デザインの
 社会化
 広告デザインを美し
 く
 特集・日本の人形
 日本の人形
 人形と衣裳
 文楽の動くかしら
 人形
 人形随想
 特集・西洋陶磁器
 西洋陶磁の話
 古代ギリシヤの陶藝
 に就いて

勝見 勝朝 日 二二九

勝見 勝朝 日 二二九

勝見 勝朝 日 二二九

勝見 勝朝 日 八二〇
 高橋 錦吉 アトリエ 三〇
 谷川 徹三 藝術新潮 五ノ四
 柳 宗悦 心 七ノ一
 岡田 謙 国博ニユ 八
 特集・グッド・デザ
 イン 工藝ニユ 三ノ一
 特集・包装 三ノ三

渡辺 力 三
 マックス・
 ビル 三
 石元 泰博 三
 豊口 克平 三
 アルトヘル 三
 勝見 勝 産経夕刊 二〇・四
 三 彩 三

西沢 笛歌
 山辺 知行
 宮尾しげを
 網野 菊
 森野 圓象
 市川 清 三
 田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

田辺 武夫 人文 三

土俗玩具の色調と紋様
西沢 笛歌 艸 美 五

郷土玩具―伏見人形について―
田中 緑紅 シ

竹堂・景年の友禪染下絵を見て
土居 次義 シ 一四

竹堂・景年の友禪下絵と当時京都染織産業の状況を語る
明石染人病 シ

作陶遍歴
バーナー、淡 交 三
富本憲吉

座談会 ヨーロッパ陶器を学ぶ
小山、市川、林、菊岡、柳、宗悦 中央公論 七 六

刷毛目の神秘
柳 宗悦 中央公論 七

工藝美に関する一考察
元井 能 美 学 五ノ三

明治時代の工藝概念について
前田 泰次 美術史 二

花のない花園の話―スエーデン工藝見聞紀行―
野口 真造 美術手帖 八

ラファエルのタペストリーに就いて
渡辺 健治 文 化 一八ノ六

新しい形の美しさ―機械・器具の美―
小杉 二郎 みづゑ 五七

ステンダグラスの美
嘉門 安雄 ミュージアム 四

日本にあるタペストリー
山辺 知行 シ

建築

近代建築をどう理解するか
浜口 隆一朝 日 五・二三

一人住区のアアシ―国際建築コンクール入賞記―
今井 兼次 藝術新潮 五ノ三

現代建築 座談会
丹下、吉阪、清家、勝見 シ 五ノ五

日本建築 座談会
岸田、吉田、堀口、谷口、宮城 音弥 五ノ八

実験住宅に暮すイギリスとアメリカの現代住宅
吉阪 隆正 シ 五ノ九

建築家のすまい
浜口 ミホ シ 五ノ二

五重塔づくり
佐久間鎮雄 シ

中世の聖堂
吉川 逸治 シ 五ノ二

機能主義建築と美意識の問題
中田 行 建築学会研究報告 五

中学校について(明治初期・学校建築)
小泉正太郎 シ 六

近代建築に於ける機能と美の問題
中田 行 シ 七

壁画と建築との関係
黒田 正己 シ 二ノ二

戦後の日本建築と世界
渡辺 保忠 建築雑誌 九ノ一

一九五三年の建築界回顧
神代雄一郎 シ

一九五三年の建築界回顧
石井 桂 シ 九ノ三

一九五三年建築界回顧
太田博太郎 シ

デザイン―作品
生田 勉 森田 茂介 シ

現代の住宅について
清水 一 建築文化 六

住居デザインの社会的意味
池辺 陽 シ

新建築の精神
ピエトロ・ベルスキ シ 八

現代日本の木造建築
神代雄一郎 シ

ニューヨーク近代美術館に展示する日本の家
国際建築 三ノ一

現代に生きる日本建築の創造(対談)
吉田五十八 野生司義章 シ

近代建築の反省と希望
ワルター・グロピウス シ 三ノ四

堅実な建築にいたる八階階
ワルター・グロピウス 国際建築 三ノ五

二〇世紀へのメス
鳳 立夫 シ

超現実の意識と建築
黒田 正己 シ 三ノ七

国際様式は全体主義を表わす
フランク・ロイド・ライト シ

民族のエネルギー
福沢 一郎 シ 三ノ八

メキシコ建築
福沢 一郎 シ

ニューヨーク近代美術館に展示された日本の家
堀口、大江、吉村、アライオン、サリネン シ 三ノ二

欧米の近代建築と各国の伝統 座談会
吉村、アライオン、サリネン シ 三ノ三

建築装飾としての美術
アライオン、サリネン シ 三ノ三

正倉院新宝庫の通風観測
戸田、大森、河川、岡本、山本 学治 新建築 七 二九ノ五

現代のデザインと構造について
山本 学治 新建築 七 二九ノ五

アメリカに及ぼした日本建築の影響
芦原 義信 シ 二九ノ二

東京の建築を観る
山脇 巖 東京 四・二五、三六

近代建築工藝の出发点
山脇 巖 東京 四・二五、三六

特集・世界の現代建築
山脇 巖 東京 四・二五、三六

我々の対象は何か 現代建築の技術的な問題
吉阪 隆正 美術手帖 七

今後にのこされた問題
山本 学治 美術手帖 七

新展示室拜見―日本橋高島屋―
池辺 陽 美術手帖 七

機能主義を超えるもの―ハンガリーの建築論争から学ぶ―
今井 兼次 美術批評 三

変革の意識と建築の革新
平良 敬一 美術批評 三

現代建築の課題
宮内 嘉久 山本 学治 シ 四

日本建築の近代性
ワルター・グロピウス 毎日 七・一

時評

希望と期待 藤島支治郎 朝日 一・一五
 国際文化政策の貧困 益田 義信 シ 二・元
 ジャポニカ是非論 吉阪 隆正 シ 四・五
 文化財保護の方法 本山 桂川 シ 五・二九
 美術賞のインフレ 植村鷹千代 シ 六・二八
 秋の美術展への期待 岡本謙次郎 シ 八・三
 今日の問題 美学 井島 勉 シ 九・三
 美術展のエチケツト 嘉門 安雄 シ 九・元
 素人の眼 沢沢 秀雄 シ 一〇・三〇
 一九五四年回顧 美術界 一三・三
 秀作美術展という画壇 徳大寺公英 藝術新潮 五ノ二
 日展を批判する座談会 中村、伊原、福島 シ
 日本のアンデパンダ 花森 安治 シ 五ノ四
 藝術院批判 小宮 豊隆 シ 五ノ五
 どさ廻りのルーヴル展 伊原宇三郎 シ 五ノ三
 文化の国際交流 田内 静三 国博ニユース 六三
 博物館の育成についてのぞむ 深見吉之助 シ 六三
 フランス美術を迎えて 浅野 長武 シ 九
 観賞とふんい気象とタマゴ 渡辺 力 工藝ニユース 三ノ六
 展示会の目的 柳 亮 シ 三ノ七
 ここの美術界 高橋誠一郎 時産 三・五
 日本文化の側面を語る(対談) 湯川 秀樹 時事 一・一、三

新しい展開の兆 鈴木 進時 事 八・二六
 画壇における流行性「類似型」 嘉門 安雄 シ 九・三
 美術批評とジャーナリズム 横川毅一郎 シ 一〇・五
 日本藝術院のこと 高村光太郎 新潮 三・三
 画家の立場から 三雲祥之助 東京 四・五
 画餅 生田 勉 シ 九・二六
 美術界の問題点 柳 亮 シ 一三・七
 植民地的な日本画壇 和田 定夫 東京タイムズ 八・元
 秋の美術シーズン始まる 植村鷹千代 シ 三・二
 美術界 今年回顧 植村鷹千代 シ 三・三
 五四年の美術界 茂原 茂 東京日々 三・一
 お茶坊主画壇の生態 峰岸 義一 シ 三・二八
 現代マンガ界の展望 岸 喜二雄 日経 八・二四
 美術批評家に物申す アンデパンダン展はどうあるべきか 瀬木 慎一 シ 七
 日本美術界の現状分析 現代日本美術展に際して 植村、瀬木、東野 針生 シ 二
 座談会 本年度下半年の美術界をめぐって 河北 倫明 萌 二ノ一
 一つの夢想 アラシの中の日本画 日米文化の交流 日経 一・二六
 日本美術の国際的交流 土方 定一 シ 三・二
 画壇展望 流 六・二五、三〇、七

都市美とアクセサリー 勝見 勝 毎日 九・三
 文化功勞者の選び方 杉 捷夫 シ 一〇・一〇
 五四年画壇 針生 一郎 シ 一三・二
 藝術院会員の選考 植村鷹千代 シ 三
 日本の感性のゆくえ 柳 亮 シ 一三・三
 美術展のテーマについて 植村鷹千代 シ 五七
 憑かれた藝術精神 柳 亮 シ 五八
 秋の展覧会レポーター 植村鷹千代 読 五九
 花とキモノ 今 日出海 シ 三・三
 藝術院の在り方 滝口 修造 シ 三・五
 国際美術展への態度 勝見 勝 シ 三・七
 新しいデザイン運動 滝口 修造 シ 六・九
 画家と街の画廊 植村鷹千代 シ 六・三
 絵を描く子供たち 阿部 展也 シ 八・八
 秋の画壇の焦点 阿部 展也 シ 九・一
 美術予算の不思議 阿部 展也 シ 二・二七

教育

インダストリアル・デザイン教育に関する一考察 阿妻 知幸 藝術学会研究紀要 一
 構成教育論 佐口 七朗 シ
 児童の描画における連続的表現についての考察 山崎幸一郎 シ
 美術教育の欠陥 野間 清六 国博ニユース 六
 博物館と学校教育 矢島 恭介 シ 六
 デザイン教育管見 ゲルハル 工藝ニユース 三ノ五
 ミネスコ美術教育セナリーについて 前田 泰次 シ 三ノ二

作家

(繪画・日本)

赤穴桂子

秋野不矩 (アトリエ訪問)

麻生三郎 (美術人論断)

新井勝利 (アトリエ訪問)

有馬三斗枝 (時の人)

伊東深水論

伊東万籟 (アトリエ訪問)

石川滋彦 (美術人論断)

泉茂のエッチング作品

今井俊満のこと

今井俊満

海老原喜之助 (書簡訪問)

織田リヲ

大山忠作 (アトリエ訪問)

岡鹿之助論

岡鹿之助ノート

岡田謙三 (時の人)

岡本太郎 (人寸描)

加藤正のエッチング作品

香月泰男 (美術人論断)

堅山南風 (シ)

桂ユキ子 (人物メモ)

富永惣一 藝術新潮 五ノ九

荊 春 二ノ九

東 京 二〇・九

荊 春 二ノ八

毎 日 六・三

鈴木 進 荊 春 二ノ二〇

荊 春 二ノ二〇

東 京 二・七

今泉 篤男 美術手帖 八五

シオマ・バラム みづゑ 五・四

読 売 三・三

柳 亮 美術手帖 七九

今泉 篤男 藝術新潮 五ノ二〇

荊 春 二ノ二〇

瀬木 慎一 美術批評 五

滝口 修造 みづゑ 五・四

毎 日 一〇・三

朝 日 三・六

植村鷹千代 美術手帖 八八

東 京 二・九

竹林 賢 美術手帖 八九

九・五

金島桂華の作品 三輪 鄰 春 二ノ一

金島桂華「冬田」(解説) 伊東 深水 シ

清方先生 鈴木 進 シ

清方先生の絵画について 伊東 深水 シ

清方藝術の世界 伊東 深水 シ

玉堂先生全快 兄玉 希望 シ

偶庵山荘を訪う 猪木 卓爾 シ

川口軌外について 徳大寺公英 美術批評 三

川島理一郎の蘭花写生 三輪 鄰 春 二ノ九

川端実(人物メモ) 竹林 賢 美術手帖 八三

川端実のばあい(或いは機械というモチイ) 東野 芳明 美術批評 八

川端実 東野 芳明 美術批評 八

木村荘八 中谷 泰 藝術新潮 五ノ七

北川民次「瀬戸風景」(解説) 今泉 篤男 美術手帖 八六

清原齊 志賀 直哉 藝術新潮 五ノ三

熊谷守一 対談 山下新太郎 藝術新潮 五ノ三

小磯良平 (美術人論断) 須田国太郎 美術手帖 八九

小林和作(作家訪問) 須田国太郎 美術手帖 八九

小林古径(近代画家群一) 矢代 幸雄 藝術新潮 五ノ二

五味秀夫「紡虫C」(解説) 三雲祥之助 美術手帖 八六

高野三三男(美術人論断) 東 京 七・六

近藤日出造(シ) 竹田道太郎 美術手帖 八九

佐伯米子(作家訪問) ジアン・コムみづゑ 五・四

親愛なる佐藤敬 クトオ アペレス・フエノサ シ

巴里における佐藤敬の個展 フエノサ シ

佐野繁次郎(作家訪問) 美術手帖 七

斎藤清(美術人論断) 東 京 二〇・三

坂本繁二郎(日本洋画家伝) 河北 倫明 中央公論 四

坂本繁二郎「自像」(解説) 藤本 韶三 美術手帖 八

坂本繁二郎の藝術 田崎 広助 春 二ノ二

沢宏毅(アトリエ訪問) 瀨木 慎一 美術手帖 七

末松正樹(作家訪問) 大野 誠夫 春 二ノ二

杉山寧 瀨木 慎一 美術手帖 七

田崎広助(画家の顔) 竹林 賢 美術手帖 八

田崎広助(人物メモ) 田中忠雄(シ) 高島達四郎 美術手帖 八

田中忠雄(シ) 高島達四郎 美術手帖 八

高島達四郎「リヌクサンブール」(解説) 高島達四郎 美術手帖 八

鳥海青児(人物メモ) 竹林 賢 美術手帖 八

鳥海青児論 寺田 透 美術批評 四

津高和一(作家訪問) 杉本 久雄 美術手帖 八

辻永(作家訪問) 小糸源太郎 美術手帖 八

鶴岡政男(人物メモ) 竹林 賢 美術手帖 八

寺田竹雄(シ) 利根山光人 読 売 八・四

堂本印象の変貌 小松 清 藝術新潮 五ノ二

堂本印象(美術人論断) 堂本印象 小松 清 美術手帖 八

再び印象について 小松 清 美術手帖 八

名井万亀(作家訪問) 瀨木 慎一 美術手帖 八

中島多茂都(アトリエ訪問) 中島多茂都 美術手帖 八

中谷泰(作家訪問) 中谷泰 美術手帖 八

中谷泰論 中谷泰 美術手帖 八

中村岳陵の前衛性 中村 義一 美術批評 九

中村 義一 美術手帖 八

ボイランド生れの諷刺画家フェリックス・トホルスキー	土方 定一	美術手帖	七
ポール・ナッシン	福島繁太郎	心	七ノ八
ピカソの「戦争と平和」	岡本 太郎	芸術新潮	五ノ九
ピカソ会見記	北大路魯山	シ	シ
平和と人間―ピカソの「戦争と平和」素描	瀬木 慎一	美術手帖	八五
パブロ・ピカソ「平和」(解説)	猪熊弦一郎	シ	シ
物体のドラマと物体のボエム―ピカソの戯曲に即して―	瀬木 慎一	美術批評	六
リルケとピカソの悲歌	矢内原伊作	シ	七
エリユアールとピカソ	木島 始	シ	九
ピカソとふくろうの物語	滝口 修造	みづゑ	五ノ八
ピカソの戦争と平和	シ	シ	五ノ九
クロード・ロアの戦争と平和論	石川 湧	シ	五ノ九
ピカソの個展	植村鷹千代	美術手帖	八
ピニオン	関口 俊吾	みづゑ	五ノ五
ベルナルド・ピユッフェの個展	土方 定一	シ	五ノ三
フェルメール	滝口 修造	美術手帖	八三
エステバン・フランセス・パレン「テイル・オイレシユビイゲル」の舞台装置	田淵 安一	シ	八六
(解説)	岡本謙次郎	シ	九
フルデルトヴァツサ			
ウィリアム・ブレイク「ダンテ」神曲の挿			
獄界第十九歌の挿			
絵(解説)			

美術文献目録

個我意識の限界―マルシヤンの絵について	津山 昌	美術批評	二
イヴオンス・モツテに会う	関口 俊吾	美術手帖	七
イヴオンス・モツテ「水辺」(解説)	山口 薫	シ	八
ベルナルド・ロルジュとイヴオンス・モツテ	荻須 高徳	みづゑ	五ノ三
ユトリロとモンマルトル	福島繁太郎	藝術新潮	五ノ六
ユトリロ「モンマルトル」(解説)	高野三三男	美術手帖	八〇
ユーバックについて	吉川 逸治	墨 美	三
ユーバックの作品と篆刻	手島右卿・松丸東魚・保多孝三・森田子龍	シ	シ
ウイフレッド・ラムについて	滝口 修造	みづゑ	五ノ二
「セラフィース・ルイ」(解説)	堀 文子	美術手帖	八
「青年の顔」(解説)	シ	シ	八
「ゾルシュ・ルオ」(解説)	柳 亮	シ	八
「フェルナン・レジェ」(解説)	和田 定夫	藝術新潮	五ノ三
「蝶のいる女」(解説)	朝 日	東京タイムズ	二・二九
「彫刻・日本」	朝 日	東京タイムズ	二・二九
朝倉文夫(人寸插)	東 亮	東京	二・二九
菊池一雄(画家の顔)	読 光	東京	二・二九
昆野恒	東 亮	東京	二・二九
高村光太郎	東 亮	東京	二・二九
山本常一(作家訪問)	船越 保武	美術手帖	八五
山本豊市(人物メモ)	竹林 賢	シ	八〇
(彫刻・外国)			
ナウム・ガボと構成主義	瀬木 慎一	みづゑ	五ノ八
アレクサンダー・カールダーについてのノート	浜村 順	工藝ニユース	三ノ六
ザッキンの変貌	笠置 季男	藝術新潮	五ノ四
ザッキン「メタモルフォーイズ」(解説)	植村鷹千代	美術手帖	七
ザッキンの彫刻	笠置 季男	シ	八二
オシップ・ザッキン	福島繁太郎	みづゑ	五ノ三
ファツチーニの風貌	三輪 福松	美術手帖	七九
マリノ・マリニ	今泉 篤男	シ	八五
ラルデラ略歴	ミッシェ	墨 美	三
ラルデラに就いて	オル・シユフ	シ	シ
ラルデラの立証	阿部哲三訳	シ	シ
(工藝・日本)	B・ラルデラ	シ	シ
荒川豊蔵論―人と作品―	松尾 宗吾	淡 交	五
石黒宗磨論	大屋幾久雄	シ	六
板谷波山翁	館林唐一郎	日本美術工藝	一八三
完成された陶藝家板谷波山翁の歩み来た道	シ	シ	シ
(陶匠の片影)	加藤土師前的人物評	渡辺 迪	陶 説 一〇
各務敏三	前田 泰次	藝術新潮	五ノ二〇
河井寛次郎	保田与重郎	シ	五ノ九
一人と作品―北大路魯山人と茶わん	井上吉次郎	淡 交	五
剣持勇(作家訪問)	菊岡 久利	シ	七
辻光典(シ)	猪熊弦一郎	美術手帖	八〇
浜田庄司について―人と作品―	今井 兼次	シ	九
渡辺力(作家訪問)	上 海雲	淡 交	七
	清家 清	美術手帖	八三

美術手帖 六

五人の建築家

- 1 ルコルビュジェ
- 2 フランク・ロイド・ライト
- 3 ワルター・グロピウス
- 4 ミース・ファン・デル・ローエ
- 5 アルヴァ・アアルト

身辺雑記・隨筆

代々木基地 朝倉 撰 改造 七
 近代美術館偶感 犬丸 秀雄 文藝春秋 三ノ二
 老年譜 上野 直昭 心 七ノ六
 桃の節句 上村 松篁 東 三ノ三
 実現された夢—L・P再生装置を得て— 岡 鹿之助 藝術新潮 五ノ一
 バレエ「ライラック・ガレデン」 美術手帖 六
 パリの感動 岡本 太郎 朝 日 二ノ三
 私の信条 朝 日 二ノ三
 わが藝術に悔ありや 藝術新潮 五ノ一
 岡本かの子 新 潮 八
 硝子礼讃 各務 敏三 日 経 二ノ二
 引越ばなし 鍋木 清方 東 二ノ三
 にせ者 鴨下 晃湖 文藝春秋 三ノ一八
 わが青春記 川路 柳虹 東 二ノ三
 奥の細道絵行脚 川端 龍子 毎 日 二ノ六
 甲斐虎 北川 桃雄 文藝春秋 三ノ二
 あゆ 小糸源太郎 朝 日 五ノ三
 月見草 朝 日 七ノ二
 鐘有情 東 京 七ノ二
 わが青春記 高野三三男 東 京 二ノ三

(工藝・外国)	ウイルクラーと現代工藝	勝見 勝	工藝ニユース	三ノ二	村野藤吾(日本の建築家)	明石 信道	新建築	元ノ四
	マックス・ビルの印象	劍持 勇	工藝ニユース	三ノ四	MIDグループ・山口文象(像)	山田守(像)	国際建築	三ノ三
	の造形	勝見 勝	工藝ニユース	三ノ四	山脇巖(多)	吉田五十八	国際建築	三ノ二
	ブランクの備前陶	勝見 勝	工藝ニユース	二九	(像)	谷口 吉郎	藝術新潮	五ノ八
	デザイナーとしてのプロイエル	勝見 勝	工藝ニユース	三ノ八	(建築・外国)	グロピウスの歩いたみち	藝術新潮	五ノ六
	思い出すリーチのこと	志賀 直哉	朝 日	二ノ六	ワルター・グロピウス教授を迎える	蔵田 周忠	建築雑誌	六ノ四
	バーナード・リーチ	武者小路実篤	心	七ノ二	グロピウス教授と古い日本	蔵田 周忠	国際建築	三ノ八
	(話題の人)	東京タイムズ	東京タイムズ	二ノ九	ワルター・グロピウスを語る 対談	勝見 力	工藝ニユース	三ノ五
	滞日随想	バーナード・リーチ	毎 日	二ノ八	ワルター・グロピウス教授の印象	勝見 力	工藝ニユース	三ノ七
(建築・日本)	池辺陽(日本の建築家)	植田 一豊	新建築	三ノ三	グロピウス教授を囲んでの討論会	劍持 勇	工藝ニユース	三ノ七
	今井兼次(人寸描)	朝 日	朝 日	一ノ七	ライトとコルビュジェ	向井 正也	建築学会研究報告	五
	(像)	国際建築	国際建築	三ノ四	コルビュジュエのモデル	向井 正也	建築学会研究報告	五
	内田祥三(時の人)	毎 日	毎 日	三ノ三	ユロールについて	吉阪 隆正	工藝ニユース	三ノ七
	蔵田周忠(像)	国際建築	国際建築	三ノ四	ウイレム・デニドックの人と作品	吉阪 隆正	工藝ニユース	三ノ七
	清家清と現代の住居デザイン	新建築	新建築	三ノ二	ライトの建築と絵画との関係	黒田 正己	建築学会研究報告	七
	谷口吉郎(美術人論断)	東 京	東 京	三ノ三	フラック・ロイド・ライト	黒田 正己	建築学会研究報告	七
	丹下健三(像)	国際建築	国際建築	三ノ七	アントニン・レイモンド	黒田 正己	建築学会研究報告	七
	藤島支治郎(時の人)	毎 日	毎 日	二ノ八	ローエの藝術	天野 太郎	工藝ニユース	三ノ二
	建築家・村野藤吾の人と作品	国際建築	国際建築	三ノ四	ミース・ファン・デル・ローエ	天野 太郎	工藝ニユース	三ノ二
	村野さんのプロフィール	今井 兼次	今井 兼次		アントニン・レイモンド	生田 勉	藝術新潮	五ノ二
	作品のプロフィール	蔵田 周忠	蔵田 周忠		ローエの藝術	生田 勉	藝術新潮	五ノ二
	村野藤吾(像)	蔵田 周忠	蔵田 周忠		ミース・ファン・デル・ローエ	生田 勉	藝術新潮	五ノ二

日本紳士の洋服はダ メ	今 和次郎	文藝春秋	三ノ一
あのことろ	佐伯 米子	日 経	六・七
セーヌ河の釣	佐藤 敬	文藝春秋	三ノ二
炭鉱の「母子想」由来	佐藤 忠良	改 造	五
モデル女	佐野繁次郎	シ	四
二つの仁王	新海 竹蔵	藝術新潮	五ノ三
民家を惜しむ	曾宮 一念	朝 日	二・二三
奈良日記	シ	藝術新潮	五ノ一
友への手紙	高田 博厚	心	七ノ七
わたしの青銅時代	高村光太郎	改 造	五
父との関係	シ	新 潮	四・五
童画の苦惱	武井 武雄	朝 日	一・一〇
春雪	谷口 吉郎	東 京	二・二〇
わが青春記	津田 青楓	シ	二・二五
私の冒険	寺田 竹雄	東京タイ ムズ	五・二〇
美しいイリオ・デ・ジャ ネイロ	中川 一政	東 京	一・二一 一・三三
サンポーロ雄感	シ	シ	一・三三、 二・一一三
大西洋航路	シ	シ	二・三三、 二・三三
フランス入港	シ	シ	二・三三、 二・三三
パリだより	シ	シ	二・三三、 二・三三
羅馬好日	シ	シ	三・二四一 一・六
ローマの日々	シ	シ	三・二四一 一・四・一
伊太利行脚	シ	シ	四・二一 一・八
巴里の春	シ	シ	四・二一 一・八
英京ロンドン	シ	シ	五・六・九 五・二〇一
三度目の巴里	シ	シ	五・二〇一 三三

わが青春記	中村 研一	東 京	四・二六
時は金なり	長広 敏雄	文藝春秋	三ノ八
大阪食い倒れ記	鍋井 克之	改 造	二
奄美大島から	シ	東 京	三・八一
色気のこと	シ	文藝春秋	三ノ二五
シンデレラ画家	西村 計雄	藝術新潮	五ノ七
夏と雲	野間 清六	萌 春	二ノ七
初入選	野間 仁根	文藝春秋	三ノ二七
富士に取りくむ	林 武	藝術新潮	五ノ二
あのことろ	シ	日 経	七・五
デザイナーの反省	原 弘	毎 日	二・二六
女流画家の生活と意 見	東山紗智子	東京日々	一・二六
建築・彫刻・壁画	福沢 一郎	東 京	七・七
秋田犬	福田豊四郎	文藝春秋	三ノ七
面壁五年の記	長谷川路可	毎 日	七・八
油絵への訣別—工藝 家一年生—	裕 伊之助	藝術新潮	五ノ二
陶器への情熱	シ	東 京	九・二、 一〇・二、 一三・七、 一三・七
中国画信—一五	シ	シ	二・二七、 二・二七
中国美術行脚	古沢 岩美	藝術新潮	五ノ八
私は何故暴力を揮つ たか	前田 青邨	シ	五ノ三
女史箴図巻の模写	益田 義信	文藝春秋	三ノ二四
二つの手紙	松林 桂月	シ	三ノ八
お寺さんの霊	シ	萌 春	二ノ一
年頭所感	三岸 節子	藝術新潮	五ノ五
日本への訣別	村山 知義	東 京	五ノ九 七・六
城館めぐり	シ	シ	シ
わが青春記	シ	シ	シ

あのことろ	森田 元子	日 経	八・三
わが青春記	矢代 幸雄	東 京	八・三
大 鯛	安井曾太郎	改 造	一
抽象教授の悩み	山口 薫	藝術新潮	五ノ三
オリープの畑	シ	みづゑ	五八八
放浪記一、二	山下 清	東京タイ ムズ	三・四よ り五・三 まで三 数回
鳥を刻む	山本 常一	藝術新潮	五ノ八
鳥	シ	東 京	七・二〇
版画無銭旅行	吉田 遠志	藝術新潮	五ノ二
スペインの旅	シ	美術手帖	八

物 故 作 家

(絵画・日本)	青木繁(近代画家群)	矢代 幸雄	藝術新潮	五ノ七
浅井忠(日本洋画家 伝)	今泉 篤男	中央公論	一	
上村松園「焰」(解説)	近藤市太郎	ミュージ アム	四〇	
岡田三郎助(日本洋 画家伝)	岡 畏三郎	中央公論	六・七	
岸田劉生(近代画家 群)	矢代 幸雄	藝術新潮	五ノ四	
黒田清輝(シ)	シ	シ	五ノ六	
黒田清輝(日本洋画 家伝)	柳 亮	中央公論	三	
黒田清輝作品補遺上	隈元謙次郎	美術研究	一七	
黒田清輝小論	徳大寺公英	みづゑ	五九	
小出楯重—人と藝 術—	長谷川三郎	美術手帖	七	

閉ざされた世界―小出橋重について― 瀬木 慎一 みづゑ 五三

清親のこと 金子 光晴 藝術新潮 五ノ一

古賀春江と私 川端 康成 シ 五ノ三

関根正二「信仰の悲しみ」(解説) 針生 一郎 美術手帖 八三

夢二の魅力 青山 二郎 藝術新潮 五ノ六

新浮世絵作家竹久夢二 館林唐一郎 日本美術 一九〇

富岡鉄斎(近代画家群) 矢代 幸雄 藝術新潮 五ノ二〇

鉄斎「東坡戴笠図」(解説) 武者小路実篤 国博ニユース 六六

富岡鉄斎(近世茶人列伝) 富士 正晴 交 七、六

中村藤(近代画家群) 矢代 幸雄 藝術新潮 五ノ三

速水御舟(シ) 藤森 淳三 陶 説 一六

鬼才御舟 柳 亮 みづゑ 五五

速水御舟 小高根太郎 萌 春 二ノ八

菱田春草 矢代 幸雄 藝術新潮 五ノ一

藤島武二(近代画家群) 河北 倫明 美術手帖 八九

前田寛治「家族」(解説) 岡本謙次郎 シ

三宅克己「ベルギーのナミューールの町」(解説) 矢代 幸雄 藝術新潮 五ノ二

満谷国四郎(近代画家群) 嘉門 安雄 中央公論 九、〇

満谷国四郎(日本洋画家伝) 矢代 幸雄 藝術新潮 五ノ三

村上華岳(近代画家群) 矢代 幸雄 藝術新潮 五ノ三

水彩画家(シ) 矢代 幸雄 藝術新潮 五ノ三

(絵画・外国) ドミニック・アングル「トルコ風呂」(解説) 嘉門 安雄 美術手帖 八六

アングルの模写 伊原宇三郎 ミュージアム 四

宮女のヴェラスケス ヴェラスケス「イソップの像」(解説) 宮本 三郎 藝術新潮 五ノ二

国吉康雄の郷愁 今泉 篤男 藝術新潮 五ノ五

青年時代の国吉康雄 宮武 繁 美術手帖 八二

国吉康雄「舞踏会」(解説) 脇田 和 シ

国吉康雄「一一〇号室」(解説) 小山田二郎 シ

ヤスオ・クニヨシ小説 東野 芳明 美術批評 五

国吉康雄覚書 針生 一郎 みづゑ 五五

クールベ「追われる鹿」(解説) 嘉門 安雄 国博ニユース 九〇

パウル・クレイ「赤いスカートたちの舞踊劇」(解説) 宇佐見英治 美術手帖 七九

パウル・クレイの試論 東野 芳明 みづゑ 五六

パウル・クレイの世界 矢内原伊作 シ

パウハウス時代のクレイ 吉村 博次 シ

エル・グレコ「聖衣剥脱」(解説) 柳 亮 美術手帖 八四

ゴッガン(解説) 玉生 正信 美術学 五ノ二

ゴッガンの藝術と生涯 嘉門 安雄 国博ニユース 八四

ゴッガンの版画集「闘牛」(解説) 矢代 幸雄 美術手帖 八三

ゴッガンの悪魔「カブリ」(解説) 宇佐見英治 美術批評 六

ある日のコロオ 黒田重太郎 藝術新潮 五ノ九

シャルダン「兎と銅鍋」(解説) 大久保 泰 美術手帖 七九

「サン・ヴィクトール」(解説) 吉井 淳二 シ 八四

セザンヌの疑惑(I) モーリス・ポルロイ・ボンティ 美術批評 三

「ヨットのある港」(解説) 瀬木 慎一 美術手帖 八三

デュララーのメランコリアについて 西村規矩夫 美術学 五ノ三

デュララー素描作品の考察 シ 文化 二八ノ六

「解説」ドガ「憩り踊り子」 嘉門 安雄 国博ニユース 九〇

オノレ・ドリーミエ小説 針生 一郎 みづゑ 五九

エコール・ド・パリの死「ドランの追憶」 福島 慶子 藝術新潮 五ノ二

「解説」アンドレ・ドラン「静物」(解説) 宮本 三郎 美術手帖 八六

ドラン「男の像」(解説) 伊原宇三郎 みづゑ 五二

ピエロ・デラ・フランチェスカ「ユダの拷問」(解説) 柳 亮 美術手帖 八五

ピエター・ブリューゲル「帰る家畜」(解説) 野間 宏 シ 八六

ブリューゲルの魔性(巻前餅)(解説) 瀬木 慎一 みづゑ 五九

「マサッチオ」(解説) 小川マリ子 美術手帖 八三

「マサッチオ」(解説) 今泉 篤男 シ 八二

「マサッチオ」(解説) 柳 亮 アトリエ 三四

「マサッチオ」(解説) 猪熊弦一郎

「マサッチオ」(解説) 猪熊弦一郎

「マサッチオ」(解説) 猪熊弦一郎

ニューヨークのマチ
ス
回想のマチス
マチス先生の死
オルネオレ・メテッ
リのこと
風の吹く風景―モネ
の風景画―
アンリ・ルソオ
ルソオは生きている
レオナルドの藝術と
現代
レオナルドの左手利
きに就て
ワットオ「シテエル
への船出」
(彫刻)

長谷川三郎 藝術新潮 五ノ七
福島繁太郎 シ 五ノ三
猪熊弦一郎 みづゑ 五九三
松本 亮 美術手帖 七九

鍋井 克之 藝術新潮 五ノ八
岡 鹿之助 みづゑ 五六一
滝口 修造 シ 五六一

山田智三郎 日伊文化 一
研究復刊

裾分 一弘 美 学 五ノ三
三島由紀夫 藝術新潮 五ノ六

高村光太郎 新 潮 六
嘉門 安雄 国博ニユ 九〇
菊池 一雄 藝術新潮 五ノ一

香取 秀真 中央公論 一
館林唐一郎 日本美術 一八五

沼田一雅 (文壇バト
ロール)
時 事 三・三〇
東京タイ ムズ 三・三〇

沼田一雅 エリック・ギルの人
と思想―近世工藝思
想研究の一章―
(建築)

伊東忠太先生の逝去
を悼む
吉田五十八 国際建築 三ノ五
建築雑誌 六九ノ五

伊東忠太博士主要著
書論文・主要作品年
表略歴
古宇田 実 シ

伊東忠太先生の思い
出
古宇田 実 シ

伊東忠太先生 藤島玄治郎 建築雑誌 六九ノ五

ウイリアム・モリス
の研究
白石 博三 建築学会
研究報告 三三

モリスに於ける庶民
的性格とその意義
ウイリアム・モリス
の都市計画
シ 三七
ウイリアム・モリス
に於ける装飾の意味
シ 三九ノ二

伊藤熹潮 秋山安三郎 藝術新潮 五ノ四
上野直昭氏のこと(美
術史学界人物素描)
大槻虎男(科学する
人)
大原孫三郎伝
大村西崖(忘れ得ぬ
人々)
岡倉天心 上・下
金井紫雲君の死
神田喜一郎(時の人)
久保貞次郎(訪問
人)
杉原荘介(科学する
人)
田中一松(美術史学
界人物素描)
田村実造(人寸描)
高橋誠一郎(シ)
竹島卓一(人寸描)
(話題の人)
(顔)

大内 兵衛 心 朝 日 六・二三
矢代 幸雄 大和文華 一四 七ノ四
保田与重郎 淡 交 六九、七
西沢 笛歌 萌 春 二ノ一
今泉 篤男 美術手帖 八

朝 日 六・二三
朝 日 五・二四
朝 日 二・二四
東京タイ ムズ 二・二四
東京日々 シ

野間清六氏(美術史
学界人物素描)
福山敏男氏(シ)
柳宗悦氏(シ)
日本美術の海外紹介
者―若井兼三郎と林
忠正のこと
脇本十九郎氏(美術
史学界人物素描)
一二人の美術批評家

結城 素明 朝 日 二ノ一
国博ニユ 九一
美術手帖 八五

勝見 勝 朝 日 八・三〇
湯川 尚文 シ アトリエ 三三四
猪熊弦一郎 シ 三三〇
猪熊弦一郎 シ 三三三

西田 正秋 改 造 七
弘津友三郎 京都市立
美術大学 一
研究紀要

竹山・福田
勅使河原・吉
川 藝術新潮 五ノ一

武小路実 朝 日 五ノ四
梅原・福島 朝 日 五ノ四
矢代 朝 日 五ノ四
花森 安治 朝 日 五ノ五

挿絵というゲエジツ
日本の神秘 朝 日 五ノ五

大原コレクション
美術三昧 朝 日 五ノ五

朝 日 二・二四
東京タイ ムズ 二・二四
東京日々 シ

朝 日 二・二四
東京タイ ムズ 二・二四
東京日々 シ

パリの日本人 中村 直人 藝術新潮 五ノ六
 美術賞の裏おもて 船戸 洪 シ 五ノ七
 国際文化振興会を賞す 阿部 展也 シ 七
 宝の持ちぐされ エレン・D・ブセティ シ 七
 私設日本藝術院 座 伊藤・徳川・花森・横山・クロード・岡本 久保貞次郎 シ 五ノ八
 軒藝術時代 座談会 宮田・吉村・三木・蘆原 シ 五ノ九
 倉敷と大原美術館 徳大寺公英 シ 五ノ一〇
 世界美術行商 福中 又次 シ 五ノ一一
 美術涉外秘話 益田 義信 シ 五ノ一二
 ビキニ・マクロ・タプロー・二科・行動展より 横山 泰三 シ 五ノ一三
 天皇の美術品 秋山 光夫 シ 五ノ一四
 大倉集古館 野間 清六 シ 五ノ一五
 歴史以前の博物館 保田与重郎 シ 五ノ一六
 大和歴史館 渡辺 勉 シ 五ノ一七
 写真・二科 小山富士夫 シ 五ノ一八
 白鶴美術館 伊藤 逸平 シ 五ノ一九
 文化勲章批判 石井 千秋 シ 五ノ二〇
 その後の松方国立美術館 佐藤・谷口・田村・安倍・心 七ノ三
 自然の中の藝術 座 高村 シ 七ノ四
 美術館の絵 大原総一郎 シ 七ノ五
 美術巡礼 座談会 武者小路・中川・長与 シ 七ノ六
 美術映画特集 今村 太平 七ノ七
 美術映画製作上の制約 飯島 勇 七ノ八

「鎌倉美術」について 奥平 英雄 七
 「一」批評 フランス美術展の陳列と会場構成 吉阪 隆正 七
 これからの茶の湯の設計 堀口・谷口 淡交 七
 建築の立場から 山脇・千・石黒・和会メ 七
 新陶作家群の意見 他陶和会メ 七
 一デザイナリーの立場 剣持・阿野・千・早川・高坂・吉井・西谷・堂本 七
 床の間と日本人 座 柳 亮 東 京 五・三
 美術批評家の苦衷 恩地孝四郎 日 七
 美術家連盟五周年を迎えて 品川 工 美術手帖 七
 製本あれこれ 船戸 洪 シ 七
 紙のプロクタージユ 戦後画壇史1-10 八・九
 戦後画壇史1-10 船戸 洪 シ 七
 画材の話 消しゴム 八
 溶き油(一) クレヨン 八
 額縁(一) パレット 八
 パステル パレット 八
 イーゼル パレット・ナイフ・ペインティング・ナイフ・スクラップ・ナイフ・デッサン用クレヨン 八

初心者のために 下 岡 鹿之助 八
 図をキャンパスにひきのばすには 八
 織田石版術研究所 須田国太郎 八
 大原コレクションについて 北代 省三 八
 モビールをつくる 桑沢 洋子 八
 書齋の画家たち マネキンをつくる人 北代 省三 八
 動かないモビール 針生 一郎 九
 自由美術家協会の青骨 福沢 一郎 九
 美術文化協会は如何にあるべきだろうか 紫 雲 萌 春 九
 映画「川合玉堂」完成 岡村 辰雄 九
 日本画と額装 エリス・グ 九
 ヴィエンナナレ展への日本の参加と坂本繁二郎・岡本太郎の作品 リレイ 九
 フランス美術展の中から 嘉門 安雄 九
 フランス美術展施設の覚書 野間 清六 九
 さし絵は無用か 岩田専太郎 九
 (外国) 中川 一政 朝 日 九
 ビエンナナレ展所感 ルーヴル美術館の今昔 矢代 幸雄 九
 フイレンツェの追想 摩寿意善郎 九
 聖堂の町—シャルトルの印象— 嘉門 安雄 九
 サンパウロのビエンナナレ ブリュージュ 中川 一政 九
 ヴェルメール偽作事件 益田 義信 九
 トレド 宮本 三郎 九

「鎌倉美術」について 奥平 英雄 七
 「一」批評 フランス美術展の陳列と会場構成 吉阪 隆正 七
 これからの茶の湯の設計 堀口・谷口 淡交 七
 建築の立場から 山脇・千・石黒・和会メ 七
 新陶作家群の意見 他陶和会メ 七
 一デザイナリーの立場 剣持・阿野・千・早川・高坂・吉井・西谷・堂本 七
 床の間と日本人 座 柳 亮 東 京 五・三
 美術批評家の苦衷 恩地孝四郎 日 七
 美術家連盟五周年を迎えて 品川 工 美術手帖 七
 製本あれこれ 船戸 洪 シ 七
 紙のプロクタージユ 戦後画壇史1-10 八・九
 戦後画壇史1-10 船戸 洪 シ 七
 画材の話 消しゴム 八
 溶き油(一) クレヨン 八
 額縁(一) パレット 八
 パステル パレット 八
 イーゼル パレット・ナイフ・ペインティング・ナイフ・スクラップ・ナイフ・デッサン用クレヨン 八

初心者のために 下 岡 鹿之助 八
 図をキャンパスにひきのばすには 八
 織田石版術研究所 須田国太郎 八
 大原コレクションについて 北代 省三 八
 モビールをつくる 桑沢 洋子 八
 書齋の画家たち マネキンをつくる人 北代 省三 八
 動かないモビール 針生 一郎 九
 自由美術家協会の青骨 福沢 一郎 九
 美術文化協会は如何にあるべきだろうか 紫 雲 萌 春 九
 映画「川合玉堂」完成 岡村 辰雄 九
 日本画と額装 エリス・グ 九
 ヴィエンナナレ展への日本の参加と坂本繁二郎・岡本太郎の作品 リレイ 九
 フランス美術展の中から 嘉門 安雄 九
 フランス美術展施設の覚書 野間 清六 九
 さし絵は無用か 岩田専太郎 九
 (外国) 中川 一政 朝 日 九
 ビエンナナレ展所感 ルーヴル美術館の今昔 矢代 幸雄 九
 フイレンツェの追想 摩寿意善郎 九
 聖堂の町—シャルトルの印象— 嘉門 安雄 九
 サンパウロのビエンナナレ ブリュージュ 中川 一政 九
 ヴェルメール偽作事件 益田 義信 九
 トレド 宮本 三郎 九

初心者のために 下 岡 鹿之助 八
 図をキャンパスにひきのばすには 八
 織田石版術研究所 須田国太郎 八
 大原コレクションについて 北代 省三 八
 モビールをつくる 桑沢 洋子 八
 書齋の画家たち マネキンをつくる人 北代 省三 八
 動かないモビール 針生 一郎 九
 自由美術家協会の青骨 福沢 一郎 九
 美術文化協会は如何にあるべきだろうか 紫 雲 萌 春 九
 映画「川合玉堂」完成 岡村 辰雄 九
 日本画と額装 エリス・グ 九
 ヴィエンナナレ展への日本の参加と坂本繁二郎・岡本太郎の作品 リレイ 九
 フランス美術展の中から 嘉門 安雄 九
 フランス美術展施設の覚書 野間 清六 九
 さし絵は無用か 岩田専太郎 九
 (外国) 中川 一政 朝 日 九
 ビエンナナレ展所感 ルーヴル美術館の今昔 矢代 幸雄 九
 フイレンツェの追想 摩寿意善郎 九
 聖堂の町—シャルトルの印象— 嘉門 安雄 九
 サンパウロのビエンナナレ ブリュージュ 中川 一政 九
 ヴェルメール偽作事件 益田 義信 九
 トレド 宮本 三郎 九

初心者のために 下 岡 鹿之助 八
 図をキャンパスにひきのばすには 八
 織田石版術研究所 須田国太郎 八
 大原コレクションについて 北代 省三 八
 モビールをつくる 桑沢 洋子 八
 書齋の画家たち マネキンをつくる人 北代 省三 八
 動かないモビール 針生 一郎 九
 自由美術家協会の青骨 福沢 一郎 九
 美術文化協会は如何にあるべきだろうか 紫 雲 萌 春 九
 映画「川合玉堂」完成 岡村 辰雄 九
 日本画と額装 エリス・グ 九
 ヴィエンナナレ展への日本の参加と坂本繁二郎・岡本太郎の作品 リレイ 九
 フランス美術展の中から 嘉門 安雄 九
 フランス美術展施設の覚書 野間 清六 九
 さし絵は無用か 岩田専太郎 九
 (外国) 中川 一政 朝 日 九
 ビエンナナレ展所感 ルーヴル美術館の今昔 矢代 幸雄 九
 フイレンツェの追想 摩寿意善郎 九
 聖堂の町—シャルトルの印象— 嘉門 安雄 九
 サンパウロのビエンナナレ ブリュージュ 中川 一政 九
 ヴェルメール偽作事件 益田 義信 九
 トレド 宮本 三郎 九

初心者のために 下 岡 鹿之助 八
 図をキャンパスにひきのばすには 八
 織田石版術研究所 須田国太郎 八
 大原コレクションについて 北代 省三 八
 モビールをつくる 桑沢 洋子 八
 書齋の画家たち マネキンをつくる人 北代 省三 八
 動かないモビール 針生 一郎 九
 自由美術家協会の青骨 福沢 一郎 九
 美術文化協会は如何にあるべきだろうか 紫 雲 萌 春 九
 映画「川合玉堂」完成 岡村 辰雄 九
 日本画と額装 エリス・グ 九
 ヴィエンナナレ展への日本の参加と坂本繁二郎・岡本太郎の作品 リレイ 九
 フランス美術展の中から 嘉門 安雄 九
 フランス美術展施設の覚書 野間 清六 九
 さし絵は無用か 岩田専太郎 九
 (外国) 中川 一政 朝 日 九
 ビエンナナレ展所感 ルーヴル美術館の今昔 矢代 幸雄 九
 フイレンツェの追想 摩寿意善郎 九
 聖堂の町—シャルトルの印象— 嘉門 安雄 九
 サンパウロのビエンナナレ ブリュージュ 中川 一政 九
 ヴェルメール偽作事件 益田 義信 九
 トレド 宮本 三郎 九

メヂチ家の人々 今日 日出海 藝術新潮 五ノ七一

ヴェネツィアピエ
ナール展 土方 定一 五ノ七八

ニューヨークの「日
本建築展」 榎山 七重 五ノ九

ピカソ展とシャガ
ール展 土方 定一 五ノ二〇

映画「カルダー」
ピカソの新しいモデ
ル 中村 直人 五ノ二〇

わが蒐集の態度
J・C・デン
マン 土方 定一 五ノ二二

トリエンナール展・
散歩 今井 俊満 五ノ二二

パリの宗教美術展
トリエンナールの招き
河合 正一 国際建築 三ノ五

今年のサロン・ド・
メイ展 中村 直人 東 京 六七

挿絵本「マリア
へのお告げ」より
美術手帖 七六

フランスの豪華本と
さしえ藝術 大島 辰雄 七六

パリの灰皿 海藤日出男 七九

挿絵本、エウパリノ
ス マリオンのエシヤル 関口 俊吾 七九

インステイテュー
ト・オブ・デザイン
に学ぶ 石元 泰博 八〇

特集・バレエの装
置と衣裳 フランスを中心に 蘆原 英了 八三

アメリカを中心に
画家の舞台装置 益田 義信 八三

プログラムーオペ
ラ・バレエ 海藤日出男 八三

世界のデパート・建
築と意匠 西岡 辰造 美術手帖 八三

新着のスイス・ボス
ター 版画家「スフィンク
ス」より 中井 幸一 八三

ピカソと話題のモデ
ル 吉田 遠志 八六

ベニスの国際美術展
パリ・秋の展覧会 土方 定一 毎 日 七三

展の設計 関口 俊吾 五三

ベルナル・ビユッ
フェの個展 土方 定一 五三

サロン・ド・メエの
彫刻を語る 関口 俊吾 五五

サロン・ド・メエの
彫刻 柳原・山口 五七

サロン・ド・メエを
見る 建昌 覚造 五八

パリの画廊めぐり
ピカソの個展 末松 正樹 五八

閑雅なる饗宴「ブ
ルデル美術館の印象 関口 俊吾 五九

フランスの美術館
シャルトルの思い出 嘉門 安雄 五九

ループルの思い出
ループル美術館あれ
これ 中村 恒夫 四〇

フランスのコレク
ションについて 浅野 長武 四〇

フランスの古書版
画のことなど 秋山 光和 四一

世界美術の祭典「ピ
エンナール」 向井 潤吉 四一

レイモン・コニア
読 充 七七

東洋古美術文献

総 説

美術史学と歴史学―
かさねて家永教授に
関し 中村 二柄 京都学藝
大学学報 A五

美術史の自律につ
いて 史 林 三〇三

今日における美術史
学の課題 高見 君恵 綜合世界
文藝 九

郷土様式の問題 谷田 岡次 京都市立
美術大学 一

藝術と伝統 高橋 義孝 研究紀要
淡 交 七

古きものの美しさに
ついて 水沢 澄夫 六

歴史への実感―新指
定の国宝と重要文化
財について 鈴木 進 萌 春 二ノ四

新国宝・重要文化財
から 龍燈鬼・宝相華蒔
繪・宝珠箱・金剛殿
若経開題・大雅筆
西湖春景・唐観潮
図 国立博物
館ニユー
ス 八四

新重文紹介 梅樹双雀鏡 蔵田 蔵 八〇

陶磁器 田中作太郎 八〇

蕪村筆柳陰騎路図 鈴木 進 八〇

屏風 日本美術随想一―六 脇本榮之軒 藝術新潮 三 五ノ七一

日米美術の他流試合 矢代 幸雄 文藝春秋 三ノ二〇

飛鳥美術の鑑賞 松本 楡重 歴史教育 八

天平美術について	久野 健	歴史教育	二〇
座談会・平安初期の藝術をめぐる諸問題	小林・蓮実 佐和・小林	仏教藝術	三
桃山時代の装飾	西堀 一三 艸 美	美	八
桃山装飾彫刻と絵画	土居 次義		七
顯教的表現と密教的表現	佐和 隆研 美 学	学	七
摩多羅信仰とその遺宝	景山 春樹 比叡山		
古寺巡礼			
4 広隆寺	上野 照夫 仏教藝術		三
5 鎌倉東部	渋谷 二郎		三
6 道明寺とその界隈	谷田 関次		三
新古寺巡礼			
10 伊豆の仏	金子 良運 ミュージ		三
11 別所の安楽寺	中村 秀男		三
12 冬の鶴林寺	鎌原 正巳		三
13 伊賀の新大仏寺	石田 尚豊		三
14 興福院	榎本 杜人		三
15 紀州箕島の浄妙寺	岡田 譲		三
16 醍醐の三宝院	高崎富士彦		三
17 慈光寺	蔵田 蔵		三
18 向獄寺	中村 秀男		三
19 太山寺(兵庫)	鎌原 正巳		三
黄金花咲く中尊寺	中村 直勝 日本美術		一八
美濃の願興寺	伊藤 悦雄 史迹と美		二四
奈良日記	渡辺 辰典 術		二四
正倉院御物と阿弥陀院資財帳	曾宮 一念 藝術新潮		五ノ一
秋篠寺古今記 下	石田 茂作 仏教藝術		三
	西村 貞 大和文華		三

那山田懺寺の什宝	榎本 杜人	大和文化	三
安藝の叢島	中村 直勝	日本美術	二九
桜		アート	三
はたらく姿		アート	四〇
滝		アート	四一
橋		アート	四二
夏を描く名品		国立博物館	六
にわか雨一扇面写		国立博物館	六
経		国立博物館	六
かみなり一春信筆			
夏の夜の夢一春日権現靈驗記			
歎美抄一唐三彩美人俑、酒盃集・黒田清輝筆春の名残り	矢代 幸雄 大和文華		三、五
木翁隨筆五	松本 栄一 仏教藝術		三
私の好きな美術品	田中 一松 国立博物館		八
玉堂の凍雲篩雪図		国立博物館	八
高貴な絵	上野 直昭		八
中宮寺の菩薩半跏像	浅野 長武		八
私の鑑画の態度	藤懸 静也		八
雪舟滂墨山水	脇本楽之軒		八
東坡戴笠図	武者小路実篤		八
美術というのとは	なかのしげ		八
少しちがうもの	はる		八
旧山田寺の仏頭	亀井勝一郎		八
浮世絵版画	高橋誠一郎		八
麻布菩薩図	青野 季吉		八
わが愛する美術	佐藤 春夫		八

愛蔵あり			
23 和田日出吉	邑木 千以	日本美術	一八、一
26 奥田誠一	27 大熊次郎	工藝	九
29 伊東深水	30 広津和郎	28 斎藤寿福庵	
		31 須藤宗次郎	
文化財に対する燻蒸剤の薬害について	森 八郎	古文化財	八
1 金属に及ぼす影響	熊谷 百三	之科学	
伊勢の軽粉	山崎 一雄		七
アクリル系合成樹脂による貝塚の新保存法(予報)	三輪 房子		七
博物館の螢光灯照明	登石 健三	国立博物館	八
美術思潮			
美術教育の欠陥	野間 清六		八
埋蔵文化財の発掘調査	平岡 修		八
文化の国際交流	田内 静三		八
博物館の育成にのぞむ	深見吉之助		八
古美術品の補強対策	野間 清六		八
海外の日本美術観	石沢 正男		八
文化財保護条約会議より歸りて	岡田 孝平		八
地方史研究の方向	石田 茂作		八
古代研究への希望	原田 淑人		八
フランス美術を迎えて	浅野 長武		八
博物館と学校教育	矢島 恭介		八
観賞とふんい気	溝口 三郎		八
文化財保護の諸問題			
その現実、国際的協調、京都の古名園	佐々木利三	日本美術	一九
積翠園のケイス		工藝	一九
一九五四年の回顧			
		アート	四

本館の展観と事業	深見吉之助	三
古美術界	奥平 英雄	三
本年度の博物館展観	谷川・村田	三
新機軸の展示法など	北川・田内	三

唐代の大悲観音一、二、三	小林太市郎	三、三
晉陽の童子寺一入唐巡礼求法行記の一節について	小野 勝年	三
パームヤンの仏跡	山本 智教	三
近代に於けるガンダラ美術の発見	藤吉 慈海	三
オウランガバードとエロランポンベイ、デーパギリ、エロラの仏教窟	藤吉 慈海	三

東洋画に於ける写実と抽象	河北 倫明	三三
日本	佐和 隆研	一
日本の作風の展開	京都市立美術大学研究記要	一
日本絵画論の序	野間 清六	四〇
日本絵画における農耕図	野間 清六	四〇
夏と雲	藤懸 静也	四
史学文学の資料としての浮世絵と絵巻物	藤懸 静也	四
本朝画伝について	土居 次義	三
「鳥毛立女屏風」図のモチーフについて	長島 健史	四〇
鳳凰堂壁面の模写	松下 隆章	三

鳳凰堂柱絵天人像	上野 照夫	三
富貴寺大堂仏後壁背面の千手観音図について	柳沢 孝	二
普賢十羅刹女図解説	藤懸 静也	七五
反町茂作氏蔵	藤懸 静也	七五
地藏十王図解説	上田 英次	六
不動明王二童子像	中村 秀男	三
高野の赤不動	堂本 印象	三
東大寺蔵二月堂曼荼羅図	松村 政雄	八
五秘密図解説	松田 橋崎 宗重	七四
福一郎氏蔵	松田 橋崎 宗重	七四
五部心観の研究一その記入梵語に基く考察	高田 修	一七三
額装本華嚴五十五所絵について	田中 一松	三
新国宝 十六羅漢図	野間 清六	三三
新取品紹介 羅漢図	中村 秀男	四〇
六道絵新資料	大串 純夫	五三
地獄絵	大串 純夫	五三
研究資料法成寺十齋堂の地獄絵	美術研究	一七六

やまと絵の松	白畑 よし	二六
彩絵繪扇解説	白畑 よし	二六
神社蔵	松村 政雄	三
「敵島神社所蔵小形繪扇絵」補記	秋山 光和	一七三
平家納経について	松下 隆章	三
平家納経解説	近藤 喜博	三
東大寺の華嚴経、その見返絵	近藤 喜博	三

難波四天王寺厨面古写経の研究一その成立について	高橋 正隆	四ノ一
日本の絵巻	奥平 英雄	五ノ〇
絵解と絵巻、絵冊子	岡見 正雄	三ノ八
絵巻における斜線構図	奥平 英雄	四〇
絵巻随想	奥平 英雄	四〇
源氏物語絵巻についての新知見	東山 魁夷	五ノ〇
徳川本源氏物語絵詞の風俗	秋山 光和	一七四
風俗から見た源氏物語絵詞	鈴木 敬三	七四、七五、七六、七七
源氏物語絵巻の詞書について	中村 義雄	三
源氏物語絵巻の顔料について	山崎 一雄	三
信貴山縁起絵巻の成立をめぐる歴史的諸条件一同絵巻研究の序説として	大串 純夫	一七七
「鳥獸戯画」の時代相	むしやこう	三ノ二
寝覚物語絵巻雑考	白畑 よし	一四
北野天神縁起絵巻の諸特徴	八代 修次	三
高野大師行状絵の零巻について	梅津 次郎	七三
聖徳寺本白描絵因果経について	田中 塊堂	八
新出融通念仏縁起に就て上、下	橋崎 宗重	七四、七五
新出融通念仏縁起略解	橋崎 宗重	七四
日本に於ける高僧像の形式	佐和 隆研	三

親鸞像について 鎌倉時代大和絵肖像 画の系譜 俗人像と 僧侶像	赤松 俊秀 梅津 次郎	仏教藝術 三 シ	土岐洞文筆山水図解 説 吉田修氏蔵	藤懸 静也 梅津 次郎	華 五二 七三	花下土庶群衆図解説 吉田健三郎氏蔵	橋崎 宗重 山根 有三	華 七七 七四九、七五〇
藤原信実と歌仙絵 上、下	近藤 喜博	華 一 七五、七六	後土御門天皇宸贊の 墨画庚申図に就て	中村 秀男	七六	土佐光吉とその関 屋、御幸、浮舟図屏 風上、下	土居 次義 土居 次義	美 二
神護寺藏伝隆信筆の 画像についての疑	源 豊宗	大和文華 三	興悦画について	藤懸 静也	七五	花籠図小襖絵解説 妙法院蔵	土居 次義 土居 次義	美 二
松江市八重垣神社の 壁面神像	秋山 光和	ミュージ 四	雲谷等顔筆陶淵明林 和靖図解説 石井郡 司氏蔵	藤懸 静也	七五	新国宝風俗屏風 (松浦屏風)	鈴木 進 鈴木 進	ミュージ 三 三
最近の調査から 妙 興寺の豊太閤像	中村 秀男	国立博物館 館ニュー 七	桃山時代の絵画	持丸 一夫	ミュージ 三	犬追物図解説 荻原 安之助氏蔵	橋崎 宗重 橋崎 宗重	華 七九
狩野探幽像伝桃田柳 栄筆一わが鑑賞	大西 芳雄	ミュージ 三	墨画から濃画へ―桃 山時代障壁面序説―	持丸 一夫	ミュージ 三	住吉如慶筆菊花生 図巻について	土居 次義 土居 次義	美 一四
室町時代水墨画研究 会記事	田中 一松	美術史 二	障壁面の松	土居 次義	美 一六	伝宗達筆 御物扇面 散屏風雷神図解説	谷 信一	美術研究 一七
1 文成と文清	松下 隆章		浜松図屏風について	持丸 一夫	美術研究 一七	光琳の図案集画冊	望月 信成	美 一四
2 画人蔵三につ いて	米沢 嘉圃		繪図屏風解説	豊治	ミュージ 三	光琳筆鶴図	松下 隆章	大和文華 二五
3 善阿印ある画 幅	島田修二郎	華 七六	狩野元秀筆花鳥図解 説	橋崎 宗重	華 七五〇	紅白梅図屏風解説 尾形光琳筆	土居 次義	美 二五
孤舟水遠図解説 藤 井徳義氏蔵	松下 隆章	美術史 三	狩野光信の花鳥画	土居 次義	美 三	立葵図衝立解説 尾 形光琳筆	尾 形光琳	二
良全筆白衣観音図解 説	田中 一松	華 五二	狩野山楽筆山水図双 幅解説 桑原羊次郎 氏蔵	橋崎 宗重	華 七五三	花卉鳥禽図板絵解説 伝尾形光琳筆大覚寺 蔵	土居 次義	美 二
伝周文四季山水図屏 風解説国立博物館蔵	嶋田 佳矣	日本美術 工藝 一八	牡丹図襖絵解説 狩 野山楽筆大覚寺蔵	土居 次義	美 二	四季花鳥図屏風解説 酒井抱一筆陽明文庫 蔵	土居 次義	美 二
雪舟筆山水長巻につ いて	信時 潔	七ノ一〇	菓物図小襖絵解説 正伝寺蔵	土居 次義	美 二	秋草図屏風解説 酒 井抱一筆	土居 次義	美 二
雪舟の四季花鳥屏風 と音楽	島田修二郎	華 五三	千鳥水車図屏風解説	土居 次義	美 二	朝顔図屏風解説鈴木 其一筆	土居 次義	美 二
拜塔観音図解説 山 中次郎氏蔵	國 華 五三		雪汀水禽図屏風解説	土居 次義	美 二	フリア画廊の地蔵験 記と探幽縮図	梅津 次郎	大和文華 三
周茂叔愛蓮図 狩野 正信筆	鷹巢 豊治	ミュージ 三	花卉図小襖絵解説 円満院蔵	土居 次義	美 二	狩野探幽筆歌仙扇額 解説 浅間神社蔵	鈴木 進	華 七六
神農図	小野 忠弘	福井県文 化財調査 四	波瀾図解説	土居 次義	美 二	守景の一面―夕顔棚 納涼図を中心に―	吉沢 忠	七三

良尚親王筆果物尽御
絵について 源 豊宗 艸 美 二四

円山応挙の難福図巻
について 家永 三郎 日本歴史 七

円山応挙筆埤頭図解
説 初期洋画研究所 榑崎 宗重 国 華 七五〇

土方稻嶺筆月海遊鯉
図解説 細見良氏蔵 榑崎 宗重 七四三

呉春筆田園風景図解
説 大橋理祐氏蔵 榑崎 宗重 七五〇

画僧龍山 脇田秀太郎 大和文化 研究 六

岡本秋暉筆花鳥図双
幅解説 榑崎 宗重 国 華 七五三

森狙仙筆風雨桜花五
猿図解説 土居 次義 艸 美 七四五

岸竹堂の素描 土居 次義 艸 美 七四二

草花図小樓絵解説 榑崎 宗重 国 華 七四七

天寧寺蔵 小野 圭史 日本美術 一八四

池大雅筆六遠山水図 榑崎 宗重 国 華 七四七

蘭玉帖解説 小野 圭史 日本美術 一八四

武藤山治翁と蕪村 飯島 勇 ミュージ アム 七三

浦上玉堂作品考 飯島 勇 ミュージ アム 七三

青山紅葉図(山水画
帖の内) 浦上玉堂筆
解説 藤懸 静也 国 華 七四二

用語解説 浮世絵 菊地 貞夫 ミュージ 三

浮世絵と美人画 近藤市太郎 萌 春 二ノ五

元祿(師宣筆風俗図
巻より) 榑崎 宗重 日本歴史 六六

錦絵の創始と鈴木春
信 榑崎 宗重 日本歴史 六六

祐信と春信の立花の
図 明石 染人 艸 美 六六

上方役者似顔絵考一
流光斎・松好斎のこ
と 岩城 次郎 美 学 二六

浮田一蕪筆四条河原
夕涼図解説 大橋理
祐氏蔵 榑崎 宗重 国 華 七五三

北斎と表現 滝口 修造 みづゑ 五七

北斎と幽霊 織田 一磨 心 七ノ二

葛飾北斎筆山部赤人
図解説 藤懸 静也 国 華 七四五

葛飾北斎筆鮭に嵐図
解説 榑崎 宗重 七四九

ぎょうとくしほはま
よりのほとひかた
をのぞむ 葛飾北斎
筆解説 菊地 貞夫 ミュージ アム 四三

広重とともに旅して 樋口源一郎 国立博物館 二ノ一 八八五

大津絵の話 柳 宗悦 三 彩 三

大津絵といふもの 山内金三郎 三 彩 三

大津絵と宗教画 クルト・ブ
ラットシュ 三 彩 三

悲しみの聖母像解説 西村 貞国 華 七五

奥田新三蔵氏・田中
秀吉氏蔵 渡辺紳一郎 日本美術 一九五

泥絵について 唐木 順三 心 七ノ五

司馬江漢について 唐木 順三 心 七ノ五

朝鮮、中国、其他 堀 淳二 史 観 三

高勾麗古墳の星辰図
について 田村 実造 歴史教育 二三

慶陵の絵画 研究資料 高麗時代
の五百羅漢図 松本 栄一 美術研究 一七五

漆釈迦像小屏 魯英画金 熊谷 宣夫 三

日本にある中国面の
価値 田近 憲三 藝術新潮 五ノ一〇

阿部コレクション中
国名画展 久志 卓真 陶 説 二六

漢の豈尤伎について
一 武氏祠画像の解
Ein Stammbuch
Huang-i 黃易 vom
Jahre 1787 anlä-
sslich des Besuch-
es des Wu-liang-
tzu-tang 武梁祠
碑 水野 清一 東方学報 京都云

女史箴図巻の模写 前田 青邨 藝術新潮 五ノ三

画家尉遲乙僧につい
て 長広 敏雄 東方学報 京都云

高僧崇拝と肖像の藝
術一随唐高僧像序論
新出現の宋拓華嚴入
法界品善財参問変相
経について 上 小林太市郎 仏教藝術 三

雑華室印ある伝馬驛
梅花双雀図 相見 香雨 大和文華 一五

松下 隆章 三

「漁村夕照図」と牧谿
因陀羅の禪機図巻並
びにその落款につい
て
鈴木 敬
アム
ミュージ
三

新国宝紹介 因陀羅
筆丹霞焼仏図
国立博物
館ニュー
ス
六

嵯閣山水図解説 細
見良氏蔵
米沢 嘉圃 国 華 五二

辺文進筆山茶花と山
鳩図解説 徳力富吉
郎氏蔵
三 七三

沈周筆吳中勝覧図解
説 川合定治郎氏蔵
三 七五〇

陸治筆花鳥図解説
川合定治郎氏蔵
三 七五九

王建章筆花卉図解説
原田耕三氏蔵
三 七六六

葉文舟筆松石図解説
今村千象氏蔵
三 七五五

高其佩筆山水図解説
川合定治郎氏蔵
三 七五三

金寿門の肖像
西川 寧 書 品 五〇

金寿門小像補記
三 五二

羅聘筆姜白石詩意図
冊解説 水田竹圃氏
蔵 島田修二郎 国 華 七六八

西蔵絵画史に於ける
近業トウツチ教授
の大作について
長尾 雅人 仏教藝術 三

喀喇和卓 (Karakul
Khan) の高昌国人
墳墓内から発見され
た神像図に就いて
那波 利貞 龍谷大学
三六

ベゼクリク第八号窟
寺将来の壁画―主と
してその千仏像につ
いて
熊谷 宜夫 美術研究 一七

大谷ミッシヨン将来
の壁画二断片につい
て
熊谷 宜夫 美術史 二

書跡・附篆刻・文房具
書 跡

近衛家に伝世した文
化財
田山 方南 天地人 九

鎌倉とそれ以後
書の上さまさま―名物
めぐり
樋口 秀雄 墨 美 三

寂翰―名品展に於け
る―
田山 方南 淡 交 七

書を語る―国立東博
における書道名品展
に因んで―
是沢 恭三 墨 美 三

武者小路実
篤他
三

日本書道の特質
松井 如流 藝術新潮 五ノ九

前衛書道
宇野 雪村

書壇時評
金子 鷗亭 書 品 五

生活と書道
西川 寧 書 品 五

名品展を終えて
矢島 恭介 他 墨 美 三

用語解説 書跡
堀江 知彦 墨 美 三

日本
財津 永次 墨 美 三

道風新居帖に就いて
石山寺蔵虚空蔵菩薩
念誦次第とその紙背
文書
田中 塊堂 書 品 四

秋萩帖私考
藤原行成について
飯島 春敬 書 品 五

藤原行成に就いて
新発見の行成詩稿に
ついて
桃 裕行 書 品 五

行成詩稿に寄せて
行成の詩稿小感
財津 永次 墨 美 三

新国宝 深窓秘抄
「針切」と相沢本「重
之の子集」について
相沢 春洋 書 品 五

針切本重之の子の僧
の集について
堀江 和彦 書 品 五

針切本重之の子の僧
の集 積文と考異
小松 茂美 墨 美 〇

曼珠院古今
鈴木 一雄 書 品 〇

藤原定実
堀江 知彦 書 品 四

藤原定実年譜
小松 茂美 書 品 四

元永本の表現
堀江 秋菊 書 品 四

西本願寺三十六人集
時代
小松 茂美 墨 美 三

源氏物語と書―2―
時代
春名 好重 書 品 五

金沢本万葉集と藤原
定信
小松 茂美 墨 美 三

平家納経の錯簡につ
いて
近藤 喜博 書 品 五

道風新居帖に就いて
石山寺蔵虚空蔵菩薩
念誦次第とその紙背
文書
伊東 卓治 美術研究 一七六

秋萩帖私考
藤原行成について
飯島 春敬 書 品 五

藤原行成に就いて
新発見の行成詩稿に
ついて
財津 永次 墨 美 三

行成詩稿に寄せて
行成の詩稿小感
相沢 春洋 書 品 五

新国宝 深窓秘抄
「針切」と相沢本「重
之の子集」について
堀江 和彦 書 品 五

針切本重之の子の僧
の集について
小松 茂美 墨 美 〇

針切本重之の子の僧
の集 積文と考異
鈴木 一雄 書 品 〇

曼珠院古今
堀江 知彦 書 品 四

藤原定実
小松 茂美 書 品 四

藤原定実年譜
堀江 秋菊 書 品 四

元永本の表現
小松 茂美 墨 美 三

西本願寺三十六人集
時代
春名 好重 書 品 五

源氏物語と書―2―
時代
小松 茂美 墨 美 三

金沢本万葉集と藤原
定信
近藤 喜博 書 品 五

平家納経の錯簡につ
いて
是沢 恭三 書 品 五

利休の真跡 19 田山 方南 淡 交 宅

新取品紹介 堀江 知彦 ミュージ 四〇

良寛の手紙 桑原 雙蛙 日本美術 一八三

不昧公と「御座候」

中国書道の展開 中田 勇 墨 美 三

漢・乙瑛碑 松井 如流 書 品 五

六朝墓誌三種 康里子山の書 中田 勇 墨 美 三

明清時代とその書 明清調を語る―明清の書と現代― 中田 勇 墨 美 三

冬心集の序に代へて 西川 寧 書 品 五

金冬心の作品 小林 斗庵 書 品 五

金冬心の篆刻について 西川 寧 書 品 五

金冬心の自用印 西川 寧 書 品 五

金冬心偶感 松井 如流 書 品 五

金冬心の詩文 今関 天彭 書 品 五

金冬心の年譜 11、12 内藤淳一郎 書 品 五

趙之謙の書画―七十年記念にちなんで― 西川 寧 ミュージ 四三

趙之謙の作風 西川 寧 ミュージ 四三

座談会・趙之謙を語る 国立博物館 四六

篆刻・文房具 書 品 五

漢の印制よりみたる「漢委奴国王」印について 栗原 明信 史 観 四三

穆如清室蔵印 8、9 西川 寧 書 品 四六、四七

墨談義 小早川秋声 淡 交 宅

美術文献目録

洩河録石蘭亭硯 坂東 貫山 書 品 四

福島県郡山市出土の円面硯とその遺跡の性格について 内藤 政恒 史 術 二四四

古備前文正銘陶硯 萩原喜久治 日本美術 一八九

源氏物語に見えてい 春名 好重 書 品 五

日本彫刻展望 1-9 松本 橋重 日本美術 一六、一八、二一、二五

桃山時代の彫刻 小林 剛 ミュージ 四三

Co60よりのγ線による小金銅仏の透過写真撮影 登石 健三 古文化財 七

金銅仏のペリタートロンによる研究について 今村 龍一 大和文化 七

科学研究費による計画我が国に於ける金銅仏の研究 千沢 楨治 国立博物館 四六

造技法について 西川 新次 ミュージ 四三

用語解説彫刻(内剣) 西川 新次 ミュージ 四三

大仏師法眼康慶上、完日本彫刻作家研究の一節 小林 剛 国 華 七四六、七四九

快慶と重源 毛利 久 ミュージ 四三

快慶の署名について 史 術 二四五

堂森の彫刻調査―善光寺如来、見返り弥陀、時広夫妻像― 佐藤 東一 羽陽文化 三

羽黒山伝来の阿弥陀 中村 秀男 ミュージ 三

下総常世田薬師像に就いて 篠崎 四郎 史 術 二四〇

真言宗多田寺の仏像群について 野村 英一 福井県文化財調査 報告 四

伊勢明星寺久安元年銘薬師坐像 竹内 森太 史 術 二四六

南勢久昌寺承久三年銘阿弥陀像 太田 古朴 史 術 二四四

常善寺阿弥陀三尊像 散山彫像拾遺 毛利 久 比叡山 史 術 二四八

観心寺の秘仏 岡 直巳 国立博物館 史 術 二四五

播磨国法界寺の仏像と石造美術 浅田 芳朗 史 術 二四四

摩楽仏教の一断面―東大寺大仏蓮弁毛彫蓮華蔵世界私考― 狭川 宗支 南都仏教 一

吉祥悔過の法儀と東大寺塑像群に関する試論 町田 甲一 藝術学会 研究紀要 一

二つの仁王 新海 竹蔵 藝術新潮 五ノ三

新国宝 興福寺板彫十二神将像 岡 直巳 ミュージ 四三

燈鬼 天燈鬼・龍 千沢 楨治 史 術 二四

文殊菩薩像解説 般若寺像 小林 剛 大和文化 研究 四

伝香寺釈迦如来像と南無仏太子像 太田 古朴 史 術 二四七

法華寺の仏頭について 毛利 久 大和文化 研究 二四

常光寺の不動三尊像 浜田 隆 大和文化 研究 四

戊子釈迦像銘における「四恩」について 内藤 龍雄 書 品 四八

薬師寺講堂三尊考 田村 吉永 大和文化 研究 五

薬師寺月光菩薩の修理について	西村 秀雄	美術史	三	奈良朝末期の二つの肖像彫刻—行信像と鑑真像—	蓮実 重康	仏教藝術	三	大夏勝光二年金銅仏坐像解説	水野 清一	仏教藝術	三
月光菩薩再建	石井 鶴三	藝術新潮	五ノ六	二軀の裸形弘法大師像について	佐和 隆研		三	西域出土塑造頭部解説—京城韓国々立博物館蔵	熊谷 宣夫	美術研究	一七
月光菩薩の首纏ぎ	高柳 光寿	日本歴史	三	聖宝僧正とその造像について	毛利 久国	華	七四六	ガンダーラ派の仏教浮彫の手法	山本 智教	印度学仏教学研究	三ノ一
薬師寺東院堂聖観音像考	田村 吉永	美術史	二三	興福寺南円堂六祖の名称について	小林 剛	仏教藝術	三	宝冠仏の像について	高田 修	仏教藝術	三
唐招提寺礼堂釈迦如来像納入文書	小林 剛編	大和文化	五、六	俊乘房重源の肖像について	小野 圭史	日本美術	一八九	新取品紹介—石造宝冠釈迦如来像	金子 良運	アム	四〇
西大寺四仏坐像	佐藤 昭夫	アム	七	月溪蕪村の彫像を遺す	川勝政太郎	史迹と美術	二四〇	シヤミー神殿出土の青銅貴人像とパルテアの美術	深井 晋司	美術史	三
西大寺釈迦如来像の銘	小林 剛	大和文化	八	大津山上の不動三尊石仏	藤沢 一夫		二四三	建築史研究の方法について1、2	大串不二雄	建築学会研究報告	二六
西大寺文殊菩薩像納入物	小林 剛編		四	地藏菩薩半跏像に就て—河内中小坂に於ける石造の一例を中心にして—	与崎 淳		二四六	日本	岸田・吉田 堀口・谷田	藝術新潮	五ノ六
日羅像に就いて	岡 直巳	大和文華	一四	博多大乘寺跡地藏石仏	十輪院修理事務所	大和文化	四	座談会・日本建築	近藤 豊	史迹と美術	一、二、三、四、五、六、七、八
観音寺の十一面観音	小林 剛	大和文化	八	十輪院の石仏龕	野間 清六	アム	四二	古建築への入門	藤島文治郎	建築史研究	一八
地藏菩薩像解説—三本松新堂蔵	三	史迹と美	五	十輪院石仏龕から新しく見出された二天像	金子 良運	アム	四三	古建築の修理について	大森 健二	建築学会研究報告	二ノ一
雲山寺の貞和大懸仏解説	土井 実	大和文化	七	新資料紹介—黒川能面の遺品	野間 清六	アム	四二	古建築の修理について	高田 克巳		二ノ二
高取町出土の釈迦誕生仏	久野 健	国華	七四九	新資料紹介—関市春日神社の能面	羽陽文化		三三	古建築に於ける柱間寸尺決定の技法について	高田 克巳		二ノ二
仏谷寺の仏像	多和 和彦	史迹と美術	二四〇	調査談—野間課長の黒川能面	金子 良運	アム	四三	古代の規矩について	高田 克巳		二ノ二
備前児島の阿弥陀如来立像	脇田秀太郎	大和文化	三	新資料紹介—岡市春日神社の能面	岡本 康子	大和文化	三	法隆寺について	上田 虎介		二ノ二
尾道浄土寺の文殊菩薩像の銘	小川 光暘	文化史学	八	資料—勝手神社の能面	岡本 康子	大和文化	三	茅負の本木投・半木投に就て	上田 虎介		二ノ二
正花寺聖観音像解説	城島 正祥	史迹と美術	二四二	中国、其他				大工の座と建築の様式	豊田 武	日本歴史	七四
肥前龍田寺の康俊在銘普賢延命菩薩像	村山 修一	比叡山		北魏石仏の系譜—平城時代—	水野 清一	仏教藝術	三	大工の座と建築の様式	豊田 武	日本歴史	七四
山王院の山王神像に就いて	上野 直昭	大和文華	二三	北魏郡県地方石彫に就いて	松原 三郎	国華	七五	大工の座と建築の様式	豊田 武	日本歴史	七四
玉依姫再礼讃	脇田秀太郎	大和文化	八	北魏の道教像	松原 三郎	国華	七五	大工の座と建築の様式	豊田 武	日本歴史	七四
津山市高野神社隨身像銘	脇田秀太郎	大和文化	八					大工の座と建築の様式	豊田 武	日本歴史	七四
頂相彫刻試論	三山 進	美学	七					大工の座と建築の様式	豊田 武	日本歴史	七四

契約講(組)と屋根葺き	田中 稔	建築学会	二九ノ二	伊勢の印象	伊藤 延男	国立博物館	二九ノ二	禪利の衆察について	横山 秀哉	建築学会	二九ノ二
中世大工に於ける血縁関係 ^{1, 2}	大河 正躬	〃	二六	都久夫須麻神社本殿裝飾彫刻解説	藤原 義一	〃 美	三	瑞巖寺雜記	土居 次義	〃 美	八
京都大工頭中井支配の棟梁について ^{2, 5}	島田 武彦	〃	三三、三七、三九ノ一、三九ノ二	豊国神社唐門のいわれ	明石 染人	〃	七	松島円通院廟について	横山 秀哉	建築学会	二九ノ一
左甚五郎についての考察(大徳寺唐門と加太春日神社本殿の彫刻について)	藤原 義一	〃	三九ノ一	住吉大社本殿について	伊藤 延男	大和文化	七	下野薬師寺創立に関する試論 上、下	石村 喜英	〃	二四〇、二四一
桃山時代を中心とした建築の諸相	伊藤 延男	ミュージアム	三三	中世春日社造営における社工と寺工	大河 正躬	建築学会	二九ノ二	円覚寺塔頭正統院の建築について ^{1, 2}	川上 貢	建築学会	二九ノ一
桃山時代の建築彫刻山形の文化財建物三題	藤原 義一	〃 美	七、八	鳥居の原型と冠木唐居敷の変遷(門に見られる長押構造)	三田 克房	建築学会 論文集	四	美濃弥勒寺の発掘	石田 茂作	ミュージアム	三二一、三二
羽陽古建築再訪記	武田 好吉	羽陽文化	三	寺院地割に使はれた古代史について	加藤 泰	建築学会	三	再び夏見寺について	藪田嘉一郎	〃	三三九
高知県の古建築 不破八幡宮本殿及び観音正寺観音堂	藤原 義一	人文	三	日本塔婆の古代尺高さ法による分類について	加藤 泰	建築学会	三	夏見寺私見	村治田次郎	〃	三三三
内外陣呼称法考	井上 充夫	建築学会	二九ノ二	日本の仏堂建築に於ける内部空間の発展	井上 充夫	建築学会	二九ノ二	あながき	藪田嘉一郎	〃	三三三
一九五三年建築界回顧 建築史	太田博太郎	建築雑誌	八〇八	御影堂について	杉山 信三	大和文化	四	寂山文庫所蔵の文殊樓建築図の二三に就いて	近藤 豊	〃	三三九
伊東忠太特輯	伊東忠太	建築史研	七	高僧の住居としての僧房	赤松 俊秀	南部仏教	一	西明寺二天門造営年代考	鈴鹿 雅正	〃	三三八
大嘗祭正殿について	林野 全考	建築学会	三	塔址よりみたる国分寺創建年代	浅野 清	仏教藝術	三	常楽寺本堂の幕股について	日名子元雄	史迹と美術	二四八
日光東照宮裝飾文様について ³	辻合 喜代太郎	〃	二九ノ二	国分寺の伽藍配置規模に就いて	太田 静六	建築学会	二九ノ二	宝蔵寺の裝飾彫刻解説	藤原 義一	〃 美	三
日光東照宮坂下門扉牡丹唐草彫刻解説	小椋 修賢	〃 美	二	天竺様将来と思われ一構架法	山本 栄吾	〃	二九ノ一	吉田寺について	杉山 信三	史迹と美術	二四三
大湊神社本殿一棟	小野 忠弘	福井県文化財調査報告	四	重源の天竺様建築に於ける立場の検討	横山 秀哉	建築学会 論文集	四	法成寺三重塔は薬師寺塔の移建でなくて模建	板橋 倫行	日本歴史	九
神宮の御建物について	福山 敏男	〃	二九	僧堂と禪堂	横山 秀哉	建築学会	四	白河御堂に関する研究	杉山 信三	建築学会	二五、二六
中世神宮造替に於ける諸下行について	太田博太郎 大河 正躬	建築学会 研究報告	二九ノ二	禪利の庫裡について	横山 秀哉	建築学会	三	南禅寺大方丈再考	藤岡 通夫	美術研究	一七、一八

京都山科毘沙門堂について
山田 幸一 建築学会 二ノ二

醍醐寺あたり
藤島支治郎 国立博物館 六

大阪石山本願寺の殿舎について
川上 貢 建築学会 二ノ二

東大寺大仏殿院二
福山 敏男 大和文化 三

奈良時代造東大寺司官人の補任上造東大寺司の基礎研究
山本 栄吾 大和文化 八

東大寺鎌倉再建に於ける背景の一人物について
森 蘊 建築学会 二五

法華寺の客殿と庭園
村田 治郎 大和文華 二四〇

薬師寺と大安寺の占地
浅野 清 大和文化 七

大安寺及び薬師寺南大門、中門等の発掘
毛利 久編 建築学会 二

西大寺西僧房造営同心合力奉加帳
浅野 清 ミュージアム 三

新国宝唐招提寺経蔵
日名子元雄 建築史研 二八

法隆寺伽藍修理の経過―金堂の復原修理をめくつて―
蓮実 重康 国立博物館 九〇

法隆寺金堂の修理完成の意義
谷口 吉郎 美術史 三

法隆寺金堂再建小誌
浅野 清 建築史研 二八

法隆寺に於ける復原修理の実例
滝沢 真弓 建築学会 二

明日香乙女に高島田日本に於ける上代鷗尾の構成について
小山 連一 建築学会 二五

上代鷗尾鬼瓦説
藤島支治郎 建築史研 二ノ二

鷗尾説の論理
村田 治郎 建築史研 二八

「斑鳩寺災」並に「法隆寺史」に就いて
波江 悌夫 建築学会 二ノ二

書写山円教寺の護法堂について
野地 修左 建築史研 二

書写山円教寺の塔頭
岩崎 嘉治 建築史研 二

出雲国風土記に記されてゐる寺院（出雲だより一）
米山 徳馬 史迹と美 二七

媽祖からみた長崎唐寺の特性
丹羽 漢吉 建築学会 二ノ一

平城宮址発掘調査の意義
原田 淑人 国立博物館 三

平城宮址の発掘
斉藤 忠 建築史研 二

平城宮跡の調査について
榎本 杜人 美術史 三

平城宮跡の発掘調査
榎本 杜人 大和文化 三

平城宮東院に關する疑問
大井重二郎 建築史研 二

天正内裏について（京都御所の研究10）
藤岡 通夫 建築学会 二

江戸中期の内裏について（11）
藤岡 通夫 建築史研 二

新上東門院御所について（仙洞御所・女院御所の研究4）
藤岡 通夫 建築史研 二

江戸中期の所謂仙洞御所について（5）
藤岡 通夫 建築史研 二

桂離宮完成の段階的考察
森 蘊 建築史研 二

桂離宮の月の字形らんまについて
飯田須賀斯 建築史研 二

桂離宮ノート
伊藤 延男 ミュージアム 二

修学院離宮完成の段階的考察
森 蘊 建築史研 二

二条城二之九御殿の欄間彫刻
藤原 義一 建築史研 二

住宅様式発展の史的理論
木村 徳国 建築学会 二

住い方の履歴
小泉正太郎 建築史研 二

杉並区内土師式住居址の復原的考察
藤島支治郎 西郊文化 八

尾張の古農家と大地遺跡の竪穴住居（古農家の構架法に基づく竪穴住居復原の提示）
城戸 久 建築学会 二

奈良高等学校々庭に於ける堀立柱建造物遺跡
鈴木 嘉吉 大和文化 七

那岐竪穴住居の研究
渋谷 泰彦 建築学会 二

小五月郷の家屋の規模分布―中世奈良の研究1―
伊藤 鄭爾 建築史研 二

中世奈良に於ける風呂・上水・洗濯について―中世奈良の研究2―
伊藤 鄭爾 建築史研 二

中世奈良の住居に於ける就寝状態に就いて―中世奈良の研究3―
伊藤 鄭爾 建築史研 二

近世初頭に於ける農村住居の階層化について
白木小三郎 建築学会 二

江戸時代民家の文獻的研究―特に信濃佐久の民家について―
藤島支治郎 建築史研 二

山村住居の成立根拠
稲垣 栄三 建築史研 二

民家の変遷について（吉井川流域を中心として）
渋谷 泰彦 建築学会 二

農家の変遷について
白木小三郎 建築史研 二

名主屋敷の二つの形式（その形成過程と近江湖北地方の例）
白木小三郎 建築史研 二

仙台藩に於ける武士と農民の住居の間取について1、2(刈田郡平沢村に於ける武士の居住形式)

五箇山・白川郷

北陸の町家建築

能登の民家

坪川貞純家住宅について

天明時尾張有松に於ける家屋構造とその遺構

島原の角屋

奄美大島民家と鹿児島県本土の民家との関係

黒門について―江戸時代武家屋敷表門

黒門の移建をめぐつて(座談会)

ムロヤ、ムロヤ、オホムロヤ―日本古代建築の研究

「したち」と「えつり」1、2

上段の発生

会所について1

茶室分化の歴史的時点

住宅の一様式としての数寄屋造の研究

1 草庵茶室の成立

茶室と上段構について

書院茶室の形成と大徳寺孤蓬庵の建築

佐藤 巧 建築学会 二七、元

田中 義久 日本美術 一九三

石原 憲治 建築学会 二六

野村 英一 福井県文化財調査報告 四

城戸 久 建築学会 二九ノ二

鈴木 楸 研究報告 二九ノ二

藤岡 通夫 大和文華 三

野村 孝文 建築学会 二九ノ二

飯島 勇 アミュージ 四

関野克、他 国立博物館ニュー 五

太田茂比佐 建築史研究 一四

川上 貢 建築学会 二五

太田博太郎 研究報告 二七

川上 貢 研究報告 二七

野地 修左 研究報告 二七

中村 昌生 研究報告 二九ノ二

研究報告 二九ノ一

人文 三

舞臺の構造とその史的的研究1―徳川末期の農村組立舞臺について―

農村舞臺考

古代尺地割りに基づく奈良京と長安京計画について

京北条里の起点と西大寺占地の関係並に北辺坊の存在について―上―

平安京の構成上、下鎌倉の初期都市計画の性格

江戸末期に於ける大阪の市街形態

資料「和州南都図」に就いて

村落の形態―親方・小方・百姓の集落―畿内型庄園に見られる聚落の形成について

伊勢国飯野、多気兩郡に於ける条里の復原

三国三宿(浅貝二居三保)の考察 1本陣について

鎌原宿について(調査と考察)1

飛鳥彫文瓦の一新例

多賀城古瓦草創年代考

福島県借宿庵寺址出土の埴仏

東福寺の鏡瓦について

野上 敏一 古文化財 九

研究報告 二六

文化 一八ノ一

大和文化 六

研究 六

古文化財 九

研究 九

普通寺出土の埴

石造美術講義 四

北向不動院の石幢について

旧山城燈明寺の石燈籠

京都の庭

京の名苑への招待

知られざる名苑―金地院つるかめの庭

山口における雪舟の余映―雪谷庵と常栄寺庭園―

朝鮮、中国、其他

朝鮮建築に見る天竺様の伝来について

朝鮮世宗の造営活動

朝鮮世宗の建築制限について

朝鮮文宗、端宗代に於ける地方城郭の經營

韓国民家の主屋平面について

台湾に於ける漢民族の住居

中国仏塔の起原私解

中国の家相本(中国の風水)1

遼金の長城

藤井 直正 史迹と美術 二四七

川勝政太郎 史迹と美術 二四〇

石川 宏 史迹と美術 二三九

川勝政太郎 史迹と美術 二四五

久恒 秀治 藝術新潮 五ノ四

久恒 秀治 藝術新潮 五ノ四

久恒 秀治 藝術新潮 五ノ四

Ma na sara (シルバ・シヤーストラ序説(3))
 Swa-Stika 文様に
 (277)
 A Propos de Gignun
 R. Ghirshman
 東方学報 京都五

工 藝

総 記

桃山時代の工藝—その獨創性について
 本阿弥光悦—人と作品
 本阿弥光悦の藝術について
 緒方・本阿弥両家略系譜
 水文様
 波頭について
 弥生式の流水文
 西本願寺三十六人歌集料紙の波
 雷文の性質と起原
 関西の博物館美術館を廻りて
 白鶴秋季展報告
 偽せものすきな日本人
 陶 磁
 工 工
 東洋と西洋の陶磁器から
 古陶の意匠をたづねて
 土とともに感じるもの

土にかく絵
 「器物と私」の中より
 白磁の話一一〇
 名物めぐり
 茶盤
 ちやわん抄
 惺入作黒・白出来「東雲」
 大槌焼初午茶盤
 志野唐津
 祥瑞香口紅・内青磁
 黒三島檜垣
 銘雪山
 飛び入り茶碗抄
 日 本
 青森県十三村中島発見の土師器
 都介野の祭祀遺物
 須恵器の系譜
 須恵器雑感
 須恵器の窯跡
 埼玉県大里郡寄居町末野の窯址調査
 掘り出した話
 栄村の祝部式土器
 猷脚壺

西堀 一三 艸 美 二四
 小森 松庵 陶 説 七
 内藤 匡 日本美術 一八二—一八九
 工藝 一九〇—一九九
 林屋 晴三 淡 交 七
 田中作太郎 日本美術 一八二—一八八
 工藝 一九〇—一九九
 加藤義一郎 日本美術 一八二—一八八
 工藝 一九〇—一九九
 60 惺入作黒・白出来「東雲」 61 絵唐津初午茶盤
 62 大槌焼初午茶盤 雑の絵 63 乾山柳絵賛
 64 志野唐津 65 織部唐津 66 浅黄唐津「岸波」
 67 祥瑞香口紅・内青磁 68 絵唐津馬盃茶盤
 69 黒三島檜垣 70 不昧公手造俗釉 71 萩胴縮
 銘雪山
 飛び入り茶碗抄 奥田 誠一 一九一

奥田 誠一 一九一
 榎井 清彦 考古学雑 四〇—一
 景山 春樹 大和文化 四
 藤岡 了一 艸 美 六
 陶 説 七
 小山富士夫 考古学雑 三九—三
 志 四
 吉田章一郎 四〇—一

国立博物 館ニユー 〇
 羽陽文化 三
 国立博物 館ニユー 三
 佐藤 東一 羽陽文化 三
 田中作太郎 国立博物 三
 猷脚壺 国立博物 三

猷脚付陶製葦骨器
 陶製猷脚付骨壺 川
 崎市馬出土
 陶製平瓶骨壺 奈良
 県高市郡高取町壺坂
 寺奥ノ院出土
 多度の緑釉陶
 正院焼(弥蔵焼)
 藤原の壺
 瀬戸古窯の中から
 紹鷗せと白天目につ
 いて
 瀬戸黒というもの
 練上志野水指解説
 信楽焼
 九谷焼抄説
 古九谷
 古九谷に就て
 古九谷模記
 古九谷を思ふ
 古九谷彩磁
 古九谷意匠瞥見
 九谷古窯発掘
 古九谷椀文様德利
 古九谷椀付解説
 彦根藩窯湖東焼抄考
 京焼に就て
 仁清の墓・乾山の井
 戸「乾山特輯号」に追
 補す

久保 常晴 考古学雑 四〇—一
 誌 三
 アム ニュージ 三
 三宅 敏之 日本美術 一九三
 工藝 一九三
 満岡 忠成 日本美術 一九三
 工藝 一九三
 刀弥 省三 陶 説 七
 岡田 宗叡 日本美術 一九三
 工藝 一九三
 鈴木 八郎 日本美術 一九三
 工藝 一九三
 林屋 晴三 陶 説 二
 岡田 宗叡 日本美術 一九三
 工藝 一九三
 平野 敏三 艸 美 六
 寺島 為一 陶 説 九
 應巢 豊治 陶 説 二
 磯野風船子 陶 説 二〇
 満岡 忠成 陶 説 二
 浅野 廉 日本美術 一九一
 工藝 一九一

古九谷 中川 千咲 陶 説 一八
 北出塔次郎 陶 説 二
 満岡 忠成 大和文華 二
 日本美術 二
 工藝 二
 野上 敏一 古文化財 七
 田中作太郎 艸 美 九
 保田 憲司 陶 説 二五

猷脚付陶製葦骨器
 陶製猷脚付骨壺 川
 崎市馬出土
 陶製平瓶骨壺 奈良
 県高市郡高取町壺坂
 寺奥ノ院出土
 多度の緑釉陶
 正院焼(弥蔵焼)
 藤原の壺
 瀬戸古窯の中から
 紹鷗せと白天目につ
 いて
 瀬戸黒というもの
 練上志野水指解説
 信楽焼
 九谷焼抄説
 古九谷
 古九谷に就て
 古九谷模記
 古九谷を思ふ
 古九谷彩磁
 古九谷意匠瞥見
 九谷古窯発掘
 古九谷椀文様德利
 古九谷椀付解説
 彦根藩窯湖東焼抄考
 京焼に就て
 仁清の墓・乾山の井
 戸「乾山特輯号」に追
 補す

陶工乾山	川喜多半泥	陶	一四
乾山一人と作品一	小林太市郎	淡交	七
「佐野乾山」前記	鈴木半茶	陶説	二五
乾山白書「乾山特別号」に対しての	小田雨畦	シ	七
乾山茄子絵水指と初期作品に就て	富本憲吉	大和文華	二三
乾山の「陶工必用」について	満岡忠成	陶説	二四
乾山年表	小田雨畦	シ	二
乾山展所見	満岡忠成	陶説	二四
乾山系陶工略譜考	小田雨畦	シ	二
青木木米一人と作品	満岡忠成	淡交	七四
小俣蠶菴と木米	林屋晴三	シ	二八
初期茶家の系譜私考	山田万吉郎	日本美術工藝	一八四
長次郎二代説を中心として	小田栄作	陶説	三
楽茶盤の先祖について	菊岡久利	シ	二六
のんかりの異名に就いて	林屋晴三	アム	三四
光悦の茶盤一わが鑑賞	保田憲司	陶説	二六
光悦作 二つの茶盤	シ	シ	二七
銘彫 永祿八年古丹波花入に就て	桑原雙蛙	シ	二二
倉崎権兵衛 三	桂又三郎	日本美術工藝	一八三
奈良朝の伊部古窯址	立花押尾	陶説	二
古備前を思う	桂又三郎	シ	二〇
萩焼と切支丹	高橋城皓	シ	三
末広山窯の発見一その中間報告	岡田宗淑	シ	二九
唐津(古陶みちしるべ)			

美術文献目録

唐津焼の概念	佐藤進三	陶説	一九
唐津の考へ方	桂又三郎	日本美術工藝	一八四
古唐津を語る	満岡忠成	陶説	二三
茶陶唐津談義	加藤土師萌	シ	一九
陶技上から見た唐津	奥原信一	シ	二七、二九
道園日記一、二(唐津古窯発掘記録)	水町和三郎	艸美	九
初期の古伊万里	藤岡了一	シ	六
伊万里風俗絵徳利	田中朔生	アム	四五
柿右衛門鑑賞手引き	佐藤進三	陶説	一八
柿右衛門と渋右衛門	柳宗悦	心	七ノ六
現川と云ふ焼物	伊東楨雄	陶説	一〇
朝鮮茶碗	小山富士夫	大和文華	二三
高麗時代の茶碗	喜左衛門井戸茶碗	日本美術工藝	一八七
高麗青磁葡萄唐草唐子遊文水注	中国、其他		
秋の中国陶磁展	竹内逸	陶説	三
戦国時代の黒陶明器の技術的実験について(抄記)	ウイリアム・J・ヤング・フロレン	シ	二七
ガラス質で被ふた中国の古陶	梅原末治	大和文華	二五
明器と土偶	長広敏雄	中国明器泥像	
明器の怪異説話	上田宏範	シ	
明器の魅力	藤岡了一	陶説	二五
中国の明器泥像に關する問題	佐藤雅彦	陶説	三
中国明器泥像展によせて	仏教藝術	三	
古代中国の瓦陶明器	三杉隆敏	陶説	元
大阪市立美術館展	漢銅器式方壺に就て	シ	
観	越窯の研究1-6	三杉隆敏	二〇、二一
唐代の美女俑解説	宋磁雜記	佐藤雅彦	三
汝窯	南宋官窯の「色青帶粉紅」といふことに	米内山庸夫	二〇、二一
南宋官窯の「色青帶粉紅」といふことに	粉紅」といふことに	尾崎洵盛	二二、二五
南宋官窯の研究(その中間報告)20-29	南宋官窯の研究(その中間報告)20-29	米内山庸夫	一八三、一八六、一九〇、一九三、一九五
新国宝曜変	観世音となつた影青の花瓶	田中作太郎	アム
釉裏紅雲鳳文瓶	中国の色絵	井上庄七	陶説
新重文紹介 染付花弁文大皿	黄万曆尊式瓶	羽陽文化	二四
博物院の万曆赤絵	青花三彩牡丹文香炉	満岡忠成	二五
解説	古月軒の作品	佐藤雅彦	九
祥瑞大概	祥瑞大概	田中作太郎	アム
		田中作太郎	二四
		田中朔生	シ
		奥田誠一	シ
		満岡忠成	陶説
			三

遼代の陶磁
遼の陶磁展を視る
遼代の長壺 1、2
金 工

黒田 源次 陶 説 三
小林 善雄 三
斎藤菊太郎 三、三

用語解説 金工
上代鋳造の型技法
銅鐸二例

中野 政樹 ミュージ アム 二六
本間 正義 美術研究 一七六
三木 文雄 ミュージ アム 二六
榎本 杜人 三

石上神宮の七支刀
飛鳥浄御原宮御宇天皇の「おくりな」についで疑問「長谷寺蔵千仏多宝塔銘文」に関連して

小野 勝年 大和文化 三
市場直次郎 考古学雑誌 四〇ノ三
蔵田 蔵 ミュージ アム 四五
淡 交 七六

求菩提山銅板経図像
私考
仏具よりみた金剛寺蔵三鉢柄劍
水瓶さまへ——名物めぐり

山城古銘文資料
一 財永六年狛辨口
二 神心元年東福禪寺仏殿鐘銘

清涼寺銅鐘と銘文
従一位富子と堺の衆
清涼寺の鐘銘
興福寺観禪院の梵鐘銘について

川勝政太郎 三
中村 直勝 三
小野 勝年 美術史 二三
多田 和彦 史述と美 二四六
筑紫 豊 大和文化 七

筑紫観世音寺の鐘の銘「筑紫氏の勞作を紹介す」

藪田嘉一郎 史迹と美 二四六

仁徳天皇陵出土と伝える鏡と環頭刀柄
肥前永田遺跡弥生式甕棺伴出の鏡と刀
箱式棺内出土の内行花文鏡
鏡像について——見聞覚知非——山河不在鏡中観——
江戸時代柄鏡の意匠
古い茶の湯釜の話
古釜めぐり——
名物めぐり——
新重文紹介 松梅図
真形釜 根津美術館蔵
鍍金総覆輪三十六間四方白星兜解説 櫛引八幡宮蔵
櫛引八幡神宮赤糸威鏡について

梅原 末治 大和文化 七
坪井 清足 史 林 七ノ二
金岡 丈夫 考古学雑誌 四〇ノ三
原口 信行 誌
保坂 三郎 国 華 七〇七
長谷川 栄 ミュージ アム 四二
細見古香庵 日本美術 一八五、一八六
工藝 六
長野 埜志 淡 交 六九
蔵田 蔵 ミュージ アム 四〇
尾崎 元春 三
野間 清六 ミュージ アム 四
辻本、沼田 三
鈴木 敬三 刀剣美術 二四
辻本 直男 三
尾崎 元春 ミュージ アム 四
辻本 直男 大和文化 三
佐藤 貫一 ミュージ アム 四

藝術としての刀装
(刀装概論)
刀装概論
刀装への回想
用語解説 刀装
飾太刀と細太刀に就いて
神宮司庁蔵毛拔形大刀について
鹿島神宮神宝飾靈劍について
談山神社の刀剣——大和物について
狐ヶ崎太刀及び黒漆太刀
鐔考(甲冑師鐔)

本間 順治 刀剣美術 三〇
野間 清六 ミュージ アム 四
辻本、沼田 三
鈴木 敬三 刀剣美術 二四
辻本 直男 三
尾崎 元春 ミュージ アム 四
辻本 直男 大和文化 三
佐藤 貫一 ミュージ アム 四

信家鐔について
尾張透と赤坂と肥後獅子造小き刀拵、祐乗作 解説 前田育徳会蔵
乘意に就て
後藤才次郎と右兵衛吉次
来国後に対する再検討——主として時代、系統について——
来国後の年紀について
大和助光のことも
奥羽の古刀工について
相州正宗について
実物上の兼氏論
志津を語る
大和志津私論
赤松政則と長船勝光、宗光
理忠に就ての一考察
堀川国広について
肥後の国勝
肥後の国勝、清国同人説
陸奥大掾三善長道に就て
虎徹正真説に应ふ
虎徹は正真と信する
虎徹の真偽に就いて
佐野兼偽銘に付て
佐野兼偽銘切師とは事実か想像か
山浦兄弟を憶う、

日野雄太郎 刀剣美術 三
笹野 大行 三
佐藤 貫一 ミュージ アム 四
神谷紋一郎 刀剣美術 二
辻本 直男 陶 説 三
本間 順治 刀剣美術 三
西藤 樂山 三
佐藤 貫一 三
本間 順治 三
宮形 光盧 三
佐藤 貫一 三
三枝 啓助 三
永 冠峯 三
佐藤 貫一 三
福永 醉劍 三
米山 雲外 三
覆 俊夫 三
藤代 松雄 三
寿郎 山人 三
池田 末松 三
前島兼一郎 三
辻本 直男 三

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

二一四

伊勢神宮の名刀	石谷富次郎	刀剣美術	三六
名物刀もの譚六、七	鶴堂	三、七	
「中世に於ける刀剣書」の研究 三一能	辻本直男	三〇	
阿本銘尽について	〃	〃	
近世に於ける刀剣書の研究 一―埋忠銘鑑について	〃	三七	
光徳の折紙、下げ札添状	神谷紋一郎	元	
源清麿の墓碑	辻本直男	〃	
勤皇の志士斎藤昌磨は清麿の師也	仲村清真斎	〃	
中国出土の一群の銅利器に就いて	梅原末治	東方学報 京都五	
殷代および綏遠青銅器	上田宏範	古代北方美術	
芮公鈕鐘考	杉村勇造	中国古代史の諸問題	
中国の古い特殊背鏡の二三	梅原末治	大和文華 一四	
戦国時代の彩面鏡	〃	美術研究 一七六	
金銀銅藻盤	榎本杜人	大和文華 一五	
金銅四環壺 解説	景山春樹	大和文化 五	
Origin and Age of the "Grazing" Animal	Alfred Salmony	東方学報 京都五	
ルリスタン青銅器	増田清一	古代北方美術	
線彫金銅板	原田淑人	国立博物館ニユー 八三	
木漆工			
民族性と漆工藝	川崎浩良	羽陽文化 三	
名物めぐり 蒔絵を語る 上、下	溝口三郎 淡交	七四、七五	
用語解説漆工平蒔絵	吉岡道隆	ミュージアム 三六	
密陀絵の研究	上村六郎	古文化財 九	
正倉院密陀絵調査報告	北村康一	書陵部紀要 四	
近世の漆絵と密陀絵	山崎一雄	要	
古代の山岳図―玉虫厨子台座絵を中心として―	吉岡道隆	ミュージアム 三六	
安楽律院厨子及び板絵について	高崎富士彦	〃 三六	
正倉院唐草蒔絵油色皮箱	白畑よし	仏教美術 三	
平安時代の蒔絵小宮を採ねて	鈴鹿雅正	大和文華 三	
敵島神社所蔵の所謂「松葉鶴蒔絵小唐櫃」の銘文について	吉野富雄	〃 三	
刀鞘にみる初期高蒔絵と沈金	平安時代の蒔絵小宮を採ねて	吉村茂樹	美術史 二
時代碗の遍歴 一―六	溝口三郎	ミュージアム 四五	
日本古代の籠組物	松田権六	淡交 七〇、七三、七四、七六	
日向の米良塗	池田飄阿	陶説 二	
新発見の中尊寺天蓋その他	岡田讓	国立博物館ニユー 八一	
Un Teou en bois laqué	石田茂作	考古学雑誌 四〇、二	
高麗の螺鈿器	Yadme Elisseeff	東方学報 京都五	
研究資料 文献上より見た高麗螺鈿	吉野富雄	美術研究 一七五	
高麗螺鈿と青磁象嵌の文様について	岡田讓	〃	
中国古来の油絵即ち油画(俗称密陀絵)に關する研究	中川千咲	〃	
堆朱について	上村六郎	大阪学藝大学紀要 二	
堆朱の名作あつまる	岡田讓	ミュージアム 三六	
染織工			
名物めぐり 織錦の鑑賞 上、下	龍村謙淡	交 七三、七五	
法隆寺裂れの赤色系染料について(溶剤転溶法とペーパークロマトグラフ法による試験)	西村兵部	〃 七五	
正倉院古製銘文集成一、結	山辺知行	古文化財 九	
斜子遣い技法に依る上代綾の新解釈 一―三	林孝三	古文化財 九	
京都国立博物館蔵能装束 解説	涼野恭子	書陵部紀要 二、三	
新資料紹介 岐阜県関市春日神社の能装束羽織	松島順正	要	
辻ヶ花染に対する一考察	佐々木信三	大和文化 五七	
用語解説 友禪染 下	北村哲郎	艸美 二	
所伝平家の赤旗の研究	山辺知行	ミュージアム 四一	
調査の旅あちこち	野間清六	〃 四一	
松の意匠	山辺知行	美術史 三	
花ときもの	北村哲郎	ミュージアム 四〇	
	今市正義	古文化財 八	
	山辺知行	国立博物館ニユー 八七	
	北村哲郎	艸美 二	

日本古代被服構成技法の観察 山本 らく アムノジ 七
近世服飾美概見 斎藤 隆三 歴史教育 一五

中亜トルファンの染織遺品―天理参考館蔵西域裂について 西村 兵部 大和文化 三
南方裂の模様 山辺 知行 国立博物館ニユー 七

ガラス工・玉工

日本古代ガラス玉の成型について 朝比奈貞一 古文化財 七
正倉院破玉及び宮内庁書陵部保管の古墳出土ガラス玉について シ 九

正倉院蔵緑瑠璃十二曲長坏の植物文様について 藤野 勝弥 古代学研 二〇

奈良市山陵町出土碧玉製高坏について 小島 俊次 シ 八

対島と登呂から出土したガラス玉の化学的研究 山崎 一雄 古文化財 八

中国古玉の蒐集とその研究(特に米國における) 梅原 末治 アムノジ 四三

中国古玉の粹 杉村 丁 国立博物館ニユー 八

玉を愛する心 シ アムノジ 四〇
殷王燕釈 陳仁寿 考古学雑誌 四〇ノ三
藤田国雄 誌

其 他

昭和二十五、二十六年度正倉院楽器調査概報 芝・長屋 書陵部紀 二
滝・岸辺 要

昭和二十七年年度正倉院楽器調査概報 芝・長屋 書部陵紀 三
篋篋の起原 下 岸辺 成雄 考古学雑誌 四ノ三
玉杖と銀杖 末永 雅雄 大和文化 一五
時香盤について 朝比奈貞一 大和文化 五

考古学関係

原始美術の藝術性 木村 重信 京都市立美術大学研究紀要 一
旧石器時代の石器と前石器時代の問題 ジョン・マリンガー 考古学雑誌 四ノ三

日本考古学講座 日本固有の藝術味―まがきに代えて― 原田 淑人 国立博物館ニユー 八〇
三段階を通じて発掘―日本考古学の歩み― 増田 精一 シ 八二

新石器時代の生活 野口 義麿 シ 八三
繩文式文化の概要 弥生式文化の復原 大和唐古村の概要 八幡 一郎 シ 八四

大和唐古村の復原 弥生式文化の概要 大和唐古村の概要 一、二、三 八五
大和唐古村の概要 八幡 一郎 シ 八四

大和唐古村の概要 八幡 一郎 シ 八四

大和唐古村の概要 八幡 一郎 シ 八四

大和唐古村の概要 八幡 一郎 シ 八四

大和唐古村の概要 八幡 一郎 シ 八四

大和唐古村の概要 八幡 一郎 シ 八四

大和唐古村の概要 八幡 一郎 シ 八四

日本原始時代の理解 最北地区の先史文化 Stage of Stone Age Culture in Japan 杉原 荘介 駿台史学 四
石器時代の装身文化 樋口 清之 日本歴史 六
縄文文化編年試論 エドワーズ・キッド 古代学 三ノ三

縄文文化編年試論 エドワーズ・キッド 古代学 三ノ三

関東及中部地方に於ける無土器文化の終末と縄文文化の発生 弥生式文化時代農耕雑感 八幡 一郎 歴史教育 七

土師式文化前期に対する一考察―矢倉台土器の提唱― 荻原 弘道 西郊文化 八
地形と遺跡 藤岡謙二郎 史迹と美術 二四一

岩手県佐倉河村発見の弥生式遺跡 伊東 信雄 古代学 三ノ二
土荒谷の縄文前期遺跡調査 川崎 利夫 羽陽文化 三
九十九里沿岸に於ける低地遺跡の研究 清水 潤三 史学 三ノ四

東京都葛飾区新宿町低湿地遺跡の発掘 可兒 弘明 西郊文化 八
三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

日本原始時代の理解 最北地区の先史文化 Stage of Stone Age Culture in Japan 杉原 荘介 駿台史学 四
石器時代の装身文化 樋口 清之 日本歴史 六
縄文文化編年試論 エドワーズ・キッド 古代学 三ノ三

縄文文化編年試論 エドワーズ・キッド 古代学 三ノ三

関東及中部地方に於ける無土器文化の終末と縄文文化の発生 弥生式文化時代農耕雑感 八幡 一郎 歴史教育 七

土師式文化前期に対する一考察―矢倉台土器の提唱― 荻原 弘道 西郊文化 八
地形と遺跡 藤岡謙二郎 史迹と美術 二四一

岩手県佐倉河村発見の弥生式遺跡 伊東 信雄 古代学 三ノ二
土荒谷の縄文前期遺跡調査 川崎 利夫 羽陽文化 三
九十九里沿岸に於ける低地遺跡の研究 清水 潤三 史学 三ノ四

東京都葛飾区新宿町低湿地遺跡の発掘 可兒 弘明 西郊文化 八
三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

三角山遺跡―三角山遺跡のもつ問題― 直良 信夫 シ 九

京都南郊深草低地に於ける弥生式遺跡の発見と遺物 辻井喜一郎 史迹と美術 二四四

堺市浜寺石津町遺跡概報 森 浩一 古代学研 九

黒田遺跡発掘調査概要 小島 俊次 大和文化 四

獣首鏡を出した土佐平田村戸内の古墳 森 浩一 古代学研 二〇

宍岐考古調査記 藤田 国雄 国立博物館 九

対馬考古調査記 増田 精一 史 九

古墳の発生の歴史的意義 小林 行雄 史 三ノ一

考古夜ばなし 古墳の発掘など―本館考古課員の語る 石部 正志 国立博物館 六

古式墳内部構造の型式変遷について 武田 好吉 古代学研 二〇

高原の第二古墳調査 三木 文雄 国立博物館 八

那須八幡古墳 山口 平八 史 八

埼玉村古墳群 赤星 直忠 神奈川県文化財調査報告 三

逗子山野根横穴群 齋藤 優 古代学研 二〇

春日山古墳と泰遠寺古墳(越前松岡) 佐渡の古墳に就いて―真野町三貫目沢西古墳調査報告 本間 嘉晴 考古学雑 三ノ三

京都府竹野郡網野町小浜岡古墳調査略報 樋口 隆康 史 三ノ三

黄金塚古墳と亀塚古墳 三木 文雄 アム 三

歌姫横穴古墳調査概要 小島 俊次 大和文化 四

大安寺宇野神古墳発掘見分書 小泉 顕夫 大和文化 六

称徳天皇高野陵考 田村 吉永 史迹と美術 二四六

出雲上島古墳調査報告 池田 満雄 古代学研 二〇

葉山尻支石墓第二次調査概報 松尾 禎作 考古学雑 四ノ二

福岡県志登ドルメンの調査 八幡 一郎 国立博物館 八

甕棺累考―三甕棺の源流再考― 鏡山 猛 史 三

縄文晩期の組石棺―秋田県北秋田郡早口町矢石館遺跡― 奥山 潤 考古学雑 四ノ二

箱式棺を外部施設とする甕棺―大分県(豊後国)日田地方に於ける二つの例― 賀川 光夫 史 四ノ三

新たに国有になつた発掘品総説 斎藤 忠 アム 三

開催中の発掘品特別展―内容と陳列法の前進― 榎本 杜人 国立博物館 八

山城考古展の新資料 景山 春樹 史迹と美術 二四三

彩袖鬼瓦断片―石造露盤宝珠―銅造八稜唐鏡―上醍醐経塚 野口 義麿 考古学雑 四ノ二

新資料二題 武蔵国分寺出土の新資料について 宇野信四郎 西郊文化 九

茨城県野中貝塚調査報告 江坂 輝弥 考古学雑 三ノ三

野中貝塚出土自然遺物 直良 信夫 史 三

有角石器の諸問題―新資料によせて― 清水 潤三 史 四ノ二

有角石器の用途について―清水潤三君の批判に答えて― 伊東 信雄 考古学雑 四ノ三

秩父吉丸の石器 佐藤 達夫 史 三ノ三

石象考 小森 茂 国学院雑 五ノ三

常盤村の貝殻圧痕文土器片 加藤 稔 羽陽文化 三

縄文土器の変遷に於ける前期縄文式土器の滋賀県醍醐遺跡発見の縄文式土器 麻生 優 西郊文化 七

紀伊国隅田村発見の土器 小江 慶雄 京都学藝大学学報 Aノ五

新取品紹介墳輪馬 三木 文雄 アム 四

山形県飽海郡蕨岡村杉沢発見の大洞C式の土偶の出土状態について 酒井 忠純 考古学雑 三ノ三

群馬県郷原出土土偶について 山崎 義男 史 三

静岡県中川根村出土土偶その他 八幡 一郎 アム 三

木製鋤の出土につき 名和羊一郎 考古学雑 四ノ一

黄金鎖勾玉首飾 梅原 末治 史 四ノ二

石川県江沼郡矢田新丸山古墳の子持勾玉 上野 与一 史 四ノ一

蕨手刀 大場 利夫 史 四ノ三

古墳出土の鋸について 三木 文雄 史 四ノ一

広鋒銅鉾―大分県下北津留村出土― 増田 精一 アム 三

銀和銅開珎 榎本 杜人 国立博物館 八

銀銭和同開珎 附小治田安万侶金銅墓誌 葦田 蔵 アム 三

金銅葉誌板	榎本 杜人	ミュージアム	三	佩砥一わが鑑賞	増田 精一	ミュージアム	三	不昧公の茶の湯	不昧公と孤蓬庵	西堀 一三	艸	美	一六
播磨石峯寺経塚遺宝について	景山 春樹	大和文化研究	八	北方系銅剣と中国式銅剣	岡崎 敬	古代北方美術		不昧公と松江	初期立華と松	山根 有三	大和文華	一四	
藤原道長の金峰詣	佐藤 虎雄		四	フリア美術館収蔵の儀仗の利器と其の分類	梅原 末治	東洋史研究	三ノ四	室町時代の立花図巻について	花道史序説	米浪 庄式	三	彩	三
朝鮮、中国、其他				中国における錢貨の起原	曾我部静雄	古代学	三ノ三	雅金五人男実録について		坂本 太郎	西郊文化	七	
朝鮮考古学資料の集成	榎本 杜人	国立博物館ニュース	六	中国股代の櫛について	梅原 末治	史	三ノ五	乗瀨駅の所在について		中川徳右衛門	大和文華	三	
金海貝塚土器の上限と下限	有光 教一	考古学雑誌	四ノ一	最近のメソポタミア考古学について	鈴木 八司	歴史教育	八	島原の歴史と年中行事	吉野紙	永島福太郎		三	
金海貝塚の再検討(未完)	榎本 杜人		四ノ三	歴史関係・其他				奈良の鹿	奈良の鹿	上田 広範	根株	三ノ三	
大邱の支石墓群と古代朝鮮社会	三上 次男	東方学論集	二	神仏習合について	黒田 源次	国立博物館ニュース	六	朝鮮古代学世界の展望	興王寺址の調査と「韓国史前遺跡遺物地名表」の編纂	青丘遺文 一	藤田 良策	大和文化研究	六
夏譚「中国考古学の現状」	岡野 雄	歴史学研究	一七	慈恵大師の信仰に就いて	村山 修一	比叡山	五	中国古代理学世界の展望	居延漢簡とその研究成果	米田賢次郎	古代学	三ノ二	
学界動向 甲骨文研究の進展とくにその編年の整理の問題を中心として	佐藤 武敏	史学雑誌	三ノ八	春日祭神考	黒田 源次	大和文化研究	五	唐代史料稿	唐代史料稿	平岡 武夫	東方学報	京都五	
中国北辺の細石器文化とストーン・サークル	駒井 和愛	歴史教育	七	春日社と神鹿所見	田村 吉永	史迹と美術	二四五	たいまいを通じてみた古代南海貿易について	一粟浪より南海まで	角田 文衛	古代北方文化		
殷王朝の生産的基盤	岡野 雄	東洋文化研究所紀要	五	大和遺文 三一六	堀池春峰編	大和文化研究	三ノ五、八	ルリスタン文化とスキタイ文化	西方亜細亜古代学世界の展望	大西 郁男	古代学	三ノ一	
武官村の殷代大墓	岡田芳三郎	史	三ノ五	室町文化の象徴性と団樂性	芳賀幸四郎	歴史教育	三	ルリスタン文化とスキタイ文化	西方亜細亜古代学世界の展望	大西 郁男	古代学	三ノ一	
陝西省關雎台の漢墓泥像	岡崎 敬	中国明器考古学雑誌	三ノ三、四	南蠻文化要略	新村 出	ミュージアム	三	たいまいを通じてみた古代南海貿易について	一粟浪より南海まで	角田 文衛	古代北方文化		
遼の墓	島田 正郎	考古学雑誌	四	天正遣歐使節記	岡本 良知	ミュージアム	三	たいまいを通じてみた古代南海貿易について	一粟浪より南海まで	角田 文衛	古代北方文化		
間島省海蘭平野の渤海遺跡	斎藤 優		四〇ノ一	東洋精神と茶道	小林太市郎	淡交	五	たいまいを通じてみた古代南海貿易について	一粟浪より南海まで	角田 文衛	古代北方文化		
内蒙古百靈廟砂凹地の古墳	江上 波夫	東洋文化研究所紀要	五	利休の故郷(共同研究)	原田・林屋・奈良本・藤原	日本美術工藝	一七	たいまいを通じてみた古代南海貿易について	一粟浪より南海まで	角田 文衛	古代北方文化		
中国古代の石鏃について	曾野 寿彦	中国古代史の諸問題		不昧公その人	不昧公年譜	三島 祥造		たいまいを通じてみた古代南海貿易について	一粟浪より南海まで	角田 文衛	古代北方文化		

パレスティナのム
ラバト洞窟とその
出土品
梅津 和郎 古代学 三ノ二
ムラバト洞窟出
土のヘブライ語文
三笠宮崇仁 シ
賦について
小林 文次 シ
ウルク神殿につい
三ノ四

現代美術
西洋美術 単行 図書

北方古代学界の展望
ブリヤーク人の問
題
清水 陸夫 古代学 三ノ一
歐州古代学界の展望
羅馬帝国の印度貿
易
竹島 淳夫 シ
三ノ三

総 説

藝術入門(河出文庫)
矢内原伊作 河出書房
藝術社会学
貫 伝松 時 潮 社
藝術とはどういうものか
ラリス・ハ
三 一 書 房
—藝術の社会的基礎—
藝術社会学
研究会訳

藝術と技術(岩波新書)

藝術と人生(現代教養文庫)

大衆藝術(河出新書)

藝術を愛する一修道僧の
真情の披瀝(岩波文庫)

美学入門(河出文庫)

美の思索

美術(角川全書)

絶対造形美術

傑作と凡作との論理(ア
テネ文庫)

美術(アサヒ相談室)

今日の藝術

美術文献目録

朝日新聞社
出版局編
岡本 太郎 光 文 社

聖夜(シ)

野村良雄訳
リユツツラ
1解説
野村良雄訳
ヒルデ・ヘ
ルマン解説
エンデルレ書
店

日本美術年鑑一九五三年
版

東京国立文
化研究所美
術部編
東京国立文
化研究所

アヴァンギャルド藝術
花田 清輝 未 来 社
日本美の探究(教養新書)
北川 桃雄 法政大学出版
局

古美術と現代

美術史(図画工作鑑賞指
導)

図録世界美術史

美術の歴史と見方(学生
教養新書)

日本の文明

現代アメリカ美術の潮流

古代北方美術

美術八十年史

新女性美

聖母マリア(岩波写真文
庫)

弟子と使徒(エンデルレ
美術選集)

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

富永 惣一 至 文 堂
デュアメル
ジョン・パ
ウア
森本清水訳
大阪市立美
術館編
森口 多里 美 術 出 版 社
西田 正秋 東 洋 経 済 新 報 社

少年世界美術全集2
少年世界美術全集3
少年世界美術全集
少女世界美術全集
日本篇1 西洋篇3
現代世界児童美術全集
1-6
美術カド6
西洋建築・工藝・全期
西洋美術辞典
世界美術大辞典1
造形教育大辞典II
日本美術年鑑一九五三年
版

東大美術史
研究会編
実業之日本社
保 育 社
河 出 書 房

河 出 書 房

2 日本画篇下
3 洋画篇上
4 シ 下
5 彫刻篇
現代世界美術全集
3、4、6、12
現代日本美術全集4
造形講座1 形と色
美術教育講座
3、構成・図案篇
近世日本美術全集

現代世界美術全集

現代日本美術全集

造形講座1 形と色

美術教育講座

3、構成・図案篇

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

近世日本美術全集

河北倫明編
著 隈元謙次郎
編著 野間清六編
著 座右宗利行
会編
末田利一編
金子書房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

河 出 書 房

世界文化年鑑(一九五四年版)

平凡社

現代日本美術展圖集1

美術出版社
製作
日本色彩研
究所編

毎日新聞社

色名大辞典

創元社

新色名帖

日本色彩社

絵画

絵画の見かた(岩波新書)

矢崎 美盛
中村 研一

岩波書店

絵は誰でも描ける

丸木 俊子
赤松 廉

室町書房

絵の話1 改訂版

伊藤 忠弥

美術出版社

西洋絵画の話(角川新書)

高橋 忠弥

角川書店

西洋の名画

霜田 静志

造形藝術研究
会

西洋の絵(玉川こども百
科)

小原 国芳
富永 次郎
監修

玉川大学出版
部

世界の漫画

伊藤 逸平

ダヴィッド社

画面構造

松原 久人

美術出版社

絵画に於ける線の研究

金原 省吾

古今書院

吉利支丹洋画史序説

岡本 良知

昭喜社

泥絵とガラス絵

小野 忠重

アソカ書房

静物画の研究

山口 蓬春

美術出版社

新日本画の技法改訂版

ゴッホ(世界伝記全集4)

大久保 泰

セザンヌ

大山定一訳

人文書院

クレエ

片山敏彦訳

みすず書房

ルオー画集
ルオー版画集
ピカソ(現代絵画論
(岩波新書))

読売新聞社

岩波書店

ピカソ(岩波新書)

富永 惣一

岩波書店

黒田清輝作品集

東京国立文
化財研究所
美術部編

美術出版社

日高昌克画集

国立近代美
術館編

美術出版社

国吉康雄遺作展目録

国立近代美
術館編

美術出版社

梅原龍三郎3

国立近代美
術館編

美術出版社

岡本太郎(日本現代画家選)

国立近代美
術館編

美術出版社

川口軌外

国立近代美
術館編

美術出版社

小磯良平

国立近代美
術館編

美術出版社

児島善三郎

国立近代美
術館編

美術出版社

鈴木信太郎

国立近代美
術館編

美術出版社

林 武

国立近代美
術館編

美術出版社

三岸節子

国立近代美
術館編

美術出版社

宮本三郎

国立近代美
術館編

美術出版社

脇田和

国立近代美
術館編

美術出版社

青木繁(美術家シリーズ)

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

辻永作品集

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

丸木スマ画集

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

安井曾太郎表紙画集

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

横山大観

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

夢二画譜

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

田園小景

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

坊ちやん画譜

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

花の生涯画譜

ブリッヂス
トン美術館

美術出版社

万鉄五郎集

日本美人画選

細川書店

日本美人画選

日本美人画選

東都文化出版
KK

国立公園画集

国立公園協
会編

美術出版社

大原美術館泰西名画選

大原美術館協
会編

美術出版社

現代日本画の百撰印譜

河原 義和

美術主義評論
社

裸体絵画集

寺田政明編

大同出版社

裸体デッサン集

世界デッサン全
集刊行
会編

創藝社

世界デッサン全集

世界デッサン全
集刊行
会編

創藝社

近代篇2

近代篇2

創藝社

現代篇3

現代篇3

創藝社

巨匠のデッサン

巨匠のデッサン

アトリエ社

水彩名作選4

水彩名作選4

美術出版社

現代名作名画全集

現代名作名画全
集

六興出版社

宮田重雄集

宮田重雄集

六興出版社

木村荘八集

木村荘八集

六興出版社

石井鶴三集

石井鶴三集

六興出版社

版画の歴史

版画の歴史

東峰書房

版画の話

版画の話

東峰書房

版画をつくる子供たち

版画をつくる子
供たち

大蔵出版KK

版画のくに

版画のくに

大蔵出版KK

少々昔噺

少々昔噺

大蔵出版KK

版画浴泉譜

版画浴泉譜

大蔵出版KK

板歌異

板歌異

大蔵出版KK

流離抄板画巻

流離抄板画巻

大蔵出版KK

生きてゐる児童画

生きてゐる児童
画

大蔵出版KK

児童画の見方

新しい表現と材料
(UALシリーズ)

考える子、描く子
(シ)

らくがきの時代
(シ)

クロード・岡本のえ

彫刻

ギリシヤ彫刻

ミケランジェロー彫刻
(岩波写真真文庫)

ロダンの言葉(角川文庫)

紙の彫刻
(UALシリーズ)

久保貞次郎 教育協会
日本ユネスコ美術教育連盟編集部 美術出版社

シ 王様商会

富永惣一 人文書院
岩波書店

ポール・グセル 角川書店
古川達雄訳

日本ユネスコ美術教育連盟編集部 美術出版社

工 藝

日本のやきもの(岩波写真真文庫)

ガラスの世界(アサヒ写真ブック)

プラスチック藝術

色彩の扱いかた

役だつて色彩

色彩の心理(教養新書)

意匠の科学
図案とデザイン

岡田 謙 朝日新聞社
岩波書店

井上彦之助 高分子化学刊行会
生活百科刊行会

井手 則雄
ルイス・チエスキ
大智浩訳 白楊社

西川 好夫 法政大学出版局
朝倉書店

宮下 孝雄
キャノン
新井 泉訳 ダヴィット社

デザインと色彩
デザインの用具と用法
(デザイン技法新書)

デザイン大系

デザイン教育講座1-3
裝飾様式演習1西洋古代

世界模様図鑑1-2

図案・単位と構成
手藝・工作図説(図説全集)

日本の人形

人形藝術(創元選書)

こけし・人・風土

柳宗悦選集2-8

紙譜帖

陶器辞典

建 築

近代建築史図集

日本の現代建築

ヨーロッパ建築序説

アメリカ建築

パウハウスの人々

グロピウス

ワルター・グロピウス

武藤 重典 二宮書店
大智 浩 ダヴィット社

原弘・勝見
勝・河野鷹
思編著

造形教育研究
究会編 美術出版社

今和次郎 相模書房

織維意匠創作協会編 河出書房

竹田 信夫 同 学 社

小関 利雄 同 学 社

岡登 貞治 岩崎書店

西沢篤敏編 河出書房

山辺知行編 河出書房

鹿間 時夫 築地書館

日本工藝協会編 春秋 社

後藤清吉郎 美術出版社

加藤唐九郎 志摩書房

日本建築学会編 彰 国 社

小池新二編

ニコラウ
ナー・ベザス
小林文次訳

小林 文次

山脇 巖

国際建築協会編 美術出版社

フランク・ロイド・ライ
ト
ル・コルビュジエ
ウイリアム・モリス
アスブルンド
日本の民家 改訂版
意匠日記

随筆・その他

春日野

白いたんぼ

美神の絵本(四季新書)

美の本体(河出文庫)

東京今昔帖

銀座界限

風神雷神
猿と話をする男

歌文集 石

阿蘭陀まんざい
乞食渡世

絵画人情

画室の窓

見えない世界(隨筆集)

偽物・真物(朝日文化手帖)

アマゾンからメキシコへ

祭り風土記
絵本ヨーロッパ
描く楽しさ

黒田鵬心選集
今日の書道

天野太郎 彰 国 社
樋口 勉
生田 勉
吉阪 隆正
白石 博三
清田 文永
今和次郎 相模書房
谷口 吉郎 読売新聞社

会津八一書 文藝春秋新社
杉本健吉画 日本出版協同

小穴 隆一 KK 社

小野佐世男 四季 社

岸田 劉生 河出書房

木村 荘八 東峰書房

木村荘八編

小糸源太郎 読売新聞社

小杉放庵 筑摩書房

鈴木信太郎 東峰書房

曾宮一念 四季 社

坪内節太郎 東往吟社

堂本印象 朝日新聞社

中川 一政 筑摩書房

野間 清六 朝日新聞社

福沢 一郎 読売新聞社

丸木 位里 室町書房

赤松 俊子 住吉書店
宮尾しげを 住吉書店
吉田 謙吉 美術出版社
チャールズ
林 謙一訳
安藤更生編 趣味普及会
堀江知彦編 二 支 社

東洋古美術単行図書

総説・総録

世界美術全集 10 ササン
イラン・イスラム 15日
本II

美術カド 7 日本絵画
古代 鎌倉 13 中国絵画
14 中国彫刻建築 15 中国
工藝・朝鮮・西域・印度・
イラン・南海 16 図録

世界美術大辞典 1
美術史

不滅の日本藝術

日本美の探求
古美術と現代

偽物・真物―美術鑑定二
十年―

Pageant of Japanese
Art, 1.4.5.

日本文化財写真集 上、下
写真日本文化史 1、6

岩波写真文庫 飛鳥、姫
路―白鷺城、出雲、源氏
物語絵巻、伴大納言絵詞、
写楽、日本のやきもの、
はきもの

古都遍歴―奈良―

正倉院

鎌倉国宝館図録 2

平凡社

美術出版社

河出書房

文部省

朝日新聞社

ウオーナ
寿岳文章社

北川 桃雄
法政大出版局

吉沢 忠
東大出版局

野間 清六
朝日新聞社

石沢 正男
東都文化出版
株式会社

他編
全国教育図書
株式会社
日本評論新社

文化財協会
岩波書店

竹山 道雄
新潮社

石田茂作編
毎日新聞社

和田軍一編
鎌倉市教育委
員会・鎌倉国
宝館

藤田美術館所蔵品図録

比叡山

室生寺

校刊美術史料46―57
東洋古美術文獻目録
昭和21年―25年

秋田県の文化財1

群馬県文化財図録

神奈川県文化財調査報告
書 21

鎌倉文化財図録

濃飛の文化財

文化財調査報告 4

鳥取県文化財図録

徳島県文化財叢書
1 阿波藍沿革史
2 阿波之人形芝居

徳島県の文化財

福岡県史跡名勝天然記念
物調査報告書目録 1―15

福岡県文化財調査報告書 17
1 筑前国朝倉郡孤塚古墳
2 福岡県神社祭事曆

対島の自然と文化

北川 桃雄
土門 拳
藤田経世編

藤田美術館
観山文化綜合
研究会

美術出版社

東京文化財研
究所

秋田県文化財
図録刊行会

群馬県教育委
員会

神奈川県教育
委員会

鎌倉市教育委
員会

岐阜県教育委
員会

福井県教育委
員会

鳥取県教育委
員会

徳島県教育委
員会

福岡県教育委
員会

古今書院

絵画に於ける線の研究

日本美人圖選

泥絵とガラス絵―日本の
民画―

浮世絵の美

版画の歴史
あづきしれんぼ初期版画
国貞・国芳

明末三和尚

定本書道全集 3 西域出
土木簡その他の書跡 4
三国東管 5 六朝・隋
6 唐上 9 三筆三跡とそ
の時代 14 平安時代一
16 平安時代三

書道全集 9 日本一大
和、奈良 12 日本二平安
I 13 日本三平安 II 15
中国十宋 I

書道名品図録

今日の書道

日本名筆全集 9 色紙集
書道金石学

奈良の仏たち

法隆寺宝蔵小金銅佛像

仏師運慶の研究(奈良国
立文化財研究所学報1)

快慶の研究

金原 省吾 古今書院

河北倫明編 東都文化出版
株式会社

小野 忠重 アソカ書房

吉田 暎二 創元社

小野 忠重 東峰書房

浪井 清 アソカ書房

吉田 暎二 美和書院

住友 寛一 墨友荘

河出書房

東京国立博
物館編 便利堂

安藤 更生 二支社

堀江 知彦 書藝文化院

平安書道研
究会編 三省堂

藤原 楚水 三省堂

松本 楡重 素人社

田沢・沢柳 岩波書店

久野・坂本 岩波書店

小林 剛 養徳社

毛利 久 大勝堂印刷

下総国常世田薬師の研究 篠崎 四郎

雲岡石窟 11、12

水野 清一
長広 敏雄
京大人文学
研究所

雲岡石仏めぐり(朝日写真ブック)

朝日新聞社

建 築

日本の建築

太田博太郎
田辺 泰
服部 勝吉
杉 国 社

建築写真文庫

床の間
下出源七編
茶室
茶庭

城と城下町

藤岡 通夫
森 蘊
創 元 社

桂離宮

東都文化出版
株式会社

修学院離宮の復元的研究
(奈良国立文化財研究所学報2)

熊本女子大郷
土文化研究所

純肥後国古塔調査録

同修理委員会

重文長勝寺三門修理工事
報告書

同修理委員会

無量光院跡(埋蔵文化財
発掘調査報告3)

文化財保護委
員会

重文神明社観音堂修理工
事報告書

同修理委員会

重文観音堂(光堂)修理工
事報告書

同修理委員会

川崎市菅寺尾台瓦塚座堂
址調査報告(川崎市文化
財調査報告1)

川崎市教育委
員会

重文中禅寺薬師堂修理工
事報告書

同修理委員会

国宝松本城

松本市教育委
員会

重文名古屋城東南隅櫓修
理工事報告書

名古屋市建設
局建築部

重文大恩寺念仏堂修理工
事報告書

同修理委員会

重文密蔵院塔婆修理工事
報告書

同修理委員会

円満院宸殿修理工事報告
書

滋賀県教育委
員会

重文甲良神社権殿修理工
事報告書

同修理委員会

重文曼珠院書院修理工事
報告書

京都府教育庁
文化財保護課

重文長野神社本殿修理報
告書

大阪府教育委
員会

重文住宅吉村家修理報告
書

同修理委員会

重文太山寺仁王門修理工
事報告書

同修理委員会

重文春日神社本殿修理工
事報告書

同修理委員会

常陸富谷薬師台瓦窯址の
調査

甲陽史学会

工 藝

高井悌三郎

織維意匠創
作協会編

河出書房

世界の模様と色調

小山富士夫

東京国立博物館収蔵品目
録 工藝

東京国立博物
館

東洋古陶磁 中国・宋
日本・奈良・桃山

京都国立博
物館編

山代忌寸真作
査報告)

美備郷土文
化の会・理
論社編集部

古陶の美

奥田誠一他

和泉黄金塚古墳

近藤 義郎

日本の陶磁

桂 又三郎

山代忌寸真作
査報告)

岡山県教育委
員会

古備前名品物語

福家 惣衛

三ツ城古墳(広島県文化
財調査報告1)

広島県教育委
員会

香川県陶磁器史

福家 惣衛

岩田遺跡発掘調査概報

山口県教育委
員会

鍋島藩窯の研究

久志 卓真

岩田遺跡発掘調査概報

山口県教育委
員会

中国陶器―青瓷篇―
安南陶磁図鑑

奥田誠一編

岩田遺跡発掘調査概報

山口県教育委
員会

法隆寺五重塔秘宝の調査
日本刀伝習録

山岡 重厚

法 隆 寺
日本美術刀剣
保存協会

国広大鑑

同修理委員会

考 古 学

日本考古学年報2

直良 信夫

日本考古学協
会

日本旧石器時代の研究
(早大考古学研究室報告2)

原田 大六

東大出版会

日本古墳文化

野間 清六

美術出版社

江刺郡稲瀬村樺山遺跡
(岩手県文化財調査報告3)

岩手県教育委
員会

安房勝山田子台遺跡

千葉県教育委
員会

登呂―本編―

日本考古学
協会編

毎日新聞社

三重考古図録

三重県教育委
員会

和泉黄金塚古墳

末永 雅雄
森田 浩一

綜 藝 社

山代忌寸真作
査報告)

奈良県教育委
員会

蒜山原(岡山県文化財調
査報告)

岡山県教育委
員会

月の輪教室

美備郷土文
化の会・理
論社編集部

三ツ城古墳(広島県文化
財調査報告1)

広島県教育委
員会

広島県の考古学的基本調
査

県立府中高
校学生会地
歴部編

岩田遺跡発掘調査概報

山口県教育委
員会

鬼塚古墳(大分県文化財
調査報告書2)

大分県教育委
員会

邯鄲(東方考古学叢刊乙種第七冊)

駒井 和愛
関野 雄

座右室刊行会
大阪市立美術館

平安遺文5
金沢文庫古文書5、6
広島県古文書目録

竹内 理三
東京 堂

金沢文庫
広島県教育委員会

歴史・其他

世界歴史事典 20、21

平 凡 社

創立25周年記念論文集
(東方学報二五 人文学報五合併号)

京大人文学
研究所

昭和二六・七年度東洋史
研究文献類目

京大人文学
研究所

Silver Jubilee Volume of the Zinbun
(Kagaku Kenkyusyo ("Kagaku Kenkyusyo"))

古代史談話
会編

朝倉書店

新羅史の諸問題
中国古代史の諸問題

末松 保和
三上次男編
栗原朋信編
野上 俊静
東洋文庫
東大出版会
平楽寺書店

邪馬台国

熊野三山の史的研究

国民信仰研究
所

遼金の仏教

日本仏教史近世篇之三

宮地 直一

岩波書店

京都府教育委員会

醍醐寺新要録

辻 善之助

岩波書店

統南禅寺史

桜井 景雄

南 禅 寺

公慶上人年譜聚英

兜木 正亨

東大寺

法華版経の研究

柴山 全慶

弘文堂

十牛図

相田 二郎

岩波書店

日本の古文書下

史料編纂所

東京大学

大日本史料二ノ九、三ノ十二、五ノ十五、六ノ三十一、七ノ十二、九ノ九、十二ノ三十六

史料編纂所

東京大学

大日本古記録 御堂関白

記下、梅津景政日記二、土居覚兼日記上、江木鱗水日記上

岩波書店

大日本古文書 家わけ十

六島津家文書之二、家わけ十七、大徳寺文書之三、幕末外交関係文書之二十五

東京大学

史料綜覧十三一十五

大日本近世史料上田藩村

明細帳下

大日本近世史料上田藩村

明細帳下

東京大学

大日本近世史料上田藩村

明細帳下

東京大学

大日本近世史料上田藩村

明細帳下

東京大学

大日本近世史料上田藩村

明細帳下

東京大学

大日本近世史料上田藩村

明細帳下

東京大学

附
録

便

覽

(昭和三〇年一〇月現在)

最近、電話局の新設、編成替え等が多く、記載電話の局名、番号に尚多少変動があることと思ひます。御了承下さい。

美術関係法規

文化財保護法(昭和二十五年五月三十一日法律第二百一十号)

沿革

昭和二十六年二月二十四日法律第三一八号、二七年七月三十一日第三二七号、二八年八月一日第二九四号、一五日第一一三号、二九年五月二九日第一三一号改正

文化財保護法をここに公布する。

文化財保護法

目次

第一章 総則(第一条―第四条)

第二章 文化財保護委員会

第一節 総則(第五条―第十五条)

第二節 事務局(第十六条―第十九条)

第三節 附属機関及び事務局出張所(第二十―二十四条)

第四節 職員(第二十五条・第二十六条)

第三章 有形文化財(第二十七条―第五十六条)

第一節 重要文化財(第二十七条―第二十九条)

第二款 管理(第三十条―第三十条)

第三款 保護(第三十四条の二―第四十七条)

第四款 公開(第四十七条の二―第五十三条)

第五款 調査(第五十四条・第五十五条)

美術関係法規

第六款 雑則(第五十六条)

第七款 重要文化財以外の有形文化財(第五十六条の二)

第八款 無形文化財(第五十六条の三―第五十六条の九)

第九款 民俗資料(第五十六条の十―第五十六条の十八)

第十款 埋蔵文化財(第五十七条―第六十一条)

第十一款 史跡名勝天然記念物(第六十二条―第六十四条)

第十二款 補則

第十三款 聴聞及び異議の申立(第八十五条 第八十五条の九)

第十四款 国に關する特例(第八十六条―第九十七条)

第十五款 地方公共団体及び教育委員会(第九十八条―第一百五十一条)

第十六款 罰則(第一百六条―第一百二十二条)

第十七款 附則(第一百三―第一百三十条)

第十八款 第一章 総則

第六款 雑則(第五十六条)

第七款 重要文化財以外の有形文化財(第五十六条の二)

第八款 無形文化財(第五十六条の三―第五十六条の九)

第九款 民俗資料(第五十六条の十―第五十六条の十八)

第十款 埋蔵文化財(第五十七条―第六十一条)

第十一款 史跡名勝天然記念物(第六十二条―第六十四条)

第十二款 補則

第十三款 聴聞及び異議の申立(第八十五条 第八十五条の九)

第十四款 国に關する特例(第八十六条―第九十七条)

第十五款 地方公共団体及び教育委員会(第九十八条―第一百五十一条)

第十六款 罰則(第一百六条―第一百二十二条)

第十七款 附則(第一百三―第一百三十条)

第一章 総則

第一款 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

(文化財の定義)

第二条 この法律で「文化財」とは、左に掲げるものをいう。

一 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的遺産でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの及び考古資料(以下「有形文化財」という。)

二 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的遺産でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの(以下「無形文化財」という。)

三 衣食住、生業、信仰、年中行事等に關する風俗慣習及びこれに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件でわが国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの(以下「民俗資料」という。)

四 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡でわが国にとつて歴史上又は學術上価値の高いもの、庭園、橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地でわが国にとつて芸術上又は觀賞上価値の高いもの並びに動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む)、植物(自生地を含む)、及び地質鉱物(特異な自然の現象の生じている土地を含む)でわが国にとつて學術上価値の高いもの(以下「記念物」という。)

2 この法律の規定(第二十一条第二項第一号、第二十七条から第二十九条まで、第三十七条、第五十五条第一項第四号、第八十八条、第九十四条及び第九十五条の規定を除く。)中「重要文化財」には、国宝を含むものとする。

3 この法律の規定(第二十一条第二項第十五号及び第十六号、第六十九条、第七十条、第七十一条、第七十七条、第八十三条第一項第四号、第八十八条並びに第九十四条の規定を除く。)中

「史跡名勝天然記念物」には、特別史跡名勝天然記念物を含むものとする。

(政府及び地方公共団体の任務)

第三条 政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように、周到の注意をもつてこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

(国民、所有者等の心構)

第四条 一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民の財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用を努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に當つて関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならない。

第二章 文化財保護委員会

第一節 総則

第五条 国家行政組織法(昭和二十三年法律第二十号)第三條第二項の規定に基いて、文部省の外局として、文化財保護委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

二二五

2 委員会の委員は、独立してその職權を行う。

(任務)

第六条 委員会は、文化財の保存及び活用、文化財に関する調査研究その他第一の目的を達成するため必要な事務を行うことを任務とする。

(権限)

第七条 委員会は、その所掌事務を遂行するため、左に掲げる権限を有する。但し、その権限の行使は、法律(これに基く命令を含む)に従つてなされなければならぬ。

- 一 予算の範囲内で、所掌事務の遂行に必要な支出負担行為をすること。
- 二 収入金を徴収し、所掌事務の遂行に必要な支払をすること。
- 三 所掌事務の遂行に直接必要な事務所等の施設を設置し、及び管理すること。
- 四 所掌事務の遂行に直接必要な業務用資材、図書その他研究用資材、事務用品等を調達すること。
- 五 職員の任免及び賞罰を行い、その他職員の人事を管理すること。
- 六 職員の厚生及び保健のため必要な施設をなし、及び管理すること。
- 七 所掌事務の監察を行い、法令の定めるところに従い、必要な措置をとること。
- 八 所掌事務の周知宣伝を行うこと。
- 九 委員会の公印を制定すること。
- 十 広く利用に供する適当な記録を整備すること。

十一 所掌事務に係る公益法人について許可若しくは認可を与え、又はその許可を取り消すこと。

十二 所掌事務に関する国庫支出金を割り当て、配分すること。

十三 所掌事務に関する物資の確保について援助すること。

十四 所掌事務に関する統計調査の資料及び結果を収集し、解釈し、及び刊行頒布すること。

十五 所掌事務に関する国家的又は国際的関心のある題目について会議、研究会、討論会等を主催すること。

十六 文化財の保護に関する法令案を作成すること。

十七 前各号に掲げるものの外、法律(これに基く命令を含む)に基き委員会に属せしめられた権限

2 委員会は、その権限の行使に当つて、法律(法律に基く命令を含む)に別段の定めがある場合を除いては、行政上及び運営上の監督を行わないものとする。

(構成)

第八条 委員会は、五人の委員をもつて組織する。

(委員の任命及び欠格事由)
第九条 委員は、文化に関し高い識見を有する者のうちから両議院の同意を経て、文部大臣が任命する。

2 左の各号の一に該当する者は、委員となることができない。

一 禁治産者若しくは准禁治産者又は破産者で復権を得ない者

二 禁以上の刑に処せられた者

3 委員は、そのうち三人以上が同一政党に属する者となることとなつてはならない。

4 委員(委員長である委員を除く)は、非常勤とする。

(委員の任命)
第十条 委員の任期は、三年とする。但し、補欠の委員は、前任者の残任期間

2 委員は、再任されることが出来る。

3 第一項の規定にかかわらず委員は、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に任期が満了したときは、その後最初に召集された国会において両議員の同意を経て文部大臣が委員を任命するまでの間、なお在任するものとする。

(委員の失職及び罷免)
第十一条 委員は、第九條第二項各号の一に該当するに至つた場合及び既に委員中二人が所屬している政党にあらたに所屬するに至つた場合においては、その職を失ふ。

2 文部大臣は、委員が心身の故障のため職務の執行ができないと認める場合又は委員に職務上の義務違反その他委員たるに適しない行為があると認める場合においては、両議院の同意を経て、これを罷免することができる。

3 文部大臣は、両議院の同意を経て、左に掲げる委員を罷免する。

一 委員中何人も所屬していなかつた一の政党にあらたに三人以上の委員

が所屬するに至つた場合、これらの者のうち二人をこえる員数の委員

二 委員中一人が既に所屬している政党にあらたに二人以上の委員が所屬するに至つた場合、これらの者のうち一人をこえる員数の委員

4 両議院は、前項各号に規定する事実があると認めるときは、同項各号の規定により罷免すべき員数の委員の罷免の同意を与えるべきものとする。

5 国会の閉会又は衆議院の解散のため、第二項又は第三項の規定による罷免につき両議院の同意を経ることができないときは、その後最初に召集された国会において両議院の承認を得れば足りる。

(委員長)
第十二条 委員会に委員長を置く。委員長は、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員会は、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときにその職務を代理する委員を、あらかじめ、定めて置かなければならない。

(委員の給与)
第十三条 委員長及び委員は、別に法律の定めるところにより相当額の給与を受ける。

(會議)
第十四条 委員会は、委員長が招集する。二人以上の委員から請求があるときは、委員長は、委員会を招集しなければならぬ。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(文化財保護委員会規則)

第十五条 委員会は、法律（これに基く政令を含む。）で特に定める場合の外、その権限に属する事項を執行するため必要な手続について、文化財保護委員会規則（以下「委員会規則」という。）を定めることができる。

2 委員会規則は、官報で公布する。

第二節 事務局

(事務局)

第十六条 委員会に、その所掌事務を遂行するため、国家行政組織法第七条第四項の規定に従い、事務局を置く。

第十七条及び第十八条 削除

(事務局長及び次長)

第十九条 委員会の事務局長及び次長一人を置く。

2 事務局長は、委員長の指揮監督を受けて事務局の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 次長は、事務局長を助け、事務局の事務を整理する。

第三節 附属機関及び事務局出

張所

(附属機関)

第二十条 委員会の附属機関として、文化財専門審議会、国立博物館及び国立文化財研究所を置く。

(文化財専門審議会)

第二十一条 文化財専門審議会は、委員会の諮問に依りて文化財の保存及び活用に関する専門的及び技術的事項を調査審議し、且つ、これらの事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

2 委員会は、左に掲げる事項については、あらかじめ、文化財専門審議会に諮問しなければならない。

一 国宝又は重要文化財の指定及びその指定の解除

二 重要文化財の管理又は国宝の修理に関する命令

三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行

四 重要文化財の現状変更又は輸出の許可

五 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

六 重要文化財の買取

七 重要無形文化財の指定及びその指定の解除

八 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除

九 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきもの

十 重要民俗資料の指定及びその指定の解除

十一 重要民俗資料の管理に関する命令

十二 重要民俗資料の買取

十三 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきもの

十四 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

十五 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除

十六 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除

十七 史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令

十八 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置の施行

十九 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可

二十 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

二十一 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わない場合又は史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止に違反した場合の原状回復の命令

二十二 重要文化財の現状変更若しくは史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

三 委員会は、前項各号に掲げる事項の外、文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項で重要と認めるものについては、文化財専門審議会に諮問するものとする。

4 前三項の規定により所掌する事項を分掌させるため、文化財専門審議会に分科会を置く。

5 文化財専門審議会及びその分科会の組織及び所掌事務並びに専門委員、臨時専門委員その他の職員については、他の法律（これに基く命令を含む。）に特別の定がある場合を除く外、政令で定める。

(国立博物館)

第二十二条 国立博物館は、有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する事業を行う。

2 国立博物館の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京	国立博物館	東	京 都
京都	国立博物館	京	都 市
奈良	国立博物館	奈	良 市

3 国立博物館の内部組織は、委員会規則で定める。

(国立文化財研究所)

第二十三条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、左の通りとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東京都
奈良国立文化財研究所	奈良市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は、委員会規則で定める。

(事務局出張所)

第二十四条 委員会は、その所掌事務の一部を分掌させるため、所要の地に事務局出張所を設置することができる。その名称、位置、所掌事務の範囲は、委員会規則で定める。

第四節 職員

(職員)

第二十五条 委員会に置かれる職員の任免、昇任、懲戒その他人事管理に関する事務については、国家公務員法(昭和二十二年法律第二十号)及びその特例に関して規定する法律の定めるところによる。

(定員)

第二十六条 委員会に置かれる職員の定員は、別に法律で定める。

第三章 有形文化財

第一節 重要文化財

第一款 指定

第二十七条 委員会は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

2 委員会は、重要文化財のうち世界文

化の見地から価値の高いもので、たぐいがない国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

(告示、通知及び指定書の交付)

第二十八条 前条の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

2 前条の規定による指定は、前項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該国宝又は重要文化財の所有者に対しては、同項の規定による通知が当該所有者に到達した時からその効力を生ずる。

3 前条の規定による指定をしたときは、委員会は、当該国宝又は重要文化財の所有者に指定書を交付しなければならない。

4 指定書に記載すべき事項その他指定書に關し必要な事項は、委員会規則で定める。

5 第三項の規定により国宝の指定書の交付を受けたときは、所有者は、三十日以内に国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

(解除)

第二十九条 国宝又は重要文化財が国宝又は重要文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、国宝又は重要文化財の指定を解除することができる。

2 前項の規定による指定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該

国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

3 第一項の規定による指定の解除には、前条第二項の規定を準用する。

4 第二項の通知を受けたときは、所有者は、三十日以内に指定書を委員会に返付しなければならない。

5 第一項の規定により国宝の指定を解除した場合において当該有形文化財につき重要文化財の指定を解除しないときは、委員会は、直ちに重要文化財の指定書を所有者に交付しなければならない。

第二款 管理

(管理方法の指示)

第三十条 委員会は、重要文化財の所有者に対し、重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができる。

(所有者の管理義務及び管理責任者)

第三十一条 重要文化財の所有者は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の指示に従い、重要文化財を管理しなければならない。

2 重要文化財の所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつて自らに代り当該重要文化財の管理の責に任すべき者(以下この節及び第六章において「管理責任者」という。)に選任することができる。

3 前項の規定により管理責任者を選任したときは、重要文化財の所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、当該管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。管理責任者を解任した場

合同同様とする。

4 管理責任者には、前条及び第一項の規定を準用する。

(所有者又は管理責任者の変更)

第三十二条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、旧所有者に対し交付された指定書を添えて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。

2 重要文化財の所有者は、管理責任者を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、新管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。この場合には、前条第三項の規定は、適用しない。

3 重要文化財の所有者又は管理責任者は、その氏名若しくは名称又は住所を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。氏名若しくは名称又は住所の変更が重要文化財の所有者に係るときは、届出の際指定書を添えなければならない。

(管理団体による管理)

第三十二条の二 重要文化財につき、所有者が判明しない場合又は所有者若しくは管理責任者による管理が著しく困難若しくは不適当であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該重要文化財の保存のため必要

な管理（当該重要文化財の保存のため必要な施設、設備その他の物件で当該重要文化財の所有者の所有又は管理に属するものの管理を含む）を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、当該重要文化財の所有者（所有者が判明しない場合を除く。）及び権原に基づく占有者並びに指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、前項に規定する所有者、占有者及び地方公共団体その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第二十八條第二項の規定を準用する。

5 重要文化財の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人（以下この節及び第六章において「管理団体」という。）が行う管理又はその管理のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

6 管理団体には、第三十條及び第三十條第一項の規定を準用する。

第三十二條の三 前条第一項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項及び第二十八條第二項の規定を準用する。

第三十二條の四 管理団体が行う管理に

要する費用は、この法律に特別の定めがある場合を除いて、管理団体の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理により所有者の受ける利益の限度において、管理に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

(滅失、き損等)

第三十三條 重要文化財の全部又は一部が滅失し、若しくはき損し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたときは、所有者（管理責任者又は管理団体がある場合は、その者）は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事実を知つた日から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(所在の変更)

第三十四條 重要文化財の所在の場所を変更しようとするときは、重要文化財の所有者（管理責任者又は管理団体がある場合は、その者）は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、指定書を添えて、所在の場所を変更しようとする日の二十日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合には、届出を要せず、若しくは届出の際指定書の添附を要せず、又は委員会規則の定めるところにより所在の場所を変更した後届け出ることをもつて足りる。

第三十條 重要文化財の所有者又は管理団体は、その所有する重要文化財の管理又は修理に必要と認めるときは、第一項の補助金を交付する重要文化財の管理又は修理について指揮監督することができる。

第三十條の二 重要文化財の修理は、所有者が行うものとする。但し、管理団体がある場合は、管理団体が行うものとする。

(管理団体による修理)

第三十四條の三 管理団体が修理を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その修理の方法及び時期について当該重要文化財の所有者（所有者が判明しない場合を除く。）及び権原に基づく占有者の意見を聞かなければならない。

2 管理団体が修理を行う場合には、第三十二條の二第五項及び第三十二條の四の規定を準用する。

(管理又は修理の補助)

第三十五條 重要文化財の管理又は修理につき多額の経費を要し、重要文化財の所有者又は管理団体がその負担に堪えない場合その他特別の事情がある場合には、政府は、その経費の一部に充てさせるため、重要文化財の所有者又は管理団体に対し補助金を交付することができる。

2 前項の補助金を交付する場合には、委員会は、その補助の条件として管理又は修理に関し必要な事項を指示することができる。

3 委員会は、必要があると認めるときは、第一項の補助金を交付する重要文化財の管理又は修理について指揮監督することができる。

(管理に関する命令又は勧告)

第三十六條 重要文化財を管理する者が不適任なため又は管理が適当でないた

め重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の管理をする者の選任又は変更、管理方法の改善、防火施設その他の保存施設の設置その他管理に関し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の規定による命令又は勧告に基いてする措置のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

3 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、前条第三項の規定を準用する。

(修理に関する命令又は勧告)

第三十七條 委員会が、国宝がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な命令又は勧告をすることができる。

2 委員会は、国宝以外の重要文化財がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な勧告をすることができる。

3 前二項の規定による命令又は勧告に基いてする修理のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とする

4 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、第三十条第三項の規定を準用する。

(委員会による国宝の修理等の施行)

第三十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、国宝につき自ら修理を行い、又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をすることができらる。

一 所有者、管理責任者又は管理団体
が前二条の規定による命令に従わな
いとき。

二 国宝がき損している場合又は滅失
し、き損し、若しくは盗み取られる
虞がある場合において、所有者、管
理責任者又は管理団体に修理又は滅
失、き損若しくは盗難の防止の措置
をさせることが適当でないとき認め
らるるとき。

2 前項の規定による修理又は措置をし
ようとするときは、委員会は、あらか
じめ、所有者、管理責任者又は管理団
体に対し、当該国宝の名称、修理又は
措置の内容、着手の時期その他必要と
認める事項を記載した令書を交付する
とともに、権原に基づく占有者にこれら
の事項を通知しなければならない。

第三十九条 委員会は、前条第一項の規
定による修理又は措置をするときは、
その職員のうちから、当該修理又は措
置の施行及び当該国宝の管理の責に任
ずべき者を定めなければならない。

2 前項の規定により責に任ずべき者と

定められた者は、当該修理又は措置の
施行に当たるときは、その身分を証明す
る証書を携帯し、関係者の請求があつ
たときは、これを示し、且つ、その正
当な意見を十分に尊重しなければならない。
ない。

3 前条第一項の規定による修理又は措
置の施行には、第三十二条の二第五項
の規定を準用する。

第四十条 第三十八条第一項の規定によ
る修理又は措置のために要する費用
は、国庫の負担とする。

2 委員会は、委員会規則の定めるところ
により、第三十八条第一項の規定によ
る修理又は措置のために要した費用
の一部を所有者(管理団体がある場合
は、その者)から徴収することができる。
但し、同条第一項第二号の場合に
は、修理又は措置を要するに至つた事
由が所有者、管理責任者若しくは管理
団体の責に帰すべきとき、又は所有者
若しくは管理団体がその費用の一部を
負担する能力があるときに限る。

3 前項の規定による徴収については、
行政代執行法(昭和二十三年法律第四
十三号)第五条から第七条までの規定
を準用する。

第四十一条 第三十八条第一項の規定に
よる修理又は措置によつて損害を受け
た者に対しては、政府は、その通常生
ずべき損害を補償する。

2 前項の規定による補償額に不服のあ
る者は、訴をもつてその増額を請求す
ることができらる。但し、前項の補償の

決定の通知を受けた日から六箇月を経
過したときは、この限りでない。

(補助等に係る重要文化財譲渡の場合
の納付金)

第四十二条 国が修理又は滅失、き損若
しくは盗難の防止の措置(以下この条
において、「修理等」という。)につき第三
十五条第一項の規定により補助金を交
付し、又は第三十六条第二項、第三十
七条第三項若しくは第四十条第一項の
規定により費用を負担した重要文化財
のその当時における所有者又はその相
続人、受遺者若しくは受贈者(第二次
以下の相続人、受遺者又は受贈者を含
む。以下この条において同じ。)(以下
この条において、「所有者等」という。)

は、補助又は費用負担に係る修理等が
行われた後当該重要文化財を有償で譲
り渡した場合においては、当該補助金
又は負担金の額(第四十条第一項の規
定による負担金については、同条第二
項の規定により所有者から徴収した部
分を控除した額をいう。以下この条に
おいて同じ。)の合計額から当該修理等
が行われた後重要文化財の修理等のた
め自己の費した金額を控除して得た金
額(以下この条において、「納付金額」と
いう。)を、委員会規則の定めるところ
により国庫に納付しなければならない。

会が個別的に定める耐用年数で除して
得た金額に、更に当該耐用年数から修
理等を行った時以後重要文化財の譲渡
の時までの年数を控除した残余の年数
(一年に満たない部分があるときは、
これを切り捨てる。)を乗じて得た金額
に相当する金額とする。

3 補助又は費用負担に係る修理等が行
われた後、当該重要文化財が所有者等
の責に帰することのできない事由によ
り著しくその価値を減じた場合又は当
該重要文化財を国に譲り渡した場合に
は、委員会は、納付金額の全部又は一
部の納付を免除することができる。

4 委員会の指定する期限までに納付金
額を完納しないときは、国税滞納処分
の例により、これを徴収することがで
きる。

5 納付金額を納付する者が相続人、受
遺者又は受贈者であるときは、第一号
に定める相続税額又は贈与税額と第二
号に定める額との差額に相当する金額
を第三号に定める年数で除して得た金
額に第四号に定める年数を乗じて得た
金額をその者が納付すべき納付金額か
ら控除するものとする。

一 当該重要文化財の取得につきその
者が納付した、又は納付すべき相続
税額又は贈与税額

二 前号の相続税額又は贈与税額の計
算の基礎となつた課税価格に算入さ
れた当該重要文化財又はその部分に
つき当該相続、遺贈又は贈与の時ま
でに行つた修理等に係る第一項の補

助金又は負担金の額の合計額を当該課税価格から控除して得た金額を課税価格として計算した場合に当該重要文化財又はその部分につき納付すべきこととなる相続税額又は贈与税額に相当する額

三 第二項の規定により当該重要文化財又はその部分につき委員会が定めた耐用年数から当該重要文化財又はその部分の修理等を行つた時以後当該重要文化財の相続、遺贈又は贈与の時までの年数を控除した残余の年数（一年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。）

四 第二項に規定する当該重要文化財又はその部分についての残余の耐用年数

六 前項第二号に掲げる第一項の補助金又は負担金の額については、第二項の規定を準用する。この場合において、同項中「譲渡の時」とあるのは、「相続、遺贈又は贈与の時」と読み替へるものとする。

七 第一項の規定により納付金額を納付する者の同項に規定する譲渡に係る所得税法（昭和二十二年法律第二十七号）第九条第八号に規定する譲渡所得の計算については、第一項の規定により納付する金額は、同法第九条第八号に規定する譲渡に関する経費とする。

（現状変更の制限）

第四十三条 重要文化財の現状を変更しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、その維持

の措置をする場合は、この限りでない。

2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。

3 委員会は、第一項の許可を与える場合において、その許可の条件として同項の現状の変更に関し必要な指示をすることが出来る。

4 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る現状の変更の停止を命じ、又は許可を取り消すことが出来る。

（修理の届出等）

第四十三条の二 重要文化財を修理しようとするときは、所有者又は管理団体は、修理に着手しようとする日の三十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、前条第一項の規定により許可を受けなければならない場合その他委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 重要文化財の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る重要文化財の修理に関し技術的な指導と助言を与えることができる。

（輸出の禁止）

第四十四条 重要文化財は、輸出してはならない。但し、委員会が文化の国際的交流その他の事由により特に必要と認めて許可した場合は、この限りでない。

（環境保全）

第四十五条 委員会は、重要文化財の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることが出来る。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

（国に対する売渡の申出）

第四十六条 重要文化財を有償で譲り渡そうとする者は、譲渡の相手方、予定

対価の額（予定対価が金銭以外のものであるときは、これを時価を基準として金銭に見積つた額。以下同じ。）その他委員会規則で定める事項を記載した書面をもつて、まず委員会に国に対する売渡の申出をしなければならない。但し、当該譲渡人に対して特に譲り渡したい特別の事情がある場合において委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

2 前項の規定による売渡の申出のあつた後三十日以内に委員会が当該重要文化財を国において買い取るべき旨の通知をしたときは、前項の規定による申出書に記載された予定対価の額に相当する代金で、売買が成立したものとみなす。

3 第一項に規定する者は、前項の期間（その期間内に委員会が当該重要文化財を買い取らない旨の通知をしたとき

は、その時までの期間）内は、当該重要文化財を譲り渡してはならない。

4 委員会が第一項但書の規定による承認をしない旨の処分をした場合において、その処分に不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることが出来る。

（管理又は修理の受託又は技術的指導）

第四十七条 重要文化財の所有者（管理団体がある場合は、その者）は、委員会の定める条件により、委員会に重要文化財の管理（管理団体がある場合を除く。）又は修理を委託することが出来る。

2 委員会は、重要文化財の保存上必要があると認めるときは、所有者（管理団体がある場合は、その者）に対し、条件を示して、委員会にその管理（管理団体がある場合を除く。）又は修理を委託するように勧告することが出来る。

3 前二項の規定により委員会が管理又は修理の委託を受けた場合には、第三十九条第一項及び第二項の規定を準用する。

4 重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会に重要文化財の管理又は修理に関し技術的指導を求めることが出来る。

第四款 公開

（公開）

第四十七条の二 重要文化財の公開は、所有者が行うものとする。但し、管理団体がある場合は、管理団体が行うも

のとす。

2 前項の規定は、所有者又は管理団体の出品に係る重要文化財を、所有者及び管理団体以外の者が、この法律の規定により行う公開の用に供することを妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する重要文化財を公開する場合には、当該重要文化財につき観覧料を徴取することができる。

(委員会による公開)

第四十八条 委員会は、重要文化財の所有者管理団体がある場合は、その者に対し、一年以内の期間を限つて、国立博物館その他の施設において委員会が行う公開の用に供するため重要文化財を出品することを勧告することができる。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につき、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者管理団体がある場合は、その者に対し、一年以内の期間を限つて、国立博物館その他の施設において委員会が行う公開の用に供するため当該重要文化財を出品することを命ずることができる。

3 委員会は、前項の場合において必要があると認めるときは、一年以内の期間を限つて、出品の期間を更新することができ。但し、引き続き五年をこえてはならない。

4 第二項の命令又は前項の更新があつたときは、重要文化財の所有者又は

管理団体は、その重要文化財を出品しなければならない。但し、委員会が所有者又は管理団体の申請によりやむを得ない事由があるものと認める場合は、この限りでない。

5 前四項に規定する場合の外、委員会がある場合は、その者(管理団体)からの国立博物館その他の施設において委員会が行う公開の用に供するため重要文化財を出品したい旨の申出があつた場合において適当と認めるときは、その出品を承認することができる。

第四十九条 委員会は、前条の規定により重要文化財が出品されたときは、第百条に規定する場合を除いて、国立博物館所属の職員その他委員会の職員のうちから、その重要文化財の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

第五十条 第四十八条の規定による出品のために要する費用は、委員会規則の定める基準により、国庫の負担とする。

2 政府は、第四十八条の規定により出品した所有者又は管理団体に対し、委員会規則の定める基準により、給与金を支給する。

(所有者等による公開)

第五十一条 委員会は、重要文化財の所有者又は管理団体に対し、三箇月以内の期間を限つて、重要文化財の公開を勧告することができる。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につ

き、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者又は管理団体に対し、三箇月以内の期間を限つて、その公開を命ずることができる。

3 前項の場合には、第四十八条第四項の規定を準用する。

4 委員会は、重要文化財の所有者又は管理団体に対し、前三項の規定による公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができる。

5 重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体が前項の指示に従わない場合には、委員会は、公開の停止又は中止を命ずることができる。

6 第二項及び第三項の規定による公開のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

7 前項に規定する場合の外、重要文化財の所有者又は管理団体から、その所有又は管理に係る重要文化財を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合において、委員会が適当と認めてこれを承認したときは、委員会規則の定めるところにより、その公開のために要する費用の全部又は一部を国庫の負担とすることができる。この場合には、第四項及び第五項の規定を準用する。

第五十一条の二 前条の規定による公開の場合を除き、重要文化財の所在の場所を変更してこれを公衆の観覧に供す

るため第三十四条の規定による届出があつた場合には、前条第四項及び第五項の規定を準用する。

(損害の補償)

第五十二条 第四十八条又は第五十一条の規定により出品し、又は公開したことに起因して当該重要文化財が滅失し、又はき損したときは、政府は、その重要文化財の所有者に対し、通常生ずべき損害を補償する。但し、重要文化財が所有者、管理責任者又は管理団体の責に歸すべき事由によつて滅失し、又はき損した場合は、この限りでない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(所有者等以外の者による公開)

第五十三条 重要文化財の所有者及び管理団体以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要文化財を公衆の観覧に供しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、あらかじめ、委員会の承認を受けた博物館その他の施設において、委員会以外の国の機関又は地方公共団体が主催する場合は、委員会に届け出ることをもつて足りる。

2 委員会は、前項の許可を与える場合において、その許可の条件として、許可に係る公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができる。

3 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員

会は、許可に係る公開の停止を命じ、又は許可を取り消すことができる。

第五款 調査

(保存のための調査)

第五十四条 委員会は、必要があると認めるときは、重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第五十五条 委員会は、左の各号の一に該当する場合において、前条の報告によつてもなお重要文化財に関する状況を確認することができる。且つ、その確認のために方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する場所に立ち入つてその現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき実地調査をさせることができる。

- 一 重要文化財の現状変更の許可の申請があつたとき。
- 二 重要文化財がき損しているとき又はその現状若しくは所在の場所につき変更があつたとき。
- 三 重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞のあるとき。
- 四 特別の事情によりあらためて国宝又は重要文化財としての価値を鑑査する必要があるとき。

2 前項の規定により立ち入り、調査する場合においては、当該調査に当る者は、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、こ

れを示し、且つ、その正当な意見を十分に尊重しなければならない。

- 3 第一項の規定による調査によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。
- 4 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第六款 雑則

(所有者変更等に伴う権利義務の承継)
第五十六条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、当該重要文化財に關しこの法律に基いてする委員会の命令、勸告、指示その他の処分による旧所有者の権利義務を承継する。

- 2 前項の場合には、旧所有者は、当該重要文化財の引渡と同時にその指定書を新所有者に引き渡さなければならぬ。
- 3 管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第一項の規定を準用する。但し、管理団体が指定された場合には、もつぱら所有者に属すべき権利義務については、この限りでない。

第二節 重要文化財以外の有形文化財

(技術的指導)

第五十六条の二 重要文化財以外の有形文化財の所有者は、委員会規則の定めるところにより、委員会に有形文化財の管理又は修理に關し技術的指導を求めることができる。

第三章の二 無形文化財

(重要無形文化財の指定等)

第五十六条の三 委員会は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定することができる。

- 2 委員会は、前項の規定による指定をするに當つては、当該重要無形文化財の保持者を認定しなければならない。
- 3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該重要無形文化財の保持者として認定しようとする者に通知してする。

4 委員会は、第一項の規定による指定をした後においても、当該重要無形文化財の保持者として認定するに足りる者があると認めるときは、その者を保持者として追加認定することができる。

- 5 前項の規定による追加認定には、第三項の規定を準用する。

(重要無形文化財の指定等の解除)

第五十六条の四 重要無形文化財が重要無形文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要無形文化財の指定を解除することができる。

- 2 保持者が心身の故障のため保持者として適当でなくなつたと認められる場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、保持者の認定を解除することができる。
- 3 第一項の規定による指定の解除又は前項の規定による認定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該重

要無形文化財の保持者に通知してする。

- 4 保持者が死亡したときは、保持者の認定は解除されたものとし、保持者のすべてが死亡したときは、重要無形文化財の指定は解除されたものとする。この場合には、委員会は、その旨を官報で告示しなければならない。

(保持者の氏名変更等)

第五十六条の五 保持者が氏名若しくは住所を変更し、又は死亡したとき、その他委員会規則の定める事由があるときは、保持者又はその相続人は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事由の生じた日(保持者の死亡に係る場合は、相続人がその事実を知つた日)から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(重要無形文化財の保存)

第五十六条の六 委員会は、重要無形文化財の保存のため必要があると認めるときは、重要無形文化財について自ら記録の作成、伝承者の養成その他その保存のため適当な措置を行い、又は保持者若しくは地方公共団体その他その保存に當ることを適当と認める者に対し、その保存に要する経費の一部を補助することができる。

- 2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第三十五条第二項及び第三項の規定を準用する。

(重要無形文化財の公開)

第五十六条の七 委員会は、重要無形文化財の保持者に対し重要無形文化財の

公開を、重要無形文化財の記録の所有者に対しその記録の公開を勧告することができる。

2 重要無形文化財の保持者又は重要無形文化財の記録の所有者から、重要無形文化財又は重要無形文化財の記録を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合には、第五十一条第七項の規定を準用する。

3 前項の規定により公開したことに起因して当該重要無形文化財の記録が滅失し、又はき損した場合には、第五十二条の規定を準用する。

(重要無形文化財の保存に関する助言又は勧告)

第五十六条の八 委員会は、重要無形文化財の保持者又は地方公共団体その他その保存に当ることを適当と認める者に対し、重要無形文化財の保存のために必要な助言又は勧告をすることができ

る。

(重要無形文化財以外の無形文化財の記録の作成等)

第五十六条の九 委員会は、重要無形文化財以外の無形文化財のうち特に必要のあるものを選択して、自らその記録を作成し、保存し、若しくは公開し、又は適当な者に対し、当該無形文化財の公開若しくはその記録の作成、保存若しくは公開に要する経費の一部を補助することができる。

2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第三十五条第二項及び第三項の規定を準用する。

第三章の三 民俗資料

(重要民俗資料の指定)

第五十六条の十 委員会は、有形の民俗資料のうち特に重要なものを重要民俗資料に指定することができる。

2 前項の規定による指定には、第二十八条第一項から第四項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の指定の解除)

第五十六条の十一 重要民俗資料が重要民俗資料としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要民俗資料の指定を解除することができる。

2 前項の規定による指定の解除には、第二十九条第二項から第四項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の管理)

第五十六条の十二 重要民俗資料の管理には、第三十条から第三十四条までの規定を準用する。

(重要民俗資料の保護)

第五十六条の十三 重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとする者は、現状を変更し、又は輸出しようとする日の二十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならぬ。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 重要民俗資料の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る重要民俗資料の現状変更又は輸出に關し必要な事項を指示することが

できる。

第五十六条の十四 重要民俗資料の保護には、第三十四条の二から第三十六条まで、第三十七条第二項から第四項まで、第四十二条、第四十六条及び第四十七条の規定を準用する。

(重要民俗資料の公開)

第五十六条の十五 重要民俗資料の所有者及び管理団体(第五十六条の十二で準用する第三十二条の二第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人をいう。以下この章及び第六章において同じ。)以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要民俗資料を公衆の観覧を供しようとするときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、観覧に供しようとする最初の日の三十日前までに、委員会に届け出なければならない。

2 前項の届出に係る公開には、第五十一条第四項及び第五項の規定を準用する。

第五十六条の十六 重要民俗資料の公開には、第四十七条の二から第五十二条までの規定を準用する。

(重要民俗資料の保存のための調査及び所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第五十六条の十七 重要民俗資料の保存のための調査には、第五十四条の規定を、重要民俗資料の所有者が変更し、又は重要民俗資料の管理団体が指定され、若しくはその指定が解除された場合には、第五十六条の規定を準用す

る。

(無形の民俗資料の記録の作成等)

第五十六条の十八 無形の民俗資料には、第五十六条の九の規定を準用する。

第四章 埋蔵文化財

(発掘に関する届出、指示及び命令)

第五十七条 土地を発掘して埋蔵物である文化財(以下「埋蔵文化財」という。)について調査しようとする者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発掘に着手しようとする日の三十日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る発掘に關し必要な事項を指示し、又はその発掘の禁止、停止若しくは中止を命ずることができ

る。

第五十七条の二 土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地を発掘しようとする場合には、前条第一項の規定を準用する。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項で準用する前条第一項の届出に係る発掘に關し必要な事項を指示することができる。

(委員会による発掘の施行)

第五十八条 委員会は、埋蔵文化財について調査する必要があると認めるとき

は、自ら埋蔵文化財を包蔵すると認められる土地の発掘を施行することができる。

2 前項の規定により発掘を自ら施行しようとするときは、委員会は、あらかじめ、当該土地の所有者及び権原に基づく占有者に対し、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付しなければならぬ。

3 第一項の場合には、第三十九条及び第四十一条の規定を準用する。

第五十九条 前条第一項の規定による発掘により文化財を発見した場合において、委員会は、当該文化財の所有者が判明しているときはこれを所有者に返還し、所有者が判明しないときは、遺失物法(明治三十二年法律第八十号)第十三条で準用する同法第一条第一項の規定にかかわらず、警察署長にその旨を通知することをもつて足りる。

2 前項の通知を受けたときは、警察署長は、直ちに当該文化財につき遺失物法第十三条で準用する同法第一条第二項の規定による公告をしなければならぬ。

(提出)

第六十条 遺失物法第十三条で準用する同法第一条第一項の規定により、埋蔵物として差し出された物件が文化財と認められるときは、警察署長は、直ちに当該物件を委員会に提出しなければならぬ。但し、所有者の判明している場合は、この限りでない。

(鑑査)

第六十一条 前条の規定により物件が提出されたときは、委員会は、当該物件が文化財であるかどうかを鑑査しなければならぬ。

2 委員会は、前項の鑑査の結果当該物件を文化財と認めるときは、その旨を警察署長に通知し、文化財でないことを認めるときは、当該物件を警察署長に差し戻さなければならない。

(引渡)

第六十二条 第五十九条第一項又は前条第二項に規定する文化財の所有者から、警察署長に対し、その文化財の返還の請求があつたときは、委員会は、当該警察署長にこれを引き渡さなければならない。

(国庫帰属及び報償金)

第六十三条 第五十九条第一項又は第六十一条第二項に規定する文化財でその所有者が判明しないものの所有権は、国庫に帰属する。この場合においては、委員会は、当該文化財の発見者及びその発見された土地の所有者にその旨を通知し、且つ、その価格に相当する額の報償金を支給する。

2 前項に規定する発見者と土地所有者とが異なるときは、前項の報償金は、折半して支給する。

3 前二項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(譲与等)

第六十四条 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存の

ため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見者又はその発見された土地の所有者に、その者が前条の規定により受けるべき報償金の額に相当するものの範囲内でこれを譲与することができる。

2 前項の場合には、その譲与した文化財の価格に相当する金額は、前条に規定する報償金の額から控除するものとする。

3 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見された土地を管轄する地方公共団体に對し、その申請に基づき、当該文化財を譲与し、又は時価よりも低い対価で譲渡することができる。

(遺失物法の適用)

第六十五条 埋蔵文化財に関しては、この法律に特別の定めのある場合の外、遺失物法第十三条の規定の適用があるものとする。

第六十六条から第六十八条まで 削除

第五章 史跡名勝天然記念物

(指定)

第六十九条 委員会は、記念物のうち重要なものを史跡、名勝又は天然記念物(以下「史跡名勝天然記念物」と総称する。)に指定することができる。

2 委員会は、前項の規定により指定された史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物(以下「特別史跡名勝天然記念物」と総称する。)に指定することができる。

3 前二項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基づく占有者に通知してする。

4 前項の規定により通知すべき相手方が著しく多数で個別に通知し難い事情がある場合には、委員会は、同項の規定による通知に代えて、その通知すべき事項を当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所在地の市町村の事務所又はこれに準ずる施設の揭示場に揭示することができる。この場合においては、その揭示を始めた日から二週間を経過した時に前項の規定による通知が相手方に到達したものとみなす。

5 第一項又は第二項の規定による指定は、第三項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者又は権原に基づく占有者に対しては、第三項の規定による通知が到達した時又は前項の規定によりその通知が到達したものとみなされる時からその効力を生ずる。

(仮指定)

第七十条 前条第一項の規定による指定前において緊急の必要があると認めるときは、都道府県の教育委員会は、史跡名勝天然記念物の仮指定を行うこと

ができる。

2 前項の規定により仮指定を行つたときは、都道府県の教育委員会は、直ちにその旨を委員会に報告しなければならない。

3 第一項の規定による仮指定には、前条第三項から第五項までの規定を準用する。

(所有権等の尊重及び他の公益との調整)

第七十条の二 委員会又は都道府県の教育委員会は、第六十九条第一項若しくは第二項の規定による指定又は前条第一項の規定による仮指定を行うに当つては、特に、関係者の所有権、鉱業権その他の財産権を尊重するとともに、国土の開発その他の公益との調整に留意しなければならない。

(解除)

第七十一条 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物がその価値を失つた場合その他特殊の事由のあるときは、委員会又は都道府県の教育委員会は、その指定又は仮指定を解除することができる。

2 第七十条第一項の規定により仮指定された史跡名勝天然記念物につき第六十九条第一項の規定による指定があつたとき、又は仮指定があつた日から二年以内と同条同項の規定による指定があつたときは、仮指定は、その効力を失ふ。

3 第七十条第一項の規定による仮指定が適当でないとき認めるときは、委員会

は、これを解除することができる。

4 第一項又は前項の規定による指定又は仮指定の解除には、第六十九条第三項から第五項までの規定を準用する。

(管理団体による管理及び復旧)

第七十一条の二 史跡名勝天然記念物につき、所有者がないか若しくは判明しない場合又は所有者若しくは第七十四条第二項の規定により選任された管理の責に任すべき者による管理が著しく困難若しくは不適当であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該史跡名勝天然記念物の保存のため必要な管理及び復旧(当該史跡名勝天然記念物の保存のため必要な施設、設備その他の物件で当該史跡名勝天然記念物の所有者の所有又は管理に属するものの管理及び復旧を含む。)を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基づく占有者並びに指定しようとする地方公共団体その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第六十九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第七十一条の三 前条第一項に規定する

事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項並びに第六十九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第七十二条 第七十一条の二第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人(以下この章及び第六章において「管理団体」という)は、委員

会規則の定める基準により、史跡名勝天然記念物の管理に必要な標識、説明板、境界標、囲さくその他の施設を設置しなければならない。

2 史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたときは、管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。

2 管理団体が復旧を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その復旧の方法及び時期について当該史跡名勝天然記念物の所有者(所有者が判明しない場合は除く。)及び権原に基づく占有者の意見を聞かなければならない。

4 史跡名勝天然記念物の所有者又は占有者は、正当な理由がなく、管理団体が行う管理若しくは復旧又はその管理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

第七十二条の二 管理団体が行う管理及び復旧に要する費用は、この法律に特別の定のある場合を除いて、管理団体

の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理又は復旧により所有者の受ける利益の限度において、管理又は復旧に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する史跡名勝天然記念物につき視察料を徴収することができる。

第七十三条 管理団体が行う管理又は復旧によつて損害を受けた者に対しては、当該管理団体は、その通常生ずべき損害を補償しなければならない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第七十三条の二 管理団体が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項及び第三十三条の規定を、管理団体が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第五十六条第三項の規定を準用する。

(所有者による管理及び復旧)

第七十四条 管理団体がある場合を除いて、史跡名勝天然記念物の所有者は、当該史跡名勝天然記念物の管理及び復旧に当るものとする。

2 前項の規定により史跡名勝天然記念物の管理に当る所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつば自らに代り当該史跡名勝天然記念物の管理の責に任ずべき者(以下この章及び

第六章において「管理責任者」というに選任することができる。この場合には、第三十一条第三項の規定を準用する。

第七十五条 所有者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条、第三十三条並びに第七十二条第一項及び第二項(同条第二項については、管理責任者がある場合を除く。)の規定を、所有者が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、所有者が変更した場合の権利義務の承継には、第五十六条第一項の規定を、管理責任者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条第三項、第三十三条、第四十七条第四項及び第七十二条第二項の規定を準用する。

(管理に関する命令又は勧告)
第七十六条 管理が適当でないため史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、管理方法の改善、保存施設の設置その他管理に關し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の場合には、第三十六条第二項及び第三項の規定を準用する。

(復旧に関する命令又は勧告)
第七十七条 委員会は、特別史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な

命令又は勧告をすることができる。

2 委員会は、特別史跡名勝天然記念物以外の史跡名勝天然記念物が、き損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な勧告をすることができる。

3 前二項の場合には、第三十七条第三項及び第四項の規定を準用する。

(委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧等の施行)
第七十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、特別史跡名勝天然記念物につき自ら復旧を行い、又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をすることができる。

一 管理団体、所有者又は管理責任者が前二条の規定による命令に従わな

いとき。
二 特別史跡名勝天然記念物が、き損し、若しくは喪失している場合又は滅失し、き損し、喪失し、若しくは盗み取られる虞のある場合において、管理団体、所有者又は管理責任者に復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でないとき。

2 前項の場合には、第三十八条第二項及び第三十九条から第四十一条までの規定を準用する。

(補助等に係る史跡名勝天然記念物譲渡の場合の納付金)
第七十九条 國が復旧又は滅失、き損、

喪失若しくは盗難の防止の措置につき第七十三条の二及び第七十五条で準用する第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第七十六条第二項で準用する第三十六条第二項、第七十七条第三項で準用する第三十七条第三項若しくは前条第二項で準用する第四十条第一項の規定により費用を負担した史跡名勝天然記念物については、第四十二条の規定を準用する。

(現状変更等の制限及び原状回復の命令)
第八十条 史跡名勝天然記念物に關しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、委員会の許可を受けなければならぬ。但し、現状変更については維持の措置をする場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の輕微である場合は、この限りでない。

2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。

3 第一項の規定による許可を与える場合には、第四十三条第三項の規定を、第一項の規定による許可を受けた者には、同条第四項の規定を準用する。

4 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の第一項の規定による処分には、第七十条の二の規定を準用する。

5 第一項の規定による許可を受けず、又は第三項で準用する第四十三条第三項の規定による許可の条件に従わな

い、史跡名勝天然記念物の現状を

変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をした者に対しては、委員会は、原状回復を命ずることができる。この場合には、委員会は、原状回復に關し必要な指示をすることができる。

(復旧の届出等)
第八十条の二 史跡名勝天然記念物を復旧しようとするときは、管理団体又は所有者は、復旧に着手しようとする日の三十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならぬ。但し、前条第一項の規定により許可を受けなければならぬ場合その他委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 史跡名勝天然記念物の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る史跡名勝天然記念物の復旧に關し技術的な指導と助言を与えることができる。

(環境保全)
第八十一条 委員会は、史跡名勝天然記念物の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設を命ずることができる。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定による制限又は禁止に違反した者には、第八十条第五項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を、準用する。

(保存のための調査)

第八十二条 委員会は、必要があると認めるときは、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、史跡名勝天然記念物の現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第八十三条 委員会は、左の各号の一に該当する場合において、前条の報告によつてもなお史跡名勝天然記念物に関する状況を確認することができず、且つ、その確認のために方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する土地又はその隣接地に立ち入つてその現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき実地調査及び土地の発掘、障害物の除去その他調査のため必要な措置をさせることができる。但し、当該土地の所有者、占有者その他の関係者に対し、著しく損害を及ぼす虞のある措置は、させてはならない。

一 史跡名勝天然記念物に関する現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可の申請があつたとき。

二 史跡名勝天然記念物が損し、又は喪失しているとき。

三 史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞のあるとき。

四 特別の事情によりあらためて特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物としての価値を調査する必要があるとき。

2 前項の規定による調査又は措置によ

つて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定により立ち入り、調査する場合に、第五十五条第二項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(遺跡発見の届出)

第八十四条 土地の所有者又は占有者が貝づか、住居跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したときは、その現状を変更することなく、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発見の日から十日以内に委員会に届け出なければならない。但し、第五十七条第一項の規定による届出をした場合は、この限りでない。

2 前項の規定による届出があつた場合には、委員会は、当該遺跡の保護上必要な事項を指示することができる。

第六章 補則

第一節 聴聞及び異議の申立

(聴聞)

第八十五条 委員会が左に掲げる処分又は措置を行おうとするときは、関係者又はその代理人の出頭を求めて、公開による聴聞を行わなければならない。

一 第三十八条第一項又は第七十八条第一項の規定による修理若しくは復旧又は措置の施行

二 第四十三条第四項(第八十条第三項で準用する場合を含む。)又は第五

十三条第三項の規定による許可の取消

三 第四十五条第一項又は第八十一条第一項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

四 第五十一条第五項(同条第七項(第五十六条の七第二項で準用する場合を含む。))第五十一条の二、第五十六条の十五第二項、及び第五十六条の十六で準用する場合を含む。)の規定による公開の中止命令

五 第五十五条第一項又は第八十三条第一項の規定による立入調査又は調査のため必要な措置の施行

六 第五十七条第二項の規定による発掘の禁止又は中止命令

七 第五十八条第一項の規定による発掘の施行

八 第八十条第五項(第八十一条第三項で準用する場合を含む。)の規定による原状回復の命令

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、前項各号に規定する処分又は措置を行おうとする理由、その処分又は措置の内容及び聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに当該関係者に通告し、且つ、その処分又は措置の内容及び聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

3 聴聞においては、当該関係者又はその代理人は、自己又は本人のために意見を述べ、又は釈明し、且つ、証拠を提出することができる。

4 当該関係者又はその代理人が正当な理由がなくて聴聞に応じなかつたとき

は、委員会は、聴聞を行わないで第一項に規定する処分又は措置をすることができる。

(異議の申立)

第八十五条の二 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会がした左に掲げる処分不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることができる。

一 第四十三条第一項又は第八十条第一項の規定による現状変更等の許可又は不許可

二 第四十五条第一項又は第八十一条第一項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

三 第七十一条の二第一項の規定による管理団体の指定

2 前項の規定による異議の申立は、処分の相手方及び処分の通知を受けるべき者にあつては処分の日又は処分の通知を受けた日から、その他の者にあつては処分の日又は処分の通知を受けた日から三十日以内に、委員会規則の定める事項を記載した申立書を委員会に提出して、行わなければならない。

3 正当な事由により前項の期間内に異議の申立をすることができなかつたことを疎明した者は、同項の期間の経過後でも、異議の申立をすることができる。

(却下)

第八十五条の三 委員会は、異議の申立

が不適当であると認めるときは、申立

を却下しなければならぬ。

(異議の申立のあつた場合の聴聞)

第八十五条の四 異議の申立があつたときは、第八十五条の二第一項第二号の事案に係る場合及び申立を却下する場合同を除き、委員会は、申立を受理した日から三十日以内に、公開による聴聞を開始しなければならない。

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに異議の申立をした者に通告し、且つ、事案の要旨並びに聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

(参加)

第八十五条の五 異議の申立をした者の外、当該処分について利害関係を有する者で聴聞に参加して意見を述べようとするものは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、委員会にその旨を申し出て、その許可を受けなければならない。

(証拠の提示等)

第八十五条の六 第八十五条の四の規定による聴聞においては、異議の申立をした者、処分の相手方、処分の通知を受けるべき者及び前条の規定による聴聞に参加した者又はこれらの者の代理人に対して、当該事案について、証拠を提示し、且つ、意見を述べる機会を与えなければならない。

(決定)

第八十五条の七 決定は、文書をもつて行い、且つ、理由を附さなければならない。

2 委員会は、決定書の正本を、異議の申立をした者及び聴聞に参加した者に交付しなければならない。但し、申立を却下する決定については、異議の申立をした者に交付すれば足りる。

(決定前の協議等)

第八十五条の八 鉱業又は採石業との調整に関する事案に係る異議の申立については、委員会は、申立を却下する場合同を除き、あらかじめ、土地調整委員会に協議した上、決定をしなければならない。

2 関係各行政機関の長は、異議の申立に係る事案について意見を述べることが出来る。

(手続)

第八十五条の九 前七条に定めるものの外、異議の申立に関する手続は、委員会規則で定める。

第二節 国に関する特例

(国に関する特例)

第八十六条 国又は国の機関に対しこの法律の規定を適用する場合において、この節に特別の規定のあるときは、その規定による。

第八十七条 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物が国有財産法(昭和二十三年法律第七十三号)に規定する国有財産であるときは、そのものは、文部大臣が管理する。但し、そのものが文部大臣以外の者が管理している同法第三条第二項に規定する行政財産であるときは、その他文部大臣以外の者が管理すべき特別の必要のあるものであるときは、そのものを関係各省各庁

の長(同法第四条第二項に規定する各省各庁の長をいう。以下同じ。)が管理するか、又は文部大臣が管理するかは、文部大臣、関係各省各庁の長及び大蔵大臣が協議して定める。

2 前項但書の規定により協議する場合においては、文部大臣は、委員会の意見を聞かなければならない。

第八十七条の二 前条第一項の規定により重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を文部大臣が管理するため、所属を異にする会計の間において所管換又は所属替をするときは、国有財産法第十五条の規定にかかわらず、無償として整理することが出来る。

第八十八条 国の所有に属する有形文化財又は民俗資料を国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料に指定したときは、第二十八条第一項又は第三項(第五十六条の十第二項で準用する場合を含む。)の規定により所有者に対し行うべき通知又は指定書の交付は、当該有形文化財又は民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行うものとする。この場合においては、国宝の指定書を受けた各省各庁の長は、直ちに国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

2 国の所有に属する国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料の指定を解除したときは、第二十九条第二項(第五十六条の十一第二項で準用する場合を含む。)又は第五項の規定により所有者に対し行うべき通知又は指定書の交付は、当該国宝若しくは重要文化財又は

重要民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行うものとする。この場合においては、当該各省各庁の長は、直ちに指定書を委員会に返付しなければならない。

3 国の所有又は占有に属するものを特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定し、若しくは仮指定し、又はその指定若しくは仮指定を解除したときは、第六十九条第三項(第七十条第三項及び第七十一条第四項で準用する場合を含む。)の規定により所有者又は占有者に対し行うべき通知は、その指定若しくは仮指定又は指定若しくは仮指定の解除に係るものを管理する各省各庁の長に対し行うものとする。

第八十九条 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理する各省各庁の長は、この法律並びにこれに基づいて発する委員会規則及び委員会の勧告に従い、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理しなければならない。

第九十条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、文部大臣を通じ委員会に通知しなければならない。

- 一 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を取得したとき。
- 二 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の所管換を受け、又は所属替をしたとき。
- 三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の全部又は一部が滅失し、き損し、若し

くは喪亡し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたとき。

四 所管に属する重要文化財又は重要民俗資料の所在の場所を変更しようとするとき。

五 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物を修理し、又は復旧しようとするとき（次条第一項第一号の規定により委員会の同意を求めなければならない場合その他委員会規則の定める場合を除く。）

六 所管に属する重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとするとき。

七 所管に属する史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたとき。

八 所管に属する土地において貝づか、住居跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したとき。

2 前項第一号及び第二号の場合に係る通知には、第三十二条第一項並びに同項を準用する第五十六条の十二及び第七十五条の規定を、前項第三号の場合に係る通知には、第三十三条並びに同項を準用する第五十六条の十二及び第七十五条の規定を、前項第四号の場合に係る通知には、第三十四条及び同条を準用する第五十六条の十二の規定を、前項第五号の場合に係る通知には、第四十三条の二第二項及び第八十条の二第一項の規定を、前項第六号の場合に係る通知には、第五十六条の十

三 第一項の規定を、前項第七号の場合に係る通知には、第七十二条第二項の規定を、前項第八号の場合に係る通知には、第八十四条第一項の規定を準用する。

3 委員会は、第一項第五号、第六号又は第八号の通知に係る事項に關し必要な勧告をすることができる。

第九十一条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、あらかじめ、文部大臣を通じ委員会の同意を求めなければならない。

一 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするとき。

二 所管に属する重要文化財を輸出しようとするとき。

三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の貸付、交換、売却、譲与その他の処分をしようとするとき。

2 各省各庁の長以外の国の機関が、重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、あらかじめ、委員会の同意を求めなければならない。

2 第一項第一号及び前項の場合には、第四十三条第一項但書及び同条第二項並びに第八十条第一項但書及び同条第二項の規定を準用する。

4 委員会は、第一項第一号又は第二項に規定する措置につき同意を与える場

合においては、その条件としてその措置に關し必要な勧告をすることができる。

5 関係各省各庁の長その他の国の機関は、前項の規定による委員会の勧告を十分に尊重しなければならない。

第九十二条 委員会は、必要があると認めるときは、文部大臣を通じ各省各庁の長に対し、左に掲げる事項につき必要な勧告をすることができる。

一 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理方法

二 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の修理若しくは復旧又は滅失、き損、喪亡若しくは盗難の防止の措置

三 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の環境保全のため必要な施設

四 所管に属する重要文化財又は重要民俗資料の出品又は公開

2 前項の勧告については、前条第五項の規定を準用する。

3 第一項の規定による委員会の勧告に基いて施行する同項第二号に規定する修理、復旧若しくは措置又は同項第三号に規定する施設に要する経費の分担については、文部大臣と各省各庁の長が協議して定める。

4 前項の規定により協議する場合に、第八十七条第二項の規定を準用する。

第九十三条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、国の所有に

属する国宝又は特別史跡名勝天然記念物につき、自ら修理若しくは復旧を行い、又は滅失、き損、喪亡若しくは盗難の防止の措置をすることができる。

この場合においては、委員会は、当該文化財が文部大臣以外の各省各庁の長の所管に属するものであるときは、あらかじめ、修理若しくは復旧又は措置の内容、着手の時期その他必要な事項につき、文部大臣を通じ当該文化財を管理する各省各庁の長と協議し、当該文化財が文部大臣の所管に属するものであるときは、文部大臣の定める場合を除いて、その承認を受けなければならない。

一 関係各省各庁の長が前条第一項第二号に規定する修理若しくは復旧又は措置についての委員会の勧告に應じないとき。

二 国宝又は特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは喪失している場合又は滅失し、き損し、喪亡し、若しくは盗み取られる虞のある場合において、関係各省各庁の長に当該修理若しくは復旧又は措置をさせることが適当でないとき。

第九十四条 委員会は、国の所有に属するものを国宝、重要文化財、重要民俗資料、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定するに当り、又は国の所有に属する国宝、重要文化財、重要民俗資料、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に關する状況を確認するため必要がある

と認めるときは、関係各省各庁の長に
対し調査のため必要な報告を求め、又
は、重要民俗資料に係る場合を除き、
調査に当る者を定めて実地調査をさせ
ることができる。

第九十五条 委員会は、国の所有に属す
る重要文化財、重要民俗資料又は史跡
名勝天然記念物の保存のため特に必要
があると認めるときは、適当な地方公
共団体その他の法人を指定して当該文
化財の保存のため必要な管理（当該文
化財の保存のため必要な施設、設備そ
の他の物件で国の所有又は管理に属す
るものの管理を含む）を行わせること
ができる。

2 前項の規定による指定をするには、
委員会は、あらかじめ、文部大臣を通
じ当該文化財を管理する各省各庁の長
の同意を求めるとともに、指定しよう
とする地方公共団体その他の法人の同
意を得なければならぬ。

3 第一項の規定による指定には、第三
十二条の二第三項及び第四項の規定を
準用する。

4 第一項の規定による管理によつて生
ずる収益は、当該地方公共団体その他
の法人の収入とする。

5 地方公共団体その他の法人が第一項
の規定による管理を行う場合には、重
要文化財又は重要民俗資料の管理に係
るときは、第三十条、第三十一条第一
項、第三十二条の四第一項、第三十三
条、第三十四条、第三十五条、第三十六
条、第四十七条の二第三項及び第五十

四條の規定を、史跡名勝天然記念物に
係るときは、第三十条、第三十一条第一
項、第三十三条、第三十五条、第七十
二条第一項及び第二項、第七十二条の
二第一項及び第三項、第七十六条並び
に第八十二条の規定を準用する。

第九十五条の二 前条第一項の規定によ
る指定の解除については、第三十二条
の三の規定を準用する。

第九十五条の三 委員会は、重要文化
財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記
念物の保護のため特に必要があると認
めるときは、第九十五条第一項の規定
による指定を受けた地方公共団体その
他の法人に当該文化財の修理又は復旧
を行わせることができる。

2 前項の規定による修理又は復旧を行
わせる場合には、第九十五条第二項の
規定を準用する。

3 地方公共団体その他の法人が第一項
の規定による修理又は復旧を行う場合
には、重要文化財又は重要民俗資料に
係るときは、第三十二条の四第一項及
び第三十五条の規定を、史跡名勝天然
記念物に係るときは、第三十五条、第
七十二条の二第一項及び第七十三条の
規定を準用する。

第九十六条 委員会は、第五十八条第一
項の規定により自ら発掘を施行しよう
とする場合において、その発掘を施行
しようとする土地が国の所有に属し、
又は国の機関の占有するものである
ときは、あらかじめ、発掘の目的、方
法、着手の時期その他必要と認める事

項につき、文部大臣を通じ関係各省各
庁の長と協議しなければならない。但
し、当該各省各庁の長が文部大臣であ
るときは、その承認を受けるべきもの
とする。

第九十七条 第六十三条の規定により国
庫に帰属した文化財は、委員会が管理
する。但し、その保存のため又はその
効用から見て他の機関に管理させるこ
とが適当であるときは、これを当該機
関の管理に移さなければならない。

第三節 地方公共団体及び教育
委員会

(地方公共団体の事務)

第九十八条 地方公共団体は、文化財の
管理、修理、復旧、公開その他その保
存及び活用に要する経費につき補助す
ることができる。

2 地方公共団体は、条例の定めるとこ
ろにより、重要文化財、重要民俗資
料、重要無形文化財及び史跡名勝天然
記念物以外の文化財で当該地方公共団
体の区域内に存するもののうち重要な
ものを指定して、その保存及び活用の
ため必要な措置を講ずることができる。

3 前項の条例に関する議案の作成及び
提出については、教育委員会法（昭和
二十三年法律第七十号）第六十一条
に規定する事件の例による。

4 第二項に規定する条例の制定若しく
はその改廃又は同項に規定する文化財
の指定若しくはその解除を行った場合
には、教育委員会は、委員会規則の定

めるところにより、委員会にその旨を
報告しなければならない。

(権限の委任)

第九十九条 委員会は、必要があると認
めるときは、左に掲げる委員会の権限
の一部を都道府県の教育委員会に委任
することができる。

一 第三十五条第三項（第三十六条第
三項（第五十六条の十四、第七十六
条第二項（第九十五条第五項で準用
する場合を含む。）及び第九十五条
第五項で準用する場合を含む。）、第
三十七条第四項（第五十六条の十
四及び第七十七条第三項で準用する
場合を含む。）、第五十六条の第六
条の十八で準用する場合を含む。）、
第五十六条の十四、第七十二条の二、
第七十五条、第九十五条第五項及び
第九十五条の三第三項で準用する場
合を含む。）の規定による指揮監督

二 第四十三条又は第八十条の規定に
よる現状変更又は保存に影響を及ぼ
す行為の許可及びその取消並びにそ
の停止命令（重大な現状変更又は保
存に重大な影響を及ぼす行為の許可
及びその取消を除く。）

三 第五十一条第五項（同条第七項（第
五十六条の七第二項で準用する場合
を含む。）、第五十一条の二（第五
十六条の十六で準用する場合を含む。）、
第五十六条の十五第二項及び
第五十六条の十六で準用する場合を
含む。）の規定による公開の停止命令

四 第五十三条の規定による公開の許可及びその取消並びに公開の停止命令

五 第五十四条(第五十六条の十七及び第九十五条第五項で準用する場合を含む)、第五十五条、第八十二条(第九十五条第五項で準用する場合を含む)又は第八十三条の規定による調査又は調査のため必要な措置の施行

六 第五十七条第二項の規定による発掘の停止命令

2 都道府県の教育委員会が前項の規定による委任に基き同項第二号若しくは第四号に規定する許可の取消又は同項第五号に規定する立入調査若しくは調査のため必要な措置を行う場合には、第八十五条の規定を準用する。

(出品された重要文化財等の管理の委任)

第百条 委員会は、必要があると認めるときは、都道府県又は地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第五百五十五条第二項の市の教育委員会に対し第四十八条(第五十六条の十六で準用する場合を含む)の規定により出品された重要文化財又は重要民俗資料の管理の事務を委任することができる。

2 前項の規定による委任を受けた場合には、都道府県又は前項に規定する市の教育委員会は、その職員のうちから、当該重要文化財又は重要民俗資料の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

(修理等の施行の委託)

第百一条 委員会は、必要があると認めるときは、第三十八条第一項又は第九十三条の規定による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行、第五十八条第一項の規定による発掘の施行及び第七十八条第一項又は第九十三条の規定による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置の施行につき、都道府県の教育委員会に対し、その全部又は一部を委託することができる。

2 都道府県の教育委員会が前項の規定による委託に基き、第三十八条第一項の規定による修理又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、第三十九条の規定を、第五十八条第一項の規定による発掘の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第三項で準用する第三十九条の規定を、第七十八条第一項の規定による復旧又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第二項で準用する第三十九条の規定を準用する。

(重要文化財等の管理等の受託又は技術的指導)

第百二条 都道府県の教育委員会は、あらかじめ、委員会の承認を得て、所有者(管理団体がある場合は、その者)又は管理責任者の求めに応じ、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理(管理団体がある場合を除く)、修理若しくは復旧につき委託を

受け、又は技術的指導をすることができ

2 都道府県の教育委員会が前項の規定により管理、修理又は復旧の委託を受ける場合には、第三十九条第一項及び第二項の規定を準用する。

(書類等の経由)

第百三条 この法律の規定により文化財に關し委員会に提出すべき届書その他の書類及び物件の提出は、都道府県の教育委員会を経由すべきものとする。

2 都道府県の教育委員会は、前項に規定する書類及び物件を受理したときは、意見を具してこれを委員会に送付しなければならない。

3 この法律の規定により文化財に關し委員会が発する命令、勧告、指示その他の処分告知は、都道府県の教育委員会を経由すべきものとする。但し、特に緊急な場合は、この限りでない。

4 この法律の規定により委員会に対してなすべき届出、報告、申出又は指定書の返付は、その届書その他の書類又は指定書が第一項の規定により經由すべき都道府県の教育委員会に到達した時に行われたものとみなす。

(指揮監督及び経費の負担)

第百四条 委員会は、この法律の規定により都道府県又は第百条第一項に規定する市の教育委員会に行わせる事務につき、その教育委員会を指揮監督することができる。

2 都道府県又は第百条第一項に規定する市の教育委員会が第九十九条から第

百一条までの規定による事務を処理するために要する経費は、国庫の負担とする。

(委員会に対する意見具申)

第百四条の二 都道府県の教育委員会は、当該都道府県の区域内に存する文化財の保存及び活用に関し、委員会に対して意見を具申することができる。

(教育委員会の文化財専門委員)

第百四条の三 都道府県の教育委員会に文化財専門委員を置くことができる。

2 文化財専門委員は、文化財の保存及び活用に関し、都道府県の教育委員会の諮問に答え、又は都道府県の教育委員会に意見を具申し、及びこのために必要な調査研究を行う。

3 文化財専門委員に關し必要な事項は、当該都道府県の条例で定める。

4 前項の条例に關する議案の作成及び提出には、第九十八条第三項の規定を準用する。

第百五条 削除

第七章 罰則

第百六条 第四十四条の規定に違反し、委員会の許可を受けないで重要文化財を輸出した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は十万円以下の罰金に処する。

第百七条 重要文化財を損壊し、棄し、又は隠匿した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は三万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該重要文化財

の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮、又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

第七七条の二 史跡名勝天然記念物の現狀を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をして、これを滅失し、き損し、又は衰亡するに至らしめた者は、五年以下の懲役若しくは禁錮、又は三万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮、又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

第七七条の三 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者がその法人又は人の業務又は財産の管理に関して前三条の違反行為をしたときは、その行為者を罰する外、その法人又は人に対し、各本条の罰金刑を科する。

(行政罰)

第八八条 第三十九條第一項(第四十七條第三項(第五十六條の十四で準用する場合を含む)、第七十八條第二項、第一百一條第二項又は第一百二條第二項で準用する場合を含む)、第四十九條(第五十六條の十六で準用する場合を含む)又は第九十條第二項に規定する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理、修理又は復旧の施行の責に任ずべき者が怠慢又は重大な過失によりその管理、修理又は復旧に係る重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を滅失し、き損し、衰亡

し、又は盗み取られるに至らしめたときは、三万円以下の過料に処する。

第九九条 左の各号の一に該当する者は、三万円以下の過料に処する。

一 正当な理由がなくて、第三十六條

第一項(第五十六條の十四及び第九十五條第五項で準用する場合を含む)又は第三十七條第一項の規定による重要文化財若しくは重要民俗資料の管理又は国宝の修理に関する委員会の命令に従わなかつた者

二 第四十三條の規定に違反して、委員

会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従

わないで重要文化財の現狀を変更し、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の現狀変更の停止の命令に従わなかつた者

三 正当な理由がなくて、第七十六條

第一項(第九十五條第五項で準用する場合を含む)又は第七十七條第一項の規定による史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する委員会の命令に従わなかつた者

四 第八十條の規定に違反して、委員

会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わな

い史跡名勝天然記念物の現狀を変更し、若しくはその保存に影響を及ぼす行為をし、又は委員会若しくはそ

の権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の現狀変更若しくは保存に影響を及ぼす行為の停止の命令に従わなかつた者

第一百十條 左の各号の一に該当する者は、一万円以下の過料に処する。

一 第三十九條第三項(第一百一條第二

項で準用する場合を含む)で準用する第三十二條の二第五項の規定に違反して、国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

二 正当な理由がなくて、第四十五條

第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者

三 第四十六條(第五十六條の十四で

準用する場合を含む)の規定に違反して、委員会に国に対する売渡の申出をせず、若しくは申出した後同

條第三項(第五十六條の十四で準用する場合を含む)に規定する期間内に、国以外の者に重要文化財又は重要民俗資料を譲り渡し、又は同條第

一項(第五十六條の十四で準用する場合を含む)の規定による売渡の申出若しくは同項但書(第五十六條の十四で準用する場合を含む)の規定による承認の申請につき、虚偽の事実を申し立てた者

四 第五十三條の規定に違反して、委

員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わな

い重要文化財を公開し、又は

委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止の命令に従わなかつた者

五 第七十八條第二項又は第九十條第

二項で準用する第三十九條第三項で

準用する第三十二條の二第五項の規定に違反して、特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

六 正当な理由がなくて、第八十一條

第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者

第七十一條 左の各号の一に該当する者は、五千円以下の過料に処する。

一 第二十八條第五項、第二十九條第

四項(第五十六條の十一第二項で準用する場合を含む)又は第五十六條

第二項(第五十六條の十七で準用する場合を含む)の規定に違反して、重要文化財又は重要民俗資料の指定書を委員会に返付せず、又は新所有者に引き渡さなかつた者

二 第三十一條第三項(第五十六條の

十二及び第七十四條第二項で準用する場合を含む)、第三十二條(第五十六條の十二及び第七十五條で準用する場合を含む)、第三十三條(第

九十五條第五項で準用する場合を含む)、第三十四條(第五十六條の十二及び第九十五條第五項で準用する場合を含む)、第四十三條の二第一

項、第五十六條の五、第五十六條の

十三第一項、第五十六條の十五第一項、第五十七條第一項、第七十二條第二項（第九十五條第五項で準用する場合を含む）、第八十條の二第一項又は第八十四條第一項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者

三 第三十二條の二第五項（第三十四條の三第二項（第五十六條の十四で準用する場合を含む）及び第五十六條の十二で準用する場合を含む。）又は第七十二條第四項の規定に違反して、管理、修理若しくは復旧又は管理、修理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避した者

四 第四十八條第四項（第五十一條第三項（第五十六條の十六で準用する場合を含む）及び第五十六條の十六で準用する場合を含む。）の規定に違反して、出品若しくは公開をせず、又は第五十一條第五項（同条第七項（第五十六條の七第二項及び第五十六條の十六で準用する場合を含む。）、第五十一條の二（第五十六條の十六で準用する場合を含む）及び第五十六條の十五第二項で準用する場合を含む。）の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

五 第五十四條（第五十六條の十七及び第九十五條第五項で準用する場合を含む）、第五十五條、第八十二條

（第九十五條第五項で準用する場合を含む。）又は第八十三條の規定に違反して、報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は当該公務員の立入調査若しくは調査のため必要な措置の施行を拒み、妨げ、若しくは忌避した者

六 第五十七條第二項の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の発掘の禁止又は停止若しくは中止の命令に従わなかつた者
七 第五十八條の規定による発掘の施行を拒み、又は妨げた者
第八十二條 削除

附則

（施行期日）
第一百十三條 この法律施行の期日は、公布の日から起算して三箇月をこえない期間内において、政令で定める。（昭和二十五年八月政令第二百七十六号で、同二十五年八月二十九日から施行）

（関係法令の廃止）

第一百十四條 左に掲げる法律、勅令及び政令は、廃止する。
国宝保存法（昭和四年法律第十七号）
重要美術品等の保存に関する法律（昭和八年法律第四十三号）
史跡名勝天然記念物保存法（大正八年法律第四十四号）
国宝保存法施行令（昭和四年勅令第二百十号）
史跡名勝天然記念物保存法施行令（大

正八年勅令第四百九十九号）
国宝保存会官制（昭和四年勅令第二百一十一号）
重要美術品等調査審議会令（昭和二十四年政令第二百五十一号）
史跡名勝天然記念物調査会令（昭和二十四年政令第二百五十二号）

（法令廃止に伴う経過規定）
第一百十五條 この法律施行前に行つた国宝保存法第一条の規定による国宝の指定（同法第十一條第一項の規定により解除された場合を除く。）は、第二十七條第一項の規定による重要文化財の指定とみなし、同法第三條又は第四條の規定による許可は、第四十三條又は第四十四條の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前の国宝の滅失又はき損並びにこの法律施行前に行つた国宝保存法第七條第一項の規定による命令及び同法第十五條前段の規定により交付した補助金については、同法第七條から第十條まで、第十五條後段及び第二十四條の規定は、なおその効力を有する。この場合において同法第九條第二項中「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替へるものとす

3 この法律施行前にした行為の処罰については、国宝保存法は、第六條及び第二十三條の規定を除く外、なおその効力を有する。

4 この法律施行の際現に国宝保存法第一条の規定による国宝を所有している者は、委員会規則の定める事項を記載

した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に届け出なければならない。

5 前項の規定による届出があつたときは、委員会は、当該所有者に第二十八條に規定する重要文化財の指定書を交付しなければならない。

6 第四項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、五千円以下の過料に処する。

7 この法律施行の際現に国宝保存法第一条の規定による国宝で国の所有に属するものを管理する各省各庁の長は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に通知しなければならない。但し、委員会規則で定める場合は、この限りでない。

8 前項の規定による通知があつたときは、委員会は、当該各省各庁の長に第二十八條に規定する重要文化財の指定書を交付するものとする。

第九十六條 この法律施行の際現に重要美術品等の保存に関する法律第二条第一項の規定により認定されている物件については、同法は、当分の間、なおその効力を有する。この場合において、同法の施行に関する事務は、委員会が行うものとし、同法中「国宝」とあるのは、「文化財保護法」規定に依る重要な文化財」と、「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と、「国宝保存法第一条」規定に依りて国宝トシテ指定シ」とあるのは、「文化財保護法第二

十七条第一項ノ規定ニ依リテ重要文化財トシテ指定シ」と読み替へるものとす。

2 文化財専門審議会においては、当分の間、委員会の諮問に依りて重要美術品等の保存に関する法律第一条の規定による輸出及び移出の許可、同法第二条の規定による認定の取消に関する事項その他重要美術品等の保存に関する重要事項を調査審議し、且つ、これらの事項に關し必要と認める事項を委員会に建議する。

3 重要美術品等の保存に関する法律の施行に關しては、当分の間、第百三条の規定を準用する。

第百十七条 この法律施行前に行つた史跡名勝天然紀念物保存法第一条第一項の規定による指定(解除された場合を除く)は、第六十九条第一項の規定による指定、同法第一条第二項の規定による仮指定(解除された場合を除く)は、第七十条第一項の規定による仮指定とみなし、同法第三条の規定による許可は、第八十条第一項の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前に行つた史跡名勝天然紀念物保存法第四条第一項の規定による命令又は処分については、同法第四条及び史跡名勝天然紀念物保存法施行令第四条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同令第四条中「文部大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替へるものとする。

3 この法律施行前にした行為の処罰に

美術関係法規

つては、史跡名勝天然紀念物保存法はなおその効力を有する。

(最初の委員の任命)
第百十八条 委員会の最初の委員の任命については、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に限り、第九条第一項の規定にかかわらず、その後最初に召集された国会において両議院の事後の承認を得れば足りる。

2 文部大臣は、前項の規定による両議院の事後の承認が得られないときは、その委員を罷免しなければならない。

(最初の委員の任期)
第百二十条 この法律により初めて任命される委員会の委員で委員長及びその職務を代理する委員以外のものの任期は、第十条第一項の規定にかかわらず、一人については一年、二人については二年とする。

2 前項の規定の適用を受ける委員の任期は、くじで定める。

(国家行政組織法の一部改正)
第百二十一条 国家行政組織法の一部を次のように改正する。

別表第一中 文部省

文部省	文化財保護委員会
-----	----------

に改める。
(文部省設置法の一部改正)

第百二十二条 文部省設置法(昭和二十四年法律第百四十六号)の一部を次のように改正する。

目次中「第三章職員(第二十五条・第二十六条)を、第四章職員(第二十七条・第二十八条)」に改める。

第二条第一項第二号中「国宝、重要美術品、史跡名勝天然紀念物その他の文化財を」文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)に規定する文化財」に改める。

同条第三項中「出版を」文化財保護法に規定する文化財、出版」に改める。

第十条第九号を次のように改める。

九 削除

第十三条中「国立博物館」を削る。

第十四条第一項中「国立博物館」を削る。

第十七条を次のように改める。

第十七条 削除

第二十四条左表中国宝保存会、重要美術品等調査審議会及び史跡名勝天然紀念物調査会の項を削る。

第三章を第四章とし、第二十五条を第二十七条とし、第二十六条を第二十八条とし、第二章の次に次の一章を加える。

第三章 外局
(外局の設置)
第二十五条 国家行政組織法第三条第二項の規定に基いて文部省に置かれる外局は、左の通りとする。

文化財保護委員会
(文化財保護委員会)

第二十六条 文化財保護委員会の組織所掌事務及び権限は、文化財保護法の定めるところによる。

(行政機関職員定員法の一部改正)
第百二十三条 行政機関職員定員法(昭和二十四年法律第二百六十六号)の一部を次のように改正する。

第二条第一項中 文部省 本省 三、九六八人
うち六一、八四七人は、国立学校の職員とする。

本省	三、六三三	うち六一、八四七人
文化財保護委員会	四〇	は、国立学校の職員とする。
計	三、六七三	

に改める。

(従前の国立博物館)
第百二十四条 法律(これに基く命令を含む)に特別の定のある場合を除く外、従前の国立博物館及びその職員(美術研究所及びこれに所属する職員を除く)は、この法律に基く国立博物館及びその職員となり、従前の国立博物館附置の美術研究所及びこれに所属する職員は、この法律に基く研究所及びその職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

2 この法律に基く東京国立文化財研究所は、従前の国立博物館附置の美術研究所の所掌した調査研究と同一のものについては、「美術研究所」の名称を用いることができる。
(特別職の職員の給与に関する法律の一部改正)

第二百二十五条 特別職の職員との給与に關する法律(昭和二十四年法律第二百五十二号)の一部を次のように改正する。

第一条第十四号の二の次に次の一号を加える。

十四の三 文化財保護委員会の委員
長及び委員

別表中(全国選挙管理委員会委員長)を「全国選挙管理委員会委員長」を「文化財保護委員会委員長」に、「中央更生保護委員会委員」を「中央更生保護委員会委員」に改める。

〔遺失物法の一部改正〕
第二百二十六条 遺失物法の一部を次のように改正する。

第十三条第二項から第四項までの規定を削る。

2 この法律施行前に国庫に帰属した埋蔵物については、前項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

〔国有財産法の一部改正〕
第二百二十七条 国有財産法の一部を次のように改正する。

第三条第二項第二号中「国宝」の下に「その他の重要文化財」を加える。

〔屋外広告物法の一部改正〕

第二百二十八条 屋外広告物法(昭和二十四年法律第百八十九号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕

〔教育委員会法の一部改正〕

第二百二十九条 教育委員会法(昭和二十

三年法律第百七十号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕

〔富裕税法の一部改正〕

第三百十条 富裕税法(昭和二十五年法律第百七十四号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕

附則 (昭和二十六年十二月二日
第十四日法律第三百十八号抄)

1 この法律は、公布の日から施行する。但し、第二十条、第二十二條、第二十三條及び第百二十四條第二項の改正規定並びに附則第三項の規定は、昭和二十七年四月一日から施行する。

2 この法律施行前にした行為に対する罰則の適用については、改正前の文化財保護法第三十四条の規定は、なおその効力を有する。

附則 (昭和二十七年七月三十一日
日法律第二百七十二号抄)

1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。但し、附則第三項の規定は、公布の日から施行する。

2 この法律施行の際現に東京国立博物館の分館の職員である者は、別に辞令を發せられない限り、同一の勤務条件をもつて、奈良国立博物館の職員となるものとする。

附則 (昭和二十八年八月十日
法律第百九十四号抄)

1 この法律は、公布の日から施行す

る。

附則 (昭和二十八年八月十五
日法律第二百十三号抄)

1 この法律は、昭和二十八年九月一日から施行する。(後略)

2 この法律施行前従前の法令の規定によりなされた許可、認可その他の処分又は申請、届出その他の手続は、それぞれ改正後の相当規定に基いてなされた処分又は手続とみなす。

3 この法律施行の際従前の法令の規定により置かれていた機関又は職員は、それぞれ改正後の相当規定に基いて置かれるものとみなす。

附則 (昭和二十九年五月二十
九日法律第百三十一号抄)

1 この法律は、昭和二十九年七月一日から施行する。

2 この法律の施行前にした史跡名勝天然記念物の仮指定は、この法律による改正後の文化財保護法(以下「新法」という)第七十一条第二項の規定にかかわらず、新法第六十九条第一項の規定による指定があつた場合の外、この法律の施行の日から三年以内に同条同項の規定による指定がなかつたときは、その効力を失う。

3 この法律の施行前六月以内にこの法律による改正前の文化財保護法第四十三條第一項若しくは第八十條第一項の規定によつてした現状変更等の許可若しくは不許可の処分又は同法第四十五條第一項若しくは第八十一条第一項の規定によつてした制限、禁止又は命令

で特定の者に対して行われたもの不服のある者は、この法律の施行の日から三十日以内に委員会に対して異議の申立をすることができる。この場合には、第八十五条の二第二項及び第三項並びに第八十五条の三から第八十五条の九までの規定を準用する。

4 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

5 史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令(昭和二十八年政令第百八十九号)は、廃止する。

6 旧史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令(昭和二十八年政令第百八十九号)は、廃止する。

7 前項に規定する団体で法人でないものには、新法第七十一条の二、第九十五条又は第九十五条の三の規定にかかわらず、この法律の施行の日から一年間は、新法第七十一条の二第一項、第九十五条第一項又は第九十五条の三第一項に規定する管理及び復旧を行わせることができる。この場合には、新法中第七十一条の二第一項又は第九十五

条第一項の規定による指定を受けた法人に関する規定を準用する。

文化財保護委員会委員

- 委員長 高橋誠一郎
- 委員 矢代 幸雄
- 細川 護立
- 一万田尚登
- 内田 祥三

文化財専門審議会令

(昭和二十五年十月十三日) 政令第三百九号

沿革 昭和二十八年政令第二号 (第一次改正)

昭和二十九年政令第六十三号(第二次改正)

文化財専門審議会令

内閣は、文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十一条第五項の規定に基づき、この政令を制定する。

(所掌事務)

第一条 文化財専門審議会(以下「審議会」という)は、文化財保護委員会(以下「委員会」という)の諮問に応じて、左に掲げる事項を調査審議し、及び文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

- 一 文化財保護法(以下「法」という)第二十一条第二項各号に掲げる事項
- 二 法第二十一条第三項の規定により委員会が重要と認めた事項
- 三 法第十六条第二項に規定する重要美術品等の保存に関する重要事項

(組織)

美術関係法規

第二条 審議会は、専門委員九十人以上で組織する。

2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議会に臨時専門委員を置くことができる。

第三条 専門委員及び臨時専門委員は、半職経験のある者のうちから、委員会が任命する。

第四条 専門委員の任期は、二年とし、その欠員が生じた場合の補欠専門委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時専門委員は、特別の事項の調査審議が終了したときは、退任するものとする。

3 専門委員及び臨時専門委員は、非常勤とする。

第五条 専門委員より会長として互選された者は、審議会の会務を総理する。

2 専門委員により副会長として互選された者は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(分科会)

第六条 審議会に置かれる分科会は、左表上欄に掲げる通りとし、それぞれ同表下欄に掲げる事項を分掌する。

分科会の名称	分掌事項
第一分科会	建造物以外の有形文化財(埋蔵物であるものを除く)に関する事項
第二分科会	建造物である有形文化財(埋蔵物であるものを除く)に関する事項
第三分科会	記念物、民俗資料及び埋蔵文化財に関する事項
第四分科会	無形文化財に関する事項

2 前項の規定中有形文化財その他文化財に関する用語の定義は、法における用語の定義による。

第七条 専門委員及び臨時専門委員は、委員会の指名により、前条の分科会のいずれかに分属するものとする。

第八条 各分科会に属する専門委員により分科会長として互選された者は、各分科会の会務を掌理する。

2 分科会長に事故があるときは、その分科会に属する専門委員のうちから分科会長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。

第九条 審議会は、その定めるところにより、分科会の議決又は二以上の分科会の合同の議決をもつて、審議会の議決とすることができる。

(部会) 第十条 第六条の分科会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき専門委員及び臨時専門委員は、分科会長が指名する。

3 各部会に属する専門委員により部長として互選された者は、各部会の会務を掌理する。

4 分科会は、その定めるところにより、部会の議決又は二以上の部会の合同の議決をもつて、分科会の議決とすることができる。

(議事)

第十一条 審議会は、専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数が出席しなければ、議事を開き議決をすることができない。

2 審議会の議事は、出席した専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3 前二項の規定は、分科会又は部会の議事及び二以上の分科会又は部会の合同の議事に準用する。この場合において、二以上の分科会又は部会の合同の議事を整理する会長には、審議会又はその部会を置いた分科会の定めるところにより、その分科会又は部会の会長のうち一人が当るものとする。

(庶務)

第十二条 審議会の庶務は、委員会事務局において処理する。

(雑則)

第十三条 この政令に定めるもののほか、審議会の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附則

この政令は、公布の日から施行する。

附則(第一次改正の附則) この政令は、公布の日から施行し、第十二条の改正規定は、昭和二十七年八月一日から適用する。

附則(第二次改正の附則) この政令は、昭和二十九年七月一日から施行する。

文化財専門審議会議事規則

(昭和三十年三月十五日總會決定)

第一条 文化財専門審議会令に規定する

もののほか、文化財専門審議会（以下「審議会」という。）の議事の手続その他その運営に関し、必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

2 一の議案につき、二以上の分科会長が、それぞれ当該分科会の議を経て会議の招集を請求したときは、会長は、会議を招集しなければならない。

第三条 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

第四条 会長及び副会長とともに事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。

第五条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第六条 建議案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第七条 修正の動議を提出しようとする者は、案を作り、議長に差し出さなければならない。ただし、軽易な修正については、口頭で述べることができ

る。

第八条 動議は、賛成がなければ、議題とすることができない。

第九条 議事の採決は、起立又は挙手によつてできる。ただし、議決により、記名投票又は無記名投票によつて行うことができる。

第十条 文化財保護委員会の委員及び事務局職員は、会議において、発言をす

ることができ

る。第十一条 第二条第一項、第三条から第五条まで及び第七条から第十条までの規定は、分科会及び部会について準用する。

第十二条 二以上の分科会の合同の議事を整理する会長は、当該二以上の分科会の会長が協議して定める。

第十三条 一の分科会に所属する専門委員は、他の分科会又は他の分科会の部会の会議に出席して意見を述べることが

できる。2 前項の場合には、他の分科会又は他の分科会の部会に出席することについて、当該他の分科会又は他の分科会の部会の会長の承認を得なければならない。

第十四条 審議会に、幹事及び書記を置く。

第十五条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

文化財専門審議会常任委員 会設置規則

（昭和三十年三月十五日
総 会 決 定）

第一条 文化財専門審議会（以下「審議会」という。）に、その能率的かつ一体的運営を期するため、常任委員会を置く。

第二条 常任委員会は、前条の目的を達成するため、左に掲げる事項をつかさ

どる。

一 審議会から附託された事項の調査審議

二 審議会から附託された建議案の作成

三 審議会から審議会に代つて議決することを附託された事項についての議決

四 分科会相互間の連絡調整

第三条 常任委員会は、次に掲げる者をもつて組織する。

- 一 審議会会長
- 二 審議会副会長
- 三 審議会副会長代理
- 四 分科会長
- 五 分科会長代理
- 六 部会長

第四条 常任委員会に会長及び副会長を置き、それぞれ審議会の会長及び副会長がこれに当るものとする。

第五条 分科会長である常任委員会の委員は、分科会の分掌事項に関する調査審議の経過及び結果を常任委員会に報告するものとする。

第六条 文化財保護委員会委員並びに議事に関係のある専門委員及び臨時専門委員並びに事務局職員は、常任委員会において発言をすることができる。

第七条 常任委員会の会長は、第二ダの事項に関する調査審議の経過及び結果を審議会に報告しなければならない。

第八条 文化財専門審議会議事規則第二

条第一項、第三条から第五条まで、第七

条から第九条まで及び第十四条の規

定は、常任委員会について準用する。

第九条 この規則に定めるもののほか、常任委員会の運営に関し必要な事項は、常任委員会の会長が定める。

文化財専門審議会諮問事項 等取扱規則

（昭和三十年三月十五日
総 会 決 定）

第一条 文化財専門審議会（以下「審議会」という。）に対する文化財保護委員会（以下「委員会」という。）の諮問事項及び委員会に対する審議会の建議の取扱については、この規則の定めるところによる。

第二条 審議会に対する委員会の諮問事項で次に掲げるものは、審議会の総会の議決事項とする。

- 一 国宝及び重要文化財の指定基準の制定改廃
- 二 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物の指定基準の制定改廃
- 三 重要民俗資料の指定基準の制定改廃
- 四 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料の選択基準の制定改廃
- 五 重要無形文化財の指定及び保持者の認定の基準の制定改廃
- 六 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財の選択基準の制定改廃
- 七 前各号に掲げる事項のほか、審議会の会長が総会において議決すべき

ものと認める事項

第三条 審議会に対する委員会の諮問事項のうち国宝の指定及びその指定の解除に係るものは、第一分科会及び第二分科会の合同の議決事項とする。ただし、前条第七号の適用がある場合を除く。

2 前項の議決事項が第一分科会及び第二分科会以外の分科会の分掌事項に関連する場合には、審議会の会長が第一分科会会長及び第二分科会会長並びに当該関係分科会会長と協議して指定する以上の分科会の合同の議決事項とする。

第四条 審議会に対する委員会の諮問事項で次に掲げるものは、分科会の分掌事項に於いて、一の分科会の議決事項又は審議会の会長が関係分科会会長と協議して指定する二以上の分科会の合同の議決事項とする。ただし、第二十五号を除く各号に掲げる事項については、第二条第七号の適用がある場合を除く。

一 重要文化財の指定及びその指定の解除
二 重要文化財（国宝を含む。以下同じ。）の管理又は国宝の修理に関する命令
三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行
四 重要文化財の現状変更の許可
五 前号の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

任

六 重要文化財の輸出の許可
七 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

八 重要文化財の買収
九 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除

十 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除
十一 史跡名勝天然記念物（特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。）の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令

十二 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置の施行
十三 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可

十四 前号の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任
十五 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

十六 史跡名勝天然記念物の無断現状変更等の行われた場合の原状回復の命令
十七 重要民俗資料の指定及びその指定の解除

十八 重要民俗資料の管理に関する命令

十九 重要民俗資料の買収

二十 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料の選択
二十一 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

二十二 重要無形文化財の指定及びその指定の解除
二十三 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除

二十四 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財の選択
二十五 前各号に掲げる事項のほか、審議会の会長が分科会において議決すべきものと認める事項

第五条 前二条の議決を行う場合において、分科会は、必要と認めるときは、他の分科会又は他の分科会の部会の意見を求めることができる。

第六条 委員会に対する審議会の建議は、審議会の総会の議決事項とする。

第七条 審議会の総会の議決事項は、関係分科会においてあらかじめ審議するものとする。

第一分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和二十九年十一月十九日 第一分科会 決定)

第一条 第一分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
絵画彫刻部会	絵画又は彫刻である有形文化財に関する事項
工芸品部会	工芸品である有形文化財に関する事項
書跡部会	書跡、典籍又は古文書である有形文化財に関する事項
考古部会	考古資料に関する事項

第二条 左に掲げる第一分科会の議決事項で第一分科会会長が緊急に処理することを要すると認めるもの及び文化財専門審議会の会長が第一分科会において議決すべきものと認めたる事項のうち第一分科会会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に於いて、一の部会の議決事項又は第一分科会会長が部会長と協議して指定する二以上の部会の合同の議決事項とする。

一 重要文化財（国宝を含む。以下同じ。）の管理又は国宝の修理に関する命令

二 重要文化財の輸出の許可
三 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

四 重要文化財の買収
第三条 第一分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

第三分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和二十九年十一月十九日 第三分科会決定)

第一条 第三分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
史跡部会	記念物のうち貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡に関する事項
名勝部会	記念物のうち庭園、橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地に関する事項
天然記念物部会	記念物のうち動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む)、植物(自生地を含む)及び地質鉱物(特異な自然の現象を生じている土地を含む)に関する事項
民俗資料部会	民俗資料に関する事項
埋蔵文化財部会	埋蔵文化財に関する事項

第二条 左に掲げる第三分科会の議決事項で第三分科会長が緊急に処理することを要すると認めるもの及び第三号を

掲げる事項でその程度が軽いもの並びに文化財専門審議会の会長が第三分科会において議決すべきものと認めた事項のうち第三分科会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に依りて、一の部会の議決事項又は第三分科会長が部会長と協議して指定する二以上の部会の合同の議決事項とする。

- 一 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除
 - 二 史跡名勝天然記念物(特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ)の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令
 - 三 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可
 - 四 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
 - 五 史跡名勝天然記念物の無断現状変更等の行われた場合の原状回復の命令
 - 六 重要民俗資料の管理に関する命令
 - 七 重要民俗資料の買取
 - 八 文化財保護委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行
- 第三条 第三分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

第四分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和二十九年十一月十九日 第四分科会決定)

第一条 第四分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
芸能部会	無形文化財のうち音楽、舞踊、演劇その他の芸能に関する事項
工芸技術部会	無形文化財のうち陶芸、染織、漆芸、金工その他の工芸技術及び有形文化財の修理、模写、模造等の技術、規矩術等の建築術その他美術に関する技術に関する事項

第二条 文化財専門審議会の会長が第四分科会において議決すべきものと認められた事項のうち第四分科会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に依りて、部会の議決事項とする。

第三条 第四分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

文化財専門審議会委員名簿

- 会長 藤懸 静也
副会長 原田 淑人
副会長代理 小宮 豊隆
- 第一分科会
分科会長 和辻 哲郎
分科会長代理 藤田 亮策
(臨) 瓜生 順良
- 絵画彫刻部会
部会長 米沢 嘉圃

部会長代理

- (兼) 田中 一松
(兼) 相見 香雨
(兼) 福井利吉郎
(兼) 藤懸 静也
(兼) 安田新三郎
(兼) 和辻 哲郎
(兼) 神田喜一郎
(兼) 田中 親美
(兼) 田中 親美

工芸品部会
部会長
部会長代理

- 松田 権六
田沢 坦
明石 国助
海野 清
尾崎 洵盛
太田 英蔵
河瀬虎三郎
香取 正彦
末永 雅雄
宮形 武次
溝口 三郎
三矢 富松
吉野 富雄
石田 茂作
後藤 守一
水町和三郎

書跡部会

部会長
部会長代理

- 尾上 八郎
石田幹之助
岩橋小彌太
神田喜一郎
武内 義雄

- 五 美術工芸課
- 六 建造物課
- 七 無形文化課

(庶務課)

第五十条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 文化財保護委員会(以下「委員会」という。)の機密に関すること。
- 二 委員会の公印を制定し、並びに委員長、事務局長及び次長の官印及び委員会印を管守すること。
- 三 委員会の組織及び定員に関すること。
- 四 委員会の職員の職階、任免、給与、分限、懲戒、服務その他の人事並びに教養及び訓練に関すること。
- 五 委員会に関する栄典及び表彰に関すること。
- 六 委員会の所管行政について総合調整を行うこと。
- 七 委員会の所掌事務に関する法令案を作成すること。
- 八 公文書類を審査し、接受し、発送し、編集し、及び保存すること。
- 九 委員会の所掌事務の監察に関すること。
- 十 委員会の政策の普及並びに文化財に関する知識の普及及び理解の徹底その他広報に関すること。
- 十一 委員会の所掌事務に関する会議、研究会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。
- 十二 文化財の保存又は活用に関する条約その他の国際約束の実施及び文化財の保存又は活用のための国際的諸活動に関すること。
- 十三 地方公共団体の行う文化財の保存及び活用のための措置に関し、教育委員会の報告を受け、及びこれに對し指導と助言を与えること。
- 十四 都道府県の教育委員会その他の関係機関に對し、委員会の所掌事務に関する一般的、共通的事項について連絡し、及び助言すること。
- 十五 委員会の所掌事務に関する民法(明治二十九年法律第八十九号)第三十四條に規定する法人に関する事務を処理すること。
- 十六 委員会に對する異議の申立及び委員会の行方職聞に関する事務を処理すること。
- 十七 委員会の所掌事務に関する事項の官報掲載に関すること。
- 十八 委員会及び文化財専門審議會の會議その他庶務に関すること。
- 十九 国立博物館及び国立文化財研究所に関する事務を処理すること。
- 二十 委員会の所掌事務で他の所掌に属しない事務を処理すること。

(管理課)

第五十一条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 重要文化財(国宝を含む。以下第五十四條第一号及び第五十五條第一号の場合を除き同様とする。)についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に関すること。
- 二 重要無形文化財についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに重要無形文化財以外の無形文化財についての国庫補助に関すること。
- 三 重要民俗資料についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに無形の民俗資料についての国庫補助に関すること。
- 四 史跡名勝天然記念物(特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。)についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に関すること。
- 五 重要文化財及び重要民俗資料の出品に對する給与金に関すること。
- 六 重要文化財及び重要民俗資料の買取に関すること。
- 七 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に係る損害補償に関すること。
- 八 埋蔵文化財の発見に對する報償金に関すること。
- 九 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理すべき地方公共団体その他の法人の指定及びその解除に関すること。
- 十 委員会の権限の委任に関する事務を処理すること。
- 十一 文化財の保存及び活用に関する一般的統計調査に関すること。
- 十二 文化財に関する調査研究の委託に関すること。

(会計課)

第五十二条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 委員会の経費及び収入の予算、決算及び会計並びに会計の監査に関すること。
- 二 行政財産及び物品の管理に関すること。
- 三 国の所有又は占有に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理について連絡調整すること。
- 四 委員会の管理する事務所等の營繕に関すること。
- 五 委員会の職員の衛生、医療その他の福利厚生に関すること。
- 六 委員会の職員の共済組合に関すること。
- 七 委員会の職員に貸与する国設宿舍に関する事務を処理すること。
- 八 庁内の取締に関すること。
- 九 委員会の所掌事務に関する物資の割当及びあつ旋その他物資の確保についての総括に関すること。

(記念物課)

第五十三条 記念物課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 重要民俗資料、史跡、名勝、天然記念物、特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物の指定及びその解除に関すること。
- 二 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に関すること。
- 三 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は修理若しくは復旧についての命令、勧告、指示及び指揮

算及び会計並びに会計の監査に関すること。

監督に關すること。但し、建造物課の所掌に屬するものを除く。

四 特別史跡名勝天然記念物の復旧及び滅失、き損、盗難又は喪亡の防止の措置の施行に關すること。

五 重要民俗資料の現状変更及び輸出についての届出に關すること。

六 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可及び史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に關すること。

七 史跡名勝天然記念物についての原状回復の命令に關すること。

八 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物についての調査並びに史跡名勝天然記念物の調査のために必要な措置の施行に關すること。

九 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は復旧についての届出に關すること。

十 重要民俗資料の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び届出に關すること。

十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた重要民俗資料の管理又は修理に關すること。

十二 管理又は復旧の委託を受けた史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に關すること。

十三 無形の民俗資料の記録の作成等の実施に關すること。

十四 遺跡発見の届出に關すること。

十五 埋蔵文化財に係る土地の発掘に關する届出、指示及び命令に關する

こと。

十六 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に關すること。

十七 埋蔵物として委員会に提出された物件の鑑査に關すること。

十八 埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの譲与及び譲渡に關すること。

十九 国の所有又は占有に屬する重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物並びに埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの管理、修理及び復旧に關すること。

二十 重要民俗資料、選択された無形の民俗資料及び史跡名勝天然記念物に關する台帳の整備に關すること。

二十一 民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

二十二 有形の民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に關する記録、写真、複写及び複製に關すること。

(美術工芸課)

第五十四条 美術工芸課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物以外の有形文化財(以下「美術工芸品」という。)としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 美術品若しくは骨とう品として価値のある火なわ銃式火器又は美術品として価値のある刀剣類の登録に關すること。

三 美術工芸品である重要文化財の管

理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること。但し、建造物課の所掌に屬するものを除く。

四 美術工芸品である国宝の修理及び滅失、き損又は盗難の防止の措置の施行に關すること。

五 美術工芸品である重要文化財の出品又は公開についての、命令、勧告、承認及び許可に關すること。

六 美術工芸品である重要文化財の現状変更及び輸出等の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に關すること。

七 美術工芸品である重要文化財についての調査に關すること。

八 重要文化財の輸出の禁止の確保に關すること。

九 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての届出に關すること。

十 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十一 国の所有又は占有に屬する美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十二 美術工芸品に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十三 美術工芸品である重要文化財の管理及び修理に必要な資料を刊行すること。

十四 美術工芸品に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十五 文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第一百六条の規定によりなおその効力を有する旧重要美術品等の保存に關する法律(昭和八年法律第四十三号。以下「旧法」という。)の施行に關する事務のうち美術工芸品に關するものを処理すること。

十六 美術工芸品である重要文化財の管理のための防火施設その他の保存施設に關し、建造物課に対し勧告すること。

(建造物課)

第五十五条 建造物課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 建造物である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること。

三 建造物である国宝の修理及び滅失、き損又は盗難の防止の措置の施行に關すること。

四 建造物である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に關すること。

五 建造物である重要文化財の現状変更及び輸出の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に關すること。

六 重要文化財・重要民俗資料又は史

跡名勝天然記念物の管理のための防火施設その他の保存施設に関する命令、勅告、指示及び指揮監督並に文化財の防火施設その他の保存施設に関する専門的、技術的な指導と助言に関すること。

七 建造物である重要文化財についての調査に関すること。

八 建造物である重要文化財の管理又は修理についての届出に関すること。

九 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた建造物である重要文化財の管理又は修理に関すること。

十 国の所有又は占有に属する建造物である重要文化財の管理又は修理に関すること。

十一 建造物である重要文化財に関する台帳の整備に関すること。

十二 建造物に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十三 建造物に関する記録、写真及び複製に関すること。

十四 旧法の施行に関する事務のうち建造物に関するものを処理すること。

(無形文化財)

第五十六条 無形文化財においては、左の事務をつかさどる。

一 重要無形文化財の指定及びその解除に関すること。

二 重要無形文化財の保持者の認定及びその解除に関すること。

三 重要無形文化財以外の無形文化財

のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に関すること。

四 重要無形文化財の保持者に関する届出に関すること。

五 重要無形文化財についての記録の作成、伝承者の養成その他その保存のための措置の実施に関すること。

六 重要無形文化財の公開及び重要無形文化財の記録の公開についての勸告及び承認に関すること。

七 重要無形文化財の保存に関し、助言と勸告を与えること。

八 無形文化財の記録の作成等の実施に関すること。

九 文化財の修理技術者の養成に関すること。

十 重要無形文化財及び選択された無形文化財に関する台帳の整備に関すること。

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 略

附則

この政令は、昭和二十九年七月一日から施行する。

文化財保護委員会事務局

局長 岡田 孝平

次長 清水 康平

庶務課長 安達 健二

管理課長 武井 貞賢

会計課長 細川 可賀

記念物課長 平間 修

美術工芸課長 木間 順治
建造物課長 関野 克
無形文化財課長 佐藤 薫

東京国立博物館組織規程

(昭和二十六年一月三十一日)
文化財保護委員会規則第四号)

沿革 昭和二十七年文化財保護委員会規則第三号(第一次改正)
昭和二十七年文化財保護委員会規則第九号(第二次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四号)第二十二條第四項の規定に基づき、東京国立博物館組織規程を次のように定める。

東京国立博物館組織規程

(東京国立博物館の組織)

第一条 東京国立博物館(以下「東京博物館」という。)の所掌事務を分掌せしめるため、左の二部を置く。

庶務部

学芸部

(庶務部の分課)

第二条 庶務部に左の三課を置く。

管理課

会計課

普及課

(管理課の所掌事務)

第三条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に関すること。

二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における、職員的人事に関すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。

四 公印を管掌すること。

五 東京国立博物館評議員会に関すること。

六 警備に関すること。

七 翻訳、通訳その他渉外に関すること。

八 他部課の所掌に属さない事務を処理すること。

九 東京博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(会計課の所掌事務)

第四条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

一 予算案の準備等予算に関すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に関すること。

三 行政財産及び物品の管理に関すること。

四 営繕に関すること。

五 職員福利厚生に関すること。

(普及課の所掌事務)

第五条 普及課においては、左の事務をつかさどる。

一 この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及に関すること。

二 外国人に対しこの館の事業に関する美術及び歴史資料を解説すること。

と。
三 この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布に關すること。
四 その他この館の事業の普及宣伝に關すること。

2 普及課が前項各号の事務を行うに當つては、学芸部各課の助言を得、又は学芸部各課と連絡して処理するものとする。

(学芸部の分課)
第六条 学芸部に左の四課を置く。
美術課
工藝課
考古課
資料課

(美術課の四室及び所掌事務)
第七條 美術課に、美術課の所掌事務を分掌せしめるため、絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室を置く。

2 絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室は、それぞれ絵画、彫刻、書跡及び建築に關する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に關する事務をつかさどる。

(工藝課の五室及び所掌事務)
第八條 工藝課に、工藝課の所掌事務を分掌せしめるため、金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室を置く。

2 金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室は、それぞれ金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に關する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、

模写、模造、調査研究及び解説に關する事務をつかさどる。
(考古課の四室及び所掌事務)
第九條 考古課に、考古課の所掌事務を分掌せしめるため、先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室を置く。

2 先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室は、それぞれ先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に關する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に關する事務をつかさどる。

(資料課の五室及び所掌事務)
第十條 資料課に、資料課の所掌事務を分掌せしめるため、庶務室、資料室、図書室及び写真室の四室を置く。

2 庶務室は、学芸部の一般庶務をつかさどる。
3 資料室は、図書以外の資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に關する事務をつかさどる。

4 図書室は、図書の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に關する事務をつかさどる。
5 写真室は、写真の作成、収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に關する事務をつかさどる。

6 資料課がその所掌事務を行うに當つては、学芸部各課と連絡して処理するものとする。

第十一條 東京博物館に館長及び次長を置く。
2 館長は、館務を総理する。
3 次長は、館長を助けて館務を処理す

る。
(東京国立博物館評議員会)
第十二條 東京博物館に東京国立博物館評議員会(以下「評議員会」といふ)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に應じて、東京博物館の重要事項について調査審議するのほか、東京博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、二十人以内の評議員で組織する。
4 評議員は、学識経験のあるものから、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。
6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に關し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十五年八月二十九日から適用する。

附則(第一次改正の附則)
この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附則(第二次改正の附則)

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

京都国立博物館組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)
文化財保護委員会規則第三号)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十二條第四項の規定に基

き、京都国立博物館組織規程を次のように定める。

京都国立博物館組織規程

(京都国立博物館の組織)

第一條 京都国立博物館(以下「京都博物館」といふ)の所掌事務を分掌させるため、左の二課を置く。

管理課
学芸課

(管理課の所掌事務)

第二條 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に關すること。
二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に關すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に關すること。
四 公印を管守すること。

五 京都国立博物館評議員会に關すること。
六 翻訳、その他渉外に關すること。

七 予算案の準備等予算に關すること。
八 経費及び収入の決算その他會計に關すること。

九 行政財産及び物品の管理に關すること。
十 營繕に關すること。

十一 職員福利厚生に關すること。
十二 警備に關すること。

十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。

十四 京都博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、所掌事務を分掌させるため、左の五室を置く。

普及室

美術室

工芸室

考古室

資料室

2 普及室においては、この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布、この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及その他この館の事業の普及宣伝に関する事務をつかさどる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の作成並びに図書、写真その他資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する

事務をつかさどる。

(館長及び次長)

第四条 京都博物館に館長及び次長を置く。

2 館長は、館務を総理する。

3 次長は、館長を助けて館務を処理する。

(京都国立博物館評議員会)

第五条 京都博物館に京都国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、京都博物館の重要事項について調査審議するのほか、京都博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以上の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものうちから、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

奈良国立博物館組織規程

(昭和二十七年八月十四日)
文化財保護委員会規則第八号)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百一十四号)第二十二條第四項の規定に基

き、奈良国立博物館組織規程を次のように定める。

奈良国立博物館組織規程

(奈良国立博物館の組織)

第一条 奈良国立博物館(以下「奈良博物館」という。)の所掌事務を分掌させるため、左の二課を置く。

管理課

学芸課

(管理課の所掌事務)

第二条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に関すること。

二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。

四 公印を管掌すること。

五 奈良国立博物館評議員会に関すること。

六 内外文化の交流その他国際文化に関すること。

七 予算案の準備等予算に関すること。

八 経費及び収入の決算その他会計に関すること。

九 行政財産及び物品の管理に関すること。

十 営繕に関すること。

十一 職員福利厚生に関すること。

十二 警備に関すること。

十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。

十四 奈良博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、学芸課の所掌事務を分掌させるため、左の五室を置く。

普及室

美術室

工芸室

考古室

資料室

2 普及室においては、この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布、この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及その他この館の事業の普及宣伝に関する事務をつかさどる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の複製並びに図書、写真その他資料の収集、整理、

保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

(館長及び次長)

第四条 奈良博物館に館長を置く。館長は、館務を総理する。

2 奈良博物館に次長を置くことができる。次長は、館長を助けて館務を処理する。

(奈良国立博物館評議員会)

第五條 奈良博物館に奈良国立博物館評議員会(以下「評議員会」という)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に依りて、奈良博物館の重要事項について調査審議するのほか、奈良博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以上の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものの中から、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるものほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

東京国立文化財研究所組織規程

規程

(昭和二十七年三月二十五日)
文化財保護委員会規則第四号

美術関係法規

沿革

昭和二十九年六月二十九日
文化財保護委員会規則第一号(第一次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十三條第四項の規定に基づき、東京国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

東京国立文化財研究所組織規程

第一章

(東京国立文化財研究所の組織)

第一條 東京国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の三部及び一室を置く。

美術部

芸能部

保存科学部

庶務室

(美術部の三室及び所掌事務)

第二條 美術部に、美術部の所掌事務を分掌させるため、第一研究室、第二研究室及び資料室の三室を置く。

2 第一研究室においては、わが国の近代、中世及び近世の美術並びに東洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 第二研究室においては、わが国の近代及び現代の美術並びに西洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務のほか、黒田記念室に関する事務をつかさどる。

4 資料室においては、美術研究資料の作成、収集、整理、保管、公表及び閲覧並びに美術研究資料に関する写真の

作成及びその原板の保管並びにエックス線写真、赤外線写真、紫外線写真その他の特殊写真による美術の研究に関する事務をつかさどる。

(芸能部の三室及び所掌事務)

第三條 芸能部に、芸能部の所掌事務を分掌させるため、演劇研究室、音楽舞踊研究室及び郷土芸能研究室の三室を置く。

2 演劇研究室においては、演劇及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 音楽舞踊研究室においては、音楽及び舞踊並びにその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 郷土芸能研究室においては、郷土芸能及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

(保存科学部の三室及び所掌事務)

第四條 保存科学部に、保存科学部の所掌事務を分掌させるため、化学研究室、物理研究室及び生物研究室の三室を置く。

2 化学研究室においては、文化財及びその保存に関する化学的及び分析的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 物理研究室においては、文化財及びその保存に関する物理学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 生物研究室においては、文化財及びその保存に関する生物学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

その保存に関する生物学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第五條 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

二 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

三 経費及び収入の予算、決算その他会計に関すること。

四 行政財産及び物品の管理に関すること。

五 職員福利厚生に関すること。

附則

1 この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

2 美術研究所組織規程(昭和二十六年文化財保護委員会規則第五号)は、廃止する。

附則

この規則は、昭和二十九年七月一日から施行する。

奈良国立文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)
文化財保護委員会規則第五号

沿革 昭和二十九年六月二十九日

文化財保護委員会規則第一号(第一次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十三條第四項の規定に基

き、奈良国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

奈良国立文化財研究所組織規程

(奈良国立文化財研究所の組織)

第一条 奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の四室を置く。

美術工芸研究室

建造物研究室

歴史研究室

庶務室

(美術工芸研究室の所掌事務)

第二条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究並びにその普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(建造物研究室の所掌事務)

第三条 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(歴史研究室の所掌事務)

第四条 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

- 一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。
- 二 公文書類の接受及び公印の管守を

の他事務に関すること。

三 経費及び収入の予算、決算その他会計に関すること。

四 行政財産及び物品の管理に関すること。

五 職員福利厚生に関すること。

附則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附則

この規則は、昭和二十九年七月一日から施行する。

文部省社会教育局芸術課

文部省組織規定(省令)抜萃

第二十五条 社会教育局に左の六課を置く。

社会教育課

社会教育施設課

体育課

芸術課

視聴覚教育課

著作権課

(芸術課)

第二十九条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 文学、音楽、美術、演劇その他の芸術及び国民娯楽に関し、左に掲げる事務を行うこと。
- イ 情報、資料の収集及び利用に関すること。
- ロ 研究会、講習会、展示会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。

ハ 向上及び普及のための援助と助言に関すること。

二 国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に關しない事務を処理すること。

三 芸術に関する団体との連絡に関すること。

国立近代美術館

国立近代美術館関係
文部省設置法抜萃

文部省設置法(抄)

昭和二十四年五月三十一日
法律 第一四六号

第二章 本省

第一節 内部部局

第十条 社会教育局においては、左の事務をつかさどる。

- 一 国立科学博物館、国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に關しない事務を行うこと。

(以下省略)

第二節 国立の学校その他の機関

(国立の学校等)

- 第十四条 第二十六条(中央教育審議会)及び第二十七条(審議会等)に規定するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。
- 日本ユネスコ国内委員会
- 国立教育研究所
- 国立科学博物館

国立近代美術館
緯度観測所

統計数理研究所

国立遺伝学研究所

国立国語研究所

日本芸術院

(評議員会)

第十五条 前条の機関のうち、国立教育研究所、国立科学博物館、国立近代美術館、統計数理研究所及び国立遺伝学研究所にそれぞれ評議員会を置く。

- 2 評議員会は、それぞれの機関の事業計画、経費の見積、人事その他の運営管理に關する重要事項について、それぞれの機関の長に助言する。
- 3 それぞれの機関の長は、評議員会の推薦により、文部大臣が任命する。
- 4 評議員会は、二十人以内の評議員で組織する。
- 5 評議員は、学識経験のある者のうちから、文部大臣が任命する。
- 6 評議員の推薦、任期その他評議員会の組織及び運営の細目については、政令で定める。

(国立近代美術館)

第二十条 国立近代美術館は、近代美術に關する作品その他の資料を収集、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに關連する調査研究及び事業を行う機関とする。

2 国立近代美術館は、東京都に置く。

3 国立近代美術館の内部組織は、文部省令で定める。

附則

1 この法律は、昭和二十四年六月一日から施行する。

(以下省略)

附則(昭和二十七年六月) 法律第六十八号

この法律は、公布の日から施行する。

(後略)

附則(昭和二十七年七月) 法律第二百七十一号

1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。

(以下省略)

文部省設置法施行規則(抄)

(昭和二十八年一月十三日) 文部省令第二号

第三章 所轄機関

第四節 国立近代美術館

(館長及び次長)

第四十五条 国立近代美術館に館長及び次長を置く。

一 館長は、館務を掌理する。

二 次長は館長を助け、館務を整理する。

(内部組織)

第四十六条 国立近代美術館に左の二課を置く。

一 庶務課

二 事業課

(庶務課)

第四十七条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

一 職員的人事に関する事務を処理すること。

二 職員の衛生、医療及び福利厚生に関すること。

美術関係法規

関する事務を処理すること。

三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。

四 公印を管掌すること。

五 国立近代美術館の所掌事務に関し、連絡調整すること。

六 国立近代美術館評議員会に関すること。

七 予算に関する事務を処理すること。

八 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。

九 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

十 展示品の保全の爲の警備に関すること。

十一 庁内の取締に関すること。

十二 前各号に掲げるものの外、他の所掌に属しない事務を処理すること。

(事業課)

第四十八条 事業課においては、左の事務をつかさどる。

一 近代美術に関する作品その他の資料を収集し、保管し、展示し、解説し、及び修理すること。

二 前号に掲げる資料を館外で展示すること。

三 近代美術に関し、専門的な調査研究を行うこと。

四 近代美術に関する出版物等を作成し、及びこれらを刊行、頒布する等利用に供すること。

五 近代美術に関する展覧会、講演会、講習会、映画会、研究会等の催しを企画し、及び実施すること。

六 第一号に掲げる資料の利用に関し、内外の美術館、博物館、その他関係団体等と連絡協力して、刊行物、情報の交換等の相互援助を行うこと。

附則

1 この省令は、公布の日から施行し、昭和二十八年一月一日から適用する。

2 左に掲げる省令は、廃止する。

(前略)

六 国立近代美術館組織規程(昭和二十七年文部省令第二十一号)

(後略)

文部省組織令(抄)

(昭和二十七年八月三十日) 政令第三百八十七号

第一章 本省の内部部局

第四節 社会教育局

(芸術課)

第二十七条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

(省略)

二 国立近代美術館及び日本芸術院に

関し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を処理すること。

(省略)

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 (省略)

文部省所轄機関評議員会令(抄)

(昭和二十四年七月十八日) 政令第二百七十四号

(昭和二十七年六月六日) 政令第一七五号改正

第三章 国立近代美術館評議員会(所掌事務)

第十二条 国立近代美術館に置かれる評議員会(以下「国立近代美術館評議員会」という)は、左に掲げる事項に関する。

一 国立近代美術館の行い毎年の事業の計画

二 国立近代美術館の行い事業の経費その他国立近代美術館の運営に必要な経費の見積

三 国立近代美術館の人事その他の運営管理に関する重要事項

(組織)

第十三条 国立近代美術館評議員会は、評議員二十人以上以内で組織する。

(準用規定)

第十四条 第一条第二項から第四項まで、第二条第二項及び第三条から第九条までの規定は、国立近代美術館評議員会に準用する。

附則

1 この政令は、公布の日から施行する。

2 この政令施行の際、現に各評議員会の評議員の職にある者は、改正後の文部省所轄機関評議員会令(以下「評議員会令」という)第三条第一項の規定に

二五九

第四條 国立近代美術館長に対する助言の案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第五條 勸諭は、賛成者がなければ、議題とすることができない。

第六條 議事の採決は、起立又は挙手によつて行ふ。但し議決により、記名投票又は無記名投票によつて行ふことができる。

第七條 評議員会に、幹事及び書記を置くことができる。

第八條 この規則に定めるものの外、評議員会の運営に關し必要な事項は、評議員会の承認を経て、会長が定める。

附則 この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年九月一日から適用する。

国立近代美術館運営委員会規程

（運営委員会）
第一條 国立近代美術館（以下「館」といふ。）の事業運営等について協議するため、館に運営委員会を置く。

第二條 運営委員会の議事を掌理するため、運営委員会に議長を置く。

第三條 議長は、館長をもつてあつて、館長の職務を代理する。

（その他）
第七條 前各条に規定する事項の外、運営委員会について必要な事項は、館長が運営委員会と協議して定める。

附則 この規程は、昭和二十七年九月一日から適用する。

日本芸術院

明治四十年勸令第二百二十号をもつて美術審査委員会官制が制定され、これに基づき毎年文部省美術展覧会を開催し、美術審査委員会は美術展覧会の出品を審議した。大正八年に本官制が廃止され、新たに勸令第四百十七号をもつて帝國美術院規定が制定された。帝國美術院は文部大臣の管理に屬し美術の發達を裨補することを目的とし、文部大臣の諮詢に應じ、美術に關する意見を開申し、その他美術に關する重要事項を建議する機關であつた。

昭和十年勸令第四百十七号をもつて帝國美術院官制が新たに制定され、帝國美術院規定は廢止された。

昭和十二年勸令第二百八十号をもつて帝國芸術院官制が新たに制定され、美術部門の他に文学及び音楽の兩部門が加えられ、同時に帝國美術院官制を廢止された。

昭和二十二年政令第二百五十四号をもつて帝國芸術院は日本芸術院と名称が変更され、昭和二十四年六月一日政令第二百八十一号をもつて日本芸術院令が制定せられ、日本芸術院官制は廢止されて今日に至つてゐる。

（文部省設置法抜萃）
第二節 国立の学校その他の機關

第十四條 第二十六條及び第二十七條に規程するものほか、文部大臣の所轄

かかわらず、残任期間の短い者にあつてはその任期の終るまで、残任期間の長い者にあつては、残任期間の短い評議員の任期の終つた日の翌日から起算して一年間在任するものとする。

3 この政令施行の後最初に任命される国立近代美術館評議員会の評議員のうち、半数の者の任期は、評議員会令第十四條において準用する同令第三條第一項の規定にかかわらず、一年とする。

4 前項の評議員のうち、任期を一年とする評議員は、くじで定める。

5 この政令施行後最初の国立近代美術館評議員会の会議は、評議員会令第十四條において準用する同令第五條の規定にかかわらず、文部大臣が招集する。

国立近代美術館評議員会運営規則

（昭和二十八年三月二十四日）
国立近代美術館評議員会決定

第一條 文部省所轄機関評議員会令（昭和二十四年七月十八日政令第二百七十四号）に規定するものの外、国立近代美術館評議員会（以下「評議員会」といふ。）の議事その他運営に關し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二條 会長は、會議の会長となり、議事を整理する。

第三條 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

（運営委員）
第三條 運営委員会に運営委員十五人以上を置く。

2 運営委員は、学識経験ある者のうちから館長が委嘱する。

3 館長は、特に必要と認めるときは、臨時に運営委員を委嘱することができる。

4 次長は、運営委員会に出席して、議事に参加することができる。

（分科会）
第四條 運営委員会は、館の事業運営上、特に必要と認めるときは、運営委員会の下に、分科会を設けることができる。

2 分科会の委員は、運営委員のうちから館長が委嘱する。

3 次長は、分科会の議長となる。

4 次長に事故があるときは、事業課長が議長の職務を代理する。

（資料の提出及び説明）
第五條 運営委員会及び分科会は、議事の必要により、館職員に資料の提出及び説明を求めることができる。

第六條 運営委員会の庶務は、館が掌る。

（その他）
第七條 前各条に規定する事項の外、運営委員会について必要な事項は、館長が運営委員会と協議して定める。

附則 この規程は、昭和二十七年九月一日から適用する。

の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会

国立科学博物館

国立近代美術館

緯度観測所

統計数理研究所

国立遺伝学研究所

国立国語研究所

日本芸術院

(日本芸術院)

第二十五条 日本芸術院は、芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するために置かれる機関とする。

2 日本芸術院会員には、予算の範囲内で、文部大臣の定めるところにより、年金を支給することができる。

3 日本芸術院の内部組織、会員その他の職員及び運営については、政令で定める。

附則

1 この法律は、昭和二十四年六月一日から施行する。

2 左の勅令及び政令は廃止する。但し、法律(これに基く命令を含む。)に別段の定がある場合を除くほか、従前の機関及び職員は、この法律に基く相当の機関及び職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

文部省官制(昭和十七年勅令第七百四十八号)

日本芸術院官制(昭和十二年勅令第二百八十号)

美術関係法規

日本芸術院令

(昭和二十四年六月一日) 政令第二八一号

内閣は、文部省設置法(昭和二十四年法律第四百十六号)第二十三条第三項の規定に基き、この政令を制定する。

(日本芸術院の目的)

第一条 日本芸術院は、芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するための榮譽機関とする。

2 日本芸術院は、芸術に関する重要事項を審議し、芸術の発達に寄与する活動を行い、及び芸術に関する重要事項について文部大臣に建議することができる。

(組織)

第二条 日本芸術院は、院長一人及び会員百人以内で組織する。

2 日本芸術院に左の三部を置く

第一部 美術

第二部 文芸

第三部 音楽、演劇、舞踊

3 会員は、いずれかの部に分属する。第三条 会員は、部会が推薦し、総会の承認を経た候補者につき、院長の申出により、文部大臣が任命する。

2 前項の部会の推薦する者は、部会において芸術上の功績顕著な芸術家につき選挙を行い、部会員の過半数の投票を得た者とする。

3 前項の投票において、病氣その他の事故のため出席できない者は、郵便その他の方法により投票することができる。

る。

第四条 会員は、終身とする。但し、会員が、退任を申し出た場合には、総会の承認を経てこれを認めることができる。

第五条 院長は、芸術に關し卓越した識見を有する者につき、会員の選挙により過半数の投票を得た者を、文部大臣が任命する。

2 前項の場合において、過半数の得票者のないときは投票の最多数を得た者一人につき、更に会員が投票を行い、多数の得票を得た者をもつて当選者とする。但し、得票数が同数のときは、年長者をもつて当選者とする。

3 第三条第三項の規定は、前一項の選挙に準用する。

4 院長の任期は、三年とする。

5 院長は、非常勤とする。

6 院長は、院務を総理する。

7 院長に事故があるときは、部長のうち最年長者が、その職務を代理する。

第六条 各部に属する会員により部長として互選された者は、各部の部務を掌理する。

2 部長は、三年ごとに改選する。

(会議)

第七條 日本芸術院の会議は、総会、部会及び連合部会とする。

2 総会は、年一回、院長が招集する。

但し、必要があるときは、臨時にこれを招集することができる。

3 部会は、部長が招集する。

4 連合部会は、關係する部の部長の申

出により、院長が招集する。

5 総会は、会員の過半数が出席しなければ、議決をすることができない。但し、あらかじめ通知した議題について、書面をもつて意思を表示した者は、その議題に限り、出席したものと認めることができる。

6 総会の議決は、出席した会員の多数による。

7 前一項の規定は、部会及び連合部会の會議に準用する。

(職員)

第八條 日本芸術院に事務長一人及びその他の職員五人以内を置く。

2 事務長は、院長の指揮をうけ、日本芸術院に關する庶務を整理し、その他の職員は、上司の指揮をうけ、庶務に従事する。

(雜則)

第九條 この政令の定めるもののほか、日本芸術院の運営に關し必要な事項は、総会の議を経て院長が定める。

附則

この政令は、公布の日から施行し、昭和二十四年六月一日から適用する。

日本芸術院會則

(昭和二十五年五月三十日) 總會議決

第一条 日本芸術院各部の定員は、左に掲げる通りとする。

第一部 美術 五十名以内

第二部 文芸 三十名以内

第三部 音楽、演劇、舞踊 二十名以内

第二条 各部に左の分科を置く。

第一部 美術

第一分科 日本画

第二分科 洋画

第三分科 彫塑

第四分科 工芸

第五分科 書

第六分科 建築

第二部 文芸

第七分科 小説、戯曲

第八分科 詩歌

第九分科 評論、翻訳

第三部 音楽、演劇、舞踊

第十分科 洋楽

第十一分科 邦楽（能楽及び雅楽を含む）

第十二分科 演劇（人形劇及び映画を含む）

第十三分科 舞踊（洋舞及び邦舞を含む）

第三条 日本芸術院会員の候補者を選考するため、日本芸術院に日本芸術院会
員選考委員会を置く。

2 前項の委員会については、日本芸術
院会員選考委員会規則の定めるところ
による。

第四条 日本芸術院は卓越した芸術作品
と認められるものを製作した者及び芸
術の進歩に貢献する顕著な業績ありと
認める者に対して賞を授ける。

2 前項の授賞については、日本芸術院
授賞規則の定めるところによる。

第五条 院長は、総会及び連合部会の議
長となり議事を整理する。

2 部長は、部会の議長となり、議事を
整理する。

3 総会、部会又は連合部会の議事が、
可否同数のときは、議長の決するこ
ろによる。

第六条 一の部において、その部に属す
る会員の三分の一以上の請求がある
ときは、その部の部長は部会を招集しな
ければならない。

2 二の部において、それらの部に属す
る会員の各三分の一以上の請求がある
ときは、院長は、連合部会を招集しな
ければならない。

第七条 部会または連合部会の議長は、
必要があると認めるときは、他の部に
属する会員中適当な者を指名して部会
または連合部会に出席を求め、その意
見を求めることができる。

第八条 会議を公開するか否かは、その
都度これを定める。

第九条 この会則の改正は、総会の議決
がなければ行ふことができない。

日本芸術院会員選考委員会規則

昭和二十五年五月三十日 議決
昭和二十八年五月二十六日 改正
昭和二十九年五月二十一日 改正

補者選考委員会（以下「委員会」といふ）
を置く。

第二条 委員会は、三十人以内の委員を
もつて組織し、委員の任期は一年とす
る。但し、再選を妨げない。

2 委員に欠員を生じたときは、各部に
おいて予め定めた順位に従い委員を補
充する。

3 補充委員の任期は、前任者の残任期
間とする。

4 委員会に美術、文芸及び芸能の三選
考部会を置く。

第三条 日本芸術院の各部会員はその互
選により、各々十人以内の委員を選出
する。

第四条 日本芸術院長は、委員会の委員
長として、その会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、出席委
員により、代理委員長として互選され
たものが、委員長の職務を代理する。

第五条 委員会は、委員の過半数が出席
しなければ議事を聞き、議決すること
ができない。但し、委員はやむを得な
い事情があるときは、自己の属する部
会の他の委員に、議決権を委任するこ
とができる。

2 前項の規定は、部会の議事に準用す
る。

第六条 日本芸術院会員は、その所属す
る部会に属すべき候補者を当該選考部
会に対し推薦することができる。

第七条 選考部会は、推薦された候補者
につき、選考に必要な調査をしなけれ
ばならない。

2 選考部会は、推薦者及び被推薦者に
対し、選考に必要な資料の提出を求め
ることができる。

3 選考部会は、日本芸術院会員、会員
以外の学識経験者等適當なる者から、
候補者の選考に関し、意見を聴取する
ことができる。

第八条 各選考部会は、被推薦者につき、
その調査にもとづく調査書を作成し、
順位を附して委員会に報告しなければ
ならない。

2 委員会は、選考部会の報告にもとづ
き、候補者に推薦された者について、
補充すべき会員数だけの無記名連記投
票を行ふ。

3 前項の場合各部の投票数は同数とな
るよう取り計い、また候補者が属すべ
き部会の委員の投票は二倍に計算する
ものとする。

第九条 委員会は、前条の選挙により、
出席委員の過半数の得票を得た者を当
選者とする。但し、過半数の得票者が
各部につき、その部にて補充すべき会
員数の二倍をこえるときは、その限度
に達するまで、得票順によつて候補者
を決定する。各部につき、過半数の得
票者のない場合は、最高点者と次点者
につき、決戦投票を行ひ、過半数を得
た者を当選者とする。

第十条 委員会は、候補者を決定した後
選考部会の報告にもとづいて審査報告
書を作成しなければならない。

2 前項の報告書には各被推薦者につい
て、選考部会の決定した順位及び委員

長となり議事を整理する。

2 部長は、部会の議長となり、議事を
整理する。

3 総会、部会又は連合部会の議事が、
可否同数のときは、議長の決するこ
ろによる。

2 二の部において、それらの部に属す
る会員の各三分の一以上の請求がある
ときは、院長は、連合部会を招集しな
ければならない。

2 委員会は、選考部会の報告にもとづ
き、候補者に推薦された者について、
補充すべき会員数だけの無記名連記投
票を行ふ。

3 前項の場合各部の投票数は同数とな
るよう取り計い、また候補者が属すべ
き部会の委員の投票は二倍に計算する
ものとする。

2 委員会は、前条の選挙により、
出席委員の過半数の得票を得た者を当
選者とする。但し、過半数の得票者が
各部につき、その部にて補充すべき会
員数の二倍をこえるときは、その限度
に達するまで、得票順によつて候補者
を決定する。各部につき、過半数の得
票者のない場合は、最高点者と次点者
につき、決戦投票を行ひ、過半数を得
た者を当選者とする。

会の得票数を記載しなければならぬ。

第十一條 委員会は、前条の規定により作成した審査報告書を日本芸術院の各部長に提出するものとする。日本芸術院の各部は前項の審査報告書に記載された候補者について選挙を行う。

日本芸術院授賞規則

昭和二十五年五月三十日
議決
昭和二十八年五月二十六日
改訂
昭和二十九年五月二十一日
改正

第一條 日本芸術院は、卓越した芸術作品及び芸術の進歩に貢献する顕著な業績ありと認める者に対して授賞する。

第二條 賞は、恩賜賞及び日本芸術院賞とする。

2 恩賜賞は、毎年一個とし、もしその年度内に授与しないときは、繰越して授与することができる。

第三條 賞は、賞状及び賞金とする。

第四條 賞は、日本芸術院会員でない者に授ける。但し擬賞の決議があつた後会員となつた者は此の限りでない。

第五條 授賞は、日本芸術院会員の推薦による。

2 日本芸術院会員が授賞の推薦をしようとするときは、その所属する分科に属すべき候補者を毎年十二月その所属の部会に提議しなければならない。

3 前項の提議のあつた場合は、部会は各部会員により互選された委員をもつて組織する授賞候補者選考委員会(以下委員会という)において授賞候補者

又は授賞候補作品の選考審査を行う。委員は、各部より十名以内互選するものとする。委員の任期は一年とする。但し再選は妨げない。

5 委員会は、選考審査につき必要ある場合は、委員以外の日本芸術院会員又は学識経験者の意見を徴することができる。

第六條 委員会の議決は多数決による。

第七條 委員会は、選考並びに審査の経過及び結果を部会に報告しなければならない。

第八條 部会における擬賞の議決には、投票総数の過半数の賛成を要する。

第九條 前条の規定によつて擬賞の議決のあつたときは、部長は部会における結果について総会に報告しその承認を得なければならない。

第十條 擬賞の議決については、投票は無記名とする。

2 病氣その他の事故で出席することができないものは、封書で投票することができる。

第十一條 賞を受けた者は、受賞の目的である作品又は著書にその旨を表示することができる。

第十二條 擬賞の議決があつた後、賞を受くべき者が死亡した場合には、日本芸術院は授賞の旨を告示しその者に授くべき賞の処分を定める。

日本芸術院年金支給規則

昭和二十五年五月三十日
議決

第一條 年金は区分して六月、九月、十二月、三月の四期にこれを支給する。

第二條 年金を支給する場合は、初年度において、その発令が六月三十日以前にある者は全額を、九月三十日以前にある者はその四分の三を、十二月三十一日以前にある者はその二分の一を、三月三十一日以前にある者はその四分の一を支給する。

2 年金受領者が死亡した場合の支給額は、その月の属する受給期分までとする。

日本芸術院会員

院長

昭和二三、八、一一 高橋誠一郎

第一部 会 員

昭和一二、六、二四 鈴木 健一(清方)

川合芳三郎(玉堂)

小林 茂(古徑)

西山卯三郎(翠峰)

前田 廉造(青柳)

松林 篤(桂月)

結城 貞松(素明)

安田新三郎(靱彦)

福田平八郎

奥村 義三(土牛)

野田 道三(九浦)

小野 英吉(竹喬)

中村 恒吉(岳陵)

堂本三之助(印象)

山口 三郎(蓬春)

有島壬生馬(生馬)

昭和二三、六、二四 石井 満吉(柏亭)

梅原龍三郎

小杉國太郎(放庵)

中澤 弘光

安井曾太郎

山下新太郎

和田 英作

和田 三造

昭和二三、四、一七 辻 永

昭和二三、七、一四 須田國太郎

昭和二三、一〇、五 川島理一郎

昭和二三、一、一五 中村 研一

昭和二三、六、二四 朝倉 文夫

北村 西望

齋藤 知雄

佐藤 清藏

内藤 伸

平籙倅太郎(田中)

藤井 浩佑

石井 鶴三

昭和二三、一、一 吉田 三郎

昭和二三、六、二四 板谷 嘉七(波山)

清水 六和

昭和二三、四、一七 松田 權六

海野 清

昭和二三、一、一五 高村 豊周

昭和二三、一、一 岩田 藤七

昭和二三、六、二四 尾上 八郎(柴舟)

昭和二三、七、一四 豊道 慶中(春海)

昭和二三、一、一 吉田五十八

昭和二三、一、一 村野 藤吾

第二部、第三部 会員略 (昭和三〇年九月現在)

日本美術展覧会

日本美術展覧会運営会規則

第一条 本会は、日本美術展覧会運営会と称し、事務所を日本芸術院（文部省内）に置く。

第二条 本会は、日本芸術院に協力して、日本美術展覧会を開催することを目的とする。

第三条 本会は、日本芸術院第一部会員をもつて組織する。

第四条 本会に左の役員を置く。
会長 一名

第五条 会長は、日本芸術院長をもつてこれに充てる。

第六条 会長は、理事会の議長となる。

第七条 理事は会員の互選によつてこれを定め、理事会を構成する。

第八条 理事中若干名を常任理事とし、会長これを依頼する。

第九条 会長事故あるときは、その指定した常任理事これを代理する。

第十条 理事の任期を二年とし、毎年その半数を交替する。

第十一条 理事会は、会長これを招集する。理事会は本会の運営上重要な事項を審議する。

ることにより他の理事を代理人とすることが出来る。

理事会の議事は出席者の過半数をもつてこれを決する。可否同数のときは、議長が決する。

第十二条 本会に参事若干名を置く。参事は、会長がこれを指名する。

第十三条 参事は、日本美術展覧会の運営に關し、会長の諮問に應ずる。

第十四条 参事の任期は二年とする。ただし留任を妨げない。

第十五条 本会の事務を処理するため事務局を置く。

第十一回日本美術展覧会規則

第一章 総則

第一条 日本美術展覧会は、日本芸術院と日本美術展覧会運営会（以下日展運営会という）が開催する。

第二条 展覧会は、作品の種類に依つて左の五科に分け、各科の総合展覧会とする。

第一科 絵画（日本画）

第二科 絵画（油画、水彩画、パス、テル画、素描、創作版画）

第三科 彫塑

第四科 美術工芸

第五科 書（漢字、仮名、てん刻）

第三条 陳列する作品は鑑査して決定する。

第四条 鑑査を経て陳列された作品及び次項第六号に規定する作品については、審査の上特選として授賞することが出来る。第四、五、六号についてはその他

の賞を授与することがある。但し左の各号の一に該当するものの専門技術による作品は、前項の規定にかかわらず、無鑑査で陳列することが出来る。

- 一、日本芸術院会員
- 二、日展運営会参事
- 三、当該年度審査員
- 四、前年度審査員
- 五、本展覧会に出品を依頼されたもの

六、前年度特選受賞者

第四条 鑑査、審査及び陳列のため審査員長及び審査員を置く。

第五条 審査員は、日本芸術院会員の一部、日展運営会参事の一部及び本展覧会に出品を依頼された者等の中から日本芸術院会員が選考したものにつき、日本芸術院長がこれを依頼する。審査員の各員数は、第一科十五名、第二科二十四名、第三科十五名、第四科二十四名、第五科十五名以内とする。

第六条 審査員は、その専門によつて第一科から第五科に分属し、その属する科の作品について鑑査及び審査を行う。各科の審査員はその互選によつて審査主任を決定する。各科の審査主任はその互選または推選によつて審査員長を決定する。

第七条 本展覧会に出品を依頼されるものは、日本芸術院会員が特に優秀な作家と認められたものの中から選考したものに、日本芸術院長が指名する。（出品を依頼されるものの指名は、毎年これをおこなう）

その員数は第一科五十六名、第二科百五十五名、第三科五十四名、第四科六十九名、第五科三十四名以内とする。

第二章 出品

第七条 出品作品は自己の製作したものに限る。

出品作品とは無鑑査出品作品及び応募作品をいう。（以下作品と称する）故人（無鑑査）の製作したものはその遺族において、運営会の承認を経てこれを出品することが出来る。

第八条 第三科の作品で原型製作者と実材製作者とが異るときは原型製作者をその出品人とする。

第四科の作品で協同製作であるときは、その代表製作者一名を出品人とする。この場合には、代表製作者は協同製作者の氏名を附記することが出来る。

第九条 作品は各科ともに一点とする。第十条 作品の大きさの制限を次の通りとする。（但し額ととも）

第一科は縦十尺、横七尺以内。第二科は百号以内。第五科は条幅は縦八尺横四尺以内を限度とす。

但し額及び横巻に限り縦三尺横八尺以内とする。

第十一条 左に掲げる作品は提出することが出来ない。

- 一、製作後五年以上経たしたもの
- 二、既に公募の展覧会に出陳したことがあるもの

第十二条 作品はすべて所定書式の申込書に所定の手数料五百円を添えて公示の場所に搬入しなければならない。既

納の手数料は返付しない。作品に題名及び出品人氏名を明示しなければならぬ。

第十三条 作品を受理したときは、本展覧会は引換に預り証を交付する。

第十四条 受理された作品は撤回することができない。但し審査員長の許可を得たときはこの限りでない。

第十五条 第一科の作品は額面、屏風。

第二科の作品は額面とし、わく縁を附け、第五科の作品はてん刻の外はわく張額面、屏風、横巻、帖および対幅とし、すべて縦八寸、横五寸以内の積文二次を附けるものとする。積文を添えぬ作品は受理しないことがある。てん刻は印影(台紙寸法縦一尺二寸、横一尺以内)をつける。てん刻の連作の二箇は一点と見なす。

第十六条 作品の荷造及び運送費はすべて出品人の負担とする。

第十七条 受理した作品の保管については、本展覧会でその責を負う。但し正常な管理のもとにおいて生じた紛失、破損等に対してはその責を負わない。

第十八条 受理した作品の撮影または模写は、出品人の承諾のあるものに限る。審査員長が許可する。

前項の許可を受けたものが会場で作品の撮影または模写をするときは、許可証を係員に示し、その指図を受けることを要する。日本藝術院または日展運営会は受理した作品を撮影若しくは模写し、またはこれを刊行することがある。

第十九条 本章に掲げた各条項における違反を発見したときは、ただちに出品を取消することがある。

第三章 鑑査、審査及び陳列

第二十条 鑑査、審査及び陳列の方法は、各科の審査員がこれを決定し審査員長の承認を得るものとする。

第二十一条 鑑査及び審査の結果は、審査主任から審査員長に報告しその承認を得て決定するものとする。

第二十二条 出品者は鑑査及び審査に対して異議を申し立てることはできない。

第二十三条 陳列作品の位置、配列等に対しては異議を申し立てることはできない。

第四章 売却及び搬出

第二十四条 陳列作品の売却については本会は関与しない。

第二十五条 陳列作品は地方展陳列作品を除き十二月三日より同月七日まで(午前十時から午後四時まで)出品人において預り証を提示のうえ搬出することを要する。前項の期間内に搬出されないものは日展運営会で責任を負わなぬ。

第二十六条 陳列することに決定した作品以外のものは、十一月三日より同月七日迄、(午前十時から午後四時まで)出品人において預り証を提示のうえ搬出することを要する。

前項の期間内に搬出されないものは日展運営会で責任を負わぬ。

第五章 観覧

第二十七条 観覧時間は開会中毎日午前九時から午後四時までとする。但し都合によつてこれを伸縮または観覧を停止することがある。

第二十八条 観覧者は陳列作品に触れてはならない。観覧者は場内の指示に従わなければならない。

第二十九条 観覧者で、他の観覧者の鑑賞を妨げるおそれがあると認められるものは、入場を禁じまたは退場させることがある。

第三十条 観覧の入場料を百円とする。

第六章 地方日展

第三十一条 東京展終了後、開催希望道府県教育委員会又は、美術館、新聞社、文化団体等と日展運営会との共同主催によつて地方展を開催する。

第三十二条 地方展の開催地、開催期日その他は日展運営会と開催希望地代表者と協議の上定める。

第三十三条 地方展は東京展出陳列作品中より選ばれたものをもつて構成する。

今般日本芸術院及び日本美術展覧会運営会において第十一回日本美術展覧会の会場、出品期限その他を次のように定めた。

名称 第十一回日本美術展覧会
会場 東京都台東区上野公園内都美術館
期 昭和三十年十月二十九日正午から十二月一日まで
搬入期 出品申込み及び作品の受理期間 昭和三十年十月十日から

同月十四日までとする。但し無鑑査者の出品は十月二十四日までとし、前年度特選受賞者は十月二十日までとする。出品は右期間内毎日午前九時から午後四時までに金五百円の手数を添えて所定書式の申込書と共に之を会場に搬入しなければならない。

日本美術展覧会運営会役員

会長及理事(◎印常任理事)

理事 高橋誠一郎 ◎中村 岳陵 ◎堂本 印象 山口 蓬春 福田平八郎 ◎辻 永 ◎山下新太郎 石井 柏亭 中村 研一 ◎藤井 浩佑 ◎齋藤 知雄 朝倉 文夫 北村 西望 ◎高村 豊周 ◎岩田 藤七 松田 權六 ◎尾上 八郎(柴舟) ◎豊道 慶中(春海)

事務所 本会の事務所は昭和三十年十月七日までは日本藝術院事務局内(文部省内)に、十月八日以後は会場に置く。

参事(昭和三〇年三月)

第一科(日本画)一五名

- 池田 遙邨、伊東 深水、岩田 正巳
- 宇田 获邨、大智 勝觀、堅山 南風
- 金嶋 桂華、川崎 小虎、児玉 希望
- 徳岡 神泉、服部 有恒、望月 春江
- 森 白甫、矢野 橋村、山口 華楊

第二科(西洋画)一四名

- 石川寅治、伊原宇三郎、大久保作次郎
- 鬼頭鍋三郎、木下 孝則、小糸源太郎
- 小山 勘三、齋藤 與里、鈴木千久馬
- 寺内萬治郎、中野 和高、裕 伊之助
- 長谷川 昇、三上 知治

第三科(彫塑)一五名

- 雨宮 治郎、加藤 顯清、北村 正信
- 國方 林三、古賀 忠雄、後藤 清一
- 佐々木大樹、澤田 晴廣、清水多嘉示
- 橋本 尚秀、藤野 舜正、堀 進二
- 松田 尚之、横江 嘉純、吉田 久継

第四科(美術工藝)二名

- 飯塚瑛珪齋、石田 英一、大須賀 喬
- 各務 鑛三、香取 正彦、河村 靖山
- 岸本 景春、清水六兵衛、楠部 彌弋
- 杉田 禾堂、高野 松山、内藤 春治
- 二橋 美衡、福澤 健一、前 大峰
- 宮之原 謙、三井 義夫、山鹿 清華
- 山崎覺太郎、吉田源十郎、吉田醇一郎

第五科(書)八名

- 安東 聖空、江川 碧潭、川村 驥山
- 鈴木 翠軒、園田 湖城、辻本 史邑
- 中村 蘭台、西川 寧

正倉院評議会規程

(昭和二十二年七月十四日) (宮内府訓令第八号)

改正(昭和二十四年六月一日) (宮内府訓令第一号)

正倉院評議会規程

第一条 宮内庁に、正倉院評議会を置く。

第二条 正倉院評議会は、宮内庁長官の諮問に応じ、正倉院に関する重要事項を審議する。

第三条 正倉院評議会は、会長及び会員で、これを組織する。

第四条 会長及び会員は、宮内庁長官が、これを委嘱する。

第五条 会長は、会務を総理し、正倉院評議会の意見を、宮内庁長官に答申する。

会長に事故があるときは、会長の指名する会員が、会長の事務を代理する。

第六条 正倉院評議会に、幹事及び書記を置く。

第七条 幹事及び書記は、宮内庁職員の中から、宮内庁長官がこれを命ずる。

第八条 幹事は、会長の命を受けて、庶務を整理する。

書記は、幹事の命を受けて、庶務に従事する。

正倉院評議会

- | | |
|----|-------|
| 会長 | 安倍 能成 |
| 会長 | 瓜生 順良 |
| 会長 | 鈴木 菊男 |
| 会長 | 西原 英次 |
| 会長 | 原田 淑人 |
| 会長 | 細川 護立 |
| 会長 | 辻 善之助 |
| 会長 | 安田新三郎 |
| 会長 | 稲田 周一 |
| 会長 | 三井 安齋 |
| 会長 | 高橋誠一郎 |
| 会長 | 原田 治郎 |
| 会長 | 和辻 哲郎 |
| 会長 | 上野 直昭 |
| 会長 | 藤田 亮策 |

- | | | |
|----|-------|-------|
| 幹事 | 石田 茂作 | 小宮 豊隆 |
| 幹事 | 木郷 定男 | 高尾 亮一 |
| 幹事 | 和田 軍一 | |

帝室技藝員

帝室技藝員の制度は明治二三年一〇月我が皇室におかせられて、明治維新以来藝術的に衰退し経済的に困窮していた当時の我が美術界振興の思召しから制定されたもので、帝室技藝員には人格藝術共に後進の師表と仰がれる大家を、特にその為選ばれた委員をして銓衡させ、任命されたものである。

帝室技藝員名簿

- | | | | |
|-----|-------|------|---------|
| 日本画 | 川合 玉堂 | 拜命年月 | 大正六年六月 |
| 日本画 | 横山 大観 | 拜命年月 | 昭和六年六月 |
| 日本画 | 安田 靱彦 | 拜命年月 | 昭和九年一月 |
| 日本画 | 西山 翠嶂 | 拜命年月 | 昭和一九年七月 |
| 日本画 | 堂本 印象 | 拜命年月 | |
| 日本画 | 鍋本 清方 | 拜命年月 | |
| 日本画 | 前田 青邨 | 拜命年月 | |
| 日本画 | 松林 桂月 | 拜命年月 | |
| 日本画 | 小林 古徑 | 拜命年月 | |
| 洋画 | 和田 英作 | 拜命年月 | 昭和九年一月 |
| 洋画 | 金山 平三 | 拜命年月 | 昭和一九年七月 |
| 洋画 | 中沢 弘光 | 拜命年月 | |
| 洋画 | 梅原龍三郎 | 拜命年月 | |
| 洋画 | 安井曾太郎 | 拜命年月 | |
| 洋画 | 朝倉 文夫 | 拜命年月 | |
| 洋画 | 平櫛 田中 | 拜命年月 | |
| 工藝 | 板谷 波山 | 拜命年月 | 昭和九年一月 |

武力紛争の際の文化財の保護のための条約

武力紛争の際の文化財の保護のための条約

第一條 保護に關する一般規定

文化財が最近の武力紛争の間に重大な損害を被つてゐること及び交戦技術の発達のため文化財の破壊の危険が増大してゐることを認識し、

各国民が世界の文化に貢献してゐるのであるから、いかなる国民に属する文化財に対する損害も全人類の文化的遺産に対する損害を意味するものであることを確信し、

文化的遺産の保存が世界のすべての国民にとつて多大の重要性を有すること及びこの遺産に國際的保護を与えることが重要であることを考慮し、

千八百九十九年及び千九百七年のヘーグ条約並びに千九百三十五年四月十五日のワシントン条約において確立された武力紛争の間における文化財の保護に關する諸原則を指針とし、

このような保護が、平和時にその組織化のための国内的及び國際的措置が執られていない限り、効果的でありえないと認め、

文化財を保護するため可能なすべての措置を執ることを決意し、

次の条項を協定した。

第一章 保護に關する一般規定

第一條 文化財の定義

この条約の適用上、「文化財」とは、そ

の源又は所有者のいかんを問わず、次に掲げるものをいう。

(a) 各国民が受け継ぐべき文化的資産にとつて多大の重要性を有する次のような動産又は不動産

建築上、芸術上又は歴史上記念すべき物(宗教的であると否とを問わない。)

考古学的遺跡
全体として歴史的又は芸術的に意義のある建物群

美術品
芸術的、歴史的又は考古学的に意義のある書跡、書籍その他の物件

科学的収集、書籍若しくは記録の重要な収集又は前掲の財の複製品の重要な収集

(b) 博物館、図書館、記録保管所その他の建造物であつて(a)に定める動産文化財を保存し、又は展覧することを主要なかつ実効的な目的とするもの及び(a)に定める動産文化財を武力紛争の際に防護するための避難施設

(c) (a)及び(b)に定める文化財が多数所在する集中地区(以下「文化財集中地区」という。)

第二条 文化財の保護
この条約の適用上、文化財の保護とは、文化財を保全し、及び尊重することをいふ。

第三条 文化財の保全
締約国は、自国の領域内に所在する文化財を武力紛争による予測される影響に對して保全することを、適當と認める措

置を執るにより平和時に用意することを約束する。

第四条 文化財の尊重
1 締約国は、武力紛争の際に破壊又は損傷を受ける危険がある目的に自国及び他の締約国の領域内に所在する文化財、その直接の周辺及びその保護のために使用される施設を使用しないようにすることに、並びにその文化財に向けていかなる敵対行為も行わな

いようにすることに、その文化財を尊重することを約束する。

2 本条1に定める義務は、真にやむをえない軍事上の必要がある場合にのみ免れることができる。

3 締約国は、また、文化財のいかなる形における窃盜、略奪又は横領及び文化財に對するいかなる野蛮な行為をも禁止し、防止し、及び必要があるときは停止させることを約束する。締約国は、他の締約国の領域内に所在する動産文化財を徵発してはならない。

4 締約国は、文化財に對し復仇手段としていかなる行為も行つてはならない。

5 締約国は、他の締約国が第三条の保全措置を実施しなかつたという事実を理由として、当該他の締約国に對し、本条に規定する義務を免れることはできない。

第五条 占領
1 締約国は、他の締約国の領域の全部又は一部を占領した場合においては、被占領国の文化財の保全及び保存につ

き、その被占領国の権限のある機関をできる限り援助しなければならない。

2 占領地域内にある文化財で軍事行動によつて損傷を受けたものを保存するために措置を執る必要がある場合において、被占領国の権限のある機関がその措置を執ることができないときは、占領国は、できる限り、かつ、その被占領国の機関と密接に協力して、最も必要な保存措置を執らなければならない。

3 締約国であつて、その政府が對敵抵抗運動を行う者によつて正統政府と認められてゐるものは、可能な場合には、この条約の文化財の尊重に関する規定に従う義務についてこれらの者の注意を喚起しなければならない。

第六条 文化財の標識の表示
文化財には、その識別を容易にするため、第十六条の規定に従ひ標識を附することができ。

第七条 軍事上の措置
1 締約国は、平和時に、この条約の遵守を確保するような規定を軍事上の規則又は訓令の中に入れること並びにその軍隊の構成員の間にすべての国民の文化及び文化財に對する尊重の精神を育成することを約束する。

2 締約国は、文化財の尊重を確保すること及び文化財の保全につき責任を有する文民機関と協力することを任務とする機関又は専門職員を、平和時に、自国の軍隊中に設置し、又はその設置を計画することを約束する。

第二章 特別保護

第八条 特別保護の付与
1 動産文化財を武力紛争の際に防護するための避難施設、文化財集中地区及び他の非常に重要な不動産文化財は、次の要件を満たす場合には、その数を限定して特別保護の下に置くことができる。

(a) 大きい工業地区又は攻撃を受けやすい地点たる重要な軍事目標(たとえば、飛行場、放送局、国防のために使用される施設、比較的重要な港若しくは停車場又は交通幹線)から妥當な距離に所在すること。

(b) 軍事上の目的に使用されていないこと。

2 動産文化財のための避難施設は、爆弾による害を受けるおそれの全くないように造られてゐる場合には、その所在のいかんを問はず、特別保護の下に置くことができる。

3 文化財集中地区は、軍事要員又は軍事資材の移動のため利用される場合においては、通過のため利用されるときでも、軍事上の目的に使用されてゐるものとみなされる。軍事行動、軍事要員の駐留又は軍事資材の生産のいづれかに直接に関係がある活動が文化財集中地区内で行われる場合も、同様とする。

4 特別に権限を付与された武装監視人が本条1に掲げる文化財を警衛すること又は公の秩序の維持を通常の任務とする警察隊がその近傍に所在することによつては、その文化財は、軍事上の目

的に使用されてゐるものとみなされる。

特別に権限を付与された武装監視人が本条1に掲げる文化財を警衛すること又は公の秩序の維持を通常の任務とする警察隊がその近傍に所在することによつては、その文化財は、軍事上の目

的に使用されてゐるものとみなされる。

的に使用されているものとみなされな
い。

5 本条1に掲げる文化財が同項にいう
重要な軍事目標の近辺に所在する場合
においても、保護を要請する締約国が
武力紛争の際にその軍事目標を使用し
ないことを約束するとき、及び特に
港、停車場又は飛行場についてはその
締約国がすべての運輸を他に転換する
ことを約束し、かつ、その転換を平和
時に用意するときは、その文化財を特
別保護の下に置くことができる。

6 特別保護は、文化財が「特別保護文
化財国際登録簿」に登録されることに
よりその文化財に対して与えられる。
この登録は、この条約の規定に従いか
つこの条約の実施規則に定める条件に
基いてのみ行われるものとする。

第九条 特別保護の下にある文
化財の不可侵

締約国は、国際登録簿への登録が効力
を生ずる時から、特別保護の下にある文
化財に向けていかなる敵対行為をも行わ
ないようにすることにより、及び特別保
護の下にある文化財又はその周辺を、第
八条5に規定する場合を除くほか、軍事
上の目的に使用しないようにすることに
より、その文化財の不可侵を確保するこ
とを約束する。

第十条 表示及び管理

特別保護の下にある文化財は、武力紛
争の間、第十六条の識別標識により表示
されるものとし、かつ、この条約の実施
規則に定める国際管理の下に置かれるも
のとする。

のとする。

第十一条 不可侵の停止

1 締約国が、特別保護の下にあるい
れかの文化財に関し、第九条に規定す
る義務に違反したときは、敵対国は、
この違反が継続する間、その文化財の
不可侵を確保する義務を免かれるもの
とする。ただし、敵対国は、可能など
きは、あらかじめ、その違反行為を相
当な期間内に終止するように要請しな
ければならない。

2 本条1に定める場合を除くほか、特
別保護の下にある文化財の不可侵は、
避けることができない軍事上の必要が
ある例外的な場合にのみ、かつ、その
必要が継続する期間においてのみ、停
止されるものとする。その必要の有無
は、師団以上の大きさの部隊の指揮官
のみが認定することができる。事情が
許すときは、敵対国は、不可侵を停止
する決定について、相当な期間の事前
の通告を受けるものとする。

3 不可侵を停止する国は、できる限り
すみやかに、この条約の実施規則に定
める文化財管理監に対し、その旨を理
由を記した書面により通告しなければ
ならない。

第三章 文化財の輸送

第十二条 特別保護の下におけ
る輸送

1 もつぱら文化財を移動するための輸
送は、一領域内で行われるものである
と他の領域に向けて行われるものでは
あると問わず、関係締約国の要請によ
り、この条約の実施規則に定める条件
に従つて特別保護の下に行うことがで
きる。

2 特別保護の下における輸送は、前記
の実施規則に定める国際的監督の下に
行い、かつ、この輸送には、第十六条
の識別標識を掲示しなければならな
い。

3 締約国は、いかなる敵対行為をも特
別保護の下における輸送に向けて行わ
ないようにしなければならない。

第十三条 緊急の場合における
輸送

1 締約国が、特に武力紛争の初めに当
り、ある文化財の安全のためその移動
が必要であり、かつ、事態が緊急である
ため第十二条に定める手続によること
ができないような場合であると認める
ときは、すでに第十二条に定める不可
侵の要請が行われ、かつ、拒否されて
いる場合を除くほか、その輸送に
は、第十六条の識別標識を掲示するこ
とができる。この移動については、で
きる限り敵対国に通告しなければなら
ない。ただし、他国の領域への文化財
の輸送には、不可侵が明示的に認めら
れていないときは、識別標識を掲示す
ることができない。

2 締約国は、本条1の輸送であつて識
別標識を掲示しているものに向けて敵
対行為が行われないようにするため必
要な予防措置をできる限り執るものと
する。

第十四条

押収、拿捕及び捕獲
からの不可侵

1 次のものに押収、捕獲又は拿捕から
の不可侵を認めるものとする。

(a) 第十二条又は第十三条に定める保
護の利益を受ける文化財

(b) もつぱら文化財を移動するための
輸送手段

2 本条の規定は、臨検及び搜索の権利
を制限するものではない。

第四章 人員
第十五条 人員

安全保障上の利益に反しない限り、文
化財の保護に携わる人員は、文化財の利
益のために尊重されるものとし、敵対国
の権力内に陥つた場合において、その者
が責任を有する文化財も敵対国の権力内
に陥つたときは、自己の任務を引き続き
遂行することを許されるものとする。

第五章 識別標識

第十六条 条約の標識

1 この条約に定める識別標識は、下方
がとがり、かつ、青色面と白色面とで
斜め十字に四分された楕圓（一角がその
楕圓の先端を形成する生青色の正方形、
その正方形の上方の生青色の三角形及
び両側にある一個ずつの白色の三角形
からなつてゐるもの）の形をしたもの
とする。

2 この標識は、第十七条に定める条件
に基き、一個のみで、又は三個を三角
状（一個の楕圓を下方に置く）に並べて
使用する。

第十七条 標識の使用
1 三個を並べて用いる識別標識は、次

回、ユネスコ事務局長に提出しなればならない。

第二十七条 会合

1 ユネスコ事務局長は、ユネスコ執行委員会の承認を得て、締約国の代表者の会合を招集することができる。同事務局長は、締約国の五分の一以上の要請があつたときは、この会合を招集しななければならない。

2 この会合は、この条約及びその実施規則の適用に関する問題を研究し、並びにこれに関して勧告を作成することを目的とする。ただし、この規定は、この条約及びその実施規則によりこの会合に与えられた他のいかなる機能をも害するものではない。

3 この会合は、また、締約国の過半数が代表者を出席させたときは、第三十九条の規定に従い、この条約又はその実施規則の改正の手續を執ることができらる。

第二十八条 処罰

締約国は、この条約の違反行為を行ひ、又は行つことを命じた者を、国籍のいかんを問はず、追求し、かつ、それらを者に刑に処し、又は懲戒するため必要なすべての措置を自国の通常の刑事管轄権の範囲内で執ることを約束する。

最終規定

第二十九条 用語

1 この条約は、英語、フランス語、ロシア語及びスペイン語で作成される。これらの本文は、ひとしく正文である。

2 ユネスコは、その総会の他の公用語によるこの条約の訳文が作成されるよう取り計らうものとする。

第三十条 署名

この条約は、千九百五十四年五月十四日の日付を有し、千九百五十四年四月二十一日から千九百五十四年五月十四日まで一ヶ月で開催された会議に招請されたすべての国による署名のため千九百五十四年十二月三十一日まで開放しておく。

第三十一条 批准

1 この条約は、署名国が各自の憲法上の手續に従つて批准するものとする。
2 批准書は、ユネスコ事務局長に寄託するものとする。

第三十二条 加入

この条約は、その効力発生の日から、第三十条の国でこの条約に署名しなかつたすべての国及びユネスコ執行委員会により加入を招請される他のすべての国による加入のため開放しておく。加入は、ユネスコ事務局長に加入書を寄託することによつて行ひ。

第三十三条 効力の発生

1 この条約は、批准書が五通寄託された後三箇月で効力を生ずる。
2 その後は、この条約は、各締約国につき、その国の批准書又は加入書の寄託の後三箇月で効力を生ずる。

3 第十八条又は第十九条に定める事態に際しては、武力紛争の状態又は占領の開始の前又は後に紛争当事者によつて寄託される批准書又は加入書は、直ちに効果を生ずる。この場合には、ユネ

スコ事務局長は、第三十八条の通報を最も迅速な方法で伝達するものとする。

第三十四条 効果的適用

1 この条約の効力発生の日にこの条約の当事国である各国は、その効力発生の日の後六箇月の期間内に、この条約の効果的適用を確保するため必要なすべての措置を執るものとする。
2 前記の期間は、この条約の効力発生の日の後に批准書又は加入書を寄託する国については、その批准書又は加入書の寄託の日の後六箇月とする。

第三十五条 条約の適用地域の拡張

いづれの締約国も、批准若しくは加入の時に又はその後いつでも、ユネスコ事務局長にあつた通告書により、自国が国際関係について責任を有する領域の全部又は一部にこの条約が適用される旨を宣言することができる。この通告は、その受領の日の後三箇月で効力を生ずる。

第三十六条 従前の諸条約との関係

1 千八百九十九年七月二十九日若しくは千九百七年十月十八日の陸戦の法規慣例に関する条約（ヘーグ条約第四号）又は千九百七年十月十八日の戦時海軍力をもつてする砲撃に関する条約（ヘーグ条約第九号）により拘束され、かつ、この条約の当事国である国の間においては、この条約は、ヘーグ条約第九号及びヘーグ条約第四号附属の規則を補足するものであり、この条約及

びその実施規則が識別標識を使用すべきことを定める場合においては、この条約の第十六条の識別標識がヘーグ条約第九号の第五条に定める記章に代るものとする。

2 千九百三十五年四月十五日の芸術上及び科学上の施設並びに歴史的記念物の保護に関するワシントン条約（レリッヒ条約）により拘束され、かつ、この条約の当事国である国の間においては、この条約は、レリッヒ条約を補足するものであり、この条約及びその実施規則が識別標識を使用すべきことを定める場合においては、この条約の第十六条の識別標識がレリッヒ条約の第三条に定める識別旗に代るものとする。

第三十七条 廃棄

1 各締約国は、自国のために、又は自国が国際関係について責任を有する領域のためにこの条約を廃棄することができる。

2 廃棄は、ユネスコ事務局長に寄託される文書により通告されるものとする。

3 廃棄は、廃棄通告書の受領の後一年で効力を生ずる。ただし、廃棄しようとする国が、この期間の満了の時に武力紛争にまき込まれている場合には、その廃棄は、武力紛争の状態の終了又は文化財の送還措置の完了のいずれかおそい時まで効力を生じない。

第三十八条 通報

ユネスコ事務局長は、第三十一条、第

三十二条及び第三十九条にそれぞれ定め
る批准書、加入書及び受諾の文書並びに
第三十五条及び第三十七条にそれぞれ定
める通告書及び廃棄通告書の寄託を第三
十条及び第三十二条に掲げる国並びに国
際連合に通報するものとする。

第三十九条 条約及び実施規則 の改正

1 いずれの締約国も、この条約又はそ
の実施規則の改正を提案することがで
きる。改正案は、ユネスコ事務局長に
通報するものとし、同事務局長は、そ
の改正案を各締約国に転報するものと
し、次のいずれを選ぶかを四箇月以内
に回答するように各締約国に要請する
ものとする。

(a) 改正案を審議するための会議の招
集を希望すること。

(b) 会議によらずに改正案を受諾する
ことに賛成であること。

(c) 会議によらずに改正案を拒否する
ことに賛成であること。

2 ユネスコ事務局長は、本条1の規定
に基いて受領した回答をすべての締約
国に転報しなければならない。

3 すべての締約国が、所定の期限内で
ユネスコ事務局長に対し本条1(b)の
規定の趣旨に従つて自国の意見を表明
し、かつ、会議によらずに当該改正を
受諾することに賛成である旨を同事務
局長に通報した場合には、同事務局長
は、第三十八条の規定の例により、締
約国によるこの決定を通告するものと
する。その改正は、この通告の日から

九十日の期間が満了した時にすべての
締約国について効力を生ずるものとす
る。

4 ユネスコ事務局長は、三分の一をこ
える締約国の要請があつたときは、当
該改正案を審議するため締約国の会議
を招集しなければならない。

5 前項の規定に従つて行われるこの条
約又はその実施規則の改正は、会議に
代表者を出した締約国が全会一致で採
択し、かつ、各締約国が受諾した後にお
いてのみ効力を生ずるものとする。

6 本条4及び5に定める会議で採択さ
れたこの条約又はその実施規則の改正
の締約国による受諾は、ユネスコ事務
局長に正式の文書を寄託することによ
つて行ふものとする。

7 この条約又はその実施規則の改正が
効力を生じた後は、改正後のこの条約
及びその実施規則のみを批准又は加入
のため開放しておくものとする。

第四十条 登録

この条約は、国際連合憲章第百二条の
規定に従い、ユネスコ事務局長の要請に
より、国際連合事務局に登録されるもの
とする。

以上の証拠として、正当に委任された
下名は、この条約に署名した。

千九百五十四年五月十四日にヘীগで
本書一通を作成した。本書は、ユネスコ
の記録に寄託され、その認証謄本は、第
三十条及び第三十二条に掲げるすべて
の国並びに国際連合に送付される。

武力紛争の際の文化財の保護のた
めの条約の実施規則

第一章 管理

第一条 国際名簿

ユネスコ事務局長は、この条約が効力
を生じたときに、文化財管理監の任に当
る資格のあるものとして締約国が指名し
たすべての者の国際名簿を作成するもの
とする。この名簿は、同事務局長の発意
により、締約国が行う要請を基礎として
定期的に変更される。

第二条 管理組織

いずれかの締約国が条約第十八条の規
定の適用を受ける武力紛争の当事者にな
つたときは、直ちに、

(a) その締約国は、自国の領域内に所在
する文化財のための代表者一人を任命
し、また、他国の領域を占領した場合
には、その領域内に所在する文化財の
ための特別の代表者一人を任命し、

(b) その締約国と紛争の状態にある各国
のために行動する利益保護国は、第三
条の規定に従い、その締約国への派遣
委員を任命し、

(c) 文化財管理監一人が、第四条の規定
に従い、その締約国に対して任命され
る。

第三条 利益保護国の派遣委員 の任命

利益保護国は、その外交職員若しくは
領事職員のうちから、又は被派遣国の承
認を得てその他の者のうちから、派遣委
員を任命するものとする。

第四条 文化財管理監の任命

文化財管理監は、被派遣国とその敵

対国のために行動する利益保護国との
間の合意により、国際名簿から選ばれ
るものとする。

2 前記の諸国は、この選任についての
討議の開始の日から三週間以内に合意
に達しないときは、国際司法裁判所長
に管理監の任命を要請しなければならない
が、このようにして任命される管理監
は、被派遣国がその任命を承認するま
では、任務についてはならない。

第五条 派遣委員の職務

利益保護国の派遣委員は、この条約の
違反の事実を確認し、違反が生じた事情
を被派遣国の承認を得て調査し、違反の
停止を確保するために現地で申入れを行
い、及び必要があるときは、違反を文化
財管理監に通告しなければならない。利
益保護国の派遣委員は、その行動を管理
監が絶えず知つていようにしておかな
ければならない。

第六条 文化財管理監の職務

1 文化財管理監は、この条約の適用に
関してその所掌に属させられたすべて
の事項を、被派遣国の代表者及び関係
派遣委員と協力して、処理しなければ
ならない。

2 管理監は、この規則に定める場合に
おいて、決定し、及び任命する権能を
有する。

3 管理監は、被派遣国の同意を得て、
調査を命じ、又はみずから調査を行う
権限を有する。

4 管理監は、紛争当事国又はその利益
保護国に対し、この条約の適用のため

有益と認めらるるすべての申入れを行わなければならない。

5 管理監は、必要と認められるこの条約の適用に関する報告書を作成し、これを関係紛争当事国及びその利益保護国に送付しなければならない。管理監は、この報告書の写をユネスコ事務局長に送付しなければならない。同事務局長は、その技術的内容のみを利用することができる。

6 利益保護国がないときは、管理監は、条約第二十一条及び第二十二条に定める利益保護国の任務を行わなければならない。

第七条 監視官及び専門家

1 文化財管理監は、関係派遣委員の要請又はこれとの協議により必要と認めるときは、特定の職務を担当する文化財の監視官となるべき者を被派遣国に提示して、その承認を求めなければならない。監視官は、管理監に対してのみ責任を負う。

2 管理監、派遣委員及び監視官は、専門家の役務を用いることができる。これらの専門家についても、また、前項の国に提示して、その承認を求めらるるものとする。

第八条 管理の職務の遂行

文化財管理監、利益保護国の派遣委員、監視官及び専門家は、いかなる場合にもその職務の範囲をこえてはならない。これらの者は、特に、被派遣国たる締約国の安全保障上の必要を考慮しなければならず、また、いかなる事情の下に

おいても、その締約国が行う軍事状況上の要求に従つて行動しなければならない。

第九条 利益保護国の代理

紛争当事国は、利益保護国の活動により利益を得ないか又は得なくなつた場合には、中立国に対し、第四条に定める手続による文化財管理監の任命に関する利益保護国の任務を引き受けるように要請することができる。このようにして任命される管理監は、必要があるときは、この規則に定める利益保護国の派遣委員が行うべき職務を監視官に委任するものとする。

第十条 費用

文化財管理監、監視官及び専門家の報酬及び費用は、被派遣国が負担するものとする。利益保護国の派遣委員の報酬及び費用については、利益保護国と利益を保護される国との間の合意によるものとする。

第二章 特別保護

第十一条 臨時避難施設

1 いずれの締約国も、武力紛争の間において、予測されなかつた事情のため臨時避難施設を設けることが必要になり、かつ、その施設を特別保護の下に置くことを希望するときは、自国に派遣された文化財管理監にこれを直ちに通知しなければならない。

2 管理監は、その事情及びその臨時避難施設内に防護される文化財の重要性によりこのような措置を正当と認めるときは、その施設に条約第十六条に定

める識別標識を掲示することをその締約国に許可することができる。管理監は、その決定を利益保護国の関係派遣委員に遅滞なく通知しなければならない。これらの派遣委員は、いずれも、標識の即時の撤去を三十日の期間内に命ずることができる。

第十三条 登録の申請

1 いずれの締約国も、ユネスコ事務局長に対し、自国の領域内に所在する避難施設、文化財集中地区又は他の不動産文化財の各表題を附した三項に分ける。各部の細目は、ユネスコ事務局長が定めるものとする。

第十二条 特別保護文化財国際登録簿

1 「特別保護文化財国際登録簿」が作成されるものとする。
2 ユネスコ事務局長は、この国際登録簿を管理し、その写を国際連合事務総長及び締約国に送付しなければならない。

第十三条 登録の申請

1 いずれの締約国も、ユネスコ事務局長に対し、自国の領域内に所在する避難施設、文化財集中地区又は他の不動産文化財の国際登録簿への登録の申請

書を提出することができる。この申請書は、当該文化財の所在地について記述しており、かつ、その文化財が条約第八条の規定に合致することを証明するものでなければならない。

第十四条 異議

1 いずれの締約国も、ユネスコ事務局長にあてた書簡により、文化財の登録について異議を申し立てることができる。この書簡は、同事務局長が登録の申請書の写を送付した日から四箇月以内に同事務局長により受領されなければならない。

第十五条 異議

1 この異議には、理由が述べられていなければならない。異議が有効であるための根拠は、次のいずれかに限る。
(a) その財が文化財でないこと。
(b) その財が条約第八条に掲げる条件を満たさないこと。

第十六条 登録の申請

1 ユネスコ事務局長は、異議申立の書簡の写を遅滞なく各締約国に送付しなければならない。同事務局長は、必要がある場合には、記念物、芸術的遺跡、歴史的遺跡及び考古学的発掘物に関する国際委員会の助言を求め、また、適切と認めるときは、適当な他の機関又は人の助言を求めるものとする。

第十七条 登録の申請

1 ユネスコ事務局長又は登録を申請した締約国は、異議の申立をした締約国

に対し、その異議を撤回させるため、必要と認めらるべきなる申入れをも行うことができる。

5 平和時に登録を申請した締約国がその登録が行われる前に武力紛争にまき込まれたときは、当該文化財は、ユネスコ事務局長により直ちに、国際登録簿にかりに登録されるものとする。この登録は、異議の申立がある場合においては、その異議の承認、撤回又は否認があるまでの間のものとする。

6 ユネスコ事務局長が、異議申立の書簡を受領した日から六箇月以内に、異議の申立をした国からその異議を撤回した旨の通知を受領しない場合には、登録を申請した締約国は、次項の手續により仲裁裁判を要請することができる。

7 仲裁裁判の要請は、ユネスコ事務局長が異議申立の書簡を受領した日の後一年の期間が経過したときは、行うことができない。紛議の両当事者は、おのおの仲裁裁判官一人を任命するものとする。一の登録の申請に対し二以上の異議が申し立てられたときは、異議を申し立てた諸締約国は、共同して一人の仲裁裁判官を任命するものとする。これらの二人の仲裁裁判官は、第一条の国際名簿から首席仲裁裁判官を選定するものとする。これらの仲裁裁判官は、この選定について合意に達しないときは、国際司法裁判所長に首席仲裁裁判官の任命を要請するものとする。この場合には、首席仲裁裁判官

は、必ずしも国際名簿から選ばれることを要しない。このようにして構成された仲裁裁判所は、みずからその手續を定めるものとする。その決定は、終審とする。

8 各締約国は、自国が紛議の当事者となつたときは、前項に定める仲裁手續の適用を希望しない旨を宣言することができる。この場合には、登録の申請に対する異議は、ユネスコ事務局長が締約国に付託するものとする。この異議は、投票した締約国の三分の二多数をもつて異議の承認が決定された場合にのみ、承認されたものとする。投票は、同事務局長が条約第二十七条の規定により与えられる権限に基き会合を開催することが必要であると認めない限り、通信によつて行うものとする。同事務局長は、通信による投票を行う旨を決定したときは、締約国に対し、封をした書状により投票を行うように要請するものとし、締約国は、その要請を受けた日から六箇月以内に同事務局長に投票を送達するものとする。

第十五条 登録

1 ユネスコ事務局長は、第十四条1に定める期間内に異議の申立を受領しなかつたときは、登録の申請がなされた財を一件ごとに整理番号を附して国際登録簿に登録しなければならぬ。

2 異議の申立があつた場合には、ユネスコ事務局長は、その異議が撤回されたとき、又は第十四条7若しくは8に

定める手續によりその異議が承認されなかつたときにのみ当該財を国際登録簿に登録する。ただし、第十四条5の規定の適用を妨げるものではない。

3 第十一条3の規定の適用がある場合において、文化財管理監の要請があつたときは、ユネスコ事務局長は、当該財を国際登録簿に登録しなければならぬ。

4 ユネスコ事務局長は、遅滞なく、国際登録簿への各登録の認証謄本を、国際連合事務総長及び締約国に送付しなければならず、登録を申請した国の要請があつたときは、条約第三十条及び第三十二条に掲げる他のすべての国にも送付しなければならぬ。登録は、その謄本の発送の日の後三十日で効力を生ずる。

第十六条 登録の消除

1 ユネスコ事務局長は、次の場合には、登録を消さなければならない。

(a) 当該文化財が所在する領域が属する締約国の要請があつた場合

(b) 当該登録を申請した締約国がこの条約を廃棄し、その廃棄が効力を生じた場合

(c) 第十四条5に定める特殊の場合において、第十四条7又は8に定める手續により異議が承認された場合

2 ユネスコ事務局長は、登録の消除の認証謄本を、国際連合事務総長及び当該登録の謄本を受領したすべての国に遅滞なく送付しなければならない。登録の消除は、その謄本の発送の日の後

三十日で効力を生ずる。

第三章 文化財の輸送

第三十七条 不可侵を得るための手續

1 条約第十二条1の要請は、文化財管理監にあてて行うものとする。その要請書には、要請の根拠となる理由を記載し、並びに移動すべき物件の概数及び重要性、その現在の所在、その予定移動先、使用すべき輸送手段、予定輸送経路、予定移動期日その他関係がある情報を明記しなければならない。

2 管理監は、適当と認める意見を考慮に入れた上その移動を正当と認める場合には、提案された実施方法について利益保護国の関係派遣委員と協議するものとする。管理監は、この協議の結果に従い、関係紛争当事国にその移動について通告しなければならない。この通告は、すべての有益な情報を含むものでなければならない。

3 管理監は、要請書に記載された財のみが移動されること、その輸送が承認された方法により行われること及びその輸送に識別標識が附されていることを確認すべき一人又は二人以上の監視官を任命しなければならない。監視官は、目的地までその財と同行するものとする。

第十八条 国外輸送

特別保護の下における移動が他国の領域に向けて行われる場合には、その移動については、条約第十二条及びこの規則の第十七条のほか、次の諸項の規定を適

用するものとする。

(a) 文化財が他国の領域内にある間、当該他国は、その文化財の保管者となり、その文化財に対し、それと同程度の重要性を有するその国の文化財に対すると同様の保管の措置を講じなければならぬ。

(b) 保管国は、紛争状態の終了後においてのみその文化財を返還するものとし、この返還は、それが要請された日から六箇月以内に行われなければならない。

(c) 寄託国及び保管国は、いずれも、当該文化財が移動されている間及び他国の領域内にある間は、これを没収し、及び処分してはならない。ただし、その文化財の安全のため必要があるときは、保管国は、寄託国の同意を得て、かつ、本条に定める条件に従いその文化財を第三国の領域に輸送することができる。

(d) 特別保護の要請書には、自国の領域に向けて文化財が移動される国が本条の規定を受諾する旨を記載しなければならない。

第十九条 占領地域

他の締約国の領域を占領している締約国が文化財を当該領域内の他の場所にある避難施設に移動し、その移動の際第十七条に定める手続に従うことができなかった場合において、文化財管理監が、平常の管理者と協議の上、その移動が状況上必要であつた旨を書面で証明するとき、その移動は、条約第四条にいう権限

とはみなされない。

第四章 識別標識

第二十条 標識の表示

1 識別標識の配置及び識別可能な度合は、各締約国の権限のある当局の裁量に任せるものとする。識別標識は、旗又は腕章に表示することができる。また、物件上に描き、又は他の適当な方法で表示することができる。

2 もつとも、武力紛争の際、条約第十二条及び第十三条に定める場合には、標識は、上空からも地上からも日中明らかに識別することができるように輸送手段の上に附するものとする。ただし、さらに完全な表示方法によることを妨げない。

識別標識は、武力紛争の際、次の条件に従い地上で識別することができるものでなければならない。

(a) 特別保護の下にある文化財集中地区については、その外周を明らかに示すに足りる規則的間隔を置くこと。


(b) 特別保護の下にある他の不動産文化財については、その入口に置くこと。

第二十一条 身分証明

1 条約第十七条2(b)及び(c)に掲げる者は、権限のある当局が発給しかつその印章を押した腕章であつて識別標識を附したものを着用することができる。

2 これらの者は、識別標識を附した特別の身分証明書を携帯しなければならない。この身分証明書には、少くとも

表面



文化財の保護に携わる人員の身分証明書

姓 _____

名 _____

生年月日 _____

地位又は階級 _____

職 務 _____


上記の者は、千九百五十四年五月十四日の武力紛争の際の文化財の保護のためのヘーグ条約の規定に基づき、この証明書を所持する。

発給年月日 _____ 証明書番号 _____

裏面

所有者の
写真

所持者の署名若しくは指紋又はその
双方



身長	眼	頭髪	
その他の特徴 _____ _____ _____ _____			

所持者の氏名、生年月日、地位又は階級及び職務を記載するものとし、所持者の写真及びその署名若しくは指紋又はその双方を附し、かつ、権限のある当局の浮出印を押さなければならぬ。

3 各締約国は、この規則に例示として附したひな型にならつて自国の身分証明書の様式を定めるものとする。締約国は、自国が採用した様式の見本を相互に送付するものとする。この身分証明書は、できれば、少くとも二通作成し、その一通は、これを発給した国が保管するものとする。

4 前記の者は、正当な理由がない限り、この身分証明書を取り上げられることはなく、また、腕章を着用する権利を奪われることはない。

美術関係研究施設

東京大学史料編纂所

東京都文京区本富士町
電小石川二一六六、三一八五
(内線三三〇一六)

史料編纂所は明治二年三月史料編輯国史校正局を旧和学講談所に設置したのに始まり其後数度の改変を経て明治二八年四月史料編纂所として帝国大学文科大学に置かれ、更に昭和四年七月史料編纂所と改称した。同二五年四月東京大学附置研究所に改組、現在に至つてゐる。本邦に関する史料の研究、編纂及び出版を行ひ、第一部(編年史料)第二部(古文書)第

美術関係研究施設

三部(古記録)第四部(近世、維新史料)第五部(海外史料)第六部(史料調査)事務部の七部を置く。「所長」坂本太郎、「部長」(第一)吉村茂樹、(第二)寶月圭吾、(第三)川崎庸之、(第四)伊東多三郎、(第五)岡田章雄、(第六)森末義彰

東京大学東洋文化研究所

東京都文京区大塚町五六
電大塚五〇九、六九八六

東洋文化の総合研究を目的として昭和一六年一月東京帝国大学内に設置された。昭和二三年四月、外務省所管東方文化学院を併合し、研究所を文京区大塚町に移した。設立当初は哲・文・史学部、法・政経部、商部の三部門であつたが昭和二四年新に三部門を加へ、更に二六年二部門を増加し現在、一、哲学・宗教 二、文学・言語 三、歴史 四、文化人類学 五、人文地理学 六、美術史・考古学 七、法律・政治 八、経済・商業の八部門に分れてゐる。研究発表は講演会の外、本研究所発行の「東洋文化研究所紀要」或は東洋学会機関誌「東洋文化」を通じて行つてゐる。

〔所長〕 仁井田陞〔教授〕 仁井田陞、飯塚浩二、(兼)山田盛太郎、江上波夫、結城令聞、植田捷雄、米澤嘉嗣、(兼)山本達郎、(兼)丸山真男、川野重任、石田英一郎、(兼)辻直四郎

東京国立文化財研究所 美術部

(美術研究所)
東京都台東区上野公園
電駒込四四八七、一九三三

当所は故黒田清輝子爵の遺志に基き、その遺産を以て開始されたもので、昭和五年開設の準備完了とともに政府に寄附移管された。初め帝国美術院附屬として設置されたが昭和一〇年六月帝国美術院改革に伴ひ、新に美術研究所官制を制定、文部省所管、帝国美術院に附置され、次で昭和二二年六月官制改正の上文部省の直轄研究所となつた。昭和二二年国立博物館官制の成立とともに同館附屬の研究所となり、更に昭和二五年八月文化財保護法制定により国立博物館より分離し、美術研究所として文化財保護委員会の附屬となつた。次いで同二七年四月文化財保護法の一部改正に伴ひ東京文化財研究所が設置されるに及んで同研究所の美術部として藝能部 保存科学部と共に新発足し、更に昭和二九年七月文化財保護法の一部改正により、東京国立文化財研究所美術部となつた。現在の内部組織は庶務室(東京国立文化財研究所の人事並びに業務全般の事務的統轄管理及び総合調整を行う)第一研究室(東洋及び日本古美術の調査研究を行う)第二研究室(日本の近代及び西洋美術の調査研究を行う)資料室(図書、写真等基礎資料の蒐集の他、特殊写真による光学的研究を行う)となつてゐる。定期刊行物としては「美術研究」「日本美術年鑑」が有り、また「美術研究資料」や「研究報告」等を出版、その他随時講演会・特別展覧等を開催する。なお所内には黒田記念室を設けその遺物を陳列、毎週木曜日午後後に公開してゐる。美術研究のために着実な基

礎を提供すると共に文化財の保存活用に貢献してゐる。

〔所長〕 田中一松〔美術部長〕 福山敏男〔室長〕 (庶務室) 小島忠二、(第一研究室) 熊谷直夫、(第二研究室) 隈元謙次郎、(資料室) 中川千咲(二七、二二八、二四五、二五七頁参照)

産業工藝試験所

東京本所 大田区下丸子町三三三
電蒲田六一四一―六

同分室 中央区銀座七ノ五
(工業技術院内)
電銀座七九二―九

東北支所 仙台市二十人町通一〇
電仙台 七四八、七五五

九州出張所 久留米市津福本町三八
電久留米 五三六、五三九

我が国固有の技術である木工・金工・漆工その他各種工藝産業の改善発達を図るため、昭和三年商工省工藝指導所が設置された。当初商工省内に仮事務所を設け、同年一月仙台市に建築中の庁舎竣工と共に事務を移転し事業を開始したが、其後事業の進展に伴ひ東京における調査研究の必要を認め昭和八年五月商工省内に本所出張員事務所を設け常時所員を駐在せしむる事となつた。昭和一二八年八月には官制の改正に依り「木工及金属工品」を「工藝品」に改め職員を増員し、必要と認められる地に支所を置き事務を分掌させることとなつた。昭和一四年八月に輸出工藝雜貨の中心地である大阪江の子島に関西支所を置

き、翌一五年一月には商工省告示を以て工藝指導所本所を東京市に移転、又従来の仙台の施設を東北支所に改めて態勢を強化した。戦時中は研究の方向転換を余儀なくされ、本所、関西支所は被災焼

失した。昭和二三年一月川崎市久地元日本光学工場を借用し本所の再建を図ると共に同年八月久留米市に九州支所を設置、同二四年四月には布施市に関西支所を新築した。近時工藝指導所の業務内容も発展し、工藝に関する研究指導の外、工業意匠の改善研究、包装に関する研究等を加えて研究諸施設の整備充実を図つてゐる。昭和二六年本所を現在地へ移設、二七年機構を改め、関西支所を廃し、通商産業省工業技術院の管轄の下に名称も産業工藝試験所として新発足した。組織と事務分掌は左の通りである。

〔指導部〕
〔企画課〕—試験研究等の調整、広報事務、(指導課)—工藝・意匠・包装技術の指導、研究成果の実施、講書・講演・展示・鑑定審査の実施その他、(調査課)—工藝・意匠・包装技術の調査、調査統計資料・研究資料の調査等

〔包装部〕
〔包装試験課〕—包装原材料・製品の試験・研究等(包装技術課)—包装技術の試験・研究等

〔庶務課〕—庶務・人事・会計・用度等

〔東北支所〕(指導課)—工藝品の意匠・設計の研究・指導、地方工芸技術事情の調査等(漆工課)—漆工品の素地工作・塗装・加飾・金属部分の試験・研究等

〔試験課〕—漆液・漆器素地の原材料の品質・規格の試験・研究等(庶務課)—支所の庶務・人事・会計等

〔九州出張所〕—地方工芸技術の指導・調査、工藝品・工業製品・包装の意匠の設計・研究・指導

〔所長〕—松崎福三郎(部長)(指導部)

藤井左内、(意匠部)豊口克平、(技術部)福岡謙太郎、(包装部)福岡和雄、(課長)

〔庶務課〕—池田秀雄(企画課)伊達信義、(指導課)—畑正夫(調査課)服部茂夫、

(工業意匠課)明石一男、(雑貨意匠課)芳武茂介、(技術第一課)船倉鏡、(技術第二課)根尾宗一、(試験課)小松和、(包装試験課)芦原晋、(包装技術課)有吉金太

(東北支所長) 安倍郁二、(課長)(指導課)猪狩英一、(漆工課)武田豊太郎、(試験課)鈴鹿清之助、(庶務課)栗山樹人

(九州出張所長) 松田一雄

京都大学人文科学研究所

京都市左京区北白川小倉町五〇

電 吉田 四〇五

本研究所は昭和一四年八月、国家に須

要なる東亜に関する人文科学の総合研究を行うため設立された京都大学人文科学研究所を中核として、外務省所管東洋文化研究所と、財団法人西洋文化研究所を合併して昭和二四年三月新に世界文化に

関する人文科学の総合研究を行う研究所として発足した。創立の際には三部門であつたが、合併により一部門に増加し、これを日本部、東洋部、西洋部に分け相互に協力して研究を推進している。「京都大学人文科学研究所紀要」其他出版物、講演会によつて研究発表を行い、又常設人文科学講座を開いている。

〔所長〕—貝塚茂樹(教授)(日本部)坂田吉雄(東洋部)塚本善隆、安部健夫、貝塚茂樹、水野清一、森鹿三、敷内清、長廣敏雄、岩村忍、(西洋部)桑原武夫、清水盛光

奈良国立文化財研究所

奈良市春日野町五〇

電 奈良 五五七五

昭和二七年文化財保護法の一部改正が行われ、同法の規定に基き同年四月一日、奈良市に当研究所が設置された。所内の組織は庶務室、及び美術工芸研究室

(絵画、彫刻、工藝品の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究を行う)建造物研究室(建造物及庭園遺跡に関する調査研究を行う)歴史研究室(考古及び史跡並びに古文書に関する調査研究を行う)の四室からなつてゐる。

〔所長〕—田澤坦(室長)(庶務室)森川幸男、(美術工芸研究室)小林剛、(建造物研究室)森蘊、(歴史研究室)田澤坦

〔古文化財之科学〕発刊

史学会 文京区本富士町東京大学文学部内(坂本太郎)機関誌「史学雑誌」発刊

デザイン学会 千葉県松戸市岩瀬 千

(二二七、二二八、二五七頁参照)

黒川古文化研究所

芦屋市打出春日町三四

電 芦屋 二二九六

本研究所は黒川家歴代の蒐集品をもとにし、理事長黒川幸七が京大教授梅原末治指導の下に昭和二五年一〇月財団法人黒川古文化研究所として設立されたものである。主として東洋古文化の調査研究を目的とし、資料及び研究成果の印刷物刊行、及び公開講演と展覧を行つてゐる。

〔理事長〕—黒川幸七(常務理事兼研究員)武藤誠(理事)有光次郎、内田幾助、梅原末治、辰馬悦藏、江口治郎、石崎喜兵衛、黒川いく子、魚登惣五郎、(研究員兼務)〔監事〕木村徳兵衛、西川源三

美術関係学会 (五〇音順)

(括弧内は代表者)

京都大学美学会 京都市左京区吉田

京大文学部美学美術史研究室内 電吉田

四一一一学内(九〇)井島勉

藝術学会 文京区大塚窪町 東京教育

大学内 電 大塚一八一(三苦正雄)

古文化資料自然科学研究会 台東区上

野公園 東京国立博物館内 電 駒込三

七一一一五内線三八(大賀一郎) 機関誌

「古文化財之科学」発刊

史学会 文京区本富士町東京大学文学

部内(坂本太郎)機関誌「史学雑誌」発刊

デザイン学会 千葉県松戸市岩瀬 千

英大工学部工業意匠学教室内 電 松戸三二六(小池新一)

東方学会 千代田区西神田二ノ二 電 九段一〇六一(宇野哲人) 機関誌「東方学」年二回刊「東方学論集」不定期刊

東洋学会 文京区本富士町 東京大学 東洋文化研究所内 電 小石川二二二内線二一九一(工藤松之助) 機関誌「東洋文化」発刊

日本藝術学会 東京大学文学部美術史研究室内(藤懸静也) (昭和二九年解消)

日本建築学会 中央区銀座西三ノ一 電 京橋二二三二、二三八、六〇二〇、三四四九、四五七二、(武藤清) 機関誌「建築雑誌」発刊

日本考古学会 台東区上野公園 東京国立博物館内 電 駒込三七一一五(原田淑人) 機関誌「考古学雑誌」発刊

日本考古学協会 文京区本富士町 東京大学文学部考古学教室内(藤田亮策)「日本考古学年報」発刊

日本民俗学会 世田谷区成城町三七七 電 砧八一二六

美学会 文京区本富士町一 東京大学文学部美学研究室内 電 小石川一一二一内線二三三五一(竹内敏雄) 機関誌「美学」発刊

美術教育学会 台東区上野公園東京藝術大学美術学部内 電 駒込三七六一(小塚新一郎)

美術史学会 台東区上野公園 東京国立文化財研究所内 電 駒込四四八七

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

美術教育施設

(熊谷宣夫) 機関誌「美術史」発刊 仏教史学会 京都市中京区東洞院三条上ル四四九 平楽寺書店内 電 本局一六(禿氏祐祥) 機関誌「仏教史学」発刊

三田藝術学会 港区芝三田 慶応義塾大学文学部美学美術史学研究室内 電 三田五一八一(守屋謙一)

早稲田大学美術史学会 新宿区戸塚町一ノ六四七 早稲田大学演劇博物館内 早稲田大学大学院文学研究科藝術科研究室内 電 九段八五八五内線八二(坂崎坦)

東北大学美学美術史学会 仙台市片平丁 東北大学美学美術史研究室内 電 仙台(三)一一八一内線(六〇四、二五七、六三四)(村田潔)

美術教育施設

(学校)

東京藝術大学美術学部

台東区上野公園 電 駒込三七六一一六

東京藝術大学美術学部の前身東京美術学校は明治二〇年一〇月勅令を以て設置せられ、文部省専門学務局長濱尾新が学校長事務取扱を命ぜられ、同二二年二月授業を開始した。同二三年濱尾新に代つて岡倉覚三学校長となつたが、同三一年退官し、彼と共に教授橋本雅邦以下多数の教授、助教が辞職した。高嶺秀夫、久保田鼎に次いで同三四年正木直彦学校長となり昭和七年和田英作、同一一年芝田徹心、同一五年澤田源一、更に同一九

年六月上野直昭が学校長に任ぜられた。昭和四年五月三十一日法律第五百十号を以て国立学校設置法が公布され、東京美術学校は東京音楽学校と共に新制大学に包括され東京藝術大学美術学部及び東京藝術大学東京美術学校として夫々発足した。初代の学長には上野直昭、美術学部長には村田良策が任ぜられ、美術学部長は村田良策の兼任となつた。次いで昭和二七年三月三十一日旧制課程廃止により東京美術学校及び同校附属工芸技術講習所は廃止された。

美術学部の学科は本科だけとなり旧制師範科は昭和二七年三月三十一日官制を以て廃止された。

[本科]

絵画科(日本画、油画)

彫刻科(石井教室、菊池教室)

工芸科(図案計画、金工、漆藝)

建築科

藝術学科

版画研究室

陶磁研究室

修業年限 四年。授業料 年額六〇〇〇円。

入学資格

(1) 高校卒業者

(2) 通常の課程による一二年の学校教育を修了した者

(3) 文部大臣の指定した者

(4) 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

[専攻科]

入学資格 本学卒業生

[聴講生]

学生以外の者で本学に於て教授する科目目(実技を除く)一科目若しくは数科目を選び学習しようとするものは教授上差支ない場合に限り聴講を許可する。(四月中に申込むこと)

検定料二五〇円。入学料二五〇円。聴講料一単位につき二〇〇円。昭和三〇年五月一日に於ける各科学生数は左の通りである。

[絵画科] 男一七九名、女七七名
[彫刻科] 男八六名、女九名
[工芸科] 男二八名、女六〇名
[建築科] 男六〇名、女二名
[藝術学科] 男四五名、女二八名
[専攻生] 男四七名、女一七名
[聴講生] 男一六名、女二九名
尚、陳列館と正木記念館があり、随時展覧を行い学生及び一般に公開している。

[学長] 上野直昭 [美術学部長] 小塚新一郎 [教授] 村田良策、脇本十九郎、海野清、前田廉造、石井鶴三、丸山義男、松田義之、藤田亮策、岡田捷五郎、吉田五十八、内藤春治、松田権六、林武臣、西田正秋、新規矩男、菊池一雄、摩壽意善郎、須藤雅路、伊藤康、小磯良平、山本豊 [併任教授] 谷信一 [助教] 入谷昇、太田榮吉、日下喜一郎、田中文雄、磯矢陽、久保守、内藤四郎、山脇洋二、笹村良紀、吉村順三、三井安蘇夫、宮川ムツ、寺田春式、西木順、小池岩太郎、前田泰次、末田利一、六角頼雄、

野口三千三、櫻林仁、小口八郎、新村撰吉、後藤年彦、〔講師〕菅原安男、村田徳松、須田善二、上原之節、高田正二郎、田中芳郎、鈴木信一、山本學治、伊藤茂之、山口薫、川合清、牛島憲之、加山四郎、淀井敏夫、〔非常勤講師〕蒔田宗次、藏田周忠、黒崎静男、水谷武彦、佐藤隆三、豊田三郎、清水正雄、陋井勉、鈴木清、吉川逸治、伊藤要太郎、岩佐正夫、山上正太郎、石田啓、成川武夫、時岡弘、奥野吟右衛門、藏田藏、毛利登、明石龜太郎、加藤一

京都工藝繊維大学

本部 京都市上京区

北野 神社前

電 西陣 七五九一七六

工藝学部

京都市左京区松ヶ崎

御所 海道町

繊維学部

京都市上京区

大将 軍坂田町

電 西陣 六三二一、六三三二、四

明治三十五年三月設置された京都高等工芸学校は昭和一九年四月官制改正により京都工業専門学校と改称、更に昭和二十四年五月京都繊維専門学校と合併して京都工藝繊維大学工芸学部及び繊維学部となつた。京都工業専門学校は昭和二十六年三月廃止された。

〔工芸学部〕

機械工芸学科、建築工芸学科、色染工芸学科、窯業工芸学科、意匠工芸学科〔昭和29年増設〕

〔繊維学部〕

養蚕学科、製糸紡績学科、繊維化学科

学生定員は工芸学部各学科二二〇名、繊維学部各学科一六〇名〔但し意匠工芸学科八〇名〕とする。

〔学長〕 中澤良夫 〔工芸学部長〕 荒木長次 〔繊維学部長〕 山根義寛 〔美術関係教授・講師〕 河本敦夫、土居次義、向井寛三郎、福永俊吉、藤原義一、大倉三郎、高原道夫、白石博三、明石國助、霜島正三郎、須田國太郎、松田尚之、石原正雄、福田朝生、相川浩、松岡理、元井能、赤沢鏡太郎、今井重季、岩田順三、山田新一

京都市立美術大学

京都市東山区今熊野

電 祇園一五八、三二一

明治一三年七月京都御苑内旧准后里御殿を仮校舎として京都府画学校が開校せられ明治三二年二月京都市に移管の上、京都市画学校と改められ明治四二年三月京都市立絵画専門学校となり大正一五年現地に移転した。昭和二〇年京都市立美術専門学校と改称、更に昭和二五年新制大学令により京都市立美術大学となつた。京都市立美術専門学校は昭和二十七年三月廃止された。

〔学部及学科〕

美術学部 日本画科 一二〇名

西洋画科 一二〇名

彫刻科 四〇名

工芸科 一二〇名

図案専攻、陶磁器専攻

塗装専攻、染織図案専攻

専攻科

〔学長〕長崎太郎 〔教授〕神原安造、黒

田重太郎、須田國太郎、久松真一、金子光介、上野伊三郎、富木憲吉、松原厚、金尾音美、石村忠次、重久篤太郎、岡本午一、佐和隆研、谷田開次、上村信太郎、川端弥之助、中田勇次郎、辻晋堂 京都市立日吉ヶ丘高等学校 美術工芸課程

京都市東山区泉湧寺山内町 電 祇園 四一四二〇七一〇

明治一三年京都府画学校が設立され、その後同二四年に京都美術学校、二七年に京都市立美術工芸学校と名称を変えたが、更に昭和二三年京都市立美術高等学校となり、同二四年には京都市立日吉ヶ丘高等学校の総合制の中へ美術課程として併置された。

〔学科〕

日本画科

西洋画科

彫刻科

図案科

漆藝科

陶藝科

服飾科

〔校長〕小林儀三郎 〔職員〕勝田哲、天野大虹、川島浩、松下明治、錦義一郎、矢野判三、藤庭賢一、安田謙、笠岡嘉一郎、水内平一郎、平石晃祥、中島清、加藤英子、伊藤久三郎、上村健治、原照夫、田代誠、山中民子、寺井二三子

女子美術大学

杉並区和田本町八六〇

電 中野 九一〇

明治三三年本郷弓町に女子美術学校として創立された。後菊坂に移り、昭和四年専門学校に昇格女子美術専門学校と改称、同一〇年杉並に移転した。昭和二十四年四月新制大学として女子美術大学となつた。

〔藝術学部〕

洋画科

日本画科

図案科

工芸科

修業年限 四年。授業料年額一八、〇〇〇円。

〔学長〕佐藤達次郎 〔主要職員〕加藤成之、森岡喜三郎、石橋嘉一郎、村岡景夫、澤柳大五郎、西田正秋、坂崎坦、富永惣一、久野健、後藤守一、秋山謙藏、眞崎公一、川島理一郎、木下義謙、中山巍、森田元子、新道繁、佐々木四郎、高須靱子、春田安喜子、今井麗子、奥村土牛、三谷十糸子、後藤芳仙、大塚和、麻生秀二、新井泉、乗松巖、福田良一、由良玲吉、橋本徹郎、河野鷹思、松井直樹、上原之節、高田力之、桑澤洋子、柳宗悦、芹澤銚介、柚木沙彌郎、柳悦孝

多摩美術大学

世田谷区玉川上野毛町三三

電 二子 玉川 五六

昭和一〇年九月、北吟吉、牧野虎雄、杉浦非水、近藤清吾によつて多摩帝国美術学校が設立され、更に昭和二二年専門学校令による多摩造形美術専門学校となつた。昭和二五年新制大学令に伴い、三年制の短期大学として多摩美術短期大学と

改称したが、二八年度より四年制の新制大学となつた。

〔学科〕

絵画科（日本画、油画）

彫刻科（塑造、木彫）

図案科

修業年限 四年。

〔学長〕井上忻治〔学部長〕逸見梅榮
〔職員〕奥村土牛、郷倉千鶴、森白甫、新井勝利、島田訥郎、中村研一、宮本三郎、林武、鈴木信太郎、鈴木保徳、鈴木誠、大澤昌助、川端實、菊地精二、高橋庸男、長屋勇、佐々木大樹、笠置季男、末松正樹、早川巍一郎、圓鏑勝二、杉浦非水、山名文夫、吉田謙吉、今井兼次、芹澤銚介、木村和一、岩下洋

武蔵野美術学校

武蔵野市吉祥寺三二〇

電 武蔵野二四七二

昭和四年設立された帝国美術学校は同二二年造形美術学園と改称され、更に同二四年武蔵野美術学校となつた。

〔学科〕

日本画科

西洋画科

彫刻科

デザイン科

以上の入学資格は新制高校、旧制中学校卒業者

研究科

本校卒業程度以上

修業年限 四年。学生定員五〇〇名。

授業料年額一四、〇〇〇円。

〔校長〕丸山鶴吉〔教育部長〕名取堯

美術教育施設

〔主要職員〕服部有恒、川崎小虎、林武、三雲祥之助、鈴木信太郎、森芳雄、清水多嘉示、原弘、龜倉雄策、三林亮太郎、金原省吾、板垣鷹穂

附設図工科 教員養成所

修業年限二ヶ年（高校卒以上）

〔所長〕名取堯

〔中学図工二級免授与）

教職員は本校に同じ。

洋面通信教育部

本科・理論講座、実技講座、デザイン講座

職員は本部に同じ。

日本大学藝術学部

練馬区江古田町

電 落合 三三三七
三六九五

昭和六年専門部に藝術専攻科が設置されたのに始まり、昭和二四年新制大学となり、大学院も併置している。

〔藝術学部〕

美術学科

音楽学科

文藝学科

演劇学科

写真学科

映画学科

〔藝術学部長〕渡辺俊平〔美術学科主任教授〕山脇巖〔主要職員〕湯川制、櫻林仁、野口彌太郎、吉岡憲、澤健太郎、山本豊市、柳原義達、深瀬嘉臣、水谷武彦、三苦正光、富水惣一、吉田謙吉、田中一松、岡田謙、阿部公正、西川驍、高橋正年、鈴木太郎、麻生三郎、藤岡一、原弘

文化学院美術科

千代田区神田駿河台

電（東京29）二二七四一五

大正一一年西村伊作により一般の学校教育とは異なる自由教育を標榜して設立された。

〔美術科〕

〔夜間美術科〕

修業年限 二年。授業料年額一〇、〇〇〇円。材料費三〇〇〇円。

入学資格 旧制中学、新制高校卒業程度。及び同等の実力を持つ者。

〔日曜美術科〕

授業料年額五〇〇〇円。材料費一五〇〇円。

〔院長〕西村伊作

盛岡短期大学美術工藝科

盛岡市内丸六九

電 盛岡二七一

昭和二三年五月、絵画・彫刻及び工藝の両域に亘つて専門家・美術教育者及び市町村の工藝指導者を養成すると共に藝術を中心としての教養・技術によつて生産・文化に寄与するのを目的として岩手県立美術工藝学校が設立され、昭和二六年四月盛岡短期大学美術工藝科に昇格した。更に翌年従来の美術工藝学校を改組して岩手県立美術工藝高等学校が同地に併置された。初代盛岡短期大学美術工藝科長森口多里が岩手県立美術工藝高等学校を兼任している。

〔美術工藝科長〕堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

堀江越〔美術工藝科長〕

係教授〕森口多里、池田桃太郎、深澤省三、堀江越、深澤紅子、〔助教〕三鬼勤、奈知安太郎、佐々木一郎、〔講師〕小杉一雄、船越健次郎、高橋吉雄、橋本八百二、戸田芳鉄、小池岩太郎、松本總、手塚健二、〔専任講師〕三ヶ元正

岩手県立美術工藝高等学校

盛岡市内丸六九

盛岡短期大学美術工藝科参照。一般高等学校の学課規程に従い、その他専門学課と専門実習を課す。

〔学科〕

美術科（日本画専修、油絵専修）

工藝科（図案専修、木工専修、漆工専修、金工専修）

〔校長〕森口多里〔主要職員〕加藤英夫、松本總、池田龍甫、三ヶ元正、堀江越、海野經、深澤省三、深澤紅子、佐々木一郎、奈知安太郎、杉江康彦、三鬼勤、中島喜雄、戸田芳鉄、照井儀也、菅原圭三、手塚健二、小岡六平

金沢美術工藝大学

金沢市下本多町三番丁九

電 金沢③三五三〇、一

昭和二一年七月金沢美術工藝専門学校が設立され同一〇月開校した。同二五年金沢美術工藝短期大学（三年制）として発足、同三〇年更に金沢美術工藝大学となり初代学長に森田龜之助が任命された。

〔美術工藝学部〕

美術学科（絵画専攻、彫刻専攻）

産業美術学科（工業意匠、商業美術）

修業年限四年、入学資格高校生

〔学長〕森田龜之助〔教授〕野田九浦、和

田三造、高村豊周、小糸源太郎、吉田源十郎、畠山錦成、北出塔次郎、小松芳光、原田太一、高光一也、短幸成、板垣鷹穂、秋山光夫、五井孝夫、平野謙一、天川維文

〔実技研究所〕

【東京】
春陽美術研究所

事務所 大田区新井宿四ノ一
一〇一 三井永一方

昭和四年九月創立、春陽会の藝術活動の一翼として純粋美術を研究することを目的とする。実技指導、作品批評、講義講演等。入所資格は主として、春陽会々員、準会員、又は所員の紹介による。入会金五〇〇円。

毎月第三日曜日を研究会としクロッキ、作品批評及講演を行う。所員五〇円、臨時聴講者一〇〇円。〔指導者〕水谷清、岡鹿之助、加山四郎、中谷泰、三雲祥之助、南大路一他春陽会々員及準会員

日社研究所

会場 上野・桜亭
事務所 板橋区大谷口町一〇
四〇

昭和二五年創立、日本画の研究所、毎月一回研究会及び講演会を上野桜亭で開く。研究会費は全員年三〇〇円で入所資格は委員推薦による。〔指導者〕伊東深水、児玉希望、矢野橋村

青山絵画研究所

港区赤坂青山南町六ノ一〇八

昭和二四年一〇月創立、洋画図案の基礎技術の指導と藝大受験を目的とする。種目は石膏・人体クロッキ・油絵・水彩風景・静物で毎日午前九時―十二時、午後一時―五時、六時―九時の三部に別れ研究費は月六〇〇円。〔指導者〕辻永、小川傳四郎

光風会美術研究所

港区新橋田町一九 光風会館内
電 (東京59) 一七三二

昭和二七年創立、光風会々員指導の洋画実技研究所で、油絵、木炭素描の外西洋美術史、服飾研究の講習も行う。石膏部(午前)月五〇〇円、人体部(午後)月一〇〇〇円、クロッキ(夜間)六回券三〇〇円。〔指導者〕辻永、中村研一、寺内萬治郎、小糸源太郎、耳野卯三郎、小寺健吉他光風会々員、(代表者)淀橋区戸塚諏訪町一八 中澤弘光

第一美術研究所

文京区高田豊川町六〇 石川重信方 電 大塚一五〇一

昭和二二年創立。専門家及び中・小学生を含む洋画の実技研究所。種目はデッサン、油絵、水彩、クレヨンに亘り、毎週土曜日、月謝五〇〇円。〔指導者〕石川重信、高橋亮、谷井喜三郎、村上松次郎、野澤孝作、上原重和、埜忠

ブルヒ美術研究所

(文京絵画研究所改称)
文京区駒込千駄木町七
電 駒込一七九

昭和二七年一月創立。資格に制限なく絵画に興味を持つ人々が気軽に勉強でき

ることを目的としている。油絵、日本画、水彩画、パステル等の種目があり三部に分れている。石膏部月曜―土曜、午後(入会金三〇〇円、月謝四〇〇円、五回券一五〇円)人体部月曜―土曜、夜間(入会金三〇〇円、月謝五〇〇円、五回券一五〇円、五回券二五〇円)、臨時会員は一回五〇円、入会金不用。子供部日曜午前、木曜、土曜午後(週一回三〇〇円、週二回五〇〇円)

行動美術東京研究所

文京区富坂町一ノ二

昭和二一年六月創立。将来美術家を志す人、及び広く美術に親しむ一般の人々に解放し、基礎的研究と新しい美術に対する教養を高めることを目的とする。石膏部は日曜日を除き毎日午前と午後の部に分け、各部月謝五〇〇円。人体固定ポーズは月一金夜間、月謝七〇〇円。人体油絵は日曜日午後、クロッキは土曜日夜間。入会金各組共通五〇〇円。子供部は日曜日午前、月謝三〇〇円。〔指導者〕林是、櫻倉省吾、向井潤吉、其他行動美術協会々員

ナガハマ染彩画塾

文京区指ヶ谷町六〇
電 小石川一三八二

昭和二四年九月創立。皮革、布帛の染色全般に亘り本格的染色技術の指導を行う。毎日曜午前―一時―午後四時(一回二〇〇円) 研究科は随時で毎月一五〇〇円。毎金曜午後一時―四時クロッキ研究。〔指導者〕長濱重太郎、中村妙子

日本画院研究会

会場 都美術館を借用
本部 台東区谷中清水町一
望月春江方
電 駒込 三八一〇

昭和二四年四月創立。美術に関する教養を高め日本画制作上必要な技術を研究指導することを目的とする。入会資格は日本画の修得を志すもので日本画院同人

の推薦を経たる作家、尚研究会は主として下図作品を持ちより之に対し同人の講評、会員の互評を行う。其他美術に關する専門家の講演、見学並びに美術映画の鑑賞を行う。毎月一回開催。会費毎回五〇〇円。〔指導者〕岩田正巳、服部有恒、川崎小虎、野田九浦、望月春江、他同人

日本水彩画会研究所

台東区根岸小学校美術教室

事務所 中野区江古田一ノ二五
日本水彩画会 細島方

明治四〇年創立。男女、年齢、職業を問わず水彩画の指導を行う。毎週日曜日、九時―四時。石膏、人体、静物、風景、記名料二〇〇円。会費毎回八〇円。臨時参加一回一〇〇円。〔指導者〕石井鶴三、水野以文他日本水彩画会々員(主任)不破章、竹内梅治郎、(代表者)日本水彩画会幹事細島昇一

現代版画研究会

会場 新宿区笹筒町一五
(都立新宿生活館)
電 九段三六六七

事務所 杉並区高円寺三ノ一八〇

日本版画協会

昭和二五年創立。創作版画の普及を目的とし、特に初心者のために実技指導を行つている。太版を主とし一年間二回で太版を伝える。以後は随意出席。毎月第一土曜午後一時―四時、研究費一回五〇円、三回一〇〇円。〔指導者〕品川工、北岡文雄、關野準一郎、駒井哲郎、平塚運一、吉田政次、他日本版画協会々員

目白洋画研究所

新宿区下落合一ノ五二一
電 落合 五三一―三

昭和二六年五月創立。毎日午前、油彩夜間、裸婦クロッキー、一回七〇円。〔代表者〕 神保重義

中央美術研究所

新宿区戸塚町二ノ五四
杉 本 鷹 方

昭和二三年二月創立。年齢・資格を問はず一般に開放し、石膏、人体のデッサンから制作の指導に及ぶ。毎日午前は石膏、午後及び夜はモデル、日曜は午前午後ともモデルを使用する。入所費五〇〇円、石膏部三〇〇円、人体部午後部七〇〇円、夜・日曜部五〇〇円。

陶彫会研究所

中野区江古田二ノ九二八
瀧 川 美 一 方

陶磁彫刻の基礎的な技術の相互研究と

美術教育施設

併せて有為な陶彫家の育成のための実技指導を行うことを目的とする。クロッキー、塑像、型取、型起、釉薬、焼成。毎週土、日曜午前九時―午後四時。入所金五〇〇円。聴講研究費一日一回一〇〇円。〔指導者〕陶彫会々員

国画会美術研究所

杉並区上荻窪二ノ六〇
クローバー学院内
電 荻窪 五 七

昭和二六年五月創立。専門家、藝術大受験生及びアマチュアも含めた洋画の実技研究所で美術講義批評等も毎週行ふ。石膏、デッサン部は毎日午前九時―一二時、午後一時―四時の二回、月謝各七〇〇円。人体は土曜午前中。(一回五〇〇円)、月謝七五〇円。入会金一〇〇〇円。〔顧問〕梅原竜三郎〔指導者〕主任、川口軌外の他伊藤廉、大森啓助、大淵武夫、久保守、土田文雄、原精一等在京国画会員が毎週二名で交代指導。〔責任者〕武蔵野市境七、七、大淵武夫

谷美術学園

杉並区高円寺三ノ一八四

昭和二一年一月創立。男女年齢を問わず随時入所出来、個人的指導を行ふ。種目はデッサン科、工藝デッサン科、建築デザイン科、日曜科(一般児童)で、(午前部)九時―正午、(午後部)一時―四時、(夜間部)六時―九時。月謝各部七〇〇円。日曜は午前と午後の部に分れ月謝は各四〇〇円、終日五〇〇円。児童部は日曜

のみ。工藝家志望者は別教室で行ふ。入所金一〇〇〇円。〔指導者〕三輪孝、上原之節、佐藤功、井手宣通、小山清男、南政善、坪井秀雄外

新水彩作家協会研究所

杉並区上荻窪一ノ一三三
電 荻窪 六四六五
五 井 開 一 方

昭和二五年四月創立。基本的技術並びに水彩画一般についての指導を行ふ。石膏(木炭)、人体(木炭・水彩)水彩画研究の科目があり第一、第三の土曜・日曜。月謝五〇〇円。尚通信指導も行ふ。〔指導者〕五井開一、古郷八郎、前林章司、他同協会々員

創藝協会研究所

杉並区東荻町六九 神津
港人方 電 荻窪四四三

昭和二七年二月創立。石膏素描による基礎的写形を指導する。初学者向。毎週日・土の午前九時より正午迄。入所資格は一七歳以上の者で創藝協会々員の紹介あるものに限る。月謝七〇〇円。入所登録金一〇〇〇円。〔指導者〕神津港人

東京美術研究所

(全日本画人聯盟附属)
杉並区馬橋三ノ四二四

昭和二〇年四月創立。個人的指導により初心者のための実技を主とし併せて専門教育も行ふ。本科は二ヶ年で毎日九時―一時、月謝七〇〇円。他に専攻科一年、デッサン科、研究科があり、毎日、午前部月謝四〇〇円。午後の部、夜間部

月謝各五〇〇円。日曜部九時―五時月謝三〇〇円。入所金五〇〇円。またクロッキー部を設け毎日曜の午後、及び夜間モデルを使用(一回五〇〇円)。〔指導者〕土味川独甫、関根弘、鈴木正他全日本画人聯盟会員、外講師数名

光陽会研究所

北区上中里町一の一
多々 羅義雄方

明治三七年四月創立された太平洋画会研究所は昭和四年太平洋美術学校となつたが、同二〇年戦災によつて焼失した。研究所は同校再建までの暫定措置として設けられたが昭和二九年二月、光陽会創立と同時に光陽会研究所と改名した。美術学校入学準備、後進美術家養成を目的とする。石膏素描部、水彩・油絵部、人体部があり毎日午前九時―一二時。月謝は新制中学卒業以上。入所金三〇〇円。〔指導者〕多々羅義雄、井口勇、早川芳彦、齊藤武、間所一郎他一〇名

豊島絵画研究所

豊島区池袋三ノ一三九九
島 木 律 方

昭和二七年一月創立、誰にでも絵が描ける様にするのが目的で、デッサン、油絵を教える。月・火・水・木曜日、石膏、油。金曜日、固定ポーズ。土・日、クロッキー。昼夜二部制(時に変ることあり)月謝五〇〇円、クロッキー一回六〇〇円、児童部もある。

春日部水彩研究所

豊島区長崎五ノ三一
春日部九すく方

昭和二年創立。水彩画を専門とし、児童、専門家の別がある。毎土日曜日、月謝三〇〇円。〔指導者〕春日部たすく

新興美術院附研究所

豊島区目白町三ノ三五五九
電池袋 八九七一

昭和三年二月創立。学歴、年齢、男女を問わず一般に開放造型芸術の研究を行う。〔種目〕日本画科、デッサン科、余技、生活美術部、子供の画の勉強会（日本画科）午後六時—九時、月謝五百円、（デッサン科）午後六時—九時、一回五〇円、（余技）午前九時—十二時、月謝一〇〇円、（生活美術部）二時—五時、月謝三〇〇円、（子供の画の勉強会）二時—四時、月謝二〇〇円。〔責任者〕大橋嘉一

中央美術学園

杉並区善福寺町四八
郡山三郎方

昭和二年一月創立、通信教育を主とし、通学部はその中核として実施している。石膏デッサン及び人体写生等絵画一般を専門程度に教える。毎日午前、午後、夜間。年額一〇〇〇円、入園資格不問。〔指導者〕郡山三郎、清水多嘉示、児島善三郎、今泉篤男、田中一松

桑の実美術研究所

豊島区雑司ヶ谷一ノ三〇二
吉城弘方

昭和五年創立。一般及び幼児、小学生を含む洋画の実技研究所。種目は幼児部、クレオンパステル、水彩、小中学

部水彩、油彩、石膏デッサン、一般部、水彩、油彩、石膏デッサン、人体デッサン。研究時間 幼児毎日、小中学部、土曜午後、日曜午前、一般毎日五時—九時、日曜一時—六時。〔指導者〕吉城弘、北野満、田中宗雄、塚元正勝、その他太平洋画会会員、会友

江古田洋画研究所

練馬区小竹町二四四三
服部季彦方

昭和二年創立。洋画の基礎技術及受験目的の指導を行う。種目は石膏デッサン、油画、水彩其他で、「日時」受験科、本科毎日（除日曜）午前、午後、夜間。日曜科、小学生午前、一般午後（月謝）受験科、本科六〇〇円、入所金五〇〇円、日曜科午前二〇〇円、午後三〇〇円、入所金三〇〇円。〔指導者〕服部季彦

麗麗社研究所

練馬区大泉学園町七一八
平子聖龍方

昭和二年一月創立。余技、専門の区別を問わず指導する。種目及び指導者 日本画（平子聖龍）、毎日曜、一回一〇〇円。

双台社写実研究所

渋谷区代々木上原一三二〇
電 渋谷一三六〇

基礎技術の訓練に重きをおく。A・Bのクラスがあり、Aは素描、水彩、油絵。Bはクレヨン、パステル、水彩、油絵。Aクラスは高校生以上一般、毎日曜、月謝五〇〇円。Bクラスは小・中学生、毎土曜月謝三〇〇円。〔指導者〕石井柏亭、

平塚運二、荒谷直之介、他双台社会員、〔代表者〕石井柏亭

代々木絵画研究所

渋谷区代々木山谷二七七
本宮昭五郎方

昭和二年八月創立。初心者、Aクラスと習熟者のBクラスの二室に分け人体描写の習得に主眼をおく。児童部もある。午前九時—正午、又は午後一時—四時、月謝一〇〇円。夜六時—九時、月謝七〇〇円。日曜日午後（アマチュアクラス特設、一ヶ月四〇〇円）日曜夜間（特設クローキークラス、一回五〇〇円）。〔指導者〕平沢喜之助、秋野克彦

絵の教室

世田谷区松原町三ノ八〇五
昭和二年八月創立。素人を対象とする。油絵、水彩画、デッサン、クレパス、パステル画を教える。（子供）毎土曜午後毎日曜午前何れか一回月謝五〇〇円。（大人）月謝七〇〇円。〔指導者〕一水会々員 坂本正春

砧藝術会研究所

世田谷区砧町一三〇
中野秀人方

昭和二年一月創立。同会の趣旨は絵画を主とし文化一般の理解を高めることにある。人体デッサン、油絵、水彩、パステル。程度は初歩より専門家を含む。毎土・日曜、午後一時より、月謝二五〇円

田園調布純粋美術研究室

世田谷区玉川田園調布二ノ七
一三 電 田園調布二〇八九

昭和六年創立。太平洋画会委員河合斗潮他同会委員数人の指導による絵画並びに、染色の研究所。土（夜）日（成人、木金土（午後））—児童、月火水龍嶺部（顧問）熊谷守一

自由ヶ丘絵画研究所

目黒区自由ヶ丘二八九
昭和一五年四月創立。高校生以上のAクラス。小・中学生のBクラスの別がある。A—油絵、水彩、デッサン。毎日曜午後一時—四時。月謝四〇〇円（石膏）、五〇〇円（人体）。

近藤吾朗アトリエ

大田区田園調布一ノ一六
昭和二年創立。一般教養のための絵画教育を目的としている。種目は油画、水彩、素描に亘り、毎日曜午前一時—午後四時、月謝六〇〇円。児童は毎土曜の午後、月謝四〇〇円。〔指導者〕近藤吾朗

斗潮美術研究所

（旧河合美術研究所）
大田区久ヶ原町六四二
河合斗潮方

織田石版術研究所

武蔵野市吉祥寺桜小路一七三七
昭和二七年一〇月創立。石版術の普及を目的とし、入所資格はデッサンの出来る人。一ヶ月二回(午前九時―午後四時迄)月謝一五〇〇円。〔指導者〕織田一磨

【地方】

創型金彫製研究所

浦和市常盤町六ノ二二
中野四郎方 電 浦和
五三六七

事務所 世田谷区玉川奥沢町二
ノ一四九 森大造方

昭和二六年創立。モデルを使用してクッキー、塑像及び基本型体の構成と応用研究。入所資格は石膏像製作に多少経験あるもの。研究日は日曜と春夏冬の休暇〔指導者〕中野四郎、その他創型会同人

造形美術研究所

浦和市外与野町大戸四二八
手塚方 電 浦和二四〇二

昭和二六年一〇月創立。絵画、彫塑、造形理論、造形教育原理等、各部門に亘る基本的研究。その他、毎週、土曜、日曜児童、生徒の実技指導。〔研究所員〕手塚又四郎、田中修、飛岡文一、大坪實、石原英雄、大里光春、岡澤光雄、番匠宇司、染谷英五、星野祐二、磯谷猛、三森一伸、公榮源一郎、高野万年

藤画塾

埼玉県蕨町土橋四二〇五

昭和二二年四月創立。洋画の基礎教育を行い、デッサン、油絵、人体、受験の

美術観覧施設

各科に分れ、午前、午後、夜間(但夜間は日曜休み)部がある。〔月謝〕五〇〇円、寄宿舎がある。〔指導者〕寺内萬治郎、島野重之、金子徳衛、長谷秀雄
茨城綜合美術研究所
茨城県土浦市富士崎町四八六
昭和二六年一〇月創立。〔代表者〕鶴岡義雄、他。(昭和三〇年七月解散)
サロン・ド・ジュワン
名古屋研究所
名古屋市中区和区御器所町
五ノ三〇 真島建三方

名古屋研究所

名古屋市中区和区御器所町
五ノ三〇 真島建三方

昭和二七年三月創立。基本的な理論と技術の指導及び前衛的作品批評を目的とする。人体デッサン及び理論毎土曜日夜間、月八回毎週水、金の夜間。月謝五〇〇円。記名料三〇〇円入所資格制限なし。〔指導者〕真島建三
関西美術院
京都市左京区岡崎南御所町四〇
明治三九年三月創立。創立以来一派、一団体の機関とせず、流派を超えて後進養成に努めている洋画研究機関。研究生が主体となり委員互選で経営を行つてゐる。種目は洋画実技(素描、油絵)と専門学科(美術史、技法史、構図法等)の二つがある。洋画実技、人体は毎日午前九時―二時。石膏、静物写生は午前九時―午後五時。専門学科は随時研究会を催す。月謝は各科一〇〇円、(燃料費モデル費は別)資格制限なし。〔指導者〕黒田重太郎(研究所代表者)、川端彌之助、津田周平

関西美術院

京都市左京区岡崎南御所町四〇

京都市立京区川端丸太町下ル
和風書院内 電吉田二六八四
昭和二〇年六月創立。美術の研究のみならず美術運動を目的とす。夜間部は毎日曜、土曜、午後六時―九時。日曜部は毎日曜午前九時―午後四時、月謝は孰れも石膏が三〇〇円、人体四五〇円。クロッキ一部は毎月曜午後六時―九時、毎回四五円。他に学生部毎土曜午後二時―五時がある。〔指導者〕伊谷賢蔵、伊藤久三郎、福井勇、飯田清毅、(研究所代表者)保地謙哉
紫野洋画研究所
京都市上京区北大野町六八
山田新一方 電(呼出)西六五三三
昭和一〇年創立。創設者太田喜二郎の遺志をつぎ健全な基礎技術の指導を目的とする。石膏、人体デッサン部及びクロッキ一部一回五〇円、一ヶ月一七〇円。人体(油絵、水彩)部、午前、午後各六〇円、終日一〇〇円。何れも、日曜午前午後、金、土曜午後、夜間。木曜夜間。入所金五〇〇円。〔指導者〕山田新一、霜鳥之彦、坪井一男、由里明、富士一男
独立美術京都研究所
京都市下京区八条西酢屋町
四
昭和八年九月創立。毎日午後六時半―九時半、月謝七〇〇円。少年部は日曜午前及び午後。〔指導者〕須田國太郎、田中佐一郎、今井憲一
大阪市立美術館附設美術研究所
大阪市天王寺区天王寺公園
内(市立美術館)

電天王寺六一〇、四六〇・九

【東北地方】

本間美術館
山形県酒田市浜畑町一二
電 酒田一四二九

美術観覧施設

【東北地方】

本間美術館

山形県酒田市浜畑町一二
電 酒田一四二九

昭和二二年五月創立。地方文化に貢献するために旧本間家別邸を美術館として公開した。文書・陶器等東洋美術関係四〇〇点、油画・版画等西洋美術関係五〇〇点、有し、年平均二五回展覧会を開いている。運営は別に組織された酒田美術協会が當つてゐる。
〔館長〕本間祐介
〔観覧日〕月曜を除き、毎日午前九時―午後四時半
〔観覧料〕五〇円
致道博物館
山形県鶴岡市家中新町成一
電鶴岡一一九九
昭和二七年三月創立。維新後、藩校致

致道博物館

山形県鶴岡市家中新町成一
電鶴岡一一九九

昭和二七年三月創立。維新後、藩校致

道館廃止と共に、旧藩主酒井家邸内に図書研究所文芸堂を設け、各種郷土資料の研究調査公開を行つて来たが、昭和五年財団法人以文会の設立と同時にこれを継承し、更に同二七年博物館法により財団法人以文会立致道博物館となつた。古文書五六八点、甲冑二〇点、刀劍三四点、書画数一〇点、考古学資料二〇〇〇点等を有し、美術展・文化史展等を開き、郷土文化の向上を図り資料の保管陳列等を行つてゐる。

〔館長〕 犬塚又太郎
〔観覽日〕 毎日午前九時—午後五時
〔観覽料〕 展覧会の規模に応じて之を定める。

上杉神社稽照殿
山形県米沢市南堀端町三六
電 米沢一七三〇
大正一一年四月創立。上杉神社祭神謙信公及び鷹山公の遺品を収蔵。絵画、工藝品及文書約五〇〇点
〔観覽日〕 希望に応じて随時開館
〔観覽料〕 三〇円

掬粋巧藝館
山形県小松町二九一一
昭和七年四月創立。財団法人組織。學術参考資料として支那、朝鮮及日本の古陶磁約五〇〇点を陳列公開する。
〔館長〕 井上庄七
〔観覽日〕 四、五、六、七、九、一〇の六ヶ月間、毎日午前一〇時—午後三時
〔観覽料〕 無料

中尊寺護衛藏
岩手県西磐井郡平泉町

電 平泉四

昭和三〇年五月三日竣工開館。一字金輪仏、大日如来、釈迦・弥陀・薬師の丈六仏、千手観音等の仏像を始め藤原四代副葬品及び多数の経巻、工藝品、古文書類に至る国宝重文を収蔵展観する。又同寺境内に金色堂(国宝)、経蔵(重要文化財)がある。
〔観覽日〕 四月—一〇月(午前八時—午後五時) 十一月—三月(午前八時半—午後四時)
富藤報恩会博物館
仙台市大聖寺裏門通三
電 仙台②四七七

大正一二年二月創立。大正一二年文部省認可となり昭和八年に開館一般公開した。昭和二〇年戦災を受けたが二三年修理再開した。東北地方の自然科学資料、文化史資料を陳列する。
〔館長〕 齋藤養之助
〔観覽日〕 月曜日を除き毎日
〔観覽料〕 一〇円
〔関東地方〕

茨城県立美術館
茨城県東茨城郡磯浜町東光台
電 磯浜一七六
昭和二二年五月創立。新憲法公布を記念して設立され、美術思想の普及向上を図る目的を以て展覧会・講演会等の事業を行つてゐる。日本画・洋画・彫刻・工藝の所蔵品がある。
〔館長〕 沼里俊

〔観覽日〕 四月—一〇月(午前八時—午後五時) 十一月—三月(午前九時—午後四時)

後四時)

〔観覽料〕 一五円
笠間町立美術館

茨城県西茨城郡笠間町
佐白山麓公園内
電 笠間四一

創立昭和二五年一月。県内外に存在する国宝指定の仏像の複製(石膏)を保存し、且、国宝仏像管理寺院の照会及び参観視察の便宜を計る。複製仏像の所蔵約一一点、他に随時絵画展なども行う。
〔館長〕 榎並栄

〔観覽日〕 毎日午前八時半—午後五時
〔観覽料〕 二〇円
鹿島神宮宝物館
茨城県鹿島郡鹿島町宮中
電 鹿島九

甲冑・古文書等鹿島神宮の宝物を陳列。
〔観覽日〕 毎日午前八時—午後五時
〔観覽料〕 一般一〇円、学生五円
日光宝物館
栃木県日光市山内
電 日光一一四

大正四年五月東照宮三〇〇年祭記念事業として建設され、東照宮、二荒山神社、輪王寺所蔵の宝物類を陳列し、江戸時代の工藝品が多い。
〔観覽日〕 毎日、四月—一〇月午前八時—午後五時、十一月—三月午前八時—午後四時
〔観覽料〕 二社一寺の殿堂拝観料一〇〇円中に含まれ、本館のみものはない。

【東京】

東京国立博物館

台東区上野公園
電 駒込三七一—一五

創立は明治五年正院に於ける博覧會事務局の設置に始まり、其後同局を博物館と改称し内務省の管轄に付したが同一四年農商務省へ移管となり、事務所(当時博物館と称す)を上野の旧寛永寺本坊跡に移転し翌一五年同所に新築の本館を開いた。一九九年宮内省管理となり二二年帝國博物館と改められ、歴史、美術、美術工藝、工藝、天産の五部を設け、三三年帝室に改められた。天産部は大正一四年文部省に移管された。大正天皇の御成婚記念として造営された表慶館は明治四一年に竣工した。昭和一二年従来の歴史課、美術課を廢し列品課に改め、別に学藝課を新設した。陳列本館は震災に大破し、其の後表慶館を列品陳列に充てたが今上陛下の御即位記念事業である帝室博物館復興顕贊會の復興大工事が昭和一二年に竣工し、同一三年一月開館された。昭和二二年五月帝室博物館は文部省国宝調査室、同保存修理室及び美術研究所と合併し、文部省の管轄の下に国立博物館として発足した。陳列課、事業課、調査課、保存修理課、資料課、監理課、附屬美術研究所の六課一所制をとり、奈良帝室博物館は国立博物館奈良分館と称することとなつた。ついで昭和二五年八月文化財保護法が制定実施され、さきに国立博物館に合併された調査課、保存修理課は文化財保護委員事務局保存部に入る

こととなつて再び博物館から離れ、美術研究所も分離し、博物館は文化財保護委員会の附屬機関となつた。その内部組織は館長、次長の下に新に庶務、学藝の二部を設け、庶務部には管理、会計、普及の三課、学藝部には美術、工藝、考古、資料の四課をおき、また諮問機関として国立博物館評議員会を設置し、奈良分館には分館長の下に庶務、学藝、普及の三課が置かれたが二七年四月文化財保護法の一部改正にともない、当館は東京国立博物館と改称され、更に同年八月当館附属の奈良分館は奈良国立博物館となつて東京国立博物館から分離した。(二二七、二四八、二五四頁参照)

建物は地上二階、地下二階、総面積六五二二坪、鉄骨鉄筋コンクリート造りの東洋風建築である。

又構内には九条道秀及び益田孝より夫寄贈され、昭和一年閉館された九条館及び応挙館がある。前者はもと京都御所内九条邸にあつたもので伝山楽山雪筆の四季楼閣山水図の画かれた床張付、襖等があり、後者には圓山應舉筆の壁張付、襖等がある。その他茶室六窓庵、校倉等の建物がある。

〔館長〕 淺野長武 〔次長〕 田内静三
〔部長〕 (庶務) 深見吉之助 (学藝) 石田茂作 (課長) (管理) 山田秀吉 (會計) 出牛清次郎 (普及) 野間清六 (美術) 石沢正男 (工藝) 蔵田蔵 (考古) 矢島恭介 (資料) 岡田護

〔評議員〕 宇佐美敦、上野直昭、梅原末

美術 観覽施設

治、河原春作、小泉信三、小宮豊隆、坂本太郎、洪沢敬三、杉榮三郎、原田淑人、藤懸静也、藤田亮策、三矢宮松、和辻哲郎
〔観覧日〕 月曜日、年末年始を除き、三月一十月午前九時一午後四時半、十一月一二月午前九時一午後四時

国立近代美術館

中央区京橋三ノ一
電 京橋 八三三―五
五七七八

昭和二七年八月一日創立、一二月一日開館。建物は旧日活会館を買上げ、建築家前川國男に依頼して改装した。(二五八頁参照)

敷地 一六九坪

建坪 総坪数五〇九坪(鉄骨鉄筋コンクリート)、各階九四坪(地上四階、地下一階) 屋外展示場一六坪、車庫二二坪
〔観覧日〕 一月四日から二月二八日迄。午前一〇時一午後五時、但し夏期は午前一〇時一午後六時。毎月曜休館。
〔観覧料〕 大人五〇円。学生三〇円、小人二〇円

〔館長〕 岡部長景 〔次長〕 今泉篤男
〔庶務課長〕 原敏夫 〔事業課長〕 河北倫明

〔評議員〕 一万田尚登、石橋正二郎、細川護立、大谷竹次郎、岡安彦三郎、河原春作、鍋木清方、高橋誠一郎、竹尾式、團伊能、上野直昭、山下新太郎、矢代幸雄、安井會太郎、松田權六、藤山愛一郎、淺野長武、齋藤知雄、坂崎坦、岸田日出

刀

〔運営委員〕 岩動道行、池田義信、飯島正、富永惣一、和田新、嘉門安雄、吉川逸治、瀧口修造、村田良策、牛原彦彦、宇野俊郎、野間清六、隈元謙次郎、山田智三郎、前川國男、清水晶、島崎清彦、土方定一、關野嘉雄

東京都美術館

台東区上野公園
三七二六―一七、
四八九六

大正一〇年平和博覧会記念事業期成実行会によつて東京に永久的美術館の設立が建議され、佐藤慶太郎の百万円の寄附及び大正一三年皇太子殿下御慶事に際し宮内省より現敷地約四〇〇坪の無償貸与によつて、大正一三年九月起工、同一五年四月竣工した。五月聖徳太子奉讚美術展を開館記念として開催した。昭和四年東京府より約四〇万円を支出して別館を増築した。昭和一八年旧称東京府美術館を東京都美術館と改めた。

〔館長〕 早川治平 〔副館長〕 田中靖孝 (主事) 柿沼春雄、田栗貞留子、友部隆治 〔顧問〕 川合玉堂、横山大觀、鍋木清方、松林桂月、川端龍子、北村西望、奥村土牛、結城素明、安田靉彦、小林古徑、野田九浦、前田青邨、中村岳陵、平柳田中、松田權六、板谷波山、岩田藤七、豊道春海、海野清、藤井浩佑、内藤伸、齋藤知雄、朝倉文夫、佐藤清藏、小杉放庵、和田三造、安井會太郎、山下新太郎、和田英作、石井柏亭、中澤弘光、辻永、有島生馬、梅原龍三郎、石井鶴三、上野直昭、吉田五十八、齋藤隆三、

尾上榮舟、川島理一郎、高村豊周、中村研一、山口蓬春、吉田三郎

〔参与〕 伊東深水、吉岡堅二、兒玉希望、郷倉千毅、望月春江、石川寅治、猪熊弦一郎、東郷青児、田崎廣助、中山巍、木村莊八、小糸源太郎、宮本三郎、中野和高、山本豊市、藤野舜正、大須賀喬、山崎覺太郎、柳田泰雲、西川寧、嘉門安雄、谷信一

一、東京都美術館処務規程(略)
二、東京都美術館顧問及び参与規程
第一条 東京都美術館(以下館という)に顧問及び参与若干人を置く。都教育委員会がこれを委嘱する。
第二条 参与の任期は二年とし、再任を妨げない。

第三条 顧問及び参与は館の運営について館長の諮問に応ずる。
第四条 館に常任参与若干人を置くことができる。参与の中から都教育委員会これを委嘱する。

附則
この規則は、昭和二十二年四月一日からこれを施行する。

附則 (昭和二十五年教育委員会規則第七号)
この規程は、公布の日から施行する。

東京都美術館使用条例
第一条 東京都美術館(以下館と称する)は、次の目的を有する者にこの条例によつて使用せしめる。

一、美術についての創作の展覧
二、新古美術品の陳列
三、その他美術についての事業

前項各号の使用者がない場合に限り
芸術等の会に臨時に使用せしめること
ができる。

第二条 館を使用しようとする者は、別
に定める様式によつて、要項を記して
館長の承認を受けなければならない。

第三条 前条によつて承認を受けた者
は、使用料を前納しなければならない。
但し、特別な事情があると認めるとき
は、相当の保証人を附け又は保証金を
納めさせた上後納を許すことがある。

第四条 使用料は左の範囲で都教育委員
会がこれを定める。

一、全館(本館地階陳列室を除く)使用
の場合 一日 一万二千円以内

二、一部使用の場合 一分区

一日 四千円以内

三、本館地階陳列室使用の場合

一分区 一日 八百円以内

四、会議室使用の場合

一日 一千円以内

五、小講堂使用の場合

一日 一千円以内

六、備付器具使用の場合 一個

一日 百五十円以内

部屋の模様替その他の設備を必要とす
るときは、館長の承認を受けてその実
費を納めなければならない。

看守、受付、下足等については、使
用者がその費用によつてこれを施設し
なければならない。

第五条 館の使用の承認を受けた後これ
を他に転貸することはできない。

第六条 既納の使用料はこれを還付しな

い。但し左の場合はその一部又は全部
を還付することができる。

一、不可抗力によつて指定の場所を使
用することができないとき。

二、館の都合によつて使用承認を取消
したとき。

第七条 使用者が切符売場その他特別の
設備をしようとするときは館長の承認
を受けなければならない。

第八条 使用者が館についての諸規定及
びこれに基いてする館長の指示を遵守
せず又は公安風紀を紊る虞があると認
める場合には、館長は、使用者に対し
てその使用の承諾を取消することがあ
る。

前項の処分によつて使用者に損害が
生ずることがあつても、館は、その賠
償の責を負わない。

第九条 使用者が使用を終り若くは使用
を中止したとき又は使用の承認を取消
されたときは、速かに使用の場所を原
状に回復し館長の検査を受けなければ
ならない。

第十条 故意又は過失によつて建物及び
使用物を汚損し又は毀損した場合は、
使用者はその賠償の責を負わなければ
ならない。

第十一条 館長において必要と認めると
きは、使用者に対して臨機の指示をな
すことができる。

第十二条 この条例施行に必要な細則は
都教育委員会が定めることができる。

附 則 (昭和二十七年
 法令第二十四号)

この条例は昭和二十七年四月一日から
施行する。

東京都美術館使用規則(略)

演劇博物館

(早稲田大学坪内博士記念)

新宿区戸塚町一ノ六四七

早稲田大学内

電九段八五八一—一六

昭和三年一〇月創立。坪内逍遙の古稀
の賀及びシネークスピア全集翻訳完成を
記念して学界、芸能界其他有志数千名の
拠出により創立、昭和三年一〇月開館し
た。西洋、日本の演劇に関する参考資
料、文献を蒐集陳列して一般の観覧に供
する一方、附属演劇図書館をもち、演劇
研究及び調査の指導並びに受託など演劇
文化の向上発展に資するを目的としてい
る。早稲田大学の管理に属すが公共機関
として一般に無料で公開されている。季
刊「演劇博物館」を発行。

〔館長〕 河竹繁俊 〔観覧日〕 毎日午
前九時—午後四時。休館は毎月曜及び祭
日の翌日、年末年始の他八月。

東洋美術陳列館

(早稲田大学附属、会津博士記念)

新宿区戸塚町、早稲田大学内

電 九段一七八七

昭和九年会津八一により早稲田大学内
恩賜記念館内に創立された。同二〇年戦
局非となり、列品の大部分を疎開した
が、一部は疎開中戦災に遭つた。二三年
図書館内の旧貴重室に一部を陳列、二九
年一〇月学生会館隣設の新館に移り開館
した。本学名譽教授会津八一の収集した

各種美術品を陳列し、同氏の学藝に対す
る功績を記念する。中国各時代の明器最
も多く、中国、日本の古代瓦・銅鏡・仏
像、書道名蹟拓本等を主な収蔵品とす
る。本大学関係者及び特別希望者のみに
無料で観覧させている。

〔観覧日〕 毎週、月・水・金曜日。午
前九時—午後四時

大倉集古館

港区赤坂葵町三

電 赤坂七八一

大正六年八月創立。財団法人大倉集古
館は其の土地、建物、蒐集品、維持資金
等悉く故大倉喜八郎がその授産記念とし
て寄附したものである。創立当時土地四
八二五坪、建物延一〇六四坪、美術品三
六九二点、書籍一五、六〇〇冊であつた
が大正一二年の大震災で蒐集品の大部分
を焼失、大正一五年再び大倉男の寄附に
より現在の陳列館を起工、焼失を免れた
蔵品を基礎に多数の新収品を加え昭和三
年八月開館した。本館は鉄筋コンクリー
ト銅葺屋根延三三七坪の支那風建築であ
る。絵画は毎月陳列替を行い、彫刻、
工藝品等は三月月一六ヶ月で陳列替を行
う。

〔館長〕 大崎新吉

〔理事長〕 門野重九郎 〔理事〕 大倉
喜七郎 大崎新吉 〔評議員〕 門野重九
郎 大倉喜七郎 大倉喜六郎 大崎新吉
大倉彦一郎 吉武一雄 藤田武雄 伊藤
勇一 横田保

〔観覧日〕 四月—九月午前九時より午
後四時迄、一〇月—三月午前一〇時より

二八六

午後四時迄、但毎月曜、天皇誕生日、憲法記念日、勤労感謝の日、年末年始は休館

〔観覧料〕 無料
書道博物館

台東区上根岸町一五五

昭和十一年一月創立。財団法人書道博物館は故中村不折が四〇年に亘つて蒐集した書道に関する参考品一二、〇〇〇余点を以て昭和十一年一月開館した。

〔館長〕 中村丙午郎

〔観覧日〕 月曜を除き毎日午前九時—午後四時
〔観覧料〕 五〇円

東京文庫

文京区駒込上富士前町一四七

電 大塚〇二二九、〇六八八

大正六年九月岩崎久彌が前中華民國総督府顧問ジョージ・アーネスト・モリソンより購入したモリソン文庫を核心とし、其後更に東洋に関する諸書の蒐集を行つたもので現在の場所にて文庫を新築し大正十三年一月財団法人組織とし東洋文庫と称した。文庫の敷地、建物、図書其他一切の設備は岩崎の寄附によるものである。終戦後文庫の図書部は国立国会図書館の支部東洋文庫として運営されることとなり、研究部は従前の如く財団法人にて経営されている。事業としては前記の如く東洋関係の図書を蒐集し閲覧に供することにも東洋学の研究上有益なる研究、図書の出版、稀覯書の複製をなした講演会、展覧会等を行い、また欧米少壮東洋学者の留学をも補導している。

〔文庫長〕 岩井大慧〔理事長〕 細川

美術観覧施設

設立〔理事〕 和田清 有光次郎 徳川宗敬 澁澤敬三 小倉正恒 山本達郎
〔監事〕 岡東浩〔観覧日〕 日曜以外毎日午前八時半—午後四時半、但毎月曜、午後閉館
〔観覧料〕 無料

日本民藝館

目黒区駒場八六一

電 渋谷五九一

昭和十一年一月創立。民藝品の蒐集並に常置陳列を行い、地方民藝の指導と開発に当るを目的とす。蒐集の事業は大正一五年に始められたが、昭和十一年一月大原孫三郎の寄附によつて建物完成し、一二月財団法人組織となつた。

〔館長〕 柳宗悦〔観覧日〕 月曜日を除き午前一時—午後四時、但八月、一月、二月休館
〔観覧料〕 一〇〇円、学生五〇円

根津美術館

港区赤坂青山南町六ノ一一五

電 赤坂二五三六、二五八七

昭和十一年一月創立。根津嘉一郎の蒐集なる東洋美術品と邸宅庭園を、翁の政後その遺志により寄附を受け財団法人根津美術館として設立し、翌一六年一月開館第一回展を開いた。以後、春秋二季の特別展覧と年数回の小展覧を行つてきたが第二次大戦により建物焼失したので二八年一月より早大教授内藤多仲、今井兼次の設計による鉄筋コンクリートの和風総坪数一九六の陳列館を新築、三〇年一月八日より常置陳列の美術館として開館、主な収蔵品は仏画、水墨画、写経、茶器、中国古銅器等。

〔館長〕 河西豊太郎〔主事〕 依田太郎〔学藝員〕 酒井千尋、奥田直栄、観覧日〕 毎月一日より二五日迄、午前一時—午後四時、年末年始、月曜日及祭日の翌日休館

〔観覧料〕 四〇円、小人二〇円

ブリヂストン美術館

中央区京橋一ノ一

電 京橋六三一七

昭和二十七年一月開館、石橋正二郎によりブリヂストンビルの一階に創設された常設美術館で、所蔵の西洋及日本近代の油絵、彫刻を主として陳列する。

〔顧問〕 和田英作、細川護立、淺野長武〔参事〕 上野直昭、入間野武雄、大原總一郎、久保良次郎、矢代幸雄、松本栄一、福島繁太郎、秋山光夫、今泉篤男、河北倫明〔運営委員長〕 團伊能

〔運営委員〕 石橋幹一郎、猪熊弦一郎、富永惣一、嘉門安雄、谷信一〔主事〕 岩佐新〔観覧日〕 月曜を除き午前一時—午後五時半。七、八月に限り日曜休館。

〔観覧料〕 五〇円

牧野記念館

〔駒馬高等学校美術館〕

目黒区上目黒八ノ六六〇

都立駒場高校内

電 渋谷二〇〇八

昭和二十五年七月創立。故牧野虎雄の遺作油絵七七点、スケッチブック一〇冊、海外名画複製（一九世紀から現代まで）約四〇点収蔵。春秋二回特別展覧を行

い、他は生徒作品展をはじめ内外ボス

ター、工芸、デザイン、古美術、書、及び各美術大学作品展等年間を通じ開催。

〔観覧日〕 希望により随時開館

〔観覧料〕 無料

明治神宮宝物殿

渋谷区代々木外輪町

電 澁橋一六六、一一七

大正一〇年一月開館。明治神宮儀式課の所管で、明治天皇、昭憲皇太后の御物を保管陳列する。

〔観覧日〕 四月—九月 毎日午前八時半—五時、十一月—三月午前九時—四時

〔観覧料〕 三〇円

大東急記念文庫

目黒区上目黒七丁目一〇九四

電 渋谷七三七、七三

東京急行電鉄株式会社取締役会長五島慶太が旧久原文庫を購入し、大東京急行電鉄の一大組織を現在の東京急行・京浜急行・京王帝都・小田急の四電鉄と東横百貨店の五社に分離の際に、その記念事業の一つとして、五社の協力のもとに昭和二十四年四月財団法人組織の本文庫を設立したもの。本文庫にはあらゆる種類の古写本・古板本一千余点を蔵し、すでに国宝・重文に指定されているもの一〇数点を含んでいる。昭和三〇年九月初旬東横百貨店に於て、その一部を初めて展覧公開したが、近々一般に公開される予定。

〔神奈川〕

金澤文庫

横浜市金沢区金沢町二二七

電 長者町九〇六九

昭和五年八月再建。史蹟金沢文庫及び

称名寺に収蔵する書籍その他の文化財を
襲蔵し、又図書記録の類を蒐集保存して
一般に閲覽させる。金沢文庫は鎌倉中期
北条実時が蒐集した和漢書を納れるため
に創建し、鎌倉末期迄四代に亘つて経営
された。その後一時称名寺によつて保管
されたが、昭和五年御大典記念事業とし
て神奈川県が現在の文庫を再建した。

〔文庫長〕 熊原政男

〔観覧日〕 毎月末日、年末年始を除
き、毎日午前九時—午後四時半

〔観覧料〕 二〇円

神奈川県立近代美術館

神奈川県鎌倉市雪ノ下一〇

五二 電 鎌倉二五〇〇

昭和二六年一月開館。建物は坂倉準
三の設計による。近代美術だけでなく、
凡ゆる美術を新しい観点から展覧する。

〔館長〕 村田良策 〔副館長〕 土方定

一 〔運営委員〕 安井曾太郎、内山岩太

郎、伊東深水、木下孝則、小山富士夫、

中村岳陵、坂倉準三、佐藤敬、富永悠

一、山口蓬春、吉川逸治、山田智三郎、

近藤市太郎、田辺至、三上次男

〔観覧日〕 毎月曜を除き午前九時—午

後四時、但土、日曜日午後四時半

〔観覧料〕 六〇円、学生四〇円

鎌倉国宝館

神奈川県鎌倉市雪ノ下一

三四 電 鎌倉七五三

昭和三年四月創立。主に鎌倉を中心と

する社寺及び個人寄託の古美術品を収蔵
展覧する。年約四回特別展開催。

〔館長〕 渋江二郎

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時、

年末—二月二七日—三一日休館

〔観覧料〕 二〇円

鶴岡八幡宮宝物殿

神奈川県鎌倉市雪ノ下一

〇五一 電 鎌倉三一五

鶴岡八幡宮に伝来する神宝・刀剣・武

具・工芸品等社宝の一般展覧をなす。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

長尾美術館

本館 神奈川県鎌倉市深沢町

笹田一六三七

電 鎌倉九二二三

分室 世田谷区深沢町四ノ一

三二二

電 世田谷一九八六一七

昭和二年五月創立。財団法人組織、

長尾欽彌の蒐集による絵画・陶磁器その

他美術工芸品を保管公開展覧する。毎年

春秋二季特別展覧を行う。

〔理事長〕 長尾欽彌 〔理事〕 草間時

光、村田五郎、木内四郎、太田耕造、井

上清一 〔監事〕 清瀬三郎

箱根神社宝物殿

神奈川県足柄下郡箱根町

元箱根 電 箱根町三一

明治四〇年六月創立、現在の建物は昭

和九年に新設された。同社所蔵の古美術

品、古文書等を展覧する。

〔観覧日〕 毎日、四月—一〇月午前八

時—午後五時、十一月—三月午前九時—
午後四時

〔観覧料〕 二〇円

箱根美術館

神奈川県足柄下郡宮城野村強羅

電 箱根宮ノ下 五〇三

昭和二七年六月創立。世界救世教々主

岡田茂吉によつて設立され、財団法人東

明美術保存会箱根美術館として広く美術

品を蒐集し一般に公開する。常設展の他

に毎年各種の特別展並に箱根夏期美術講

座等開催。

〔理事長〕 阿部晴三

〔観覧日〕 四月一日—一月三〇日

迄、午前九時—午後五時（休日なし）

〔観覧料〕 普通観覧料一〇〇円。

〔中部地方〕

三島大社博物館

静岡県三島市伝馬町一

電 三島一七二

昭和五年三月創立。三島大社所蔵の宝

物を始め郷土出土品等を陳列する。刀

剣三八点、古文書一四二点、工芸器物四三

点。

〔館長〕 矢田部盛枝

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 二〇円

久能山東照宮宝物館

静岡市根古屋三八九

大正三年三月宝物館を新築し現在に及

んでいる。家康公遺品等徳川歴代將軍の

武具刀剣類四〇〇点を陳列する。

〔観覧日〕 午前八時—午後四時 初穂

料として三〇円以上奉納せる者のみ拝

観させる。

身延山宝物館

山梨県南巨摩郡身延町

電 身延山二、三

大正一五年五月創立。日蓮宗宗門に関

する歴史考古資料其他を公開する。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 三〇円

上田市立博物館

長野県上田市新参町

昭和四年九月創立の上田徴古館が昭和

二九年四月より市立博物館として新発足

した。旧上田城南北、西三基の櫓内

に郷土資料を陳列公開する。

〔館長〕 小林六雄

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時、

毎月曜休館。

〔観覧料〕 一〇円

諏訪市美術館

長野県諏訪市大字上諏訪中

浜町 電 諏訪一二一七

昭和二五年八月創立。従来片倉会館の

一部として諏訪湖畔にあり、懐古館と呼

ばれ、諏訪地方出土の考古学参考品を陳

列し、時に応じ各種展覧会場として利用

されてきたが、昭和二五年八月二八日、

片倉家より諏訪市に寄附され、諏訪市公

民館併設として今日に至る。油絵・水彩・

版画等を収蔵している。

〔館長〕 兼務 宮坂完一

〔観覧日〕 毎日

松本市立博物館

長野県松本市二の九三

電 松本二三三

長野県に關する山岳、自然科学、考古、民俗、歴史、美術に關する資料を蒐集陳列し地方文化の向上を計り、学校教育に資する。山岳民俗資料に重点を置く。

〔館長〕 本郷巴津男

大観進宝物館

長野市元善町四九二のイ

電 長野二四六〇

明治四〇年創立。大正七年増設、寺室約一五〇点を收藏、参拝者、信徒に拝観させることを目的とする。

〔館長〕 内田純考

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 一〇円

北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越村大字

沢海 電 横越一番甲

昭和二〇年一〇月創立、旧伊藤文吉邸とその所蔵品を基として、財団法人組織により、美術、民俗、考古、郷土資料、農業資料等を展示公開する。

〔館長〕 伊藤文吉

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後五時

〔観覧料〕 二〇円

富山県高岡市古城公園内

電 高岡二六六六

昭和二六年八月創立。主として郷土出身作家の作品を所蔵陳列する外地方展及特別展を開催している。日本画、洋画、工藝、彫刻、書等現代美術約三〇〇点。

〔館長〕 中條豊治

美術 観覧施設

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後五時
〔観覧料〕 無料
徳川美術館

名古屋市中区徳川町

電 名古屋東六六二六

昭和六年二月財団法人黎明会により設立され昭和一〇年一月開館。尾州徳川家伝来の美術品、古文書等を保存し展観する。絵画、彫刻、工藝品外約一万点。

〔館長〕 熊澤五六

〔観覧日〕 年末、年始を除き毎日午前九時―午後四時〔観覧料〕 三〇円

愛知県文化会館美術館

名古屋市中区久屋町(栄公園内)

電 東五一一一二

昭和二九年二月創立、三〇年二月開館。鉄骨鉄筋コンクリート四階建、二八室、計一六四四・四坪。国際美術の消化、国内美術の交流、産業美術の進展及び郷土美術文化の振興を図るを旨とする。各美術団体の地方巡回展、特別展等を開催。

〔館長〕 (事務取扱) 桑原幹根、美術科(館) 科長 太田三郎

〔観覧日〕 午前九時―午後五時

〔観覧料〕 展覧会により異なる

〔近畿地方〕

神宮徴古館

伊勢市倉田山

電 伊勢二六四四

当館は、神宮司庁で経営する歴史・美術博物館で、神宮農業館とともに、はじめ財団法人神苑会によつて設立せられ、明治四四年神宮に献納された。神宮の撤下御妻束神宝類をはじめとして、神宮崇

敬を物語る歴史参考品及び現代美術を収蔵し、一般に公開する。昭和二〇年戦災により焼失したが、同二八年一月第五九回神宮式年遷宮附帯事業として同所に新築開館した。

〔館長〕 神宮少宮司 秋岡保治(主幹心得) 西川元泰

〔観覧日〕 一月一日―二月二八日午前八時半―午後四時半

〔観覧料〕 神宮農業館ともに三〇円

三重県立博物館

津市広明町、津市偕樂公園内

電 津二二八三

昭和二八年六月創立。現在のところ、殆んど収蔵品なく、借受品にて特別展を中心に展観事業を行つてゐる。

〔館長〕 梅田育太郎

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後四時

〔観覧料〕 一〇円、学生五円

熊野速玉神社宝物館

和歌山県新宮市新宅

電 五三三三

明治四〇年創立。主として鎌倉より室町に至る美術品数百点を収蔵、展観する。

〔館長〕 上野殖

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後四時

〔観覧料〕 五〇円。

滋賀県立産業文化館

大津市東浦一番町

電 六一九一

昭和二三年一月創立。開館当初は同一建物内に博物館的な業務と物産陳列所的なものの二棟を併設していた。

昭和二九年六月隣接地に滋賀会館が建

設されて物産陳列部門は同会館内に移し本館は純美術博物館として内容を充実し、又これと同時に階下の一室に民俗資料室を設けている。鉄筋コンクリート二階建。古画並びに本県出身近代画家の作品、書蹟、工藝品、考古・民俗資料等約一九〇点を収蔵。

〔館長〕 草野文男

〔観覧日〕 年中無休 午前八時半―午後四時半〔観覧料〕 無料

〔京都〕

京都国立博物館

京都市東山区大和大路通

七条上ル 電 祇園五四

明治二二年五月宮内省達を以て図書寮附属博物館が廃止され帝國博物館、帝國奈良博物館と同時に帝國京都博物館が設置された。二五年工事に着手し二八年竣工、三〇年五月開館した。この後官制改革により京都帝室博物館と改称、大正一三年今上陛下の御成婚に際し宮内省より京都市に下賜され、同年二月一日より賜京都市博物館と改称し、京都市の経営するところとなつたが、昭和二七年文化財保護法の一部改正により同法の規定に基づき四月一日より国立移管をもつて京都国立博物館として新発足をした。内部組織は館長、次長の下に管理課、学藝課を置き館長諮問機関として京都国立博物館評議員会が設置されている。(二二七、二四五、二五五頁参照)

〔館長〕 神田喜一郎(次長) 富岡益五郎(課長) (管理課) 有本利三郎(学藝課) 梅津次郎

二八九

〔評議員〕 石田芳之助、本田親男、堂本三之助、大宮軍吉、岡田成玉、貝塚茂樹、高山義三、辰馬悦藏、瀧川幸辰、長崎太郎、村田治郎、上野精一、梅原末治、須田国太郎

〔観覽日〕 一月四日―二月二八日及び一月一日―二月二五日午前九時―午後四時、三月一日―一〇月三一日午前九時―午後四時半

〔観覽料〕 大人三〇円、小人一五円
京都市美術館

京都市左京区岡崎法勝寺町
電 吉田 四一〇七―八

昭和八年設立、設立者京都市。鉄筋コンクリート二階建、一八〇四坪。市主催の美術展を開催する外、一般美術団体に会場を貸与する。所蔵品日本画一二二、洋画六八、工藝三九、彫刻二三。

〔館長〕 重達夫

北野天満宮宝物殿

京都市上京区馬喰町
電 西 陣 五

昭和二年二月創立、菅原道真公没後一〇二五年祭(半万燈祭)の記念事業の一つとして設立され、国宝北野天神縁起絵巻を初め絵画、古文書等の宝物類を展示する。

〔観覽日〕 毎月二五日の月次祭当日と春秋二季の臨時開館日 午前九時―午後四時

〔観覽料〕 三〇円
廣隆寺靈宝殿

京都市右京区大森蜂岡町
大正一一年一〇月創立。聖徳太子二三

〇〇年遠忌記念に創設された。同寺蔵の飛鳥時代彌勒菩薩像を始め多くの仏像、仏画、美術工藝品等を収蔵している。

〔観覽日〕 毎日〔観覽料〕 四〇円
醍醐寺靈宝館宝聚院

京都市伏見区醍醐東大路町二二

電 醍 醐 二

昭和一〇年四月開館 醍醐天皇一〇〇〇年遠忌の記念事業として設立された。

醍醐寺所蔵の彫しい仏画、一般絵画、彫刻、古文書記録、経典等を保管整理し、又一般に公開する。

〔館長〕 佐和隆研〔主事〕 穂月明

〔観覽日〕 春秋二季(四月―五月、一月―二月)毎日午前八時―午後四時

〔観覽料〕 三〇円

仁和寺靈宝館

京都市右京区御室仁和寺
電 西 陣 三 八

昭和二年五月竣工開館、聖教三十帖冊子、孔雀明王等仁和寺所蔵の国宝その他宝物を保管し一般に公開する。

〔館長〕 花辨智勝

〔観覽日〕 毎日午前九時―午後四時

〔観覽料〕 三〇円

豊国神社宝物館

京都市東山区大和大路正面

茶屋町 電 祇園三八〇二

大正一四年一二月開館。神社宝物、歴史風俗資料を陳列する。

有 鄰 館

京都市左京区岡崎田勝

寺町四四 電 吉田五

大正一五年一二月創立。鉄筋コンク

リート三階建。藤井善助の密附行為による財団法人藤井齊成会の経営。藤井善助の蒐集せる東洋古美術品を保存展観する。

〔代表理事〕 藤井志づ

〔観覽日〕 毎月第一、第三日曜の正午―三時迄開館、但し一月、八月は休館。

〔観覽料〕 無料

陽明文庫

京都市右京区宇多野上ノ

谷町一 電西陣七五〇

昭和一三年一月財団法人組織として設立。旧近衛家文庫古文書一〇万余点、古典籍三万余部を収蔵し、研究者の求めに應じ随時閲覧の便を計つている。

〔総裁〕 近衛文隆(在ノ)〔主事〕 小笹喜三

〔奈良〕

奈良国立博物館

奈良市登大路町五〇
電奈良六四二一―三

明治三二年奈良帝国博物館設置せられ同二年四月開館。三三年官制の改革と共に奈良帝室博物館と改められ、更に昭和二年五月官制改革により帝室博物館は文部省の管轄の下に国立博物館となるに及んで国立博物館奈良分館と改称された。ついで二五年八月文化財保護法の制定にともない文化財保護委員会の管轄に、又二七年四月東京国立博物館奈良分館に、同年八月文化財保護法一部改正により東京国立博物館より分離し、奈良国立博物館と改められて新発足をした。内部組織は館長の下に次長が置かれ、従前

の庶務、学藝、普及の三課は廃されて新たに管理、学藝の二課が置かれ、館長の諮問機関として奈良国立博物館評議員会が設置されている。(二二七、二四五、二五六頁参照)

〔館長〕 黒田源次〔次長〕 高村峰蔵

〔課長〕 (管理課) 次長併任 (学藝課) 蓮實重康

〔評議員〕 今村荒男、梅原末治、奥田良三、落合太郎、岡田成玉、岸勇一、佐伯勇、田澤坦、高橋正次、中山正善、橋本凝胤、春山武松、平岡明海、和田軍一

〔観覽日〕 毎月第一、第三日曜日、年末年始を除き、三月―一〇月午前九時―午後四時半、十一月―二月午前九時―午後四時

〔観覽料〕 大人三〇円、小人一五円

春日大社宝物殿

奈良市春日野町御蓋
山一六〇

電 奈良 二二六四

昭和一〇年四月創立、歴代朝野から献進の宝物を保存し、展観する。絵画彫刻その他、太刀等工藝品約三〇〇〇所点蔵。

〔観覽日〕 毎日午前九時―午後五時

但し、七、八月は午前八時半―午後四時半

〔観覽料〕 二〇円

天理参考館

奈良県丹波市町守目堂

電 丹波市 三四一

昭和一三年四月創立。天理大学の創立以来三〇年間に蒐集した海外土俗資料に、更に支那朝鮮の古美術の蒐集を合併

して

して

して

して

し続いて西洋古美術資料、日本の貝塚資料、アイヌ資料、文楽人形等も加え大附属として公開している。

〔主事〕 福原喜代男

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 無料

東洋民俗博物館

奈良市西大寺町あやめ池

電 富雄 六九

昭和三年一月創立。財団法人組織。

大正六年頃より九十九豊勝が個人として蒐集したものを収蔵し展観する。各国、民族資料、特に比較宗教学に関する資料が多い。

〔館長〕 九十九豊勝 〔観覧料〕 二〇円

奈良県立橿原公苑大和歴史館

奈良県高市郡畝傍町

電 奈良県橿原四七八

昭和十五年一月創立の大和国史館が同二四年八月大和歴史館と改称した。主として大和に関する上代の遺品、その他歴史的事物を収集展示し、歴史教育・文化発展に資する。又、一定期間に亘つて特に調査研究を希望するものに資料を閲覧させる特別観覧の制度を設けている。昭和二十七年四月一七日、博物館相当施設としての指定を受けた。

〔館長〕 土井實 〔主任〕 小島貞三

〔観覧日〕 毎日午前八時半—午後五時

月曜日午後、火曜日休館

〔観覧料〕 普通、一〇円

〔大阪〕

大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町二二

美術観覧施設

電 天王寺 六一〇、四六〇九

古美術品の常設展観と一般美術展の展観場としての設備を兼ね、昭和十一年五月落成した。同月開館し、古美術の常設展観は同年九月より開始した。絵画・彫刻・美術工芸・考古学資料に亘る同館蒐集保存の古美術品を常設展観し、展覧会室・講堂は一般美術展・講演会等に貸館する。

〔館長〕 望月信成 〔事務長〕 樋渡静男 〔庶務係長〕 山本光雄 〔学藝係長〕 藤井源一 〔学藝員〕 今村龍一、佐々木利三、上田宏範、佐藤雅彦

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

日本工藝館

大阪市北区堂島上二ノ四六

電 福島 五二一 四

昭和二十六年六月創立。堂島の米倉であったものを増築し、民藝の研究と普及を目的として、財団法人組織により設立された。日本の現代民衆工芸品を主体として現代美術工芸品・版画等を蒐集常時展観する。

〔館長〕 三宅忠一

〔観覧日〕 日曜・祭日を除き午前十時—午後五時 〔観覧料〕 特別展以外無料

観心寺霊宝館

大阪府河内長野市寺元

電 河内長野 一三四

霊宝館は明治三三年に開設され、重文如意輪観音像を始め、仏像、古文書等の寺宝を保管展観する。

〔館長〕 永島行善

〔観覧日〕 毎日午前九時半—午後五時

〔観覧料〕 一〇円

藤田美術館

大阪府都島区網島町四〇

電 堀川四一〇五

昭和二十六年三月財団法人設立認可。男爵藤田傳三郎並びに同平太郎に亘つて蒐集された古美術品を主としこれに分家徳次郎の遺品を合わせて創立せられた。財団法人設立の認可後、展覧室、庭園、事務室の整備に三ヶ年を費し昭和二十九年五月に開館式を挙行した。一般公開は現在のところ春秋二期とし研究者には随時展観を行つている。国宝四点、重要文化財二点を含む絵画、彫刻、工芸、書を約三〇〇〇点収蔵している。

〔館長〕 藤田富子 〔理事長〕 河上弘一 〔理事〕 藤田光一、藤田富子、藤田治子、宮原清、久留島秀三郎、土井清、小川栄一、武井理三郎 〔監事〕 坂井隆三、西村圭太郎

〔観覧日〕 春秋二期、午前一〇時—午後四時 〔観覧料〕 一〇〇円 学生五〇円

〔兵庫〕

市立神戸美術館

神戸市葺合区熊内町一丁目

電 葺合 三〇 四三

南蛮美術の蒐集で著名な池長美術館(昭和十五年三月創立)が建物・所蔵品共に昭和二十六年四月神戸市へ寄附され市立神戸美術館となつた。同年七月より開館。

〔館長〕 荒尾親成

〔観覧日〕 毎月一日より二十五日迄

〔観覧料〕 毎月一日より二十五日迄

〔観覧日〕 毎月一日より二十五日迄

〔観覧日〕 毎月一日より二十五日迄

〔観覧日〕 毎月一日より二十五日迄

午前九時—午後五時。月曜休館

〔観覧料〕 二〇円

白鶴美術館

神戸市東灘区住吉町落合一

五四五 電⑧ 六〇〇一

昭和九年五月創立。昭和六年嘉納治兵衛の古稀を記念してその美術工芸品、考古資料の蒐集を永久に保存するため財団法人白鶴美術館を設立した。建物は同九年竣工し、五月から公開した。中国青銅器、陶磁器、鏡、銀器及日本奈良古物等の工芸品、金石類、刀剣等の所蔵品を春秋陳列し、他に特別展を開催する。

〔理事長兼館長〕 嘉納治兵衛 〔主事代理〕 三杉降敏

〔観覧料〕 四、五、九、一〇月の春秋二期展の他に特別展を随時開き、年間一五〇日開館

午前一〇時—午後四時 月曜休館

〔観覧料〕 五〇円

鶴林寺宝物館

兵庫県加古川市加古川町

北在家 電加古川五六三

大正一〇年一〇月聖徳太子一三〇〇年御忌記念として宝物館を建設し、絵画、工芸美術品、古文書等の什宝を保管し、希望者のある毎に開館する。

〔中国地方〕

大原美術館

岡山県倉敷市新川町

電 倉敷五

昭和五年一月創立。故洋画家児島虎次郎を記念し、美術の研究発達に資するため絵画及びその他の美術品の蒐集、陳

列公開等を行う。大原孫三郎によつて創設され、昭和一〇年三月財団法人となつた。泰西絵画、彫刻、古代エヂプト工藝品の収蔵品が著名である。

〔館長〕 武内深眞

〔観覧日〕 年末年始、毎月曜日、祭日を除き、毎日午前九時―午後四時

〔観覧料〕 五〇円、学生三〇円

倉敷考古館

岡山県倉敷市前神町

電 倉敷一五四二

昭和二五年一月創立。考古学の研究普及と地方文化の向上を目的として、財団法人組織をとつている。考古学関係資料一五〇〇点を収蔵す。

〔館長〕 鎌木義昌

〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祭日を除き、午前九時―午後四時

〔観覧料〕 四〇円、学生二五円

倉敷民藝館

岡山県倉敷市前神町

電 倉敷一六三七

昭和二三年一月創立。岡山県民藝協会の事業の一つとして創設され、のち、財団法人として独立した。古今東西の民藝品の蒐集、展覧、普及に當つてゐる。所蔵品約二六〇〇点。附属工藝研究所がある。

〔館長〕 外村吉之介

〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祭日を除き、午前九時―午後四時

〔観覧料〕 四〇円、学生三〇円

吉備考古館

岡山県都窪郡山手村

電 総社四三三

昭和一七年創立、吉備地方を中心とし、県内の考古資料・郷土資料を展覧する。

〔館長〕 宮岡清見

〔観覧日〕 毎日。開、閉館時間は不定。

〔観覧料〕 二〇円

厳島神社宝物館

広島県佐伯郡宮島町

電 宮島三六

創立明治三〇年。現在の建物は昭和九年建造され、厳島神社宝物として伝承した藤原時代以後の書蹟・工藝品等を公開する。

〔館長〕 野坂元定

〔観覧日〕 毎日〔観覧料〕 三〇円

出雲大社宝物殿

島根県簸川郡大社町

電 大社四八、六三

大正三年三月創設。絵画、彫刻、工藝品、古文書、考古資料、祭器等を収蔵する。

〔観覧日〕 毎日、午前八時―午後四時。

長府博物館

山口県下関市大字豊浦村

電 五五五

昭和八年二月創立。当初は故桂彌一が財団法人長府尊攘堂を創設し明治維新前後の志士の遺墨等を収集陳列したものであった。戦後は財団法人長府博物館と改称、郷土を中心とした文化資料を陳列保管する他各種特別展を行う。

〔館長〕 棟惣一

〔観覧日〕 三、四、五、九、一〇、一の各月以外は毎月月曜休館、午前九時

―午後五時〔観覧料〕 一〇円

防府天満宮宝物館

(旧松崎神社宝物館)

山口県防府市宮市

松崎神社は昭和二七年四月炎上、現在既に本殿完工、幣殿建設中、同宝物館は災禍を免れたが現在閉鎖中、尚昭和二八年一月二日松崎神社は防府天満宮と改称した。

〔館長〕 磯部稜威雄〔観覧日〕 無休

〔観覧料〕 二〇円

岩国徴古館

山口県岩国市横山三五八

電 岩国八三七

私立岩国徴古館(昭和一九年四月設立)が昭和二六年四月岩国市へ移管され、市立となつたもの。郷土に係る美術工藝品、歴史資料を蒐集保存し、且公開して文化の向上に資しようとする。

〔館長〕 瀧川秀雄

〔観覧日〕 午前九時―午後四時半、毎月曜と祭日の翌日は休館。

〔観覧料〕 無料

〔四国地方〕

高松美術館

香川県高松市栗林公園内

電 高松三二一六

昭和二四年一月開館。昭和二四年高松観光大博覧会を機会にその建物の一部三〇六坪を市立美術館として存置し、日展、県展、各種美術展を開催、地方文化の普及を計つてゐる。

〔館長〕 中村良三

〔観覧日〕 春、夏、午前八時―午後五時。秋、冬、午前九時―午後四時

〔観覧料〕 一〇円

大山祇神社宝物館

愛媛県越智郡大三島町

電 大三島三二、一六

香川県琴平町

電 琴平一

金刀比羅宮博物館は、宝物館、学藝館、金刀比羅宮書院の三施設に分れてゐる。宝物館は明治三八年創立。金刀比羅宮所蔵の書画、刀剣、古文書等を収蔵展覧する。学藝館は昭和三年創立。学藝参考品、標本等の外高橋由一の作品二六点を収蔵展覧する。書院には鶴の間外四室に書かれた應舉の絵(重要文化財)がある。

〔館長〕 琴陵光重

〔観覧日〕 無休、午前八時―午後四時

〔観覧料〕 二〇円

総本山善通寺宝物館

香川県善通寺市六一五

電 一一一

明治三五年四月創立。善通寺伝来の絵画、仏像、工藝品等約一二〇余点を陳列展覧する。〔館長〕 龜谷宥英

〔観覧日〕 春、夏、午前八時―午後五時。秋、冬、午前九時―午後四時

〔観覧料〕 一〇円

大正一五年六月創立。鏡、太刀等工藝品一〇〇〇余点を収蔵、展観する。

〔館長〕 三島安久

〔観覧日〕 無休。春、夏、午前八時—午後五時。秋、冬、午前九時—午後四時

〔観覧料〕 四〇円

【九州地方】

市長長崎博物館

長崎市浜口町一九六
国際文化会館内
電 九九 九九

昭和一六年二月創立。開国史に關係ある郷土資料、主として切支丹關係、中国、オランダ貿易關係の資料を蒐集し展観する。

〔館長〕 伊藤正雄

〔観覧日〕 毎日、午前九時—午後五時

〔観覧料〕 無料

本妙寺宝物館

熊本県熊本市花園町六
電 六三〇

明治四二年五月創立。明治四二年清正公三〇〇年祭に際し公の威徳顯彰の目的を以て開設した。

〔館長〕 池上義豊

〔観覧日〕 毎日、午前八時—午後五時

〔観覧料〕 一〇円

菊池神社宝物館

熊本県菊池郡隈府町隈府
電 一四九

大正八年一月創立。菊池神社の教化活動の一助として設けたもので、菊池氏の遺墨その他を収蔵。展観する。

〔館長〕 千種宣夫

〔観覧日〕 午前八時—午後四時 但一月一二日より五日間休館

〔観覧料〕 二〇円

宮崎県立博物館

宮崎市神宮町
電 五二三八

昭和二六年四月創立。昭和一五年、紀元二六〇〇年記念事業として奉讃会が設立した徴古館を同二六年県立博物館として新発足したもの。考古資料を主とした博物館。

〔館長〕 日高重孝

〔観覧日〕 午前九時—午後四時半

〔観覧料〕 一〇円

鹿児島市美術館

鹿児島市山下町

昭和二九年八月創立。黒田清輝記念室を設け、その他藤島武二等郷土作家による作品の常置陳列を行つ外展示場として四室以上の場合には有料で使用させている。

〔館長〕 谷口午二

〔観覧日〕 月曜を除き毎日、午前九時—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

全国美術館会議

台東区上野公園
東京都美術館内

昭和二七年十一月十四日発足。第1回27年11月14日於東京都美術館。第2回28年10月22日24日於京都市美術館。第3回29年8月5日6日7日於ブリヂストン美術館。

全国美術館会議規約

第一章 総則

第一条 本会は全国美術館会議という。

第二条 本会の事務所は東京都美術館内におく。

第二章 目的及び事業

第三条 本会は美術館相互の連絡提携を図るを以て目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するために左の事業を行つ。

(一) 美術に関する協議会、展覧会、講習会、講演会、研究会等の開催

(二) 美術団体との連絡

(三) 美術館相互の連絡情報及び出版物の交換

(四) 其他本会の目的達成上必要な事業

第三章 組織

第五条 本会は全国の美術館施設を以て組織する。

第六条 本会の会費は年額金壹千円とする。

第四章 役員

第七条 本会に左の役員を置く。
会長一名 副会長一名 幹事若干名

第八条 本会の役員は互選による、会長は本会を代表し、会務を総理する。
副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会長を代理する。

幹事は会務を処理する。
第九條 役員任期は二年とす。

第五章 會議
第十條 總會は全會員を以て構成し会長が召集する。
通常總會は毎年一回開く。必要に依

じて臨時に總會を開くことができる。
第十一條 總會は會員總数の三分の一以上の出席を以て成立し、其の議事は出席者の過半数を以て決する、可否同数のときは議長の決するところによる。

第六章
第十二條 本会の経費は会費及び寄附金を以てこれにあてる。

第十三條 本会の予算は總會の承認を経なければならぬ。

第十四條 本会の會計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月末日終る。

〔会長〕 東京都美術館長 〔副会長〕 大阪市立美術館長 〔幹事〕 ブリヂストン美術館主事、東京都立博物館長、京都市美術館長、神奈川県立近代美術館長、本間美術館長 〔會員〕 東京都美術館〔早川治平〕、ブリヂストン美術館〔岩佐新〕、根津美術館〔河西豊太郎〕、都立駒場高校美術館〔長倉邦雄〕、東京国立博物館〔淺野長武〕、国立近代美術館〔岡部長景〕、京都市美術館〔原亨作〕、神奈川県立近代美術館〔村田良策〕、高岡市美術館〔中条豊治〕、大阪市立美術館〔望月信成〕、大原美術館〔武内潔真〕、高松美術館〔中村良三〕、佐賀県文化館〔明石正彦〕、白鶴美術館、市立神戸美術館、大阪市天王閣、奈良国立博物館〔黒田源次〕、京都国立博物館〔神田喜一郎〕、滋賀県立産業文化館〔草野文男〕、茨城県立美術館〔名越那珂次郎〕、笠岡美術館〔根本政太郎〕、本間美術館〔本間祐介〕、箱根美術館〔阿部晴三〕、天理参考館〔福原喜代男〕、大倉集古館〔大崎新吉〕

東京画廊一覽

- 高島屋画廊 中央区日本橋通二ノ五 電 千代田(初)四一一
- 松坂屋画廊(銀座店) 中央区銀座六ノ一 電 銀座(初)三一八一
- (上野店) 台東区上野広小路 一電 下谷(初)一一一
- 三越画廊 中央区日本橋室町一ノ七 電 日本橋(初)三三一
- 大丸画廊 千代田区丸ノ内鉄道会館 電 丸ノ内(初)一五三一
- 兜屋画廊 中央区銀座西六ノ三 電 銀座(初)六三三一
- 兼素洞 中央区京橋三ノ四第百生命館 電 東京(初)二〇七〇
- 壺中居 中央区日本橋通三ノ一 電 千代田(初)一八四六
- 松屋画廊 中央区銀座三ノ一 電 京橋(初)三一一一
- サエグサギャラリー 中央区銀座三ノ二 電 京橋(初)五三五六
- 和光 中央区銀座四ノ一 電 京橋(初)二四三一
- 阿部養清堂 中央区銀座西五ノ五 電 銀座(初)一三一二
- 村松ギャラリー 中央区銀座七ノ一 電 銀座(初)七四八九
- 襟画廊 中央区銀座七ノ三 電 銀座(初)七九〇二
- 新橋画廊 中央区銀座東八ノ三 電 銀座(初)一三九
- 数奇屋橋廊 中央区銀座西六ノ六 電 鐵道工

- たくみ 業ビル一階 電 銀座(初)一八六四
- 東京画廊 中央区銀座西八ノ三 電 銀座(初)二〇一七
- 日動画廊 中央区銀座西七ノ五 電 銀座(初)一八〇八
- 丸善画廊 中央区銀座西五ノ一 電 銀座(初)二五五三
- 松島ギャラリー 中央区日本橋通二ノ六 電 千代田(初)二二二二
- 三笠画廊 中央区銀座三ノ二 電 京橋(初)七五八七
- 室町画廊 中央区銀座西六ノ一 電 銀座(初)二六五〇
- 弥生画廊 中央区室町二ノ二室町ビル一階 電 千代田(初)一六一六
- フオルム画廊 中央区西銀座並木通り 電 銀座(初)三三二〇
- 求龍堂画廊 中央区銀座五丁目二川濱商會二階 電 銀座(初)五〇六
- ナビス画廊 中央区銀座西五ノ五御幸通り 電 銀座(初)二九一六
- 東京電力サイビスセンター 京橋(初)二九六三
- 三菊画廊 中央区銀座六ノ一 電 銀座(初)八三〇五
- サトウ画廊 中央区銀座西四ノ五 電 京橋(初)八二四五
- 草土舎画廊 中央区西銀座七ノ二 電 銀座(初)一五九二
- 竹見屋画廊 千代田区神田小川町 電 神田(初)三三四〇
- 千代田区神田駿河台下 電

- 三省堂画廊 東京(初)九二七
- 文房堂画廊 千代田区神田神保町一ノ一 電 東京(初)一一二六
- 中央公論社 千代田区神田神保町一ノ二 一電 東京(初)七〇〇一
- 日比谷画廊 千代田区丸ビル二階 電 丸の内(初)一一二一
- 産経会館 千代田区日比谷公園内 電 千代田(初)七六六五
- 東京画廊 千代田区大手町一ノ三 電 丸ノ内(初)〇五七一(内線七六〇)
- 光風会美術会館画廊 港区芝新松田町一九 電 東京(初)一七三三
- 美松書房 港区芝田村町一ノ三 電 東京(初)五五五一
- 伊勢丹画廊 新宿区新宿三ノ八 電 淀橋(初)一一四一
- 西武百貨店 豊島区池袋二丁目 電 大塚(初)〇一五一
- 東横百貨店 渋谷区上通二ノ五五 電 渋谷(初)〇一一一
- 京都画廊一覽 下京区四条通河原町西入 電 本局五二〇七
- 京都府ギャラリー 中央区河原町通蛤薬師上 電 本局二一六一
- 丸善画廊 下京区四条通堺町東 電 本局一一三三
- 土橋画廊 中京区四条高倉 電 本局二二一一
- 大丸美術画廊 中京区四条高倉 電 本局二二一一

- 丸物美術画廊 下京区烏丸通七条上 電 下八七二一
- 画鑑堂画廊 下京区河原町通五条下 電 下八七五
- 祇園商會 東山区祇園町南側五六二 電 祇園一四四六
- 京都美術倶楽部 東山区新門前通東大路西入
- 大阪画廊一覽 梅田画廊 北区曾根崎上二ノ三八 電 堀川二六二三
- フジカワ画廊 東区瓦町二 フジカワビル 電 (初)一四九〇一、四四九四一五
- 美交社画廊 東区南久太郎町四丁目二〇 電 船場二六二四一五
- 淀屋画廊 東区今橋五ノ三六 電 北浜六〇一八
- 堂島画廊 北区神明町五〇 電 堀川五五一九
- 丸善美術画廊 北区梅田町四七 新阪神ビル二階 電 福島六六九七
- 阪急画廊 北区角田町六二 電 福島六四六一
- 三越画廊 東区高麗橋二ノ六三 電 北浜八五一
- 大丸画廊 南区心齋橋一 電 南三五三一
- そごう画廊 南区心齋橋一 電 南八四三六
- 高島屋画廊 南区難波新地六 電 戎一浪速区日本橋三ノ四五 電 戎一五三三
- 松坂屋画廊

近鉄画廊 阿倍野区阿倍野町二ノ一

電 天王寺五一一一

美術団体一覽(五〇音順)

(あ)

アトリエ・ド・R・ヴァンエック(洋)
三一 一頁追加参照

(い)

一采社(日) 世田谷区成城町二二九
高山辰雄方 昭和16年4月創立、同20年
震災のため展覧会を中止したが翌21年よ
り引続き毎年春に展覧会を開き、昭和30
年4月第14回展開催。

〔会員〕 大山忠作、加藤東一、加藤長
明、河部貞夫、高山辰雄、中村正義、浦
田正夫、野島青妓、山口吉三郎、山田申
吾、朝倉謙、我妻碧宇、佐藤因夫、三尾
雄次、嶋谷自然、森緑翠、鈴木竹柏、伊
藤弘、加倉井和夫、桑原清明

一水会(洋) 練馬区豊玉北町四ノ一
五 田崎廣助方(電練馬六六) 昭和11
年12月、旧二科会員八名は「会場藝術を
非とし、技術を重んじ、高雅なる藝術を
尊重することに於て一致」、同会を創立
した。同12月東京府美術館に第1回
公募展を開催し、爾後毎年秋季に展覧会
を開き、昭和30年9月第17回展開催。

〔委員〕 石井柏亭、池部鈞、池邊一郎
裕三彩亭、小野末、奥田郁太郎、高橋庸
男、高田誠、田崎廣助、仲田好江、中村

善策、中村琢二、納富進、山下新太郎、
安井曾太郎、深澤紅子、福田新生、小山
敬三、高野三三男、有島生馬、安宅輝雄、
荒谷直之介、木下孝則、木下義謙、鈴木
良三〔会員〕 一〇七名

一線美術(洋) 渋谷区穂田二ノ六三
石井栄方 昭和25年7月創立、年1回春
に展覧会を開き昭和30年3月第5回展開
催。

〔委員〕 岩井彌一郎、石川久三郎、石
上駒吉、石井榮、伊藤行雄、伊藤徳衛、
磯村利雄、長谷川ハツ、新野敬一、別府
貫一郎、千木良富士、沖田稔、萩原城舟、
河崎千代子、神田房光、横山嘉平、田村
満、村瀬眞治、上野山清真、山田篤、山
田新吉、矢部桂一郎、町田文雄、松浦喜
久次、兒玉勝次、小柳勇兒、西東重義、
佐々木榮松、紫藤卓三、平田健三、寺田
正、箕輪初太郎、宮澤今朝雄、三浦きよ
子、本村博之、倉澤康、大黒孝儀、金子
文吾、根本清満、山田邁、有馬俊彦、石
原実、高橋治男

一陽会(洋・彫) 台東区上野桜木町
三六 野間仁根方(電駒込三四〇〇)
昭和30年7月創立。二科会を脱退した鈴
木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根を中心
に、同じく二科会を脱退した会員、会友
ら一四名によつて結成された新団体。昭
和30年9月日本橋高島屋に於て第1回公
募展開催。

〔会員〕 (絵画部) 鈴木信太郎、高岡
徳太郎、野間仁根、米良道博、山路眞護、
鱸利彦、荻野康兒、丹下富士男、森由太
郎、中田豊、山谷鉄一、長谷川三千春

(彫刻部) 浅野孟府、植木力

(う、え)

上野会(挿) 杉並区馬橋二ノ二四四

山本武夫方 昭和24年創立、東京美術学
校出身者よりなる挿絵家を主とする集
り。

〔会員〕 伊藤文七、富田千秋、織田音
也、小川洗二、鴨下晃湖、田中良、竹田
忠丸、山本武夫、梁川剛一、藤形一男、
三輪孝、三谷一馬、三輪秀、清水三重三
エスプリ会(洋) 世田谷区若林町四六

一 西田信一方 昭和27年11月創立、近
代絵画の研究會。

〔会員〕 長谷川三郎、西田信一、脇田
和、川端實、村井正誠、山口薫、小松義雄
筵上会(日) 三一 二頁追加参照

(お)

旺玄会(洋) 武蔵野市吉祥寺三二六一

堀田清治方(電武蔵野六七〇六) 昭和19
年解散した牧野虎雄を主宰者とする旺玄
社が21年新に旺玄会として発足したも
の。30年2月大久保作次郎、田澤八甲、
吉村芳松ら古参会員を含む六名は脱退し
た。昭和30年6月第9回展開催。

〔委員〕 東一雄、堀田清治、五十嵐祥
晃、稲石永吉、石黒義一、市川加久一、
金井文彦、小林喜代吉、小林猶治郎、小
板橋清、近藤せい子、幸田祐三、皆見鶴
三、岡野正樹、大久保四郎、酒井嘉久、
阪井谷松太郎、佐藤文雄、清水正博、佐

藤多持、杉浦勝人、鈴木金平、高間惣七、
高野眞美、玉の内満雄、田辺嘉重、豊田
壽久、遠山純一、梅野順三、横尾泥海男、
吉田修三〔会員〕 四〇名

大阪工藝美術会(工) 大阪市天王寺区
逢坂上ノ町一四一 汎工藝社内 乙佳
会、九和会を解消してその他の工藝家を
加え、昭和23年8月組織したが、昭和29
年解散し、阪都美術工藝会を結成。

〔会務代表者〕 柴崎風神
岡山県民藝協会 岡山県倉敷市向市場
電倉敷一五四一 昭和21年6月創立、凡
ゆる生活用具を健康、簡素、誠実ならし
め、生活に真の美を直結せしめること
を趣旨とし、工藝品の調査、指導、地方
民藝館の創設経営、工藝研究所及び図案
指導所等の開設を事業目的としている。

〔会員〕 個人三五〇名、法人一二団体

(か)

華歎美術協会(洋) 京都市上京区北大

路新町東入ル〔事務代表〕京都市上京区
塔之段敷ノ下町四二一 中川義憲方 昭
和15年6月創立。紀元二六〇〇年を記念
して爾後会を解散、華歎美術協会として
再発足した。昭和28年9月第16回展開催。

〔会員〕 赤澤正次、赤松文子、新井
完、荒木貞人、居井直胤、伊丹愛子、
井垣嘉平、池田治三郎、井上三郎、岩
田順三、梅林良子、上田輝七郎、角
野判治郎、北川威夫、楠見文雄、小西
丘太郎、小林富蔵、小林正雄、島戸繁、
霜島之彦、篠崎貞五郎、鈴木親、関口正

夫、武田新太郎、坪井一男、辻川新十郎、中井潔、中川義憲、中堀愛作、成田浩子、成瀬十郎、西岡義一、則元醇、原田久之助、伴庄兵衛、富士二男、藤松弁之助、古澤廣樹、正木順子、松田藤兵衛、松田淑子、三尾公三、水谷ミヨ、南素行、宮内順三、安江孝治、山尾平、山田新一、山田キミ、由里明

関西水彩画協会(水) 大阪市阿倍野区北島東一ノ二九 桂龍雄方(電住吉二一四〇) 昭和10年4月創立、関西在住の水彩画家の団結、親睦、普及研究を趣旨とする。機関誌「関西水彩」発行。公募展、講習会開催。

〔会員〕 池島勘治郎、別車博資、桂龍雄、青野馬左奈、乾一雄、大庭しづ子、小倉實海、田村雅保、芹生政夫、庭田定男、松村豊太郎、大久保正義、赤尾長二、山田一雄、上田素由、栗林忠男、佐野比呂志、薄尻頼吉、水野修道、中川隆史、宮本草一路、青山岩松、大久保三一、北口豊子、南右橋、中安徹

〔会〕 世田谷区玉川奥沢町二ノ一四九 森大造方 昭和9年創立、昭和18年迄毎年展覧会を開催していたが現在は活動を中止している。

〔会員〕 高橋泰蔵、中野四郎、村井辰夫、鈴木三郎助、長沼孝三、紺谷英儀、

石塚貞男、森大造、奥山泰堂、長谷川宏九室会(洋・彫) 杉並区久我山二の六二六 森田信夫方 昭和13年11月創立。二科展の第9室を中心とする新傾向作家の親睦を図り、併せて各自の研究を目的とする。戦時中絶、昭和25年再組織、昭和26年第一回展開催、毎年春期展覧会開催予定。

〔絵画奨助会員〕 阿部金剛、井上寛造、桂ユキ子、桑原實、中原實、野村守夫、岡本太郎、大澤昌助、萩野康児、織田廣喜、鷹山宇一、寺田竹雄、鶴岡義雄、山口長男、山路真護、山本敬輔、吉原治良、伊藤研之、松葉清吾

〔会員〕 安藤新衛、藤田金之助、萩尾テル、楠賢三、春田安喜子、長谷川三千春、橋上善児、今泉六郎、今長谷巖、稲垣克己、因藤壽、伊勢谷慶子、伊藤静尾、岩田安郎、狩野守、清川(旧姓柏田)泰次、加藤孝一、加藤正一、木俣滋彦、近藤長三郎、越谷繁造、増田勉、森田信夫、中川時之助、中田豊、浪江勘次郎、根本茂子、西村千太郎、能間弘、大淵陽一、織田りら、小川清、齋藤三郎、榊山勝、佐佐木良三、田川覺三、高橋満州男、丹下富士男、田中君子、竹中清、戸川串田、戸川ふみ子、上田良子、山本不二夫、山ノ内靖己、山谷鉄一、米田三男之介、吉村勲、依岡恒喜、吉田一夫

〔彫塑奨助会員〕 淺野孟府、堀内正和、笠置季男、乗松謙、上田暁、植木力、野水信、淀井敏夫、廣瀬不可止

〔会員〕 飯田繁三、岩元棍子、水野修道、野口嘉光、關口孝吉、曾山節雄、植

村育子 京都金藝鑄錫会(工) 京都市上京区等持院西町一六 加藤宗嚴方 昭和26年5月創立。京都金藝作家の同志的集り。展覧会を錫展といふ。昭和30年9月第4回展開催。

〔会員〕 淺井清太郎、今大路長光、上田哲三、大久保鼎湖、加藤宗嚴、加茂雲峯、金谷五良三良、金江宗觀、小林清瑛、小泉八郎、野田喜市、村上直行、辻井健三、五島正広、倉賀野茂樹、田中秀明 京都新彫刻家クラブ(彫) 京都市東山区五条橋東五ノ四六七 清水禮四郎方 (電祇園三二二一) 昭和27年2月創立。京都在住の中堅彫刻家によつて組織される。昭和28年2月、第2回展開催。

〔会員〕 伊室重孝、清水禮四郎、藤庭賢一、藤林重次、河野薫郎、小谷謙、岡本庄三、山本格二、三宅五穂 京都陶藝家クラブ(工) 京都市東山区五条坂八幡前南入 森野嘉光方(電祇園四三七一) 昭和28年12月創立。京都市府在住の陶藝家を以て組織される。昭和30年7月東京大丸に於て黏土第一回展を開催。

〔顧問〕 清水六和 〔会長〕 清水六兵衛 〔副会長〕 森野嘉光 〔参事〕 河合榮之助 〔総務〕 井上治男 〔委員〕 五名

〔会員〕 三六名 〔会〕 豊島区要町一ノ四八ノ四 梶田英一方 昭和27年10月創立。昭和16年12月東京美術学校油絵科卒業生の集団。昭和30年6月第3回展開催。 〔会員〕 安次嶺金正、綾井秀寛、有海

喜久雄、笠木實、梶田英一、黒澤梧桐、澤田正太郎、島田美成、清宮賢文、田代利夫、田畔司朗、土屋廣倫、弦田英太郎、富安昌也、中尾良一、細小路眞、山中市郎、袖木祥吉郎、吉原秀夫、

〔会〕 京都市左京区岡崎東天王町八九 細木成実方(電吉田三三〇二) 昭和29年8月創立。京都在住の、各種団体内、新進、中堅作家が各四、五名宛集つて成る日本画の団体。新しい日本画の創造を目的とする。昭和30年4月京都大丸にて、同年6月東京大丸にて第1回展開催。

〔会員〕 細井成実、樋口辰志、下保昭、野々内良樹、木村広吉、猪田青以、中瀬昂、三輪良平、西内利夫、大庭繁雄、川辺隆啓、上原卓、松井章、稲田和正、桑野博利、海老名正夫、岸田蒼坪、藤田孝正、利倉群青、森公孝、大日躬世子 塊土社(彫) 水戸市下金町一五〇四 小鹿尚久方 昭和30年1月創立。昭和24年以来的彫塑協会の29年末に発展的解散をして30年初めより新発足したもの。主に茨城県に在住する彫塑家達による団体。

〔代表〕 後藤清一、一色五郎、岩淵忠雄、渡辺卓熙、吉田曉禾、高久茂雄、中島敦、丹保喜三郎、後藤修、後藤末吉、小森邦夫、小鹿尚久、安藤春雄、木内克、島村亮明、森山朝光、山崎猛

グループ「実在者」(洋) 文京区駒込林

町一五四(大島方) 池田滿壽夫方 昭和30年4月創立。昭和30年8月第2回展開催

〔會員〕 堀内康司、眞鍋博、池田滿壽夫、鬮囀

(イ)

形象派美術協会(洋) 愛知県安城市下小入道 福山進方 昭和28年5月創立。昭和28年5月第1回創設公募展を岐阜市公会堂にて開催、30年9月第3回公募展を愛知県美術館にて開催。

〔會員〕 二八名
型生派美術協会(洋) 世田谷区砧町五八 庫田發方 国画会中堅会員により昭和25年結成された。昭和30年第5回展開催。

〔會員〕 宇治山哲平、香月泰男、喜多村知、國松登、熊谷九壽、庫田發、須田剋太、福井敬一、山崎隆夫、原精一、橋本三郎

現代美術協会(洋) 杉並区阿佐ヶ谷三ノ三四 宮島資雄方 昭和28年11月、日本作家協会洋画部、現代美術作家協会、新生派美術家協会の三団体が合同して設立発足したものである。昭和30年6月第11回展開催。本年度より構成部を新設。

〔委員〕 朝田進、丘野美、小澤正、佐藤亘宏、原田雅兆、古川恂、三浦勝治、宮島資雄

〔會員〕 齋藤森重、鈴木重雄、田中皓四郎、武藤重典、升紘、照丘晃子、島崎貞子、相澤謙一、加藤喜男、中野龍次

郎、根来茂、村瀬卓郎、片山利明、青木理、野口満、佐藤静樹、船橋公平

(ロ)

工彩会(工) 北区中十条二ノ八 會田富康方(電王子六五五) 昭和17年研究団体として発足。昭和24年第1回展を開く。昭和30年7月第7回展開催その間地方に於いて移動展を開催する。

〔會員〕 飯塚小玕齋、伊藤隆光、伊藤鏡一、井上良齋、大谷珍石、大坪重周、岡本玉水、岡本輝子、山本曠、川上南甫、加藤嶺男、梶本義英、勝田静璋、竹内蘭山、高木幾望、武田三千子、中田錦石、中島珠光、中島実、山本正年、前大峰、松本佐吉、小林清、後藤九吉、寺井直次、會田富康、有田利章、天野策地、明石義祐、櫻井一郎、佐藤貞一、三田村秀雄、新村撰吉、平野利太郎、平田郷陽、安きよ子、介川芳秀、中野馨一、市橋敏雄

紅土会(洋) 新宿区下落合三ノ一八五 九 櫻井慶治方 昭和28年6月創立。同年より毎年展覧会開催。昭和30年8月第9回展を開いた。

〔會員〕 櫻井慶治、上島一司、宮脇憲三、矢口洋、武内和夫、野本正雄、海老澤殿夫、花田忠吾、尤道健治、武林敬吉、篠田喜代志、仲町謙吉、森清治郎、橋本萬寿子、遊馬正(協賛指導者) 寺内萬治郎、渡邊武夫

行動美術協会(洋・彫) 世田谷区弦巻町一ノ二六ノ一 向井潤吉方(電世田谷三五六一) 昭和20年11月創立、昭和19年二科会解散し、翌年8月終戦後二科会は再結成を図つたがその際主張の異なる旧二科会々員の一部を中心として組織された。昭和30年9月第10回展開催

〔會員〕 (絵画部) 榎倉省吾、福井勇、古家新、飯田清毅、生澤朗、柏原寛太郎、三芳徳吉、向井潤吉、村田實史雄、難波香久三、田中忠雄、高橋進、伊藤信夫、伊谷賢藏、伊藤久三郎、小林武夫、小出卓二、西阪修、田川寛一、下高原龍巳、田邊三重松、坪内節太郎、川原章二、山中春雄、高井寛二、佐藤真一、齋藤眞成、津高一、田中勇次郎、河野通紀、高須國之、全和光、江見絹子(彫刻部) 建島賢造、中島快彦、向井良吉、板谷慎、今村輝久、伊勢典賢、林昇、阿井正典

光風会(洋・工) 港区芝新核田町一八九 光風会館内(電東京(調)一七三三) 責任者小寺健吉。明治45年創立。明治44年白馬会解散後、中澤弘光、山本森之助、三宅克己、杉浦非水、岡野榮、小林鏡吉、跡見泰の七氏発起して創立、第1回展を45年6月上野竹之台陳列館に開催した。官展系洋画家の団体、毎年春季公募展を開催、昭和30年4月第41回展を開いた。

〔會員〕 (絵画) 石橋武治、井手宣通、伊藤應九、伊藤悌三、伊藤四郎、岩船修三、伊藤鑑一、井上武、飯田彌生、池野壽彦、西山眞一、西村厚定、西尾善積、西村俊郎、西村喜久子、西岡義一、星野正三、遠山清、土佐林豊夫、土橋醇一、戸塚孝三郎、鳥井昇、中條

茂、岡田又三郎、小川智、大澤海蔵、大河内信敬、緒方亮平、斧山萬次郎、小川博史、奥山堤、大原省三、大倉克次、大桃寛、渡邊武夫、和田香苗、和田清、河井清一、梶原貫五、花殿巖、角野判治郎、等井忠郎、金子徳衛、金澤秀之助、米本一郎、田村一男、高木春太郎、高宮一榮、田中實一、反町博彦、高橋道雄、高光一也、竹岡良太郎、高田正二郎、竹澤基、相馬其一、辻永、辻朗、辻村八五郎、根津莊一、長原坦、中村研一、中澤弘光、永田精二、名渡山愛順、中島音次郎、村岡平藏、宇城時志、上島一司、野平上、黒田頼綱、黒田久美子、熊澤欽三、樽松正利、山中清一郎、山下忠平、山口猛彦、山喜多二郎太、山村孝太郎、山本彪一、柳瀬俊雄、山田新一、牧野司郎、松尾正巳、益山雅衛、松浦真章、藤彦右衛門、藤本東一良、古屋浩蔵、舟木徳重、藤井芳子、藤江理三郎、小糸源太郎、小林眞二、小寺健吉、小林易夫、江藤純平、寺内萬治郎、安達眞太郎、足立眞一郎、足代義郎、朝比奈文雄、有馬三斗技、秋元松子、荒井邦朝、鮫島久久、笹岡了一、阪倉宜暢、笹鹿鹿、櫻井悦、櫻田精一、齋藤齊、坂田虎一、櫻井慶治、清原重以知、鬼頭鍋三郎、木村八郎、北濱淳、幸島重雄、由甲明、耳野卯三郎、南政善、水上信雄、三輪孝、溝江勘二、宮脇憲三、三尾文夫、白石隆一、市ノ木慶治、新道繁、白川一郎、島野重之、神保和幸、新保兵次郎、庄司榮吉、日原晃、久本弘一、森山肇、森田元子、森桂一、守屋千之、妹尾壽信、瀬戸千代三、杉村博、鈴木三五

〔會員〕 (繪画部) 榎倉省吾、福井勇、古家新、飯田清毅、生澤朗、柏原寛太郎、三芳徳吉、向井潤吉、村田實史雄、難波香久三、田中忠雄、高橋進、伊藤信夫、伊谷賢藏、伊藤久三郎、小林武夫、小出卓二、西阪修、田川寛一、下高原龍巳、田邊三重松、坪内節太郎、川原章二、山中春雄、高井寛二、佐藤真一、齋藤眞成、津高一、田中勇次郎、河野通紀、高須國之、全和光、江見絹子(彫刻部) 建島賢造、中島快彦、向井良吉、板谷慎、今村輝久、伊勢典賢、林昇、阿井正典

〔會員〕 (繪画部) 榎倉省吾、福井勇、古家新、飯田清毅、生澤朗、柏原寛太郎、三芳徳吉、向井潤吉、村田實史雄、難波香久三、田中忠雄、高橋進、伊藤信夫、伊谷賢藏、伊藤久三郎、小林武夫、小出卓二、西阪修、田川寛一、下高原龍巳、田邊三重松、坪内節太郎、川原章二、山中春雄、高井寛二、佐藤真一、齋藤眞成、津高一、田中勇次郎、河野通紀、高須國之、全和光、江見絹子(彫刻部) 建島賢造、中島快彦、向井良吉、板谷慎、今村輝久、伊勢典賢、林昇、阿井正典

郎、菅谷邦敏、浅井光男、石河彦男、岡本由郎、千田徹夫、松本正人、森清治郎(工藝)一噌元治、西村英夫、大阿久重治、鷺田うめゑ、川合修二、辻光典、中田満雄、中村俊介、中村董一、夏井清、上野正之輔、上野斌郎、山形駒太郎、小林清、佐藤正巳、杉浦非水、三輪智一、久保駒太郎、松風榮一、福原達朗、武田信弘

神戸洋画会(洋) 神戸市東灘区本山町田辺三八、三木朋太郎方(電)御影七五八六)昭和21年創立、阪神在住の洋画家をもつて組織、毎年展覧会を開く。
〔常任委員〕 朝倉斯道、大塚銀次郎、小磯良平、川西英、上田清一、小松益喜、大石輝一、江田誠郎、三木朋太郎

〔会員〕 宮下貞之介、大石輝一、藤井二郎、石黒平三郎、根木從之介、伊藤慶之助、辻愛造、山崎隆夫、上田清一、三木朋太郎、前田藤四郎、大垣泰治郎、田村孝之介、岡正一、松田豊、奥村隼人、小磯良平、小松益喜、青木一夫、中岡恒雄、江田誠郎、久本弘一、細谷重雄、津谷鹿市、佐藤篤郎、川西英、角野判治郎、伊川寛、別車博資、榊井一夫、尾田龍、新井宗、神原浩

光陽会(洋) 北区上中里一ノ二 多々羅義雄方(電)王子五七〇九) 昭和29年2月創立。多々羅義雄、早川芳彦、井口勇、斎藤武の四名が創立委員となつて結成し、民族性を活かした独自の藝術を創作することを目的とする。昭和30年8月第3回展開催。

〔会員〕 多々羅義雄、早川芳彦、井口

勇、斎藤武、間所一郎、森田賢、斎藤哲爾、丸山精一、斎藤始雄、吉川俊久、太田宗平、島田良雄、原田繁夫、大川美友、根本和子、藤田進、西本雅哉、三井良作、若林清、保田勲夫、瀬部和子
國画会(洋・版・工・写真) 世田谷区松原町三の八の四 前田政雄方(電)松沢三九〇八) 大正7年1月小野竹齋、土田葵櫻、村上華岳、野長瀬晩花、神原紫峰の五名は國画創作協会を設立、爾來毎秋東京及京都に於て協会展を開催し、又入江波光はじめ数名の若い作家を同人に推挙したが、同15年梅原龍三郎、川島理一郎の兩名を迎えて第二部を新設し更に富本憲吉、金子九平次を加えて彫刻及び工藝を同部に置いた。その後昭和3年7月解散したが、第二部は存続して國画会と改称し大橋幸吉、梅原龍三郎、川島理一郎、金子九平次、富本憲吉、山脇信徳の旧会員に新高村光太郎、棟貞雄、河野通勢の三名が参加し、翌4年「第4回國画会展」を公募の上開催した。第6回展に版画部新設、平塚運一が鑑査を担当した。10年梅原龍三郎及び富本憲吉は新帝院会員に任命され、同年6月川島理一郎は同会を脱退した。尚第14回展には写真部を新設し、鑑査には福原信三、野島康三の兩名が當つた。同14年彫刻部は同会を結束離脱し、清水多嘉子を除いて他の全員が新制作派に合流し同会は彫刻部を解消した。29年理事制を廃し客員制を設けた。昭和30年4月第29回展開催。

島繁太郎、浜田庄司、河井寛次郎、西村総左衛門、野島康三、柳宗悦〔会員〕(絵画部) 青山義雄、青木蓮彌、伊藤廉、池部貞喜、井上三綱、石井照、石原宏策、宇治山哲平、内堀勉、大森啓助、大谷房吉、大淵武夫、尾田龍、柏木俊一、川口軌外、香月泰男、喜多村知、木内廣、國松登、熊谷九壽、久保守、庫田發、小林邦親、小泉清、澤野岩太郎、里見勝蔵、澁川榮志、島内キミ、杉本健吉、須田剋太、曾宮一念、立石鐵臣、高松健太郎、辻愛造、棟貞雄、土田文雄、中村博、中村好宏、長谷川春子、原精一、橋本三郎、南風原朝光、平塚運一、日向裕、福留章太、福井敬一、二見利節、細谷重雄、益田義信、馬越柗太郎、眞垣武勝、松木滿史、松田正平、宮田重雄、三橋健、村上巖、山村誠、山崎隆夫、差田つや子、和田忠志、鈴木正二、小館善四郎、上田清一、田中道久、北村綱義、音部幸司(版画部) 畦地梅太郎、橋本興家、川上澄生、川西英、齋藤清下澤木鉢郎、品川工、笹島喜平、關野準一郎、平塚運一、プフノワ、前田政雄、益田義信、山口源(写真部) 入江泰吉、小野由行、山口伊兵衛、中居正躬、西山清、錦古里孝治、野島康三、北角玄三、長濱慶三、吉川富三、内田美胤、竹見義雄、島田貫一郎(工藝部) パナード・ロリーチ、上田恒次、及川全三、岡村吉右衛門、河井武一、小島惠次郎、鈴木清吉郎、佐久間藤太郎、芹澤銈介、鈴木繁男、外村吉之介、廣本長子、船木道忠、船木研志、三代澤本壽、柚木沙彌郎、柳

〔名譽会員〕 梅原龍三郎 (客員) 福

悦孝、安川慶一
國際アートクラブ(洋・彫・工・建・評論) 港区赤坂青山高橋町三 現代藝術研究所内(電)青山四五七九) 昭和28年5月國際アートクラブ日本本部として創立(通称アートクラブ)。画家、彫刻家、その他の美術家、評論家によつて組織され、各国のアートクラブと連繫し、現代藝術を發展させるための活動を行う。又本会は一切政治に関与しない。各国アートクラブは各々本部を国内に持ち、國際的な中央本部に連繫するが、中央本部は二年毎に國際會議によつて所在を決めることになっている。現在はイタリアのローマ、アートクラブが本部となつている。

〔幹事〕 岡本太郎、鶴岡政男、村井正誠、小松義雄、阿部展也、藤沢典明、長谷川三郎、杉全直、難波田竜起、末松正樹、昆野恒、丹下建三、徳大寺公英、瀬木慎一、滝口修造、植村鷹千代
コンレアル美術協会(洋・彫) 神戸市灘区八幡町二ノ六三 關本弘三郎方 大阪市立工藝学校第一期生の同志六名により昭和26年5月創立。昭和30年1月第6回展開催。

〔会員〕 中辻大、小田村貞雄、小笠原美代治、關本弘三郎、矢野友司、山中利雄、中島洋

朔日会(洋) 台東区谷中真島町一ノ一 羽藤馬佐夫方 昭和12年創立、昭和30年7月第24回展開催。

(さ)

〔會員〕 伊藤幹雄、井上正喜、羽藤馬

佐夫、加藤正信、金子絃通、茅原隆、竹上義治、高木秀男、中島久雄、山本甚作、矢島俊一、越次勇、佐藤昌祐、木村昭彌、白石延夫、鈴木堅司、杉原正一、堀口安衛、小野弘雄、後藤高司、荒井一男、徳本立憲、角田和志郎、横山俊郎、大和田一郎、青柳正、安部昭二、西徳二郎、伊藤一廣、伊藤美津子、井上実、井上定子、池淵知世、桐生武夫、斎藤敬一、高山豊隆、恒任民男、新野一弘、羽藤淑子、山口進作、横山敏一、了正敬一郎、渡辺貞英

サロンド・ジュワン(洋) 豊島区長崎五ノ一二 三水平方 昭和26年6月創立、昭和30年6月第6回展開催。

〔會員〕 濱田稔、堀田操、大口登、渡邊寛治、米倉壽仁、中島稔、眞島健三、三木公平、木谷俊、辻葦夫、盛益子、安部幸毅、伊藤忠義、小野洋、鈴木清、中林松太郎、遠藤敏弥、窪田知短、宮野進三軌会(水・染色・版画・写真) 杉並区上荻窪一ノ一三 五井開一方(電葎窪六四五六) 昭和24年2月創立の新しい水彩作家協会を30年1月三軌会と改名。昭和30年3月第7回展開催。

〔會員〕 (水彩・版画部) 姫野正義、古郷八郎、小林新吉、前林章司、滝澤清、五井開一、増田大男、大久保寛郎、小倉静三、田村貫一、三輪田元也、柴原雪子(染色部) 大坪重周、奈良東明子、中村光哉、栗原宏(写真部) 岡田紅陽、植木康次、深沢富造、山田温水、有賀長敏、関清、富岡畔草

3季会(洋) 大田区調布鶴ノ木町一八六 木内廣方 昭和28年6月創立。国画会所属の三〇代作家を主体とする。昭和29年9月第2回展開催。

〔會員〕 石原宏策、音部幸司、木内廣、野田好子、本田克己、和田志志、小館善四郎、川村浩章、菊地辰幸、鈴木正二、積田輝士、張替正次、渡邊貞一、東貞美、田宮裕己、水木徳子

三光会(日) 杉並区堀之内一ノ一三 田中針水方 川合玉堂の塾生により昭和21年11月創立、昭和30年3月第9回展開催。

〔會員〕 井上恒也、田中針水、山下巖

示現会(洋) 中野区鷺ノ宮一ノ四七二 橋原健三方 昭和22年10月創立、昭和30年3月第8回展開催

〔代表者〕 石川寅治(常任委員) 石川寅治、三上知治、奥瀬英三、光安浩行

〔委員〕 江崎寛友、半田圭治、田原輝夫、水戸敬之助、三井滋雄、松木重雄、中村新次郎、橋原健三、奈良岡正夫、能見三次、大沼静藏、大内田茂士、寺崎善次郎、阿部廣司、山田説義〔會員〕 安西恒男、青木純子、阿部廣司、江崎寛友、富士一男、半田圭治、原本虎雄、原本敏子、細梅久彌、細島昇一、石川寅治、伊藤源右衛門、木下克己、木下邦子、工藤靖彦、三上知治、水戸敬之助、三井滋雄、光安浩行、松木重雄、盛忠七、中村新次郎、中村勝美、中谷健次、橋原健三、奈

良岡正夫、内藤秀因、能見三次、加藤義雄、奥瀬英三、奥森多可志、大沼静藏、大内田茂士、太田嘉兵衛、織田寅之助、齋藤俊雄、佐野喜太郎、清水敦次郎、關口文雄、芦生政夫、鈴木満、田原輝夫、武田一郎、玉井力三、寺崎善次郎、戸津文雄、内野英實、飛塚安吉、吉原甲蔵、山川利夫、山田説義、進藤正一郎、佐々木四郎、盛國春、平光軍一、吉田敏夫、波多野光臣、梶一郎、大坪寛、木村朱江、佐々木貞夫、居岡金一、天井陸三、石橋ヲク、小村平八、長内亮、海野経、三田村武雄、大田黒幸、野生司行正、鳴海健次郎、西野芳丸

四耕会(彫・工・写真) 京都市東山区高台寺辨屋町三四九 宇野三吾方(電祇園二四二一) 昭和23年10月創立、彫刻・工藝・写真等の研究団体。毎年1回公募展開催。

〔會員〕 伊豆蔵壽郎、宇野三吾、岡本素六、大西金之助、加藤仁、鈴木康之、中西美和、沼田一三、林康夫、雲雀民雄、藤田作、益田哲、三浦省吾、渡邊好章、土本眞澄、宇野瑞子

〔顧問〕 伊東深水、児玉希望、矢野橋村〔客員〕 寺島紫明、田中以知庵、池田遙郎〔委員〕 西野新川、奥田元末、田中針水、武藤嘉孝、海野旭世、山下巖、牧野雅彦、福与悦夫、白井烟嵩、森正元、佐藤太清、白鳥映雪、浜田台児、渡邊阿

以湖、笠原可於、立石春美、村松乙彦、松本郭南、鈴木由太郎、鈴木石鴨子、松浦満、間宮正、八幡白帆、直原玉青、大平華泉、川上青山、秋元節朗、北村明道、森戸國次、伊東萬頼、水野陽翠、森田秀治〔會員〕一〇七名

実験工房(綜) 品川区上大崎長者丸三〇〇 鈴木博義方(電大崎三八七四)

〔會員〕 (美術) 北代省三、駒井哲郎、美術家、音楽家、文藝家等の集団

〔會員〕 (美術) 北代省三、駒井哲郎、山口勝弘、福島秀子、今井直次、山崎英夫、大辻清司(音楽) 武満徹、鈴木博義、湯淺譲二、園田高弘、佐藤慶次郎(文学) 秋山邦晴

室内構成美術家連盟 目黒区衾町一〇 〇 佐々木達三方(電在原一四〇九) 昭和26年創立、同年第1回展開催。

〔會員〕 佐々木達三、岩瀬要三、濱中勝、喜多村政良、野口壽郎、奥平貞俊、水谷文平、大泉博一郎、狩野雄一

信濃美術会(綜) 大田区山王一ノ二五 六二 伊川鷹治方(電大森六九一) 昭和27年3月創立。在京信州美術家及在郷有力美術家による団体。昭和28年6月第2回展開催。

〔會員〕 (日本画) 横尾芳月、町田曲江、江崎孝坪、龜割隆、藤森善藝、他(洋画) 伊川鷹治、辻村八五郎、中川紀元、小山敬三、高橋貞一郎、小穴隆一、須山計一、小林邦報、宮川仁、矢崎牧廣、日向裕、關四郎五郎、志村一男、加藤陽、他(彫塑) 清水多嘉示、瀬戸團治、小林章、小林三郎、長田平次、大和作内、矢崎虎夫、他(工藝) 北

原三佳、高橋節郎、山岸堅二、他

示風会(工) 練馬区豊玉北四ノ二ノ二
祝三良方 昭和26年2月創立。東京及近
県在住の日展出品者(染・織・織)の集団。
昭和30年7月第4回展開催。

〔会員〕 岩下洋、磯部陽、祝三良、今
井輝子、池田和子、般若佑弘、富岡伸吉、
十束敏子、河合研二、高久空木、大坪重
周、山岸堅二、平野利太郎、二口志保子、
青木滋芳、喜多村榮太郎等二十七名

シャルウル・ラタント美術会(洋) 杉
並区井荻一ノ一五四 増田宜夫方 昭和
29年12月創立。昭和30年7月日本橋丸善
画廊にて第1回発表展を開催。

〔会員〕 和田恒、山口道夫、増田宜夫、
齋藤多之助、佐藤光右、白岩俊治、澁谷
彦二

JAN(洋・写) 「青年美術家集団」
千代田区神田駿河台二ノ一五味秀夫方
昭和9年創立。昭和30年3月JAN・現
代フランス、クリティック賞絵画展開催。

〔会員〕 荒木剛稔、井上孟、加藤文生、
武藤久、村瀬静孝、藤井令太郎、濱谷次
郎、横地康國、福井敬一、齋藤正夫、田
中岑、五味秀夫、松村禎夫、藤本四八、秋
山正太郎、笹岡了一、中村道 他一〇名

自由美術家協会(洋・彫・版) 新宿区矢
来町七四 (電東京〇八六三〇) 保守的
な形式主義、形式模倣を超克し、自由に新
しい前衛藝術を作ろうと云う主張で結ば
れている。昭和11年7月創立。昭和12年
第1回展を開催。戦時中昭和16年第5回
展より美術創作家協会と改称したが昭和
21年第9回展(大阪)より旧称に復活、昭

和30年10月第19回展開催。

〔会員〕 麻生三郎、中條顯、長谷川三
郎、濱口陽三、堀内規次、今井繁三郎、
井上長三郎、井上照子、池田淑人、井澤
元一、糸園和三郎、稲田三郎、久保田久
一、木ノ内岬、昆野恒、小林良曹、小山
田二郎、小谷博男、小谷良徳、小川那二、
松本正子、三井滋夫、三木弘、水谷武彦、
森芳雄、難波田龍起、中野淳、廣田嘉興
子、長野誠之助、野見山晴治、大野五郎
佐田勝、佐藤美代子、澤野井信夫、清希
卓、蘭田猛、末松正樹、田中健三、竹中
三郎、手塚益雄、清水七太郎、寺田球一、
富成忠夫、登崎太三郎、富山妙子、鶴岡
政男、寺田政明、山口英哉、山口正城、
山田光春、吉井忠、小野里利信、中島保
彦、清水正策、西田信一、藤岡清、峰孝、
新田實、西村保史郎、塚谷政義、山内豊
喜、吉本時昌、泉頭唯、濱田知明、藤澤
友一、渡方敷唯信、菊地又男、川口精六、
倉石隆、中山一郎、文狭克明、岡勇二、
荒木道夫、小野忠弘、豊田一男、松本忠
義、上原二郎、川合喜二郎、松永浩二郎、
中村健一郎、加納敬次、野崎南海雄、矢
高甲子夫、小菅徳二、中本達也、八鐵四
郎、上野省策、島徳生、西良三郎、前川
博人、鈴木福男、森川昭、森堯茂、乙葉
統、小山壽男、八幡健二、比田井仁史、
石壽星、峰村リツ子、灰谷正男、井上信
道、奈知安太郎、香山逸人、江見崇、根岸
正、賀川孝、柿手春三、境野一之、杉原
清司、田中朝吉

主潮社(日) 大阪府豊中市麻田一〇九
四ノ九 矢野橋村方 (電石橋三四二)

昭和22年1月創立、矢野橋村を会長とす
る日本画塾。〔委員長〕 福与悦夫
出版美術家連盟 新宿区下落合四ノ二
一一 林唯一方 (電落合三三五四)

昭和25年10月創立。戦前の日本挿絵画家
協会を戦後改称したもの。〔理事長〕 岩
田専太郎 (専務理事) 鴨下晃湖

朱葉会(洋) 新宿区下落合二ノ六六七
吉田ふじを方 (電落合四三二七) 大正
7年創立、女流洋画家の団体、昭和30年
6月第7回連立展開催。

〔会員〕 友田みね子、吉田ふじを、山
田文子、大久保為世子、赤津捨子、岩村
芳子、水澤順子、南桂子、吉田千鶴子、
森野照子、石川よし子、仲敬子、直井澄
子、梅川慶子、重松京子、改井貞子、村
田米子、宗久恭子、他

書甲社(日) 京都市東山区八坂通東大
路西入 西山翠幢方(電祇園一六八四)
西山翠幢を業主とした日本画研究団体、
大正10年1月創立。〔総務〕 西山英雄

〔幹事〕 樋口富麿

春泥会(日) 大阪市住吉区帝塚山中三
ノ二六 中村貞以方 中村貞以の主催す
る日本画の画塾。昭和11年5月創立 昭
和30年6月第14回展開催。

春陽会(洋・版・舞合装置) 杉並区和田
本町八三二 水谷清方(電中野六三七八)
大正9年秋日本美術院洋画部を脱退した
小杉未醒、山本鼎、倉田白羊、森田恒友、
長谷川昇、足立源一郎の六名は同11年1
月、新帰朝の梅原龍三郎を加え、更に九
名の客員を迎えて同会を創立、「春陽会
は従来屢々見たる如き既成会への社会的

対抗として興らず、単なる藝術家の心を
以て因縁相熟したるものです」と声明し
た。翌年5月上野竹之台陳列館に第1回
展を開き、爾後毎年春季に公募展を開催
し、又東京開催後大阪、名古屋等に地方
展を催している。昭和26年から舞台美術
部を設けた。昭和30年4月第32回展開
催。尚春陽会研究所は昭和4年開設、現
在に及んでいる。

〔会員(油絵)〕 石井鶴三、石井光樹、伊
藤慶之助、岩田榮之助、伊川鷹治、今竹
七郎、岩崎又二郎、伊藤善、原田武男、
原田平治郎、太莊越、豊泉恵三、友田み
ね子、岡鹿之助、小穴隆一、鬼塚金華、
小栗哲郎、大澤鉦一郎、小川マリ子、大
嶺政寛、小川緑、若山爲三、加山四郎、
川端彌之助、加賀孝一郎、川隅路之助、
川上尉平、川島昇太郎、加藤秀夫、横堀
角次郎、吉田達磨、高田力蔵、高橋辰雄、
田中壽太郎、田川勤次、田辺謙輔、田中
岑、土屋義郎、中川一政、南城一夫、中
谷泰、中村徳三郎、村山密、上野春香、
上原欽二、魚津良吉、野村千春、栗田雄、
倉田三郎、山川清、藤野龍、藤井令太郎、
小杉放庵、小泉倫之助、遠藤典夫、足立
源一郎、秋口保波、荒木市三、佐藤篤郎、
佐藤昌胤、木村莊八、水谷清、三雲祥之
助、南大路一、宮田武彦、宮脇晴、三井
永一、志村一男、森川鏡、角南松生、木
本晴三、福田庸一、笠木実 (版画) 長谷
川潔、前田藤四郎、古川龍生、駒井哲
郎、北岡文雄 (舞台美術) 伊藤薫湖、吉
田謙吉、織田音也、河野国夫、北川勇

上彩会(統) 千代田区立今川小学校内

(電茅場町七八〇九)代表者藤澤典明、昭和22年創立、東京都小学校在職者にて終戦後東京都学術派遣生として東京美術学校に派遣された二六名にて結成する。

女流画家協会(洋) 三鷹市下連雀三〇

五 桜井浜江方 昭和21年11月創立。女流画家相互の研究と新人の登龍門としてアンデパンダン形式の展覧会を開催する。昭和30年6月第9回展開催。

新工人協会(工) 世田谷区若林町二〇

四 辻協子方 昭和26年12月創立、若い工藝家の新作発表機関、昭和30年9月第7回展開催。

林尚月斎、辻清明、松浦輝、近藤実、大阿久重治、辻協子、梅田總太郎、近藤昭弥、水口俊雄、江頭源一、古田重郎、三上修一郎

新構造社(綜) 北多摩郡小金井町小金井四八 三村英一方 昭和10年6月構造社有志幹事は絵画部の解消を決議したが同部は翌月構造社總會を招集、絵画部の存続を決議し同年11月第9回構造社展を公算の上開催した。11年7月彫塑団体十七会の加盟により名を新構造社と改称、更に工藝部を新設した。昭和24年から太平洋画会、新構造社、朱葉会、創造美術会の四団体による自主連立展を開催し、3回展を了えて太平洋画会が退会、三団体による連立展を經營している。毎年1回展覧会開催、昭和30年6月第7回自主連立展開催。

(絵画)新井時厚、本日勇市、(会員) 一二〇余名

市川兼治、改井貞子、何徳来、本村晃郎、清浦正風、楠木繁、北澤博生、小祝嘉一郎、齋藤六郎、齋藤慶一、三村英一、岡田洋采、岡本壽一、岡義長、中川安一、南部一信、難波魁、大野元明、大澤康之、太田友一、及川康雄、小田福丸、小口一郎、島太郎、三枝惣太郎、上松二朗、竹澤要作、寺中靖、徳山巍、多比羅榮一、山本好信、下淵冷泉子、山中馨、何之澤、福崎精哉 (彫刻) 濱田三郎、思田忠一、鍋元治、林達川、鈴木博、寺畑助之丞、戸張幸男、山本常人 (工藝) 齋藤あき子(写真) 秋山青磁、岩間慎久、則松皓一、天野光章、熊谷辰男、長口宮吉、仙波巖、八木治、三溝貞之助、赤穂英一、立花浩二、山田廣次、田村榮、山本常人

再興新興美術院(日) 豊島区目白三ノ三五五九(電池袋八九七一) 昭和12年9月日本美術院を脱退した元院友一二名を以て結成、戦争中一時中絶していたが昭和25年旧新興美術院同人六名に他二名を加え再興新興美術院として発足、毎年春秋2回展覧会を開催、昭和30年8月第5回秋季展開催。

(会員) 茨木杉風、横田仙草、岡田魚降、小林菓居人、鬼原素俊、芝垣興生、高島祥光、林部圭幸、岡田錬石、倉持晋一、松永光玉、岩崎巴人、上田臥牛、安孫子荻聲、箱山穠一、花岡朝生、養父清道、谷口正春、大路孫三郎、根本正、服部尚恭

新樹会(洋・彫・版) 台東区谷中清水町三 大河内信敬方(電駒込四八八七)

昭和22年3月創立、昭和30年8月第9回展開催。

展開催。 (会員) 井手宣通、原勝郎、濱口陽三、大河内信敬、大久保泰、山本豊市、朝井閑右衛門、齋藤愛子、木内克、南政善、清水多嘉示

新匠会(工) 京都市右京区川島北裏町五七 稻垣稔次郎方(電桂二二三) 昭和22年新匠工藝会として第1回展を開催、昭和26年5回展より新匠会と改め、昭和27年在野団体として新発足。昭和30年第10回展開催。

(会員) 陶 福田力三郎、藤本能道、熊倉順吉、近藤悠三、森一正、鈴木清、富本憲吉、徳力孫三郎、徳力牧之助、山田詰(染)稻垣稔次郎、河合隆三、暮田延美(透)山永光甫、古山英司(金)増田三男、森々会(日) 杉並区阿佐ヶ谷三ノ五二八 川崎小虎方(電荻窪一〇七七) 昭和25年7月川崎小虎有志により結成。昭和30年4月第5回展開催。

(顧問) 川崎小虎、東山魁夷 (会員) 石曾根貞亀、石田重子、大田蔵夫、奥山芳泉、小倉芳司、小澤春子、川崎鈴彦、川崎春彦、田中千恵、永山十志夫、奈良裕功、小關きみ子、佐藤永芳、三河義太郎、山本瑛幾、大島秀信、小野茂明、石倉正富、新光彫作家協会 昭和30年1月三軌会と改名。

新世紀美術協会(洋) 中野区鷺宮一ノ三三四 松本富太郎方(電荻窪六〇〇三) 昭和30年4月創立。無所属、芸術院会員中の和田三造、川島理一郎を名誉会員として迎え、旺支会離脱の大久保作次郎、吉村芳松、長屋勇等他一七名に東光会より松本富太郎、横山義雄、境保博等、無所属の柚木久太、草光信成、創元会より東海林広等が参加して結成された日展系の団体。昭和30年8月日本橋高島屋に於て創立記念会員展を開催、31年春、第1回公募展開催予定。

(名譽会員) 和田三造、川島理一郎 (会員) 荒木穰雄、藤川光次、金子保、草光信成、松本富太郎、長屋勇、大久保作次郎、東海林広、田澤八甲、横山義雄、柚木久太、吉村芳松、他三一名。

新制作協会(日・洋・彫・建) 世田谷区代田一ノ七六六 福田豊四郎方(電世田谷二二三七) 昭和11年7月、第二部会が文展に参加するに及び猪熊敏一郎、内田謙、佐藤敬、中西利雄、小磯良平、三田康の六名は同会を離脱、脇田和、伊勢正義、鈴木誠の三名とともに新制作派協会を設立、同14年7月国画会の彫刻部を脱退した本郷新、佐藤忠良、山内壮夫、柳原義達、吉田芳夫、舟越保武、明田川孝によつて彫刻部を設けた。同24年には建築部を新設、26年には日本

画在野団体創造美術と合流し新に日本画部を設け新制作協会と改称した。展覧会回数は従来の回数を追うことになつた。昭和30年9月第19回展開催。

〔会員〕(油絵部) 伊藤繼郎、猪熊絃一郎、石川滋彦、伊勢正義、西田勝、萩太郎、荻須高徳、太田忠、脇田和、角浩、川端實、風間完、竹谷富士雄、田中修、田中田鶴子、内田武夫、桑田道夫、小磯良平、小松益喜、古茂田守介、佐藤敬、坂井範一、三田康、三岸節子、瀬島好正、鈴木誠、(日本画部) 岩崎鏗、堀文子、奥村厚一、吉岡堅二、高橋周桑、向井久万、上村松篁、山本丘人、福田豊四郎、朝倉攝、麻田鷹司、秋野不矩、澤宏毅、菊池隆志、信太金昌、廣田多津、稗田一穂、(彫刻部) 伊東傀、早川巍一郎、西常雄、本郷新、岡本庄三、吉田芳夫、田畑一作、武次郎、村田勝四郎、久保孝雄、柳原義達、山内壯夫、山本常一、山本悟二、舟越保武、明田川孝、芥川永、佐藤忠良、菊池一雄、菅原安男、(建築部) 池邊陽、岡田哲郎、吉村順三、谷口吉郎、丹下健三、山口文象、前川國男、劍持勇

〔新世代(洋)〕 品川区大井原町五二〇〇原小学校内(電大森八九四) 代表東俊二 昭和27年創立、教職にあるものでモダンアートの傾向に立つ作家の集り、昭和28年7月第1回展開催。

〔会員〕 東俊二、勝田寛一、藤澤典明等二十五名

〔農鳥社(日)〕 京都市上京区北野紅梅町三三ノ一 山口華楊方 明治45年創立の

西村五雲塾農鳥社は昭和13年9月五雲の逝去により解散、同年11月6日旧塾生の総意に依り新たに農鳥社を結成した。現在山口華楊が主宰する。

水彩聯盟(水) 品川区東大崎三ノ二五 荒谷直之介方 昭和15年5月創立、昭和30年2月第14回展開催。

〔会員〕 荒谷直之介、春日部たすく、小堀進、長澤節、上田哲農、古川弘、海老原省象、山本彪一、牧原萬之助、仁戸田秀吉、中村忠二、酒泉淳、増永直樹、坂上明司、寺居健一、加治屋隆、三橋兄弟治、新井邦雄、藤川九郎、田中実、渡部百合子、伴敏子

(せ) 生活工藝集団(工) 台東区谷中初音町三ノ三 北村一朗方 型々工藝集団とココ工藝が合体、同時に同志を糾合して昭和26年発足した。昭和29年12月第2回展開催。

〔会員〕 浅野陽、磯矢阿伎良、緒方正祥、小倉紘梧、北村一朗、後藤年彦、岡谷四郎、田中芳郎、田村耕一、内藤四郎、林二郎、矢部連光、牧田良一、林卯太郎、堀恒治、河津直武、大泉博一郎

〔青丘会(日)〕 京都市上京区上賀茂坂口町二 水田竹圃方(電上七二八二) 水田竹圃の主宰する日本画塾。

〔青季会(洋)〕 練馬区豊玉北四ノ一 新

道繁方 昭和22年創立。年一回展覧会開催。

〔会員〕 森田元子、鬼頭鍋三郎、幸島重雄、土佐林豊夫、田村一男、大澤海藏、小林博史、高光一也、櫻井悦、村岡平蔵、朝比奈文雄、新保兵次郎、新道繁

〔青丘会(洋)〕 新宿区下落合四ノ一五八八 高木紀重方 日展所属各団体の中堅作家各二名よりなる研究団体。昭和25年9月創立。

〔会員〕 西尾善積、渡邊武夫、大内田茂士、楢原健三、高田誠、廣瀬功、森田茂、山本日子士良、伊藤清水、平松護、(在仏会員) 小野彦三郎、館慶一

〔青晴会(洋)〕 中央区日本橋蠣殻町三ノ一八 川越昭子方 国画会の大京女流出品者により昭和26年結成された。

〔会員〕 田中美知子、土田次枝、野田好子、川越昭子

〔青陶会(陶)〕 京都市左京区岡崎円勝寺町 楠部彌子方(電吉田三二五二) 昭和28年6月創立。楠部彌子を中心とする陶藝研究会。

〔会員〕 二〇余名。

〔青龍社(日)〕 大田区新井宿四ノ一〇五三 川端龍子方(電大森三三二) 昭和3年、日本美術院を脱退した川端龍子が、龍子及び御形彫製院の製作発表の機関として同4年6月同社を創立した。同年東京府美術館に第1回展を開催。同30年8月第27回展開催。尚秋期本展覧会に対して毎年「春の青龍社展」を開催する。春期展は秋期展に於ける入演者を出品資格者として鑑別の上陳列する。「健剛なる会

場芸術」を唱え、在野団体として官展には参加しない。

〔主宰〕 川端龍子(「社人」) 加納三樂、山崎豊、市野亨、安西啓明、小島鼎子、時田直善、鶴井玄兵衛、琴塚英一、松宮左京、佐藤土筆、佐々木邦彦、結城天童、大塚香緑、竹内未明、渡邊不二根

〔職員長〕 河野應思(「委員」) 松川照二、由良玲吉(「会員」) 前沢賢治、渡辺万治、田中正明、藤田榮一、荻野茂、今洋子(「評議員」) 須藤雅路、新井泉(「顧問」) 和田三造、今和次郎

林原英世、井手則雄、入江弘、(建築)
武内芳夫

全日本画人連盟(日・洋・版・其他造
形美術全般) 杉並区馬橋三ノ四二四
土味川狹甫方 昭和25年1月創立、昭和
30年5月第6回展開催。30年10月解散。

〔委員〕 土味川狹甫、鬼田耕作、阿部
定雄、鈴木正、関根弘

〔會員〕 板谷松男、堂前紀夫、谷口富
美枝、高橋正美、竹田一夫、小林恒火子、
青木謙幸、朝木良之助、佐藤溪、北宮三
郎、北崎耕司、杉浦以登、菅野剛吉

全日本工藝美術家協会(工) 千代田区
有楽町二ノ五 東京都商工指導所内 梨
谷静山氣付(電和田倉二二八六) 昭和
26年10月創立。

〔會長〕 徳川宗敬〔副會長〕 海野清、
高村豊周〔委員長〕 杉田禾堂〔事務局
長〕 梨谷静山

(七)

創型会(彫) 世田谷区玉川奥沢町二ノ
一四九 森大造方(電田圃布三二八〇)
九元社の會員有志により結成。昭和26年
11月創立。昭和30年6月第4回展開催。

〔同人〕 森大造、中野四郎、村井辰夫、
奥山泰堂、大田重範、法元六郎、金城眞
輔、奏紹世、阿部晃工

創藝協会(洋・彫・工・写) 杉並区東
萩町六九 神津港人方(電秋津四四三) 昭
和25年3月創立。昭和24年6月緑巻会第
10回展終了後、解体再編成を行い創藝協
会として再発足したもので緑巻会を継承

している。昭和30年6月第6回展開催。
〔會員〕 神津港人、金澤茂元、佐藤利
平、田島長幹、中森遊、平井為成、山下
鐵之輔、広田剛郎、小林丙、中村博英、
岡田早苗等一五名

造型版画協会(版) 台東区金杉一ノ六
清水正博方(電浅草一九〇) 昭和7年新
版画集団として創立。11年第6回展を經
て組織変更、12年3月造型版画協会と改
称、版画の純粹なる絵画的造型性の確立
を目的とす。戦時中一時展覧会を休止し、
24年再出発して29年5月第12回展開催。

〔會員〕 松下芳太郎、水船六洲、武藤
六郎、小野忠重、柴秀夫、清水正博、磯
博、後藤忠光

創元会(洋) 港区麻布本村町一四五
木下幹一方 昭和16年3月創立。昭和30
年4月第14回展開催。

〔會員〕 井上自助、石塚三郎、長谷川
龍甫、戸田郁郎、戸谷賀一、橋本はな子、
金澤重治、金田新治郎、川口雄男、川口
四郎、河本一男、柏木治子、田中繁吉、
高橋北修、館慶一、中野和高、名村定志、
内田一郎、小野彦三郎、恩田孝徳、倉員
辰雄、安武芳男、深谷徹、手島貢、出口
龍一、青地秀太郎、安藤信哉、洗春海、
坂本幹男、木下幹一、三橋兄弟治、三浦
暹爾、樋口一郎、廣本孝與丸、崎龍之助、
鈴木千久馬等一六名

創作工藝協会(工) 大田区西六郷一ノ
七 各務クリスタル製作所内(電蒲田三
三一〇) 昭和27年6月創立。モダンア
ト・クラフトとしての造型活動に併せて
産業工藝に於けるデザインの水準を高め

るために積極的な活動を行う。昭和30年
5月第4回展開催。

〔會員〕 高橋節郎、吉田丈夫、佐治正、
佐藤潤四郎、染川鐵之助、芳武茂介、青
木滋芳、蓮田修吾郎、山脇洋二、安原喜
明、三輪智一

創人社(工) 京都市左京区浄土寺南田
町一〇三 番浦省吾方(電吉田三〇四九)
昭和21年1月創立。創立以來毎年京都
及び東京に於て展覧会開催。工藝的新造
型の確立と後進の育成を趣旨とする。

〔會員〕 番浦省吾、黒田辰秋、久保金
平、東端眞符、平石晃祥、上原清、中清
太郎、竹中徹風

創造美術会(洋・写・工) 文京区関口水
道町四〇 木村康三方 昭和22年創立。
同30年6月第7回連立展開催。

〔會員〕 (絵画部) 保科米三、山村勝
人、松本茂雄、青樹宮三、坂口辰己、樹
下行雄、國分治、権名剛美、下田範次、
外山英知、福島長二郎、小泉鐵太郎、坂
田悦三、金子弘、染木照、渡邊喜一、小
栗慶太郎、金沢俊夫、成瀬憲、斎藤武、鈴
木孝之(写真部) 小合正勝、風見武
秀、岩佐義文、長谷川良之助、須田健二
(工芸部) 木村康三

創造美術協会(洋・彫) 大阪市天王
寺区茶臼山町大阪市立美術館内 マロニ
エ社荒木由三方 昭和10年創立の洋画団
体セクシヨナルが同15年創造美術協
会と改称、関西在住の各派美術家により
組織されたもの。昭和29年第15回會員
展、同30年9月第8回公募展を開催。
〔実行委員〕 上嶋龍、荒木由三、伊藤

蔵夫、貝原六一、森島光(以上絵画)
白石正義、松岡卓(以上彫刻)

〔委員〕 西阪修、玉澤潤一、小林武夫、
下高原龍巳、高須國之、河野通紀、川原
章二、船越かつみ、井寄武夫、山田千秋、
荒井秀宜、野尻弘、田中阿喜良、藤田重
夫、陰山光義、武木憲太郎、中畑美奈子、
今村市久、米田三男之介、菊地三郎、神
戸繁雄、河端亮治(以上絵画) 藤本義弘、
今村輝久、仲眞弘、杉村尚(以上彫刻)

双台社(洋) 世田谷区玉川奥沢町一ノ
三三四 鍋谷傳一郎方 昭和16年創立、
昭和30年7月第14回展開催。

〔同人〕 石井柏亭、荒谷直之介、上田
哲農、岡田行一、大兼實、刑部人、林
鶴雄、堀忠義、細島昇一、下澤木鉢郎、
鈴木良三、鈴木信太郎、須山計一、田坂
乾、瀧川太朗、近藤吾朗、高橋庸男、近
岡善次郎、千ヶ崎梯六、齋藤州外、平塚
運一、鍋谷傳一郎、納富進、眞下慶治、
松村三冬、他

蒼野社(日) 神奈川県逗子市山ノ根四
二三 中村岳陵方(電逗子三七九) 中
村岳陵の主宰する日本画塾。

(八)

第一美術協会(洋・工)〔事務局〕 文
京区高田豊川町六〇 野澤孝作方 昭和
4年5月創立。毎年展覧会開催、昭和30
年7月第26回展開催。

〔委員長〕 石川重信、〔副委員長〕 高
橋亮、岡登貞治

〔委員〕 石川重信、高橋亮、岡登貞治、

谷井喜三郎、村上松次郎、細井繁誠、任補
豊丸、横山群、竹野谷仁重、上原重和、
野澤孝作、山口美勇、間所春、齋藤茂
対象(工) 板橋区常盤台二ノ二二 蓮
田脩吾郎方(電板橋四二四八) 昭和29年
5月創立。新しい世代の認識のもとに生
れる工藝の研究発表機関。昭和30年11月
第2回展開催予定。

〔主宰〕 高村豊周 〔会員〕 蓮田脩吾
郎、西大由、染川鉄之助、岸沢武雄、伊
藤豊、板坂辰治
第二紀会(洋・彫) 杉並区下高井戸四
ノ八五九 栗原信方(電松沢四四九三)
二科会は昭和19年第30回展後解散し戦後
再結成を図つたが、旧二科会員黒田重太
郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋
井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井禮
市の九名は参加せず旧二科会の活動を第
一期とし、戦後新しく第二の紀元を劃す
るの目的を以て昭和22年5月第二紀会を
創立した。昭和30年10月第9回展開催。

〔会員〕 (絵画) 黒田重太郎、栗原信、
田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗
得三郎、宮本三郎、横井禮以、佐野繁次
郎、橋本徹郎、峰岸義一、宮川仁、藤野
正雄、成井弘文、大兼實、大石俊彦、佐
佐木孔、秋保正三、高山道雄、森英、津
田周平、中野安次郎、井上安男、佐伯米
子、土岐國彦、近藤嘉男、島岡實、鳥取
敏、児玉幸雄、青木壽、金田辰弘、森本
健二、中西勝、山口操助等二二九名(彫
刻) 菅沼五郎、中川為延、松村外次郎、
八柳恭次
太平洋画会(洋・彫・染・写) 文京区

白山御殿町一〇 布施信太郎方 明治
22年創立の明治美術会を同34年組織を一
新し翌年1月太平洋画会と改称、第1回
展を上野公園五号館に開催した。同37年
洋画研究所を開設昭和4年太平洋美術学
校と改称し同20年戦災校舎焼失迄経営
す。爾來毎年展覧会を都美術館に開催し
昭和30年7月第51回展を開催した。

〔絵画部会員〕 (代表) 布施信太郎
浅川恒明、尼谷良、秋葉洋治、青山清、石
井明、石井弥一郎、市川専太郎、市川光
雄、一井増郎、円城寺邦夫、大木卓、大
宮松太郎、大森商二、小柳津経広、河合
斗湖、角田栄三、川島義一、近藤洋二、
小坂健三、近馬勘吾、小宮惣太郎、小泉
秀松、小島清、沢村みちる、島添鶴雄、
爾見信郎、砂田正巳、鈴木武志、高橋虎
之助、多田栄二、武田好文、竹内栄蔵、
佃武昭、辻岡里、椿悦三、野村寛、原正
俊、原ツマ子、菱沼藤男、広島八重子、藤
田親宏、藤田実、堀潔、本目豊吉、真木
孝之、丸毛利久、牧田実、三浦金之進、
門馬治夫、山田武、山口美好、梅原英子、
長岡忠三郎、深水正策、山田稔、宇佐見
昭三、岩崎英子、今田勲、行方巖(彫
刻部) 佐藤重治、吉田陽悦(染織部)
野口道方、溝留満、野田習之(写真部) 金
丸重嶺、渡辺義雄、魚住颯、田中清隆、
大東元、相浦勝、吉田專造、船山克、中
保正義

匠(工・染) 京都市左京区下鴨東本町
三二 皆川泰蔵方(電上六二二三) 昭
和23年4月創立。染色美術家の集り、毎
年一回京都にて展覧会開催。

〔会員〕 皆川泰蔵、今西良雄、春日井
秀雄、三浦景雄、山出守二
(ち)

竹杖会(日) 京都市上京区衣笠小松原
北町七六 濱田觀方 明治28年故竹内栖
鳳塾生にて創立。昭和30年7月第7回展
を京都で開催。

〔会員〕 西山翠嶺、小野竹喬、徳岡神
泉、金島桂華、池田透郎、濱田觀、伊藤
小坡、中田晃陽、森月城、池田虹影、大
村廣陽、榎原苔山、山本紅雲、東原方儀
三木翠山、青木生沖、大矢峻嶺、川口吳
川、柴原希祥、岩周瑛、山本朝光、稻葉
春生、佐藤寛山、伊藤石華、小豆島甘光
中央美術協会(洋・日・彫) 杉並区善
福寺町四八 郡山三郎方 昭和27年5月
創立。中央美術学園の指導者と卒業生を
もつて組織する。昭和30年1月第4回展
開催、機関誌「中美」発行。

〔参予〕 今泉篤男等一四名 〔会員〕
新倉政英等三八名
中部在野美術連盟 名古屋市中区栄町
六ノ八 文天堂画廊内(会務代表者) 岐
阜市三里清池丘 坪内節太郎 昭和30年
2月創立。中部地方における在野美術団
体の連合体でこの地方に新鮮な美術文化
を確立し、努めて広範囲な造型面の実践
に寄与することを目的とする。

〔会員〕 二科、行動、国画、春陽、新
制作、モダンアート、自由、独立、美術
文化、第二紀の各団体に所属する作家を
以て組織され、約四〇〇名。

デッサン社 品川区西中延五ノ一二五
一 旭方 大正15年創立。毎年一回現代
名家作品展を定期開催。昭和30年第20回
展、機関誌「デッサン」発行。
〔特別賛助員〕 小林古径、梅原龍三郎
安井曾太郎、中川一政、石井鶴三(主
宰) 旭正秀
デモクラート美術家協会(洋) 中野区
川島町都管アパート三〇八 森啓方 昭
和26年創立の前衛的な作家の集り。昭和
30年9月第5回展開催。

〔会員〕 青原俊子、アイオウ、瑛丸、
泉茂、加藤正、菊地秀行、森啓、森泰子、
生島笑子、三木登、小笠原健一、杉村恒、
高井義博、吉田利次、一ノ瀬俊一、中塚
純二、オノサト・トモコ、坂井正胤、織
田繁、内海柳子、織田玲子、津志本貞、
山中嘉一、永井マコ
点々会(日・洋) 世田谷区経堂町四二
六 村雲大機子方 昭和30年1月創立。
30年6月銀座松屋に於て第1回展開催。
〔会員〕 別府貫一郎、後藤禎二、石垣
榮太郎、村雲大機子、岡本唐貴、寺島貞
志、山上嘉吉
(と)

東亜美術院(日) 新宿区築地町一〇
今福武雄方(電九段五九〇九、九二五
八) 昭和12年創立。
稻花会(工) 杉並区久我山三ノ一一三

三田村自芳方 大正15年1月創立。故赤塚自得の社中を以て組織し、社中間の親睦を図り常に漆工藝研究の向上に務める。随時展覽會開催。

〔同人〕 三田村自芳、太田自適、岡本昇三、吉岡郁三、月尾慶水、村田義忠、井澤徹二、工藤喜代志、山浦正俊、三田村秀雄、魚野自醒、石川古堂、小澤裕、南忠

東丘社(日) 京都市平野松木町二八(電西陣九六八) 堂本印象の主宰する画塾で毎年京阪神で展覽會を開催する。昭和30年5月第12回展開催。

〔代表者〕 京都市左京区上鴨北山町六三輪晃勢

東京展 世田ヶ谷区北沢五ノ八六一竹上義治方 昭和29年2月創立。新しい写真と真面目な藝術活動を目的とする。

〔会員〕 羽藤馬佐夫、加藤正信、鈴木堅司、竹上義治、佐藤昌祐、白石延夫、井上正喜、山本甚哲、西徳三郎、矢島俊一、木村昭弥、荒井一男、徳本立憲

東京美術文化協会 台東区上根岸町四四(電浅草三〇一、三四五六) 小中学及高校の図画教育の振興のため昭和21年財団法人として創立。毎年展覽會開催。研究雑誌「美術教室」を年4回発行。

東京民藝協会 中央区銀座西八ノ三たぐみ内(電銀座二九〇・二〇一七・二〇七一) 昭和29年3月創立。日本民藝協会の東京地方支部として、民藝運動の振興に尽力し、会員相互の親睦をはかる。30年1月より機関誌「民藝」を発刊。毎月講演會、見学会、研究会、鑑賞會を

行ふ。入会隨意。

〔会長〕 松方三郎 〔会員〕 二八〇名
東光會(洋) 豊島区椎名町一ノ一八七
三 森田茂方 昭和7年創立。昭和30年5月第21回展開催。

〔会員〕 岩下三四、石本秀雄、家永驥三郎、西川高次、大和田富子、渡邊義一、渡邊浩三、河井達海、河原修平、田代順七、辻利平、桑原福保、胡桃澤源人、熊岡正夫、山本日子士良、山崎修二、柳田久、松永敏太郎、松岡正、小早川篤四郎、齋藤與里、佐藤一章、水野一好、三田村築、江藤哲、平通武男、森田茂、関真等 一四五名

東陶會(工・陶) 中野区川添町一 大森方 昭和2年創立。年1回、同人展及全国陶藝展開催。昭和30年11月第6回全国陶藝展(第30回東陶會展)開催。

〔会長〕 板谷波山(会員) 安原喜明、宮之原謙、井上良齋、土肥刀泉、唐杉瀧光、大森信比古、中野昭平、館野善次郎、古宇田正雄、城戸夏男、板谷梅樹、水野一善、磯谷丹阿春、横山朝陽、山本正年、中野馨一、杉田栄助、林茂松

瀧画會(日) 板橋区常盤台一ノ二九 西澤笛吹方(電板橋二二〇一) 明治41年故荒木寛敏及十敏の門下を主体として発足、毎年展覽會を開催。展覽會名を一新社展と改め昭和26年第3回展開催。

其後日本伝統花鳥画研究のため毎月研究会を開催。
〔委員〕 西澤笛吹、森白甫、永田春水、朝井觀波、田口黄葵、木本大果、松久休光、温原柳敏、亀割隆

独立美術協會(洋) 台東区谷中初音町四ノ一七 島村三七雄方(電駒込一二六)

二) 昭和5年11月創立、里見勝藏、兒島善三郎、林重義、林武等二科会の會員会友及び同会出品者一名に国画会の高島達四郎、春陽会の三岸好太郎を加え、我々は既設の団体より絶縁し新時代の美術の確立を期す」と宣言、独立美術協會を創立した。翌年1月第1回展を開き新歸朝の福澤一郎も第1回展から會員として参加した。昭和30年10月第23回展開催。

〔会員〕 青柳暢夫、赤星孝、赤堀佐兵、足立襄、池島勘治郎、今井憲一、伊藤彪、宇根元賢、海老原喜之助、江川平三、大久保泰、岡部文之助、岡村芳男、小原雄二、片山公二、加藤陽、菊地精二、木村忠太、久保一雄、熊谷登久平、小出三郎、兒島善三郎、小島善太郎、小林和作、齋田武夫、齋藤長三、齋藤求、坂本善三、佐川敏子、島村三七雄、清水鍊徳、志村計介、末永胤生、菅野恵介、鈴木保徳、鈴木亜夫、須田國太郎、妹尾正彦、高島達四郎、田中行一、高橋忠彌、田中佐一郎、島海青兒、島居敏文、中尾彰、中津瀬忠彦、中岡誠夫、中村節也、中村善種、中山巍、鳩川誠一、野口彌太郎、狭間二郎、林武、樋口加六、藤岡一、堀之内一誠、斑目秀雄、松崎真一、松島一郎、松島正人、緑川廣太郎、宮崎精一、宮島佐一郎、李田たけを、矢崎牧廣、山田榮二、山道榮助、山本正、横地康國、吉岡憲、吉川清

土曜會(工) 大阪市天王寺区逢坂上ノ町一四一 柴崎風岬方 昭和27年1月創

立。関西在住の官展系工藝作家の同志的集り。

〔会員〕 平松宏春、角谷一圭、森崎静亮、小林美春、川端三義、田邊竹雲齋、中島保美、稲山竹司、米澤藤峰、楠田撫泉、伊東翠壺、宮下善壽、堂本漆軒、中村鶴生、勝尾青龍洞、森野嘉光、柴崎風岬

(二)

二科會(洋・彫・理・漫・商業美術・写) 杉並区久我山二ノ五九〇 東郷青兒方(電荻窪五二四) 大正3年文展第二部に二科設置運動が起つたが、当局に容れられず、同年10月ついに文展より分離して、上野竹之台陳列館に二科美術展覽會を開催した。同展開催の際の鑑査員一名は翌年そのまま會員となり在野団体として独立した。爾來同会は新進流派の作家を包容して我洋画史上に啓蒙的功績を挙げている。大正8年藤川勇造會員に推され初めて彫刻部の加入をみた。其後昭和5年兒島善三郎、里見勝藏等は退会し独立美術協會を創立、更に石井柏亭、有島生馬、山下新太郎、安井曾太郎等の名譽會員辞退があり、會員の移動はあつたが在野として行動を続け昭和18年第30回展を開催した。翌19年は情報局の指令により展覽會は中止となり更に諸般の事情により同年10月ひとまず解散した。同20年終戦となり再結成を図つたが旧會員中、向井潤吉、古家新等は行動美術協會を、又、正宗得三郎、熊谷守一等は第二紀会

を結成して離脱した。昭和20年新に工藝部、理論部を、同26年漫画部、商業美術部、同28年写真部を設けた。同30年7月鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根は退会を声明、一陽会を結成するに当り、米良道博、荻野康児、鱧利彦、山路眞護、浅野孟邦、植木力等絵画部並びに彫刻部の会員は行動を共にした。昭和30年9月第40回展開催。

〔会員〕(絵画部)阿部金剛、青山龍水、藤井二郎、藤川榮子、福島金一郎、服部正二郎、伊庭傳治郎、井上賢三、井上覺造、伊藤研之、加治屋隆二、北川民次、小林喜一郎、桑原實、桂ユキ子、松本弘二、松井正、松葉清吾、中原實、錦義一郎、野村守夫、岡本太郎、岡田謙三、大澤昌助、織田廣喜、佐藤吉五郎、清水刀根、鷹山宇一、寺田竹雄、東郷青児、鶴岡義雄、山口長男、山尾薫明、山本敬輔、吉井淳二、吉原治良、安藤幹衛、伊藤静尾、齋藤三郎(彫塑部)笠置季男、上田暁、大西金次郎、安藤菊男、堀内正和、乗松巖、妹尾健太郎、野水信、淀井敏夫、廣瀬不可止(理論部)鈴木密、山中散生、菊岡久利(漫画部)近藤日出造、清水崑(写真部)大竹省三、秋山庄太郎、早田雄二、林忠彦、緑川洋一、植田正治

日本アプストラクト・アート・クラブ (洋・彫・彫・評) 世田谷区若林町四六一 西田信二(方(電世田谷一五八七) 昭和28年6月創立。アプストラクト・アートの国際交流を目的として結成した集団。〔会員〕 西田信一、川口軌外、末松正

樹、山口長男、植木茂、山口正城、長谷川三郎、吉原治良、村井正誠、植村鷹千代、瀧口修造
日本インターストリアル・デザイナー協会(工) 千代田区四番町六(電九段七九一六) 昭和27年10月創立。

〔会長〕 加納久朗(理事長) 豊口克平(理事) 明石一男、小杉二郎、佐々木達三、白石浩二、鈴木富久治、眞野善一、皆川正、柳宗理、渡辺力(監事) 金子至、新庄晃
日本浮世絵協会 港区麻布市兵衛町二ノ一 国華社内(電赤坂一七五二) 旧日本浮世絵協会とその後設立された浮世絵同好会が合体して昭和16年に創立されたもの。不定期に浮世絵に関する講演会を開催又展覽会を指導する。

〔会長〕 浅野長武(理事長) 藤懸静也(常任理事) 橋崎宗重、金田信武、渡邊庄三郎
日本漆工藝会(工) 杉並区成宗二ノ七一八 山浦等方 昭和21年5月創立。漆工藝作家及之に關する学究者、評論家を以て組織し、会員相互の親睦協和により漆工藝の振興を図り作家の向上発展を目的とする。春秋展覽会開催。

〔委員(長) 吉田源十郎。太田自適、河合秀甫、河合久仁雄、工藤喜代志、佐藤陽雲、佐治正、三田村秀雄、山浦等、吉田左源二、渡辺道善(地方委員) 小松芳光、小森克巳、彼谷芳水、中野謙二、稻塚芳郎(会員) 東京二二名、地方四四名
日本画院(日) 台東区谷中清水町一 望月春江(電駒込三八一〇) 昭和13年5

月創立。昭和30年5月第15回展開催。〔同人〕 岩田正巳、川崎小虎、野田九浦、松本姿水、望月春江、服部有恒、根上富治、町田曲江、穴山勝堂、畠山錦成、石塚青義、太田歳夫、小関きみ子、長領雅男、山十志夫、是永伸一、森村宜永
日本工藝会(工) 板橋区常盤台一ノ二九 西澤信敏(電板橋二一〇一) 昭和30年6月設立。無形文化財に選定された京都在住の人によつて結成された日本工人社が発端となり、同社会員の増加につれ全国的にこの組織を拡大しようと29年7月同社を解散して設立に着手していたのが、約一ヶ年後に社団法人組織として結実したもの。わが国の伝統工藝に従事する作家、技術者相互の連携を密にし、伝統工藝に關し、調査研究、伝承者の養成等、必要なら諸事業を行い、これらの貴重な伝統工藝の保存と活用を図り、かつ、その発展を期し、もつて文化の向上に寄与することを目的とする。昭和30年10月第2回日本伝統工藝展開催。

〔役員〕(理事長) 西澤信敏(理事) 海野清、加藤土師萌、松田權六、以上常務。明石国助、荒川豊藏、石黒宗麿、磯井如眞、香取正彦、加藤唐九郎、木村雨山、玉井敬泉、中村勝馬、平田郷陽、水町和三郎(監事) 野口眞造
〔会員〕 第一次正会員は、重要無形文化財認定者並びに旧指定者を中心とする五九名。

日本工人社(工) 京都市上京区西洞院通下立売上ル西大路町京都府教育庁(電西陣八四〇八) 文化財保護課内 昭和28

年9月創立。無形文化財として後世に伝うべき伝承的工藝技術の調査研究を行うい、あわせて後継者の指導育成を行うと共に技術者相互の協力を深め、日本文化の向上発展に寄与するを目的とする。社団法人日本工藝会発足のため昭和29年解散。

〔顧問〕 明石染人、荻野二郎、坂田正三
〔幹事〕 法山龍正(会員) 田畑喜八、中川華郎、土屋素秋、上野爲二、羽田登喜男、岡本庄三、岡本正太郎、川瀬正太郎、齊田梅亭、永田末次郎、北村玉芳、飛来一閑、宇野宗麿、石黒宗麿、伊藤富三郎、森村清太郎、三木表悦
日本山林美術協会(絵・彫・工・写) 豊島区要町二ノ三三 鶴田吾郎方 昭和29年5月創立。山林による凡ゆる面に対しての美術創作と活動を行う。昭和30年8月銀座松坂屋に於て第1回展開催。

〔会員〕 鶴田吾郎、光安浩行、古賀忠雄、安達眞太郎、清水敦次郎、刑部人、松田文雄、二口善雄、太田洋愛、桑原宏、小原工藝会、光安鶴子、二口志保子、布施信太郎、小島三郎、高木周平、白尾之男、長谷川正勝、富成忠夫
日本水彩画会(水) 中野区江古田一ノ二九一 細島昇一方 故大下藤次郎、故丸山晚霞、故河合新蔵の三人の経営せる日本水彩画会研究所を大正2年4月、石井柏亭、白滝幾之助、眞野紀太郎等三七名の発起に依り、改制擴張して新に各派水彩画家の綜合団体として設立。毎年1回東京及関西で展覽会開催。昭和30年6月第43回展開催。

〔委員〕 相澤光明、荒木茂喜、不破章、細島昇一、石川達三、牧野正吉、増田喜

專藏、水野以文、水平讓、水谷景房、内藤秀因、野沢潤次郎、竹内梅治郎、竹内

栄三郎、丹野良輔、富田通雄、渡辺義一、

渡部文雄、山本不二夫、山中仁太郎、山崎政太郎、大和屋巖

〔委員〕 一、二三名

日本水壘会(日) 世田谷区下馬一丁目

北三ノ七 渡邊聖空方 昭和18年2月創立。昭和13年小川芋銭、小杉放庵、津田

青楓、中川一政、矢野橋村、菅橋彦、生田花朝、小松均、岸浪百柳居、渡辺大虚等

によつて結成された墨人会の後身で、伝統を尚びつつ新しい和風墨絵道を振興し、清潤素雅を基調とする国民美術の確立を期するを趣旨としている。昭和30年6月第6回展開催。

〔委員〕 渡邊聖空、小松均、村雲大模子、田村水潤、中村雅豊、山喜多二郎太、津田青楓等二〇名

日本染織作家集団(工) 文京区指ヶ谷町六〇 長浜重太郎方(電小石川一三八二) 昭和30年5月創立。傳統の上に立ち新しい染織芸術を創造し、我国造型美術界の進展に寄与せんとする在野染織作家達の集り。昭和30年10月第1回展開催。

〔委員〕 稲垣稔次郎、岩沢庸徳、飯田眞弓、二科十郎、堀友三郎、河合隆三、辻雪枝、長浜重太郎、中村妙子、長瀧澄、野口道方、暮田延美、栗原宏、矢部連兆、古田重郎、古戸忠平、木村和一、

鈴木照次

日本染織美術協会 世田谷区上馬町一ノ六〇七(電世田谷一〇三三) 昭和20年

4月創立。機関誌「染織美術」を発行。

〔会長〕 野口眞造(主幹) 本吉春三郎

日本宣伝美術会 中央事務局・千代田区有楽町一ノ三電気クラブ、日本制作社内(電和田倉九三) 昭和26年6月創立。毎年東京・大阪・名古屋・九州・北海道その他各地区事務所々在地で展覧会を開催、その他各デザイン講習会等を行う。

昭和30年8月第4回展開催。

〔中央委員〕 板橋義夫(事務局長・東京)・伊藤憲治(東京)・今竹七郎(大阪)・大橋正(東京)・大智浩(東京)・亀倉雄策(東京)・小林葉三(大阪)・河野應思(東京)・佐々木貴士(札幌)・重成基(大阪)・田村晃(大阪)・西本滋(福岡) 橋本徹郎(東京)・早川良雄(大阪)・原弘(東京)・堀田熊雄(名古屋)・宮永岳彦(東京)・山名文夫(東京)

日本彫塑家倶楽部(彫) 台東区谷中初音町三ノ五 昭和28年2月創立、昭和22年創立の日本彫刻家連盟を発展改称したもので職能団体的性格を離れ彫塑家相互の親睦と彫塑の研究、発展を目的として再発足した。

創立委員は加藤頌清、北村治禱、古賀忠雄、澤田晴廣、中野桂樹、長沼孝三、橋本朝秀、昼間弘、藤野舜正、安田周二郎、山本雅彦。昭和30年4月第3回日本彫塑展開催。

〔顧問〕 朝倉文夫、北村西望、齋藤知雄、藤井浩佑、〔参互〕 雨宮治郎、石川確治、池田勇八、小倉右一郎、加藤顯清、北村正信、國方林三、後藤良、後藤清一、澤田晴廣、佐々木大樹、清水多嘉

示、畑正吉、橋本朝秀、堀進二、毛利敦武、松田尚之、横江嘉純、吉田三郎、吉田久繼(理事) 四五名(評議員) 一〇四名(委員) 一八〇余名

日本彫塑家倶楽部関西支部(彫) 京都市左京区修学院大林町一六 松田尚之方(電吉田五一〇八) 昭和28年6月創立。関西日展彫塑家協会が発展改称し、日本彫塑家倶楽部(東京)に合流し、其の関西支部として新発足した。昭和28年10月京都、同11月大阪神戸で第2回展開催、29年6月宝塚にて野外展開催。

〔委員〕 三二名

日本童画会 中野区江古田二ノ六五八 中尾彰方(電荏台六五三) 昭和21年創立。毎年展覧会開催。

〔役員〕 井口文秀、市川禎男、久米宏一、黒崎義介、斎藤長三、鈴木壽雄、武井武雄、鳥居敏文、中尾彰、林義雄、初山滋、松井夫雄、松山文雄、安泰、由良玲吉

日本陶磁協会 中央区東銀座二ノ一一 日本医事新報社梅澤彦太郎方(電京橋八一五〇) 昭和20年1月創立。社団法人。毎月研究会、講演会並びに春秋二回古陶磁の展覧、講演会等を行う。機関誌「陶説」毎月発行。

〔役員〕 (顧問) 尾崎洵盛、小林二三、團伊能、松永安左衛門、細川護立、畠山一清(理事長) 梅澤彦太郎(理事) 磯野信威、大屋敦、小田榮作、加藤唐九郎、加藤土師萌、久志卓真、黒田領治、小山富士夫、小森新一、佐藤進三、陶守三思郎、瀬川昌世、瀬津伊之助、田中作太郎、鷹

渠豊治、内藤匡、中村一雄、中本守、廣田熙、堀口捨己、嶺山順吉、満岡忠成、森村義行、保田憲三、田山信郎、武田正泰、田中丸善八(委員) 二五〇〇名

日本陶彫会 中野区江古田二ノ九二八 滝川美一方 昭和26年創立。

〔会長〕 沢田晴廣、〔副会長〕 古賀忠雄(委員) 雨宮治郎、安藤士、荒井徳亮、赤堀信平、〇圓勝勝二、船津英治、長谷川塊記、長谷川義起、〇伊奈重孝、〇伊藤芳雄、片山辰之助、〇唐杉壽光、木下繁、〇清水禮四郎、久保野太郎、眞鍋知道、松村秀太郎、三澤寛、〇三井高義、森豊一、宮本光庸、水船六洲、松岡正雄、長野隆業、〇長沼孝三、中川為延、中島浩、中村直人、中野五一、沼田喜代子、野口嘉光、大内青圃、大野信藏、柴田佳石、菅野操子、菅原安男、〇多田瑞穂、〇瀧川美一、瀧一夫、竹下恵一、竹林薫、津上昌平、〇分部順治、〇安田周二郎、藤野舜正、片岡静観、柴山清風、杉江藩軒、坂上政克、佐々木大樹、富永直樹、〇山畑阿利一、中野桂樹、浅井行雄、佛子泰夫、井上美那、〇加藤土師萌、坂田芳信、鈴木賢二、林茂松、(〇委員)

日本銅版画協会(版) 杉並区高円寺三ノ一八〇 關野準一郎方(電中野九〇二七) 昭和28年7月創立。關野、濱田、駒井等の中堅作家が発起人となつて銅版画家の全国的な集団をつくつた。(理事) 長) 關野準一郎、(理事) 濱田知明、駒井哲郎、浜口陽三(経理) 田河水泡(委員) 一〇〇〇名

日本都市美術推進連盟 財団法人、大阪市北区堂島上一丁目三二(電大阪34、六七〇五、六七〇六)昭和27年5月創立。市街地の人々に潤いを与え文化の向上に寄与する為、希望と秩序のある美しい「都市美」を推進すると共に美術文化の顕揚発展を期してその健全な育成を図ることを目的としている。都市美に関する研究、啓蒙、宣伝、測量、設計、製作、施行、美術講演会、出版物の刊行、その他目的達成上必要と認められた事業を行う。機関紙「都市美」毎月発行。

〔顧問〕 和田英作、山下新太郎、石井柏亭、金山平三、有島生馬〔相談役〕 杉山司七、望月信成、村野藤吾〔理事長〕 美津島一〔理事〕 和田新、中山一男、木下孝則、石川滋彦、小山敬三、吉田久継、山下登、眞野紀太郎〔会員〕 六〇名、各府県知事、市長、商工会議所会頭は協力会々員

日本版画院(版) 杉並区荻窪四ノ五七棟方志功方(電荻窪五三〇)昭和27年5月創立。同30年9月第5回展開催。〔顧問〕 裕伊之助、富本憲吉、梅原龍三郎、安井會太郎、藤懸静也、森口多里植村鷹千代、石井雙石

〔会員〕 棟方志功、棟方末華、大澤竹胎、ブブノ、笹島喜平、北川民次、下澤木鉢郎、長谷川富三郎、金守世志夫、木内克、永瀬義郎、澤田晴廣、岡村吉右衛門、芹沢銚介、セリサワ・スイヲ、レオソゴールデン、野村候三、山本道子、齋藤徳三郎、永礼孝二

日本版画協会(版) 杉並区高円寺三ノ

一八〇 関野準一郎方(電中野九〇二七)大正7年創立の日本創作版画協会が昭和6年版画家の大同団結をはかり改組したもの、昭和30年4月第23回展開催。〔会長〕 石井鶴三〔常務委員〕 畦地梅太郎、前田政雄、品川工、北岡文雄、岡野準一郎〔会務委員〕 前川千帆、武井武雄、初山滋、平塚運一、橋本興家、若山八十氏、稲垣知雄、塚本哲、宮尾しげを、川西英、川上澄生〔会員〕 織田一磨、川上澄生、前田藤四郎、ブノワ、吉田遠志、吉田穂高、濱田知明、濱口陽三、齋藤清、駒井哲郎他一〇〇余名

日本美術院(日・彫) 台東区谷中上三崎南町五二(電駒込四五一〇)明治31年10月、当時東京美術学校長を退いた岡倉覺三を盟主とし、橋本雅邦以下二六名を正員として結成。新時代における東洋美術の維持並開発が創立に際しての二大主張であった。同年10月第1回展を開催、研究所を下谷中初音町に設置して後進の養成に努め雑誌「日本美術」を発刊、同39年12月に至り一時東京の研究所を撤廃、同人四名は岡倉覺三と共に常陸の五浦に退去し専念研鑽に努めたが、大正2年岡倉覺三病歿するに及び、直ちに院の再興を画し新に院舎を谷中上三崎南町に起し翌3年9月開院式を挙行、10月再興第1回展を開催した。再興に当つたのは横山大観、下村観山、木村武山、安田靉彦、今村紫紅、小杉未醒、辰澤延次郎、笹川種郎、齋藤隆三等で其中実技者六名を以て同人とした。再興美術院には彫刻部並に洋画部を設けたが洋画部は大正

9年小杉未醒、山本鼎、倉田白羊等の脱退と共に消滅した。毎年秋期に公募展を開き、又春季には内部の試作展を開く。大正10年米國クリーブランド美術館の要請に応じ、同國主要都市六箇所に巡回展を開き、以後日本美術の海外紹介にも努めた。昭和10年帝院改組に際して、同人合議の上新帝院への参加を声明し、横山大観、安田靉彦、小林古徑、前田青邨、富田深仙、前田藤四郎、藤井浩佑の八名が会員に就任した。昭和30年9月第40回展開催。

〔経営者・同人〕 横山大観、安田靉彦、小林古徑、前田青邨、大智勝觀、平齋田中〔経営者幹理〕 齋藤隆三〔同人〕 佐藤清蔵、石井鶴三、保田龍門、眞道黎明、郷倉千靱、堅山南風、酒井三良、富取風堂、喜多武四郎、新海竹蔵、大内青圃、奥村土牛、小倉遊韻、田中青坪、山本豊市、太田聽雨、中村貞以、中村直人、宮本重良、松原松造、村田徳次郎、關谷充、新井勝利、北澤映月、辻晋堂、小谷津任牛、小松均、古藤正雄、中島清、片岡球子、中島多茂都、岩橋英遠

日本美術会 新宿区上落合二ノ六三〇築田源二郎方 昭和21年創立。毎年アンデパンダン展開催。同30年第8回展開催。機関誌「美術運動」を発行。国民美術運動の推進を目的とする。〔委員長〕 井上長三郎、〔中央委員〕 新海覺雄、吉井忠、井上長三郎、佐田勝、永井潔、金野新一、松山文雄、箕田源二郎、本郷新、佐藤忠良、村雲大槩子、岡本唐貴等五五名

日本美術家連盟 台東区上野公園東京都美術館内(電駒込三三七二六―七、六二九五)昭和24年6月創立。美術家の個人加盟によつて組織し美術家の職能組合として權益の擁護、相互扶助、其他文化に寄与するための諸事業を行う。〔会長〕 安井會太郎〔委員長〕 伊原宇三郎〔委員〕 六〇名〔正会員〕 一〇〇二名

日本美術協会 台東区上野公園桜ヶ丘(電駒込一九一〇)明治12年創立の龍池会を同20年日本美術協会と改称し財団法人組織とした。毎年展覧会を継続して太平洋戦争までに一四五回に及んだ。本邦美術の振興をはかるを以て目的とし、戦後組織を新たににして各流各派を綜合融和した方針を以て絵画展を東京並びに各地で開催している。昭和30年第8回展開催。

〔総裁〕 高松宮宣仁親王〔顧問〕 細川護立、淺野長武、岡部長景、横山大観、川合玉堂、他一五名〔理事〕 畠山一清、長尾欽彌、團伊能、秋山光夫、〔会頭〕 團伊能〔専務理事〕 秋山光夫〔常任委員長〕 松林桂月〔常任委員〕 二二名〔委員〕 四七名

日本木彫会(彫) 北区上十条五ノ九ノ二 三國慶一方 昭和4年創立、昭和30年4月第15回展開催。〔会員〕 石井滋、長谷川昌、西田明史、岡正敏、内藤伸、内藤四郎、中野桂樹、熊谷幸太郎、日下寛治、山脇敏男、山脇正司、山口伊之助、古川武治、佐々木大

正司、山口伊之助、古川武治、佐々木大

樹、木村威夫、三國慶一、水島弘一、清水源可、森野圓象

人形玩具文化の会 板橋区常盤台一ノ二九 西澤笛敵方(電板橋二二〇) 昭和11年創立、同25年財団法人となる。近時欧米人の日本人形に対する関心が深いので、特に蒐集の古代人形参考品を研究所内に陳列觀賞に供している。

〔会長〕 金森徳次郎 〔理事長〕 西澤笛敵 〔理事〕 板谷波山、團伊能、佐藤達夫、鈴木隆夫、品田豊治

(の)

能彫会(彫) 目黒区下目黒三ノ六五七 後藤良方 昭和22年創立。戦前能美会として出発したが発表展を九回継続して20年に中止、戦後新たに再出発した。流派を問わず能の真髄を彫刻によつて表現しようとする同好の士の集りである。毎年一回展覽会を行う。昭和30年6月第9回展開催。

〔会員〕 石井鶴三、入江美法、畑正吉、花岡幸雄、花里金央、綱引司郎、吉田満、吉田曉禾、横山正三、中野素昂、梅田修、藤野舜正、後藤良、後藤光行、紺谷英儀、北村治禱、宮本光庸、柴田佳石、晝間弘、門伝正衛、毛利教武、関谷充、須賀東篤、鈴木仁亮

(は)

白鳥会(洋) 豊島区高松町一ノ六 伊藤彰方 昭和27年7月創立、昭和30年9

美術団体一覽

月第3回展開催。

〔会員〕 熊谷守一、藤田鶴夫、多田榮二、鳥居敏文、島津純一、賀茂牛之輔、伊藤彪、江川平三、福島金一郎、志村一男、千葉健作

白日会(洋・彫) 杉並区成宗一ノ二七八 伊藤清永方 大正13年創立。昭和30年3月第31回展開催。

〔会員〕(絵画部) 千葉精三、福田義之助、古川弘、灰野文一郎、平松讓、廣本了、堀英治、伊藤清永、伊藤利行、岩月光金、石崎五郎、東理次良、川口榮、川村精一郎、川島實、小堀進、小林一雄、間部時雄、牧原萬之助、水野富美夫、村上鐵太郎、森谷重夫、長井幸一、中澤弘光、大崎善生、酒泉淳、島田四郎、篠原薫、坂上明司、笹口淳、富山芳男、内山又輔、渡部百合子、山本道乘、吉田比古藏、柳澤叔郎、青木春見、宮島武男、田中君江、山田鶴左久、難波榮子、柴田祐作、西田耕作、町田源三郎、安井藤三郎

(彫刻部) 星野宣、伊奈重孝、伊藤五百亀、木村桂二、菊岡義政、兒島正典、小池藤雄、坂手讓、笹野恵三、富田匠美、内堀功、吉田三郎

白鳳会(洋) 中野区沼袋五六〇 篠窪亮方 昭和15年創立。昭和29年10月第12回展開催。昭和16年東京美術学校油画科藤島教室を卒業した一〇名に依り創設した。

〔会員〕 井上慎、加藤長一、北岡文雄、小泉富司、吳天華、鮫島宗明、篠窪亮、高田肇三、高田久、松永敏太郎、松永和夫、安田寛、吉野廣行、吉田政次、原良

次、友澤泰男、浅井忠男、大黒光春 版画懇話会 杉並区阿佐ヶ谷三ノ五三 二 昭和29年創立。版画家、版画研究者、その他版画に関心を持つ人々の集り、日本版画的育成、発展に寄与することを目的とする。講演会、研究会、関係資料の作成、収集、伝統技術新技術の紹介、版画の振興、普及に関する審議、提案などを行う。

〔幹事長〕 裕伊之助、〔幹事〕 上野誠、岡良三郎、小野忠重、河北倫明、菊地三郎、菊地貞夫、笹島喜平、斎藤清、清水正博、渋谷清、柴秀夫、鈴木進、菅野陽、関野準一郎、滝平二郎、利根山光人、橋崎宗重、平塚運一、深水省策、宮下登喜雄、棟方志功、吉田暎二、渡辺規(印常任)

〔委員〕 橋田裕士、川端三義、角谷一圭、田邊竹雲齋、中島保美、穂山竹司 〔特別委員〕 小林美春、平松宏春、柴崎風岬、島野三秋 〔会員〕 三〇名

汎美術家協会(洋) 大阪市阿倍野区北畠西一ノ一五〇 前田藤四郎方 昭和22年7月創立。関西在住の洋画家の団体。昭和27年2月第5回展以降展覽会なし。

〔会員〕 藤井二郎、原精一、長谷川三郎、橋上善児、萩森久朗、伊藤久三郎、井上覺造、井上賢三、井川捷規、池島勘治

郎、石丸一、伊庭傳治郎、江川平三、川西英、小出三郎、前田藤四郎、松井正、米良道博、宮下貞之介、本田たけを、中村真、中村善種、仲村一男、中川力、中村徳三郎、中畑伸人、錦義一郎、須田勉太、佐藤篤郎、田川勤次、植木茂、山本敬輔、山崎隆夫、吉原治良、和田季悦、渡邊修

パンリアル美術協会(日) 京都市東山区五条橋東六ノ五三一 山崎隆方(電祇園一二五三) 昭和23年6月創立。昭和29年7月第11回展開催。

〔会員〕 生駒國一、不動茂彌、日ノ下淳一、星野真吾、小林司郎、三上誠、野村耕二郎、大野秀隆、下村良之介、湯田寛、山崎隆

ひこはゆ(日・洋) 世田谷区玉川奥沢町三ノ一四二 上野泰郎方 昭和29年11月創立。昭和30年5月第1回展開催。

〔会員〕 赤穴宏、赤穴桂子、深尾匠介、大住閑子、碑田一穂、加山又造、竹山博、上野泰郎

美術記者会 中央区京橋三ノ一一 国立近代美術館内

〔会員〕 社名五〇音順 朝日新聞社 社会部 牧田 茂 学藝部 高松喜八郎 企画部 遠山 孝 出版局 赤井 正友

〔会員〕 藤井二郎、原精一、長谷川三郎、橋上善児、萩森久朗、伊藤久三郎、井上覺造、井上賢三、井川捷規、池島勘治

〔会員〕 藤井二郎、原精一、長谷川三郎、橋上善児、萩森久朗、伊藤久三郎、井上覺造、井上賢三、井川捷規、池島勘治

〔会員〕 藤井二郎、原精一、長谷川三郎、橋上善児、萩森久朗、伊藤久三郎、井上覺造、井上賢三、井川捷規、池島勘治

共同通信社 特信部 松江 智壽

社会部 長興 道夫

産業経済新聞社 文化部 阿部 豊

社会部 中山 勝次

時事新報社 文化部 梅原省三郎

文化部 日野耕之祐

信濃毎日新聞社 文化部 牛木 聖見

新聞三社連合 三宅止太郎

中部日本新聞社 文化部 岡山 東

社会部 白木 博

東京新聞社 文化部 北村 義朗

文化部 宮川 謙一

西日本新聞社 文化部 寺田 千壘

社会部 桑原 住雄

日本経済新聞社 文化部 伊東 浩三

文化部 花田 德行

日本放送協会 編集部 木庭 典三

内信部 中島 一明

報知新聞社 文化部 島野 功

社会部 松宮 保夫

北海道新聞社 社会部 船戸 洪吉

毎日新聞社 学藝部 上島 長健

読売新聞社 ラヂオ報導部 大河原 元

文化部 藤澤 逸哉

美術評論家クラブ 社会部 藤本 憲治

企画部 平川富太郎

一 国立近代美術館内 昭和15年創立の

美術問題研究会は同25年改組して美術評

論家組合として再出発したが、同26年更

に美術評論家クラブと改称した。美術評

論家相互の親睦と活動に必要な事業を行

うを目的とする。美術評論家連盟の創立

と共に発展的解消をした。

〔幹事〕 土方定一、田近憲三、河北倫

明、瀧口修造、徳大寺公英、鈴木進、江

川和彦〔会員〕 六〇余名

美術評論家協会 三一二頁追加参照

美術評論家連盟 中央区京橋三ノ一

国立近代美術館内、昭和29年5月創立。

日本に於ける美術評論家の団結をはかる

とともに、国際的に協力し、造型文化の

発達に寄与することを目的とする。国際

美術評論家協会に加盟し、その日本支部

となつてゐる。〔会長〕 土方定一〔常

任委員長〕 富永憲一〔常任委員〕 今泉篤

男、金丸重嶺、勝見勝、嘉門安雄、浜口隆

一、山田智三郎、和田清〔事務総長〕 河

北倫明〔書記〕 小倉克之

美術文化協会〔洋・彫・写〕 世田谷区

砧町七二 福沢一郎方〔電話八一六四〕

独立を脱退した福澤一郎を中心と主とし

て独立、二科の所謂前衛派の新進が昭和

14年に結成した。同会は絵画、彫刻、写

真、装飾、図案、書等各分野を網羅し綜

生、村上馨、香川勇、戸川金雄、岡村和

雄、入来天、川元進、内藤健一、森宏平、

宇佐美晴海、近藤正治、羽坂清、山崎貴

英子、内田慎蔵、島津純一、長谷川望、

山田武彦、太田一男、白木正一、早瀬龍

江、大和秋平、大野英一、須賀卯夫、原

田圭司、山中弘士、岡田徹、竹村文男、

福沢一郎、幸寿、多田雄蔵、藤田鶴夫、

吉田隆、尾崎喜久雄、滝山恭輔、増田彰、

加藤丞、清川泰次、井上市三郎、内山牛

松、石井國義、米田三男之助、田中亜木

男、佐伯和美、千田健二、笹川由爲子、

石井玲一、谷口克己、庭田定男

尚、事務所を古沢岩美方におく美術文

化協会は昭和30年6月10日解散した。

〔匹亜会〕 名古屋市中川区愛知町二

ノ六一 竹田大助方 昭和30年3月創

立。毎月、懇談会、研究会を行い、同人誌

「匹亜」を刊行する。昭和30年11月第1回

展開催。

〔同人〕 堀尾実、水谷勇夫、藤田武、

加藤直昌、竹田大助

〔顧問〕 逸見梅葉、佐藤玄々

〔会員〕 阿井瑞岑、森大造、高村晴

雲、鈴木國策、西山如拙、佐藤勝輔、先

崎榮伸、鈴木信春、野坂法山、西川宗

舟、萩原雅春

〔会員〕 世田谷区玉川奥沢町三ノ

一四二 上野泰郎方 昭和28年8月創

立。新制作、院展、日展に出品している

新進日本画家達の集り。昭和30年6月第

2回展開催。

〔会員〕 井崎昭治、上野泰郎、小栗湖、

大田歳夫、太田正弘、大野百樹、大八

木守、尾山織、鎌倉秀雄、加山又造、小

岩井秀鳳、小市美智子、近藤弘明、信太

金昌、関主税、武田良三、竹山博、対島

迪、中野蒼鷲、成田陽、野崎貢、浜田台

兒、福田鑿治、松尾敏男、前田暉、毛利

武彦、四田淳三

舞踊美術家懇話会 武蔵野市吉祥寺二

〇九五 東原徹方〔電武蔵野二九四五〕

舞台美術の発展に寄与するため昭和27年

創立した。

〔会員〕 荒島鶴吉、石濱日出雄、國東

清、三枝大二、島公靖、田中良、東原徹、

遠山静雄、長瀬直諒、中村正典、眞木小太

郎、三林亮太郎、三輪祐輔、吉村倭一、

渡邊正男

ブラス美術家群〔洋〕 新宿区下落合二

ノ六六七 吉田遠志方〔電落合四三三七〕

昭和25年8月創立。

〔会員〕 浅井真、吉田千鶴子、小林森

次、海洲正太郎、田村玄一郎、吉田ふじ

(八)

霹靂社(日) 練馬区大泉学園町七一八
平子聖龍方 昭和21年10月創立。昭和30
年5月第9回展開催。

(主宰者) 平子聖龍

(九)

真赤土工藝会(工) 世田谷区喜多見町
一三三三 平沼浄方 昭和17年5月創立
毎年東京他各地で展覧会を開く。

(会員) (染色)堀友三郎、武樋貞波留、
栗原安、清水喜美、(陶器)森一紀(彫
金)織田慎一(綴織)古戸忠平(竹工)
横田峰齋、平沼浄(漆工)村山久、三木
義榮(ガラス)藤田喬平(木彫)逸見良
之助(皮革)数見吾一

(一〇)

無厭会(工・陶) 京都市東山区五条橋
東六丁目 山崎光洋方(電紙園二二五三)
昭和22年2月創立。清水焼作家二〇名に
よつて結成。昭和30年6月第8回展開催。

(会員) 河合瑞豊、河合榮之助、米澤
蘇峯、高橋道八、大丸北峰、宇野仁松、
久世久實、山崎光洋、近藤悠三、浅見五
郎助、赤澤露石、清水六知、清水六兵衛、
三浦竹泉、宮川香齋、七兵衛信翠、新開
邦太郎、永樂善五郎、森野嘉光、諏訪蘇山
武蔵野会(洋) 中央区築地一ノ一 岡
田又三郎方 昭和18年創立。昭和30年5

月展覧会開催のち、会員合議の上解散
(会員) 土橋醇一、岡田又三郎、渡邊
武夫、金子徳衛、田中實一、永田精二、
山口猛彦、松尾正己、藤本東一良、寺内
萬治郎、阪倉宜暢、里見明正、南政善、
島野重之、妹尾壽信、杉村悳、杉山一
正、松永敏太郎

(一一)

木彩会(工・木) 豊島区池袋一ノ五一
四 梅田總太郎方 昭和23年4月木工藝
の制作又は研究に携わる者が集まつて創
立した。昭和28年9月第6回展開催。昭
和29年6月現代工藝連合展参加。

(会員) 河津直武、梅田總太郎、山口
壽泉、山本葉彌志、前田保三、松原貞
嗣、麻田権三、佐藤豊、本吉春三郎、本
橋政一、須田利雄、原田英、落合一郎、
大熊喜英、内藤幸夫、櫻井博、江刺英
一、吉原良雄、小野瀬吾郎、山下俊美
モダンアート協会(洋) 世田谷区玉川
用賀町三ノ二二 朝妻治郎方 昭和25年
9月創立。昭和30年2月第5回展開
催。

(会員) 朝妻治郎、東俊二、江波戸一
郎、廣井力、小松義雄、城所昌夫、北垣
正樹、勝本富士雄、勝田寛一、蔭山光義、
村井正誠、榎山七重、宮田正己、中村眞
大森朔衛、小川孝子、周襄吉、杉本龜久
雄、勝呂忠、谷澤秀晃、竹田長年、植木
茂、和田季悦、矢橋六郎、山口薫、清野
恒、吉田政次、中井幸一
モダンアート研究会(洋) 神奈川相模

原市上鶴間丙四号ノ四八五二ノ三 勝田
寛一方 昭和27年モダンアート協会の補
助団体として発足したもの。

(会員) モダンアート協会々員及び同
会所属出品者

(一二)

立軌会(洋) 中野区江古田町一ノ二二
七四 山下大五郎方 昭和24年4月創
立、元創元会の会員七名によつて結成、
第2回展より有岡一郎が参加した。昭和
30年9月第7回展開催。

(会員) 有岡一郎、飯島一、牛島憲
之、榎戸庄衛、大貫松三、須田壽、山下
大五郎、玉置弘三、若狭暁男、藤橋正枝
(レアル美術会(洋) 世田谷区赤堤町一
ノ一三 野崎利喜男方 昭和27年9月創
立。一水会々員一三名により設立。昭和
28年3月第1回展開催。

(会員) 福田新生、林鶴雄、池邊一郎、
金丸直衛、中畑岬人、中川力、野崎利喜
男、尾崎正章、高橋貞一郎、高森捷三、
筒井廣道、矢野雄蔵
黎明美術研究会(洋) 目黒区中目黒四
ノ一三二二 松村植夫方 昭和18年4月
創立。基礎理論の徹底、新技法の習得、
構図学の研究等を目的とする。

の門下を以て組織、昭和30年5月第17回
展開催。

(会員) 廣瀬功、本郷悳、金子博信、
狩野壽一、笠置いづ子、加藤水城、木村
辰彦、兒島三吉、中村琢二、二宮雪夫、
丸野豊司、三浦俊輔、岡本半三、小野
末、大津鎮雄、竹中恵美子、菅野矢一、
高田誠、高見欣太郎、寺田春之、幸雅
二、山川勇一郎、松本恵子、皆吉志郎、
内田如風

(一三)

六窓会(総) 世田谷区等々力三ノ七五
三 黒田嘉治方 東京美術学校昭和6年
卒業の同窓を以て昭和25年創立。昭和29
年4月第5回展開催。昭和30年度の展覧
会は休み、以後展覧会は毎年開催とせず
随時開催とす。

(会員) (日本画) 橋本明治、加藤榮三、
山田申吾、東山魁夷(洋画)伊勢正義、
大貫松三、佐藤敬、須田壽(彫刻)長沼
孝三、野々村一男、大須賀力、黒田嘉治
(建築)吉村順三(工藝)内藤四郎

(追加)

アトリエ・ド・R・ヴァンエック(洋)
目黒区富士見台一五六一 香取忠彦方
昭和29年創立。昭和28年2月に日仏学院
に絵画クラスが設けられ、その担当教官
としてロジェ・ヴァンエックがあつた
が、29年12月当クラス廃止後も同教官に
共鳴して、元絵画クラスの有志でグルー

ブを結成したものである。昭和29年12月第1回グループ展・30年6月第2回展開催。

〔会員〕 ロジエ・ヴァンエック、原武典、早川みな子、片山和子、香取忠彦、小島兼司、小林喜、小久保晴行、楠原昌樹、松田広子、村上暎郎、東海林譲、武川昌子、午窪正

筵上会(日) 文京区西片町一〇ろ九
四方田草炎方 昭和21年創立。昭和30年6月第4回展開催。

〔会員〕 四方田草炎、岩崎巴人、根本進、相沢一男、土居淳男、上田臥牛、大野正六、野村清六、田代与志、藤田将文、川越康司、田代高之

美術評論家協会 台東区上野公園 都美術館内 本会は主に美術報道に関係する記者を以て組織され、会員相互の親睦を図ると共に美術界の発展に寄与する諸事業を行うを目的とする。

〔会員〕 泉与志(美術新潮会)、大山広光(美術街社)、小野白峰(東邦美術社)、○神谷清太郎(画廊社)、河原義和(美術業界・美術主義評論社)、高木紀重(日本美術通信社)、樽原祐、中尾雅俊(新日本美術社)、中田宗男、小森盛、安藤鉦一(月刊日本画・日本美術振興会多摩書房)、佐久間善三(美術新聞、藝術文化研究所)、菊地芳一郎(美術グラフ・時の美術社)、○三輪鄰(週刊美術社)、○柴崎風岬(汎工藝社)、○大久保積翠(都市と藝術社)、中台青陵(書藝新聞)、他に日刊新聞関係一〇名(一〇社)(○印昭和30年度幹事)

美術家及美術関係者名簿

昭和三〇年一〇月現在

凡 例

一、本名簿にのせた美術家及美術関係者の数は一五九九名である。我が国において、美術家として社会的地位を有する人々を採録した。不備の点は次年度に補いたい。

一、名簿は氏名の頭文字の発音により五〇音順に記載した。発音の同じ場合は字劃の少ないものを先にし、頭文字の同じものは二字目の発音により、その発音の同じ場合は字劃の少ないものを先に掲げた。但し同字は訓音の異なるものもなるべく一箇所に集めた。安宅、安達、安西、安藤等を同一箇所に掲げた如くである。

一、名簿に用いた略語は左の通りである。

- (日) 日本画 (洋) 洋画 (挿) 挿画 (版) 版画 (漫) 漫画 (彫) 彫塑
- (工) 工藝 (漆) 漆工藝 (陶) 陶磁 (金) 金工藝 (染) 染色 (織) 織物
- (繡) 刺繡 (硝) 硝子工藝 (建) 建築 (写) 写真 (字) 学者 (評) 美術評論家 (記) 美術記者 (文化財事務局) 文化財保護委員会事務局 (文化財専審委) 文化財専門審議会専門委員 (日展) 日本美術展覧会 (日展無) 日本美術展覧会無鑑査 (日展依) 日本美術展覧会出品依頼者 (日展審) 日本美術展覧会審査員 (日展参事) 日本美術展覧会運営会参事 (日展理事) (日展常任理事) 日本美術展覧会運営会理事、同常任理事 (東京藝大) 東京藝術大学 (東美校) 東京美術学校 (京都美術大) 京都市立美術大学 (京都絵専校) 京都市立絵画専門学校 (京都美術専校) 京都市立美術専門学校 (女子美大) 女子美術大学 (女子美校) 女子美術学校 (女子美術専門学校) (帝国美術校) 帝国美術学校 (日美校) 日本美術学校 (大阪美術校) 大阪美術学校 (東京高工藝校) 東京高等工藝学校 (東京高工業校) 東京高等工業学校 (京都高工藝校) 京都高等工藝学校 (名古屋高工業校) 名古屋高等工業学校 (京都美工藝校) 京都市立美術工藝学校、其他これに準じた。
- 一、日展無、日展依、日展審は昭和三〇年第一一回日本美術展覧会の無鑑査(昭和二九年第一〇回展特選者)、出品依頼者、審査員を示す。元日展審は日本美術展覧会運営会、日本藝術院共催による昭和二四年第五回日展から昭和二九年第一〇回日展迄の間の審査員を示す。
- 一、住所中東京都のみは都名を略して区名を以て始めた。

「美術家及美術関係者名簿」 ページ (314～349 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the list of Artists and Experts in Art (pp.314-349)

Cut for protection of the personal information

美術関係定期刊行物一覧 (五〇音順)

ア ト リ エ	月刊、編輯北原義雄、発行アトリエ社、千代田区神田神保町三ノ一三、電九段二五七五・二五七六	国立博物館ニュース	月刊、編輯野間清六、発行国立博物館、台東区上野公園、電駒込三七一―三七一五
季 刊 文 化 財	月刊、発行文化財保護委員会、千代田区霞ヶ関三ノ四	古文化財之科学	編輯柴田雄次、発行古文化資料自然科学研究会、台東区上野公園東京国立博物館研究室内
藝 術 學 報	編輯金丸重嶺、発行日本藝術学会、文京区本富士町東大文学部美術史研究室内	三 彩	月刊、編輯藤本詔三、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇―一三三
藝 術 新 潮	月刊、編輯佐藤義夫、発行新潮社、新宿区矢来町七一、電(34)七一―一七一一八	史 迹 と 美 術	月刊、編輯川勝政太郎、発行史迹美術同致会、京都市上京区紫野下柳町一四、電西陣五九九六
建 築 史 研 究	月刊、編輯建築史研究会(藤島亥治郎)、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一一、電九段〇二九三・二八五一・四五二三・一七四五	書 品	月刊、編輯庄司一夫、発行東洋書道協会、中央区京橋二ノ三、電京橋三〇四・二七八一・三八五六
建 築 雜 誌	月刊、編輯北村正雄、発行日本建築学会、中央区銀座西三ノ一、電京橋一二三二・一二三八・一七四五	新 建 築	月刊、編輯吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六、電京橋四七五二、四三〇六
建 築 文 化	月刊、編輯金春国雄、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一一、電九段二九三・二八五一・四五二三	染 色 美 術	編輯本吉春三郎、発行日本染織美術協会、世田ヶ谷区上馬町一ノ六〇七 第十四号(一七年七月発行)以降休刊
工 藝 研 究	月刊、編輯工藝学会編集委員会、発行財団法人工藝学会、港区麻布三河台町二四、電赤坂一〇三四	艸 美	月刊、編輯芸艸会同人、発行芸艸堂、京都市中京区寺町二条南入、電上三六一三、文京区湯島一ノ一、電神田五八四〇
工 藝 ニ ユ ー ス	発行通商産業省産業工藝試験所 大田区下丸子三一三	造 型	月刊、編集井手義男、発行造形同人会、豊島区池袋四ノ三九一、電池袋三八一四
考 古 學 雜 誌	月刊、編輯日本考古学会(原田淑人)、発行日本考古学会、台東区上野公園東京国立博物館内、電駒込三七一―三七一五	澁 交	月刊、編輯千嘉治、発行澁交社、京都市上京区小川通寺ノ内上ル、電西陣一七七六、一五〇七
國 華	月刊、編輯藤懸静也、発行国華社、港区麻布市兵衛町二ノ一、電赤坂一七五二	彫 塑	編輯沢田晴広、発行日本彫塑家倶楽部、台東区谷中初音町三ノ五
國 際 建 築	月刊、編輯国際建築協会(小山正和)、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇―一三三	刀 劍 美 術	編輯宮崎芳樹、発行日本刀劍美術保存協会、台東区上野公園東京国立博物館内
國 立 近 代 美 術 館 ニ ユ ー ス	月刊、編集原敏夫、発行近代美術協会、中央区京橋三ノ一一、電京橋〇八三三―一五	陶 美 術 說	月刊、編集梅沢彦太郎、発行日本陶磁協会、中央区銀座東二ノ一一、電(東京54)八一五〇
		東 邦 美 術	月刊、編集小野修三、発行東邦美術社、豊島区千早町二ノ三

都市美術 月刊、発行財団法人日本都市美推進連盟、大阪市北区堂島上ノ三三二
 日本本画 月刊、編輯安藤鉦一、発行多摩書房、中野区新井町六四九
 日本漆工 月刊、編輯日本漆工協会、発行日本漆工協会、中央区日本橋通二ノ二加藤ビル内、電千代田九四七〇
 日本の茶道 月刊、編輯粟田常太郎、発行日本の茶道社、港区赤坂青山南町二ノ五三 第二二八号(二八年一〇月発行)以降廢刊
 日本美術工藝 月刊、編輯加藤義一郎、発行日本美術工藝社、大阪市北区梅田阪急ビル内
 日本文化財 月刊、編集飯野一雄、発行奉仕社出版部、渋谷区原宿三ノ二四九、電青山三三三七一九
 汎工藝 旬刊、編輯柴崎俊吉、発行汎工藝社、大阪市天王寺区逢坂上町一四一
 美術學 季刊、編輯美学会(男澤淳)、発行美術出版社
 美術案内 編輯井上芳郎、発行東京美術俱樂部、港区芝新橋七ノ一二
 季刊、編集藤森淳三、発行独断社、世田谷区岡本町一一〇
 七、電二子玉川七五七
 美術館ニュース 月刊、編輯早川治平、発行東京都美術館友の会、台東区上野公園、電駒込四八九六
 美術研究 隔月刊、編輯美術研究所(福山敏男)、発行吉川弘文館、千代田区神田神保町三ノ一九、電九段三五五六
 旬刊、編集河原義和、発行美術主義評論社、豊島区雑司ヶ谷一ノ三九二
 美術史 季刊、編輯美術史学会(熊谷宣夫)、発行便利堂、京都市中京区新町通竹屋町南
 美術振興 月刊、編集中山宗男、発行日本美術振興会、中野区新井町六四九
 美術新潮 月刊、編集泉与志、発行美術新潮会、港区麻布龍土町五八
 電赤坂一八七八
 美術新聞 週刊、編輯佐久間善三郎、発行藝術文化研究所、大田区蓮沼町一〇七
 美術探求 隔月刊、編輯難波専太郎、発行美術探求社、大田区石川町九八

美術通信 旬刊、編輯高木紀重、発行日本美術通信社、新宿区下落合四ノ一五八八
 美術手帖 月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇一三三
 美術ニュース 月刊、編輯上田宏範、発行大阪市立美術館友の会、大阪市天王寺公園、電天王寺六一〇・四六〇九
 美術批評 月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇一三三
 仏教藝術 季刊、編輯仏教藝術学会、発行毎日新聞社、大阪堂島、東京有楽町
 萌春 月刊、編輯猪木達二、発行日本美術新報社、東京都千代田区九段一ノ一四、電九段九〇四六
 墨美 月刊、編輯森田子龍、発行墨美出版社、京都市上京区紫竹大門町一二
 みづゑ 月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇一三三
 ミュージアム 月刊、編輯国立博物館、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇一三三
 民藝 月刊、編集東京民藝協会(中村精)、発行東京民藝協会、中央区銀座西入ノ三たぐみ内
 大和文化 編輯大和文化華館、発行大和文化華館出版部、大阪市東区船越町一ノ四八、電東三八五七
 大和文化研究 編輯大和文化研究会(小泉顕夫)、発行同研究会、奈良市登大路町五〇奈良国立博物館内
 リビングデザイン 月刊、編集大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇一三三
 連盟ニュース 旬刊、編集和田新、発行日本美術家連盟、台東区上野公園内、都美術館内、電駒込三七二六一七

印刷 昭和31年1月15日
発行 昭和31年1月20日

日本美術年鑑

——昭和30年版——

編集者 東京国立文化財研究所
美術部 (美術研究所)

印刷所 大蔵省印刷局
東京都新宿区市谷本村町15
電話 (33) 531~9

発行所 東京国立文化財研究所
東京都台東区上野公園
電話 駒込 4487, 1923
